

SETSUNAN UNIVERSITY  
**SYLLABUS**

2019 外国語学部 授業  
計画  
外国語学科

**Ⅲ**

外 国 語 学 部

(学部略号：L)

Faculty of Foreign Studies

外国語学科

(学科略号：L)

Department of Foreign Studies

# 基礎科目



|                |                  |          |              |
|----------------|------------------|----------|--------------|
| 科目名            | インドネシア語 I        | 科目名 (英文) | Indonesian I |
| 学部             | 外国語学部            | 学科       | 外国語学科        |
| 配当年次           | 2年               | クラス      |              |
| 単位数            | 2                | 履修区分     | 選択必修科目       |
| 学期             | 前期               | 授業担当者    | 山口 玲子        |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |          |              |
| 科目ナンバリング       | LIN1313e1        |          |              |

|              |   |
|--------------|---|
| 授業概要・目的      | 本授業は、インドネシア語における基礎的な会話能力の修得を目的とする。日常生活のさまざまな場面において役に立つ表現を学ぶ。                      |
| 到達目標         | この授業では、基本的なインドネシア語運用能力の修得を目指し、インドネシアへ旅行に出かけたり、インドネシア人と話す機会において不自由のない実力をつけることができる。 |
| 授業方法と留意点     | 配布するプリントを用いて基礎会話を中心とした学習を行う。声に出して繰り返し練習することを重視する。                                 |
| 科目学習の効果 (資格) | インドネシア語技能検定試験   |

| 回数 | 授業テーマ          | 内容・方法 等                         | 事前・事後学習課題   |
|----|----------------|---------------------------------|---|
|    |                |                                 |   |
| 2  | 文字と発音          | アルファベットの読み方                     | インドネシア語のアルファベットをきちんと読めるようにしておくこと。                                     |
| 3  | 発音             | 基本単語の発音練習                       | 配布された「発音」のプリントに目を通しておくこと。<br>授業で習った基本単語を声に出して練習しておくこと。                |
| 4  | 挨拶 (1)         | 挨拶表現                            | 配布された「挨拶 (1)」のプリントに目を通しておくこと。<br>「挨拶 (1)」のプリントの会話部分を復習すること。           |
| 5  | 挨拶 (2)         | 感謝、謝罪                           | 配布された「挨拶 (2)」のプリントに目を通しておくこと。<br>「挨拶 (2)」のプリントの会話部分を復習すること。           |
| 6  | 紹介 (1)         | 自己紹介、人称代名詞について                  | 配布された「紹介 (1)」のプリントに目を通しておくこと。<br>「紹介 (1)」のプリントの会話部分、人称代名詞について復習すること。  |
| 7  | 紹介 (2)         | 自己紹介、疑問詞を用いた表現                  | 配布された「紹介 (2)」のプリントに目を通しておくこと。<br>「紹介 (2)」のプリントの会話部分、疑問詞について復習すること。    |
| 8  | 紹介 (3)         | 家族、友人を紹介、疑問詞を用いた表現              | 配布された「紹介 (3)」のプリントに目を通しておくこと。<br>「紹介 (3)」のプリントの会話部分を復習すること。           |
| 9  | 8回までのまとめ       | これまでに学んだことの復習<br>中間テストおよび解説     | これまでに配布された全てのプリントで学んだことを復習しておくこと。<br>中間テストで間違えたところを再確認しておくこと。         |
| 10 | 数詞 (1)         | 数詞の仕組み                          | 配布された「数詞 (1)」のプリントに目を通しておくこと。<br>数詞の仕組みを復習しておくこと。                     |
| 11 | 数詞 (2)         | 序数詞や分数                          | 配布された「数詞 (2)」のプリントに目を通しておくこと。<br>序数詞や分数について復習しておくこと。                  |
| 12 | 数詞 (3)         | 電話番号と数詞の練習問題                    | 配布された「数詞 (3)」のプリントに目を通しておくこと。<br>電話番号の言い方と数詞の練習問題について復習しておくこと。        |
| 13 | 数詞 (4)         | 日付の言い表し方                        | 配布された「数詞 (4)」のプリントに目を通しておくこと。<br>日付の言い表し方について復習しておくこと。                |
| 14 | 10回から13回までのまとめ | 数詞を使った表現の復習                     | 10回から13回までに配布された数詞のプリントを中心に復習しておくこと。<br>不明な点を明らかにしておくこと。              |
| 15 | 総復習            | これまでに学んだことの総復習<br>理解度確認テストおよび解説 | 理解度確認テストに臨むため、これまでに学んできたことを振り返っておくこと。<br>理解度確認テストで間違えたところを再度復習しておくこと。 |

|      |            |
|------|------------|
| 関連科目 | インドネシア語 II |
|------|------------|

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |

|               |   |  |  |  |
|---------------|---|--|--|--|
|               | 2   |  |  |  |
|               | 3   |  |  |  |
| 評価方法<br>(基準)  | 授業への積極的な参加度合 20%、中間テスト 40%、理解度確認テスト 40%   |  |  |  |
| 学生への<br>メッセージ | 授業へは積極的に参加しましょう。  |  |  |  |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館2階(非常勤講師室)   |  |  |  |
| 備考            | 予習・復習は「授業計画」の「事前・事後学習課題」に従い60時間以上行うこと。<br>授業時間外での質問等は非常勤講師室にてお昼休みに対応する。なお、中間テストおよび理解度確認テスト終了後には解説を行う。 |  |  |  |

|               |                  |         |               |
|---------------|------------------|---------|---------------|
| 科目名           | インドネシア語Ⅱ         | 科目名(英文) | Indonesian II |
| 学部            | 外国語学部            | 学科      | 外国語学科         |
| 配当年次          | 2年               | クラス     |               |
| 単位数           | 2                | 履修区分    | 選択科目          |
| 学期            | 後期               | 授業担当者   | 大坪 紀子         |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |         |               |
| 科目ナンバリング      | LIN1314e1        |         |               |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | 本授業は、インドネシア語における基礎的な会話能力の修得を目的とする。日常生活のさまざまな場面で役に立つ表現を学ぶ。  |
| 到達目標        | この授業では、前期の「インドネシア語Ⅰ」に引き続き、基本的なインドネシア語運用能力の修得を目指し、インドネシアへ旅行に出かけたり、インドネシア人と話す機会において不自由のない実力をつけることができる。<br>またインドネシアの人びとの日常的な習慣について理解を深めることもできる。 |
| 授業方法と留意点    | 配布するプリントを用いて基礎会話を中心とした会話演習をおこなう。<br>声に出して繰り返し練習することを重視する。<br>授業内に質疑応答の時間も設ける。  |
| 科目学習の効果(資格) | インドネシア語技能検定に役立つ。<br>旅行に役立つ。  |

| 回数 | 授業テーマ        | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題  |
|----|--------------|---|--|
|    |              |   |  |
| 1  | イントロダクションと復習 | 1. 授業のすすめ方について説明する。<br>2. 前期の「インドネシア語Ⅰ」で学んだことの復習をおこなう。                | ・前期の項目を復習してから授業に臨むこと(1時間)。<br>・学習項目の復習(1時間)                  |
| 2  | 曜日 (1)       | 曜日、月の言い表し方  | ・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること(2時間)                        |
| 3  | 曜日 (2)       | 季節の表現方法   | ・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること(2時間)                        |
| 4  | 時間 (1)       | 時間と時刻の言い表し方   | ・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること(2時間)                        |
| 5  | 時間 (2)       | 時間と時間を使った会話   | ・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること(2時間)                        |
| 6  | 色 (1)        | 色および形容詞   | ・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること(2時間)                        |
| 7  | 色 (2)        | 助数詞   | ・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること(2時間)                        |
| 8  | 復習           | 1. これまでに学んだことの理解を確認するために中間試験をおこなう。<br>2. 試験後に理解が足りないところについて説明をおこなう。   | 中間テストに向けてこれまでに学んだことの再確認(3時間)                                 |
| 9  | ショッピング (1)   | 値段の尋ね方  | ・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること(2時間)                        |
| 10 | ショッピング (2)   | 店での会話   | ・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること(2時間)                        |
| 11 | ショッピング (3)   | その他役に立つ表現   | ・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること(2時間)                        |
| 12 | 位置 (1)       | 位置の表し方  | ・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること(2時間)                        |
| 13 | 位置 ②         | 道を尋ねる   | ・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること(2時間)                        |
| 14 | 9回～13回までのまとめ | ショッピングでの会話や位置に関する表現の復習  | ・9回～13回までに学んできたことの再確認(2時間)<br>・いまままでに学んだ単語の綴りと意味を確認すること(2時間) |
| 15 | 総復習          | 1. これまでに学んだことの理解度を確認するための総復習試験をおこなう。<br>2. 試験後に理解が足りないところについて説明をおこなう。 | これまでに学んだことの再確認(2時間)  |

|      |          |
|------|----------|
| 関連科目 | インドネシア語Ⅰ |
|------|----------|

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|          |  |
|----------|--|
| 評価方法(基準) | 授業の会話演習で正確な表現ができる20%、正確な綴りが書ける20%、中間試験30%、総復習試験30%、等 |
|----------|--|

|           |   |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 1. できるだけ大きな声で発音するようにしましょう。<br>2. 普段の生活でも積極的にインドネシア関連のニュースや音楽・映画などを探して接してください。 |
|-----------|---|

|          |               |
|----------|---------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階(非常勤講師室) |
|----------|---------------|

|    |   |
|----|---|
| 備考 | 1 基本的に事前学習は必要ないが、事後学習は毎週少なくとも2時間以上はおこなうこと。<br>2. 授業時間以外での質問は非常勤講師室にて昼休みに対応する。<br>3. 中間試験と総復習試験終了後に教室で全問の解説をおこなう。また理解が足りないところの復習方法も説明する。 |
|----|---|

|               |                  |         |                |
|---------------|------------------|---------|----------------|
| 科目名           | インドネシア語Ⅲ         | 科目名(英文) | Indonesian III |
| 学部            | 外国語学部            | 学科      | 外国語学科          |
| 配当年次          | 3年               | クラス     |                |
| 単位数           | 2                | 履修区分    | 選択科目           |
| 学期            | 前期               | 授業担当者   | 大坪 紀子          |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |         |                |
| 科目ナンバリング      | LIN2315e1        |         |                |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | 本授業はインドネシア語の中級レベルの運用能力を育成する。文法説明、講読練習、作文練習をおこなう。会話練習も随時おこなう。   |
| 到達目標        | 短文を読み書きできるとともに会話能力も発揮できるよう、文法力・読解力・作文力・会話能力のバランスが取れたインドネシア語運用能力の育成をめざす。  |
| 授業方法と留意点    | 1. テキストはプリントを配布する。<br>2. 毎回、短文の読解と作文から成る演習と発表を課す。<br>3. 随時、単語試験をおこなう。<br>4. 随時、宿題を課す。<br>5. 会話演習は繰り返し練習することを重視する。<br>6. 授業内に質疑応答の時間も設ける。 |
| 科目学習の効果(資格) | インドネシア語の能力向上とともに、インドネシア語技能検定試験に役立つ。<br>旅行に役立つ。   |

| 回数 | 授業テーマ     | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題  |
|----|-----------|---|--|
|    |           |   |  |
| 1  | イントロダクション | 授業の進め方の説明<br>インドネシア、インドネシア語の説明<br>綴りと発音の練習                      | 発音の復習(1時間)   |
| 2  | 文法1       | 名詞文「～です」「これは～です」の文型や文法、語順を説明する。                                 | 1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。<br>2. 文法の徹底。<br>3. 練習問題の復習。<br>(合計2時間)                   |
| 3  | 文法2       | 人称代名詞の復習と、名詞文や語順の復習をおこなう。<br>講読練習、作文練習、会話練習をおこなう。               | 1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。<br>2. 練習問題の復習。<br>3. 会話練習の復習。<br>(合計2時間)                 |
| 4  | 文法3       | 基語動詞の用法を説明する。<br>講読練習、作文練習、会話練習をおこなう。                           | 1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。<br>2. 文法の徹底。<br>3. 練習問題の復習。<br>4. 会話練習の復習。<br>(合計2時間)    |
| 5  | 文法4       | 基語動詞と前置詞の用法を説明する。<br>講読練習、作文練習、会話練習をおこなう。                       | 1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。<br>2. 文法の徹底。<br>3. 練習問題の復習。<br>4. 会話練習の復習。<br>(合計2時間)    |
| 6  | 文法5       | 接頭辞 ber-の語形と用法を説明する。<br>講読練習、作文練習、会話練習をおこなう。                    | 1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。<br>2. 学んだ語形の徹底。<br>3. 練習問題の復習。<br>4. 会話練習の復習。<br>(合計2時間) |
| 7  | 文法6       | 接頭辞 meN-の語形を説明する。<br>会話練習をおこなう。                                 | 1. 学んだ語形の徹底。<br>2. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。<br>3. 会話練習の復習。<br>(合計2時間)                |
| 8  | 文法7       | 接頭辞 meN-の用法を説明する。<br>講読練習、作文練習、会話練習をおこなう。                       | 1. 学んだ語形の徹底。<br>2. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。<br>3. 会話練習の復習。<br>4. 練習問題の復習。<br>(合計2時間) |
| 9  | いままでの復習1  | いままでに学んだ事項の理解度を確認するために中間試験をおこなう。<br>試験終了後に理解の足りない事項をとりあげて説明をする。 | 第8回までに学んだことの総復習。(2時間)  |
| 10 | 文法8       | 時制をあらわす助動詞の用法を説明する。<br>講読練習、作文練習、会話練習をおこなう。                     | 1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。<br>2. 会話練習の復習。<br>3. 練習問題の復習。                            |
| 11 | 文法9       | 日付、時刻、時間の表現を説明する。<br>講読練習、作文練習、会話練習をおこなう。                       | 1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。<br>2. 文法の徹底。<br>3. 練習問題の復習。<br>4. 会話練習の復習。<br>(合計2時間)    |
| 12 | 文法10      | 時制以外の助動詞の用法について説明する。講読練習、作文練習、会話練習をおこなう。                        | 1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。<br>2. 文法の徹底。<br>3. 練習問題の復習。<br>4. 会話練習の復習。<br>(合計2時間)    |
| 13 | 文法11      | 形容詞と副詞の用法を説明する。講読練習、作文練習、会話練習をおこなう。                             | 1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。<br>2. 文法の徹底。<br>3. 練習問題の復習。<br>4. 会話練習の復習。<br>(合計2時間)    |
| 14 | いままでの復習2  | いままでに既習した事項を含むやや複雑  | 第13回までに学んだことの総復習。(合計2時間)   |



|               |  |   |                          |
|---------------|--|---|--------------------------|
|               |  | 雑な文を用いて講読練習、作文練習、会話練習をおこなう。                                 |                          |
| 15            | 総復習  | いままでに学んだ事項の理解度を確認するために総復習試験をおこなう。試験終了後に理解の足りない事項をとりあげて説明する。 | 第14回までに学んだことの総復習。(合計2時間) |
| 関連科目          |  |   |                          |
| 教科書           | 番号   | 書籍名   | 著者名                      |
|               | 1  |   |                          |
|               | 2  |   |                          |
|               | 3  |   |                          |
| 参考書           | 番号   | 書籍名   | 著者名                      |
|               | 1  |   |                          |
|               | 2  |   |                          |
|               | 3  |   |                          |
| 評価方法<br>(基準)  | 単語小試験 20%、宿題 20%、中間試験 30%、総復習試験 30%  |   |                          |
| 学生への<br>メッセージ | <ol style="list-style-type: none"> <li>今後さらに発展が見込まれるインドネシアの国語であるインドネシア語能力を身につけると、必ず将来の役に立ちます。</li> <li>比較的学びやすいインドネシア語は、復習をすればするほど確実に身につきます。一緒にがんばりましょう。</li> <li>普段の生活でも積極的にインドネシア関連のニュースや音楽・映画などを探して接してください。</li> </ol>  |   |                          |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館2階(非常勤講師室)  |   |                          |
| 備考            | <ol style="list-style-type: none"> <li>授業時間以外での質問は非常勤講師室にて昼休みに対応する。</li> <li>随時課す単語小試験の模範解答は授業中に提示する。</li> <li>随時課す宿題の模範解答は授業中に提示する。また理解が足りないところも授業中に再度説明する。</li> <li>中間試験と総復習試験終了後は授業中に全問の模範解答と提示し、解説もおこなう。また理解が足りないところの復習方法も説明する。</li> <li>基本的に事前学習は必要ないが、事後学習には毎週少なくとも2時間以上を充てること。</li> </ol> |   |                          |

|               |                  |         |               |
|---------------|------------------|---------|---------------|
| 科目名           | インドネシア語IV        | 科目名(英文) | Indonesian IV |
| 学部            | 外国語学部            | 学科      | 外国語学科         |
| 配当年次          | 3年               | クラス     |               |
| 単位数           | 2                | 履修区分    | 選択科目          |
| 学期            | 後期               | 授業担当者   | 大坪 紀子         |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |         |               |
| 科目ナンバリング      | LIN2316e1        |         |               |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | 本授業はインドネシア語の中級レベルの運用能力を育成する。<br>やや複雑な文法の説明、講読練習、作文練習をおこなう。会話練習も随時おこなう。   |
| 到達目標        | 中級レベルのインドネシア語運用能力をめざす。すなわち、<br>1. やや複雑な文章を理解できる。<br>2. やや複雑な文法を使った作文ができる。<br>3. やや複雑な文法を使った会話が理解できる。                                     |
| 授業方法と留意点    | 1. テキストはプリントを配布する。<br>2. 毎回、短文の読解と作文から成る演習と発表を課す。<br>3. 随時、単語試験をおこなう。<br>4. 随時、宿題を課す。<br>5. 会話演習は繰り返し練習することを重視する。<br>6. 授業内に質疑応答の時間も設ける。 |
| 科目学習の効果(資格) | 1. インドネシア語能力の向上。<br>2. インドネシア語技能検定試験に役立つ。<br>3. 旅行に役立つ。  |

| 回数 | 授業テーマ     | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題  |
|----|-----------|---|--|
|    |           |   |  |
| 1  | イントロダクション | 1. 授業の進め方を説明する。<br>2. 既習事項の確認と復習。                         | 既習事項を復習すること。   |
| 2  | 文法 1      | 接尾辞-an、接頭辞 pe-を学習する。<br>短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。              | 1. 新出単語を覚える。<br>2. 文法の徹底。<br>3. 練習問題の復習。<br>(合計 2 時間)  |
| 3  | 文法 2      | 同等・比較・最上級の表現を学習する。<br>短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。                | 1. 新出単語を覚える。<br>2. 文法の徹底。<br>3. 練習問題の復習。<br>4. 接頭辞 me-の復習。<br>(合計 3 時間)                        |
| 4  | 文法 3      | 接頭辞 di-を学習する。   | 1. 新出単語を覚える。<br>2. 文法の徹底。<br>3. 練習問題の復習。<br>(合計 2 時間)  |
| 5  | 文法 4      | 接頭辞 ter-を学習する。<br>短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。                    | 1. 新出単語を覚える。<br>2. 文法の徹底。<br>3. 練習問題の復習。<br>4. 過去に学習した疑問詞を整理しておくこと。<br>(合計 2 時間)               |
| 6  | 文法 5      | 疑問詞を学習する。短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。                             | 1. 新出単語を覚える。<br>2. 練習問題の復習。<br>(合計 2 時間)<br><br>第 7 回の予習として今までに学んだ事項の総復習。<br>(合計 3 時間以上)       |
| 7  | 復習 1      | 第 6 回までに学んだ事項の理解度を確認するために中間試験をおこなう。試験後に理解の足りない事項の説明をおこなう。 | 第 6 回までに学んだ事項の総復習。(合計 3 時間以上)  |
| 8  | 文法 6      | 共接辞 ber--an, per--an を学習する。<br>短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。       | 1. 新出単語を覚える。<br>2. 文法の徹底。<br>3. 練習問題の復習。<br>(合計 2 時間)  |
| 9  | 文法 7      | 共接辞 pe--an を学習する。短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。                     | 1. 新出単語を覚える。<br>2. 文法の徹底。<br>3. 練習問題の復習。<br>4. 第 10 回目への予習として、過去に学んだ接続詞を整理しておくこと。<br>(合計 2 時間) |
| 10 | 文法 8      | 接続詞を学習する。短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。                             | 1. 新出単語を覚える。<br>2. 文法の徹底。<br>3. 練習問題の復習。<br>(合計 2 時間)  |
| 11 | 文法 9      | 共接辞 ke--an、接尾辞-nya を学習する。<br>短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。         | 1. 新出単語を覚える。<br>2. 文法の徹底。<br>3. 練習問題の復習。<br>(合計 2 時間)  |
| 12 | 文法 10     | 接尾辞-i, -kan を学習する。短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。                    | 1. 新出単語を覚える。<br>2. 文法の徹底。<br>3. 練習問題の復習。<br>(合計 2 時間)  |
| 13 | 文法 11     | 接頭辞 member-を学習する。短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。                     | 1. 新出単語を覚える。<br>2. 文法の徹底。<br>3. 練習問題の復習。<br>(合計 2 時間)  |

|               |  |                     |   |   |
|---------------|--|---------------------|---|---|
|               | 14   | 1. 文法 12<br>2. 復習 2 | 1. 重複の形態と機能を学習する。短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。<br>2. 第 14 回までに学んだ事項の復習 | 1. 新出単語を覚える。<br>2. 文法の徹底。<br>3. 練習問題の復習。<br>(合計 2 時間)<br>第 14 回までに学んだ事項の総復習。(合計 3 時間以上) |
|               | 15   | 総復習                 | 第 14 回までに学んだ事項の理解度を確認するために総復習試験をおこなう。試験終了後に理解の足りない事項を説明する。    | 今までに学んだ事項の総復習と練習問題に取り組むこと。<br>総復習試験をもういちど解くこと。(合計 3 時間)                                 |
| 関連科目          | インドネシア語、マレー語、東南アジア関係の授業すべて。  |                     |   |   |
| 教科書           | 番号   | 書籍名                 | 著者名   | 出版社名  |
|               | 1  |                     |   |   |
|               | 2  |                     |   |   |
|               | 3  |                     |   |   |
| 参考書           | 番号   | 書籍名                 | 著者名   | 出版社名  |
|               | 1  |                     |   |   |
|               | 2  |                     |   |   |
|               | 3  |                     |   |   |
| 評価方法<br>(基準)  | 授業での発表 10%、単語小試験 10%、宿題 20%、中間試験 30%、総復習試験 30%   |                     |   |   |
| 学生への<br>メッセージ | 1. 比較的学びやすいインドネシア語は、復習をすればするほど確実に身につきます。一緒にがんばりましょう。<br>2. 自分の関心分野にあわせて、日常でも積極的にインドネシア関連のニュースや音楽・映画などを探して接してください。  |                     |   |   |
| 担当者の<br>研究室等  | 7 号館 2 階 (非常勤講師室)  |                     |   |   |
| 備考            | 1. 随時課す単語小試験の模範解答は授業中に提示する。<br>2. 随時課す宿題の模範解答は授業中に提示する。また理解が足りないところも授業中に再度説明する。<br>3. 中間試験と総復習試験終了後は授業中に全問の模範解答と提示して講評をおこなう。<br>理解が足りないところの復習方法も説明する。<br>4. 授業時間以外での質問は非常勤講師室にて昼休みに対応する。 |                     |   |   |

|                |                  |          |           |
|----------------|------------------|----------|-----------|
| 科目名            | 英語 I             | 科目名 (英文) | English I |
| 学部             | 外国語学部            | 学科       | 外国語学科     |
| 配当年次           | 1 年              | クラス      | E 1       |
| 単位数            | 2                | 履修区分     | 必修科目      |
| 学期             | 前期               | 授業担当者    | 関 初海      |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |          |           |
| 科目ナンバリング       | LEN1301c1        |          |           |

|              |  |
|--------------|--|
| 授業概要・目的      | 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。   |
| 到達目標         | (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。<br>(2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。<br>(3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 |
| 授業方法と留意点     | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。  |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC, 英検等   |

| 回数 | 授業テーマ   | 内容・方法 等   | 事前・事後学習課題                     |
|----|---|---|-------------------------------|
|    |   |   |                               |
| 1  | オリエンテーション   | 授業の進め方、評価方法について説明   | Unit 1, 2 の予習 (2 時間)          |
| 2  | Unit 1, 2<br>"It's the Titanic"<br>"A Floating Palace"                              | "It's the Titanic"<br>"A Floating Palace"<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)                            | 復習・Unit 3, 4 予習 (2 時間)        |
| 3  | Unit 3, 4<br>Departure<br>Iceberg (1)   | Departure<br>Iceberg (1)<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)   | 復習・Unit 5, 6 予習 (2 時間)        |
| 4  | Unit 5, 6<br>Iceberg (2), (3)   | Iceberg (2), (3)<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)   | 復習・Unit 7, 8 予習 (2 時間)        |
| 5  | Unit 7, 8<br>Lifeboat<br>The Miracle of Philip Aks (1)                              | Lifeboat<br>The Miracle of Philip Aks (1)<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)                            | 復習・Unit 9, 10 予習 (2 時間)       |
| 6  | Unit 9, 10<br>The Miracle of Philip Aks (2), (3)                                    | The Miracle of Philip Aks (2), (3)<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)                                   | 復習・Unit 11, 12 予習 (2 時間)      |
| 7  | Unit 11, 12<br>Mr. Smith's "White Lie"<br>Together until the End of Their Lives (1) | Mr. Smith's "White Lie"<br>Together until the End of Their Lives (1)<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング) | 復習・Unit 13, 14 予習 (2 時間)      |
| 8  | Unit 13, 14<br>Together until the End of Their Lives (2)                            | Together until the End of Their Lives (2)<br>The Californian<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)         | 復習・Unit 15, 16 予習 (2 時間)      |
| 9  | Unit 15, 16<br>The Carpathia<br>Radio Officers                                      | The Carpathia<br>Radio Officers<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)                                      | 復習・Unit 17 予習 (2 時間)          |
| 10 | Unit 17<br>Firemen  | Firemen<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)  | 復習・Unit 18 予習 (2 時間)          |
| 11 | Unit 18<br>Eight Courageous Musicians (1)   | Eight Courageous Musicians (1)<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)                                       | 復習・Unit 19 予習 (2 時間)          |
| 12 | Unit 19<br>Eight Courageous Musicians (2)   | Eight Courageous Musicians (2)<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)                                       | 復習・Unit 20 予習 (2 時間)          |
| 13 | Unit 20<br>Only 705 Survivors   | Only 705 Survivors<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)   | 復習・Unit 21 予習 (2 時間)          |
| 14 | Unit 21<br>If Only...   | If Only...<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)   | Unit 21 If Only... の復習 (2 時間) |
| 15 | まとめ   | これまでの Unit の総まとめをする。  | これまで学んできた内容の総復習 (2 時間)        |

関連科目 英語 II など

| 教科書 | 番号  | 書籍名          | 著者名   | 出版社名 |
|-----|---|--------------|-------|------|
|     | 1   | First Voyage | 木村啓子他 | 南雲堂  |
| 2   | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | 西谷 恒志        | 成美堂   |      |
| 3   |   |              |       |      |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
|     |    |     |     |      |

|               |   |  |  |  |
|---------------|---|--|--|--|
|               | 1   |  |  |  |
|               | 2   |  |  |  |
|               | 3   |  |  |  |
| 評価方法<br>(基準)  | 全学共通英語課題 A 20%<br>全学共通英語課題 B 10%<br>定期試験 40%<br>授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 30%  |  |  |  |
| 学生への<br>メッセージ | 授業への積極的な参加を期待します。   |  |  |  |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館2階 非常勤講師室  |  |  |  |
| 備考            | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 |  |  |  |

|                |                  |          |           |
|----------------|------------------|----------|-----------|
| 科目名            | 英語 I             | 科目名 (英文) | English I |
| 学部             | 外国語学部            | 学科       | 外国語学科     |
| 配当年次           | 1 年              | クラス      | E 3       |
| 単位数            | 2                | 履修区分     | 必修科目      |
| 学期             | 前期               | 授業担当者    | 井原 駿      |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |          |           |
| 科目ナンバリング       | LEN1301c1        |          |           |

|              |  |
|--------------|--|
| 授業概要・目的      | 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。   |
| 到達目標         | (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。<br>(2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。<br>(3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 |
| 授業方法と留意点     | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。  |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC, 英検等   |

| 回数 | 授業テーマ                   | 内容・方法 等   | 事前・事後学習課題                      |
|----|-------------------------|---|--------------------------------|
|    |                         |   |                                |
| 1  | オリエンテーション               | 授業の進め方、評価方法について説明   | Unit 1 の予習 (2 時間)              |
| 2  | Unit 1 Family           | Usage Patterns: Responding Positively and Negatively (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)                  | 復習・次 Unit 予習 (2 時間)            |
| 3  | Unit 2 Friends          | Usage Patterns: Expressing Frequency (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)                                  | 復習・次 Unit 予習 (2 時間)            |
| 4  | Unit 3 Culture          | Usage Patterns: Talking about what should and shouldn't be done (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)       | 復習・次 Unit 予習 (2 時間)            |
| 5  | Unit 4 Education        | Usage Patterns: Expressing opinions and making surprising statements (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)  | 復習・次 Unit 予習 (2 時間)            |
| 6  | Unit 5 Sports           | Usage Patterns: Expressing honesty and hope (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)                           | 復習・次 Unit 予習 (2 時間)            |
| 7  | Unit 6 Work             | Usage Patterns: Talking about past, present, and future situations (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)    | 復習・次 Unit 予習<br>中間テスト準備 (2 時間) |
| 8  | 中間テスト                   | 中間テスト   | 復習・次 Unit 予習 (2 時間)            |
| 9  | Unit 7 Food             | 中間テストのフィードバック<br>Usage Patterns: Talking about chances and conditions (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング) | 復習・次 Unit 予習 (2 時間)            |
| 10 | Unit 8 Studying English | Usage Patterns: Talking about problems and goals (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)                      | 復習・次 Unit 予習 (2 時間)            |
| 11 | Unit 9 Health           | Usage Patterns: Taking a sick day and expressing sympathy (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)             | 復習・次 Unit 予習 (2 時間)            |
| 12 | Unit 10 Clothes         | Usage Patterns: Giving reasons and conditions (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)                         | 復習・次 Unit 予習 (2 時間)            |
| 13 | Unit 11 Traveling       | Usage Patterns: Talking about frequency (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)                               | 復習・次 Unit 予習 (2 時間)            |
| 14 | Unit 12 Music           | Usage Patterns: Exaggerating what we like and dislike (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)                 | 復習・まとめテスト準備 (2 時間)             |
| 15 | まとめ                     | まとめテストとフィードバック  | 総復習 (2 時間)                     |

|      |          |
|------|----------|
| 関連科目 | 英語 II など |
|------|----------|

| 教科書 | 番号  | 書籍名   | 著者名                 | 出版社名 |
|-----|---|---|---------------------|------|
|     | 1   | English Listening and Speaking Patterns 2 『パターン』で学ぶ英語コミュニケーション2 | Andrew E. Bennett 著 | 南雲堂  |
| 2   | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】 | 西谷恒志  | 成美堂                 |      |

|               |   |     |     |      |
|---------------|---|-----|-----|------|
|               | 3   |     |     |      |
| 参考書           | 番号  | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|               | 1   | 辞書  |     |      |
|               | 2   |     |     |      |
|               | 3   |     |     |      |
| 評価方法<br>(基準)  | 全学共通英語課題 A 20%<br>全学共通英語課題 B 10%<br>授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%   |     |     |      |
| 学生への<br>メッセージ | 授業への積極的な参加を期待します。<br>授業曜日以外の質問はメールで受け付ける。詳細は第1回目授業時に指示する。<br>email: iharashun0@gmail.com  |     |     |      |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館2階 非常勤講師室  |     |     |      |
| 備考            | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 |     |     |      |

|                |                  |          |           |
|----------------|------------------|----------|-----------|
| 科目名            | 英語 I             | 科目名 (英文) | English I |
| 学部             | 外国語学部            | 学科       | 外国語学科     |
| 配当年次           | 1 年              | クラス      | E 5       |
| 単位数            | 2                | 履修区分     | 必修科目      |
| 学期             | 前期               | 授業担当者    | 有本 好一郎    |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |          |           |
| 科目ナンバリング       | LEN1301c1        |          |           |

|              |  |
|--------------|--|
| 授業概要・目的      | 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。   |
| 到達目標         | (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。<br>(2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。<br>(3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 |
| 授業方法と留意点     | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。  |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC, 英検等   |

| 回数 | 授業テーマ                             | 内容・方法 等                     | 事前・事後学習課題                    |
|----|-----------------------------------|-----------------------------|------------------------------|
|    |                                   |                             |                              |
| 1  | ガイダンス、TOEIC の説明、英語クロスワードパズルなど     | 授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明 | 教科書の予習、クロスワードパズルの暗記 (2 時間)   |
| 2  | 自己紹介についての文章を通して名詞の学習 (固有名詞、複数形など) | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して       | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 (2 時間) |
| 3  | 家族、ペットについての文章を通して動詞の学習            | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して       | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 (2 時間) |
| 4  | 趣味についての文章を通して主語+動詞への学習            | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して       | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 (2 時間) |
| 5  | 大学生活についての文章を通して人称代名詞の学習           | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して       | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 (2 時間) |
| 6  | 食物についての文章を通して疑問詞の学習               | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して       | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 (2 時間) |
| 7  | コンサートについての文章を通して How+形容詞、副詞の学習    | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して       | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 (2 時間) |
| 8  | 中間テスト                             | 試験後、答え合わせを行い弱点を復習           | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 (2 時間) |
| 9  | 道案内についての文章を通して助動詞の学習              | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して       | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 (2 時間) |
| 10 | 日本文化についての文章を通して助動詞の学習             | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して       | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 (2 時間) |
| 11 | ジェスチャーについての文章を通して前置詞の学習           | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して       | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 (2 時間) |
| 12 | 観光案内についての文章を通して時制の学習              | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して       | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 (2 時間) |
| 13 | ネットショッピングについての文章を通して進行形の学習        | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して       | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 (2 時間) |
| 14 | E-mail についての文章を通して数字の学習           | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して       | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記 (2 時間) |
| 15 | 9-14 回のまとめテストと復習                  | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して       | まとめテストの準備 (2 時間)             |

|      |          |
|------|----------|
| 関連科目 | 英語 II など |
|------|----------|

| 教科書 | 番号  | 書籍名                            | 著者名            | 出版社名 |
|-----|---|--------------------------------|----------------|------|
|     | 1   | Forerunner to Power-Up English | JACET リスニング研究会 | 南雲堂  |
| 2   | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | 西谷 恒志                          | 成美堂            |      |
| 3   |   |                                |                |      |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
|     | 1  |     |     |      |
| 2   |    |     |     |      |
| 3   |    |     |     |      |

|           |   |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 全学共通英語課題 A 20%<br>全学共通英語課題 B 10%<br>授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70% |
|-----------|---|

|           |   |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 英語習得には普段の努力が大切である、通学時に i-Pod 等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。英語が得意なら未来が明るくなります。 |
|-----------|---|

|          |                 |
|----------|-----------------|
| 担当者の研究室等 | 7 号館 2 階 非常勤講師室 |
|----------|-----------------|

|    |   |
|----|---|
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 |
|----|---|



|                |                  |          |           |
|----------------|------------------|----------|-----------|
| 科目名            | 英語 I             | 科目名 (英文) | English I |
| 学部             | 外国語学部            | 学科       | 外国語学科     |
| 配当年次           | 1 年              | クラス      | E 2       |
| 単位数            | 2                | 履修区分     | 必修科目      |
| 学期             | 前期               | 授業担当者    | 曾我 直隆     |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |          |           |
| 科目ナンバリング       | LEN1301c1        |          |           |

|              |  |
|--------------|--|
| 授業概要・目的      | 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。   |
| 到達目標         | (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。<br>(2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。<br>(3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 |
| 授業方法と留意点     | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。  |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC, 英検等   |

| 回数 | 授業テーマ                                     | 内容・方法 等                      | 事前・事後学習課題                           |
|----|---|------------------------------|-------------------------------------|
|    |   |                              |                                     |
| 1  | オリエンテーション                                 | 授業の内容・方法の説明<br>個人/ペア/グループワーク | 自由作文: 自己紹介 (2時間)                    |
| 2  | Unit 1 Let's get started!<br>初対面の挨拶       | 小テスト<br>個人/ペア/グループワーク        | 読解: Unit 1 の復習 (2時間)                |
| 3  | Unit 2 On the job<br>職業に関する表現             | 小テスト<br>個人/ペア/グループワーク        | 読解: Unit 2 の復習<br>自由作文: 語の定義 (2時間)  |
| 4  | Unit 3 My daily life<br>日常生活に関する表現        | 小テスト<br>個人/ペア/グループワーク        | 読解: Unit 3 の復習 (2時間)                |
| 5  | Unit 4 My life story<br>過去の出来事に関する表現      | 小テスト<br>個人/ペア/グループワーク        | 読解: Unit 4 の復習<br>自由作文: 語の定義 (2時間)  |
| 6  | Unit 5 Getting around<br>いま起こっていることに関する表現 | 小テスト<br>個人/ペア/グループワーク        | 読解: Unit 5 の復習 (2時間)                |
| 7  | Unit 6 What a good story!<br>場所・方角に関する表現  | 小テスト<br>個人/ペア/グループワーク        | 読解: Unit 6 の復習<br>自由作文: 語の定義 (2時間)  |
| 8  | Unit 7 Seeing the world<br>将来の計画に関する表現    | 小テスト<br>個人/ペア/グループワーク        | 読解: Unit 7 の復習 (2時間)                |
| 9  | Unit 8 What's she like?<br>容姿・性格・嗜好に関する表現 | 小テスト<br>個人/ペア/グループワーク        | 読解: Unit 8 の復習<br>自由作文: 語の定義 (2時間)  |
| 10 | Unit 9 Out and about<br>比較に関する表現          | 小テスト<br>個人/ペア/グループワーク        | 読解: Unit 9 の復習 (2時間)                |
| 11 | Unit 10 Chores and bores<br>日々の作業に関する表現   | 小テスト<br>個人/ペア/グループワーク        | 読解: Unit 10 の復習<br>自由作文: 語の定義 (2時間) |
| 12 | Unit 11 What's on TV?<br>興味に関する表現         | 小テスト<br>個人/ペア/グループワーク        | 読解: Unit 11 の復習 (2時間)               |
| 13 | Unit 12 All about money<br>おカネに関する表現      | 小テスト<br>個人/ペア/グループワーク        | 読解: Unit 12 の復習<br>自由作文: 語の定義 (2時間) |
| 14 | Unit 13 What's for dinner?<br>食べ物に関する表現   | 小テスト<br>個人/ペア/グループワーク        | 読解: Unit 13 の復習 (2時間)               |
| 15 | 総復習・実力チェック                                | 総復習の個人/ペア/グループワーク            | これまでの授業内容の総復習 (2時間)                 |

関連科目 英語 II など

| 教科書 | 番号  | 書籍名   | 著者名                             | 出版社名                    |
|-----|---|---|---------------------------------|-------------------------|
|     | 1   | Network 2 Student Book with Online Practice | Tom Hutchinson; Kristin Sherman | Oxford University Press |
| 2   | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | 西谷 恒志                                       | 成美堂                             |                         |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
|     | 1  |     |     |      |

|           |   |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 全学共通英語課題 A 20%<br>全学共通英語課題 B 10%<br>授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70% |
|-----------|---|

学生へのメッセージ  
 皆さんには、在学中にひとり外国を旅していただくことを勧めます。旅行会社のツアーではなく、すべて自分で計画して手配する個人旅行です。若者の旅行者が集まる宿舎が、どこの国にもあります。そこに泊まって、いろいろな国の人と話をしてみましょう。今のあなたの英語力でも大丈夫。インド英語、中国英語、ヒスパニック英語… いろいろな英語に触れれば、自分のジャパニーズ イングリッシュでも臆せず使えるようになります。海外一人旅は、自分のことや日本のことを見つめ直す機会にもなるでしょう。帰国する頃には、ひとまわり大きくなった自分に気づくかもしれません。時間と体力と柔軟な心のある学生時代こそ、旅をする絶好のチャンスです。お金もそんなに要りません。アルバイトで十分貯められます。自分の英語が通じるか心配? 大丈夫、なんとかなります。この授業をぜひ役立ててください。

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

|                |                  |          |           |
|----------------|------------------|----------|-----------|
| 科目名            | 英語 I             | 科目名 (英文) | English I |
| 学部             | 外国語学部            | 学科       | 外国語学科     |
| 配当年次           | 1 年              | クラス      | E 4       |
| 単位数            | 2                | 履修区分     | 必修科目      |
| 学期             | 前期               | 授業担当者    | 関 初海      |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |          |           |
| 科目ナンバリング       | LEN1301c1        |          |           |

|              |  |
|--------------|--|
| 授業概要・目的      | 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。   |
| 到達目標         | (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。<br>(2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。<br>(3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 |
| 授業方法と留意点     | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。  |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC, 英検等   |

|      |    |   |   |                               |
|------|----|---|---|-------------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ   | 内容・方法 等   | 事前・事後学習課題                     |
|      | 1  | オリエンテーション   | 授業の進め方、評価方法について説明   | Unit 1, 2 の予習 (2 時間)          |
|      | 2  | Unit 1, 2<br>"It's the Titanic"<br>"A Floating Palace"                              | "It's the Titanic"<br>"A Floating Palace"<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)                            | 復習・Unit 3, 4 予習 (2 時間)        |
|      | 3  | Unit 3, 4<br>Departure<br>Iceberg (1)   | Departure<br>Iceberg (1)<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)   | 復習・Unit 5, 6 予習 (2 時間)        |
|      | 4  | Unit 5, 6<br>Iceberg (2), (3)   | Iceberg (2), (3)<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)   | 復習・Unit 7, 8 予習 (2 時間)        |
|      | 5  | Unit 7, 8<br>Lifeboat<br>The Miracle of Philip Aks (1)                              | Lifeboat<br>The Miracle of Philip Aks (1)<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)                            | 復習・Unit 9, 10 予習 (2 時間)       |
|      | 6  | Unit 9, 10<br>The Miracle of Philip Aks (2), (3)                                    | The Miracle of Philip Aks (2), (3)<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)                                   | 復習・Unit 11, 12 予習 (2 時間)      |
|      | 7  | Unit 11, 12<br>Mr. Smith's "White Lie"<br>Together until the End of Their Lives (1) | Mr. Smith's "White Lie"<br>Together until the End of Their Lives (1)<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング) | 復習・Unit 13, 14 予習 (2 時間)      |
|      | 8  | Unit 13, 14<br>Together until the End of Their Lives (2)<br>The Californian         | Together until the End of Their Lives (2)<br>The Californian<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)         | 復習・Unit 15, 16 予習 (2 時間)      |
|      | 9  | Unit 15, 16<br>The Carpathia<br>Radio Officers                                      | The Carpathia<br>Radio Officers<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)                                      | 復習・Unit 17 予習 (2 時間)          |
|      | 10 | Unit 17<br>Firemen  | Firemen<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)  | 復習・Unit 18 予習 (2 時間)          |
|      | 11 | Unit 18<br>Eight Courageous Musicians (1)   | Eight Courageous Musicians (1)<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)                                       | 復習・Unit 19 予習 (2 時間)          |
|      | 12 | Unit 19<br>Eight Courageous Musicians (2)   | Eight Courageous Musicians (2)<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)                                       | 復習・Unit 20 予習 (2 時間)          |
|      | 13 | Unit 20<br>Only 705 Survivors   | Only 705 Survivors<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)   | 復習・Unit 21 予習 (2 時間)          |
|      | 14 | Unit 21<br>If Only...   | If Only...<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)   | Unit 21 If Only... の復習 (2 時間) |
|      | 15 | まとめ   | これまでの授業内容の総まとめ  | これまでの授業内容の総復習 (2 時間)          |

|      |          |
|------|----------|
| 関連科目 | 英語 II など |
|------|----------|

|     |    |   |       |      |
|-----|----|---|-------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名   | 著者名   | 出版社名 |
|     | 1  | First Voyage                                | 木村啓子他 | 南雲堂  |
|     | 2  | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | 西谷 恒志 | 成美堂  |
|     | 3  |   |       |      |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|

|               |   |  |  |  |
|---------------|---|--|--|--|
|               | 1   |  |  |  |
|               | 2   |  |  |  |
|               | 3   |  |  |  |
| 評価方法<br>(基準)  | 全学共通英語課題 A 20%<br>全学共通英語課題 B 10%<br>定期試験 40%<br>授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 30%  |  |  |  |
| 学生への<br>メッセージ | 授業への積極的な参加を期待します。   |  |  |  |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館2階 非常勤講師室  |  |  |  |
| 備考            | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 |  |  |  |

|                |                  |          |           |
|----------------|------------------|----------|-----------|
| 科目名            | 英語 I             | 科目名 (英文) | English I |
| 学部             | 外国語学部            | 学科       | 外国語学科     |
| 配当年次           | 1 年              | クラス      | E 6       |
| 単位数            | 2                | 履修区分     | 必修科目      |
| 学期             | 前期               | 授業担当者    | 李 孝聖      |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |          |           |
| 科目ナンバリング       | LEN1301c1        |          |           |

|              |  |
|--------------|--|
| 授業概要・目的      | 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。   |
| 到達目標         | (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。<br>(2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。<br>(3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 |
| 授業方法と留意点     | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。  |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC, 英検等   |

| 回数 | 授業テーマ                                    | 内容・方法 等  | 事前・事後学習課題  |
|----|--|--|--|
|    |  |  |  |
| 1  | 導入。コース全体の組み立て。授業の進め方。成績のつけ方。出席・欠席への注意など。 | どうしてこのコースを選択したか。キャリアデザインとの関係。英語はどうか。                               | Chapter I: Money: The Basics の Chapter I: Money: The Basics を読んでくる。(2 時間)  |
| 2  | お金の機能について                                | I-1 Money has three functions.                                     | Chapter I: Money: The Basics の When you borrow money, you have to pay interest. を読んでくる。(2 時間)  |
| 3  | お金を借りたら利息がつく。                            | When you borrow money, you have to pay interest.                   | Chapter I: Money: The Basics の What happens to money you deposit in a bank? を読んでくる。(2 時間)  |
| 4  | 銀行に預けたお金はどうなるのか。                         | What happens to money you deposit in a bank?                       | Chapter I: Money: The Basics の Banks aren't the only financial institutions. (2 時間)  |
| 5  | 銀行が唯一の金融機関ではない。                          | Banks aren't the only financial institutions.                      | Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Prices are set according to the principle of supply and demand. を読んでくる。(2 時間)    |
| 6  | 価格は需要と供給によって決まる。                         | Prices are set according to the principle of supply and demand.    | Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Foreign trade is a two-way street. を読んでくる。(2 時間)                                 |
| 7  | 海外貿易は二方向。                                | Foreign trade is a two-way street.                                 | Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Exchange rates also vary according to supply and demand. を読んでくる。(2 時間)           |
| 8  | 為替レートも需要と供給。                             | Exchange rates also vary according to supply and demand.           | Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Currencies continuously strengthen and weaken against one another. を読んでくる。(2 時間) |
| 9  | 通貨の強弱。                                   | Currencies continuously strengthen and weaken against one another. | Chapter III: How Companies Work の Joint-stock companies: how they came about を読んでくる。(2 時間)   |
| 10 | 株式会社はどう生まれたか。                            | Joint-stock companies: how they came about?                        | Chapter III: How Companies Work の Companies share their profits among their shareholders. を読んでくる。(2 時間)                              |
| 11 | 企業は株主と利益を分配する。                           | Companies share their profits among their shareholders.            | Chapter III: How Companies Work の Trading in Stocks has become a full-fledged market. を読んでくる。(2 時間)                                  |
| 12 | 株式の取引は本物の市場になった。                         | Trading in Stocks has become a full-fledged market.                | Chapter III: How Companies Work の E-trading has changed the nature of stock trading dramatically. を読んでくる。(2 時間)                      |
| 13 | E-trading は株式の取引を根本的に変えた。                | E-trading has changed the nature of stock trading dramatically.    | Chapter III: How Companies Work の A company doesn't belong only to its shareholders. を読んでくる。   |
| 14 | 企業は株主のものだけではない。                          | A company doesn't belong only to its shareholders.                 | これまでの学習内容のまとめ。(2 時間)   |
| 15 | 総復習。                                     | これまでのまとめ。期末テストへの注意と解説。   | 期末テストの準備。(2 時間)  |

関連科目 英語 II など

| 教科書 | 番号   | 書籍名                             | 著者名  | 出版社名  |
|-----|--|---------------------------------|------|-------|
|     | 1  | All About Money and the Economy | 池上 彰 | 朝日出版社 |
| 2   | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (指定の単語集) | 西谷恒志                            | 成美堂  |       |
| 3   |  |                                 |      |       |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
|     | 1  |     |     |      |
| 2   |    |     |     |      |
| 3   |    |     |     |      |

|                       |  |
|-----------------------|--|
| <p>評価方法<br/>(基準)</p>  | <p>評価は以下の通りです。<br/>           全学共通英語課題 A 20%<br/>           全学共通英語課題 B 10%<br/>           課題レポート 10%<br/>           授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 60%</p>   |
| <p>学生への<br/>メッセージ</p> | <p>出席と予習を含む宿題を重視。<br/>           授業態度を重んじるので受講生はきちんと授業に参加してください。<br/> <b>【事前事後学習について】</b><br/>           ・特に単語は e-learning 学習など、毎日、平均 1 時間は学習してください。<br/>           ・授業の 13 回目までに、単語番号 201～400 までを最低一巡は終わるようにしてください。<br/><br/> <b>【授業中の注意点について】</b><br/>           ・辞書を必ず持参してください。</p> |
| <p>担当者の<br/>研究室等</p>  | <p>7 号館 2 階 非常勤講師室</p>   |
| <p>備考</p>             | <p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</p>   |

|                |                  |          |           |
|----------------|------------------|----------|-----------|
| 科目名            | 英語 I             | 科目名 (英文) | English I |
| 学部             | 外国語学部            | 学科       | 外国語学科     |
| 配当年次           | 1 年              | クラス      | 再         |
| 単位数            | 2                | 履修区分     | 必修科目      |
| 学期             | 前期               | 授業担当者    | 金原 真由美    |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |          |           |
| 科目ナンバリング       | LEN1301c1        |          |           |

|              |  |
|--------------|--|
| 授業概要・目的      | 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。   |
| 到達目標         | (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。<br>(2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。<br>(3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 |
| 授業方法と留意点     | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。  |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC, 英検等   |

|      |    |                                  |  |                              |
|------|----|----------------------------------|--|------------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ                            | 内容・方法 等                                      | 事前・事後学習課題                    |
|      | 1  | オリエンテーション<br>簡単な小テスト<br>Unit 1   | 授業の進め方、出欠の扱い、評価方法などの説明<br>精読テキスト Unit 1 を始める | 下読みと単語調べ、exercise の予習 (2 時間) |
|      | 2  | 1 An Accident                    | 本文の解釈と exercise                              | 下読みと単語調べ、exercise の予習 (2 時間) |
|      | 3  | 2 Did You See Anything?          | 本文の解釈と exercise                              | 下読みと単語調べ、exercise の予習 (2 時間) |
|      | 4  | 3 The Bryson Engineering Company | 本文の解釈と exercise                              | 下読みと単語調べ、exercise の予習 (2 時間) |
|      | 5  | 4 An Interview                   | 本文の解釈と exercise                              | 下読みと単語調べ、exercise の予習 (2 時間) |
|      | 6  | 5 The Police Are puzzled.        | 本文の解釈と exercise                              | 下読みと単語調べ、exercise の予習 (2 時間) |
|      | 7  | 6 Two Witnesses                  | 本文の解釈と exercise                              | 下読みと単語調べ、exercise の予習 (2 時間) |
|      | 8  | 中間テスト                            | 前半の既習内容の確認テスト                                | 前半の既習内容の復習 (テスト勉強) (2 時間)    |
|      | 9  | 7 The Car Driver                 | 本文の解釈と exercise                              | 下読みと単語調べ、exercise の予習 (2 時間) |
|      | 10 | 8 Office Security                | 本文の解釈と exercise                              | 下読みと単語調べ、exercise の予習 (2 時間) |
|      | 11 | 9 Her Memory Is Coming Back!     | 本文の解釈と exercise                              | 下読みと単語調べ、exercise の予習 (2 時間) |
|      | 12 | 10 Is Ted Bryson a Criminal?     | 本文の解釈と exercise                              | 下読みと単語調べ、exercise の予習 (2 時間) |
|      | 13 | 11 Who Is She?                   | 本文の解釈と exercise                              | 下読みと単語調べ、exercise の予習 (2 時間) |
|      | 14 | 12 Do You Realize Who You Are?   | 本文の解釈と exercise                              | 下読みと単語調べ、exercise の予習 (2 時間) |
|      | 15 | 期末テスト                            | 後半の既習内容の確認テスト                                | 前半の既習内容の復習 (テスト勉強) (2 時間)    |

|      |        |
|------|--------|
| 関連科目 | 英語 I d |
|------|--------|

|     |    |   |                           |      |
|-----|----|---|---------------------------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名   | 著者名                       | 出版社名 |
|     | 1  | Kickoff English Mystery                         | Terry O'brien / 三原京 他 2 名 | 南雲堂  |
|     | 2  | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語集 | 西谷恒志                      | 成美堂  |
|     | 3  |   |                           |      |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|           |  |
|-----------|--|
| 評価方法 (基準) | 全学共通英語課題 A 20%<br>全学共通英語課題 B 10%<br>授業への参加、小テスト、中間及び期末テスト等 70% |
|-----------|--|

|           |  |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 外国語学習は、辞書をしっかりと引いて書き込むなどの地道な下準備が欠かせません。予習をしっかりとしましょう。積極的な授業参加を期待します。<br>英和辞書が電子辞書を持参して下さい。 |
|-----------|--|

|          |                 |
|----------|-----------------|
| 担当者の研究室等 | 7 号館 2 階 非常勤講師室 |
|----------|-----------------|

|    |   |
|----|---|
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 |
|----|---|

|               |                  |         |            |
|---------------|------------------|---------|------------|
| 科目名           | 英語Ⅱ              | 科目名(英文) | English II |
| 学部            | 外国語学部            | 学科      | 外国語学科      |
| 配当年次          | 1年               | クラス     | E2         |
| 単位数           | 2                | 履修区分    | 必修科目       |
| 学期            | 後期               | 授業担当者   | 関 初海       |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |         |            |
| 科目ナンバリング      | LEN1302c1        |         |            |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。  |
| 到達目標        | (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。<br>(2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自立的英語学習法に親しむ。<br>(3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 |
| 授業方法と留意点    | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。   |
| 科目学習の効果(資格) | TOEIC, 英検等  |

|      |    |   |   |                        |
|------|----|---|---|------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ   | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題              |
|      | 1  | オリエンテーション   | 授業の進め方、評価方法について説明   | Unit 1, 2の予習 (2時間)     |
|      | 2  | Unit 1, 2<br>"It's the Titanic"<br>"A Floating Palace"                              | "It's the Titanic"<br>"A Floating Palace"<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)                            | 復習・Unit 3, 4予習 (2時間)   |
|      | 3  | Unit 3, 4<br>Departure<br>Iceberg (1)   | Departure<br>Iceberg (1)<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)   | 復習・Unit 5, 6予習 (2時間)   |
|      | 4  | Unit 5, 6<br>Iceberg (2), (3)   | Iceberg (2), (3)<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)   | 復習・Unit 7, 8予習 (2時間)   |
|      | 5  | Unit 7, 8<br>Lifeboat<br>The Miracle of Philip Aks (1)                              | Lifeboat<br>The Miracle of Philip Aks (1)<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)                            | 復習・Unit 9, 10予習 (2時間)  |
|      | 6  | Unit 9, 10  | The Miracle of Philip Aks (2), (3)<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)                                   | 復習・Unit 11, 12予習 (2時間) |
|      | 7  | Unit 11, 12<br>Mr. Smith's "White Lie"<br>Together until the End of Their Lives (1) | Mr. Smith's "White Lie"<br>Together until the End of Their Lives (1)<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング) | 復習・Unit 13, 14予習 (2時間) |
|      | 8  | Unit 13, 14<br>Together until the End of Their Lives (2)<br>The Californian         | Together until the End of Their Lives (2)<br>The Californian<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)         | 復習・Unit 15, 16予習 (2時間) |
|      | 9  | Unit 15, 16<br>The Carpathia<br>Radio Officers                                      | The Carpathia<br>Radio Officers<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)                                      | 復習・Unit 17予習 (2時間)     |
|      | 10 | Unit 17<br>Firemen  | Firemen<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)  | 復習・Unit 18予習 (2時間)     |
|      | 11 | Unit 18<br>Eight Courageous Musicians (1)   | Eight Courageous Musicians (1)<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)                                       | 復習・Unit 19予習 (2時間)     |
|      | 12 | Unit 19<br>Eight Courageous Musicians (2)   | Eight Courageous Musicians (2)<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)                                       | 復習・Unit 20予習 (2時間)     |
|      | 13 | Unit 20<br>Only 705 Survivors   | Only 705 Survivors<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)   | 復習・Unit 21予習 (2時間)     |
|      | 14 | Unit 21<br>If Only...   | If Only...<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)   | 復習 (2時間)               |
|      | 15 | まとめ   | 総まとめ  | 総復習 (2時間)              |

関連科目 他の英語科目

|     |    |   |       |      |
|-----|----|---|-------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名   | 著者名   | 出版社名 |
|     | 1  | First Voyage                                | 木村啓子他 | 南雲堂  |
|     | 2  | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | 西谷 恒志 | 成美堂  |
|     | 3  |   |       |      |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|

|               |   |  |  |  |
|---------------|---|--|--|--|
|               | 1   |  |  |  |
|               | 2   |  |  |  |
|               | 3   |  |  |  |
| 評価方法<br>(基準)  | 全学共通英語課題 A 20%<br>全学共通英語課題 B 10%<br>定期試験 40%<br>授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 30%<br>※2019年11月下旬に実施される TOEIC Bridge 受験が本科目の単位取得要件となる。必ず受験すること。 |  |  |  |
| 学生への<br>メッセージ | 授業への積極的な参加を期待します。   |  |  |  |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館2階 非常勤講師室  |  |  |  |
| 備考            | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。       |  |  |  |



|               |                  |         |            |
|---------------|------------------|---------|------------|
| 科目名           | 英語Ⅱ              | 科目名(英文) | English II |
| 学部            | 外国語学部            | 学科      | 外国語学科      |
| 配当年次          | 1年               | クラス     | E4         |
| 単位数           | 2                | 履修区分    | 必修科目       |
| 学期            | 後期               | 授業担当者   | 井原 駿       |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |         |            |
| 科目ナンバリング      | LEN1302c1        |         |            |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。  |
| 到達目標        | (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。<br>(2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自立的英語学習法に親しむ。<br>(3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 |
| 授業方法と留意点    | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。<br>※2019年11月下旬に実施されるTOEIC Bridgeの受験が本科目の単位取得要件となるので、必ず受験すること。   |
| 科目学習の効果(資格) | TOEIC, 英検等  |

| 回数 | 授業テーマ                   | 内容・方法等   | 事前・事後学習課題                   |
|----|-------------------------|--|-----------------------------|
|    |                         |  |                             |
| 1  | オリエンテーション               | 授業の進め方、評価方法について説明  | Unit 1の予習 (2時間)             |
| 2  | Unit 1 Family           | Usage Patterns: Responding Positively and Negatively<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)                  | 復習・次Unit予習 (2時間)            |
| 3  | Unit 2 Friends          | Usage Patterns: Expressing Frequency<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)                                  | 復習・次Unit予習 (2時間)            |
| 4  | Unit 3 Culture          | Usage Patterns: Talking about what should and shouldn't be done<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)       | 復習・次Unit予習 (2時間)            |
| 5  | Unit 4 Education        | Usage Patterns: Expressing opinions and making surprising statements<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)  | 復習・次Unit予習 (2時間)            |
| 6  | Unit 5 Sports           | Usage Patterns: Expressing honesty and hope<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)                           | 復習・次Unit予習 (2時間)            |
| 7  | Unit 6 Work             | Usage Patterns: Talking about past, present, and future situations<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)    | 復習・次Unit予習<br>中間テスト準備 (2時間) |
| 8  | 中間テスト                   | 中間テスト  | 復習・次Unit予習 (2時間)            |
| 9  | Unit 7 Food             | 中間テストのフィードバック<br>Usage Patterns: Talking about chances and conditions<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング) | 復習・次Unit予習 (2時間)            |
| 10 | Unit 8 Studying English | Usage Patterns: Talking about problems and goals<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)                      | 復習・次Unit予習 (2時間)            |
| 11 | Unit 9 Health           | Usage Patterns: Taking a sick day and expressing sympathy<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)             | 復習・次Unit予習 (2時間)            |
| 12 | Unit 10 Clothes         | Usage Patterns: Giving reasons and conditions<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)                         | 復習・次Unit予習 (2時間)            |
| 13 | Unit 11 Traveling       | Usage Patterns: Talking about frequency<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)                               | 復習・次Unit予習 (2時間)            |
| 14 | Unit 12 Music           | Usage Patterns: Exaggerating what we like and dislike<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)                 | 復習・まとめテスト準備 (2時間)           |
| 15 | まとめ                     | まとめテストとフィードバック   | 総復習 (2時間)                   |

|      |        |   |                     |      |
|------|--------|---|---------------------|------|
| 関連科目 | 他の英語科目 |   |                     |      |
| 教科書  | 番号     | 書籍名   | 著者名                 | 出版社名 |
|      | 1      | English Listening and Speaking Patterns 2 『パターン』で学ぶ英語コミュニケーション2 | Andrew E. Bennett 著 | 南雲堂  |
|      | 2      | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単                  | 西谷恒志                | 成美堂  |

|               |   |     |     |      |
|---------------|---|-----|-----|------|
|               | 語集】   |     |     |      |
|               | 3   |     |     |      |
| 参考書           | 番号  | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|               | 1   | 辞書  |     |      |
|               | 2   |     |     |      |
|               | 3   |     |     |      |
| 評価方法<br>(基準)  | 全学共通英語課題 A 20%<br>全学共通英語課題 B 10%<br>授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%<br>※2019年度11月下旬に実施される TOEIC Bridge の受験が本科目の単位取得要件となる。必ず受験すること。    |     |     |      |
| 学生への<br>メッセージ | 授業への積極的な参加を期待します。<br>授業曜日以外の質問はメールで受け付ける。詳細は第1回目授業時に指示する。<br>email: iharashun0@gmail.com  |     |     |      |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館2階 非常勤講師室  |     |     |      |
| 備考            | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 |     |     |      |

|               |                  |         |            |
|---------------|------------------|---------|------------|
| 科目名           | 英語Ⅱ              | 科目名(英文) | English II |
| 学部            | 外国語学部            | 学科      | 外国語学科      |
| 配当年次          | 1年               | クラス     | E 6        |
| 単位数           | 2                | 履修区分    | 必修科目       |
| 学期            | 後期               | 授業担当者   | 有本 好一郎     |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |         |            |
| 科目ナンバリング      | LEN1302c1        |         |            |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。  |
| 到達目標        | (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。<br>(2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自立的英語学習法に親しむ。<br>(3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 |
| 授業方法と留意点    | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。<br>※2019年度11月下旬に実施されるTOEIC Bridgeの受験が本科目の単位取得要件となるので、必ず受験すること。  |
| 科目学習の効果(資格) | TOEIC, 英検等  |

| 回数 | 授業テーマ                        | 内容・方法等                      | 事前・事後学習課題                  |
|----|------------------------------|-----------------------------|----------------------------|
|    |                              |                             |                            |
| 1  | ガイダンス、TOEICの説明、英語クロスワードパズルなど | 授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明 | 教科書の予習、クロスワードパズルの暗記(2時間)   |
| 2  | 機内放送についての文章を通して、天候や時の表現の学習   | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して       | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間) |
| 3  | 空港で放送される文章を通して接続詞の学習         | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して       | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間) |
| 4  | ホテルで使われる文章を通して不定詞の学習         | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して       | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間) |
| 5  | レストランで使われる文章を通して形容詞の学習       | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して       | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間) |
| 6  | 買い物で使われる文章を通して頻度を表す副詞の学習     | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して       | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間) |
| 7  | 野球についての文章を通して比較級の学習          | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して       | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間) |
| 8  | 中間試験                         | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して       | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間) |
| 9  | ミュージカル鑑賞についての文章を通して完了形の学習    | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して       | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間) |
| 10 | 旅行案内についての文章を通して受動態の学習        | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して       | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間) |
| 11 | 問題解決についての文章を通して受動態の学習        | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して       | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間) |
| 12 | 体調不良についての文章を通して分詞の学習         | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して       | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間) |
| 13 | 電話の会話についての文章を通して動名詞の学習       | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して       | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間) |
| 14 | 別れの手紙の文章を通してセンテンスの学習         | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して       | 教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間) |
| 15 | 9-14回のまとめテストと復習              | 読解、文法、リスニング演習問題形式を通して       | まとめテストの準備(2時間)             |

|      |        |
|------|--------|
| 関連科目 | 他の英語科目 |
|------|--------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名   | 著者名           | 出版社名 |
|-----|----|---|---------------|------|
|     | 1  | Forerunner to Power-up English              | JACETリスニング研究会 | 南雲堂  |
|     | 2  | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | 西谷 恒志         | 成美堂  |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |

|          |   |
|----------|---|
| 評価方法(基準) | 全学共通英語課題 A 20%<br>全学共通英語課題 B 10%<br>授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%<br>※2019年度11月下旬に実施されるTOEIC Bridgeの受験が本科目の単位取得要件となる。必ず受験すること。 |
|----------|---|

|           |   |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 英語習得には普段の努力が大切である、通学時にi-Pod等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。英語が得意なら未来が明るくなります。 |
|-----------|---|

|          |              |
|----------|--------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階 非常勤講師室 |
|----------|--------------|

|    |   |
|----|---|
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 |
|----|---|

|               |                  |         |            |
|---------------|------------------|---------|------------|
| 科目名           | 英語Ⅱ              | 科目名(英文) | English II |
| 学部            | 外国語学部            | 学科      | 外国語学科      |
| 配当年次          | 1年               | クラス     | E1         |
| 単位数           | 2                | 履修区分    | 必修科目       |
| 学期            | 後期               | 授業担当者   | 曾我 直隆      |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |         |            |
| 科目ナンバリング      | LEN1302c1        |         |            |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。  |
| 到達目標        | (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。<br>(2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自立的英語学習法に親しむ。<br>(3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 |
| 授業方法と留意点    | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。<br>※2019年11月下旬に実施されるTOEIC Bridgeの受験が本科目の単位取得要件となるので、必ず受験すること。   |
| 科目学習の効果(資格) | TOEIC, 英検等  |

| 回数 | 授業テーマ                                     | 内容・方法等                       | 事前・事後学習課題                          |
|----|---|------------------------------|------------------------------------|
|    |   |                              |                                    |
| 1  | オリエンテーション                                 | 授業の内容・方法の説明<br>個人/ペア/グループワーク | 自由作文: 自己紹介 (2時間)                   |
| 2  | Unit 1 Let's get started!<br>初対面の挨拶       | 小テスト<br>個人/ペア/グループワーク        | 読解: Unit 1の復習 (2時間)                |
| 3  | Unit 2 On the job<br>職業に関する表現             | 小テスト<br>個人/ペア/グループワーク        | 読解: Unit 2の復習<br>自由作文: 語の定義 (2時間)  |
| 4  | Unit 3 My daily life<br>日常生活に関する表現        | 小テスト<br>個人/ペア/グループワーク        | 読解: Unit 3の復習 (2時間)                |
| 5  | Unit 4 My life story<br>過去の出来事に関する表現      | 小テスト<br>個人/ペア/グループワーク        | 読解: Unit 4の復習<br>自由作文: 語の定義 (2時間)  |
| 6  | Unit 5 Getting around<br>いま起こっていることに関する表現 | 小テスト<br>個人/ペア/グループワーク        | 読解: Unit 5の復習 (2時間)                |
| 7  | Unit 6 What a good story!<br>場所・方向に関する表現  | 小テスト<br>個人/ペア/グループワーク        | 読解: Unit 6の復習<br>自由作文: 語の定義 (2時間)  |
| 8  | Unit 7 Seeing the world<br>将来の計画に関する表現    | 小テスト<br>個人/ペア/グループワーク        | 読解: Unit 7の復習 (2時間)                |
| 9  | Unit 8 What's she like?<br>容姿・性格・嗜好に関する表現 | 小テスト<br>個人/ペア/グループワーク        | 読解: Unit 8の復習<br>自由作文: 語の定義 (2時間)  |
| 10 | Unit 9 Out and about<br>比較に関する表現          | 小テスト<br>個人/ペア/グループワーク        | 読解: Unit 9の復習 (2時間)                |
| 11 | Unit 10 Chores and bores<br>日々の作業に関する表現   | 小テスト<br>個人/ペア/グループワーク        | 読解: Unit 10の復習<br>自由作文: 語の定義 (2時間) |
| 12 | Unit 11 What's on TV?<br>興味に関する表現         | 小テスト<br>個人/ペア/グループワーク        | 読解: Unit 11の復習 (2時間)               |
| 13 | Unit 12 All about money<br>おカネに関する表現      | 小テスト<br>個人/ペア/グループワーク        | 読解: Unit 12の復習<br>自由作文: 語の定義 (2時間) |
| 14 | Unit 13 What's for dinner?<br>食べ物に関する表現   | 小テスト<br>個人/ペア/グループワーク        | 読解: Unit 13の復習 (2時間)               |
| 15 | 総復習・実力チェック                                | 総復習の個人/ペア/グループワーク            | これまでの授業内容の総復習 (2時間)                |

関連科目 他の英語科目

| 教科書 | 番号  | 書籍名   | 著者名                             | 出版社名                    |
|-----|---|---|---------------------------------|-------------------------|
|     | 1   | Network 2 Student Book with Online Practice | Tom Hutchinson; Kristin Sherman | Oxford University Press |
| 2   | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | 西谷 恒志                                       | 成美堂                             |                         |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
|     | 1  |     |     |      |

|          |   |
|----------|---|
| 評価方法(基準) | 全学共通英語課題 A 20%<br>全学共通英語課題 B 10%<br>授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%<br>※2019年度11月下旬に実施されるTOEIC Bridgeの受験が本科目の単位取得要件となる。必ず受験すること。 |
|----------|---|

学生へのメッセージ

皆さんには、在学中にひとりで外国を旅して頂くことを勧めます。旅行会社のツアーではなく、すべて自分で計画して手配する個人旅行です。若者の旅行者が集まる安宿が、どこの国にもあります。そこに泊まって、いろいろな国の人と話をしてみましょう。今のあなたの英語力でも大丈夫。インド英語、中国英語、ヒスパニック英語… いろいろな英語に触れれば、自分のジャパニーズ イングリッシュでも臆せず使えるようになります。

海外一人旅は、自分のことや日本のことを見つめ直す機会にもなるでしょう。帰国する頃には、ひとまわり大きくなった自分に気づくかもしれません。

時間と体力と柔軟な心のある学生時代こそ、旅をする絶好のチャンスです。お金もそんなに要りません。アルバイトで十分貯められます。自分の英語が通じるか心配? 大丈夫、なんとかなります。この授業をぜひ役立ててください。

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

|               |                  |         |            |
|---------------|------------------|---------|------------|
| 科目名           | 英語Ⅱ              | 科目名(英文) | English II |
| 学部            | 外国語学部            | 学科      | 外国語学科      |
| 配当年次          | 1年               | クラス     | E3         |
| 単位数           | 2                | 履修区分    | 必修科目       |
| 学期            | 後期               | 授業担当者   | 関 初海       |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |         |            |
| 科目ナンバリング      | LEN1302c1        |         |            |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。  |
| 到達目標        | (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。<br>(2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自立的英語学習法に親しむ。<br>(3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 |
| 授業方法と留意点    | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。<br>※2019年11月下旬に実施されるTOEIC Bridge受験が本科目の単位取得要件となるので、必ず受験すること。  |
| 科目学習の効果(資格) | TOEIC, 英検等  |

|      |    |  |   |                             |
|------|----|--|---|-----------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ  | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題                   |
|      | 1  | オリエンテーション  | 授業の進め方、評価方法について説明   | Unit 1,2の予習 (2時間)           |
|      | 2  | Unit 1,2<br>"It's the Titanic"<br>"A Floating Palace"                              | "It's the Titanic"<br>"A Floating Palace"<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)                            | 復習・Unit 3,4 予習 (2時間)        |
|      | 3  | Unit 3,4<br>Departure<br>Iceberg (1)   | Departure<br>Iceberg (1)<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)   | 復習・Unit 5,6 予習 (2時間)        |
|      | 4  | Unit 5,6<br>Iceberg (2), (3)   | Iceberg (2), (3)<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)   | 復習・Unit 7,8 予習 (2時間)        |
|      | 5  | Unit 7,8<br>Lifeboat<br>The Miracle of Philip Aks (1)                              | Lifeboat<br>The Miracle of Philip Aks (1)<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)                            | 復習・Unit 9,10 予習 (2時間)       |
|      | 6  | Unit 9,10<br>The Miracle of Philip Aks (2), (3)                                    | The Miracle of Philip Aks (2), (3)<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)                                   | 復習・Unit 11,12 予習 (2時間)      |
|      | 7  | Unit 11,12<br>Mr. Smith's "White Lie"<br>Together until the End of Their Lives (1) | Mr. Smith's "White Lie"<br>Together until the End of Their Lives (1)<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング) | 復習・Unit 13,14 予習 (2時間)      |
|      | 8  | Unit 13,14<br>Together until the End of Their Lives (2)                            | Together until the End of Their Lives (2)<br>The Californian<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)         | 復習・Unit 15,16 予習 (2時間)      |
|      | 9  | Unit 15,16<br>The Carpathia<br>Radio Officers                                      | The Carpathia<br>Radio Officers<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)                                      | 復習・Unit 17 予習 (2時間)         |
|      | 10 | Unit 17<br>Firemen   | Firemen<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)  | 復習・Unit 18 予習 (2時間)         |
|      | 11 | Unit 18<br>Eight Courageous Musicians (1)  | Eight Courageous Musicians (1)<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)                                       | 復習・Unit 19 予習 (2時間)         |
|      | 12 | Unit 19<br>Eight Courageous Musicians (2)  | Eight Courageous Musicians (2)<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)                                       | 復習・Unit 20 予習 (2時間)         |
|      | 13 | Unit 20<br>Only 705 Survivors  | Only 705 Survivors<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)   | 復習・Unit 21 予習 (2時間)         |
|      | 14 | Unit 21<br>If Only...  | If Only...<br>(文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)   | Unit 21 If Only...の復習 (2時間) |
|      | 15 | まとめ  | これまでの学習内容の総まとめ  | これまでの学習内容の総復習 (2時間)         |

|      |        |
|------|--------|
| 関連科目 | 他の英語科目 |
|------|--------|

|     |    |   |       |      |
|-----|----|---|-------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名   | 著者名   | 出版社名 |
|     | 1  | First Voyage                                | 木村啓子他 | 南雲堂  |
|     | 2  | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | 西谷 恒志 | 成美堂  |
|     | 3  |   |       |      |

|     |  |
|-----|--|
| 参考書 |  |
|-----|--|

|  | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|--|----|-----|-----|------|
|  | 1  |     |     |      |
|  | 2  |     |     |      |
|  | 3  |     |     |      |

  

|               |  |
|---------------|--|
| 評価方法<br>(基準)  | 全学共通英語課題 A 20%<br>全学共通英語課題 B 10%<br>定期試験 40%<br>授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 30%<br>※2019年11月下旬に実施される TOEIC Bridge 受験が本科目の単位取得要件となる。必ず受験すること。 |
| 学生への<br>メッセージ | 授業への積極的な参加を期待します。  |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館2階 非常勤講師室   |
| 備考            | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。      |

|               |                  |         |            |
|---------------|------------------|---------|------------|
| 科目名           | 英語Ⅱ              | 科目名(英文) | English II |
| 学部            | 外国語学部            | 学科      | 外国語学科      |
| 配当年次          | 1年               | クラス     | E5         |
| 単位数           | 2                | 履修区分    | 必修科目       |
| 学期            | 後期               | 授業担当者   | 李 孝聖       |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |         |            |
| 科目ナンバリング      | LEN1302c1        |         |            |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。  |
| 到達目標        | (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。<br>(2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自立的英語学習法に親しむ。<br>(3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 |
| 授業方法と留意点    | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。<br>※2019年度11月下旬に実施されるTOEIC Bridgeの受験が本科目の単位取得要件となるので、必ず受験すること。  |
| 科目学習の効果(資格) | TOEIC, 英検等  |

|      |    |                                |   |  |
|------|----|--------------------------------|---|--|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ                          | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題  |
|      | 1  | 後期にあたって、新たな気持ちで英語に取り組む姿勢を喚起する。 | 各レッスンの訳、要約。自発的で積極的な授業への取り組み方を考える。   | Chapter III: The State of the Economy の The economy fluctuates in cycle. を読んでくる。<br>指定単語の学習 (2時間)                                  |
|      | 2  | 経済は周期的に変動する。                   | The economy fluctuates in cycle. の和訳や要約を中心に。                                  | Chapter III: The State of the Economy の There are two basic ways countries can stimulate their economics. を読んでくる。<br>指定単語の学習 (2時間) |
|      | 3  | 経済を活性化させる2方法。                  | There are two basic ways countries can stimulate their economics. の和訳や要約を中心に。 | Chapter III: The State of the Economy の Sometimes an economy can become too robust. を読んでくる。<br>指定単語の学習 (2時間)                       |
|      | 4  | 経済はときには強すぎる。                   | Sometimes an economy can become too robust. の和訳や要約を中心に。                       | Chapter III: The State of the Economy の In extremis, the economy can grow like a bubble. を読んでくる。<br>指定単語の学習 (2時間)                  |
|      | 5  | 経済は泡のように膨らむ。                   | In extremis, the economy can grow like a bubble. の和訳や要約を中心に。                  | Chapter v: Economic Systems の There are two main economic systems in operation today. を読んでくる。<br>指定単語の学習 (2時間)                     |
|      | 6  | 今日の2つの経済システム。                  | There are two main economic systems in operation today. の和訳や要約を中心に。           | これまでの復習。(2時間)  |
|      | 7  | Review, Midterm Exam           | 復習、期間外試験1   | Chapter v: Economic Systems の Socialism largely ended in failure. を読んでくる。<br>指定単語の学習 (2時間)   |
|      | 8  | 社会主義の失敗。                       | Socialism largely ended in failure. の和訳や要約を中心に。                               | Chapter v: Economic Systems の Globalization has its good points and its bad. を読んでくる。<br>指定単語の学習 (2時間)                              |
|      | 9  | グローバリゼーションの良い点と悪い点。            | Globalization has its good points and its bad. の和訳や要約を中心に。                    | Chapter v: Economic Systems の Neo-liberalism is changing the way business done. を読んでくる。<br>指定単語の学習 (2時間)                           |
|      | 10 | 新自由主義はビジネスを変える。                | Neo-liberalism is changing the way business done. の和訳や要約を中心に。                 | Chapter v: Economic Systems の Economic policies can serve to protect the natural environment. を読んでくる。<br>指定単語の学習                   |
|      | 11 | 経済政策は自然環境の保護に役立つ。              | Economic policies can serve to protect the natural environment. の和訳や要約を中心に。   | プリントを用意する。<br>指定単語の学習 (2時間)  |
|      | 12 | 食物アレルギー                        | Food allergies の和訳や要約を中心に。  | Food allergies を読んでくる。<br>指定単語の学習 (2時間)  |
|      | 13 | 食物アレルギー                        | Food allergies の和訳や要約を中心に。  | プリントを用意する。<br>指定単語の学習 (2時間)  |
|      | 14 | 青色発光ダイオード                      | Blue LED の和訳や要約を中心に。  | Blue LED を読んでくる。<br>指定単語の学習 (2時間)  |
|      | 15 | 青色発光ダイオード                      | Blue LED の和訳や要約を中心に。  | 期末テストの注意と重点項目。(2時間)  |

関連科目: その他の英語関連科目

|     |    |  |      |       |
|-----|----|--|------|-------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名  | 著者名  | 出版社名  |
|     | 1  | All About Money and the Economy                      | 池上 彰 | 朝日出版社 |
|     | 2  | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (指定の単語集) | 西谷恒志 | 成美堂   |
|     | 3  |  |      |       |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |

|               |  |  |  |  |
|---------------|--|--|--|--|
|               | 2  |  |  |  |
|               | 3  |  |  |  |
| 評価方法<br>(基準)  | 定期試験 50%、課題レポート 10%、共通英語課題 A 20%、共通英語課題 B 10%<br>授業態度 (授業中の発表) 10%の割合で評価する。<br>※2019 年度 11 月下旬に実施される TOEIC Bridge の受験が本科目の単位取得要件となる。必ず受験すること。  |  |  |  |
| 学生への<br>メッセージ | ※授業態度に問題のある場合 (遅刻、居眠り、飲食、私語、携帯電話の使用など) は、教室に来ていても「欠席」扱いとします。<br><br>英語を効果的にマスターしたい人は、少しずつでも必ず毎日英語に触れましょう。<br>週に一日だけ 1 時間勉強するよりも、毎日 15 分勉強するほうがはるかに効果が上がります。<br>英語の力は学習時間に比例して伸びてゆきます。<br>授業以外にも、自分の興味ある分野の英文をどんどん読んでみましょう。<br>全員参加で活気ある授業を創り上げましょう。<br>【事前事後学習について】<br>・特に単語は e-learning 学習など、毎日、平均 1 時間は学習してください。<br>【授業中の注意点について】<br>・辞書を必ず持参してください。 |  |  |  |
| 担当者の<br>研究室等  | 7 号館 2 階 (非常勤講師室)  |  |  |  |
| 備考            | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。  |  |  |  |



|               |                  |         |            |
|---------------|------------------|---------|------------|
| 科目名           | 英語Ⅱ              | 科目名(英文) | English II |
| 学部            | 外国語学部            | 学科      | 外国語学科      |
| 配当年次          | 1年               | クラス     | 再          |
| 単位数           | 2                | 履修区分    | 必修科目       |
| 学期            | 後期               | 授業担当者   | 金原 真由美     |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |         |            |
| 科目ナンバリング      | LEN1302c1        |         |            |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。  |
| 到達目標        | (1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。<br>(2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自立的英語学習法に親しむ。<br>(3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 |
| 授業方法と留意点    | 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。   |
| 科目学習の効果(資格) | TOEIC, 英検等  |

|      |    |   |   |  |
|------|----|---|---|--|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ   | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題                              |
|      | 1  | オリエンテーション<br>簡単な小テスト<br>Chapter 1                   | 授業の進め方、出欠の扱い、評価方法などの説明<br>精読テキスト Chapter 1 を始める | 下読みと単語調べ、, exercise の予習 (2時間)          |
|      | 2  | 1 What Non-Japanese people Expect from Japan        | Chapter 1 の本文の解釈と exercise                      | 下読みと単語調べ, exercise の予習 (2時間)           |
|      | 3  | 2 What Inbound Tourists Expect from Japanese People | Chapter 2 の本文の解釈と exercise                      | 下読みと単語調べ, exercise の予習 (2時間)           |
|      | 4  | 3 Productive Intercultural Interactions             | Chapter 3 の本文の解釈と exercise                      | 下読みと単語調べ, exercise の予習 (2時間)           |
|      | 5  | 4 Utilizing Silence and Space in Japanese Culture   | Chapter 4 の本文の解釈と exercise                      | 下読みと単語調べ, exercise の予習 (2時間)           |
|      | 6  | 5 The Needs of Hotel Guests                         | Chapter 5 の本文の解釈と exercise                      | 下読みと単語調べ, exercise の予習 (2時間)           |
|      | 7  | 6 Clear Messages in a Lawsuit Society               | Chapter 6 の本文の解釈と exercise                      | 下読みと単語調べ, exercise の予習 (2時間)           |
|      | 8  | 中間テスト   | Chapters 1-6 ので学習した内容の確認テスト                     | Chapters 1-6 ので学習した内容の復習(テスト勉強) (2時間)  |
|      | 9  | 7 Information Wars                                  | Chapter 7 の本文の解釈と exercise                      | 下読みと単語調べ, exercise の予習 (2時間)           |
|      | 10 | 8 A Victor in Information Wars-1                    | Chapter 8 の本文の解釈と exercise                      | 下読みと単語調べ, exercise の予習 (2時間)           |
|      | 11 | 9 A Victor in Information Wars-2                    | Chapter 9 の本文の解釈と exercise                      | 下読みと単語調べ, exercise の予習 (2時間)           |
|      | 12 | 10 Falling Occupations and Rising Occupations       | Chapter 10 の本文の解釈と exercise                     | 下読みと単語調べ, exercise の予習 (2時間)           |
|      | 13 | 11 Fair Survey                                      | Chapter 11 の本文の解釈と exercise                     | 下読みと単語調べ, exercise の予習 (2時間)           |
|      | 14 | 12 Diversifying Risks                               | Chapter 12 の本文の解釈と exercise                     | 下読みと単語調べ, exercise の予習 (2時間)           |
|      | 15 | 期末テスト   | Chapters 7-12 の学習内容の確認テスト                       | Chapters 7-12 ので学習した内容の復習(テスト勉強) (2時間) |

関連科目: メディアイングリッシュ b, トピックスタディーズⅡb, リーディングⅠb

|     |    |   |                   |      |
|-----|----|---|-------------------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名   | 著者名               | 出版社名 |
|     | 1  | Coping with Globalization [総合英語ーグローバル化への対処]     | 小林純子 / Brian Bond | 三修社  |
|     | 2  | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語集 | 西谷恒志              | 成美堂  |
|     | 3  |   |                   |      |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|           |   |
|-----------|---|
| 評価方法(基準)  | 全学共通英語課題A 20%<br>全学共通英語課題B 10%<br>授業への参加、小テスト、中間及び期末テスト 70%   |
| 学生へのメッセージ | 外国語学習は、辞書をしっかりと引いて書き込むなどの地道な下準備が欠かせません。音声なども利用し、聞いたり声に出したり工夫をして勉強しましょう。   |
| 担当者の研究室等  | 7号館2階 非常勤講師室  |
| 備考        | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 |

|               |                  |         |             |
|---------------|------------------|---------|-------------|
| 科目名           | 英語Ⅲ              | 科目名(英文) | English III |
| 学部            | 外国語学部            | 学科      | 外国語学科       |
| 配当年次          | 2年               | クラス     |             |
| 単位数           | 2                | 履修区分    | 選択必修科目      |
| 学期            | 前期               | 授業担当者   | 松井 信義       |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |         |             |
| 科目ナンバリング      | LEN2303c1        |         |             |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | 本講座は、1年次で学んだ語彙、文法を基に英語力の更なる向上を目指し、総合的な運用能力を高めることを目的とする。異文化間のコミュニケーションは、英語コミュニケーション能力だけにあるのではない。トピックは日米比較で、身の周りにあるものを取り上げ、それらの題材を通して英語力を高めると同時に、日米の差異・共通性の理解を深める。 |
| 到達目標        | 英検2級以上、TOEIC 550点以上の実力をつけることを到達目標とする。  |
| 授業方法と留意点    | 授業は‘Active Participation in Class’(授業への前向きな参加)が大前提である。双方向の全員参加の活発な授業を展開するので、予習が必須で辞書(できれば、紙の英和辞典)は必ず持ってくること。   |
| 科目学習の効果(資格) | 予習・復習を欠かさず、英語に触れる絶対量を増やせば、英検2級以上、TOEIC 550点以上は必ず取れるはずです。   |

| 回数 | 授業テーマ  | 内容・方法等                                   | 事前・事後学習課題                            |
|----|--|--|--------------------------------------|
|    |  |  |                                      |
| 1  | シラバスの説明<br>Lesson 1の導入<br>Physical Education           | 授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など           | Lesson 1の予習(1時間)                     |
| 2  | Lesson 1<br>Physical Education                         | Physical Educationに関する内容把握、語彙・発音、練習問題    | Lesson 1の復習及び予習(1時間)                 |
| 3  | Lesson 2<br>Sports Clubs                               | Sports Clubsに関する内容把握、語彙・発音、練習問題          | Lesson 2の復習及び予習(1時間)                 |
| 4  | Lesson 2<br>Sports Clubs                               | Sports Clubsに関する内容把握、語彙・発音、練習問題          | Lesson 2の復習及び予習(1時間)                 |
| 5  | Lesson 3<br>Cultural Differences                       | Cultural Differencesに関する内容把握、語彙・発音、練習問題  | Lesson 3の復習及び予習(1時間)                 |
| 6  | Lesson 4<br>Haircuts                                   | Haircutsに関する内容把握、語彙・発音、練習問題              | Lesson 4の復習及び予習(1時間)                 |
| 7  | Lesson 5<br>Music                                      | Musicに関する内容把握、語彙・発音、練習問題                 | Lesson 5の復習及び予習(1時間)                 |
| 8  | Lesson 6<br>Money                                      | Moneyに関する内容把握、語彙・発音、練習問題                 | Lesson 6の復習及び予習(1時間)                 |
| 9  | Lesson 7<br>Safety                                     | Safetyに関する内容把握、語彙・発音、練習問題                | Lesson 7の復習及び予習(1時間)                 |
| 10 | Lesson 8<br>Life Expectancy                            | Life Expectancyに関する内容把握、語彙・発音、練習問題       | Lesson 8の復習及び予習(1時間)                 |
| 11 | Lesson 9<br>The Metric System                          | The Metric Systemに関する内容把握、語彙・発音、練習問題     | Lesson 9の復習及び予習(1時間)                 |
| 12 | Lesson 10<br>Police                                    | Policeに関する内容把握、語彙・発音、練習問題                | Lesson 10の復習及び予習(1時間)                |
| 13 | Lesson 11<br>Seasons                                   | Seasonsに関する内容把握、語彙・発音、練習問題               | Lesson 11の復習及び予習(1時間)                |
| 14 | Lesson 12<br>TV Sports                                 | TV Sportsに関する内容把握、語彙・発音、練習問題             | Lesson 12の復習及び予習(1時間)                |
| 15 | Lesson 1 ~ Lesson 12<br>Physical Education ~ TV Sports | Lesson 1 ~ Lesson 12の総復習<br>定期試験(前期末)の準備 | これまでの授業で扱った内容について総復習する(定期試験の準備)(1時間) |

|      |          |
|------|----------|
| 関連科目 | 他の英語関連科目 |
|------|----------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名                      | 著者名           | 出版社名 |
|-----|----|--------------------------|---------------|------|
|     | 1  | Eye on America and Japan | G. Truscott 他 | 南雲堂  |
| 2   |    |                          |               |      |
| 3   |    |                          |               |      |

| 参考書 | 番号  | 書籍名      | 著者名 | 出版社名 |
|-----|---|----------|-----|------|
|     | 1   | 暗唱英文 100 |     | 成美堂  |
| 2   | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test |          | 成美堂 |      |
| 3   | 英和辞典・和英辞典                                   |          |     |      |

|          |   |
|----------|---|
| 評価方法(基準) | 定期試験 60%<br>小テスト(Quiz) 20%<br>課題レポート(只管筆写、英語多読) 20%<br>原則、出席率80%以上の学生を成績評価の対象とする。 |
|----------|---|

|           |  |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし)にあるように英語学習に王道(easy way)などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and (or but) steady wins the race. (急がば回れ)を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。そうすれば英語の力は必ず上達します。諦めずに頑張ってください。 |
|-----------|--|

|          |              |
|----------|--------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階 非常勤講師室 |
|----------|--------------|

|    |   |
|----|---|
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 |
|----|---|

|               |                  |         |            |
|---------------|------------------|---------|------------|
| 科目名           | 英語IV             | 科目名(英文) | English IV |
| 学部            | 外国語学部            | 学科      | 外国語学科      |
| 配当年次          | 2年               | クラス     |            |
| 単位数           | 2                | 履修区分    | 選択科目       |
| 学期            | 後期               | 授業担当者   | 松井 信義      |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |         |            |
| 科目ナンバリング      | LEN2304c1        |         |            |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | 本講座は、1年次で学んだ語彙、文法を基に英語力の更なる向上を目指し、総合的な運用能力を高めることを目的とする。異文化間のコミュニケーションは、英語コミュニケーション能力だけにあるのではない。トピックは日米比較で、身の周りにあるものを取り上げ、それらの題材を通して英語力を高めると同時に、日米の差異・共通性の理解を深める。 |
| 到達目標        | 英検2級以上、TOEIC 550点以上の実力をつけることを到達目標とする。  |
| 授業方法と留意点    | 授業は‘Active Participation in Class’（授業への前向きな参加）が大前提である。双方向の全員参加の活発な授業を展開するので、予習が必須で辞書（できれば、紙の英和辞典）は必ず持ってくること。   |
| 科目学習の効果（資格） | 予習・復習を欠かさず、英語に触れる絶対量を増やせば、英検2級以上、TOEIC 550点以上は必ず取れるはずです。   |

|      |    |  |   |                                      |
|------|----|--|---|--------------------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ                                  | 内容・方法 等                                 | 事前・事後学習課題                            |
|      | 1  | シラバスの説明<br>Lesson 13の導入<br>Business    | 授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など          | Lesson 13の予習（1時間）                    |
|      | 2  | Lesson 13<br>Business                  | Lesson 13の内容把握、語彙・発音、練習問題               | Lesson 13の復習及び予習（1時間）                |
|      | 3  | Lesson 14<br>Jobs                      | Lesson 14の内容把握、語彙・発音、練習問題               | Lesson 14の復習及び予習（1時間）                |
|      | 4  | Lesson 14<br>Jobs                      | Lesson 14の内容把握、語彙・発音、練習問題               | Lesson 14の復習及び予習（1時間）                |
|      | 5  | Lesson 15<br>NHK vs. PBS               | Lesson 15の内容把握、語彙・発音、練習問題               | Lesson 15の復習及び予習（1時間）                |
|      | 6  | Lesson 16<br>Marriage Ceremonies       | Lesson 16の内容把握、語彙・発音、練習問題               | Lesson 16の復習及び予習（1時間）                |
|      | 7  | Lesson 17<br>American Culture          | Lesson 17の内容把握、語彙・発音、練習問題               | Lesson 17の復習及び予習（1時間）                |
|      | 8  | Lesson 18<br>International Marriage    | Lesson 18の内容把握、語彙・発音、練習問題               | Lesson 18の復習及び予習（1時間）                |
|      | 9  | Lesson 19<br>Apartments                | Lesson 19の内容把握、語彙・発音、練習問題               | Lesson 19の復習及び予習（1時間）                |
|      | 10 | Lesson 20<br>Technology                | Lesson 20の内容把握、語彙・発音、練習問題               | Lesson 20の復習及び予習（1時間）                |
|      | 11 | Lesson 21<br>School Rules              | Lesson 21の内容把握、語彙・発音、練習問題               | Lesson 21の復習及び予習（1時間）                |
|      | 12 | Lesson 22<br>Drinking                  | Lesson 22の内容把握、語彙・発音、練習問題               | Lesson 22の復習及び予習（1時間）                |
|      | 13 | Lesson 23<br>Entertaining              | Lesson 23の内容把握、語彙・発音、練習問題               | Lesson 23の復習及び予習（1時間）                |
|      | 14 | Lesson 24<br>Choice                    | Lesson 24の内容把握、語彙・発音、練習問題               | Lesson 24の復習及び予習（1時間）                |
|      | 15 | Lesson 13～Lesson 24<br>Business～Choice | Lesson 13～Lesson 24の総復習<br>定期試験（後期末）の準備 | これまでの授業で扱った内容について総復習する（定期試験の準備）（1時間） |

|      |          |
|------|----------|
| 関連科目 | 他の英語関連科目 |
|------|----------|

|     |    |                          |               |      |
|-----|----|--------------------------|---------------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名                      | 著者名           | 出版社名 |
|     | 1  | Eye on America and Japan | G. Truscott 他 | 南雲堂  |
|     | 2  |                          |               |      |
|     | 3  |                          |               |      |

|     |    |   |     |      |
|-----|----|---|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名   | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  | 暗唱英文 100                                    |     | 成美堂  |
|     | 2  | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test |     | 成美堂  |
|     | 3  | 英和辞典・和英辞典                                   |     |      |

|          |   |
|----------|---|
| 評価方法（基準） | . 定期試験 60%<br>小テスト(Quiz) 20%<br>課題レポート(只管筆写、英語多読) 20%<br>原則、出席率80%以上の学生を成績評価の対象とする。 |
|----------|---|

|           |  |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし) にあるように英語学習に王道 (easy way) などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and (or but) steady wins the race. (急がば回れ) を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。そうすれば英語の力は必ず上達します。諦めずに頑張ってください。 |
|-----------|--|

|          |              |
|----------|--------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階 非常勤講師室 |
|----------|--------------|

|    |   |
|----|---|
| 備考 | 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 |
|----|---|

|                |                  |          |          |
|----------------|------------------|----------|----------|
| 科目名            | 韓国語 I            | 科目名 (英文) | Korean I |
| 学部             | 外国語学部            | 学科       | 外国語学科    |
| 配当年次           | 2年               | クラス      | 1        |
| 単位数            | 2                | 履修区分     | 選択必修科目   |
| 学期             | 前期               | 授業担当者    | 北島 由紀子   |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |          |          |
| 科目ナンバリング       | LK01321e1        |          |          |

|              |  |
|--------------|--|
| 授業概要・目的      | この授業では初めて韓国語を学ぶ人を対象とし、まずは文字やその読み方から始めていく。読み書きを反復練習することを通じて文字や読み方が定着した後は、発音ルールを学び、単語、文章なども読めるように練習する。その後は基礎的な文法の能力も養っていく。 |
| 到達目標         | 韓国語の文字、発音と基礎的な文法事項を習得する  |
| 授業方法と留意点     | 初めて習う文字を定着させるために反復練習を実施する。最初は毎回授業の始めに小テスト形式で既習事項を確認する作業を予定しており、文字定着までは繰り返し復習を必要とする。<br>学期中は事前および事後に合計 60 時間の学習時間を必要とする。  |
| 科目学習の効果 (資格) | 韓国語を通して、韓国の社会や文化への理解を深める。  |

|      |    |            |                                |           |
|------|----|------------|--------------------------------|-----------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ      | 内容・方法 等                        | 事前・事後学習課題 |
|      | 1  | 韓国語とは      | 文字の構成                          | テキスト 1 課  |
|      | 2  | ハングル文字について | 基本母音                           | テキスト 2 課  |
|      | 3  | ハングル文字について | 基本母音の確認テスト、子音 (平音)             | テキスト 3 課  |
|      | 4  | ハングル文字について | 基本母音、子音 (平音) の確認テスト、子音 (濃音、激音) | テキスト 3 課  |
|      | 5  | ハングル文字について | 基本母音、子音 (平音、激音、濃音) の確認テスト、複合母音 | テキスト 4 課  |
|      | 6  | ハングル文字について | 反切表                            | 反切表       |
|      | 7  | ハングル文字について | 文字のまとめと復習                      | プリント配布    |
|      | 8  | まとめ        | 前半のまとめと確認テスト                   | プリント配布    |
|      | 9  | パッチム       | パッチムの種類と発音                     | テキスト 5 課  |
|      | 10 | 発音ルール      | 有声音化、連音化、鼻音化                   | テキスト 6 課  |
|      | 11 | 発音ルール      | h 音の発音ルール                      | テキスト 6 課  |
|      | 12 | 基本のあいさつ    | あいさつ文                          | テキスト 7 課  |
|      | 13 | 自己紹介文      | ある程度まとまった文の読み書き                | プリント配布    |
|      | 14 | 前期のまとめ     | 後半のまとめと確認テスト                   | プリントの配布   |
|      | 15 | 韓国ドラマの鑑賞   | 韓国ドラマの鑑賞、簡単なセリフの理解             | プリント配布    |

|      |       |
|------|-------|
| 関連科目 | 韓国語初級 |
|------|-------|

|     |    |                    |     |       |
|-----|----|--------------------|-----|-------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名                | 著者名 | 出版社名  |
|     | 1  | 基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版 | 木内明 | 国書刊行会 |
|     | 2  |                    |     |       |
|     | 3  |                    |     |       |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|           |  |
|-----------|--|
| 評価方法 (基準) | 講義時の対応 (2割)、課題の提出 (1割)、授業内に実施する小、中規模テストの成績等 (7割) を総合的に評価する。<br>授業中に小、中規模のテストが複数回あるため、その得点率を重視する。定期試験は行わず、授業中の態度、課題、中間テスト等といった中規模のテスト、複数回の小テストといった平常点で評価する。出席回数が基準に満たない場合は不合格とする。 |
|-----------|--|

|           |   |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | きちんと努力して学べば、これまで全く知らなかった言語を読めるようになります。隣国であり近年特に文化的にも交流のある韓国について言語を通して学んでいきましょう。 |
|-----------|---|

|          |                 |
|----------|-----------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館 2階 (非常勤講師室) |
|----------|-----------------|

|    |   |
|----|---|
| 備考 | 必要事項は授業中に指示する。<br>授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。<br>試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。 |
|----|---|

|                |                  |          |          |
|----------------|------------------|----------|----------|
| 科目名            | 韓国語 I            | 科目名 (英文) | Korean I |
| 学部             | 外国語学部            | 学科       | 外国語学科    |
| 配当年次           | 2年               | クラス      | 2        |
| 単位数            | 2                | 履修区分     | 選択必修科目   |
| 学期             | 前期               | 授業担当者    | 沈 明姫     |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |          |          |
| 科目ナンバリング       | LK01321e1        |          |          |

|              |   |
|--------------|---|
| 授業概要・目的      | 不慣れな姿のハングルを知り韓国語を学ぶことで、日本語と韓国語のもつ類似点、そして同じ漢字文化圏なので、様々な言葉や表現の共通点を発見することが出来る。隣の国、韓国を真の意味で近い国として実感し、韓国の歴史や文化に興味を深めることと、両国がより近い関係に回復できるきっかけとなってほしいと望みます。外国語である日本語を習得する過程から得られた私の経験を踏まえ、初めて韓国語を学習する人でも楽しくやさしく学ぶことが出来るように心掛けます。 |
| 到達目標         | 1. 韓国語の文字であるハングルの読み、書きが出来るようになる。<br>2. ハングルで自分の名前を覚える。<br>3. 簡単な挨拶や自己紹介が出来るようになる。   |
| 授業方法と留意点     | 教科書とプリントを配布して授業を行う。必要に応じてビデオ・CDも活用しながら、k-popや韓国映画、ドラマも紹介する。学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。   |
| 科目学習の効果 (資格) | 韓国語の勉強はもとより、韓国社会と文化への理解を深める良い機会になる。   |

| 回数 | 授業テーマ                           | 内容・方法等   | 事前・事後学習課題   |
|----|---------------------------------|--|---|
|    |                                 |  |   |
| 1  | 韓国語とハングル文字について理解する。             | 韓国語の歴史、文字構成を説明。授業の進め方についてのガイダンス及び、受講生の希望を伺うなど、韓国語をめぐる受講生とのコミュニケーション。                           | 特になし  |
| 2  | ハングル1                           | 基本子音5つ、基本母音6つを組み合わせさせて出来る30文字を読み書きする。そして30文字のできる単語を学ぶ。   | 復習：テキストp16-19 (1時間)<br>予習：p25 (0.5時間)                                 |
| 3  | ハングル2                           | p18単語テスト (発音記号、意味) 重母音4つ、基本子音5つを学ぶ。これまで学んだ母音10と子音10を組み合わせさせて100文字を読み書きの練習100文字を使った韓国語の単語を学ぶ。   | 復習：テキストp20-27 (1時間)<br>予習：p28 (0.5時間)                                 |
| 4  | ハングル3                           | p25単語テスト (発音記号、意味) 二重母音5つ、激音子音4つ、濃音子音5つを学び、単語を勉強する。  | 復習：テキストp35 (1時間)<br>予習：p30、p36 (0.5時間)                                |
| 5  | ハングル4                           | p35単語テスト (発音記号、意味) 複雑な二重母音6つ、濃音について学ぶ。自分の名前と家族や友達の名3をハングルで書いてみる                                | 復習：テキストp29 (1時間)<br>予習：ひらがな表の発音をハングルに置き換えるプリントを完成する (0.5時間)           |
| 6  | 子音19、母音15を覚えよう1                 | p29単語テスト (発音記号、意味) 韓国で使っている外来語を読んで意味を推測してみる。ハングルを使ってラインをする。                                    | 復習：テキストp36 (1時間)<br>予習：スマートフォンでハングルの打ち方を練習する (0.5時間)                  |
| 7  | 子音19、母音15を覚えよう2                 | p36単語テスト (発音記号、意味) ハングルで出来たアンケート用紙を完成しながら、ラインを行う。  | 復習：テキストp30 (1時間)<br>予習：スマートフォンでハングルの打ち方を練習する (0.5時間)                  |
| 8  | ハングル5 パッチム<br>パッチムの仕組みを勉強する。    | p30単語テスト (発音記号、意味) 日本語では使うことの無かった発音を、細かく分析、観察、理解し徹底して練習する。                                     | 復習：テキストp43 (0.5時間)<br>予習：p44 (0.5時間)                                  |
| 9  | ハングル5<br>パッチム<br>パッチムの仕組みを勉強する。 | p43単語テスト (発音記号、意味) パッチムの難しい外来語を読みながら意味を調べる   | 復習：テキストp44 (0.5時間)<br>予習：p47、p48 (0.5時間)                              |
| 10 | ハングル文字の総まとめ                     | p44単語テスト (発音記号、意味) これまで文字を勉強する際に出てきた全ての単語をまとめる。特に難しい発音の二重母音の単語のプリントを読みながら練習する                  | 復習：p18、p25、p29、p30、p35、p36、43、p44 (2時間)<br>予習：p49 (0.5時間)             |
| 11 | 韓国の映画を見て、耳から聞こえる韓国語を感じる         | ハングル総合単語テスト<br>「カンナさん大成功です！」<br>p49、p50 単語を辞書で調べる  | 復習：p49、p50 単語を覚える (1時間)   |
| 12 | 韓国の映画を見て、耳から聞こえる韓国語を感じる         | 「カンナさん大成功です！」<br>音読テスト用の文書を配布  | 予習：音読テスト用の文書を読む練習 (1時間)   |
| 13 | 第6課 こんにちは。                      | 文字を勉強する際に覚えた単語を使って、短い作文をしながら、助詞を勉強する。  | 復習：テキストp55-59 (1時間)<br>予習：7種類の助詞表を書く (0.5時間)                          |
| 14 | 前期総合まとめ                         | 基本的な挨拶と簡単な自己紹介。<br>こんにちは。<br>お名前は？<br>職業は何ですか？<br>日本人です。<br>学生です。<br>お会い出来て嬉しいです。<br>前期定期試験の準備 | 復習：テキストp16-59<br>前期授業の中で出てきた単語全てを整理して覚える<br>自己紹介の会話<br>音読テストの準備 (3時間) |
| 15 | まとめ                             | 前期定期試験   |   |

|               |  |                   |            |               |
|---------------|--|-------------------|------------|---------------|
| 関連科目          | 韓国語基礎会話  |                   |            |               |
| 教科書           | 番号   | 書籍名               | 著者名        | 出版社名          |
|               | 1  | 美しい韓国語 1－1 初級 教科書 | 韓国語教育開発研究院 | EKO ランゲージセンター |
|               | 2  |                   |            |               |
|               | 3  |                   |            |               |
| 参考書           | 番号   | 書籍名               | 著者名        | 出版社名          |
|               | 1  |                   |            |               |
|               | 2  |                   |            |               |
|               | 3  |                   |            |               |
| 評価方法<br>(基準)  | 授業参加状況、講義時の対応、小テスト 50%<br>総合試験 50%   |                   |            |               |
| 学生への<br>メッセージ | 楽しく韓国語を習いましょう。積み重ねが大切ですので遅刻・欠席しないでください。安価で韓国へ渡航して、授業で学んだ韓国語を直接体験したり、確認したりすれば、大学生活の最高の思い出になるでしょう！ |                   |            |               |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館2階(非常勤講師室)  |                   |            |               |
| 備考            | 課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。<br>myounghee2018@gmail.com                                 |                   |            |               |

|               |                  |         |           |
|---------------|------------------|---------|-----------|
| 科目名           | 韓国語Ⅱ             | 科目名(英文) | Korean II |
| 学部            | 外国語学部            | 学科      | 外国語学科     |
| 配当年次          | 2年               | クラス     | 1         |
| 単位数           | 2                | 履修区分    | 選択科目      |
| 学期            | 後期               | 授業担当者   | 北島 由紀子    |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |         |           |
| 科目ナンバリング      | LK01322e1        |         |           |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | 本授業では前期に学んだ文字や読み方などを基礎として、まずは自己紹介などができるように日常会話に必要な基本的な文法事項を習得していく。基本的な文法事項の習得とそれを使った作文練習などが主になる。 |
| 到達目標        | 韓国語の基礎的な文法を習得しつつ、初歩的な言語能力を育成する。  |
| 授業方法と留意点    | 知識を毎回積み重ねていながら、最終的により幅広い表現を韓国語で言えるように練習していく。欠席しないことが望ましい。学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。          |
| 科目学習の効果(資格) | 韓国語だけではなく、韓国の社会や文化への理解を深める   |

|      |    |                 |                        |                        |
|------|----|-----------------|------------------------|------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ           | 内容・方法等                 | 事前・事後学習課題              |
|      | 1  | 前期の復習1          | 文字の復習                  | プリントを配布                |
|      | 2  | 前期の復習2          | バッチム、発音ルールの復習          | プリントを配布                |
|      | 3  | 数詞              | 漢数詞と固有数詞               | プリントを配布(テキスト 文法9課、10課) |
|      | 4  | 私は～です           | 数詞の確認の小テスト、体言文(平叙文)    | テキスト 文法1課              |
|      | 5  | ～ですか?           | 体言文(疑問文)               | テキスト 文法2課              |
|      | 6  | ～ではありません        | 体言文(否定文)               | テキスト 文法3課              |
|      | 7  | まとめ             | 前半のまとめと確認テスト           | プリント配布                 |
|      | 8  | 用言文のです・ます形      | 公的で固い表現のです・ます形         | プリント配布                 |
|      | 9  | あります・ありません      | 存在を表す用言文               | テキスト 文法4課              |
|      | 10 | ～をします           | 動詞「する」のです・ます形          | テキスト 文法5課              |
|      | 11 | 用言のです・ます形を使った作文 | さまざまな用言のです・ます形         | テキスト文法7課               |
|      | 12 | 用言のです・ます形       | 日常使いのやわらかい表現のです・ます形(1) | テキスト 文法6課              |
|      | 13 | 用言のです・ます形       | 日常使いのやわらかい表現のです・ます形(2) | テキスト 文法8課              |
|      | 14 | 後半のまとめ          | 後半のまとめと確認テスト           | プリントを配布                |
|      | 15 | 前期・後期のまとめ       | 韓国ドラマの鑑賞、簡単なセリフの理解     | プリントを配布                |

|      |       |
|------|-------|
| 関連科目 | 韓国語初級 |
|------|-------|

|     |    |                    |     |       |
|-----|----|--------------------|-----|-------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名                | 著者名 | 出版社名  |
|     | 1  | 基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版 | 木内明 | 国書刊行会 |
|     | 2  |                    |     |       |
|     | 3  |                    |     |       |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|          |  |
|----------|--|
| 評価方法(基準) | 講義時の対応(2割)、課題の提出(1割)、授業内に実施する小、中規模テストの成績等(7割)を総合的に評価する。授業中に小、中規模のテストが複数回あるため、その得点率を重視する。定期試験は行わず、授業中の態度、課題、中間テスト等といった中規模のテスト、複数回の小テストといった平常点で評価する。出席回数が基準に満たない場合は不合格とする。 |
|----------|--|

|           |   |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 基本的な文法事項を習得していき、その知識を使って基本的な会話や、簡単な作文などもできるように、頑張って学んでいきましょう。 |
|-----------|---|

|          |               |
|----------|---------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階(非常勤講師室) |
|----------|---------------|

|    |   |
|----|---|
| 備考 | 必要事項は授業中に指示する。<br>授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。<br>試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。 |
|----|---|

|               |                  |         |           |
|---------------|------------------|---------|-----------|
| 科目名           | 韓国語Ⅱ             | 科目名(英文) | Korean II |
| 学部            | 外国語学部            | 学科      | 外国語学科     |
| 配当年次          | 2年               | クラス     | 2         |
| 単位数           | 2                | 履修区分    | 選択科目      |
| 学期            | 後期               | 授業担当者   | 沈 明姫      |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |         |           |
| 科目ナンバリング      | LK01322e1        |         |           |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | ハンゲル入門Ⅰを終了した程度の実力を持つ人を対象とします。ハンゲルの読み、書きが出来る能力を身につけたうえ、特に現代韓国社会で広く使われている表現や慣用語を、現代の韓流文化を交えて基本的な日常会話を導入し、即席で応用を広げ、ネイティブ講師ならではの長所を生かす実用的な韓国語の習得を心がけます。一年間を通して基本的な韓国語を読んで、聞いて、話せるようになり、ハンゲル入門Ⅰ・Ⅱを履修後もさらに韓国語を続けたいという意欲を掻き立てることが出来ればと思います。 |
| 到達目標        | 1. 韓国語の初級文法を理解し、旅行に役立つ程度の会話が出来るようになる。<br>2. 200文字以上の自己紹介の作文が出来るようになる。  |
| 授業方法と留意点    | 教科書とプリントを配布して授業を行う。必要に応じてビデオ・CDも活用しながら、k-popや韓国映画、ドラマも紹介する。学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。  |
| 科目学習の効果(資格) | 韓国語の勉強はもとより、韓国社会と文化への理解を深める良い機会になる。  |

| 回数 | 授業テーマ                       | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題  |
|----|-----------------------------|---|--|
|    |                             |   |  |
| 1  | 第7課 はじめまして。                 | 国の名前、言語について学び、読み書きが出来るようにする。  | 復習：テキストp58、p62-64 (0.5時間)<br>予習：p65、単語の意味を調べる (0.5時間)      |
| 2  | 第7課 はじめまして。                 | どの国の人ですか？<br>一ではありません。<br>助詞 ーは、ーがについて練習。   | 復習：テキストp65-67 (1時間)<br>予習：p70 (0.5時間)                      |
| 3  | 第7課 はじめまして。                 | 前回の授業で新しく学んだ単語の小テスト。<br>初対面の人に挨拶と自己紹介する。<br>人を紹介する時の言い方を学ぶ。<br>7課ワークプリント                          | 復習：第7課の単語テスト勉強 (1時間)<br>予習：p70 (0.5時間)                     |
| 4  | 第8課 これは何ですか？                | 第7課の単語テスト。<br>これ、それ、あれの指示代名詞について学ぶ。<br>疑問詞を勉強する。<br>家族構成員について学ぶ。                                  | 復習：テキスト p70-72<br>家計図を覚える (1時間)<br>予習：p74単語の意味を調べる (0.5時間) |
| 5  | 第8課 これは何ですか？                | p72家族構成員の単語小テスト。<br>日常で使う頻度の高い物を用意し、これは何ですか？の会話を練習する。<br>所有格助詞ーのについて学ぶ。                           | 復習：p74-76 (0.5時間)<br>予習：p79読む (0.5時間)                      |
| 6  | 第8課 これは何ですか？                | テキストp76会話練習をもう一度する。<br>「私の家族」の作文を読解し、問題に答える。<br>テキストの内容を参考に「自分の家族」について韓国語で作文をし、提出する。<br>8課ワークプリント | 復習：8課の単語を全て覚えてくる。(1時間)<br>予習：テキスト p82読んでくる (0.5時間)         |
| 7  | 第9課 週末に何をしますか？              | 第8課の単語テスト<br>動詞、形容詞の終止形を勉強する。<br>助詞〜を、〜にを使って作文をする。<br>日常でよく使う動詞、形容詞25個の終止形活用について学ぶ。               | 復習：動詞の活用の練習プリント (1時間)<br>予習：p83 (0.5時間)                    |
| 8  | 第9課 週末に何をしますか？              | 動詞の活用の練習プリントの小テスト<br>p82-85<br>“一と一緒に”という言い方を練習する。  | 復習：p82-85 (0.5時間)<br>予習：p86、87読む (0.5時間)                   |
| 9  | 第9課 週末に何をしますか？              | 動詞、形容詞の終止形を使った作文をする。<br>時を表す単語を覚える。<br>9課ワークプリント  | 復習：9課全体 (1時間)<br>予習：p95 数字 (0.5時間)                         |
| 10 | 第10課 ビエールさんの事務室は3階にあります。    | 9課単語テスト<br>5桁の数字の読み書きが出来るように練習する。<br>位置関係の言葉を覚える。   | 復習：p96単語を覚える (0.5時間)<br>予習：p94読む (0.5時間)                   |
| 11 | 第10課 ビエールさんの事務室は3階にあります。    | 位置関係の言葉小テスト<br>5桁の漢数字を練習する。<br>p94-p96  | 復習：p94-96 (0.5時間)<br>予習：p97、p98読む (0.5時間)                  |
| 12 | 第10課 ビエールさんの事務室は3階にあります。    | 前回の授業で新しく学んだ5桁の数字の小テスト。<br>位置関係の言葉を練習。<br>ここはどこですか？どこに何がありますか？                                    | 復習：p94-96 (0.5時間)<br>予習：p97、p98読む (0.5時間)                  |
| 13 | 第10課 ビエールさんの事務室は3階にあります。    | 5桁の数字の練習<br>p98-101   | 復習：10課全体単語テスト勉強 (1時間)<br>予習「自己紹介」200文字作文 (1時間)             |
| 14 | 第11課 電話番号は何番ですか？<br>後期総合まとめ | 10課全体単語テスト<br>助詞ーは、ーも、ーのみの使い方を練習する。<br>200文字の自己紹介をチェック<br>後期授業の内容整理し、復習をする。<br>後期定期試験の対策。         | 復習：7課〜11課まで<br>5桁の漢数字<br>200文字の自己紹介<br>(3時間)               |
| 15 | まとめ                         | 後期末試験   |  |



|               |  |                   |            |               |
|---------------|--|-------------------|------------|---------------|
| 関連科目          | 韓国語基礎会話  |                   |            |               |
| 教科書           | 番号   | 書籍名               | 著者名        | 出版社名          |
|               | 1  |                   |            |               |
|               | 2  |                   |            |               |
|               | 3  |                   |            |               |
| 参考書           | 番号   | 書籍名               | 著者名        | 出版社名          |
|               | 1  | 美しい韓国語 1-1 初級 教科書 | 韓国語教育開発研究院 | EKO ランゲージセンター |
|               | 2  |                   |            |               |
|               | 3  |                   |            |               |
| 評価方法<br>(基準)  | 授業参加状況、講義時の対応、小テスト 50%<br>総合試験 50%   |                   |            |               |
| 学生への<br>メッセージ | 楽しく韓国語を学びましょう。語学がまじめに積み重ねる他方法がありませんので、遅刻・欠席しない用に頑張りましょう。<br>韓国旅行や韓国のテレビ番組などを通して、授業で学んだ韓国語が役立つという実感があれば、もしくは将来的に就職活動にまで生かすことが出来れば、最高でしょう！ |                   |            |               |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館2階(非常勤講師室)  |                   |            |               |
| 備考            | 課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。<br>myounghee2018@gmail.com   |                   |            |               |

|               |                  |         |            |
|---------------|------------------|---------|------------|
| 科目名           | 韓国語Ⅲ             | 科目名(英文) | Korean III |
| 学部            | 外国語学部            | 学科      | 外国語学科      |
| 配当年次          | 3年               | クラス     |            |
| 単位数           | 2                | 履修区分    | 選択科目       |
| 学期            | 前期               | 授業担当者   | 李 知垠       |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |         |            |
| 科目ナンバリング      | LK02323e1        |         |            |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | 韓国語Ⅰ・Ⅱで習得した基礎的能力をベースに、日常生活における様々な場面において、基本的なコミュニケーションが取れるように、総合的学習(読み・書き・話し・聞き)を行います。<br>*授業内容は学習理解度・習得度により変更可能です。   |
| 到達目標        | ①韓国語の尊敬語が使える。<br>②理由の表現ができる。<br>③自分の経験についての表現ができる。   |
| 授業方法と留意点    | <授業方法><br>授業形式は、教科書を中心に文法練習プリントを配り、ペア・グループ活動で会話練習を行う。<br>授業内容により、ゲーム・歌・ドラマを取り入れる。<br><br><留意点><br>ペア・グループ活動に積極的に参加し、事前に文法の復習と語彙を予習することが望まれる。<br>学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。 |
| 科目学習の効果(資格) | 韓国語を通じて韓国文化を理解し、日本文化との比較ができる。<br>韓国語能力試験(TOPIK)1級、ハングル検定4・5級を目指すことができる。  |

| 回数 | 授業テーマ                    | 内容・方法等                         | 事前・事後学習課題   |
|----|--------------------------|--------------------------------|---|
|    |                          |                                |   |
| 1  | 基礎の復習                    | 現在形、過去形、存在形('へヨ体')             | 文法項目の復習<br>現在形、過去形(2時間)                                 |
| 2  | 1課<br>'明日、旅行にいくつもりです。'   | 文法<br>①未来形<br>②可能形             | 教科書1課<br>文法の復習(30分)、<br>p18~19単語の予習(30分)                |
| 3  | 1課<br>'明日、旅行にいくつもりです。'   | 文法<br>③形容詞<br>対話               | 教科書1課<br>文法の復習(30分)、<br>p20~24単語の予習(30分)                |
| 4  | 1課<br>'明日、旅行にいくつもりです。'   | 読解・聴解・作文                       | 教科書1課<br>文法の復習(30分)、<br>p28~32単語の予習(1時間)                |
| 5  | 2課<br>'この服を着てみてください。'    | 文法<br>①形容詞の連体形<br>②否定          | 教科書2課<br>文法の復習(30分)<br>p21単語の復習(1時間)                    |
| 6  | 2課<br>'この服を着てみてください。'    | 文法<br>③勧誘<br>対話                | 教科書2課<br>文法の復習(30分)<br>動詞単語の予習(30分)<br>p39~41単語の予習(30分) |
| 7  | 2課<br>'この服を着てみてください。'    | 読解・聴解・作文                       | 教科書2課<br>文法の復習(30分)<br>p43~50単語の予習(30分)                 |
| 8  | 3課<br>'最近、どのように過ごされますか。' | 文法<br>①尊敬語の現在形<br>②尊敬語の過去形     | 教科書3課<br>文法の復習(30分)<br>p54~55単語の予習(30分)                 |
| 9  | 3課<br>'最近、どのように過ごされますか。' | 対話・読解                          | 教科書3課<br>文法の復習(30分)<br>p56~63単語の予習(30分)                 |
| 10 | 3課<br>'最近、どのように過ごされますか。' | 聴解・作文                          | 教科書3課<br>文法の復習(30分)<br>p64~66単語の予習(30分)                 |
| 11 | 4課<br>'水泳ができます。'         | 文法<br>①やり方・方法の可能・不可能形<br>②義務表現 | 教科書4課<br>文法の復習(30分)<br>p70~72単語の予習(30分)                 |
| 12 | 4課<br>'水泳ができます。'         | 文法<br>③選択表現<br>対話              | 教科書4課<br>文法の復習(30分)<br>p73~76単語の予習(30分)                 |
| 13 | 4課<br>'水泳ができます。'         | 読解・聴解・作文                       | 教科書4課<br>文法の復習(30分)<br>p78~84単語の予習(30分)                 |
| 14 | 総合確認                     | 習得内容のまとめ                       | 文法・単語の復習(2時間)   |
| 15 | 韓国文化                     | 視聴覚授業                          |   |

関連科目 韓国語関連科目

| 教科書 | 番号 | 書籍名          | 著者名          | 出版社名          |
|-----|----|--------------|--------------|---------------|
|     | 1  | New 西江韓国語 1B | 西江大学校 韓国語教育院 | 西江大学校 国際文化教育院 |
| 2   |    |              |              |               |
| 3   |    |              |              |               |

| 参考書 | 番号 | 書籍名              | 著者名          | 出版社名          |
|-----|----|------------------|--------------|---------------|
|     | 1  | 西江韓国語 1B 翻訳・文法解説 | 西江大学校 韓国語教育院 | 西江大学校 国際文化教育院 |
| 2   |    |                  |              |               |
| 3   |    |                  |              |               |

|               |  |
|---------------|--|
| 評価方法<br>(基準)  | 平常点 (授業態度、協同力、提出物) 20%、小テスト 30%、期末テスト 30% で評価  |
| 学生への<br>メッセージ | この授業は、韓国語 I・II を履修し、'ヘヨ体' で現在形・過去形が出来る人を対象とします。<br>授業で学んだ内容を生かし、ネイティブとの会話や韓国旅行で使ってみましょう。<br>韓国語を通じて異文化を体験し、世界を見る視野を広げることが、成長した自分に出会えるきっかけになると思います。 |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館 2階 (非常勤講師室)  |
| 備考            | 授業の内容は習得様子により変更する可能性があります。<br>試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。<br>hangeul.nara1443@gmail.com  |

|               |                  |         |           |
|---------------|------------------|---------|-----------|
| 科目名           | 韓国語Ⅳ             | 科目名(英文) | Korean IV |
| 学部            | 外国語学部            | 学科      | 外国語学科     |
| 配当年次          | 3年               | クラス     |           |
| 単位数           | 2                | 履修区分    | 選択科目      |
| 学期            | 後期               | 授業担当者   | 李 知垠      |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |         |           |
| 科目ナンバリング      | LK02324e1        |         |           |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修した人、及びそれに応じる文法能力ができる人を対象にします。<br>韓国語Ⅲに引き続き、学んだ内容を実践的に会話で運用できるよう、総合的学習(読み・書き・話し・聞き)を行います。<br>授業内容は学習理解度・習得度により変更可能です。                         |
| 到達目標        | 日常生活における様々な場面において、韓国人と基本的なコミュニケーションが取れるようになることを目標とします。  |
| 授業方法と留意点    | 授業形式は、教科書を中心に文法練習プリントを配り、ペア・グループ活動で会話練習を行う。<br>授業内容により、ゲーム・歌・ドラマを取り入れる。<br>ペア・グループ活動に積極的に参加し、事前に文法の復習と語彙を予習することが望まれる。<br>学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。 |
| 科目学習の効果(資格) | 韓国語を通じて韓国文化を理解し、日本文化との比較ができる。<br>韓国語能力試験(TOPIK)1級・ハングル検定4.5級を目指すことができる。   |

| 回数 | 授業テーマ                       | 内容・方法等                     | 事前・事後学習課題                                   |
|----|-----------------------------|----------------------------|---|
|    |                             |                            |   |
| 1  | 5課<br>‘一緒に映画をみましょうか’        | 文法<br>①提案表現<br>②羅列接続(名詞)表現 | 教科書5課<br>文法の復習(30分)、<br>p 88～89単語の予習(30分)   |
| 2  | 5課<br>‘一緒に映画をみましょうか’        | 文法<br>③羅列接続(動詞)表現<br>対話    | 教科書5課<br>文法の復習(30分)、<br>p 90～94単語の予習(1時間)   |
| 3  | 5課<br>‘一緒に映画をみましょうか’        | 読解・作文                      | 教科書5課<br>文法の復習(30分)、<br>p 97～99単語の予習(30分)   |
| 4  | 5課<br>‘一緒に映画をみましょうか’        | 聴解・作文                      | 教科書5課<br>文法の復習(30分)、<br>p 101～102単語の予習(30分) |
| 5  | 6課<br>‘具合が悪かったので、行けませんでした。’ | 文法<br>①不可能表現<br>②理由表現      | 教科書6課<br>文法の復習(30分)、<br>p 106～107単語の予習(30分) |
| 6  | 6課<br>‘具合が悪かったので、行けませんでした。’ | 文法<br>③意図表現<br>対話          | 教科書6課<br>文法の復習(30分)、<br>p 108～111単語の予習(1時間) |
| 7  | 6課<br>‘具合が悪かったので、行けませんでした。’ | 読解・作文                      | 教科書6課<br>文法の復習(30分)、<br>p 115～117単語の予習(1時間) |
| 8  | 6課<br>‘具合が悪かったので、行けませんでした。’ | 聴解・作文                      | 教科書6課<br>文法の復習(30分)、<br>p 119～120単語の予習(1時間) |
| 9  | 7課<br>‘韓国料理を食べてみました。’       | 文法<br>①経験表現<br>②依頼表現       | 教科書7課<br>文法の復習(30分)、<br>p 124～125単語の予習(30分) |
| 10 | 7課<br>‘韓国料理を食べてみました。’       | 対話・読解                      | 教科書7課<br>文法の復習(30分)<br>p 126～133単語の予習(1時間)  |
| 11 | 7課<br>‘韓国料理を食べてみました。’       | 聴解・作文                      | 教科書7課<br>文法の復習(30分)<br>p 135～136単語の予習(30分)  |
| 12 | 8課<br>‘会話授業が一番楽しかったです。’     | 文法<br>①比較表現<br>②最上級表現      | 教科書8課<br>文法の復習(30分)<br>p 140～141単語の予習(30分)  |
| 13 | 8課<br>‘会話授業が一番楽しかったです。’     | 対話・読解                      | 教科書8課<br>文法の復習(30分)<br>p 142～149単語の予習(1時間)  |
| 14 | 8課<br>‘会話授業が一番楽しかったです。’     | 聴解・作文                      | 教科書8課<br>文法の復習(30分)<br>p 151～152単語の予(30分)習  |
| 15 | 総合復習                        | 習得内容のまとめ                   | 文法・単語の復習(2時間)                               |

|           |   |                  |              |               |
|-----------|---|------------------|--------------|---------------|
| 関連科目      | 韓国語関連科目   |                  |              |               |
| 教科書       | 番号  | 書籍名              | 著者名          | 出版社名          |
|           | 1   | New 西江韓国語 1B     | 西江大学校 韓国語教育院 | 西江大学校 国際文化教育院 |
| 参考書       | 番号  | 書籍名              | 著者名          | 出版社名          |
|           | 1   | 西江韓国語 1B 翻訳・文法解説 | 西江大学校 韓国語教育院 | 西江大学校 国際文化教育院 |
| 評価方法(基準)  | 平常点(授業態度、協同力、提出物)20%、小テスト30%で、期末テスト50%  |                  |              |               |
| 学生へのメッセージ | 授業で学んだ内容を生かし、ネイティブとの会話や韓国旅行で使ってみましょう。<br>韓国語を通じて異文化を体験し、世界を見る視野を広げることが、成長した自分に出会えるきっかけになると思います。 |                  |              |               |
| 担当者の研究室等  | 7号館2階(非常勤講師室)   |                  |              |               |
| 備考        | 授業内容は、習得状況により変更可能です。<br>試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。<br>hangeul.nara1443@gmail.com         |                  |              |               |

|               |            |         |             |
|---------------|------------|---------|-------------|
| 科目名           | 健康論        | 科目名(英文) | Health Care |
| 学部            | 外国語学部      | 学科      | 外国語学科       |
| 配当年次          | 2年         | クラス     |             |
| 単位数           | 2          | 履修区分    | 選択科目        |
| 学期            | 前期         | 授業担当者   | 吉川 万紀       |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1△, DP2△ |         |             |
| 科目ナンバリング      | LPH131a1   |         |             |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 健康に関する問題や情報が溢れる現代社会において、正しい情報を選択することが重要である。そのため本講義では、受講者が生涯にわたって自らの健康の維持増進を実行するための知識を学ぶ。    |
| 到達目標        | ①現代の健康問題について理解できる。<br>②様々な健康に関する情報を知り、自身の健康に対する考えを持つことができる。<br>③健康づくりのための知識を習得し、実践することができる。 |
| 授業方法と留意点    | 講義形式で授業を進める。  |
| 科目学習の効果(資格) | 健康維持・増進に関する知識が身につく、受講者自身の健康管理ができるようになる。   |

| 回数 | 授業テーマ               | 内容・方法等                                   | 事前・事後学習課題                             |
|----|---------------------|--|---------------------------------------|
|    |                     |  |                                       |
| 2  | 健康とは                | 健康の定義<br>平均寿命・健康寿命                       | 健康の定義について復習すること                       |
| 3  | 体の構造と機能             | 骨格筋・脳・神経系などの構造や機能について                    | 骨格筋・脳・神経系などの構造や機能についての復習をしておくこと       |
| 4  | 肥満とは                | 肥満の要因<br>ダイエット                           | 肥満の要因について復習すること                       |
| 5  | 生活習慣病①              | メタボリックシンドローム 生活習慣病、内臓脂肪、診断基準             | メタボリックシンドロームの診断基準について復習すること           |
| 6  | 生活習慣病②              | 高血圧症、糖尿病、脂質異常症、コレステロール、心疾患、脳卒中           | 高血圧症、糖尿病、脂質異常症などの疾患について復習すること         |
| 7  | 高齢者の健康問題            | サルコペニア<br>ロコモティブシンドローム<br>寝たきり           | 現在問題となっている、高齢者の健康問題について理解する           |
| 8  | 健康づくりのための運動基準       | 身体活動量<br>メッツ<br>健康日本21                   | 健康づくりのための運動基準について復習すること               |
| 9  | 自身の健康チェック           | 除脂肪体重<br>体脂肪<br>BMI                      | 自身の身長・体重を測定していただくこと<br>健康診断の結果を持参すること |
| 10 | 運動トレーニング            | 運動・スポーツ<br>トレーニングの原理・原則<br>筋力トレーニング      | トレーニング方法について復習すること                    |
| 11 | 健康に関わる食事            | 健康な食生活の形成<br>朝食の必要性                      | 適切な食事について復習すること                       |
| 12 | 睡眠と健康               | レム睡眠・ノンレム睡眠<br>睡眠障害<br>不眠症               | 健康づくりのための睡眠について、復習すること                |
| 13 | 健康増進計画作成            | 受講者自身の運動維持・増進のための運動計画を、今までの知識を活用して作成する。  | 運動計画を実際に実施すること。                       |
| 14 | 健康増進計画の実施<br>健康論まとめ | 健康増進計画の実施状況についての確認。<br>1回から10回までの授業内容の復習 | 1回から10回までの授業内容を復習していただくこと。            |
| 15 | 健康論まとめ<br>確認テスト     | 11回から13回までの授業内容の復習                       | これまでの授業の復習をすること                       |

|      |                         |
|------|-------------------------|
| 関連科目 | スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ<br>生涯スポーツ実習 |
|------|-------------------------|

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1  |     |     |      |
| 2  |     |     |      |
| 3  |     |     |      |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1  |     |     |      |
| 2  |     |     |      |
| 3  |     |     |      |

|           |  |
|-----------|--|
| 評価方法(基準)  | 平常点評価 30%、確認テスト 70%の割合で評価を行う   |
| 学生へのメッセージ | 質問等がある場合は、事前にアポイントメントをとり、研究室あるいは総合体育館事務室に来ること                              |
| 担当者の研究室等  | 総合体育館1階 内部講師室  |
| 備考        | 平常点は、毎回の授業のワークシートの内容を評価する。<br>欠席を5回以上した際の単位取得は認めない。<br>事前事後学習の総時間の目安は60時間。 |

|                |            |          |                  |
|----------------|------------|----------|------------------|
| 科目名            | 時事問題 I     | 科目名 (英文) | Current Issues I |
| 学部             | 外国語学部      | 学科       | 外国語学科            |
| 配当年次           | 2年         | クラス      |                  |
| 単位数            | 2          | 履修区分     | 選択科目             |
| 学期             | 前期         | 授業担当者    | 山本 文子            |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1△, DP2◎ |          |                  |
| 科目ナンバリング       | LS01325a1  |          |                  |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。  |
| 到達目標        | 時事問題について、正確に理解し、自分の言葉で説明することができる。<br>時事問題について、「ニュース時事能力検定」3級相当の知識を有する。  |
| 授業方法と留意点    | 話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。<br>毎回20分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。<br>また、授業内において「ニュース時事能力検定」( <a href="http://www.newskenetei.jp/">http://www.newskenetei.jp/</a> )を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。<br>受験料(3級 2,500円、準2級 3,000円、2級 4,000円。変更の可能性あり)が必要となるので、留意のこと。 |
| 科目学習の効果(資格) | ニュース時事能力検定 3級   |

| 回数 | 授業テーマ          | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題   |
|----|----------------|---|---|
|    |                |   |   |
| 1  | ニュース検定3級対策①    | ・時事問題を学ぶ大切さを知る。                                       | ・新聞の一面に目を通す。<br>・授業で取り上げたニュースについて調べる。                   |
| 2  | ニュース検定3級対策②    | ・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説する。            | ・新聞の一面に目を通す。<br>・授業で解説した基礎知識の復習<br>・授業で取り上げたニュースについて調べる |
| 3  | ニュース検定3級対策③    | ・前回の確認小テスト<br>・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説 | ・新聞の一面に目を通す。<br>・授業で解説した基礎知識の復習<br>・授業で取り上げたニュースについて調べる |
| 4  | ニュース検定3級対策④    | ・前回の確認小テスト<br>・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説 | ・新聞の一面に目を通す。<br>・授業で解説した基礎知識の復習<br>・授業で取り上げたニュースについて調べる |
| 5  | ニュース検定3級対策⑤    | ・前回の確認小テスト<br>・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説 | ・新聞の一面に目を通す。<br>・授業で解説した基礎知識の復習<br>・授業で取り上げたニュースについて調べる |
| 6  | ニュース検定3級対策⑥    | ・前回の確認小テスト<br>・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説 | ・新聞の一面に目を通す。<br>・授業で解説した基礎知識の復習<br>・授業で取り上げたニュースについて調べる |
| 7  | ニュース検定3級対策⑦    | ・前回の確認小テスト<br>・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説 | ・新聞の一面に目を通す。<br>・授業で解説した基礎知識の復習<br>・授業で取り上げたニュースについて調べる |
| 8  | ニュース検定3級対策⑧    | ・前回の確認小テスト<br>・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説 | ・新聞の一面に目を通す。<br>・授業で解説した基礎知識の復習<br>・授業で取り上げたニュースについて調べる |
| 9  | 中間確認テスト        | ・前回の確認小テスト<br>・中間確認テスト<br>(前回のニュース検定3級)               | ・苦手分野を明確にし、ニュース検定に向けて学習する。                              |
| 10 | 「ニュース時事能力検定」受験 | ・「ニュース時事能力検定」を受検する。                                   | 検定に向けて学習する。   |
| 11 | 学生発表①          | ・学生の関心に応じて、実際のニュースを選び、それを教科書の内容を結びつけて解説してもらう。         | ・新聞の一面に目を通す。<br>・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。             |
| 12 | 学生発表②          | ・学生の関心に応じて、実際のニュースを選び、それを教科書の内容を結びつけて解説してもらう。         | ・新聞の一面に目を通す。<br>・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。             |
| 13 | 学生発表③          | ・学生の関心に応じて、実際のニュースを選び、それを教科書の内容を結びつけて解説してもらう。         | ・新聞の一面に目を通す。<br>・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。             |
| 14 | 学生発表④          | ・学生の関心に応じて、実際のニュースを選び、それを教科書の内容を結びつけて解説してもらう。         | ・新聞の一面に目を通す。<br>・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。             |
| 15 | 最終確認テスト        | ・教科書および新聞・ニュースを踏まえて、四択ないし記述式の試験を最終確認テストとして実施          | ・新聞の一面に目を通す。<br>・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。             |

関連科目 時事問題II

| 教科書 | 番号 | 書籍名                         | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----------------------------|-----|------|
|     | 1  | 2018年度版ニュース検定公式テキスト&問題集 基礎編 |     |      |
| 2   |    |                             |     |      |
| 3   |    |                             |     |      |

参考書

|               | 番号  | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|---------------|---|-----|-----|------|
|               | 1   |     |     |      |
|               | 2   |     |     |      |
|               | 3   |     |     |      |
| 評価方法<br>(基準)  | 授業への参加度 50%<br>小テスト 10%<br>中間・最終確認テスト 20%<br>ニュース時事能力検定成績 20% |     |     |      |
| 学生への<br>メッセージ |   |     |     |      |
| 担当者の<br>研究室等  | 非常勤講師室 (7号館2階)  |     |     |      |
| 備考            | 事前事後学習時間の目安は60時間。<br>各種テスト、検定については授業中にフィードバックをします。            |     |     |      |

|                |            |          |                  |
|----------------|------------|----------|------------------|
| 科目名            | 時事問題 I     | 科目名 (英文) | Current Issues I |
| 学部             | 外国語学部      | 学科       | 外国語学科            |
| 配当年次           | 2年         | クラス      |                  |
| 単位数            | 2          | 履修区分     | 選択科目             |
| 学期             | 前期         | 授業担当者    | 大坪 康巳            |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1△, DP2◎ |          |                  |
| 科目ナンバリング       | LS01325a1  |          |                  |

|              |  |
|--------------|--|
| 授業概要・目的      | 時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。<br>「時事問題 I」では特に、「政治・経済」「暮らし」のテーマを取り上げる。<br>担当者は毎日新聞社で30年以上に渡り新聞記者の実務経験があり、その経験を活かした講義をする  |
| 到達目標         | 時事問題について、正確に理解し、説明することができる。<br>時事問題について、「ニュース時事能力検定」3級相当の知識を有する。   |
| 授業方法と留意点     | 話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。<br>毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。<br>また、授業内において「ニュース時事能力検定」( <a href="http://www.newskenetei.jp/">http://www.newskenetei.jp/</a> )を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」を受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。<br>受験料 (3級 2,500円、準2級 3,000円、2級 4,000円。変更の可能性あり)が必要となるので、留意のこと。 |
| 科目学習の効果 (資格) | ニュース時事能力検定 3級  |

| 回数 | 授業テーマ   | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題   |
|----|---|---|---|
|    |   |   |   |
| 1  | 「時事問題とは」という投げかけ。そこから、「自分たちの社会のあるべき姿を考察する」という授業の目的に言及する。 | 具体的な時事トピックを提示し、その背景を考えることで導入とする。<br>ニュース検定小テストと解説をする。                 | 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1時間)<br>指定している教科書も使い、授業内で実施した小テストの内容の理解を深める (1時間) |
| 2  | 「政治と選挙」のテーマで、時事問題の背景を考え、社会のあるべき姿を考える。                   | その日の朝刊から記事を選んで解説する。さらに、指定した教科書などを使い、授業テーマの分野について考える。ニュース検定小テストと解説をする。 | 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1時間)<br>指定している教科書も使い、授業内で実施した小テストの内容の理解を深める (1時間) |
| 3  | 「日本国憲法」のテーマで、時事問題の背景を考え、社会のあるべき姿を考える。                   | その日の朝刊から記事を選んで解説する。さらに、指定した教科書などを使い、授業テーマの分野について考える。ニュース検定小テストと解説をする。 | 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1時間)<br>指定している教科書も使い、授業内で実施した小テストの内容の理解を深める (1時間) |
| 4  | 「新天皇即位」のテーマで、時事問題の背景を考え、社会のあるべき姿を考える。                   | その日の朝刊から記事を選んで解説する。さらに、指定した教科書などを使い、授業テーマの分野について考える。ニュース検定小テストと解説をする。 | 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1時間)<br>指定している教科書も使い、授業内で実施した小テストの内容の理解を深める (1時間) |
| 5  | 「外交」のテーマで、時事問題の背景を考え、社会のあるべき姿を考える。                      | その日の朝刊から記事を選んで解説する。さらに、指定した教科書などを使い、授業テーマの分野について考える。ニュース検定小テストと解説をする。 | 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1時間)<br>指定している教科書も使い、授業内で実施した小テストの内容の理解を深める (1時間) |
| 6  | 「超高齢化社会」のテーマで、時事問題の背景を考え、社会のあるべき姿を考える。                  | その日の朝刊から記事を選んで解説する。さらに、指定した教科書などを使い、授業テーマの分野について考える。ニュース検定小テストと解説をする。 | 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1時間)<br>指定している教科書も使い、授業内で実施した小テストの内容の理解を深める (1時間) |
| 7  | 「景気・貿易・産業」のテーマで、時事問題の背景を考え、社会のあるべき姿を考える。                | その日の朝刊から記事を選んで解説する。さらに、指定した教科書などを使い、授業テーマの分野について考える。ニュース検定小テストと解説をする。 | 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1時間)<br>指定している教科書も使い、授業内で実施した小テストの内容の理解を深める (1時間) |
| 8  | 「エネルギー政策」のテーマで、時事問題の背景を考え、社会のあるべき姿を考える。                 | その日の朝刊から記事を選んで解説する。さらに、指定した教科書などを使い、授業テーマの分野について考える。ニュース検定小テストと解説をする。 | 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1時間)<br>指定している教科書も使い、授業内で実施した小テストの内容の理解を深める (1時間) |
| 9  | 中間確認テスト   | 中間確認テストを行う  | これまでの復習をする  |
| 10 | 「ニュース時事能力検定」受験  | 「ニュース時事能力検定」を受検する   | 検定に向けて学習する  |
| 11 | 「人口減少」のテーマで、時事問題の背景を考え、社会のあるべき姿を考える。                    | その日の朝刊から記事を選んで解説する。さらに、指定した教科書などを使い、授業テーマの分野について考える。ニュース検定小テストと解説をする。 | 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1時間)<br>指定している教科書も使い、授業内で実施した小テストの内容の理解を深める (1時間) |
| 12 | 「社会保障」のテーマで、時事問題の背景を考え、社会のあるべき姿を考える。                    | その日の朝刊から記事を選んで解説する。さらに、指定した教科書などを使い、授業テーマの分野について考える。ニュース検定小テストと解説をする。 | 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1時間)<br>指定している教科書も使い、授業内で実施した小テストの内容の理解を深める (1時間) |
| 13 | 「司法と市民生活」のテーマで、時事問題の背景を考え、社会のあるべき姿を考える。                 | その日の朝刊から記事を選んで解説する。さらに、指定した教科書などを使い、授業テーマの分野について考える。ニュース検定小テストと解説をする。 | 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1時間)<br>指定している教科書も使い、授業内で実施した小テストの内容の理解を深める (1時間) |
| 14 | 「情報社会」のテーマで、時事問題の背景を考え、社会のあるべき姿を考える。                    | その日の朝刊から記事を選んで解説する。さらに、指定した教科書などを使い、授業テーマの分野について考える。ニュース検定小テストと解説をする。 | 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1時間)<br>指定している教科書も使い、授業内で実施した小テストの内容の理解を深める (1時間) |
| 15 | 最終確認テスト   | 最終確認テストを行う  | これまでの復習をする  |

| 関連科目 | 時事問題 II  |     |       |     |      |   |                           |  |       |
|------|--|-----|-------|-----|------|---|---------------------------|--|-------|
| 教科書  | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2019年度版ニュース検定公式テキスト&amp;問題集 基</td> <td></td> <td>毎日新聞社</td> </tr> </tbody> </table> | 番号  | 書籍名   | 著者名 | 出版社名 | 1 | 2019年度版ニュース検定公式テキスト&問題集 基 |  | 毎日新聞社 |
| 番号   | 書籍名  | 著者名 | 出版社名  |     |      |   |                           |  |       |
| 1    | 2019年度版ニュース検定公式テキスト&問題集 基  |     | 毎日新聞社 |     |      |   |                           |  |       |



|               |   |     |     |      |
|---------------|---|-----|-----|------|
|               |   | 礎編  |     |      |
|               | 2   |     |     |      |
|               | 3   |     |     |      |
| 参考書           | 番号  | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|               | 1   |     |     |      |
|               | 2   |     |     |      |
|               | 3   |     |     |      |
| 評価方法<br>(基準)  | 授業への参加度 50%<br>小テスト 10%<br>中間・最終確認テスト 20%<br>ニュース時事能力検定成績 20%   |     |     |      |
| 学生への<br>メッセージ | 時事問題のフィールドは広いですが、いずれも私たちの現在、そして将来の生活に関わることばかりです。時事問題というのは、社会の在り方について考えることなのです。社会に出た後も、決して無駄にはなりません。授業では毎回、具体的な事例を示しながら、時事問題について考えていきます。 |     |     |      |
| 担当者の<br>研究室等  | 非常勤講師室（7号館2階）   |     |     |      |
| 備考            | 事前事後学習時間の目安は60時間。<br>各種テスト、検定については授業中にフィードバックをします。  |     |     |      |

|                |            |          |                  |
|----------------|------------|----------|------------------|
| 科目名            | 時事問題 I     | 科目名 (英文) | Current Issues I |
| 学部             | 外国語学部      | 学科       | 外国語学科            |
| 配当年次           | 2年         | クラス      |                  |
| 単位数            | 2          | 履修区分     | 選択科目             |
| 学期             | 前期         | 授業担当者    | 西垣 有             |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1△, DP2◎ |          |                  |
| 科目ナンバリング       | LS01325a1  |          |                  |

|              |   |
|--------------|---|
| 授業概要・目的      | 時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題 I」では特に、「政治・経済」「暮らし」のテーマを取り上げる。  |
| 到達目標         | 時事問題について、正確に理解し、説明することができる。<br>時事問題について、「ニュース時事能力検定」3級相当の知識を有する。  |
| 授業方法と留意点     | 話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。<br>毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。<br>また、授業内において「ニュース時事能力検定」( <a href="http://www.newskentei.jp/">http://www.newskentei.jp/</a> )を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。<br>受験料 (3級 2,500円、準2級 3,000円、2級 4,000円。変更の可能性あり) が必要となるので、留意のこと。 |
| 科目学習の効果 (資格) | ニュース時事能力検定 3級   |

| 回数 | 授業テーマ                                  | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題                                     |
|----|--|---|---|
|    |  |   |   |
| 1  | 授業の目的と方法。<br>最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える | 時事問題を学ぶ大切さを知る。<br>ニュース検定小テストとテキストの解説                          | 新聞の一面に目を通す<br>テキスト、練習問題の復習。                   |
| 2  | 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える              | ニュース検定小テストとテキストの解説  | 新聞の一面に目を通す。<br>配布した宿題をやってくる。<br>テキスト、練習問題の復習。 |
| 3  | 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える              | ニュース検定小テストとテキストの解説  | 新聞の一面に目を通す。<br>配布した宿題をやってくる。<br>テキスト、練習問題の復習。 |
| 4  | 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える              | ニュース検定小テストとテキストの解説  | 新聞の一面に目を通す。<br>配布した宿題をやってくる。<br>テキスト、練習問題の復習。 |
| 5  | 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える              | ニュース検定小テストとテキストの解説  | 新聞の一面に目を通す。<br>配布した宿題をやってくる。<br>テキスト、練習問題の復習。 |
| 6  | 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える              | ニュース検定小テストとテキストの解説  | 新聞の一面に目を通す。<br>配布した宿題をやってくる。<br>テキスト、練習問題の復習。 |
| 7  | 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える              | ニュース検定小テストとテキストの解説  | 新聞の一面に目を通す。<br>配布した宿題をやってくる。<br>テキスト、練習問題の復習。 |
| 8  | 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える              | ニュース検定小テストとテキストの解説  | 新聞の一面に目を通す。<br>配布した宿題をやってくる。<br>テキスト、練習問題の復習。 |
| 9  | 中間確認テスト                                | 中間確認テストを行う  | 新聞の一面に目を通す。<br>配布した宿題をやってくる。<br>テキスト、練習問題の復習。 |
| 10 | 「ニュース時事能力検定」受験                         | 「ニュース時事能力検定」を受検する   | 検定に向けて学習する                                    |
| 11 | プレゼンテーションに向けて                          | これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力 (時事能力) に基づき、学術的なプレゼンテーションをおこなう方法を概説する。 | 新聞の一面に目を通す<br>プレゼンテーションの準備                    |
| 12 | プレゼンテーション                              | これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力 (時事能力) に基づき、学術的なプレゼンテーションをおこなう         | 新聞の一面に目を通す<br>プレゼンテーションの準備                    |
| 13 | プレゼンテーション                              | これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力 (時事能力) に基づき、学術的なプレゼンテーションをおこなう         | 新聞の一面に目を通す<br>プレゼンテーションの準備                    |
| 14 | プレゼンテーション                              | これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力 (時事能力) に基づき、学術的なプレゼンテーションをおこなう         | 新聞の一面に目を通す<br>プレゼンテーションの準備                    |
| 15 | 最終確認テスト                                | 最終確認テストを行う  | これまでの復習をする                                    |

関連科目 時事問題 II

| 教科書 | 番号 | 書籍名                         | 著者名 | 出版社名  |
|-----|----|-----------------------------|-----|-------|
|     | 1  | 2019年度版ニュース検定公式テキスト&問題集 基礎編 |     | 毎日新聞社 |
| 2   |    |                             |     |       |
| 3   |    |                             |     |       |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
|     | 1  |     |     |      |
| 2   |    |     |     |      |
| 3   |    |     |     |      |

|               |   |
|---------------|---|
|               |   |
| 評価方法<br>(基準)  | 授業への参加度 50%<br>小テスト 10%<br>中間・最終確認テスト 20%<br>ニュース時事能力検定成績 20% |
| 学生への<br>メッセージ |   |
| 担当者の<br>研究室等  | 非常勤講師室 (7号館2階)  |
| 備考            | 事前事後学習時間の目安は60時間。<br>各種テスト、検定については授業中にフィードバックをします。            |

|                |            |          |                  |
|----------------|------------|----------|------------------|
| 科目名            | 時事問題 I     | 科目名 (英文) | Current Issues I |
| 学部             | 外国語学部      | 学科       | 外国語学科            |
| 配当年次           | 2年         | クラス      |                  |
| 単位数            | 2          | 履修区分     | 選択科目             |
| 学期             | 前期         | 授業担当者    | 早川 真悠            |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1△, DP2◎ |          |                  |
| 科目ナンバリング       | LS01325a1  |          |                  |

|              |   |
|--------------|---|
| 授業概要・目的      | 時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題 I」では特に、「政治・経済」「暮らし」のテーマを取り上げる。  |
| 到達目標         | 時事問題について、正確に理解し、説明することができる。<br>時事問題について、「ニュース時事能力検定」3級相当の知識を有する。  |
| 授業方法と留意点     | 話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。<br>毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。<br>また、授業内において「ニュース時事能力検定」( <a href="http://www.newskentei.jp/">http://www.newskentei.jp/</a> )を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。<br>受験料 (3級 2,500円、準2級 3,000円、2級 4,000円。変更の可能性あり) が必要となるので、留意のこと。 |
| 科目学習の効果 (資格) | ニュース時事能力検定 3級   |

| 回数 | 授業テーマ                     | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題                                       |
|----|---------------------------|---|---|
|    |                           |   |   |
| 1  | 授業の目的と方法<br>今話題のニュース      | 時事問題を学ぶ大切さを知る   | 新聞の一面に目を通す<br>授業で取り上げたニュースについて調べる               |
| 2  | 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える | 話題のニュースを取り上げ解説する<br>ニュース検定小テストと解説<br>時事問題にかんするプレゼンテーション | 新聞の一面に目を通す<br>授業で取り上げたニュースについて調べる               |
| 3  | 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える | 話題のニュースを取り上げ解説する<br>ニュース検定小テストと解説<br>時事問題にかんするプレゼンテーション | 新聞の一面に目を通す<br>授業で取り上げたニュースについて調べる               |
| 4  | 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える | 話題のニュースを取り上げ解説する<br>ニュース検定小テストと解説<br>時事問題にかんするプレゼンテーション | 新聞の一面に目を通す<br>授業で取り上げたニュースについて調べる               |
| 5  | 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える | 話題のニュースを取り上げ解説する<br>ニュース検定小テストと解説<br>時事問題にかんするプレゼンテーション | 新聞の一面に目を通す<br>授業で取り上げたニュースについて調べる               |
| 6  | 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える | 話題のニュースを取り上げ解説する<br>ニュース検定小テストと解説<br>時事問題にかんするプレゼンテーション | 新聞の一面に目を通す<br>授業で取り上げたニュースについて調べる               |
| 7  | 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える | 話題のニュースを取り上げ解説する<br>ニュース検定小テストと解説<br>時事問題にかんするプレゼンテーション | 新聞の一面に目を通す<br>授業で取り上げたニュースについて調べる               |
| 8  | 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える | 話題のニュースを取り上げ解説する<br>ニュース検定小テストと解説<br>時事問題にかんするプレゼンテーション | 新聞の一面に目を通す<br>授業で取り上げたニュースについて調べる               |
| 9  | 中間確認テスト                   | 中間確認テストを行う<br>(時事問題にかんするプレゼンテーション)                      | これまでの復習をする                                      |
| 10 | 「ニュース時事能力検定」受験            | 「ニュース時事能力検定」を受検する                                       | 検定に向けて学習する                                      |
| 11 | 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える | 話題のニュースを取り上げ解説する<br>ニュース検定小テストと解説<br>時事問題にかんするプレゼンテーション | 新聞の一面に目を通す<br>授業で取り上げたニュースについて調べる               |
| 12 | 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える | 話題のニュースを取り上げ解説する<br>ニュース検定小テストと解説<br>時事問題にかんするプレゼンテーション | 新聞の一面に目を通す<br>授業で取り上げたニュースについて調べる               |
| 13 | 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える | 話題のニュースを取り上げ解説する<br>ニュース検定小テストと解説<br>時事問題にかんするプレゼンテーション | 新聞の一面に目を通す<br>授業で取り上げたニュースについて調べる               |
| 14 | 「ニュース時事能力検定」の復習           | 受検した検定の問題を復習する<br>(時事問題にかんするプレゼンテーション)                  | 新聞の一面に目を通す<br>授業で取り上げたニュースについて調べる               |
| 15 | 最終確認テスト                   | 最終確認テストを行う<br>(時事問題にかんするプレゼンテーション)                      | 新聞の一面に目を通す<br>授業で取り上げたニュースについて調べる<br>これまでの復習をする |

|      |         |                             |     |       |
|------|---------|-----------------------------|-----|-------|
| 関連科目 | 時事問題 II |                             |     |       |
| 教科書  | 番号      | 書籍名                         | 著者名 | 出版社名  |
|      | 1       | 2019年度版ニュース検定公式テキスト&問題集 基礎編 |     | 毎日新聞社 |

|               |  |     |     |      |
|---------------|--|-----|-----|------|
|               | 2  |     |     |      |
|               | 3  |     |     |      |
| 参考書           | 番号   | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|               | 1  |     |     |      |
|               | 2  |     |     |      |
|               | 3  |     |     |      |
| 評価方法<br>(基準)  | 授業への参加度(発言、発表など) 50%<br>小テスト 10%<br>中間・最終確認テスト 20%<br>ニュース時事能力検定成績 20% |     |     |      |
| 学生への<br>メッセージ |  |     |     |      |
| 担当者の<br>研究室等  | 非常勤講師室(7号館2階)  |     |     |      |
| 備考            | 事前事後学習時間の目安は60時間。<br>各種テスト、検定については授業中にフィードバックをします。                     |     |     |      |

|               |            |         |                   |
|---------------|------------|---------|-------------------|
| 科目名           | 時事問題Ⅱ      | 科目名(英文) | Current Issues II |
| 学部            | 外国語学部      | 学科      | 外国語学科             |
| 配当年次          | 2年         | クラス     |                   |
| 単位数           | 2          | 履修区分    | 選択科目              |
| 学期            | 後期         | 授業担当者   | 山本 文子             |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1△, DP2◎ |         |                   |
| 科目ナンバリング      | LS01326a1  |         |                   |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。  |
| 到達目標        | 時事問題について、正確に理解し、自分の言葉で説明することができる。<br>時事問題について、「ニュース時事能力検定」準2級相当の知識を有する。   |
| 授業方法と留意点    | 話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。<br>毎回20分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。<br>また、授業内において「ニュース時事能力検定」( <a href="http://www.newskenetei.jp/">http://www.newskenetei.jp/</a> )を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。<br>受験料(3級 2,500円、準2級 3,000円、2級 4,000円。変更の可能性あり)が必要となるので、留意のこと。 |
| 科目学習の効果(資格) | ニュース時事能力検定 準2級  |

| 回数 | 授業テーマ                               | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題   |
|----|-------------------------------------|---|---|
|    |                                     |   |   |
| 1  | [ガイダンス]<br>授業の目的と方法・進め方<br>今話題のニュース | ・時事問題を学ぶ大切さを知る。                                       | ・新聞の一面に目を通す。<br>・授業で取り上げたニュースについて調べる。                   |
| 2  | ニュース検定準2級対策①                        | ・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説する。            | ・新聞の一面に目を通す。<br>・授業で解説した基礎知識の復習<br>・授業で取り上げたニュースについて調べる |
| 3  | ニュース検定準2級対策②                        | ・前回の確認小テスト<br>・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説 | ・新聞の一面に目を通す。<br>・授業で解説した基礎知識の復習<br>・授業で取り上げたニュースについて調べる |
| 4  | ニュース検定準2級対策③                        | ・前回の確認小テスト<br>・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説 | ・新聞の一面に目を通す。<br>・授業で解説した基礎知識の復習<br>・授業で取り上げたニュースについて調べる |
| 5  | ニュース検定準2級対策④                        | ・前回の確認小テスト<br>・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説 | ・新聞の一面に目を通す。<br>・授業で解説した基礎知識の復習<br>・授業で取り上げたニュースについて調べる |
| 6  | ニュース検定準2級対策⑤                        | ・前回の確認小テスト<br>・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説 | ・新聞の一面に目を通す。<br>・授業で解説した基礎知識の復習<br>・授業で取り上げたニュースについて調べる |
| 7  | ニュース検定準2級対策⑥                        | ・前回の確認小テスト<br>・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説 | ・新聞の一面に目を通す。<br>・授業で解説した基礎知識の復習<br>・授業で取り上げたニュースについて調べる |
| 8  | ニュース検定準2級対策⑦                        | ・前回の確認小テスト<br>・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説 | ・新聞の一面に目を通す。<br>・授業で解説した基礎知識の復習<br>・授業で取り上げたニュースについて調べる |
| 9  | 中間確認テスト                             | ・前回の確認小テスト<br>・中間確認テスト<br>(前回のニュース検定3級)               | ・苦手分野を明確にし、ニュース検定に向けて学習する。                              |
| 10 | 「ニュース時事能力検定」受験                      | ・「ニュース時事能力検定」を受検する。                                   | 検定に向けて学習する。   |
| 11 | 学生発表①                               | ・学生の関心に応じて、実際のニュースを選び、それを教科書の内容を結びつけて解説してもらう。         | ・新聞の一面に目を通す。<br>・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。             |
| 12 | 学生発表②                               | ・学生の関心に応じて、実際のニュースを選び、それを教科書の内容を結びつけて解説してもらう。         | ・新聞の一面に目を通す。<br>・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。             |
| 13 | 学生発表③                               | ・学生の関心に応じて、実際のニュースを選び、それを教科書の内容を結びつけて解説してもらう。         | ・新聞の一面に目を通す。<br>・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。             |
| 14 | 学生発表④                               | ・学生の関心に応じて、実際のニュースを選び、それを教科書の内容を結びつけて解説してもらう。         | ・新聞の一面に目を通す。<br>・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。             |
| 15 | 最終確認テスト                             | ・教科書および新聞・ニュースを踏まえて、四択ないし記述式の試験を最終確認テストとして実施          | ・新聞の一面に目を通す。<br>・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。             |

関連科目 時事問題Ⅱ

| 教科書 | 番号 | 書籍名                         | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----------------------------|-----|------|
|     | 1  | 2018年度版ニュース検定公式テキスト&問題集 発展編 |     |      |
| 2   |    |                             |     |      |
| 3   |    |                             |     |      |

参考書

|               | 番号  | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|---------------|---|-----|-----|------|
|               | 1   |     |     |      |
|               | 2   |     |     |      |
|               | 3   |     |     |      |
| 評価方法<br>(基準)  | 授業への参加度 50%<br>小テスト 10%<br>中間・最終確認テスト 20%<br>ニュース時事能力検定成績 20% |     |     |      |
| 学生への<br>メッセージ |   |     |     |      |
| 担当者の<br>研究室等  | 非常勤講師室 (7号館2階)  |     |     |      |
| 備考            | 事前事後学習時間の目安は60時間。<br>各種テスト、検定については授業中にフィードバックをします。            |     |     |      |

|               |            |         |                   |
|---------------|------------|---------|-------------------|
| 科目名           | 時事問題Ⅱ      | 科目名(英文) | Current Issues II |
| 学部            | 外国語学部      | 学科      | 外国語学科             |
| 配当年次          | 2年         | クラス     |                   |
| 単位数           | 2          | 履修区分    | 選択科目              |
| 学期            | 後期         | 授業担当者   | 西垣 有              |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1△, DP2◎ |         |                   |
| 科目ナンバリング      | LS01326a1  |         |                   |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題Ⅱ」では特に、「社会環境」「国際問題」のテーマを取り上げる。   |
| 到達目標        | 時事問題について、正確に理解し、説明することができる。<br>時事問題について、「ニュース時事能力検定」準2級相当の知識を有する。   |
| 授業方法と留意点    | 話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。<br>毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。<br>また、授業内において「ニュース時事能力検定」( <a href="http://www.newskentei.jp/">http://www.newskentei.jp/</a> )を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。<br>受験料(3級 2,500円、準2級 3,000円、2級 4,000円。変更の可能性あり)が必要となるので、留意のこと。 |
| 科目学習の効果(資格) | ニュース時事能力検定 準2級  |

| 回数 | 授業テーマ                     | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題   |
|----|---------------------------|---|---|
|    |                           |   |   |
| 2  | 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える | ニュース検定小テストとテキストの解説  | 新聞の一面に目を通す。<br>配布した宿題をやってくる。<br>テキスト、練習問題の復習。               |
| 3  | 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える | ニュース検定小テストとテキストの解説  | 新聞の一面に目を通す。<br>配布した宿題をやってくる。<br>テキスト、練習問題の復習。               |
| 4  | 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える | ニュース検定小テストとテキストの解説  | 新聞の一面に目を通す。<br>配布した宿題をやってくる。<br>テキスト、練習問題の復習。               |
| 5  | 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える | ニュース検定小テストとテキストの解説  | 新聞の一面に目を通す。<br>配布した宿題をやってくる。<br>テキスト、練習問題の復習。               |
| 6  | 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える | ニュース検定小テストとテキストの解説  | 新聞の一面に目を通す。<br>配布した宿題をやってくる。<br>テキスト、練習問題の復習。               |
| 7  | 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える | ニュース検定小テストとテキストの解説  | 新聞の一面に目を通す。<br>配布した宿題をやってくる。<br>テキスト、練習問題の復習。               |
| 8  | 中間確認テスト                   | 中間確認テストを行う  | 新聞の一面に目を通す。<br>配布した宿題をやってくる。<br>テキスト、練習問題の復習。               |
| 9  | 「ニュース時事能力検定」受験            | 「ニュース時事能力検定」を受検する   | 新聞の一面に目を通す。<br>配布した宿題をやってくる。<br>テキスト、練習問題の復習。<br>検定に向けて学習する |
| 10 | プレゼンテーションに向けて             | これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力(時事能力)に基づき、学術的なプレゼンテーションをおこなう方法を概説する。 | 新聞の一面に目を通す<br>プレゼンテーションの準備                                  |
| 11 | プレゼンテーション                 | これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力(時事能力)に基づき、学術的なプレゼンテーションをおこなう         | 新聞の一面に目を通す<br>プレゼンテーションの準備                                  |
| 12 | プレゼンテーション                 | これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力(時事能力)に基づき、学術的なプレゼンテーションをおこなう         | 新聞の一面に目を通す<br>プレゼンテーションの準備                                  |
| 13 | プレゼンテーション                 | これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力(時事能力)に基づき、学術的なプレゼンテーションをおこなう         | 新聞の一面に目を通す<br>プレゼンテーションの準備                                  |
| 14 | プレゼンテーション                 | これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力(時事能力)に基づき、学術的なプレゼンテーションをおこなう         | 新聞の一面に目を通す<br>プレゼンテーションの準備                                  |
| 15 | 最終確認テスト                   | 最終確認テストを行う  | これまでの復習をする  |

|      |       |
|------|-------|
| 関連科目 | 時事問題Ⅱ |
|------|-------|

|     |    |                             |     |       |
|-----|----|-----------------------------|-----|-------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名                         | 著者名 | 出版社名  |
|     | 1  | 2019年度版ニュース検定公式テキスト&問題集 基礎編 |     | 毎日新聞社 |
|     | 2  |                             |     |       |
|     | 3  |                             |     |       |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |



|               |   |  |  |  |
|---------------|---|--|--|--|
|               | 3   |  |  |  |
| 評価方法<br>(基準)  | 授業への参加度 50%<br>小テスト 10%<br>中間・最終確認テスト 20%<br>ニュース時事能力検定成績 20% |  |  |  |
| 学生への<br>メッセージ |   |  |  |  |
| 担当者の<br>研究室等  | 非常勤講師室 (7号館2階)  |  |  |  |
| 備考            | 事前事後学習時間の目安は60時間。<br>各種テスト、検定については授業中にフィードバックをします。            |  |  |  |

|               |            |         |                   |
|---------------|------------|---------|-------------------|
| 科目名           | 時事問題Ⅱ      | 科目名(英文) | Current Issues II |
| 学部            | 外国語学部      | 学科      | 外国語学科             |
| 配当年次          | 2年         | クラス     |                   |
| 単位数           | 2          | 履修区分    | 選択科目              |
| 学期            | 後期         | 授業担当者   | 早川 真悠             |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1△, DP2◎ |         |                   |
| 科目ナンバリング      | LS01326a1  |         |                   |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題Ⅱ」では特に、「社会環境」「国際問題」のテーマを取り上げる。   |
| 到達目標        | 時事問題について、正確に理解し、説明することができる。<br>時事問題について、「ニュース時事能力検定」準2級相当の知識を有する。   |
| 授業方法と留意点    | 話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。<br>毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。<br>また、授業内において「ニュース時事能力検定」( <a href="http://www.newskentei.jp/">http://www.newskentei.jp/</a> )を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。<br>受験料(3級 2,500円、準2級 3,000円、2級 4,000円。変更の可能性あり)が必要となるので、留意のこと。 |
| 科目学習の効果(資格) | ニュース時事能力検定 準2級  |

| 回数 | 授業テーマ                     | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題                                       |
|----|---------------------------|---|---|
|    |                           |   |   |
| 1  | 授業の目的と方法<br>今話題のニュース      | 時事問題を学ぶ大切さを知る   | 新聞の一面に目を通す<br>授業で取り上げたニュースについて調べる               |
| 2  | 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える | 話題のニュースを取り上げ解説する<br>ニュース検定小テストと解説<br>時事問題にかんするプレゼンテーション | 新聞の一面に目を通す<br>授業で取り上げたニュースについて調べる               |
| 3  | 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える | 話題のニュースを取り上げ解説する<br>ニュース検定小テストと解説<br>時事問題にかんするプレゼンテーション | 新聞の一面に目を通す<br>授業で取り上げたニュースについて調べる               |
| 4  | 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える | 話題のニュースを取り上げ解説する<br>ニュース検定小テストと解説<br>時事問題にかんするプレゼンテーション | 新聞の一面に目を通す<br>授業で取り上げたニュースについて調べる               |
| 5  | 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える | 話題のニュースを取り上げ解説する<br>ニュース検定小テストと解説<br>時事問題にかんするプレゼンテーション | 新聞の一面に目を通す<br>授業で取り上げたニュースについて調べる               |
| 6  | 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える | 話題のニュースを取り上げ解説する<br>ニュース検定小テストと解説<br>時事問題にかんするプレゼンテーション | 新聞の一面に目を通す<br>授業で取り上げたニュースについて調べる               |
| 7  | 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える | 話題のニュースを取り上げ解説する<br>ニュース検定小テストと解説<br>時事問題にかんするプレゼンテーション | 新聞の一面に目を通す<br>授業で取り上げたニュースについて調べる               |
| 8  | 中間確認テスト                   | 中間確認テストを行う<br>(時事問題にかんするプレゼンテーション)                      | これまでの復習をする                                      |
| 9  | 「ニュース時事能力検定」受験            | 「ニュース時事能力検定」を受検する                                       | 検定に向けて学習する                                      |
| 10 | 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える | 話題のニュースを取り上げ解説する<br>ニュース検定小テストと解説<br>時事問題にかんするプレゼンテーション | 新聞の一面に目を通す<br>授業で取り上げたニュースについて調べる               |
| 11 | 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える | 話題のニュースを取り上げ解説する<br>ニュース検定小テストと解説<br>時事問題にかんするプレゼンテーション | 新聞の一面に目を通す<br>授業で取り上げたニュースについて調べる               |
| 12 | 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える | 話題のニュースを取り上げ解説する<br>ニュース検定小テストと解説<br>時事問題にかんするプレゼンテーション | 新聞の一面に目を通す<br>授業で取り上げたニュースについて調べる               |
| 13 | 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える | 話題のニュースを取り上げ解説する<br>ニュース検定小テストと解説<br>時事問題にかんするプレゼンテーション | 新聞の一面に目を通す<br>授業で取り上げたニュースについて調べる               |
| 14 | 「ニュース時事能力検定」の復習           | 受検した検定の問題を復習する<br>(時事問題にかんするプレゼンテーション)                  | 新聞の一面に目を通す<br>授業で取り上げたニュースについて調べる               |
| 15 | 最終確認テスト                   | 最終確認テストを行う<br>(時事問題にかんするプレゼンテーション)                      | 新聞の一面に目を通す<br>授業で取り上げたニュースについて調べる<br>これまでの復習をする |

|      |       |                             |     |       |
|------|-------|-----------------------------|-----|-------|
| 関連科目 | 時事問題Ⅱ |                             |     |       |
| 教科書  | 番号    | 書籍名                         | 著者名 | 出版社名  |
|      | 1     | 2019年度版ニュース検定公式テキスト&問題集 発展編 |     | 毎日新聞社 |

|               |  |     |     |      |
|---------------|--|-----|-----|------|
|               | 2  |     |     |      |
|               | 3  |     |     |      |
| 参考書           | 番号   | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|               | 1  |     |     |      |
|               | 2  |     |     |      |
|               | 3  |     |     |      |
| 評価方法<br>(基準)  | 授業への参加度(発言、発表など) 50%<br>小テスト 10%<br>中間・最終確認テスト 20%<br>ニュース時事能力検定成績 20% |     |     |      |
| 学生への<br>メッセージ |  |     |     |      |
| 担当者の<br>研究室等  | 非常勤講師室(7号館2階)  |     |     |      |
| 備考            | 事前事後学習時間の目安は60時間。<br>各種テスト、検定については授業中にフィードバックをします。                     |     |     |      |

|                |            |          |                          |
|----------------|------------|----------|--------------------------|
| 科目名            | 情報処理 I     | 科目名 (英文) | Information Processing I |
| 学部             | 外国語学部      | 学科       | 外国語学科                    |
| 配当年次           | 1 年        | クラス      | 2                        |
| 単位数            | 2          | 履修区分     | 選択科目                     |
| 学期             | 前期         | 授業担当者    | 星山 幸子                    |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1△, DP2△ |          |                          |
| 科目ナンバリング       | L1L1327a1  |          |                          |

|              |   |
|--------------|---|
| 授業概要・目的      | Windows と実用的なアプリケーションソフトを用いた演習を通じ、情報の収集と選択、情報の処理技術、情報の蓄積と利用を学習し、課題やレポート、卒業論文を効果的に作成するために必要な情報活用能力を習得する。これらの作業によって、コンピュータの機能を知るとともに、コンピュータの持つ特性と有用性について理解し情報処理能力の養成をはかる。   |
| 到達目標         | 課題やレポート、卒業論文作成のために必要な情報活用能力の習得、および就活時にアピールできるコンピュータ利用に関する技能検定への足掛かりとする。   |
| 授業方法と留意点     | テキストと配布資料を用いて演習形式で行う。毎回、課題が出題される。<br>課題を提出しない場合は欠席とみなされるので注意すること。<br>授業時間内に課題を完成できない場合は次週までに提出することが求められる。<br>事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。<br>なお、出席率が 8 割に満たない場合は単位を認めないものとする。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 就活時にアピールできる IT 系の資格に挑戦するためにも役立つ講座である。<br>身近なものとしては MOS 等のマイクロソフト認定資格や IT パスポート等が挙げられる。<br>情報処理授業単位取得後、独学で MOS を取得した学生も多い。資格取得の足掛かりとして活用してほしい。                             |

| 回数 | 授業テーマ         | 内容・方法 等                                  | 事前・事後学習課題                                       |
|----|---------------|--|---|
|    |               |  |   |
| 1  | イントロダクション     | 授業計画概要と受講注意事項、学内ネットワーク説明とガイダンス           | —————   |
| 2  | コンピュータ基礎知識の確認 | パーソナルコンピュータ基本知識の習得とレポート                  | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 3  | 情報の収集と選択      | インターネット環境と情報の検索方法                        | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 4  | 情報の処理技術 (1)   | 文字情報処理の基礎 1<br>文書作成技術 書式設定 1             | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 5  | 情報の処理技術 (2)   | 文字情報処理の基礎 2<br>文書作成技術 書式設定 2             | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 6  | 情報の処理技術 (3)   | 文字情報処理の基礎 3<br>文書作成技術 表その他               | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 7  | 情報の処理技術 (4)   | 文字情報処理の応用 1<br>文書作成技術<br>実用的ビジネス文書の作成技術  | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 8  | 前半まとめと確認      | 確認テスト                                    | 文書作成技法復習と技能修得度の確認                               |
| 9  | 情報の蓄積と利用 (1)  | 表計算基礎 1<br>表計算ソフトウェアの概念、数値の処理<br>基本処理の確認 | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 10 | 情報の蓄積と利用 (2)  | 表計算基礎 2<br>関数利用技術                        | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 11 | 情報の蓄積と利用 (3)  | 表計算基礎 3<br>グラフ処理                         | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 12 | 情報の蓄積と利用 (4)  | 表計算応用 1<br>データベース活用技術                    | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 13 | 情報の蓄積と利用 (5)  | 表計算応用 2<br>データベース応用とピボットテーブル<br>活用技術     | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 14 | 情報処理技術の応用     | 技術獲得としての資格試験問題確認                         | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 15 | 後半まとめと確認      | 確認テスト                                    | 表計算技法復習と技能修得度の確認                                |

関連科目 ステップアップとして「情報処理 II」の受講を推奨する。

| 教科書 | 番号 | 書籍名                           | 著者名           | 出版社名 |
|-----|----|-------------------------------|---------------|------|
|     | 1  | Windows10・Office2016 による情報処理入 | 安積淳、杉山靖彦、八野真弓 | 実教出版 |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
|     | 1  |     |     |      |

評価方法 (基準) 出席率 80%以上を必須とする。  
授業参加状況、毎回の課題、実技を含む試験を総合して評価する。  
(授業参加状況および毎回の課題 40%、中間テスト 30%、期末テスト 30%)

学生へのメッセージ 使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。  
多くの先輩が、「情報処理 I」「情報処理 II」受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。

担当者の研究室等 7 号館 2 階(非常勤講師室)

備考 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。

|                |            |          |                          |
|----------------|------------|----------|--------------------------|
| 科目名            | 情報処理 I     | 科目名 (英文) | Information Processing I |
| 学部             | 外国語学部      | 学科       | 外国語学科                    |
| 配当年次           | 1 年        | クラス      | 2                        |
| 単位数            | 2          | 履修区分     | 選択科目                     |
| 学期             | 前期         | 授業担当者    | 藤木 健史                    |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1△, DP2△ |          |                          |
| 科目ナンバリング       | L1L1327a1  |          |                          |

|              |   |
|--------------|---|
| 授業概要・目的      | Windows と実用的なアプリケーションソフトを用いた演習を通じ、情報の収集と選択、情報の処理技術、情報の蓄積と利用を学習し、課題やレポート、卒業論文を効果的に作成するために必要な情報活用能力を習得する。これらの作業によって、コンピュータの機能を知るとともに、コンピュータの持つ特性と有用性について理解し情報処理能力の養成をはかる。   |
| 到達目標         | 課題やレポート、卒業論文作成のために必要な情報活用能力の習得、および就活時にアピールできるコンピュータ利用に関する技能検定への足掛かりとする。   |
| 授業方法と留意点     | テキストと配布資料を用いて演習形式で行う。毎回、課題が出題される。<br>課題を提出しない場合は欠席とみなされるので注意すること。<br>授業時間内に課題を完成できない場合は次週までに提出することが求められる。<br>事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。<br>なお、出席率が 8 割に満たない場合は単位を認めないものとする。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 就活時にアピールできる IT 系の資格に挑戦するためにも役立つ講座である。<br>身近なものとしては MOS 等のマイクロソフト認定資格や IT パスポート等が挙げられる。<br>情報処理授業単位取得後、独学で MOS を取得した学生も多い。資格取得の足掛かりとして活用してほしい。                             |

| 回数 | 授業テーマ         | 内容・方法 等                                  | 事前・事後学習課題                                       |
|----|---------------|--|---|
|    |               |  |   |
| 1  | イントロダクション     | 授業計画概要と受講注意事項、学内ネットワーク説明とガイダンス           | —————   |
| 2  | コンピュータ基礎知識の確認 | パーソナルコンピュータ基本知識の習得とレポート                  | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 3  | 情報の収集と選択      | インターネット環境と情報の検索方法                        | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 4  | 情報の処理技術 (1)   | 文字情報処理の基礎 1<br>文書作成技術 書式設定 1             | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 5  | 情報の処理技術 (2)   | 文字情報処理の基礎 2<br>文書作成技術 書式設定 2             | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 6  | 情報の処理技術 (3)   | 文字情報処理の基礎 3<br>文書作成技術 表その他               | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 7  | 情報の処理技術 (4)   | 文字情報処理の応用 1<br>文書作成技術<br>実用的ビジネス文書の作成技術  | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 8  | 前半まとめと確認      | 確認テスト                                    | 文書作成技法復習と技能修得度の確認                               |
| 9  | 情報の蓄積と利用 (1)  | 表計算基礎 1<br>表計算ソフトウェアの概念、数値の処理<br>基本処理の確認 | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 10 | 情報の蓄積と利用 (2)  | 表計算基礎 2<br>関数利用技術                        | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 11 | 情報の蓄積と利用 (3)  | 表計算基礎 3<br>グラフ処理                         | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 12 | 情報の蓄積と利用 (4)  | 表計算応用 1<br>データベース活用技術                    | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 13 | 情報の蓄積と利用 (5)  | 表計算応用 2<br>データベース応用とピボットテーブル<br>活用技術     | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 14 | 情報処理技術の応用     | 技術獲得としての資格試験問題確認                         | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 15 | 後半まとめと確認      | 確認テスト                                    | 表計算技法復習と技能修得度の確認                                |

関連科目 ステップアップとして「情報処理 II」の受講を推奨する。

| 教科書 | 番号 | 書籍名                           | 著者名           | 出版社名 |
|-----|----|-------------------------------|---------------|------|
|     | 1  | Windows10・Office2016 による情報処理入 | 安積淳、杉山靖彦、八野真弓 | 実教出版 |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
|     | 1  |     |     |      |

評価方法 (基準) 出席率 80%以上を必須とする。  
授業参加状況、毎回の課題、実技を含む試験を総合して評価する。  
(授業参加状況および毎回の課題 40%、中間テスト 30%、期末テスト 30%)

学生へのメッセージ 使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。  
多くの先輩が、「情報処理 I」「情報処理 II」受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。

担当者の研究室等 1 1 号館 6 階 (経営学部非常勤講師室)

備考 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。

|                |            |          |                          |
|----------------|------------|----------|--------------------------|
| 科目名            | 情報処理 I     | 科目名 (英文) | Information Processing I |
| 学部             | 外国語学部      | 学科       | 外国語学科                    |
| 配当年次           | 1 年        | クラス      | 1                        |
| 単位数            | 2          | 履修区分     | 選択科目                     |
| 学期             | 前期         | 授業担当者    | 星山 幸子                    |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1△, DP2△ |          |                          |
| 科目ナンバリング       | L1L1327a1  |          |                          |

|              |   |
|--------------|---|
| 授業概要・目的      | Windows と実用的なアプリケーションソフトを用いた演習を通じ、情報の収集と選択、情報の処理技術、情報の蓄積と利用を学習し、課題やレポート、卒業論文を効果的に作成するために必要な情報活用能力を習得する。これらの作業によって、コンピュータの機能を知るとともに、コンピュータの持つ特性と有用性について理解し情報処理能力の養成をはかる。   |
| 到達目標         | 課題やレポート、卒業論文作成のために必要な情報活用能力の習得、および就活時にアピールできるコンピュータ利用に関する技能検定への足掛かりとする。   |
| 授業方法と留意点     | テキストと配布資料を用いて演習形式で行う。毎回、課題が出題される。<br>課題を提出しない場合は欠席とみなされるので注意すること。<br>授業時間内に課題を完成できない場合は次週までに提出することが求められる。<br>事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。<br>なお、出席率が 8 割に満たない場合は単位を認めないものとする。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 就活時にアピールできる IT 系の資格に挑戦するためにも役立つ講座である。<br>身近なものとしては MOS 等のマイクロソフト認定資格や IT パスポート等が挙げられる。<br>情報処理授業単位取得後、独学で MOS を取得した学生も多い。資格取得の足掛かりとして活用してほしい。                             |

| 回数 | 授業テーマ         | 内容・方法 等                                  | 事前・事後学習課題                                       |
|----|---------------|--|---|
|    |               |  | _____   |
| 1  | イントロダクション     | 授業計画概要と受講注意事項、学内ネットワーク説明とガイダンス           |   |
| 2  | コンピュータ基礎知識の確認 | パーソナルコンピュータ基本知識の習得とレポート                  | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 3  | 情報の収集と選択      | インターネット環境と情報の検索方法                        | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 4  | 情報の処理技術 (1)   | 文字情報処理の基礎 1<br>文書作成技術 書式設定 1             | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 5  | 情報の処理技術 (2)   | 文字情報処理の基礎 2<br>文書作成技術 書式設定 2             | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 6  | 情報の処理技術 (3)   | 文字情報処理の基礎 3<br>文書作成技術 表その他               | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 7  | 情報の処理技術 (4)   | 文字情報処理の応用 1<br>文書作成技術<br>実用的ビジネス文書の作成技術  | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 8  | 前半まとめと確認      | 確認テスト                                    | 文書作成技法復習と技能修得度の確認                               |
| 9  | 情報の蓄積と利用 (1)  | 表計算基礎 1<br>表計算ソフトウェアの概念、数値の処理<br>基本処理の確認 | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 10 | 情報の蓄積と利用 (2)  | 表計算基礎 2<br>関数利用技術                        | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 11 | 情報の蓄積と利用 (3)  | 表計算基礎 3<br>グラフ処理                         | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 12 | 情報の蓄積と利用 (4)  | 表計算応用 1<br>データベース活用技術                    | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 13 | 情報の蓄積と利用 (5)  | 表計算応用 2<br>データベース応用とピボットテーブル<br>活用技術     | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 14 | 情報処理技術の応用     | 技術獲得としての資格試験問題確認                         | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 15 | 後半まとめと確認      | 確認テスト                                    | 表計算技法復習と技能修得度の確認                                |

関連科目 ステップアップとして「情報処理 II」の受講を推奨する。

| 教科書 | 番号 | 書籍名                           | 著者名           | 出版社名 |
|-----|----|-------------------------------|---------------|------|
|     | 1  | Windows10・Office2016 による情報処理入 | 安積淳、杉山靖彦、八野真弓 | 実教出版 |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
|     | 1  |     |     |      |

評価方法 (基準) 出席率 80%以上を必須とする。  
授業参加状況、毎回の課題、実技を含む試験を総合して評価する。  
(授業参加状況および毎回の課題 40%、中間テスト 30%、期末テスト 30%)

学生へのメッセージ 使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。  
多くの先輩が、「情報処理 I」「情報処理 II」受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。

担当者の研究室等 7 号館 2 階(非常勤講師室)

備考 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。

|                |            |          |                          |
|----------------|------------|----------|--------------------------|
| 科目名            | 情報処理 I     | 科目名 (英文) | Information Processing I |
| 学部             | 外国語学部      | 学科       | 外国語学科                    |
| 配当年次           | 1 年        | クラス      | 1                        |
| 単位数            | 2          | 履修区分     | 選択科目                     |
| 学期             | 前期         | 授業担当者    | 藤木 健史                    |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1△, DP2△ |          |                          |
| 科目ナンバリング       | L1L1327a1  |          |                          |

|              |   |
|--------------|---|
| 授業概要・目的      | Windows と実用的なアプリケーションソフトを用いた演習を通じ、情報の収集と選択、情報の処理技術、情報の蓄積と利用を学習し、課題やレポート、卒業論文を効果的に作成するために必要な情報活用能力を習得する。これらの作業によって、コンピュータの機能を知るとともに、コンピュータの持つ特性と有用性について理解し情報処理能力の養成をはかる。   |
| 到達目標         | 課題やレポート、卒業論文作成のために必要な情報活用能力の習得、および就活時にアピールできるコンピュータ利用に関する技能検定への足掛かりとする。   |
| 授業方法と留意点     | テキストと配布資料を用いて演習形式で行う。毎回、課題が出題される。<br>課題を提出しない場合は欠席とみなされるので注意すること。<br>授業時間内に課題を完成できない場合は次週までに提出することが求められる。<br>事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。<br>なお、出席率が 8 割に満たない場合は単位を認めないものとする。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 就活時にアピールできる IT 系の資格に挑戦するためにも役立つ講座である。<br>身近なものとしては MOS 等のマイクロソフト認定資格や IT パスポート等が挙げられる。<br>情報処理授業単位取得後、独学で MOS を取得した学生も多い。資格取得の足掛かりとして活用してほしい。                             |

| 回数 | 授業テーマ         | 内容・方法 等                                  | 事前・事後学習課題                                       |
|----|---------------|--|---|
|    |               |  |   |
| 1  | イントロダクション     | 授業計画概要と受講注意事項、学内ネットワーク説明とガイダンス           | —————   |
| 2  | コンピュータ基礎知識の確認 | パーソナルコンピュータ基本知識の習得とレポート                  | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 3  | 情報の収集と選択      | インターネット環境と情報の検索方法                        | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 4  | 情報の処理技術 (1)   | 文字情報処理の基礎 1<br>文書作成技術 書式設定 1             | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 5  | 情報の処理技術 (2)   | 文字情報処理の基礎 2<br>文書作成技術 書式設定 2             | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 6  | 情報の処理技術 (3)   | 文字情報処理の基礎 3<br>文書作成技術 表その他               | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 7  | 情報の処理技術 (4)   | 文字情報処理の応用 1<br>文書作成技術<br>実用的ビジネス文書の作成技術  | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 8  | 前半まとめと確認      | 確認テスト                                    | 文書作成技法復習と技能修得度の確認                               |
| 9  | 情報の蓄積と利用 (1)  | 表計算基礎 1<br>表計算ソフトウェアの概念、数値の処理<br>基本処理の確認 | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 10 | 情報の蓄積と利用 (2)  | 表計算基礎 2<br>関数利用技術                        | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 11 | 情報の蓄積と利用 (3)  | 表計算基礎 3<br>グラフ処理                         | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 12 | 情報の蓄積と利用 (4)  | 表計算応用 1<br>データベース活用技術                    | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 13 | 情報の蓄積と利用 (5)  | 表計算応用 2<br>データベース応用とピボットテーブル<br>活用技術     | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 14 | 情報処理技術の応用     | 技術獲得としての資格試験問題確認                         | 配布資料の確認<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答<br>テキストの該当箇所を読んでおく |
| 15 | 後半まとめと確認      | 確認テスト                                    | 表計算技法復習と技能修得度の確認                                |

関連科目 ステップアップとして「情報処理 II」の受講を推奨する。

| 教科書 | 番号 | 書籍名                           | 著者名           | 出版社名 |
|-----|----|-------------------------------|---------------|------|
|     | 1  | Windows10・Office2016 による情報処理入 | 安積淳、杉山靖彦、八野真弓 | 実教出版 |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
|     | 1  |     |     |      |

評価方法 (基準) 出席率 80%以上を必須とする。  
授業参加状況、毎回の課題、実技を含む試験を総合して評価する。  
(授業参加状況および毎回の課題 40%、中間テスト 30%、期末テスト 30%)

学生へのメッセージ 使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。  
多くの先輩が、「情報処理 I」「情報処理 II」受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。

担当者の研究室等 1 1 号館 6 階 (経営学部非常勤講師室)

備考 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。

|               |            |         |                           |
|---------------|------------|---------|---------------------------|
| 科目名           | 情報処理Ⅱ      | 科目名(英文) | Information Processing II |
| 学部            | 外国語学部      | 学科      | 外国語学科                     |
| 配当年次          | 1年         | クラス     | 2                         |
| 単位数           | 2          | 履修区分    | 選択科目                      |
| 学期            | 後期         | 授業担当者   | 星山 幸子                     |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1△, DP2△ |         |                           |
| 科目ナンバリング      | L1L1328a1  |         |                           |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | 情報処理Ⅰに引き続き、パーソナルコンピュータを操作して情報処理の基礎を学習する。情報を発信する側に必要とされる技能として、効果的なプレゼンテーションの学習、画像処理の知識、プログラミングの基本を習得する。これらの作業によってコンピュータの機能についてさらに知識を深め、その特性と有用性についてより深く理解するものとする。                                       |
| 到達目標        | 効率的な論文ツールの活用、画像編集、就活時にアピールできるプレゼンテーション能力の獲得等、情報発信に必要とされる知識を習得する。   |
| 授業方法と留意点    | 情報処理Ⅰのテキストと配布資料を用いて演習形式で行う。<br>毎回課題が出題される。課題を提出しない場合は欠席とみなされるので注意すること。<br>授業時間内に課題を完成できない場合、次週までに提出することが求められる。<br>出席率が8割に満たない場合は単位を認めない。<br>学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。                             |
| 科目学習の効果(資格) | 就活時にアピールできるIT系の資格に挑戦するためにも役立つ講座である。<br>身近なものとしてはMOS等のマイクロソフト認定資格やITパスポート等が挙げられる。<br>情報処理授業単位取得後、独学でMOSを取得した学生も多い。資格取得の足掛かりとして活用してほしい。<br>特に、プレゼンテーションの技術は、就活時にアピールできるだけでなく社会人としても役立つものなので、ぜひとも習得してほしい。 |

| 回数 | 授業テーマ   | 内容・方法等   | 事前・事後学習課題                                |
|----|---|--|--|
|    |   |  |  |
| 1  | 情報の表現(1)  | 紙メディアから電子メディアへの移行<br>プレゼンテーション技術1<br>スライド基本操作                    | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 2  | 情報の表現(2)  | プレゼンテーション技術2<br>図の挿入と編集、<br>クリップアートとスマートアート                      | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 3  | 情報の表現(3)  | プレゼンテーション技術3<br>アニメーションの設定<br>発表の基本確認                            | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 4  | 情報の表現(4)  | プレゼンテーション技術4<br>表示設定の応用と発表用ツールの確認                                | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 5  | 情報の表現応用   | 画像編集の基本知識<br>画像編集アプリケーションソフト学習<br>とプレゼンテーションソフト上における<br>連携       | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 6  | まとめ課題1制作(1)   | 提示テーマに沿ったスライドの作成。<br>表示リボンの活用と発表原稿の作成。ノ<br>ート機能、配布資料、印刷時の注意      | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 7  | まとめ課題1制作(2)   | リハーサル機能の活用と発表用原稿と<br>のリンク  | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 8  | アプリケーションの連携<br>(1)<br>レポート活用の為のアプリ<br>ケーションソフトの連携           | 効果的な論文作成の為の参考資料ツ<br>ールの利用1 スタイル設定学習                              | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 9  | アプリケーションの連携<br>(2)<br>レポート活用の為のアプリ<br>ケーションソフトの連携           | 効果的な論文作成の為の参考資料ツ<br>ールの利用2 参考資料ツールの確認                            | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 10 | アプリケーションの連携<br>(3)<br>レポート資料分析ツールの<br>使用とアプリケーションソ<br>フトの連携 | 論文作成用データ分析の為の excel 分<br>析ツールの利用                                 | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 11 | まとめ課題2<br>アプリケーションの連携<br>Office ツール総合利用練習                   | Office ツールを総合的に使用したレポ<br>ートの作成                                   | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>アプリケーションの連携課題作成   |
| 12 | 総合課題演習  | Office ツールを総合的に使用した課題<br>の作成<br>提示されたテーマにそってレポートお<br>よびグループ発表の準備 | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>総合課題作成            |
| 13 | 総合課題演習  | Office ツールを総合的に使用した課題<br>の作成<br>提示されたテーマにそってレポートお<br>よびグループ発表の準備 | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>総合課題作成            |
| 14 | プレゼンテーション発表<br>(1)  | グループ発表、および質疑応答と評価  | プレゼンテーション発表<br>内容の把握と整理                  |
| 15 | プレゼンテーション発表<br>(2)  | グループ発表、および質疑応答と評価  | プレゼンテーション発表<br>内容の把握と整理                  |

関連科目 情報処理Ⅰを修得していることが望ましい

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |



|               |   |                               |       |      |
|---------------|---|-------------------------------|-------|------|
| 参考書           | 番号  | 書籍名                           | 著者名   | 出版社名 |
|               | 1   | Windows10・Office2016による情報処理入門 | 安積淳 他 | 実教出版 |
|               | 2   |                               |       |      |
|               | 3   |                               |       |      |
| 評価方法<br>(基準)  | 80%以上の出席率を必要とする。<br>授業参加状況および毎回の課題：40%，まとめ課題1及びまとめ課題2：40%，総合課題：20%として評価する。  |                               |       |      |
| 学生への<br>メッセージ | 使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお薦めします。<br>多くの先輩が「情報処理Ⅰ」「情報処理Ⅱ」の受講後、独学でMOS (Microsoft Office Specialist マイクロソフト オフィスペシャリスト) に合格しています。資格取得の足掛かりにも有用です。<br>プレゼンテーションスキルは就職活動だけでなく、社会に出てからも役立つ技術です。 |                               |       |      |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館2階(非常勤講師室)   |                               |       |      |
| 備考            | 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。  |                               |       |      |

|               |            |         |                           |
|---------------|------------|---------|---------------------------|
| 科目名           | 情報処理Ⅱ      | 科目名(英文) | Information Processing II |
| 学部            | 外国語学部      | 学科      | 外国語学科                     |
| 配当年次          | 1年         | クラス     | 2                         |
| 単位数           | 2          | 履修区分    | 選択科目                      |
| 学期            | 後期         | 授業担当者   | 藤木 健史                     |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1△, DP2△ |         |                           |
| 科目ナンバリング      | L1L1328a1  |         |                           |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | 情報処理Ⅰに引き続き、パーソナルコンピュータを操作して情報処理の基礎を学習する。<br>情報を発信する側に必要とされる技能として、効果的なプレゼンテーションの学習、画像処理の知識、プログラミングの基本を習得する。<br>これらの作業によってコンピュータの機能についてさらに知識を深め、その特性と有用性についてより深く理解するものとする。                               |
| 到達目標        | 効率的な論文ツールの活用、画像編集、就活時にアピールできるプレゼンテーション能力の獲得等、情報発信に必要とされる知識を習得する。   |
| 授業方法と留意点    | 情報処理Ⅰのテキストと配布資料を用いて演習形式で行う。<br>毎回課題が出題される。課題を提出しない場合は欠席とみなされるので注意すること。<br>授業時間内に課題を完成できない場合、次週までに提出することが求められる。<br>出席率が8割に満たない場合は単位を認めない。<br>学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。                             |
| 科目学習の効果(資格) | 就活時にアピールできるIT系の資格に挑戦するためにも役立つ講座である。<br>身近なものとしてはMOS等のマイクロソフト認定資格やITパスポート等が挙げられる。<br>情報処理授業単位取得後、独学でMOSを取得した学生も多い。資格取得の足掛かりとして活用してほしい。<br>特に、プレゼンテーションの技術は、就活時にアピールできるだけでなく社会人としても役立つものなので、ぜひとも習得してほしい。 |

| 回数 | 授業テーマ   | 内容・方法等   | 事前・事後学習課題                                |
|----|---|--|--|
|    |   |  |  |
| 1  | 情報の表現(1)  | 紙メディアから電子メディアへの移行<br>プレゼンテーション技術1<br>スライド基本操作                    | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 2  | 情報の表現(2)  | プレゼンテーション技術2<br>図の挿入と編集、<br>クリップアートとスマートアート                      | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 3  | 情報の表現(3)  | プレゼンテーション技術3<br>アニメーションの設定<br>発表の基本確認                            | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 4  | 情報の表現(4)  | プレゼンテーション技術4<br>表示設定の応用と発表用ツールの確認                                | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 5  | 情報の表現応用   | 画像編集の基本知識<br>画像編集アプリケーションソフト学習<br>とプレゼンテーションソフト上における<br>連携       | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 6  | 課題1制作(1)  | 提示テーマに沿ったスライドの作成。<br>表示リボンの活用と発表原稿の作成。ノ<br>ート機能、配布資料、印刷時の注意      | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 7  | 課題1制作(2)  | リハーサル機能の活用と発表用原稿と<br>のリンク  | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 8  | アプリケーションの連携<br>(1)<br>レポート活用の為のアプリ<br>ケーションソフトの連携           | 効果的な論文作成の為の参考資料ツ<br>ールの利用1 スタイル設定学習                              | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 9  | アプリケーションの連携<br>(2)<br>レポート活用の為のアプリ<br>ケーションソフトの連携           | 効果的な論文作成の為の参考資料ツ<br>ールの利用2 参考資料ツールの確認                            | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 10 | アプリケーションの連携<br>(3)<br>レポート資料分析ツールの<br>使用とアプリケーションソ<br>フトの連携 | 論文作成用データ分析の為の excel 分<br>析ツールの利用                                 | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 11 | アプリケーションの連携ま<br>とめ<br>Office ツール総合利用練習                      | Office ツールを総合的に使用したレポ<br>ートの作成                                   | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>アプリケーションの連携課題作成   |
| 12 | 総合課題演習  | Office ツールを総合的に使用した課題<br>の作成<br>提示されたテーマにそってレポートお<br>よびグループ発表の準備 | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>総合課題作成            |
| 13 | 総合課題演習  | Office ツールを総合的に使用した課題<br>の作成<br>提示されたテーマにそってレポートお<br>よびグループ発表の準備 | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>総合課題作成            |
| 14 | プレゼンテーション発表<br>(1)  | グループ発表、および質疑応答と評価  | プレゼンテーション発表<br>内容の把握と整理                  |
| 15 | プレゼンテーション発表<br>(2)  | グループ発表、および質疑応答と評価  | プレゼンテーション発表<br>内容の把握と整理                  |

関連科目 情報処理Ⅰを修得していることが望ましい

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
|     | 1  |     |     |      |
| 2   |    |     |     |      |
| 3   |    |     |     |      |

|               |  |                               |       |      |
|---------------|--|-------------------------------|-------|------|
| 参考書           | 番号   | 書籍名                           | 著者名   | 出版社名 |
|               | 1  | Windows10・Office2016による情報処理入門 | 安積淳 他 | 実教出版 |
|               | 2  |                               |       |      |
|               | 3  |                               |       |      |
| 評価方法<br>(基準)  | 80%以上の出席率を必要とする。<br>授業参加状況、毎回の課題（練習問題）、実技を含む重要課題を総合して評価する。<br>(授業参加状況および毎回の課題 40%、中間課題 30%、期末課題 30%)   |                               |       |      |
| 学生への<br>メッセージ | 使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお薦めします。<br>多くの先輩が「情報処理Ⅰ」「情報処理Ⅱ」の受講後、独学でMOS (Microsoft Office Specialist マイクロソフト オフィススペシャリスト) に合格しています。資格取得の足掛かりにも有用です。<br>プレゼンテーションスキルは就職活動だけでなく、社会に出てからも役立つ技術です。 |                               |       |      |
| 担当者の<br>研究室等  | 11号館6階(経営学部非常勤講師室)   |                               |       |      |
| 備考            | 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。   |                               |       |      |

|               |            |         |                           |
|---------------|------------|---------|---------------------------|
| 科目名           | 情報処理Ⅱ      | 科目名(英文) | Information Processing II |
| 学部            | 外国語学部      | 学科      | 外国語学科                     |
| 配当年次          | 1年         | クラス     | 1                         |
| 単位数           | 2          | 履修区分    | 選択科目                      |
| 学期            | 後期         | 授業担当者   | 星山 幸子                     |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1△, DP2△ |         |                           |
| 科目ナンバリング      | L1L1328a1  |         |                           |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | 情報処理Ⅰに引き続き、パーソナルコンピュータを操作して情報処理の基礎を学習する。情報を発信する側に必要とされる技能として、効果的なプレゼンテーションの学習、画像処理の知識、プログラミングの基本を習得する。これらの作業によってコンピュータの機能についてさらに知識を深め、その特性と有用性についてより深く理解するものとする。                                       |
| 到達目標        | 効率的な論文ツールの活用、画像編集、就活時にアピールできるプレゼンテーション能力の獲得等、情報発信に必要とされる知識を習得する。   |
| 授業方法と留意点    | 情報処理Ⅰのテキストと配布資料を用いて演習形式で行う。<br>毎回課題が出題される。課題を提出しない場合は欠席とみなされるので注意すること。<br>授業時間内に課題を完成できない場合、次週までに提出することが求められる。<br>出席率が8割に満たない場合は単位を認めない。<br>学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。                             |
| 科目学習の効果(資格) | 就活時にアピールできるIT系の資格に挑戦するためにも役立つ講座である。<br>身近なものとしてはMOS等のマイクロソフト認定資格やITパスポート等が挙げられる。<br>情報処理授業単位取得後、独学でMOSを取得した学生も多い。資格取得の足掛かりとして活用してほしい。<br>特に、プレゼンテーションの技術は、就活時にアピールできるだけでなく社会人としても役立つものなので、ぜひとも習得してほしい。 |

| 回数 | 授業テーマ   | 内容・方法等   | 事前・事後学習課題                                |
|----|---|--|--|
|    |   |  |  |
| 1  | 情報の表現(1)  | 紙メディアから電子メディアへの移行<br>プレゼンテーション技術1<br>スライド基本操作                    | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 2  | 情報の表現(2)  | プレゼンテーション技術2<br>図の挿入と編集、<br>クリップアートとスマートアート                      | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 3  | 情報の表現(3)  | プレゼンテーション技術3<br>アニメーションの設定<br>発表の基本確認                            | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 4  | 情報の表現(4)  | プレゼンテーション技術4<br>表示設定の応用と発表用ツールの確認                                | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 5  | 情報の表現応用   | 画像編集の基本知識<br>画像編集アプリケーションソフト学習<br>とプレゼンテーションソフト上における<br>連携       | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 6  | まとめ課題1制作(1)   | 提示テーマに沿ったスライドの作成。<br>表示リボンの活用と発表原稿の作成。ノ<br>ート機能、配布資料、印刷時の注意      | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 7  | まとめ課題1制作(2)   | リハーサル機能の活用と発表用原稿と<br>のリンク  | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 8  | アプリケーションの連携<br>(1)<br>レポート活用の為のアプリ<br>ケーションソフトの連携           | 効果的な論文作成の為の参考資料ツ<br>ールの利用1 スタイル設定学習                              | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 9  | アプリケーションの連携<br>(2)<br>レポート活用の為のアプリ<br>ケーションソフトの連携           | 効果的な論文作成の為の参考資料ツ<br>ールの利用2 参考資料ツールの確認                            | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 10 | アプリケーションの連携<br>(3)<br>レポート資料分析ツールの<br>使用とアプリケーションソ<br>フトの連携 | 論文作成用データ分析の為の excel 分<br>析ツールの利用                                 | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 11 | まとめ課題2<br>アプリケーションの連携<br>Office ツール総合利用練習                   | Office ツールを総合的に使用したレポ<br>ートの作成                                   | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>アプリケーションの連携課題作成   |
| 12 | 総合課題演習  | Office ツールを総合的に使用した課題<br>の作成<br>提示されたテーマにそってレポートお<br>よびグループ発表の準備 | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>総合課題作成            |
| 13 | 総合課題演習  | Office ツールを総合的に使用した課題<br>の作成<br>提示されたテーマにそってレポートお<br>よびグループ発表の準備 | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>総合課題作成            |
| 14 | プレゼンテーション発表<br>(1)  | グループ発表、および質疑応答と評価  | プレゼンテーション発表<br>内容の把握と整理                  |
| 15 | プレゼンテーション発表<br>(2)  | グループ発表、および質疑応答と評価  | プレゼンテーション発表<br>内容の把握と整理                  |

関連科目 情報処理Ⅰを修得していることが望ましい

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1  |     |     |      |
| 2  |     |     |      |
| 3  |     |     |      |

|               |   |                               |       |      |
|---------------|---|-------------------------------|-------|------|
| 参考書           | 番号  | 書籍名                           | 著者名   | 出版社名 |
|               | 1   | Windows10・Office2016による情報処理入門 | 安積淳 他 | 実教出版 |
|               | 2   |                               |       |      |
|               | 3   |                               |       |      |
| 評価方法<br>(基準)  | 80%以上の出席率を必要とする。<br>授業参加状況および毎回の課題：40%，まとめ課題1及びまとめ課題2：40%，総合課題：20%として評価する。  |                               |       |      |
| 学生への<br>メッセージ | 使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお薦めします。<br>多くの先輩が「情報処理Ⅰ」「情報処理Ⅱ」の受講後、独学でMOS (Microsoft Office Specialist マイクロソフト オフィスペシャリスト) に合格しています。資格取得の足掛かりにも有用です。<br>プレゼンテーションスキルは就職活動だけでなく、社会に出てからも役立つ技術です。 |                               |       |      |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館2階(非常勤講師室)   |                               |       |      |
| 備考            | 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。  |                               |       |      |

|               |            |         |                           |
|---------------|------------|---------|---------------------------|
| 科目名           | 情報処理Ⅱ      | 科目名(英文) | Information Processing II |
| 学部            | 外国語学部      | 学科      | 外国語学科                     |
| 配当年次          | 1年         | クラス     | 1                         |
| 単位数           | 2          | 履修区分    | 選択科目                      |
| 学期            | 後期         | 授業担当者   | 藤木 健史                     |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1△, DP2△ |         |                           |
| 科目ナンバリング      | L1L1328a1  |         |                           |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | 情報処理Ⅰに引き続き、パーソナルコンピュータを操作して情報処理の基礎を学習する。情報を発信する側に必要とされる技能として、効果的なプレゼンテーションの学習、画像処理の知識、プログラミングの基本を習得する。これらの作業によってコンピュータの機能についてさらに知識を深め、その特性と有用性についてより深く理解するものとする。                                       |
| 到達目標        | 効率的な論文ツールの活用、画像編集、就活時にアピールできるプレゼンテーション能力の獲得等、情報発信に必要とされる知識を習得する。   |
| 授業方法と留意点    | 情報処理Ⅰのテキストと配布資料を用いて演習形式で行う。<br>毎回課題が出題される。課題を提出しない場合は欠席とみなされるので注意すること。<br>授業時間内に課題を完成できない場合、次週までに提出することが求められる。<br>出席率が8割に満たない場合は単位を認めない。<br>学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。                             |
| 科目学習の効果(資格) | 就活時にアピールできるIT系の資格に挑戦するためにも役立つ講座である。<br>身近なものとしてはMOS等のマイクロソフト認定資格やITパスポート等が挙げられる。<br>情報処理授業単位取得後、独学でMOSを取得した学生も多い。資格取得の足掛かりとして活用してほしい。<br>特に、プレゼンテーションの技術は、就活時にアピールできるだけでなく社会人としても役立つものなので、ぜひとも習得してほしい。 |

| 回数 | 授業テーマ   | 内容・方法等   | 事前・事後学習課題                                |
|----|---|--|--|
|    |   |  |  |
| 1  | 情報の表現(1)  | 紙メディアから電子メディアへの移行<br>プレゼンテーション技術1<br>スライド基本操作                    | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 2  | 情報の表現(2)  | プレゼンテーション技術2<br>図の挿入と編集、<br>クリップアートとスマートアート                      | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 3  | 情報の表現(3)  | プレゼンテーション技術3<br>アニメーションの設定<br>発表の基本確認                            | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 4  | 情報の表現(4)  | プレゼンテーション技術4<br>表示設定の応用と発表用ツールの確認                                | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 5  | 情報の表現応用   | 画像編集の基本知識<br>画像編集アプリケーションソフト学習<br>とプレゼンテーションソフト上における<br>連携       | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 6  | 課題1制作(1)  | 提示テーマに沿ったスライドの作成。<br>表示リボンの活用と発表原稿の作成。ノ<br>ート機能、配布資料、印刷時の注意      | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 7  | 課題1制作(2)  | リハーサル機能の活用と発表用原稿と<br>のリンク  | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 8  | アプリケーションの連携<br>(1)<br>レポート活用の為のアプリ<br>ケーションソフトの連携           | 効果的な論文作成の為の参考資料ツ<br>ールの利用1 スタイル設定学習                              | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 9  | アプリケーションの連携<br>(2)<br>レポート活用の為のアプリ<br>ケーションソフトの連携           | 効果的な論文作成の為の参考資料ツ<br>ールの利用2 参考資料ツールの確認                            | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 10 | アプリケーションの連携<br>(3)<br>レポート資料分析ツールの<br>使用とアプリケーションソ<br>フトの連携 | 論文作成用データ分析の為の excel 分<br>析ツールの利用                                 | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>授業の内容をまとめた演習問題に解答 |
| 11 | アプリケーションの連携ま<br>とめ<br>Office ツール総合利用練習                      | Office ツールを総合的に使用したレポ<br>ートの作成                                   | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>アプリケーションの連携課題作成   |
| 12 | 総合課題演習  | Office ツールを総合的に使用した課題<br>の作成<br>提示されたテーマにそってレポートお<br>よびグループ発表の準備 | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>総合課題作成            |
| 13 | 総合課題演習  | Office ツールを総合的に使用した課題<br>の作成<br>提示されたテーマにそってレポートお<br>よびグループ発表の準備 | 配布資料の確認<br>内容の把握と整理<br>総合課題作成            |
| 14 | プレゼンテーション発表<br>(1)  | グループ発表、および質疑応答と評価  | プレゼンテーション発表<br>内容の把握と整理                  |
| 15 | プレゼンテーション発表<br>(2)  | グループ発表、および質疑応答と評価  | プレゼンテーション発表<br>内容の把握と整理                  |

関連科目 情報処理Ⅰを修得していることが望ましい

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
|     | 1  |     |     |      |
| 2   |    |     |     |      |
| 3   |    |     |     |      |

|               |  |                               |       |      |
|---------------|--|-------------------------------|-------|------|
| 参考書           | 番号   | 書籍名                           | 著者名   | 出版社名 |
|               | 1  | Windows10・Office2016による情報処理入門 | 安積淳 他 | 実教出版 |
|               | 2  |                               |       |      |
|               | 3  |                               |       |      |
| 評価方法<br>(基準)  | 80%以上の出席率を必要とする。<br>授業参加状況、毎回の課題（練習問題）、実技を含む重要課題を総合して評価する。<br>(授業参加状況および毎回の課題 40%、中間課題 30%、期末課題 30%)   |                               |       |      |
| 学生への<br>メッセージ | 使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。<br>多くの先輩が「情報処理Ⅰ」「情報処理Ⅱ」の受講後、独学でMOS (Microsoft Office Specialist マイクロソフト オフィススペシャリスト) に合格しています。資格取得の足掛かりにも有用です。<br>プレゼンテーションスキルは就職活動だけでなく、社会に出てからも役立つ技術です。 |                               |       |      |
| 担当者の<br>研究室等  | 11号館6階(経営学部非常勤講師室)   |                               |       |      |
| 備考            | 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。   |                               |       |      |

|                |                  |          |           |
|----------------|------------------|----------|-----------|
| 科目名            | スペイン語 I          | 科目名 (英文) | Spanish I |
| 学部             | 外国語学部            | 学科       | 外国語学科     |
| 配当年次           | 2年               | クラス      | 1         |
| 単位数            | 2                | 履修区分     | 選択必修科目    |
| 学期             | 前期               | 授業担当者    | 北條 ゆかり    |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |          |           |
| 科目ナンバリング       | LSP1309e1        |          |           |

|              |   |
|--------------|---|
| 授業概要・目的      | この授業ではスペイン語の文法の基礎を学び、基本的な単語を覚え、聴く・話すことに重点をおいて授業を進めます。   |
| 到達目標         | スペイン語で日常の簡単な会話ができるようになる。広域なスペイン語圏に関心を持ち、その文化に親しむ。   |
| 授業方法と留意点     | 前期ではアルファベットと発音から始め、第5課まで学習する予定。<br>受講にあたっては教科書、西和辞典、配布されたプリント等を持参すること。<br>ただし、以下の授業計画は目安であり、受講生の理解度により進度を調整することがある。 |
| 科目学習の効果 (資格) | スペイン語検定6級   |

| 回数 | 授業テーマ                               | 内容・方法 等   | 事前・事後学習課題                                     |
|----|-------------------------------------|---|---|
|    |                                     |   |   |
| 2  | 第1課                                 | アルファベットと発音の解説。  | 授業後、スペイン語の発音の法則を確認し、声に出して練習する。<br>基数1～10を覚える。 |
| 3  | 前回の復習<br>第1課                        | アルファベットと発音の徹底。<br>音節分けとアクセント  | 単語の読みだけでなく、短い文を読む練習をし、イントネーションを身につける。         |
| 4  | 前回の復習<br>第2課                        | 名詞の性と数  | 授業後、名詞の性・数の法則を確認して覚える。<br>会話を声に出して繰り返し練習する。   |
| 5  | 前回の復習<br>第2課                        | 冠詞 (不定冠詞と定冠詞)   | 会話を声に出して繰り返し練習する。基数11～20を覚える。                 |
| 6  | 理解度確認テスト (1)<br>第3課                 | 発音、アクセント、名詞に関する確認テスト<br>動詞 ser の活用                                    | 会話を声に出して繰り返し練習する。                             |
| 7  | 理解度確認テスト (1) の見直し<br>第3課            | これまでの復習<br>動詞 ser の用法<br>形容詞の性と数                                      | 授業後、動詞 ser の使い方を確認する。<br>会話を声に出して繰り返し練習する。    |
| 8  | 前回の復習<br>第4課                        | 動詞 estar の活用と用法   | 授業後、動詞 estar の活用を確認する。                        |
| 9  | 前回の復習<br>第4課                        | 動詞 hay の用法<br>ser と estar の区別<br>estar と hay の区別                      | 会話を声に出して繰り返し練習する。                             |
| 10 | 理解度確認テスト (2)<br>スペイン語文読解にチャレンジ      | 動詞 ser, estar, hay の活用と用法に関する確認テスト<br>各課の後ろにある Lectura の文章を読み、文法事項を復習 | 辞書の使い方に慣れる                                    |
| 11 | 理解度確認テスト (2) の見直し<br>スペイン語文読解にチャレンジ | これまでの復習<br>各課の後ろにある Lectura の文章を読み、文法事項を復習                            | 基本単語を覚える                                      |
| 12 | 前回の復習<br>第5課                        | -ar 動詞の規則活用と用法  | 動詞活用の練習                                       |
| 13 | 前回の復習<br>第5課                        | 疑問詞の使い方   | 作文練習  |
| 14 | これまでの復習                             | 積み残しの総整理  | 基数の確認<br>会話を声に出して読んでみる。                       |
| 15 | 学習内容の確認                             | 前期に学習した文法および語彙・基本表現の臨時試験。   | 授業前に前期に学習した文法や語彙・表現を総確認しておくこと。                |

|      |          |
|------|----------|
| 関連科目 | スペイン語圏概論 |
|------|----------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名        | 著者名      | 出版社名 |
|-----|----|------------|----------|------|
|     | 1  | ブラサ・マヨール I | E・アルマラス他 | 朝日出版 |
| 2   |    |            |          |      |

| 参考書 | 番号 | 書籍名                 | 著者名  | 出版社名 |
|-----|----|---------------------|------|------|
|     | 1  | ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典 | 高垣ほか | 小学館  |
| 2   |    |                     |      |      |

|           |   |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 一定程度進んだ段階で理解度確認テスト (30%)<br>最終週に既習範囲を対象とする臨時試験 (50%)<br>しばしば行う単語テスト (20%) |
|-----------|---|

|           |  |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 初めて学ぶ外国語は覚えるべきことが多いですが、スペイン語は母音が日本語と同じなので発音はとても簡単です。文法をマスターし語彙を増やすことで、スペイン語で発信することができるようになります。 |
|-----------|--|

|          |             |
|----------|-------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館5階 北條研究室 |
|----------|-------------|

|    |  |
|----|--|
| 備考 | 事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。<br>理解度確認テストに関するフィードバックはその次週、確認試験に関するフィードバックは当日、解答例を配布し解説し、後日、北條研究室で答案を返却する。 |
|----|--|



|                |                  |          |           |
|----------------|------------------|----------|-----------|
| 科目名            | スペイン語 I          | 科目名 (英文) | Spanish I |
| 学部             | 外国語学部            | 学科       | 外国語学科     |
| 配当年次           | 2年               | クラス      | 2         |
| 単位数            | 2                | 履修区分     | 選択必修科目    |
| 学期             | 前期               | 授業担当者    | 篠原 愛人     |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |          |           |
| 科目ナンバリング       | LSP1309e1        |          |           |

|              |   |
|--------------|---|
| 授業概要・目的      | この授業ではスペイン語の文法の基礎を学び、基本的な単語を覚え、聴く・話すことに重点をおいて授業を進めます。   |
| 到達目標         | スペイン語で日常の簡単な会話ができるようになる。広域なスペイン語圏に関心を持ち、その文化に親しむ。   |
| 授業方法と留意点     | 前期ではアルファベットと発音から始め、第5課まで学習する予定。<br>受講にあたっては教科書、西和辞典、配布されたプリント等を持参すること。<br>ただし、以下の授業計画は目安であり、受講生の理解度により進度を調整することがある。 |
| 科目学習の効果 (資格) | スペイン語検定 6級  |

| 回数 | 授業テーマ                               | 内容・方法 等   | 事前・事後学習課題                                       |
|----|-------------------------------------|---|---|
|    |                                     |   |   |
| 2  | 第1課                                 | アルファベットと発音の解説。  | 授業後、スペイン語の発音の法則を確認し、声に出して練習する。<br>基数 1～10 を覚える。 |
| 3  | 前回の復習<br>第1課                        | アルファベットと発音の徹底。<br>音節分けとアクセント  | 単語の読みだけでなく、短い文を読む練習をし、イントネーションを身につける。           |
| 4  | 前回の復習<br>第2課                        | 名詞の性と数  | 授業後、名詞の性・数の法則を確認して覚える。<br>会話を声に出して繰り返し練習する。     |
| 5  | 前回の復習<br>第2課                        | 冠詞 (不定冠詞と定冠詞)   | 会話を声に出して繰り返し練習する。基数 11～20 を覚える。                 |
| 6  | 理解度確認テスト (1)<br>第3課                 | 発音、アクセント、名詞に関する確認テスト<br>動詞 ser の活用                                    | 会話を声に出して繰り返し練習する。                               |
| 7  | 理解度確認テスト (1) の見直し<br>第3課            | これまでの復習<br>動詞 ser の用法<br>形容詞の性と数                                      | 授業後、動詞 ser の使い方を確認する。<br>会話を声に出して繰り返し練習する。      |
| 8  | 前回の復習<br>第4課                        | 動詞 estar の活用と用法   | 授業後、動詞 estar の活用を確認する。                          |
| 9  | 前回の復習<br>第4課                        | 動詞 hay の用法<br>ser と estar の区別<br>estar と hay の区別                      | 会話を声に出して繰り返し練習する。                               |
| 10 | 理解度確認テスト (2)<br>スペイン語文読解にチャレンジ      | 動詞 ser, estar, hay の活用と用法に関する確認テスト<br>各課の後ろにある Lectura の文章を読み、文法事項を復習 | 辞書の使い方に慣れる                                      |
| 11 | 理解度確認テスト (2) の見直し<br>スペイン語文読解にチャレンジ | これまでの復習<br>各課の後ろにある Lectura の文章を読み、文法事項を復習                            | 基本単語を覚える  |
| 12 | 前回の復習<br>第5課                        | -ar 動詞の規則活用と用法  | 動詞活用の練習   |
| 13 | 前回の復習<br>第5課                        | 疑問詞の使い方   | 作文練習  |
| 14 | これまでの復習                             | 積み残しの総整理  | 基数の確認<br>会話を声に出して読んでみる。                         |
| 15 | 学習内容の確認                             | 前期に学習した文法および語彙・基本表現の臨時試験。   | 授業前に前期に学習した文法や語彙・表現を総確認しておくこと。                  |

|      |          |
|------|----------|
| 関連科目 | スペイン語圏概論 |
|------|----------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名        | 著者名      | 出版社名 |
|-----|----|------------|----------|------|
|     | 1  | ブラサ・マヨール I | E・アルマラス他 | 朝日出版 |
| 2   |    |            |          |      |

| 参考書 | 番号 | 書籍名                 | 著者名  | 出版社名 |
|-----|----|---------------------|------|------|
|     | 1  | ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典 | 高垣ほか | 小学館  |
| 2   |    |                     |      |      |

|           |   |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 一定程度進んだ段階で理解度確認テスト (30%)<br>最終週に既習範囲を対象とする臨時試験 (50%)<br>しばしば行う単語テスト (20%) |
|-----------|---|

|           |   |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 初めて学ぶ外国語は覚えるべきことが多いですが、スペイン語は母音が日本語と同じなので発音はとて簡単です。文法をマスターし語彙を増やすことで、スペイン語で発信することができるようになります。 |
|-----------|---|

|          |              |
|----------|--------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階 非常勤講師室 |
|----------|--------------|

|    |   |
|----|---|
| 備考 | 事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。<br>理解度確認テストに関するフィードバックはその次週、確認試験に関するフィードバックは当日解答例を配布し解説し、後日、北條研究室で答案を返却する。 |
|----|---|

|               |                  |         |            |
|---------------|------------------|---------|------------|
| 科目名           | スペイン語Ⅱ           | 科目名(英文) | Spanish II |
| 学部            | 外国語学部            | 学科      | 外国語学科      |
| 配当年次          | 2年               | クラス     |            |
| 単位数           | 2                | 履修区分    | 選択科目       |
| 学期            | 後期               | 授業担当者   | 篠原 愛人      |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |         |            |
| 科目ナンバリング      | LSP1310e1        |         |            |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | この授業ではスペイン語の文法の基礎を学び、基本的な単語を覚え、聴く・話すことに重点をおいて授業を進めます。   |
| 到達目標        | スペイン語で日常の簡単な会話ができるようになる。<br>スペイン語圏の文化に親しむ。  |
| 授業方法と留意点    | 後期では第6課から第9課まで学習する予定です。<br>受講にあたっては教科書、西和辞典、配布されたプリント等を持参すること。<br>ただし、以下の授業計画は目安であり、受講生の理解度により進度を調整することがあります。 |
| 科目学習の効果(資格) | スペイン語検定6級   |

| 回数 | 授業テーマ                             | 内容・方法等   | 事前・事後学習課題   |
|----|-----------------------------------|--|---|
|    |                                   |  |   |
| 1  | 前期の学習内容の確認                        | 前期で学習したことの確認(動詞の活用を中心に)                            | 授業前に前期で学習したことを総復習しておくこと。<br>授業後は動詞の活用の確認。         |
| 2  | 第6課                               | -er 動詞、-ir 動詞の規則活用                                 | 授業後、月名・曜日・日付に関する語彙を覚えること。<br>会話文を声に出して繰り返し練習する。   |
| 3  | 前回の復習<br>第6課                      | 動詞の活用<br>所有格の総まとめ                                  | 授業後、会話文を声に出して繰り返し練習する。                            |
| 4  | 前回の復習<br>第6課                      | 基本的な動詞の用法  | 会話文を声に出して繰り返し練習する。                                |
| 5  | 理解度確認テスト(1)<br>第7課                | -ar、-er、-ir 動詞の活用と用法に関するテスト<br>目的格人称代名詞            | 授業後、会話文を声に出して繰り返し練習する。                            |
| 6  | 理解度確認テスト(1)の見直し<br>第7課            | 動詞の活用と用法に関する確認テストの見直し<br>gustar 型動詞                | 授業後、規則動詞の確認をすること。<br>会話文を声に出して繰り返し練習する。           |
| 7  | 前回の復習<br>第8課                      | 語幹母音変化動詞   | 授業後、動詞の活用を確認すること。<br>会話文を声に出して繰り返し練習する。           |
| 8  | 前回の復習<br>第8課                      | 語幹母音変化動詞(2)<br>querer と poder の用法                  | 語幹母音変化動詞の活用をしっかりと練習すること                           |
| 9  | 理解度確認テスト(2)<br>第9課                | 語幹母音変化動詞の活用と gustar 型動詞の用法に関するテスト<br>1人称単数形が不規則な動詞 | 授業後、動詞の活用と用法を確認すること。<br>会話文を声に出して繰り返し練習する。        |
| 10 | 理解度確認テスト(2)の見直し<br>第9課            | テストの見直しをして理解できていない箇所を復習<br>hacer の使い方              | 試験前に既習事項(特に動詞の活用)を復習しておくこと。<br>会話文を声に出して繰り返し練習する。 |
| 11 | 前回の復習<br>第9課                      | その他の不規則動詞の活用と用法                                    | 授業後、受身表現を確認すること。<br>会話文を声に出して繰り返し練習する。            |
| 12 | 理解度確認テスト(3)                       | 不規則変化動詞の活用と用法に関するテスト                               | 授業後、形容詞・副詞の最上級を確認すること。<br>会話文を声に出して繰り返し練習する。      |
| 13 | 理解度確認テスト(3)の見直し<br>スペイン語文読解にチャレンジ | テストの復習<br>各課の終わりにある Lectura を読み、文法事項を確認する          | 授業後、不規則変化動詞の活用と用法を復習する<br>会話文を声に出して繰り返し練習する。      |
| 14 | これまでの復習<br>スペイン語文読解にチャレンジ         | 弱点の克服  | 会話文を声に出して繰り返し練習する。                                |
| 15 | 学習内容の確認                           | 後期に学習した文法および語彙・基本表現の臨時試験と総復習                       | 授業前に後期に学習した文法や語彙・表現を総確認しておくこと。                    |

|      |                     |
|------|---------------------|
| 関連科目 | エリア・スタディーズ(ラテンアメリカ) |
|------|---------------------|

|     |    |          |         |      |
|-----|----|----------|---------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名      | 著者名     | 出版社名 |
|     | 1  | プラサ・マヨール | E・アルマラス | 朝日出版 |
|     | 2  |          |         |      |

|     |    |                     |      |      |
|-----|----|---------------------|------|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名                 | 著者名  | 出版社名 |
|     | 1  | ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典 | 高垣ほか | 小学館  |
|     | 2  |                     |      |      |

|           |   |
|-----------|---|
| 評価方法(基準)  | 一定程度進んだ段階で行う、理解度確認テスト(30%)<br>最終週に行う、既習範囲を対象とする到達度確認テスト(50%)、<br>ときどき行う単語テスト(20%)と合わせて総合的に評価する。 |
| 学生へのメッセージ | 今学期では、前期で学習したことをさらに進めて多くの表現ができるようになります。間違いを怖れず積極的に会話をしましょう。                                     |
| 担当者の研究室等  | 7号館2階 非常勤講師控室   |
| 備考        | 事前・事後学修に各1時間を要する。<br>毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。                                    |

|               |                  |         |             |
|---------------|------------------|---------|-------------|
| 科目名           | スペイン語Ⅲ           | 科目名(英文) | Spanish III |
| 学部            | 外国語学部            | 学科      | 外国語学科       |
| 配当年次          | 3年               | クラス     |             |
| 単位数           | 2                | 履修区分    | 選択科目        |
| 学期            | 前期               | 授業担当者   | 西村 初美       |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |         |             |
| 科目ナンバリング      | LSP2311e1        |         |             |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | この授業では文法の基礎を学び、基本的な単語を覚え、聴くこと話すことに重点をおき会話力をつける。<br>使用するテキスト『El tesoro de España (スペインの宝)』は、主人公である日本人がスペインを旅するストーリー性のある内容となっている。空港やホテル、各地での観光やお祭・食べ物等のエピソードを通して実際に現地で使えるスペイン語を学習する。 |
| 到達目標        | スペイン語の基本的な文法・語句を学び、スペイン語圏への知識と興味を深める。  |
| 授業方法と留意点    | 受講に当たっては、教科書に加えて授業中に配布されたプリント等も持参すること。<br>必要に応じて小テストを実施する。<br>以下に記す授業計画は目安であり、受講生の理解度によって進度を調整することがある。   |
| 科目学習の効果(資格) | スペイン語検定6級または5級   |

| 回数 | 授業テーマ                               | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題                   |
|----|-------------------------------------|---|-----------------------------|
|    |                                     |   |                             |
| 1  | これまでの学習内容の確認(1)                     | スペイン語Ⅰ、Ⅱで習った文法事項や表現を復習する。<br>自己紹介の会話。                                   | 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。 |
| 2  | これまでの学習内容の確認(2)<br>テキスト第1課:マドリード(1) | スペイン語Ⅰ、Ⅱで習った文法事項や表現を復習する。<br>空港での会話。                                    | 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。 |
| 3  | テキスト第2・3課<br>マドリード(2)・(3)           | 動詞 ser「…である」、estar「…の状態である；…にいる」の用法を学ぶ。<br>ホテルでチェックインの会話。<br>健康をたずねる会話。 | 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。 |
| 4  | テキスト第4課<br>マドリード(4)                 | 動詞 ir「行く」、venir「来る」の用法を学ぶ。<br>プラド美術館の概要を解説。                             | 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。 |
| 5  | テキスト第5・6課<br>セビリア(1)・(2)            | 動詞 tener「持つ」、hablar「話す」の用法を学ぶ。<br>タクシーに乗る時の会話。<br>スペインの新幹線 AVE の概要を解説。  | 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。 |
| 6  | テキスト第7課<br>セビリア(3)                  | 動詞 comer「食べる」の用法を学ぶ。<br>飲食についての語句を知る。<br>居酒屋での会話。                       | 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。 |
| 7  | テキスト第8課<br>セビリア(4)                  | 動詞 vivir「生きる・住む」の用法を学ぶ。<br>都市名を知る。                                      | 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。 |
| 8  | 臨時試験と解説                             | 前半の学習内容の理解度確認と解説  | ここまで学習した文法・語彙・表現を総確認しておくこと。 |
| 9  | テキスト第9課<br>バルセロナ(1)                 | 動詞 querer「…欲する」の用法を学ぶ。<br>交通に関する語句を知る。<br>カタルーニャの概要の説明。                 | 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。 |
| 10 | テキスト第10課<br>バルセロナ(2)                | 動詞 poder「…できる」の用法を学ぶ。<br>バルセロナ観光での会話。<br>バルセロナについての概要を説明。               | 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。 |
| 11 | テキスト第11課<br>バルセロナ(3)                | 動詞 salir「去る」、llegar「着く」の用法を学ぶ。<br>買い物での会話。<br>建物の名称を知る。                 | 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。 |
| 12 | テキスト第12課<br>バルセロナ(4)                | 動詞 gustar「好かれる」、decir「言う」、dar「与える」の用法を学ぶ。<br>バルセロナ観光での会話。               | 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。 |
| 13 | テキスト第13課<br>バンブローナ(1)               | 動詞 levantarse「起きる」との用法を学ぶ。<br>衣服に関する語句を知る。<br>バンブローナの概要を説明。             | 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。 |
| 14 | テキスト第14課<br>バンブローナ(2)               | 再帰動詞を学ぶ。  | 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。 |
| 15 | 臨時試験と解説                             | 前期の学習内容の理解度確認と総復習。  | 前期で学習した文法・語彙・表現を総確認しておくこと。  |

|      |            |
|------|------------|
| 関連科目 | スペイン語Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ |
| 教科書  |            |

|               |  |                              |        |      |
|---------------|--|------------------------------|--------|------|
|               | 番号   | 書籍名                          | 著者名    | 出版社名 |
|               | 1  | El tesoro de Espana (スペインの宝) | 福島 教隆  | 同学社  |
|               | 2  |                              |        |      |
|               | 3  |                              |        |      |
| 参考書           | 番号   | 書籍名                          | 著者名    | 出版社名 |
|               | 1  | ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典          | 高垣敏博ほか | 小学館  |
|               | 2  |                              |        |      |
|               | 3  |                              |        |      |
| 評価方法<br>(基準)  | 会話(50%)、臨時試験(50%)  |                              |        |      |
| 学生への<br>メッセージ | 週一回の授業ですが、できるだけ声を出してスペイン語で話すことを心がけて下さい。そして、スペインの文化や習慣に触れながらスペイン語圏への興味を広げましょう。          |                              |        |      |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館2階 非常勤講師控室  |                              |        |      |
| 備考            | 事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。<br>毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。<br>臨時試験の解説はその時間内に行う。 |                              |        |      |

|               |                  |         |            |
|---------------|------------------|---------|------------|
| 科目名           | スペイン語IV          | 科目名(英文) | Spanish IV |
| 学部            | 外国語学部            | 学科      | 外国語学科      |
| 配当年次          | 3年               | クラス     |            |
| 単位数           | 2                | 履修区分    | 選択科目       |
| 学期            | 後期               | 授業担当者   | 西村 初美      |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |         |            |
| 科目ナンバリング      | LSP2312e1        |         |            |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | <p>スペイン語 III に引き続きテキスト『El tesoro de España (スペインの宝)』を用いて授業を進める。テキストは主人公である日本人がスペインを旅するストーリー性のある内容となっており、様々なエピソードを通して実際に現地で使えるスペイン語を学習する。</p> <p>なお、受講にあたっては、スペイン語 III の履修経験者がのぞましい。</p> |
| 到達目標        | <p>語彙を増やし、多くの表現法を学ぶことで会話力をつける。</p> <p>スペイン語圏の知識と興味をさらに深める。</p>  |
| 授業方法と留意点    | <p>受講にあたっては、教科書に加えて授業中に配布されたプリント等も持参すること。</p> <p>授業では会話に重点をおき、必要に応じて小テストを実施する。</p> <p>以下に記す授業計画は目安であり、受講生の理解度によって進度を調整することがある。</p>  |
| 科目学習の効果(資格) | <p>・スペイン語検定 6級・5級</p>   |

| 回数 | 授業テーマ                    | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題   |
|----|--------------------------|---|---|
|    |                          |   |   |
| 1  | 前期の学習内容の確認(1)            | 前期で習った文法事項や表現を復習する(第1課から第5課)  | 予習として、第1課から第5課までの確認をしておくこと。<br>授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。  |
| 2  | 前期の学習内容の確認(2)            | 前期で習った文法事項や表現を復習する(第6課から第10課)   | 予習として、第6課から10課までの確認をしておくこと。<br>授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。  |
| 3  | 前期の学習内容の確認(3)            | 前期で習った文法事項や表現を復習する(第11課から第14課)  | 予習として、第11課から14課までの確認をしておくこと。<br>授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。 |
| 4  | テキスト第15課<br>パンブローナ(3)    | 動詞 hacer「作る;する」の用法を学ぶ。<br>天体・四季・動植物に関する語句を知る。<br>天候の会話。<br>サン・フェルミン祭の概要の解説。 | 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。                                 |
| 5  | テキスト第16課<br>パンブローナ(4)    | 過去分詞・現在完了形を学ぶ。<br>否定語・不定語を使う会話。<br>牛追い祭の概要を解説。                              | 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。                                 |
| 6  | テキスト第17課<br>サン・セバスチャン(1) | 現在分詞、比較級・最上級の用法を学ぶ。<br>パソコン用語を知る。<br>パソコンを使いながらの会話。                         | 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。                                 |
| 7  | テキスト第18課<br>サン・セバスチャン(2) | 点過去形の用法(1)を学ぶ。<br>親族に関する語句を知る。<br>バスク地方とバスク語の概要を解説。                         | 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。                                 |
| 8  | 理解度確認テスト                 | 第15課から第18課まで学習した内容の理解度を確認する。  | テスト範囲の内容の確認と総復習をしておくこと。                                     |
| 9  | テキスト第19課<br>サン・セバスチャン(3) | 点過去形の用法(2)を学ぶ。<br>点過去形を使った会話。<br>かけ声に関する語句を知る。<br>バスク料理の概要を解説。              | 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。                                 |
| 10 | テキスト第20課<br>サン・セバスチャン(4) | 線過去形の用法を学ぶ。<br>線過去形を使った会話。<br>擬声語の語句を知る。<br>未来形の用法を学ぶ。                      | 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。                                 |
| 11 | テキスト第21課<br>ラ・コルーニャ(1)   | 未来形を使った会話。<br>サンチアゴ・デ・コンポステーラの概要を解説。  | 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。                                 |
| 12 | テキスト第22課<br>ラ・コルーニャ(2)   | 接続法の用法(1)を学ぶ。<br>感嘆・慣用句を知る。<br>ガリシアとガリシア語の概要を解説。                            | 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。                                 |
| 13 | テキスト第23課<br>ラ・コルーニャ(3)   | 接続法で願望・不確定・感情を表現する。<br>ラ・コルーニャの概要を解説。                                       | 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。                                 |
| 14 | テキスト第24課<br>ラ・コルーニャ(4)   | 接続法のまとめ。<br>動詞の時制のまとめ。  | 後期授業で学習した内容の確認と総復習をしておくこと。                                  |
| 15 | 臨時試験と総復習                 | 今学期で学習した内容についての理解度を確認する。  | これまでの総復習をしておくこと。  |

関連科目

|               |   |                              |        |      |
|---------------|---|------------------------------|--------|------|
| 教科書           | 番号  | 書籍名                          | 著者名    | 出版社名 |
|               | 1   | El tesoro de Espana (スペインの宝) | 福島 教隆  | 同学社  |
|               | 2   |                              |        |      |
|               | 3   |                              |        |      |
| 参考書           | 番号  | 書籍名                          | 著者名    | 出版社名 |
|               | 1   | ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典          | 高垣敏博ほか | 小学館  |
|               | 2   |                              |        |      |
|               | 3   |                              |        |      |
| 評価方法<br>(基準)  | 筆記試験 (50%)、会話 (50%) で評価する。  |                              |        |      |
| 学生への<br>メッセージ | 新しい語彙や表現が増えてきますが、授業は繰り返しゆっくり進めます。<br>声に出して話しましょう。   |                              |        |      |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館2階 講師控室  |                              |        |      |
| 備考            | 事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。<br>毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。<br>授業で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。 |                              |        |      |

|                |                  |          |                  |
|----------------|------------------|----------|------------------|
| 科目名            | スポーツ科学実習 I       | 科目名 (英文) | Sports Science I |
| 学部             | 外国語学部            | 学科       | 外国語学科            |
| 配当年次           | 1 年              | クラス      | 1                |
| 単位数            | 1                | 履修区分     | 選択科目             |
| 学期             | 前期               | 授業担当者    | 藤林 真美, 政岡 悟      |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1△, DP2△, DP5△ |          |                  |
| 科目ナンバリング       | LPH1329a1        |          |                  |

|              |  |
|--------------|--|
| 授業概要・目的      | 生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。<br>本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。   |
| 到達目標         | この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。  |
| 授業方法と留意点     | 実技形式で行う（雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある）。<br>開講種目は、以下のとおりである。<br>・体育館種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど）<br>・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、ラグビー、ニュースポーツなど）<br><br>※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡すること。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。   |

| 回数 | 授業テーマ                  | 内容・方法 等                                      | 事前・事後学習課題                               |
|----|------------------------|--|---|
|    |                        |  |   |
| 1  | ・ガイダンス                 | ・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）                       | 事前：授業概要・目的などを学習する<br>事後：本実習の理解を深める      |
| 2  | ・体力測定①                 | ・屋外種目  | 事前：運動を行い体力測定に備える<br>事後：自身の体力についての振り返り   |
| 3  | ・体力測定②                 | ・屋内種目  | 事前：運動を行い体力測定に備える<br>事後：自身の体力についての振り返り   |
| 4  | ・種目の概要<br>・基礎知識について    | ・種目の概要、基礎知識の説明                               | 事前：基礎知識を学習しておく<br>事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る |
| 5  | ・基本技術（導入編）<br>・簡易ゲーム   | ・種目におけるルール・マナーの説明<br>・種目の導入につながる運動<br>・簡易ゲーム | 事前：ルールについて学習しておく<br>事後：内容の振り返り          |
| 6  | ・基本技術（基礎編 1）<br>・簡易ゲーム | ・体力・技術の向上に必要な基礎運動<br>・簡易ゲーム                  | 事前：基礎技術に関する情報収集をする<br>事後：内容の振り返り        |
| 7  | ・基本技術（基礎編 2）<br>・簡易ゲーム | ・体力・技術の向上に必要な基礎運動<br>・簡易ゲーム                  | 事前：基礎技術に関する情報収集をする<br>事後：内容の振り返り        |
| 8  | ・基本技術（応用編 1）<br>・簡易ゲーム | ・体力の向上に必要な基礎運動<br>・基礎技術を応用した運動<br>・簡易ゲーム     | 事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする<br>事後：内容の振り返り     |
| 9  | ・基本技術（応用編 2）<br>・簡易ゲーム | ・体力の向上に必要な基礎運動<br>・基礎技術を応用した運動<br>・簡易ゲーム     | 事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする<br>事後：内容の振り返り     |
| 10 | ・ゲーム                   | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む               | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理<br>事後：内容の振り返り        |
| 11 | ・ゲーム                   | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む               | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理<br>事後：内容の振り返り        |
| 12 | ・ゲーム                   | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む               | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理<br>事後：内容の振り返り        |
| 13 | ・ゲーム                   | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む               | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理<br>事後：内容の振り返り        |
| 14 | ・ゲーム                   | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む               | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理<br>事後：内容の振り返り        |
| 15 | ・ゲーム                   | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む               | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理<br>事後：全授業の総括         |

|      |  |
|------|--|
| 関連科目 | 生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクスサイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際 |
|------|--|

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |

|           |   |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 活動点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。<br>なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。 |
|-----------|---|

|           |   |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 授業内容は、種目毎の例であり、それ以外を行うこともある。また本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F 体育館事務室へ来ること。 |
|-----------|---|

|          |                |
|----------|----------------|
| 担当者の研究室等 | 総合体育館1F 体育館事務室 |
|----------|----------------|

|    |  |
|----|--|
| 備考 | トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）<br>事前事後学習時間の総時間の目安は15時間。 |
|----|--|

|                |                  |          |                  |
|----------------|------------------|----------|------------------|
| 科目名            | スポーツ科学実習 I       | 科目名 (英文) | Sports Science I |
| 学部             | 外国語学部            | 学科       | 外国語学科            |
| 配当年次           | 1 年              | クラス      | 2                |
| 単位数            | 1                | 履修区分     | 選択科目             |
| 学期             | 前期               | 授業担当者    | 藤林 真美, 横山 喬之     |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1△, DP2△, DP5△ |          |                  |
| 科目ナンバリング       | LPH1329a1        |          |                  |

|              |  |
|--------------|--|
| 授業概要・目的      | 生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。<br>本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。   |
| 到達目標         | この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。  |
| 授業方法と留意点     | 実技形式で行う（雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある）。<br>開講種目は、以下のとおりである。<br>・体育館種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど）<br>・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、ラグビー、ニュースポーツなど）<br><br>※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡すること。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。   |

| 回数 | 授業テーマ                  | 内容・方法 等                                      | 事前・事後学習課題                               |
|----|------------------------|--|---|
|    |                        |  |   |
| 1  | ・ガイダンス                 | ・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）                       | 事前：授業概要・目的などを学習する<br>事後：本実習の理解を深める      |
| 2  | ・体力測定①                 | ・屋外種目  | 事前：運動を行い体力測定に備える<br>事後：自身の体力についての振り返り   |
| 3  | ・体力測定②                 | ・屋内種目  | 事前：運動を行い体力測定に備える<br>事後：自身の体力についての振り返り   |
| 4  | ・種目の概要<br>・基礎知識について    | ・種目の概要、基礎知識の説明                               | 事前：基礎知識を学習しておく<br>事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る |
| 5  | ・基本技術（導入編）<br>・簡易ゲーム   | ・種目におけるルール・マナーの説明<br>・種目の導入につながる運動<br>・簡易ゲーム | 事前：ルールについて学習しておく<br>事後：内容の振り返り          |
| 6  | ・基本技術（基礎編 1）<br>・簡易ゲーム | ・体力・技術の向上に必要な基礎運動<br>・簡易ゲーム                  | 事前：基礎技術に関する情報収集をする<br>事後：内容の振り返り        |
| 7  | ・基本技術（基礎編 2）<br>・簡易ゲーム | ・体力・技術の向上に必要な基礎運動<br>・簡易ゲーム                  | 事前：基礎技術に関する情報収集をする<br>事後：内容の振り返り        |
| 8  | ・基本技術（応用編 1）<br>・簡易ゲーム | ・体力の向上に必要な基礎運動<br>・基礎技術を応用した運動<br>・簡易ゲーム     | 事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする<br>事後：内容の振り返り     |
| 9  | ・基本技術（応用編 2）<br>・簡易ゲーム | ・体力の向上に必要な基礎運動<br>・基礎技術を応用した運動<br>・簡易ゲーム     | 事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする<br>事後：内容の振り返り     |
| 10 | ・ゲーム                   | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む               | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理<br>事後：内容の振り返り        |
| 11 | ・ゲーム                   | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む               | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理<br>事後：内容の振り返り        |
| 12 | ・ゲーム                   | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む               | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理<br>事後：内容の振り返り        |
| 13 | ・ゲーム                   | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む               | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理<br>事後：内容の振り返り        |
| 14 | ・ゲーム                   | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む               | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理<br>事後：内容の振り返り        |
| 15 | ・ゲーム                   | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む               | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理<br>事後：全授業の総括         |

関連科目 生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクスサイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |

評価方法 (基準) 活動点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。  
なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。

学生へのメッセージ 授業内容は、種目毎の例であり、それ以外を行うこともある。また本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F 体育館事務室へ来ること。

担当者の研究室等 総合体育館1F 体育館事務室

備考 トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）  
事前事後学習時間の総時間の目安は15時間。



|               |                  |         |                   |
|---------------|------------------|---------|-------------------|
| 科目名           | スポーツ科学実習Ⅱ        | 科目名(英文) | Sports Science II |
| 学部            | 外国語学部            | 学科      | 外国語学科             |
| 配当年次          | 1年               | クラス     | 1                 |
| 単位数           | 1                | 履修区分    | 選択科目              |
| 学期            | 後期               | 授業担当者   | 藤林 真美, 政岡 悟       |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1△, DP2△, DP5△ |         |                   |
| 科目ナンバリング      | LPH1330a1        |         |                   |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | <p>本科目では、スポーツ科学実習Ⅰで培った基礎的な技術を応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。</p> <p>本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。</p>  |
| 到達目標        | <p>この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。</p>   |
| 授業方法と留意点    | <p>実技形式で行う（雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある）。</p> <p>開講種目は、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど）</li> <li>・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、タグラグビー、ニュースポーツなど）</li> </ul> <p>※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡すること。</p> |
| 科目学習の効果(資格) | <p>基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。</p>  |

|      |    |                       |   |   |
|------|----|-----------------------|---|---|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ                 | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題                                 |
|      | 1  | ・ガイダンス                | ・ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)                          | 事前: 授業概要・目的などを学習する<br>事後: 本実習の理解を深める      |
|      | 2  | ・種目の概要<br>・基礎知識について   | ・種目の概要、基礎知識の説明                                  | 事前: 基礎知識を学習しておく<br>事後: 新しく学んだ基礎知識について振り返る |
|      | 3  | ・基本技術(導入編)<br>・簡易ゲーム  | ・種目におけるルール・マナーの説明<br>・種目の導入につながる運動<br>・簡易ゲーム    | 事前: ルールについて学習しておく<br>事後: 内容の振り返り          |
|      | 4  | ・基本技術(基礎編1)<br>・簡易ゲーム | ・体力・技術の向上に必要な基礎運動<br>・簡易ゲーム                     | 事前: 基礎技術に関する情報収集をする<br>事後: 内容の振り返り        |
|      | 5  | ・基本技術(基礎編2)<br>・簡易ゲーム | ・体力の向上に必要な基礎運動<br>・基礎技術を応用した運動<br>・簡易ゲーム        | 事前: 基礎技術に関する情報収集をする<br>事後: 内容の振り返り        |
|      | 6  | ・基本技術(応用編1)<br>・簡易ゲーム | ・体力の向上に必要な基礎運動<br>・基礎技術を応用した運動<br>・簡易ゲーム        | 事前: 基礎・応用技術に関する情報収集をする<br>事後: 内容の振り返り     |
|      | 7  | ・基本技術(応用編2)<br>・簡易ゲーム | ・体力の向上に必要な基礎運動<br>・基礎技術を応用した運動<br>・簡易ゲーム        | 事前: 基礎・応用技術に関する情報収集をする<br>事後: 内容の振り返り     |
|      | 8  | ・ゲーム                  | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む                  | 事前: ルール・技術等の確認と健康管理<br>事後: 内容の振り返り        |
|      | 9  | ・ゲーム                  | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む                  | 事前: ルール・技術等の確認と健康管理<br>事後: 内容の振り返り        |
|      | 10 | ・ゲーム                  | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む                  | 事前: ルール・技術等の確認と健康管理<br>事後: 内容の振り返り        |
|      | 11 | ・ゲーム                  | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む                  | 事前: ルール・技術等の確認と健康管理<br>事後: 内容の振り返り        |
|      | 12 | ・ゲーム                  | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む                  | 事前: ルール・技術等の確認と健康管理<br>事後: 内容の振り返り        |
|      | 13 | ・ゲーム                  | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む                  | 事前: ルール・技術等の確認と健康管理<br>事後: 内容の振り返り        |
|      | 14 | ・ゲーム                  | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む                  | 事前: ルール・技術等の確認と健康管理<br>事後: 内容の振り返り        |
|      | 15 | ・ゲーム<br>・2年次ガイダンス等    | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む<br>・2年次ガイダンス等を行う | 事前: ルール・技術等の確認と健康管理<br>事後: 全授業の総括         |

|      |   |
|------|---|
| 関連科目 | <p>生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際</p> |
|------|---|

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |

|          |  |
|----------|--|
| 評価方法(基準) | <p>活動点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。</p> <p>なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。</p> |
|----------|--|

|           |   |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | <p>授業内容は、種目毎の例であり、それ以外を行うこともある。また本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室へ来ること。</p> |
|-----------|---|

|          |                        |
|----------|------------------------|
| 担当者の研究室等 | <p>総合体育館 1F 体育館事務室</p> |
|----------|------------------------|

|    |  |
|----|--|
| 備考 | <p>トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)</p> <p>事前事後学習に要する総時間の目安は15時間。</p> |
|----|--|

|               |                  |         |                   |
|---------------|------------------|---------|-------------------|
| 科目名           | スポーツ科学実習Ⅱ        | 科目名(英文) | Sports Science II |
| 学部            | 外国語学部            | 学科      | 外国語学科             |
| 配当年次          | 1年               | クラス     | 2                 |
| 単位数           | 1                | 履修区分    | 選択科目              |
| 学期            | 後期               | 授業担当者   | 藤林 真美, 横山 喬之      |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1△, DP2△, DP5△ |         |                   |
| 科目ナンバリング      | LPH1330a1        |         |                   |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | 本科目では、スポーツ科学実習Ⅰで培った基礎的な技術を応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。<br>本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。   |
| 到達目標        | この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。  |
| 授業方法と留意点    | 実技形式で行う(雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある)。<br>開講種目は、以下のとおりである。<br>・体育館種目(バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど)<br><br>・屋外種目(サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、タグラグビー、ニュースポーツなど)<br><br>※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡すること。 |
| 科目学習の効果(資格) | 基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。   |

|      |    |                       |   |   |
|------|----|-----------------------|---|---|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ                 | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題                                 |
|      | 1  | ・ガイダンス                | ・ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)                          | 事前: 授業概要・目的などを学習する<br>事後: 本実習の理解を深める      |
|      | 2  | ・種目の概要<br>・基礎知識について   | ・種目の概要、基礎知識の説明                                  | 事前: 基礎知識を学習しておく<br>事後: 新しく学んだ基礎知識について振り返る |
|      | 3  | ・基本技術(導入編)<br>・簡易ゲーム  | ・種目におけるルール・マナーの説明<br>・種目の導入につながる運動<br>・簡易ゲーム    | 事前: ルールについて学習しておく<br>事後: 内容の振り返り          |
|      | 4  | ・基本技術(基礎編1)<br>・簡易ゲーム | ・体力・技術の向上に必要な基礎運動<br>・簡易ゲーム                     | 事前: 基礎技術に関する情報収集をする<br>事後: 内容の振り返り        |
|      | 5  | ・基本技術(基礎編2)<br>・簡易ゲーム | ・体力の向上に必要な基礎運動<br>・基礎技術を応用した運動<br>・簡易ゲーム        | 事前: 基礎技術に関する情報収集をする<br>事後: 内容の振り返り        |
|      | 6  | ・基本技術(応用編1)<br>・簡易ゲーム | ・体力の向上に必要な基礎運動<br>・基礎技術を応用した運動<br>・簡易ゲーム        | 事前: 基礎・応用技術に関する情報収集をする<br>事後: 内容の振り返り     |
|      | 7  | ・基本技術(応用編2)<br>・簡易ゲーム | ・体力の向上に必要な基礎運動<br>・基礎技術を応用した運動<br>・簡易ゲーム        | 事前: 基礎・応用技術に関する情報収集をする<br>事後: 内容の振り返り     |
|      | 8  | ・ゲーム                  | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む                  | 事前: ルール・技術等の確認と健康管理<br>事後: 内容の振り返り        |
|      | 9  | ・ゲーム                  | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む                  | 事前: ルール・技術等の確認と健康管理<br>事後: 内容の振り返り        |
|      | 10 | ・ゲーム                  | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む                  | 事前: ルール・技術等の確認と健康管理<br>事後: 内容の振り返り        |
|      | 11 | ・ゲーム                  | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む                  | 事前: ルール・技術等の確認と健康管理<br>事後: 内容の振り返り        |
|      | 12 | ・ゲーム                  | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む                  | 事前: ルール・技術等の確認と健康管理<br>事後: 内容の振り返り        |
|      | 13 | ・ゲーム                  | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む                  | 事前: ルール・技術等の確認と健康管理<br>事後: 内容の振り返り        |
|      | 14 | ・ゲーム                  | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む                  | 事前: ルール・技術等の確認と健康管理<br>事後: 内容の振り返り        |
|      | 15 | ・ゲーム<br>・2年次ガイダンス等    | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む<br>・2年次ガイダンス等を行う | 事前: ルール・技術等の確認と健康管理<br>事後: 全授業の総括         |

関連科目 生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |

評価方法 (基準) 活動点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。  
なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。

学生へのメッセージ 授業内容は、種目毎の例であり、それ以外を行うこともある。また本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室へ来ること。

担当者の研究室等 総合体育館 1F 体育館事務室

備考 トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)  
事前事後学習時間の総時間の目安は15時間。

|                |   |          |                                   |
|----------------|---|----------|-----------------------------------|
| 科目名            | 専門日本語 F I   | 科目名 (英文) | Japanese for Specific Purposes FI |
| 学部             | 学部共通  | 学科       | 外国人留学生対象                          |
| 配当年次           | 1 年   | クラス      |                                   |
| 単位数            | 1   | 履修区分     | 選択科目                              |
| 学期             | 前期  | 授業担当者    | 塩谷 尚子                             |
| ディプロマポリシー (DP) | V 科 : III○, IV○, R 科 : A◎, A 科 : C◎, M 科 : B2◎, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1◎, DP7△, DP8△, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1◎, W 科 : DP1◎, DP7◎, N 科 : DP1◎, DP8△N : DP1◎, DP8△ |          |                                   |
| 科目ナンバリング       | FF01322a1   |          |                                   |

|              |   |
|--------------|---|
| 授業概要・目的      | 相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。 |
| 到達目標         | ・相手との関係に応じて話せる／書ける。<br>・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。        |
| 授業方法と留意点     | 授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。    |
| 科目学習の効果 (資格) | 相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。                 |

|      |    |           |                            |                         |
|------|----|-----------|----------------------------|-------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ     | 内容・方法等                     | 事前・事後学習課題               |
|      | 1  | オリエンテーション | 授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用 | 様々なコミュニケーションの形式の復習      |
|      | 2  | Eメールの書き方1 | Eメールの基本                    | Eメールで使われる形式、表現等の復習      |
|      | 3  | Eメールの書き方2 | レポート提出のメール                 | レポート提出に必要な語彙、表現の復習      |
|      | 4  | Eメールの書き方3 | 依頼メール1                     | 依頼メールに必要な語彙、表現の復習       |
|      | 5  | Eメールの書き方4 | 依頼メール2                     | 依頼メールの書き方の復習            |
|      | 6  | Eメールの書き方5 | 問い合わせ／質問メール                | 問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習 |
|      | 7  | 話し方1      | 話題の変え方                     | 話題を変える時に必要な語彙、表現の復習     |
|      | 8  | 話し方2      | 話の終わらせ方                    | 話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習     |
|      | 9  | 話し方3      | 話の広げ方                      | 話の広げ方で必要な語彙、表現の復習       |
|      | 10 | 自己PR1     | 自己PRとは何か                   | 自己PRで必要な項目を復習           |
|      | 11 | 自己PR2     | 自己PR例の検討、修正1               | 自己PRで必要な語彙、表現の復習        |
|      | 12 | 自己PR3     | 自己PR例の検討、修正2               | 自己PRで必要な語彙、表現の復習        |
|      | 13 | 自己PR4     | 自分の自己PRを書く1                | 自己PRで必要な形式、書き方の復習       |
|      | 14 | 自己PR5     | 自分の自己PRを書く2                | 自己PRの書き方の復習             |
|      | 15 | 総復習       | 総復習                        | 今学期で学んだことを振り返る。         |

|      |            |
|------|------------|
| 関連科目 | 専門日本語 F II |
|------|------------|

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|           |                           |
|-----------|---------------------------|
| 評価方法 (基準) | 授業内での取り組み (50%)、提出物 (50%) |
|-----------|---------------------------|

|           |                                  |
|-----------|----------------------------------|
| 学生へのメッセージ | 相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 |
|-----------|----------------------------------|

|          |                |
|----------|----------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階 (非常勤講師室) |
|----------|----------------|

|    |   |
|----|---|
| 備考 | (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。<br>(2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。<br>(3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 |
|----|---|

|                |   |          |                                    |
|----------------|---|----------|------------------------------------|
| 科目名            | 専門日本語 F II  | 科目名 (英文) | Japanese for Specific Purposes FII |
| 学部             | 学部共通  | 学科       | 外国人留学生対象                           |
| 配当年次           | 1 年   | クラス      |                                    |
| 単位数            | 1   | 履修区分     | 選択科目                               |
| 学期             | 後期  | 授業担当者    | 塩谷 尚子                              |
| ディプロマポリシー (DP) | V 科 : III○, IV○, R 科 : A○, A 科 : C○, M 科 : B2○, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1○, DP7△, DP8△, D 科 : DP1○, S 科 : DP1○, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1○, W 科 : DP1○, DP7○, N 科 : DP1○, DP8△N : DP1○, DP8△ |          |                                    |
| 科目ナンバリング       | FF02323a1   |          |                                    |

|              |  |
|--------------|--|
| 授業概要・目的      | 相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができるようになることを目指す。<br>ビジネス場面で使用する日本語表現、異文化ビジネスコミュニケーションについて学ぶ。            |
| 到達目標         | 相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができる。<br>ビジネス場面で使用する日本語表現を理解し、使用することができる。<br>異文化ビジネスコミュニケーションについて理解できる。 |
| 授業方法と留意点     | 教師が準備した資料及びタスクシートをもとに講義、ディスカッション等を行う。  |
| 科目学習の効果 (資格) | ビジネス日本語・ビジネスマナー・日本の会社についての知識を得ることによって日本での就職活動及び就職に必要な知識やスキルを身につけることができる。                                   |

| 回数 | 授業テーマ              | 内容・方法等                               | 事前・事後学習課題                                 |
|----|--------------------|--------------------------------------|---|
|    |                    |                                      |   |
| 2  | ビジネス日本語 1<br>聞く・話す | ビジネス場面の会話<br>表現、敬語                   | ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習<br>授業で提示した課題           |
| 3  | ビジネス日本語 2<br>聞く・話す | ビジネス場面の会話<br>表現、敬語                   | ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習<br>授業で提示した課題           |
| 4  | ビジネス日本語 3<br>聞く・話す | ビジネス場面の会話<br>表現、敬語                   | ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習<br>授業で提示した課題           |
| 5  | ビジネス日本語 4<br>読む    | 速読、精読<br>内容理解                        | 文章に出てきた語彙、表現の復習<br>授業で提示した課題              |
| 6  | ビジネス日本語 5<br>読む    | 速読、精読<br>内容理解                        | 文章に出てきた語彙、表現の復習<br>授業で提示した課題              |
| 7  | ビジネス日本語 6<br>書く    | ビジネス文書の書き方                           | ビジネス文書の形式、表現の復習<br>授業で提示した課題              |
| 8  | ビジネス日本語 7<br>書く    | Eメールの書き方                             | ビジネスにおけるEメールに必要な形式、書き方の復習<br>授業で提示した課題    |
| 9  | ビジネス日本語 8          | 履歴書の書き方                              | 履歴書を書く時に必要な表現の復習<br>授業で提示した課題             |
| 10 | ビジネスマナー            | 異文化ビジネスコミュニケーション                     | 異文化ビジネスコミュニケーションで必要な項目、表現の復習<br>授業で提示した課題 |
| 11 | 日本の会社 1            | 日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴<br>内容についてディスカッション | 授業で確認した語彙、表現等の復習<br>授業で提示した課題             |
| 12 | 日本の会社 2            | 日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴<br>内容についてディスカッション | 授業で確認した語彙、表現等の復習<br>授業で提示した課題             |
| 13 | 日本の会社 3            | 日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴<br>内容についてディスカッション | 授業で確認した語彙、表現等の復習<br>授業で提示した課題             |
| 14 | 日本の会社と仕事           | 仕事に関するドラマを視聴し、内容をまとめる。また、内容について話し合う。 | 授業で確認した語彙、表現等の復習                          |
| 15 | 総復習・確認テスト          | 総復習                                  | 今学期で学んだことを振り返る。                           |

|      |           |
|------|-----------|
| 関連科目 | 専門日本語 F I |
|------|-----------|

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|           |   |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 授業の参加度 (10%)、課題 (30%)、テスト (60%) により総合的に判断する。                        |
| 学生へのメッセージ | 授業では積極的に発言することが求められます。  |
| 担当者の研究室等  | 7号館 2階 (非常勤講師室)   |
| 備考        | (1) 事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。<br>(2) 授業進度及び参加学生のニーズによって授業内容が多少変更することがある。 |

|               |  |         |                                  |
|---------------|--|---------|----------------------------------|
| 科目名           | 専門日本語R   | 科目名(英文) | Japanese for Specific Purposes R |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 帰国学生対象                           |
| 配当年次          | 1年   | クラス     |                                  |
| 単位数           | 1  | 履修区分    | 選択科目                             |
| 学期            | 前期   | 授業担当者   | 塩谷 尚子                            |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△ |         |                                  |
| 科目ナンバリング      | RRE1332a1  |         |                                  |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。 |
| 到達目標        | ・相手との関係に応じて話せる／書ける。<br>・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。        |
| 授業方法と留意点    | 授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。    |
| 科目学習の効果(資格) | 相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。                 |

|      |    |           |                            |                         |
|------|----|-----------|----------------------------|-------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ     | 内容・方法等                     | 事前・事後学習課題               |
|      | 1  | オリエンテーション | 授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用 | 様々なコミュニケーションの形式の復習      |
|      | 2  | Eメールの書き方1 | Eメールの基本                    | Eメールで使われる形式、表現等の復習      |
|      | 3  | Eメールの書き方2 | レポート提出のメール                 | レポート提出に必要な語彙、表現の復習      |
|      | 4  | Eメールの書き方3 | 依頼メール1                     | 依頼メールに必要な語彙、表現の復習       |
|      | 5  | Eメールの書き方4 | 依頼メール2                     | 依頼メールの書き方の復習            |
|      | 6  | Eメールの書き方5 | 問い合わせ／質問メール                | 問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習 |
|      | 7  | 話し方1      | 話題の変え方                     | 話題を変える時に必要な語彙、表現の復習     |
|      | 8  | 話し方2      | 話の終わらせ方                    | 話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習     |
|      | 9  | 話し方3      | 話の広げ方                      | 話の広げ方で必要な語彙、表現の復習       |
|      | 10 | 自己PR1     | 自己PRとは何か                   | 自己PRで必要な項目を復習           |
|      | 11 | 自己PR2     | 自己PR例の検討、修正1               | 自己PRで必要な語彙、表現の復習        |
|      | 12 | 自己PR3     | 自己PR例の検討、修正2               | 自己PRで必要な語彙、表現の復習        |
|      | 13 | 自己PR4     | 自分の自己PRを書く1                | 自己PRで必要な形式、書き方の復習       |
|      | 14 | 自己PR5     | 自分の自己PRを書く2                | 自己PRの書き方の復習             |
|      | 15 | 総復習       | 総復習                        | 今学期で学んだことを振り返る。         |

|      |          |
|------|----------|
| 関連科目 | 専門日本語FII |
|------|----------|

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|          |                         |
|----------|-------------------------|
| 評価方法(基準) | 授業内での取り組み(50%)、提出物(50%) |
|----------|-------------------------|

|           |                                  |
|-----------|----------------------------------|
| 学生へのメッセージ | 相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 |
|-----------|----------------------------------|

|          |               |
|----------|---------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階(非常勤講師室) |
|----------|---------------|

|    |  |
|----|--|
| 備考 | (1)授業外の質問等には、メールで対応する。<br>(2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。<br>(3)事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 |
|----|--|

|                |                  |          |           |
|----------------|------------------|----------|-----------|
| 科目名            | 中国語 I            | 科目名 (英文) | Chinese I |
| 学部             | 外国語学部            | 学科       | 外国語学科     |
| 配当年次           | 2年               | クラス      |           |
| 単位数            | 2                | 履修区分     | 選択必修科目    |
| 学期             | 前期               | 授業担当者    | 孫 輝       |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |          |           |
| 科目ナンバリング       | LCH1305e1        |          |           |

|              |   |
|--------------|---|
| 授業概要・目的      | 正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの4つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。 |
| 到達目標         | 単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。                      |
| 授業方法と留意点     | 中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。<br>学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。                  |
| 科目学習の効果 (資格) | 中国語検定試験準4級受験可能。   |

|      |    |                        |                                  |                     |
|------|----|------------------------|----------------------------------|---------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ                  | 内容・方法等                           | 事前・事後学習課題           |
|      | 1  | 授業の内容、履修方法、評価方法の紹介、発音1 | ピンイン、声調、単母音、複母音                  | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
|      | 2  | 発音2、発音3                | 子音、鼻母音                           | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
|      | 3  | 発音4、付録1、付録2            | 挨拶用語、声調の変化、r化音、日本の都道府県、食べ物、飲み物など | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
|      | 4  | 発音編のまとめ、小テスト1          | 発音編までの内容を復習                      | 次の内容を予習する。          |
|      | 5  | 第1課 ?は何??              | 単語、会話、文法、漢字練習シート                 | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
|      | 6  | 第1課 ?は何??              | 練習問題、リスニング、筆記、宿題練習               | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
|      | 7  | 第2課 ?何?何?名?            | 単語、会話、文法、漢字練習シート                 | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
|      | 8  | 第2課 ?何?何?名?            | 練習問題、リスニング、筆記、宿題練習               | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
|      | 9  | 小テスト2、第3課 ?今年多大?       | 復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート         | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
|      | 10 | 第3課 ?今年多大?             | 練習問題、リスニング、筆記、宿題練習               | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
|      | 11 | 第4課 ?家有几口人?            | 単語、会話、文法、漢字練習シート                 | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
|      | 12 | 第4課 ?家有几口人?            | 練習問題、リスニング、筆記、宿題練習               | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
|      | 13 | 小テスト3、第5課 ?家在哪?        | 復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート         | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
|      | 14 | 第5課 ?家在哪?              | 練習問題、リスニング、筆記、宿題練習               | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
|      | 15 | まとめ、小テスト4              | 復習、小テスト                          | テストの内容を準備する。        |

|      |        |
|------|--------|
| 関連科目 | 中国語 II |
|------|--------|

|     |    |                        |      |       |
|-----|----|------------------------|------|-------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名                    | 著者名  | 出版社名  |
|     | 1  | ステップ バイ ステップ 歩歩高 初級中国語 | 張 軼政 | 朝日出版社 |
|     | 2  |                        |      |       |
|     | 3  |                        |      |       |

|     |    |      |     |      |
|-----|----|------|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  | 中日辞典 |     |      |
|     | 2  | 日中辞典 |     |      |
|     | 3  |      |     |      |

|           |                       |
|-----------|-----------------------|
| 評価方法 (基準) | 小テスト: 85%<br>平常点: 15% |
|-----------|-----------------------|

|           |   |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 教室でも家でも声を出してたくさん読みましょう。事前・事後学習に1時間ずつ要します。 |
|-----------|---|

|          |               |
|----------|---------------|
| 担当者の研究室等 | 非常勤講師室(7号館2階) |
|----------|---------------|

|    |  |
|----|--|
| 備考 | 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(中西、兪、小都)を通じて問い合わせることもできる。<br>課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。 |
|----|--|

|                |                  |          |           |
|----------------|------------------|----------|-----------|
| 科目名            | 中国語 I            | 科目名 (英文) | Chinese I |
| 学部             | 外国語学部            | 学科       | 外国語学科     |
| 配当年次           | 2年               | クラス      |           |
| 単位数            | 2                | 履修区分     | 選択必修科目    |
| 学期             | 前期               | 授業担当者    | 曹 櫻       |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |          |           |
| 科目ナンバリング       | LCH1305e1        |          |           |

|              |   |
|--------------|---|
| 授業概要・目的      | 正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの4つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。 |
| 到達目標         | 単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。                      |
| 授業方法と留意点     | 中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。<br>学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。                  |
| 科目学習の効果 (資格) | 中国語検定試験準4級受験可能。   |

| 回数 | 授業テーマ                  | 内容・方法等                           | 事前・事後学習課題           |
|----|------------------------|----------------------------------|---------------------|
|    |                        |                                  |                     |
| 1  | 授業の内容、履修方法、評価方法の紹介、発音1 | ピンイン、声調、単母音、複母音                  | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
| 2  | 発音2、発音3                | 子音、鼻母音                           | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
| 3  | 発音4、付録1、付録2            | 挨拶用語、声調の変化、r化音、日本の都道府県、食べ物、飲み物など | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
| 4  | 発音編のまとめ、小テスト1          | 発音編までの内容を復習                      | 次の内容を予習する。          |
| 5  | 第1課 ?は何??              | 単語、会話、文法、漢字練習シート                 | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
| 6  | 第1課 ?は何??              | 練習問題、リスニング、筆記、宿題練習               | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
| 7  | 第2課 ?何?何?名?            | 単語、会話、文法、漢字練習シート                 | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
| 8  | 第2課 ?何?何?名?            | 練習問題、リスニング、筆記、宿題練習               | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
| 9  | 小テスト2、第3課 ?今年多大?       | 復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート         | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
| 10 | 第3課 ?今年多大?             | 練習問題、リスニング、筆記、宿題練習               | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
| 11 | 第4課 ?家有几口人?            | 単語、会話、文法、漢字練習シート                 | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
| 12 | 第4課 ?家有几口人?            | 練習問題、リスニング、筆記、宿題練習               | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
| 13 | 小テスト3、第5課 ?家在哪?        | 復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート         | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
| 14 | 第5課 ?家在哪?              | 練習問題、リスニング、筆記、宿題練習               | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
| 15 | まとめ、小テスト4              | 復習、小テスト                          | テストの内容を準備する。        |

|      |        |
|------|--------|
| 関連科目 | 中国語 II |
|------|--------|

| 番号 | 書籍名                    | 著者名  | 出版社名  |
|----|------------------------|------|-------|
|    |                        |      |       |
| 1  | ステップ バイ ステップ 歩歩高 初級中国語 | 張 軼政 | 朝日出版社 |
| 2  |                        |      |       |
| 3  |                        |      |       |

| 番号 | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 |
|----|------|-----|------|
|    |      |     |      |
| 1  | 中日辞典 |     |      |
| 2  | 日中辞典 |     |      |
| 3  |      |     |      |

|           |                       |
|-----------|-----------------------|
| 評価方法 (基準) | 小テスト: 85%<br>平常点: 15% |
|-----------|-----------------------|

|           |   |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 教室でも家でも声を出してたくさん読みましょう。事前・事後学習に1時間ずつ要します。 |
|-----------|---|

|          |               |
|----------|---------------|
| 担当者の研究室等 | 非常勤講師室(7号館2階) |
|----------|---------------|

|    |  |
|----|--|
| 備考 | 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(中西、兪、小都)を通じて問い合わせることもできる。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。 |
|----|--|

|                |                  |          |           |
|----------------|------------------|----------|-----------|
| 科目名            | 中国語 I            | 科目名 (英文) | Chinese I |
| 学部             | 外国語学部            | 学科       | 外国語学科     |
| 配当年次           | 2年               | クラス      |           |
| 単位数            | 2                | 履修区分     | 選択必修科目    |
| 学期             | 前期               | 授業担当者    | 中西 正樹     |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |          |           |
| 科目ナンバリング       | LCH1305e1        |          |           |

|              |   |
|--------------|---|
| 授業概要・目的      | 正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの4つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。 |
| 到達目標         | 単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。                      |
| 授業方法と留意点     | 中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。<br>学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。                  |
| 科目学習の効果 (資格) | 中国語検定試験準4級受験可能。   |

| 回数 | 授業テーマ                  | 内容・方法等                           | 事前・事後学習課題           |
|----|------------------------|----------------------------------|---------------------|
|    |                        |                                  |                     |
| 1  | 授業の内容、履修方法、評価方法の紹介、発音1 | ピンイン、声調、単母音、複母音                  | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
| 2  | 発音2、発音3                | 子音、鼻母音                           | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
| 3  | 発音4、付録1、付録2            | 挨拶用語、声調の変化、r化音、日本の都道府県、食べ物、飲み物など | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
| 4  | 発音編のまとめ、小テスト1          | 発音編までの内容を復習                      | 次の内容を予習する。          |
| 5  | 第1課 ?は何??              | 単語、会話、文法、漢字練習シート                 | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
| 6  | 第1課 ?は何??              | 練習問題、リスニング、筆記、宿題練習               | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
| 7  | 第2課 ?何?何?名?            | 単語、会話、文法、漢字練習シート                 | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
| 8  | 第2課 ?何?何?名?            | 練習問題、リスニング、筆記、宿題練習               | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
| 9  | 小テスト2、第3課 ?今年多大?       | 復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート         | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
| 10 | 第3課 ?今年多大?             | 練習問題、リスニング、筆記、宿題練習               | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
| 11 | 第4課 ?家有几口人?            | 単語、会話、文法、漢字練習シート                 | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
| 12 | 第4課 ?家有几口人?            | 練習問題、リスニング、筆記、宿題練習               | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
| 13 | 小テスト3、第5課 ?家在哪?        | 復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート         | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
| 14 | 第5課 ?家在哪?              | 練習問題、リスニング、筆記、宿題練習               | 授業の内容を復習、次の内容を予習する。 |
| 15 | まとめ、小テスト4              | 復習、小テスト                          | テストの内容を準備する。        |

|      |        |
|------|--------|
| 関連科目 | 中国語 II |
|------|--------|

| 番号 | 書籍名                    | 著者名  | 出版社名  |
|----|------------------------|------|-------|
|    |                        |      |       |
| 1  | ステップ バイ ステップ 歩歩高 初級中国語 | 張 軼政 | 朝日出版社 |
| 2  |                        |      |       |
| 3  |                        |      |       |

| 番号 | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 |
|----|------|-----|------|
|    |      |     |      |
| 1  | 中日辞典 |     |      |
| 2  | 日中辞典 |     |      |
| 3  |      |     |      |

|           |                       |
|-----------|-----------------------|
| 評価方法 (基準) | 小テスト: 85%<br>平常点: 15% |
|-----------|-----------------------|

|           |   |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 教室でも家でも声を出してたくさん読みましょう。事前・事後学習に1時間ずつ要します。 |
|-----------|---|

|          |              |
|----------|--------------|
| 担当者の研究室等 | 中西研究室(7号館3階) |
|----------|--------------|

|    |  |
|----|--|
| 備考 | 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。<br>課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。 |
|----|--|



|               |                  |         |            |
|---------------|------------------|---------|------------|
| 科目名           | 中国語Ⅱ             | 科目名(英文) | Chinese II |
| 学部            | 外国語学部            | 学科      | 外国語学科      |
| 配当年次          | 2年               | クラス     | 1          |
| 単位数           | 2                | 履修区分    | 選択科目       |
| 学期            | 後期               | 授業担当者   | 曹 櫻        |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |         |            |
| 科目ナンバリング      | LCH1306e1        |         |            |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの4つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。 |
| 到達目標        | 単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。                      |
| 授業方法と留意点    | 口語練習を重視し、中国語の発音、フレーズに慣れてもらう。<br>学期中は事前及び事後に合計60時間の学習時間を必要とする。               |
| 科目学習の効果(資格) | 中国語検定試験準4級受験可能。   |

| 回数 | 授業テーマ                   | 内容・方法等                   | 事前・事後学習課題           |
|----|-------------------------|--------------------------|---------------------|
|    |                         |                          |                     |
| 2  | 第6課 ?在干什??              | 練習問題、リスニング、筆記、宿題練習       | 授業の内容と復習、次の内容を予習する。 |
| 3  | 第7課 今天的??都听了??          | 単語、会話、文法、漢字練習シート         | 授業の内容と復習、次の内容を予習する。 |
| 4  | 第7課 今天的??都听了??          | 練習問題、リスニング、筆記、宿題練習       | 授業の内容と復習、次の内容を予習する。 |
| 5  | 小テスト1、第8課 我今天又被老?批?了。   | 復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート | 授業の内容と復習、次の内容を予習する。 |
| 6  | 第8課 我今天又被老?批?了。         | 練習問題、リスニング、筆記、宿題練習       | 授業の内容と復習、次の内容を予習する。 |
| 7  | 第9課 ?会游泳了??             | 単語、会話、文法、漢字練習シート         | 授業の内容と復習、次の内容を予習する。 |
| 8  | 第9課 ?会游泳了??             | 練習問題、リスニング、筆記、宿題練習       | 授業の内容と復習、次の内容を予習する。 |
| 9  | 小テスト2、第10課 我?学校的北?儿有什?? | 復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート | 授業の内容と復習、次の内容を予習する。 |
| 10 | 第10課 我?学校的北?儿有什??       | 練習問題、リスニング、筆記、宿題練習       | 授業の内容と復習、次の内容を予習する。 |
| 11 | 第11課 ?怎?了??儿不舒服?        | 単語、会話、文法、漢字練習シート         | 授業の内容と復習、次の内容を予習する。 |
| 12 | 第11課 ?怎?了??儿不舒服?        | 練習問題、リスニング、筆記、宿題練習       | 授業の内容と復習、次の内容を予習する。 |
| 13 | 小テスト3、第12課 ??在一个星期打几天工? | 復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート | 授業の内容と復習、次の内容を予習する。 |
| 14 | 第12課 ??在一个星期打几天工?       | 練習問題、リスニング、筆記、宿題練習       | 授業の内容と復習、次の内容を予習する。 |
| 15 | まとめ、小テスト4               | 復習、小テスト                  | テストの内容を準備する。        |

|      |       |
|------|-------|
| 関連科目 | 中国語 I |
|------|-------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名                    | 著者名  | 出版社名  |
|-----|----|------------------------|------|-------|
|     | 1  | ステップ バイ ステップ 歩歩高 初級中国語 | 張 軼欧 | 朝日出版社 |
| 2   |    |                        |      |       |
| 3   |    |                        |      |       |

| 参考書 | 番号   | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 |
|-----|------|------|-----|------|
|     | 1    | 中日辞典 |     |      |
| 2   | 日中辞典 |      |     |      |
| 3   |      |      |     |      |

|          |                        |
|----------|------------------------|
| 評価方法(基準) | 単元テスト: 85%<br>平常点: 15% |
|----------|------------------------|

|           |  |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 教室でも家でも声を出してよく読みましょう。事前・事後の学習に1時間ずつ要します。 |
|-----------|--|

|          |               |
|----------|---------------|
| 担当者の研究室等 | 非常勤講師室(7号館2階) |
|----------|---------------|

|    |  |
|----|--|
| 備考 | 「中国語Ⅰ」を履修したうえ、「中国語Ⅱ」を履修するのが望ましい。<br>授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(中西、兪、小都)を通じて問い合わせることもできる。<br>課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。 |
|----|--|

|               |                  |         |            |
|---------------|------------------|---------|------------|
| 科目名           | 中国語Ⅱ             | 科目名(英文) | Chinese II |
| 学部            | 外国語学部            | 学科      | 外国語学科      |
| 配当年次          | 2年               | クラス     | 2          |
| 単位数           | 2                | 履修区分    | 選択科目       |
| 学期            | 後期               | 授業担当者   | 孫 輝        |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |         |            |
| 科目ナンバリング      | LCH1306e1        |         |            |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの4つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。 |
| 到達目標        | 単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。                      |
| 授業方法と留意点    | 口語練習を重視し、中国語の発音、フレーズに慣れてもらう。<br>学期中は事前及び事後に合計60時間の学習時間を必要とする。               |
| 科目学習の効果(資格) | 中国語検定試験準4級受験可能。   |

|      |    |                               |                          |                     |
|------|----|-------------------------------|--------------------------|---------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ                         | 内容・方法等                   | 事前・事後学習課題           |
|      | 1  | 授業の内容、履修方法、評価方法の紹介、第6課 ?在干什?? | 単語、会話、文法、漢字練習シート         | 授業の内容と復習、次の内容を予習する。 |
|      | 2  | 第6課 ?在干什??                    | 練習問題、リスニング、筆記、宿題練習       | 授業の内容と復習、次の内容を予習する。 |
|      | 3  | 第7課 今天的??都听了??                | 単語、会話、文法、漢字練習シート         | 授業の内容と復習、次の内容を予習する。 |
|      | 4  | 第7課 今天的??都听了??                | 練習問題、リスニング、筆記、宿題練習       | 授業の内容と復習、次の内容を予習する。 |
|      | 5  | 小テスト1、第8課 我今天又被老?批?了。         | 復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート | 授業の内容と復習、次の内容を予習する。 |
|      | 6  | 第8課 我今天又被老?批?了。               | 練習問題、リスニング、筆記、宿題練習       | 授業の内容と復習、次の内容を予習する。 |
|      | 7  | 第9課 ?会游泳了??                   | 単語、会話、文法、漢字練習シート         | 授業の内容と復習、次の内容を予習する。 |
|      | 8  | 第9課 ?会游泳了??                   | 練習問題、リスニング、筆記、宿題練習       | 授業の内容と復習、次の内容を予習する。 |
|      | 9  | 小テスト2、第10課 我?学校的北?儿有什??       | 復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート | 授業の内容と復習、次の内容を予習する。 |
|      | 10 | 第10課 我?学校的北?儿有什??             | 練習問題、リスニング、筆記、宿題練習       | 授業の内容と復習、次の内容を予習する。 |
|      | 11 | 第11課 ?怎?了??儿不舒服?              | 単語、会話、文法、漢字練習シート         | 授業の内容と復習、次の内容を予習する。 |
|      | 12 | 第11課 ?怎?了??儿不舒服?              | 練習問題、リスニング、筆記、宿題練習       | 授業の内容と復習、次の内容を予習する。 |
|      | 13 | 小テスト3、第12課 ??在一个星期打几天工?       | 復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート | 授業の内容と復習、次の内容を予習する。 |
|      | 14 | 第12課 ??在一个星期打几天工?             | 練習問題、リスニング、筆記、宿題練習       | 授業の内容と復習、次の内容を予習する。 |
|      |    | 15                            | まとめ、小テスト4                | 復習、小テスト             |

|      |       |
|------|-------|
| 関連科目 | 中国語 I |
|------|-------|

|     |    |                        |      |       |
|-----|----|------------------------|------|-------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名                    | 著者名  | 出版社名  |
|     | 1  | ステップ バイ ステップ 歩歩高 初級中国語 | 張 軼欧 | 朝日出版社 |
|     | 2  |                        |      |       |
|     | 3  |                        |      |       |

|     |    |      |     |      |
|-----|----|------|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  | 中日辞典 |     |      |
|     | 2  | 日中辞典 |     |      |
|     | 3  |      |     |      |

|          |                        |
|----------|------------------------|
| 評価方法(基準) | 単元テスト: 85%<br>平常点: 15% |
|----------|------------------------|

|           |  |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 教室でも家でも声を出してよく読みましょう。事前・事後の学習に1時間ずつ要します。 |
|-----------|--|

|          |               |
|----------|---------------|
| 担当者の研究室等 | 非常勤講師室(7号館2階) |
|----------|---------------|

|    |  |
|----|--|
| 備考 | 「中国語Ⅰ」を履修したうえ、「中国語Ⅱ」を履修するのが望ましい。<br>授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(中西、兪、小都)を通じて問い合わせることもできる。<br>課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。 |
|----|--|

|               |                  |         |             |
|---------------|------------------|---------|-------------|
| 科目名           | 中国語Ⅲ             | 科目名(英文) | Chinese III |
| 学部            | 外国語学部            | 学科      | 外国語学科       |
| 配当年次          | 3年               | クラス     |             |
| 単位数           | 2                | 履修区分    | 選択科目        |
| 学期            | 前期               | 授業担当者   | 礫 玉璽        |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |         |             |
| 科目ナンバリング      | LCH2307e1        |         |             |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 前年度に学んだ中国語を基礎に、読む・聴く・話す・書くの四つの力をさらに総合的にバランスよく学習する。中国語の運用能力の中級レベル、中国語検定試験4級レベルに達することを旨とする。 |
| 到達目標        | 中国での買い物や移動に困らないレベルの聞く力、話す力を身につける。   |
| 授業方法と留意点    | 日本語訳を見て中国語を話す練習もする。毎回予習と復習を必ず行ってください。   |
| 科目学習の効果(資格) | 中国語検定試験4級受験可能。  |

| 回数 | 授業テーマ                                     | 内容・方法等   | 事前・事後学習課題              |
|----|---|--|------------------------|
|    |   |  |                        |
| 1  | 第一課 キャンパスで(1) 対話文1・文法・練習                  | 1. 進行表現<br>2. 可能補語1  | 会話文をノートに書き写しておく。       |
| 2  | 第一課 キャンパスで(2) 対話文2・文法・練習                  | 3. 可能補語2<br>4. 「……, 好??」   | 授業までに練習問題を解答しておく。      |
| 3  | 第二課 アルバイト仲間 対話文1・文法・練習                    | 1. 様態補語<br>2. 可能補語と様態補語  | 会話文をノートに書き写しておく。       |
| 4  | 第二課 3人で京劇を見終わって 対話文2・文法・練習                | 3. 比較表現1<br>4. 比較表現2   | 授業までに練習問題を解答しておく。      |
| 5  | 第1回単元テスト(筆記と口頭)                           | 第一課・第二課復習と習熟度確認  | テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく。  |
| 6  | 第三課 程君がアルバイトをしているレストランへ I (1) 対話文1・文法・練習  | 1. 状態持続<br>2. 「着」を用いた存現文<br>3. 「(正)在V……(?)」と「V着」の違い  | 会話文をノートに書き写しておく。       |
| 7  | 第三課 程君がアルバイトをしているレストランへ I (2) 対話文2・文法・練習  | 4. 「有点儿」<br>5. V? 着(+0?) V? (+0?)<br>6. 「怎?」   | 授業までに練習問題を解答しておく。      |
| 8  | 第四課 程君がアルバイトをしているレストランへ II (1) 対話文1・文法・練習 | 1. 「把」構文<br>① 「把」 0 + V + 方向補語<br>② 「把」 0 + V + 結果補語   | 会話文をノートに書き写しておく。       |
| 9  | 第四課 程君がアルバイトをしているレストランへ II (2) 対話文2・文法・練習 | ③ 「把」 0 + V V<br>「把」 0 + 「一下」<br>④ 「把」 0 + V + 「給」 + 人<br>「把」 0 + V + 「到」 + 場所<br>「把」 0 + V + 「在」 + 場所 | 授業までに練習問題を解答しておく。      |
| 10 | 第2回単元テスト(筆記と口頭)                           | 第三課・第四課復習と習熟度確認  | テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく。  |
| 11 | 第五課 キャンパスで(1) 対話文1・文法・練習                  | 1. 名詞の重ね型<br>2. 「下来」の派生義<br>3. 受身文1<br>4. 可能性の「会」  | 会話文をノートに書き写しておく。       |
| 12 | 第五課 キャンパスで(2) 対話文2・文法・練習                  | 5. 受身文2  | 授業までに練習問題を解答しておく。      |
| 13 | 第一課～第五課 基本文型まとめ                           | 1. 文法練習<br>2. 会話文の朗読練習   | 全部の動詞フレーズをノートに書き写しておく。 |
| 14 | 第一課～第五課 総合復習と練習                           | 3. 総合復習と練習<br>4. 質問と解答   | 授業までに練習問題を解答しておく。      |
| 15 | 第3回単元テスト(筆記と口頭)                           | 第一課～第五課 日文中訳復習と前期習熟度確認   | テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく。  |

関連科目 「中国語 I」, 「中国語 II」, 「中国語 IV」

| 教科書 | 番号 | 書籍名       | 著者名         | 出版社名  |
|-----|----|-----------|-------------|-------|
|     | 1  | いつでも中国語 2 | 成田静香・藤野真子ほか | 朝日出版社 |

| 参考書 | 番号 | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|------|-----|------|
|     | 1  | 中日辞典 |     |      |

評価方法 (基準) 小テスト: 30%  
単元テスト: 70%

学生へのメッセージ 継続は力なり。事前・事後の学習に各 60 分必要とする。

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師控室

備考 「中国語 I」と「中国語 II」を履修したうえ、「中国語 III」を履修するのが望ましい。授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(中西, 兪, 小都)を通じて問い合わせることもできる。課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。

|               |                  |         |            |
|---------------|------------------|---------|------------|
| 科目名           | 中国語Ⅳ             | 科目名(英文) | Chinese IV |
| 学部            | 外国語学部            | 学科      | 外国語学科      |
| 配当年次          | 3年               | クラス     |            |
| 単位数           | 2                | 履修区分    | 選択科目       |
| 学期            | 後期               | 授業担当者   | 礫 玉璽       |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |         |            |
| 科目ナンバリング      | LCH2308e1        |         |            |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 前期の「中国語Ⅲ」に続き、読む・聴く・話す・書く一四つの力をさらに総合的にバランスよく学習する。中国語の運用能力の中級レベル、中国語検定試験4級レベルに達することを旨とする。 |
| 到達目標        | 中国語Ⅲで学んだ事項を定着させるとともに発展させ、比較的優しい新聞記事などを辞書を使って読めるレベルを目指す。                                 |
| 授業方法と留意点    | 日本語を見て中国語を話す練習もする。事前・事後の学習に各60分必要とする。   |
| 科目学習の効果(資格) | 中国語検定試験4級受験可能。  |

| 回数 | 授業テーマ                      | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題              |
|----|----------------------------|---|------------------------|
|    |                            |   |                        |
| 1  | 第六課 北京国際空港で(1) 対話文・文法・練習   | 1. 「不用」+ 述語フレーズ<br>2. 「……的? (就)～」<br>3. 「有/没(有)」+ 名詞 + 動詞 | 対話文・短文をノートに書き写しておく。    |
| 2  | 第六課 北京国際空港で(2) 短文・文法・練習    | 4. 跟……相比<br>5. 听?、听……?<br>6. 「?得」+ 「一」+ V<br>7. 打算        | 授業までに練習問題を解答しておく。      |
| 3  | 第七課 キャンパスで(1) 対話文・文法・練習    | 1. 「? 那 ?」と量詞<br>2. 動詞フレーズ + 「的」<br>3. 「起来」の派生義           | 対話文・短文をノートに書き写しておく。    |
| 4  | 第七課 キャンパスで(2) 短文・文法・練習     | 4. ～?了<br>5. ?于<br>6. 一?…… 一?……<br>7. ?然…… 但是……           | 授業までに練習問題を解答しておく。      |
| 5  | 第1回単元テスト(筆記と口頭)            | 第六課・第七課の復習と習熟度確認  | テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく。  |
| 6  | 第八課 中華料理店で(1) 対話文・文法・練習    | 1. 「怪不得」<br>2. 「要」<br>3. 「?」+ 動詞フレーズ                      | 対話文・短文をノートに書き写しておく。    |
| 7  | 第八課 中華料理店で(2) 短文・文法・練習     | 4. 又…… 又……<br>5. 不?…… ?……<br>6. 只好<br>7. 向                | 授業までに練習問題を解答しておく。      |
| 8  | 第九課 チャイナドレス店で(1) 対話文・文法・練習 | 1. 主述述語文<br>2. 疑問詞 + 「也/都」……<br>3. 「是」を用いた譲歩構文            | 対話文・短文をノートに書き写しておく。    |
| 9  | 第九課 チャイナドレス店で(2) 短文・文法・練習  | 4. V成<br>5. 对……来?<br>6. 越来越……                             | 授業までに練習問題を解答しておく。      |
| 10 | 第2回単元テスト(筆記と口頭)            | 第八課・第九課の復習と習熟度確認  | テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく。  |
| 11 | 第十課 帰国のあいさつ(1) 対話文・文法・練習   | 1. 「就」<br>2. 「才」<br>3. 「就」と「才」                            | 対話文・短文をノートに書き写しておく。    |
| 12 | 第十課 帰国のあいさつ(2) 短文・文法・練習    | 4. 戴上/穿上<br>5. 准?<br>6. 需要<br>7. 像……??/那?                 | 授業までに練習問題を解答しておく。      |
| 13 | 第六課～第十課 基本文型まとめ            | 1. 文法練習<br>2. 会話文の朗読練習                                    | 全部の動詞フレーズをノートに書き写しておく。 |
| 14 | 第六課～第十課 総合復習と練習            | 3. 総合復習と練習<br>4. 質問と解答                                    | 授業までに練習問題を解答しておく。      |
| 15 | 第3回単元テスト(筆記と口頭)            | 第六課～第十課 日文中訳復習と後期習熟度確認                                    | テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく。  |

|           |  |           |             |       |
|-----------|--|-----------|-------------|-------|
| 関連科目      | 「中国語Ⅲ」   |           |             |       |
| 教科書       | 番号   | 書籍名       | 著者名         | 出版社名  |
|           | 1  | いつでも中国語 2 | 成田静香・藤野真子ほか | 朝日出版社 |
| 参考書       | 番号   | 書籍名       | 著者名         | 出版社名  |
|           | 1  | 中日辞典      |             |       |
| 評価方法(基準)  | 小テスト: 30%<br>単元テスト: 70%  |           |             |       |
| 学生へのメッセージ | 継続は力なり。教室でも家でも声を出してたくさん読みましょう。   |           |             |       |
| 担当者の研究室等  | 7号館2階 非常勤講師控室  |           |             |       |
| 備考        | 「中国語Ⅲ」を履修したうえ、「中国語Ⅳ」を履修するのが望ましい。<br>授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(中西、兪、小都)を通じて問い合わせることもできる。<br>課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。 |           |             |       |

|                |   |          |                          |
|----------------|---|----------|--------------------------|
| 科目名            | 日本語会話 F I   | 科目名 (英文) | Japanese Conversation FI |
| 学部             | 学部共通  | 学科       | 外国人留学生対象                 |
| 配当年次           | 1 年   | クラス      |                          |
| 単位数            | 1   | 履修区分     | 選択科目                     |
| 学期             | 前期  | 授業担当者    | 古川 由理子                   |
| ディプロマポリシー (DP) | V 科 : III○, IV○, R 科 : A◎, A 科 : C◎, M 科 : B2◎, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1◎, DP7△, DP8△, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1◎, W 科 : DP1◎, DP7◎, N 科 : DP1◎, DP8△N : DP1◎, DP8△ |          |                          |
| 科目ナンバリング       | FF01324a1   |          |                          |

|              |  |
|--------------|--|
| 授業概要・目的      | 講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。           |
| 到達目標         | まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。<br>適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。 |
| 授業方法と留意点     | さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。                 |
| 科目学習の効果 (資格) |  |

| 回数 | 授業テーマ    | 内容・方法 等                          | 事前・事後学習課題                       |
|----|----------|----------------------------------|---------------------------------|
|    |          |                                  |                                 |
| 2  | トピック 1-1 | 内容を聞き取りメモを取る<br>発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える               |
| 3  | トピック 1-2 | 前回聞いた内容について発表する                  | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する |
| 4  | トピック 2-1 | 内容を聞き取りメモを取る<br>発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える               |
| 5  | トピック 2-2 | 前回聞いた内容について発表する                  | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する |
| 6  | トピック 3-1 | 内容を聞き取りメモを取る<br>発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える               |
| 7  | トピック 3-2 | 前回聞いた内容について発表する                  | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する |
| 8  | トピック 4-1 | 内容を聞き取りメモを取る<br>発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える               |
| 9  | トピック 4-2 | 前回聞いた内容について発表する                  | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する |
| 10 | トピック 5-1 | 内容を聞き取りメモを取る<br>発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える               |
| 11 | トピック 5-2 | 前回聞いた内容について発表する                  | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する |
| 12 | 発表資料の作り方 | 発表資料の作り方について学ぶ                   | 発表テーマを決めておく                     |
| 13 | 発表準備 1   | 発表資料の作成                          | 発表資料の作成 (残り)                    |
| 14 | 発表準備 2   | 発表資料の修正                          | 発表練習 (文体に気を付ける)                 |
| 15 | 口頭発表     | 発表<br>質疑応答<br>振り返り               | 質疑応答の仕方について復習する                 |

| 関連科目 |  |     |     |      |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|------|--|-----|-----|------|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 教科書  | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号  | 書籍名 | 著者名  | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
|      | 番号   | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|      | 1  |     |     |      |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|      | 2  |     |     |      |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3    |  |     |     |      |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 参考書  | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号  | 書籍名 | 著者名  | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
|      | 番号   | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|      | 1  |     |     |      |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|      | 2  |     |     |      |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3    |  |     |     |      |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |

|           |   |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。                                  |
| 学生へのメッセージ | 受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。<br>これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。 |
| 担当者の研究室等  | 外国語学部非常勤講師講師室 (7 号館 2 階)  |
| 備考        | 事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。<br>試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。                   |

|                |   |          |                           |
|----------------|---|----------|---------------------------|
| 科目名            | 日本語会話 F II  | 科目名 (英文) | Japanese Conversation FII |
| 学部             | 学部共通  | 学科       | 外国人留学生対象                  |
| 配当年次           | 1 年   | クラス      |                           |
| 単位数            | 1   | 履修区分     | 選択科目                      |
| 学期             | 後期  | 授業担当者    | 古川 由理子                    |
| ディプロマポリシー (DP) | V 科 : III○, IV○, R 科 : A◎, A 科 : C◎, M 科 : B2◎, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1◎, DP7△, DP8△, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1◎, W 科 : DP1◎, DP7◎, N 科 : DP1◎, DP8△N : DP1◎, DP8△ |          |                           |
| 科目ナンバリング       | FF02325a1   |          |                           |

|              |  |
|--------------|--|
| 授業概要・目的      | 講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。           |
| 到達目標         | まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。<br>適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。 |
| 授業方法と留意点     | さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。                 |
| 科目学習の効果 (資格) |  |

| 回数 | 授業テーマ    | 内容・方法 等                          | 事前・事後学習課題                       |
|----|----------|----------------------------------|---------------------------------|
|    |          |                                  |                                 |
| 2  | トピック 1-1 | 内容を聞き取りメモを取る<br>発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える               |
| 3  | トピック 1-2 | 前回聞いた内容について発表する                  | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する |
| 4  | トピック 2-1 | 内容を聞き取りメモを取る<br>発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える               |
| 5  | トピック 2-2 | 前回聞いた内容について発表する                  | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する |
| 6  | トピック 3-1 | 内容を聞き取りメモを取る<br>発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える               |
| 7  | トピック 3-2 | 前回聞いた内容について発表する                  | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する |
| 8  | トピック 4-1 | 内容を聞き取りメモを取る<br>発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える               |
| 9  | トピック 4-2 | 前回聞いた内容について発表する                  | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する |
| 10 | トピック 5-1 | 内容を聞き取りメモを取る<br>発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える               |
| 11 | トピック 5-2 | 前回聞いた内容について発表する                  | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する |
| 12 | 発表資料の作り方 | 発表資料の作り方について学ぶ                   | 発表テーマを決めておく                     |
| 13 | 発表準備 1   | 発表資料の作成                          | 発表資料の作成 (残り)                    |
| 14 | 発表準備 2   | 発表資料の修正                          | 発表練習 (文体に気を付ける)                 |
| 15 | 口頭発表     | 発表<br>質疑応答<br>振り返り               | 質疑応答の仕方について復習する                 |

| 関連科目 |  |     |     |      |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|------|--|-----|-----|------|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 教科書  | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号  | 書籍名 | 著者名  | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
|      | 番号   | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|      | 1  |     |     |      |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|      | 2  |     |     |      |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3    |  |     |     |      |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 参考書  | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号  | 書籍名 | 著者名  | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
|      | 番号   | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|      | 1  |     |     |      |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|      | 2  |     |     |      |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3    |  |     |     |      |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |

|           |   |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。                                  |
| 学生へのメッセージ | 受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。<br>これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。 |
| 担当者の研究室等  | 外国語学部非常勤講師講師室 (7 号館 2 階)  |
| 備考        | 事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。<br>試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。                   |

|               |  |         |                         |
|---------------|--|---------|-------------------------|
| 科目名           | 日本語会話R   | 科目名(英文) | Japanese Conversation R |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 帰国学生対象                  |
| 配当年次          | 1年   | クラス     |                         |
| 単位数           | 1  | 履修区分    | 選択科目                    |
| 学期            | 後期   | 授業担当者   | 古川 由理子                  |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△ |         |                         |
| 科目ナンバリング      | RRE1333a1  |         |                         |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | 講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。           |
| 到達目標        | まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。<br>適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。 |
| 授業方法と留意点    | さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。                 |
| 科目学習の効果(資格) |  |

| 回数 | 授業テーマ    | 内容・方法等                           | 事前・事後学習課題                     |
|----|----------|----------------------------------|-------------------------------|
|    |          |                                  |                               |
| 2  | トピック 1-1 | 内容を聞き取りメモを取る<br>発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える             |
| 3  | トピック 1-2 | 前回聞いた内容について発表する                  | 発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する |
| 4  | トピック 2-1 | 内容を聞き取りメモを取る<br>発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える             |
| 5  | トピック 2-2 | 前回聞いた内容について発表する                  | 発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する |
| 6  | トピック 3-1 | 内容を聞き取りメモを取る<br>発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える             |
| 7  | トピック 3-2 | 前回聞いた内容について発表する                  | 発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する |
| 8  | トピック 4-1 | 内容を聞き取りメモを取る<br>発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える             |
| 9  | トピック 4-2 | 前回聞いた内容について発表する                  | 発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する |
| 10 | トピック 5-1 | 内容を聞き取りメモを取る<br>発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える             |
| 11 | トピック 5-2 | 前回聞いた内容について発表する                  | 発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する |
| 12 | 発表資料の作り方 | 発表資料の作り方について学ぶ                   | 発表テーマを決めておく                   |
| 13 | 発表準備 1   | 発表資料の作成                          | 発表資料の作成(残り)                   |
| 14 | 発表準備 2   | 発表資料の修正                          | 発表練習(文体に気を付ける)                |
| 15 | 口頭発表     | 発表<br>質疑応答<br>振り返り               | 質疑応答の仕方について復習する               |

|      |    |     |     |      |
|------|----|-----|-----|------|
| 関連科目 |    |     |     |      |
| 教科書  | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|      | 1  |     |     |      |
|      | 2  |     |     |      |
|      | 3  |     |     |      |
| 参考書  | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|      | 1  |     |     |      |
|      | 2  |     |     |      |
|      | 3  |     |     |      |

|           |   |
|-----------|---|
| 評価方法(基準)  | 授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。                                  |
| 学生へのメッセージ | 受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。<br>これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。 |
| 担当者の研究室等  | 外国語学部非常勤講師講師室(7号館2階)  |
| 備考        | 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。<br>試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。                     |

|                |   |          |                           |
|----------------|---|----------|---------------------------|
| 科目名            | 日本語総合 F I   | 科目名 (英文) | Comprehensive Japanese FI |
| 学部             | 学部共通  | 学科       | 外国人留学生対象                  |
| 配当年次           | 1 年   | クラス      |                           |
| 単位数            | 1   | 履修区分     | 選択科目                      |
| 学期             | 前期  | 授業担当者    | 藤原 京佳                     |
| ディプロマポリシー (DP) | V 科 : III○, IV○, R 科 : A○, A 科 : C○, M 科 : B2○, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1○, DP7△, DP8△, D 科 : DP1○, S 科 : DP1○, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1○, DP7○, W 科 : DP1○, DP7○, N 科 : DP1○, DP8△N : DP1○, DP8△ |          |                           |
| 科目ナンバリング       | FF01320a1   |          |                           |

| 授業概要・目的      | <p>授業では特定のテーマに関する資料を用い、以下の4点を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 資料で使用されている語彙や表現を学ぶ</li> <li>2. 資料の内容を理解する</li> <li>3. 資料の内容について意見交換を行う</li> <li>4. 必要に応じて資料の要約や意見文を書く</li> </ol> <p>日本語の語彙力、読解力、口頭コミュニケーション能力、ライティング力を総合的に養うことを目的とする。</p>  |                         |                             |    |       |         |           |   |       |                 |          |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |    |                         |                        |    |          |          |                             |    |            |                  |                        |
|--------------|---|-------------------------|-----------------------------|----|-------|---------|-----------|---|-------|-----------------|----------|---|------|-------------------|--------------------|---|------|-------------------|--------------------|---|------|-------------------|--------------------|---|----|-------------------------|------------------------|---|------|-------------------|--------------------|---|------|-------------------|--------------------|---|------|-------------------|--------------------|---|----|-------------------------|------------------------|----|------|-------------------|--------------------|----|------|-------------------|--------------------|----|------|-------------------|--------------------|----|----|-------------------------|------------------------|----|----------|----------|-----------------------------|----|------------|------------------|------------------------|
| 到達目標         | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 論説文に特徴的な表現や語彙を理解することができる。</li> <li>2. 社会的・専門的テーマに関する資料を読んで理解することができる。</li> <li>3. 特定のテーマについて他者と議論・対話を行うことができる。</li> <li>4. 適切な文体・表現を用いて文章を書くことができる。</li> </ol>  |                         |                             |    |       |         |           |   |       |                 |          |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |    |                         |                        |    |          |          |                             |    |            |                  |                        |
| 授業方法と留意点     | 社会的・専門的テーマに関する資料を読んでいくが、内容理解にとどまらず、内容を踏まえた上で自身の考えを深めることが求められる。したがって、授業では語彙・表現等の説明も行うが、意見交換を重視する。また、自分の考えを一方向的に述べるだけでなく、異なる意見をもつ他者とのように話し合いを進めていくかということにも意識的に取り組んでいく。  |                         |                             |    |       |         |           |   |       |                 |          |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |    |                         |                        |    |          |          |                             |    |            |                  |                        |
| 科目学習の効果 (資格) |   |                         |                             |    |       |         |           |   |       |                 |          |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |    |                         |                        |    |          |          |                             |    |            |                  |                        |
| 授業計画         | <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>自己紹介<br/>授業の概要説明</td> <td>自己紹介文を書く</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>テーマ1</td> <td>資料の読解・テーマに関する話し合い</td> <td>資料に出てきた語彙・表現等を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>テーマ2</td> <td>資料の読解・テーマに関する話し合い</td> <td>資料に出てきた語彙・表現等を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>テーマ3</td> <td>資料の読解・テーマに関する話し合い</td> <td>資料に出てきた語彙・表現等を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>確認</td> <td>テーマ1から3の学習内容に関する確認・小テスト</td> <td>テーマ1から3のうち1つ選んで、意見文を書く</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>テーマ4</td> <td>資料の読解・テーマに関する話し合い</td> <td>資料に出てきた語彙・表現等を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>テーマ5</td> <td>資料の読解・テーマに関する話し合い</td> <td>資料に出てきた語彙・表現等を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>テーマ6</td> <td>資料の読解・テーマに関する話し合い</td> <td>資料に出てきた語彙・表現等を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>確認</td> <td>テーマ4から6の学習内容に関する確認・小テスト</td> <td>テーマ4から6のうち1つ選んで、意見文を書く</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>テーマ7</td> <td>資料の読解・テーマに関する話し合い</td> <td>資料に出てきた語彙・表現等を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>テーマ8</td> <td>資料の読解・テーマに関する話し合い</td> <td>資料に出てきた語彙・表現等を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>テーマ9</td> <td>資料の読解・テーマに関する話し合い</td> <td>資料に出てきた語彙・表現等を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>確認</td> <td>テーマ7から9の学習内容に関する確認・小テスト</td> <td>テーマ7から9のうち1つ選んで、意見文を書く</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>レポート作成準備</td> <td>レポートの書き方</td> <td>これまで扱ったテーマの中から1つ選びレポートを作成する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>発表・フィードバック</td> <td>レポート内容の発表および話し合い</td> <td>返却されたレポートの訂正箇所について確認する</td> </tr> </tbody> </table> |                         |                             | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | 1 | ガイダンス | 自己紹介<br>授業の概要説明 | 自己紹介文を書く | 2 | テーマ1 | 資料の読解・テーマに関する話し合い | 資料に出てきた語彙・表現等を復習する | 3 | テーマ2 | 資料の読解・テーマに関する話し合い | 資料に出てきた語彙・表現等を復習する | 4 | テーマ3 | 資料の読解・テーマに関する話し合い | 資料に出てきた語彙・表現等を復習する | 5 | 確認 | テーマ1から3の学習内容に関する確認・小テスト | テーマ1から3のうち1つ選んで、意見文を書く | 6 | テーマ4 | 資料の読解・テーマに関する話し合い | 資料に出てきた語彙・表現等を復習する | 7 | テーマ5 | 資料の読解・テーマに関する話し合い | 資料に出てきた語彙・表現等を復習する | 8 | テーマ6 | 資料の読解・テーマに関する話し合い | 資料に出てきた語彙・表現等を復習する | 9 | 確認 | テーマ4から6の学習内容に関する確認・小テスト | テーマ4から6のうち1つ選んで、意見文を書く | 10 | テーマ7 | 資料の読解・テーマに関する話し合い | 資料に出てきた語彙・表現等を復習する | 11 | テーマ8 | 資料の読解・テーマに関する話し合い | 資料に出てきた語彙・表現等を復習する | 12 | テーマ9 | 資料の読解・テーマに関する話し合い | 資料に出てきた語彙・表現等を復習する | 13 | 確認 | テーマ7から9の学習内容に関する確認・小テスト | テーマ7から9のうち1つ選んで、意見文を書く | 14 | レポート作成準備 | レポートの書き方 | これまで扱ったテーマの中から1つ選びレポートを作成する | 15 | 発表・フィードバック | レポート内容の発表および話し合い | 返却されたレポートの訂正箇所について確認する |
| 回数           | 授業テーマ   | 内容・方法 等                 | 事前・事後学習課題                   |    |       |         |           |   |       |                 |          |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |    |                         |                        |    |          |          |                             |    |            |                  |                        |
| 1            | ガイダンス   | 自己紹介<br>授業の概要説明         | 自己紹介文を書く                    |    |       |         |           |   |       |                 |          |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |    |                         |                        |    |          |          |                             |    |            |                  |                        |
| 2            | テーマ1  | 資料の読解・テーマに関する話し合い       | 資料に出てきた語彙・表現等を復習する          |    |       |         |           |   |       |                 |          |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |    |                         |                        |    |          |          |                             |    |            |                  |                        |
| 3            | テーマ2  | 資料の読解・テーマに関する話し合い       | 資料に出てきた語彙・表現等を復習する          |    |       |         |           |   |       |                 |          |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |    |                         |                        |    |          |          |                             |    |            |                  |                        |
| 4            | テーマ3  | 資料の読解・テーマに関する話し合い       | 資料に出てきた語彙・表現等を復習する          |    |       |         |           |   |       |                 |          |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |    |                         |                        |    |          |          |                             |    |            |                  |                        |
| 5            | 確認  | テーマ1から3の学習内容に関する確認・小テスト | テーマ1から3のうち1つ選んで、意見文を書く      |    |       |         |           |   |       |                 |          |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |    |                         |                        |    |          |          |                             |    |            |                  |                        |
| 6            | テーマ4  | 資料の読解・テーマに関する話し合い       | 資料に出てきた語彙・表現等を復習する          |    |       |         |           |   |       |                 |          |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |    |                         |                        |    |          |          |                             |    |            |                  |                        |
| 7            | テーマ5  | 資料の読解・テーマに関する話し合い       | 資料に出てきた語彙・表現等を復習する          |    |       |         |           |   |       |                 |          |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |    |                         |                        |    |          |          |                             |    |            |                  |                        |
| 8            | テーマ6  | 資料の読解・テーマに関する話し合い       | 資料に出てきた語彙・表現等を復習する          |    |       |         |           |   |       |                 |          |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |    |                         |                        |    |          |          |                             |    |            |                  |                        |
| 9            | 確認  | テーマ4から6の学習内容に関する確認・小テスト | テーマ4から6のうち1つ選んで、意見文を書く      |    |       |         |           |   |       |                 |          |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |    |                         |                        |    |          |          |                             |    |            |                  |                        |
| 10           | テーマ7  | 資料の読解・テーマに関する話し合い       | 資料に出てきた語彙・表現等を復習する          |    |       |         |           |   |       |                 |          |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |    |                         |                        |    |          |          |                             |    |            |                  |                        |
| 11           | テーマ8  | 資料の読解・テーマに関する話し合い       | 資料に出てきた語彙・表現等を復習する          |    |       |         |           |   |       |                 |          |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |    |                         |                        |    |          |          |                             |    |            |                  |                        |
| 12           | テーマ9  | 資料の読解・テーマに関する話し合い       | 資料に出てきた語彙・表現等を復習する          |    |       |         |           |   |       |                 |          |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |    |                         |                        |    |          |          |                             |    |            |                  |                        |
| 13           | 確認  | テーマ7から9の学習内容に関する確認・小テスト | テーマ7から9のうち1つ選んで、意見文を書く      |    |       |         |           |   |       |                 |          |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |    |                         |                        |    |          |          |                             |    |            |                  |                        |
| 14           | レポート作成準備  | レポートの書き方                | これまで扱ったテーマの中から1つ選びレポートを作成する |    |       |         |           |   |       |                 |          |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |    |                         |                        |    |          |          |                             |    |            |                  |                        |
| 15           | 発表・フィードバック  | レポート内容の発表および話し合い        | 返却されたレポートの訂正箇所について確認する      |    |       |         |           |   |       |                 |          |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |    |                         |                        |    |          |          |                             |    |            |                  |                        |
| 関連科目         |   |                         |                             |    |       |         |           |   |       |                 |          |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |    |                         |                        |    |          |          |                             |    |            |                  |                        |
| 教科書          | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  |                         |                             | 番号 | 書籍名   | 著者名     | 出版社名      | 1 |       |                 |          | 2 |      |                   |                    | 3 |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |    |                         |                        |    |          |          |                             |    |            |                  |                        |
| 番号           | 書籍名   | 著者名                     | 出版社名                        |    |       |         |           |   |       |                 |          |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |    |                         |                        |    |          |          |                             |    |            |                  |                        |
| 1            |   |                         |                             |    |       |         |           |   |       |                 |          |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |    |                         |                        |    |          |          |                             |    |            |                  |                        |
| 2            |   |                         |                             |    |       |         |           |   |       |                 |          |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |    |                         |                        |    |          |          |                             |    |            |                  |                        |
| 3            |   |                         |                             |    |       |         |           |   |       |                 |          |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |    |                         |                        |    |          |          |                             |    |            |                  |                        |
| 参考書          | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  |                         |                             | 番号 | 書籍名   | 著者名     | 出版社名      | 1 |       |                 |          | 2 |      |                   |                    | 3 |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |    |                         |                        |    |          |          |                             |    |            |                  |                        |
| 番号           | 書籍名   | 著者名                     | 出版社名                        |    |       |         |           |   |       |                 |          |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |    |                         |                        |    |          |          |                             |    |            |                  |                        |
| 1            |   |                         |                             |    |       |         |           |   |       |                 |          |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |    |                         |                        |    |          |          |                             |    |            |                  |                        |
| 2            |   |                         |                             |    |       |         |           |   |       |                 |          |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |    |                         |                        |    |          |          |                             |    |            |                  |                        |
| 3            |   |                         |                             |    |       |         |           |   |       |                 |          |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |    |                         |                        |    |          |          |                             |    |            |                  |                        |
| 評価方法 (基準)    | 授業への取り組み 30%、小テスト 30%、レポート 40%で判断する。  |                         |                             |    |       |         |           |   |       |                 |          |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |    |                         |                        |    |          |          |                             |    |            |                  |                        |
| 学生へのメッセージ    | 受講者の日本語レベルにより授業内容を調整・変更することがあります。   |                         |                             |    |       |         |           |   |       |                 |          |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |    |                         |                        |    |          |          |                             |    |            |                  |                        |
| 担当者の研究室等     | 国際交流センター講師控室 (3号館4階)  |                         |                             |    |       |         |           |   |       |                 |          |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |    |                         |                        |    |          |          |                             |    |            |                  |                        |
| 備考           | 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。<br>受講者が小人数の場合、要望を取り入れながら授業を行います。<br>授業では学生同士の話し合いを観察し、教師が適宜フィードバックを行う。   |                         |                             |    |       |         |           |   |       |                 |          |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |      |                   |                    |   |    |                         |                        |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |      |                   |                    |    |    |                         |                        |    |          |          |                             |    |            |                  |                        |



|               |   |         |                            |
|---------------|---|---------|----------------------------|
| 科目名           | 日本語総合FⅡ   | 科目名(英文) | Comprehensive Japanese FII |
| 学部            | 学部共通  | 学科      | 外国人留学生対象                   |
| 配当年次          | 1年  | クラス     |                            |
| 単位数           | 1   | 履修区分    | 選択科目                       |
| 学期            | 後期  | 授業担当者   | 藤原 京佳                      |
| ディプロマポリシー(DP) | V科:Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科:A〇,A科:C〇,M科:B2〇,E科:F〇,C科:Ⅲ〇,Ⅵ〇,L科:DP1〇,DP7△,DP8△,D科:DP1〇,S科:DP1〇,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1〇,DP7〇,W科:DP1〇,DP7〇,N科:DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△ |         |                            |
| 科目ナンバリング      | FF02321a1   |         |                            |

|          |  |
|----------|--|
| 授業概要・目的  | 日本や国際社会における社会・時事問題への理解を深めると同時に、問題について日本語で議論する能力を伸ばす。                   |
| 到達目標     | 1. 社会的な問題について論理的に自分の意見を述べるができる。<br>2. 他者の意見に耳を傾け、建設的に議論を進めていくことができる。   |
| 授業方法と留意点 | 日本・国際社会の問題に関するニュースや新聞(生教材)を使い、話し合う。<br>コースの後半は学生各自が興味のある話題を持ち寄って、話し合う。 |

科目学習の効果(資格)

| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ        | 内容・方法等                         | 事前・事後学習課題                  |
|------|----|--------------|--------------------------------|----------------------------|
|      | 1  | トピック①        | 議論                             | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する  |
|      | 2  | トピック②        | 議論                             | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する  |
|      | 3  | トピック③        | 議論                             | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する  |
|      | 4  | トピック④        | 議論                             | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する  |
|      | 5  | トピック⑤        | 議論                             | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する  |
|      | 6  | トピック⑥        | 議論                             | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する  |
|      | 7  | トピック⑦        | 議論                             | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する  |
|      | 8  | トピック⑧        | 議論                             | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する  |
|      | 9  | 学生持ち寄りのトピック① | 議論                             | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する  |
|      | 10 | 学生持ち寄りのトピック② | 議論                             | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する  |
|      | 11 | 学生持ち寄りのトピック③ | 議論                             | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する  |
|      | 12 | 学生持ち寄りのトピック⑤ | 議論                             | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する  |
|      | 13 | 学生持ち寄りのトピック⑥ | 議論                             | 翌週行う自分の持ち寄りトピックに関する資料収集    |
|      | 14 | 発表準備         | 自分が持ち寄ったトピックをさらに絞り込み、発表資料を作成する | 発表練習                       |
|      | 15 | 発表           | 口頭発表<br>質疑応答<br>振り返り           | 発表のフィードバックシートを用い、改善点等を確認する |

関連科目

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

評価方法(基準) 授業で課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。

学生へのメッセージ 受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。

担当者の研究室等 国際交流センター(3号館4階)

備考 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。  
受講者が小人数の場合、要望を取り入れながら授業を行います。  
議論を行ううえで不明な語彙や表現がある場合は教師が適宜サポート・フィードバックします。

|               |  |         |                          |
|---------------|--|---------|--------------------------|
| 科目名           | 日本語総合R   | 科目名(英文) | Comprehensive Japanese R |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 帰国学生対象                   |
| 配当年次          | 1年   | クラス     |                          |
| 単位数           | 1  | 履修区分    | 選択科目                     |
| 学期            | 後期   | 授業担当者   | 藤原 京佳                    |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△ |         |                          |
| 科目ナンバリング      | RRE1331a1  |         |                          |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | 日本や国際社会における社会・時事問題への理解を深めると同時に、問題について日本語で議論する能力を伸ばす。                   |
| 到達目標        | 1. 社会的な問題について論理的に自分の意見を述べるができる。<br>2. 他者の意見に耳を傾け、建設的に議論を進めていくことができる。   |
| 授業方法と留意点    | 日本・国際社会の問題に関するニュースや新聞(生教材)を使い、話し合う。<br>コースの後半は学生各自が興味のある話題を持ち寄って、話し合う。 |
| 科目学習の効果(資格) |  |

|      |    |                      |                                |                           |
|------|----|----------------------|--------------------------------|---------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ                | 内容・方法等                         | 事前・事後学習課題                 |
|      | 1  | トピック①                | 議論                             | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する |
|      | 2  | トピック②                | 議論                             | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する |
|      | 3  | トピック③                | 議論                             | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する |
|      | 4  | トピック④                | 議論                             | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する |
|      | 5  | トピック⑤                | 議論                             | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する |
|      | 6  | トピック⑥                | 議論                             | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する |
|      | 7  | トピック⑦                | 議論                             | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する |
|      | 8  | トピック⑧                | 議論                             | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する |
|      | 9  | 学生持ち寄りのトピック①         | 議論                             | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する |
|      | 10 | 学生持ち寄りのトピック②         | 議論                             | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する |
|      | 11 | 学生持ち寄りのトピック③         | 議論                             | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する |
|      | 12 | 学生持ち寄りのトピック⑤         | 議論                             | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する |
|      | 13 | 学生持ち寄りのトピック⑥         | 議論                             | 翌週行う自分の持ち寄りトピックに関する資料収集   |
|      | 14 | 発表準備                 | 自分が持ち寄ったトピックをさらに絞り込み、発表資料を作成する | 発表練習                      |
| 15   | 発表 | 口頭発表<br>質疑応答<br>振り返り | 発表のフィードバックシートを用い、改善点等を確認する     |                           |

|      |    |     |     |      |
|------|----|-----|-----|------|
| 関連科目 |    |     |     |      |
| 教科書  | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|      | 1  |     |     |      |
|      | 2  |     |     |      |
|      | 3  |     |     |      |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|           |  |
|-----------|--|
| 評価方法(基準)  | 授業で課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。  |
| 学生へのメッセージ | 受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。   |
| 担当者の研究室等  | 国際交流センター(3号館4階)  |
| 備考        | 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。<br>受講者が小人数の場合、要望を取り入れながら授業を行います。<br>議論を行ううえで不明な語彙や表現がある場合は教師が適宜サポート・フィードバックします。 |

|                |   |          |                     |
|----------------|---|----------|---------------------|
| 科目名            | 日本語読解 F I   | 科目名 (英文) | Japanese Reading FI |
| 学部             | 学部共通  | 学科       | 外国人留学生対象            |
| 配当年次           | 1 年   | クラス      |                     |
| 単位数            | 1   | 履修区分     | 選択科目                |
| 学期             | 前期  | 授業担当者    | 佐々木 成美              |
| ディプロマポリシー (DP) | V 科 : III○, IV○, R 科 : A◎, A 科 : C◎, M 科 : B2◎, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1◎, DP7△, DP8△, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1◎, DP8◎, W 科 : DP1◎, DP7◎, N 科 : DP1◎, DP8△N : DP1◎, DP8△ |          |                     |
| 科目ナンバリング       | FF01314a1   |          |                     |

|              |  |
|--------------|--|
| 授業概要・目的      | この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。                                    |
| 到達目標         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・読んだ文章の内容をまとめて書く/話すことができる。</li> <li>・語彙力をつける。</li> <li>・一般書レベルの漢字が読める。</li> </ul>                                   |
| 授業方法と留意点     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。</li> <li>・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。</li> </ul> |
| 科目学習の効果 (資格) | 専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく   |

|      |    |                                  |                      |           |
|------|----|----------------------------------|----------------------|-----------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ                            | 内容・方法 等              | 事前・事後学習課題 |
|      | 1  | オリエンテーション<br>「早朝時間」のフル活用で成功した人たち | 授業の進め方の説明<br>読解、内容理解 | 復習        |
|      | 2  | 渡り鳥はなぜ迷わない？                      | 読解、内容理解、内容をまとめる練習    | 復習        |
|      | 3  | フリーズする脳                          | 読解、内容理解、内容をまとめる練習    | 復習        |
|      | 4  | 「科学」の定義①                         | 読解、内容理解              | 復習        |
|      | 5  | 「科学」の定義②                         | 語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク | 復習        |
|      | 6  | 現代の若者のマナー①                       | 読解、内容理解              | 復習        |
|      | 7  | 現代の若者のマナー②                       | 語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク | 復習        |
|      | 8  | 親孝行な男の子                          | 読解、内容理解、タスク          | 復習        |
|      | 9  | 言語と文化①                           | 読解、内容理解              | 復習        |
|      | 10 | 言語と文化②                           | 語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク | 復習        |
|      | 11 | ローソクの進化①                         | 読解、内容理解              | 復習        |
|      | 12 | ローソクの進化②                         | 語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク | 復習        |
|      | 13 | 「割り勘」は当然?①                       | 読解、内容理解              | 復習        |
|      | 14 | 「割り勘」は当然?②                       | 語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク | 復習        |
|      | 15 | 総復習                              | 総復習                  | 復習        |

|      |            |
|------|------------|
| 関連科目 | 日本語読解 F II |
|------|------------|

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|           |                                      |
|-----------|--------------------------------------|
| 評価方法 (基準) | 授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%) |
|-----------|--------------------------------------|

|           |  |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！ |
|-----------|--|

|          |                |
|----------|----------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階 (非常勤講師室) |
|----------|----------------|

|    |  |
|----|--|
| 備考 | <p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。</p> <p>(3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。</p> <p>(4) 小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。</p> |
|----|--|

|                |   |          |                      |
|----------------|---|----------|----------------------|
| 科目名            | 日本語読解 F II  | 科目名 (英文) | Japanese Reading FII |
| 学部             | 学部共通  | 学科       | 外国人留学生対象             |
| 配当年次           | 1 年   | クラス      |                      |
| 単位数            | 1   | 履修区分     | 選択科目                 |
| 学期             | 後期  | 授業担当者    | 佐々木 成美               |
| ディプロマポリシー (DP) | V 科 : III○, IV○, R 科 : A○, A 科 : C○, M 科 : B2○, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1○, DP7△, DP8△, D 科 : DP1○, S 科 : DP1○, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1○, DP8○, W 科 : DP1○, DP7○, N 科 : DP1○, DP8△N : DP1○, DP8△ |          |                      |
| 科目ナンバリング       | FF02315a1   |          |                      |

|              |  |
|--------------|--|
| 授業概要・目的      | この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。                                    |
| 到達目標         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・読んだ文章の内容をまとめて書く/話すことができる。</li> <li>・語彙力をつける。</li> <li>・一般書レベルの漢字が読める。</li> </ul>                                   |
| 授業方法と留意点     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。</li> <li>・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。</li> </ul> |
| 科目学習の効果 (資格) | 専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく   |

|      |    |                |                      |           |
|------|----|----------------|----------------------|-----------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ          | 内容・方法 等              | 事前・事後学習課題 |
|      | 1  | オリエンテーション<br>涙 | 授業の進め方の説明<br>読解、内容理解 | 復習        |
|      | 2  | 統計と数字①         | 読解、内容理解              | 復習        |
|      | 3  | 統計と数字②         | 語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク | 復習        |
|      | 4  | 背理法①           | 読解、内容理解              | 復習        |
|      | 5  | 背理法②           | 語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク | 復習        |
|      | 6  | 「待つ」こと①        | 読解、内容理解              | 復習        |
|      | 7  | 「待つ」こと②        | 語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク | 復習        |
|      | 8  | ついでに何を？①       | 読解、内容理解              | 復習        |
|      | 9  | ついでに何を？②       | 語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク | 復習        |
|      | 10 | ウイルス発見！①       | 読解、内容理解              | 復習        |
|      | 11 | ウイルス発見！②       | 語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク | 復習        |
|      | 12 | 大学で学ぶこと①       | 読解、内容理解              | 復習        |
|      | 13 | 大学で学ぶこと②       | 語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク | 復習        |
|      | 14 | 何のために「学ぶ」のか    | 読解、内容理解              | 復習        |
|      | 15 | 総復習            | 総復習                  | 復習        |

|      |           |
|------|-----------|
| 関連科目 | 日本語読解 F I |
|------|-----------|

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|           |  |
|-----------|--|
| 評価方法 (基準) | 授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)                             |
| 学生へのメッセージ | 日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！ |
| 担当者の研究室等  | 7号館2階 (非常勤講師室)   |

|    |  |
|----|--|
| 備考 | <p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。</p> <p>(3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週 1 時間。</p> <p>(4) 小テストの FB に関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。</p> |
|----|--|

|               |  |         |                    |
|---------------|--|---------|--------------------|
| 科目名           | 日本語読解R   | 科目名(英文) | Japanese Reading R |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 帰国学生対象             |
| 配当年次          | 1年   | クラス     |                    |
| 単位数           | 1  | 履修区分    | 選択科目               |
| 学期            | 前期   | 授業担当者   | 佐々木 成美             |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△ |         |                    |
| 科目ナンバリング      | RRE1328a1  |         |                    |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。                                    |
| 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・読んだ文章の内容をまとめて書く/話すことができる。</li> <li>・語彙力をつける。</li> <li>・一般書レベルの漢字が読める。</li> </ul>                                   |
| 授業方法と留意点    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。</li> <li>・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。</li> </ul> |
| 科目学習の効果(資格) | 専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく   |

|      |    |                                  |                      |           |
|------|----|----------------------------------|----------------------|-----------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ                            | 内容・方法等               | 事前・事後学習課題 |
|      | 1  | オリエンテーション<br>「早朝時間」のフル活用で成功した人たち | 授業の進め方の説明<br>読解、内容理解 | 復習        |
|      | 2  | 渡り鳥はなぜ迷わない?                      | 読解、内容理解、内容をまとめる練習    | 復習        |
|      | 3  | フリーズする脳                          | 読解、内容理解、内容をまとめる練習    | 復習        |
|      | 4  | 「科学」の定義①                         | 読解、内容理解              | 復習        |
|      | 5  | 「科学」の定義②                         | 語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク  | 復習        |
|      | 6  | 現代の若者のマナー①                       | 読解、内容理解              | 復習        |
|      | 7  | 現代の若者のマナー②                       | 語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク  | 復習        |
|      | 8  | 親孝行な男の子                          | 読解、内容理解、タスク          | 復習        |
|      | 9  | 言語と文化①                           | 読解、内容理解              | 復習        |
|      | 10 | 言語と文化②                           | 語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク  | 復習        |
|      | 11 | ローソクの進化①                         | 読解、内容理解              | 復習        |
|      | 12 | ローソクの進化②                         | 語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク  | 復習        |
|      | 13 | 「割り勘」は当然?①                       | 読解、内容理解              | 復習        |
|      | 14 | 「割り勘」は当然?②                       | 語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク  | 復習        |
|      | 15 | 総復習                              | 総復習                  | 復習        |

|      |          |
|------|----------|
| 関連科目 | 日本語読解FII |
|------|----------|

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|          |                                   |
|----------|-----------------------------------|
| 評価方法(基準) | 授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%) |
|----------|-----------------------------------|

|           |  |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう! |
|-----------|--|

|          |               |
|----------|---------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階(非常勤講師室) |
|----------|---------------|

|    |  |
|----|--|
| 備考 | <p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。</p> <p>(3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。</p> <p>(4) 小テストのFBに関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。</p> |
|----|--|

|                |  |          |                                 |
|----------------|--|----------|---------------------------------|
| 科目名            | 日本語表現作文F I   | 科目名 (英文) | Japanese Reading and Writing FI |
| 学部             | 学部共通   | 学科       | 外国人留学生対象                        |
| 配当年次           | 1年   | クラス      |                                 |
| 単位数            | 1  | 履修区分     | 選択科目                            |
| 学期             | 前期   | 授業担当者    | 佐々木 成美                          |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: III○, IV○, R科: A○, A科: C○, M科: B2○, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1○, DP7△, DP8△, D科: DP1○, S科: DP1○, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1○, DP8○, W科: DP1○, DP7○, N科: DP1○, DP8△N: DP1○, DP8△ |          |                                 |
| 科目ナンバリング       | FF01318a1  |          |                                 |

| 授業概要・目的      | この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。  |                           |            |    |       |         |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
|--------------|--|---------------------------|------------|----|-------|---------|-----------|---|---------------------|---------------------------|----|---|------------|-------------------|----|---|--------|-----------------|----|---|-----|------------|----|---|-----|------|------------|---|-------|-------------|----|---|-------|------|------------|---|----|-----------------|----|---|----|-----------|----|----|-------|------|------------|----|----|-----------|----|----|-----|-----------|----|----|-----|------|------------|----|-------|------------|----|----|-----|-----|----|
| 到達目標         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート・論文の文体で書ける。</li> <li>・読んだ内容を要約できる。</li> <li>・段落分けして書ける。</li> <li>・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。</li> <li>・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。</li> </ul>  |                           |            |    |       |         |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 授業方法と留意点     | 授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。   |                           |            |    |       |         |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 科目学習の効果 (資格) | レポートや論文を書くための基礎力を身につける。  |                           |            |    |       |         |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 授業計画         | <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション<br/>日本語の文体</td> <td>授業についての説明<br/>日本語の文体について学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>復習<br/>作文課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>復習<br/>作文課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>復習<br/>作文課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>復習<br/>作文課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table> |                           |            | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | 1 | オリエンテーション<br>日本語の文体 | 授業についての説明<br>日本語の文体について学ぶ | 復習 | 2 | レポート・論文の文体 | レポート・論文に使われる文体を学ぶ | 復習 | 3 | 記号の使い方 | 句読点、各種記号の使い方を学ぶ | 復習 | 4 | 段落① | 段落構成について学ぶ | 復習 | 5 | 段落② | 実践練習 | 復習<br>作文課題 | 6 | 経過説明① | 経過説明の書き方を学ぶ | 復習 | 7 | 経過説明② | 実践練習 | 復習<br>作文課題 | 8 | 分類 | 「分類」をする文の書き方を学ぶ | 復習 | 9 | 定義 | 定義の書き方を学ぶ | 復習 | 10 | 分類・定義 | 実践練習 | 復習<br>作文課題 | 11 | 引用 | 引用の書き方を学ぶ | 復習 | 12 | 要約① | 要約の書き方を学ぶ | 復習 | 13 | 要約② | 実践練習 | 復習<br>作文課題 | 14 | 資料の利用 | 資料の利用方法を学ぶ | 復習 | 15 | 総復習 | 総復習 | 復習 |
| 回数           | 授業テーマ  | 内容・方法 等                   | 事前・事後学習課題  |    |       |         |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 1            | オリエンテーション<br>日本語の文体  | 授業についての説明<br>日本語の文体について学ぶ | 復習         |    |       |         |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 2            | レポート・論文の文体   | レポート・論文に使われる文体を学ぶ         | 復習         |    |       |         |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 3            | 記号の使い方   | 句読点、各種記号の使い方を学ぶ           | 復習         |    |       |         |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 4            | 段落①  | 段落構成について学ぶ                | 復習         |    |       |         |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 5            | 段落②  | 実践練習                      | 復習<br>作文課題 |    |       |         |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 6            | 経過説明①  | 経過説明の書き方を学ぶ               | 復習         |    |       |         |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 7            | 経過説明②  | 実践練習                      | 復習<br>作文課題 |    |       |         |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 8            | 分類   | 「分類」をする文の書き方を学ぶ           | 復習         |    |       |         |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 9            | 定義   | 定義の書き方を学ぶ                 | 復習         |    |       |         |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 10           | 分類・定義  | 実践練習                      | 復習<br>作文課題 |    |       |         |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 11           | 引用   | 引用の書き方を学ぶ                 | 復習         |    |       |         |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 12           | 要約①  | 要約の書き方を学ぶ                 | 復習         |    |       |         |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 13           | 要約②  | 実践練習                      | 復習<br>作文課題 |    |       |         |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 14           | 資料の利用  | 資料の利用方法を学ぶ                | 復習         |    |       |         |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 15           | 総復習  | 総復習                       | 復習         |    |       |         |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 関連科目         | 日本語表現作文F II  |                           |            |    |       |         |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 教科書          | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>   |                           |            | 番号 | 書籍名   | 著者名     | 出版社名      | 1 |                     |                           |    | 2 |            |                   |    | 3 |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 番号           | 書籍名  | 著者名                       | 出版社名       |    |       |         |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 1            |  |                           |            |    |       |         |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 2            |  |                           |            |    |       |         |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 3            |  |                           |            |    |       |         |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 参考書          | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>   |                           |            | 番号 | 書籍名   | 著者名     | 出版社名      | 1 |                     |                           |    | 2 |            |                   |    | 3 |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 番号           | 書籍名  | 著者名                       | 出版社名       |    |       |         |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 1            |  |                           |            |    |       |         |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 2            |  |                           |            |    |       |         |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 3            |  |                           |            |    |       |         |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 評価方法 (基準)    | 授業内での取り組み (50%)、提出物 (50%)  |                           |            |    |       |         |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 学生へのメッセージ    | 日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。  |                           |            |    |       |         |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 担当者の研究室等     | 7号館2階 (非常勤講師室)   |                           |            |    |       |         |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 備考           | <p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。</p> <p>(3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。</p> <p>(4) 提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。</p>   |                           |            |    |       |         |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |

|               |   |         |                                  |
|---------------|---|---------|----------------------------------|
| 科目名           | 日本語表現作文FⅡ   | 科目名(英文) | Japanese Reading and Writing FII |
| 学部            | 学部共通  | 学科      | 外国人留学生対象                         |
| 配当年次          | 1年  | クラス     |                                  |
| 単位数           | 1   | 履修区分    | 選択科目                             |
| 学期            | 後期  | 授業担当者   | 佐々木 成美                           |
| ディプロマポリシー(DP) | V科:Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科:A〇,A科:C〇,M科:B2〇,E科:F〇,C科:Ⅲ〇,Ⅵ〇,L科:DP1〇,DP7△,DP8△,D科:DP1〇,S科:DP1〇,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1〇,DP8〇,W科:DP1〇,DP7〇,N科:DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△ |         |                                  |
| 科目ナンバリング      | FF02319a1   |         |                                  |

| 授業概要・目的     | この授業では、実際にレポートを作成することを通し、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。  |                             |              |    |       |        |           |   |                    |                             |    |   |            |                        |    |   |         |            |    |   |            |                       |              |   |         |            |    |   |        |                  |    |   |     |                        |    |   |     |       |    |   |     |                        |    |    |     |                       |    |    |     |       |    |    |     |                            |    |    |     |       |    |    |      |                   |    |    |      |                  |    |
|-------------|---|-----------------------------|--------------|----|-------|--------|-----------|---|--------------------|-----------------------------|----|---|------------|------------------------|----|---|---------|------------|----|---|------------|-----------------------|--------------|---|---------|------------|----|---|--------|------------------|----|---|-----|------------------------|----|---|-----|-------|----|---|-----|------------------------|----|----|-----|-----------------------|----|----|-----|-------|----|----|-----|----------------------------|----|----|-----|-------|----|----|------|-------------------|----|----|------|------------------|----|
| 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート・論文の文体で書ける。</li> <li>・レポート・論文の書き方を守って書ける。</li> <li>・アウトラインに沿って書ける。</li> <li>・信頼性の高い資料を集められる。</li> </ul>   |                             |              |    |       |        |           |   |                    |                             |    |   |            |                        |    |   |         |            |    |   |            |                       |              |   |         |            |    |   |        |                  |    |   |     |                        |    |   |     |       |    |   |     |                        |    |    |     |                       |    |    |     |       |    |    |     |                            |    |    |     |       |    |    |      |                   |    |    |      |                  |    |
| 授業方法と留意点    | 授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成していく。   |                             |              |    |       |        |           |   |                    |                             |    |   |            |                        |    |   |         |            |    |   |            |                       |              |   |         |            |    |   |        |                  |    |   |     |                        |    |   |     |       |    |   |     |                        |    |    |     |                       |    |    |     |       |    |    |     |                            |    |    |     |       |    |    |      |                   |    |    |      |                  |    |
| 科目学習の効果(資格) | レポートが書けるようになる。  |                             |              |    |       |        |           |   |                    |                             |    |   |            |                        |    |   |         |            |    |   |            |                       |              |   |         |            |    |   |        |                  |    |   |     |                        |    |   |     |       |    |   |     |                        |    |    |     |                       |    |    |     |       |    |    |     |                            |    |    |     |       |    |    |      |                   |    |    |      |                  |    |
| 授業計画        | <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション<br/>前期の復習</td> <td>授業についての説明<br/>前期の学習内容についての復習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポートの言葉と表現</td> <td>レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>レポートの構成</td> <td>レポートの構成を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>テーマ決め・資料収集</td> <td>テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ</td> <td>復習<br/>資料を集める</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>資料を整理する</td> <td>集めた資料を整理する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>アウトライン</td> <td>レポートのアウトラインを作成する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>序論①</td> <td>序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>序論②</td> <td>序論を書く</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>本論①</td> <td>本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>本論②</td> <td>本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>本論③</td> <td>本論を書く</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>結論①</td> <td>結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>結論②</td> <td>結論を書く</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>まとめ①</td> <td>レポートを推敲し、完成稿を作成する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ②</td> <td>作成したレポートを元に発表を行う</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table> |                             |              | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 | 1 | オリエンテーション<br>前期の復習 | 授業についての説明<br>前期の学習内容についての復習 | 復習 | 2 | レポートの言葉と表現 | レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ | 復習 | 3 | レポートの構成 | レポートの構成を学ぶ | 復習 | 4 | テーマ決め・資料収集 | テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ | 復習<br>資料を集める | 5 | 資料を整理する | 集めた資料を整理する | 復習 | 6 | アウトライン | レポートのアウトラインを作成する | 復習 | 7 | 序論① | 序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ | 復習 | 8 | 序論② | 序論を書く | 復習 | 9 | 本論① | 本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ | 復習 | 10 | 本論② | 本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ | 復習 | 11 | 本論③ | 本論を書く | 復習 | 12 | 結論① | 結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ | 復習 | 13 | 結論② | 結論を書く | 復習 | 14 | まとめ① | レポートを推敲し、完成稿を作成する | 復習 | 15 | まとめ② | 作成したレポートを元に発表を行う | 復習 |
| 回数          | 授業テーマ   | 内容・方法等                      | 事前・事後学習課題    |    |       |        |           |   |                    |                             |    |   |            |                        |    |   |         |            |    |   |            |                       |              |   |         |            |    |   |        |                  |    |   |     |                        |    |   |     |       |    |   |     |                        |    |    |     |                       |    |    |     |       |    |    |     |                            |    |    |     |       |    |    |      |                   |    |    |      |                  |    |
| 1           | オリエンテーション<br>前期の復習  | 授業についての説明<br>前期の学習内容についての復習 | 復習           |    |       |        |           |   |                    |                             |    |   |            |                        |    |   |         |            |    |   |            |                       |              |   |         |            |    |   |        |                  |    |   |     |                        |    |   |     |       |    |   |     |                        |    |    |     |                       |    |    |     |       |    |    |     |                            |    |    |     |       |    |    |      |                   |    |    |      |                  |    |
| 2           | レポートの言葉と表現  | レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ      | 復習           |    |       |        |           |   |                    |                             |    |   |            |                        |    |   |         |            |    |   |            |                       |              |   |         |            |    |   |        |                  |    |   |     |                        |    |   |     |       |    |   |     |                        |    |    |     |                       |    |    |     |       |    |    |     |                            |    |    |     |       |    |    |      |                   |    |    |      |                  |    |
| 3           | レポートの構成   | レポートの構成を学ぶ                  | 復習           |    |       |        |           |   |                    |                             |    |   |            |                        |    |   |         |            |    |   |            |                       |              |   |         |            |    |   |        |                  |    |   |     |                        |    |   |     |       |    |   |     |                        |    |    |     |                       |    |    |     |       |    |    |     |                            |    |    |     |       |    |    |      |                   |    |    |      |                  |    |
| 4           | テーマ決め・資料収集  | テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ       | 復習<br>資料を集める |    |       |        |           |   |                    |                             |    |   |            |                        |    |   |         |            |    |   |            |                       |              |   |         |            |    |   |        |                  |    |   |     |                        |    |   |     |       |    |   |     |                        |    |    |     |                       |    |    |     |       |    |    |     |                            |    |    |     |       |    |    |      |                   |    |    |      |                  |    |
| 5           | 資料を整理する   | 集めた資料を整理する                  | 復習           |    |       |        |           |   |                    |                             |    |   |            |                        |    |   |         |            |    |   |            |                       |              |   |         |            |    |   |        |                  |    |   |     |                        |    |   |     |       |    |   |     |                        |    |    |     |                       |    |    |     |       |    |    |     |                            |    |    |     |       |    |    |      |                   |    |    |      |                  |    |
| 6           | アウトライン  | レポートのアウトラインを作成する            | 復習           |    |       |        |           |   |                    |                             |    |   |            |                        |    |   |         |            |    |   |            |                       |              |   |         |            |    |   |        |                  |    |   |     |                        |    |   |     |       |    |   |     |                        |    |    |     |                       |    |    |     |       |    |    |     |                            |    |    |     |       |    |    |      |                   |    |    |      |                  |    |
| 7           | 序論①   | 序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ      | 復習           |    |       |        |           |   |                    |                             |    |   |            |                        |    |   |         |            |    |   |            |                       |              |   |         |            |    |   |        |                  |    |   |     |                        |    |   |     |       |    |   |     |                        |    |    |     |                       |    |    |     |       |    |    |     |                            |    |    |     |       |    |    |      |                   |    |    |      |                  |    |
| 8           | 序論②   | 序論を書く                       | 復習           |    |       |        |           |   |                    |                             |    |   |            |                        |    |   |         |            |    |   |            |                       |              |   |         |            |    |   |        |                  |    |   |     |                        |    |   |     |       |    |   |     |                        |    |    |     |                       |    |    |     |       |    |    |     |                            |    |    |     |       |    |    |      |                   |    |    |      |                  |    |
| 9           | 本論①   | 本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ      | 復習           |    |       |        |           |   |                    |                             |    |   |            |                        |    |   |         |            |    |   |            |                       |              |   |         |            |    |   |        |                  |    |   |     |                        |    |   |     |       |    |   |     |                        |    |    |     |                       |    |    |     |       |    |    |     |                            |    |    |     |       |    |    |      |                   |    |    |      |                  |    |
| 10          | 本論②   | 本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ       | 復習           |    |       |        |           |   |                    |                             |    |   |            |                        |    |   |         |            |    |   |            |                       |              |   |         |            |    |   |        |                  |    |   |     |                        |    |   |     |       |    |   |     |                        |    |    |     |                       |    |    |     |       |    |    |     |                            |    |    |     |       |    |    |      |                   |    |    |      |                  |    |
| 11          | 本論③   | 本論を書く                       | 復習           |    |       |        |           |   |                    |                             |    |   |            |                        |    |   |         |            |    |   |            |                       |              |   |         |            |    |   |        |                  |    |   |     |                        |    |   |     |       |    |   |     |                        |    |    |     |                       |    |    |     |       |    |    |     |                            |    |    |     |       |    |    |      |                   |    |    |      |                  |    |
| 12          | 結論①   | 結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ  | 復習           |    |       |        |           |   |                    |                             |    |   |            |                        |    |   |         |            |    |   |            |                       |              |   |         |            |    |   |        |                  |    |   |     |                        |    |   |     |       |    |   |     |                        |    |    |     |                       |    |    |     |       |    |    |     |                            |    |    |     |       |    |    |      |                   |    |    |      |                  |    |
| 13          | 結論②   | 結論を書く                       | 復習           |    |       |        |           |   |                    |                             |    |   |            |                        |    |   |         |            |    |   |            |                       |              |   |         |            |    |   |        |                  |    |   |     |                        |    |   |     |       |    |   |     |                        |    |    |     |                       |    |    |     |       |    |    |     |                            |    |    |     |       |    |    |      |                   |    |    |      |                  |    |
| 14          | まとめ①  | レポートを推敲し、完成稿を作成する           | 復習           |    |       |        |           |   |                    |                             |    |   |            |                        |    |   |         |            |    |   |            |                       |              |   |         |            |    |   |        |                  |    |   |     |                        |    |   |     |       |    |   |     |                        |    |    |     |                       |    |    |     |       |    |    |     |                            |    |    |     |       |    |    |      |                   |    |    |      |                  |    |
| 15          | まとめ②  | 作成したレポートを元に発表を行う            | 復習           |    |       |        |           |   |                    |                             |    |   |            |                        |    |   |         |            |    |   |            |                       |              |   |         |            |    |   |        |                  |    |   |     |                        |    |   |     |       |    |   |     |                        |    |    |     |                       |    |    |     |       |    |    |     |                            |    |    |     |       |    |    |      |                   |    |    |      |                  |    |
| 関連科目        | 日本語表現作文FⅠ   |                             |              |    |       |        |           |   |                    |                             |    |   |            |                        |    |   |         |            |    |   |            |                       |              |   |         |            |    |   |        |                  |    |   |     |                        |    |   |     |       |    |   |     |                        |    |    |     |                       |    |    |     |       |    |    |     |                            |    |    |     |       |    |    |      |                   |    |    |      |                  |    |
| 教科書         | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  |                             |              | 番号 | 書籍名   | 著者名    | 出版社名      | 1 |                    |                             |    | 2 |            |                        |    | 3 |         |            |    |   |            |                       |              |   |         |            |    |   |        |                  |    |   |     |                        |    |   |     |       |    |   |     |                        |    |    |     |                       |    |    |     |       |    |    |     |                            |    |    |     |       |    |    |      |                   |    |    |      |                  |    |
| 番号          | 書籍名   | 著者名                         | 出版社名         |    |       |        |           |   |                    |                             |    |   |            |                        |    |   |         |            |    |   |            |                       |              |   |         |            |    |   |        |                  |    |   |     |                        |    |   |     |       |    |   |     |                        |    |    |     |                       |    |    |     |       |    |    |     |                            |    |    |     |       |    |    |      |                   |    |    |      |                  |    |
| 1           |   |                             |              |    |       |        |           |   |                    |                             |    |   |            |                        |    |   |         |            |    |   |            |                       |              |   |         |            |    |   |        |                  |    |   |     |                        |    |   |     |       |    |   |     |                        |    |    |     |                       |    |    |     |       |    |    |     |                            |    |    |     |       |    |    |      |                   |    |    |      |                  |    |
| 2           |   |                             |              |    |       |        |           |   |                    |                             |    |   |            |                        |    |   |         |            |    |   |            |                       |              |   |         |            |    |   |        |                  |    |   |     |                        |    |   |     |       |    |   |     |                        |    |    |     |                       |    |    |     |       |    |    |     |                            |    |    |     |       |    |    |      |                   |    |    |      |                  |    |
| 3           |   |                             |              |    |       |        |           |   |                    |                             |    |   |            |                        |    |   |         |            |    |   |            |                       |              |   |         |            |    |   |        |                  |    |   |     |                        |    |   |     |       |    |   |     |                        |    |    |     |                       |    |    |     |       |    |    |     |                            |    |    |     |       |    |    |      |                   |    |    |      |                  |    |
| 参考書         | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  |                             |              | 番号 | 書籍名   | 著者名    | 出版社名      | 1 |                    |                             |    | 2 |            |                        |    | 3 |         |            |    |   |            |                       |              |   |         |            |    |   |        |                  |    |   |     |                        |    |   |     |       |    |   |     |                        |    |    |     |                       |    |    |     |       |    |    |     |                            |    |    |     |       |    |    |      |                   |    |    |      |                  |    |
| 番号          | 書籍名   | 著者名                         | 出版社名         |    |       |        |           |   |                    |                             |    |   |            |                        |    |   |         |            |    |   |            |                       |              |   |         |            |    |   |        |                  |    |   |     |                        |    |   |     |       |    |   |     |                        |    |    |     |                       |    |    |     |       |    |    |     |                            |    |    |     |       |    |    |      |                   |    |    |      |                  |    |
| 1           |   |                             |              |    |       |        |           |   |                    |                             |    |   |            |                        |    |   |         |            |    |   |            |                       |              |   |         |            |    |   |        |                  |    |   |     |                        |    |   |     |       |    |   |     |                        |    |    |     |                       |    |    |     |       |    |    |     |                            |    |    |     |       |    |    |      |                   |    |    |      |                  |    |
| 2           |   |                             |              |    |       |        |           |   |                    |                             |    |   |            |                        |    |   |         |            |    |   |            |                       |              |   |         |            |    |   |        |                  |    |   |     |                        |    |   |     |       |    |   |     |                        |    |    |     |                       |    |    |     |       |    |    |     |                            |    |    |     |       |    |    |      |                   |    |    |      |                  |    |
| 3           |   |                             |              |    |       |        |           |   |                    |                             |    |   |            |                        |    |   |         |            |    |   |            |                       |              |   |         |            |    |   |        |                  |    |   |     |                        |    |   |     |       |    |   |     |                        |    |    |     |                       |    |    |     |       |    |    |     |                            |    |    |     |       |    |    |      |                   |    |    |      |                  |    |
| 評価方法(基準)    | 授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、レポート(30%)   |                             |              |    |       |        |           |   |                    |                             |    |   |            |                        |    |   |         |            |    |   |            |                       |              |   |         |            |    |   |        |                  |    |   |     |                        |    |   |     |       |    |   |     |                        |    |    |     |                       |    |    |     |       |    |    |     |                            |    |    |     |       |    |    |      |                   |    |    |      |                  |    |
| 学生へのメッセージ   | 日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう!   |                             |              |    |       |        |           |   |                    |                             |    |   |            |                        |    |   |         |            |    |   |            |                       |              |   |         |            |    |   |        |                  |    |   |     |                        |    |   |     |       |    |   |     |                        |    |    |     |                       |    |    |     |       |    |    |     |                            |    |    |     |       |    |    |      |                   |    |    |      |                  |    |
| 担当者の研究室等    | 7号館2階(非常勤講師室)   |                             |              |    |       |        |           |   |                    |                             |    |   |            |                        |    |   |         |            |    |   |            |                       |              |   |         |            |    |   |        |                  |    |   |     |                        |    |   |     |       |    |   |     |                        |    |    |     |                       |    |    |     |       |    |    |     |                            |    |    |     |       |    |    |      |                   |    |    |      |                  |    |
| 備考          | <p>(1)授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。</p> <p>(3)作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。</p> <p>(4)提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。</p>   |                             |              |    |       |        |           |   |                    |                             |    |   |            |                        |    |   |         |            |    |   |            |                       |              |   |         |            |    |   |        |                  |    |   |     |                        |    |   |     |       |    |   |     |                        |    |    |     |                       |    |    |     |       |    |    |     |                            |    |    |     |       |    |    |      |                   |    |    |      |                  |    |

|               |  |         |                                |
|---------------|--|---------|--------------------------------|
| 科目名           | 日本語表現作文R   | 科目名(英文) | Japanese Reading and Writing R |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 帰国学生対象                         |
| 配当年次          | 1年   | クラス     |                                |
| 単位数           | 1  | 履修区分    | 選択科目                           |
| 学期            | 前期   | 授業担当者   | 佐々木 成美                         |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: III○, IV○, R科: A○, A科: C○, M科: B2○, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1○, DP7△, DP8△, D科: DP1○, S科: DP1○, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1○, W科: DP1○, DP7○, N科: DP1○, DP8△N: DP1○, DP8△ |         |                                |
| 科目ナンバリング      | RRE1330a1  |         |                                |

| 授業概要・目的     | この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。   |                           |            |    |       |        |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
|-------------|---|---------------------------|------------|----|-------|--------|-----------|---|---------------------|---------------------------|----|---|------------|-------------------|----|---|--------|-----------------|----|---|-----|------------|----|---|-----|------|------------|---|-------|-------------|----|---|-------|------|------------|---|----|-----------------|----|---|----|-----------|----|----|-------|------|------------|----|----|-----------|----|----|-----|-----------|----|----|-----|------|------------|----|-------|------------|----|----|-----|-----|----|
| 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート・論文の文体で書ける。</li> <li>・読んだ内容を要約できる。</li> <li>・段落分けして書ける。</li> <li>・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。</li> <li>・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。</li> </ul>   |                           |            |    |       |        |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 授業方法と留意点    | 授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。  |                           |            |    |       |        |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 科目学習の効果(資格) | レポートや論文を書くための基礎力を身につける。   |                           |            |    |       |        |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 授業計画        | <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション<br/>日本語の文体</td> <td>授業についての説明<br/>日本語の文体について学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>復習<br/>作文課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>復習<br/>作文課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>復習<br/>作文課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>復習<br/>作文課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table> |                           |            | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 | 1 | オリエンテーション<br>日本語の文体 | 授業についての説明<br>日本語の文体について学ぶ | 復習 | 2 | レポート・論文の文体 | レポート・論文に使われる文体を学ぶ | 復習 | 3 | 記号の使い方 | 句読点、各種記号の使い方を学ぶ | 復習 | 4 | 段落① | 段落構成について学ぶ | 復習 | 5 | 段落② | 実践練習 | 復習<br>作文課題 | 6 | 経過説明① | 経過説明の書き方を学ぶ | 復習 | 7 | 経過説明② | 実践練習 | 復習<br>作文課題 | 8 | 分類 | 「分類」をする文の書き方を学ぶ | 復習 | 9 | 定義 | 定義の書き方を学ぶ | 復習 | 10 | 分類・定義 | 実践練習 | 復習<br>作文課題 | 11 | 引用 | 引用の書き方を学ぶ | 復習 | 12 | 要約① | 要約の書き方を学ぶ | 復習 | 13 | 要約② | 実践練習 | 復習<br>作文課題 | 14 | 資料の利用 | 資料の利用方法を学ぶ | 復習 | 15 | 総復習 | 総復習 | 復習 |
| 回数          | 授業テーマ   | 内容・方法等                    | 事前・事後学習課題  |    |       |        |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 1           | オリエンテーション<br>日本語の文体   | 授業についての説明<br>日本語の文体について学ぶ | 復習         |    |       |        |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 2           | レポート・論文の文体  | レポート・論文に使われる文体を学ぶ         | 復習         |    |       |        |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 3           | 記号の使い方  | 句読点、各種記号の使い方を学ぶ           | 復習         |    |       |        |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 4           | 段落①   | 段落構成について学ぶ                | 復習         |    |       |        |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 5           | 段落②   | 実践練習                      | 復習<br>作文課題 |    |       |        |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 6           | 経過説明①   | 経過説明の書き方を学ぶ               | 復習         |    |       |        |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 7           | 経過説明②   | 実践練習                      | 復習<br>作文課題 |    |       |        |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 8           | 分類  | 「分類」をする文の書き方を学ぶ           | 復習         |    |       |        |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 9           | 定義  | 定義の書き方を学ぶ                 | 復習         |    |       |        |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 10          | 分類・定義   | 実践練習                      | 復習<br>作文課題 |    |       |        |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 11          | 引用  | 引用の書き方を学ぶ                 | 復習         |    |       |        |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 12          | 要約①   | 要約の書き方を学ぶ                 | 復習         |    |       |        |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 13          | 要約②   | 実践練習                      | 復習<br>作文課題 |    |       |        |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 14          | 資料の利用   | 資料の利用方法を学ぶ                | 復習         |    |       |        |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 15          | 総復習   | 総復習                       | 復習         |    |       |        |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 関連科目        | 日本語表現作文FII  |                           |            |    |       |        |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 教科書         | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  |                           |            | 番号 | 書籍名   | 著者名    | 出版社名      | 1 |                     |                           |    | 2 |            |                   |    | 3 |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 番号          | 書籍名   | 著者名                       | 出版社名       |    |       |        |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 1           |   |                           |            |    |       |        |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 2           |   |                           |            |    |       |        |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 3           |   |                           |            |    |       |        |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 参考書         | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  |                           |            | 番号 | 書籍名   | 著者名    | 出版社名      | 1 |                     |                           |    | 2 |            |                   |    | 3 |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 番号          | 書籍名   | 著者名                       | 出版社名       |    |       |        |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 1           |   |                           |            |    |       |        |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 2           |   |                           |            |    |       |        |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 3           |   |                           |            |    |       |        |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 評価方法(基準)    | 授業内での取り組み(50%)、提出物(50%)   |                           |            |    |       |        |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 学生へのメッセージ   | 日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。   |                           |            |    |       |        |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 担当者の研究室等    | 7号館2階(非常勤講師室)   |                           |            |    |       |        |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |
| 備考          | <p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。</p> <p>(3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。</p> <p>(4) 提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。</p>  |                           |            |    |       |        |           |   |                     |                           |    |   |            |                   |    |   |        |                 |    |   |     |            |    |   |     |      |            |   |       |             |    |   |       |      |            |   |    |                 |    |   |    |           |    |    |       |      |            |    |    |           |    |    |     |           |    |    |     |      |            |    |       |            |    |    |     |     |    |



|                |   |          |                     |
|----------------|---|----------|---------------------|
| 科目名            | 日本語文法 F I   | 科目名 (英文) | Japanese Grammar FI |
| 学部             | 学部共通  | 学科       | 外国人留学生対象            |
| 配当年次           | 1 年   | クラス      |                     |
| 単位数            | 1   | 履修区分     | 選択科目                |
| 学期             | 前期  | 授業担当者    | 佐々木 成美              |
| ディプロマポリシー (DP) | V 科 : III○, IV○, R 科 : A◎, A 科 : C◎, M 科 : B2◎, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1◎, DP7△, DP8△, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1◎, DP8◎, W 科 : DP1◎, DP7◎, N 科 : DP1◎, DP8△N : DP1◎, DP8△ |          |                     |
| 科目ナンバリング       | FF01316a1   |          |                     |

|              |   |
|--------------|---|
| 授業概要・目的      | この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。 |
| 到達目標         | 中上級～上級の文法項目が運用できる。  |
| 授業方法と留意点     | 教員による解説と練習を繰り返しながら進める。  |
| 科目学習の効果 (資格) | 高度な日本語運用能力  |

|      |    |                                  |                         |           |
|------|----|----------------------------------|-------------------------|-----------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ                            | 内容・方法 等                 | 事前・事後学習課題 |
|      | 1  | オリエンテーション<br>「早朝時間」のフル活用で成功した人たち | 授業の進め方の説明<br>文法項目の解説と練習 | 復習        |
|      | 2  | 渡り鳥はなぜ迷わない？                      | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
|      | 3  | フリーズする脳                          | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
|      | 4  | 「科学」の定義①                         | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
|      | 5  | 「科学」の定義②                         | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
|      | 6  | 現代の若者のマナー①                       | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
|      | 7  | 現代の若者のマナー②                       | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
|      | 8  | 親孝行な男の子                          | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
|      | 9  | 言語と文化①                           | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
|      | 10 | 言語と文化②                           | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
|      | 11 | ローソクの進化①                         | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
|      | 12 | ローソクの進化②                         | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
|      | 13 | 「割り勘」は当然？①                       | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
|      | 14 | 「割り勘」は当然？②                       | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
|      | 15 | 総復習                              | 総復習                     | 復習        |

|      |                      |
|------|----------------------|
| 関連科目 | 日本語文法 F II、日本語読解 F I |
|------|----------------------|

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|           |                                      |
|-----------|--------------------------------------|
| 評価方法 (基準) | 授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%) |
|-----------|--------------------------------------|

|           |   |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！ |
|-----------|---|

|          |                |
|----------|----------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階 (非常勤講師室) |
|----------|----------------|

|    |   |
|----|---|
| 備考 | (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。<br>(2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。<br>(3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週1時間。<br>(4) 小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。 |
|----|---|

|                |   |          |                      |
|----------------|---|----------|----------------------|
| 科目名            | 日本語文法 F II  | 科目名 (英文) | Japanese Grammar FII |
| 学部             | 学部共通  | 学科       | 外国人留学生対象             |
| 配当年次           | 1 年   | クラス      |                      |
| 単位数            | 1   | 履修区分     | 選択科目                 |
| 学期             | 後期  | 授業担当者    | 佐々木 成美               |
| ディプロマポリシー (DP) | V 科 : III○, IV○, R 科 : A◎, A 科 : C◎, M 科 : B2◎, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1◎, DP7△, DP8△, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1◎, DP8◎, W 科 : DP1◎, DP7◎, N 科 : DP1◎, DP8△N : DP1◎, DP8△ |          |                      |
| 科目ナンバリング       | FF02317a1   |          |                      |

|              |   |
|--------------|---|
| 授業概要・目的      | この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。 |
| 到達目標         | 中上級～上級の文法項目が運用できる。  |
| 授業方法と留意点     | 教員による解説と練習を繰り返しながら進める。  |
| 科目学習の効果 (資格) | 高度な日本語運用能力  |

|      |    |                |                         |           |
|------|----|----------------|-------------------------|-----------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ          | 内容・方法 等                 | 事前・事後学習課題 |
|      | 1  | オリエンテーション<br>涙 | 授業の進め方の説明<br>文法項目の解説と練習 | 復習        |
|      | 2  | 統計と数字①         | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
|      | 3  | 統計と数字②         | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
|      | 4  | 背理法①           | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
|      | 5  | 背理法②           | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
|      | 6  | 「待つ」こと①        | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
|      | 7  | 「待つ」こと②        | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
|      | 8  | ついでに何を？①       | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
|      | 9  | ついでに何を？②       | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
|      | 10 | ウイルス発見！①       | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
|      | 11 | ウイルス発見！②       | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
|      | 12 | 大学で学ぶこと①       | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
|      | 13 | 大学で学ぶこと②       | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
|      | 14 | 何のために「学ぶ」のか    | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
|      | 15 | 総復習            | 総復習                     | 復習        |

|      |                      |
|------|----------------------|
| 関連科目 | 日本語文法 F I、日本語読解 F II |
|------|----------------------|

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|           |                                      |
|-----------|--------------------------------------|
| 評価方法 (基準) | 授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%) |
|-----------|--------------------------------------|

|           |   |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！ |
|-----------|---|

|          |                |
|----------|----------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階 (非常勤講師室) |
|----------|----------------|

|    |   |
|----|---|
| 備考 | (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。<br>(2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。<br>(3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週 1 時間。<br>(4) 小テストの FB に関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。 |
|----|---|

|               |  |         |                    |
|---------------|--|---------|--------------------|
| 科目名           | 日本語文法R   | 科目名(英文) | Japanese Grammar R |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 帰国学生対象             |
| 配当年次          | 1年   | クラス     |                    |
| 単位数           | 1  | 履修区分    | 選択科目               |
| 学期            | 後期   | 授業担当者   | 佐々木 成美             |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△ |         |                    |
| 科目ナンバリング      | RRE1329a1  |         |                    |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。 |
| 到達目標        | 中上級～上級の文法項目が運用できる。  |
| 授業方法と留意点    | 教員による解説と練習を繰り返しながら進める。  |
| 科目学習の効果(資格) | 高度な日本語運用能力  |

| 回数 | 授業テーマ          | 内容・方法等                  | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------|-------------------------|-----------|
|    |                |                         | 復習        |
| 1  | オリエンテーション<br>涙 | 授業の進め方の説明<br>文法項目の解説と練習 | 復習        |
| 2  | 統計と数字①         | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
| 3  | 統計と数字②         | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
| 4  | 背理法①           | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
| 5  | 背理法②           | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
| 6  | 「待つ」こと①        | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
| 7  | 「待つ」こと②        | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
| 8  | ついでに何を？①       | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
| 9  | ついでに何を？②       | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
| 10 | ウイルス発見！①       | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
| 11 | ウイルス発見！②       | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
| 12 | 大学で学ぶこと①       | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
| 13 | 大学で学ぶこと②       | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
| 14 | 何のために「学ぶ」のか    | 文法項目の解説と練習              | 復習        |
| 15 | 総復習            | 総復習                     | 復習        |

|      |                 |
|------|-----------------|
| 関連科目 | 日本語文法FⅠ、日本語読解FⅡ |
|------|-----------------|

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|           |  |
|-----------|--|
| 評価方法(基準)  | 授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)  |
| 学生へのメッセージ | 日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！  |
| 担当者の研究室等  | 7号館2階(非常勤講師室)  |
| 備考        | (1)授業外の質問等には、メールで対応する。<br>(2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。<br>(3)授業内で使用したプリントを使い文法の確認(復習)。目安は毎週1時間。<br>(4)小テストのFBに関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。 |

|                |   |          |                                 |
|----------------|---|----------|---------------------------------|
| 科目名            | 日本事情 F I  | 科目名 (英文) | Japanese Culture and Society FI |
| 学部             | 学部共通  | 学科       | 外国人留学生対象                        |
| 配当年次           | 1 年   | クラス      |                                 |
| 単位数            | 2   | 履修区分     | 選択科目                            |
| 学期             | 前期  | 授業担当者    | 門脇 薫                            |
| ディプロマポリシー (DP) | V 科 : III O, IV O, R 科 : A O, A 科 : C O, M 科 : B2 O, E 科 : B O, C 科 : III O, VI O, L 科 : DP1 Δ, DP2 O, D 科 : DP1 O, S 科 : DP1 O, P 科 : DP2 Δ, DP4 Δ, J 科 : DP1 O, DP7 O, W 科 : DP1 O, DP7 O, N 科 : DP1 O, DP8 Δ, DP1 O, DP8 Δ |          |                                 |
| 科目ナンバリング       | FF01312a1   |          |                                 |

|              |  |
|--------------|--|
| 授業概要・目的      | 日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。                                   |
| 到達目標         | 日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします                                    |
| 授業方法と留意点     | 各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 |
| 科目学習の効果 (資格) | 自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度   |

| 回数 | 授業テーマ              | 内容・方法等              | 事前・事後学習課題  |
|----|--------------------|---------------------|--|
|    |                    |                     |  |
| 1  | ガイダンス・日本語レベルのチェック  | 授業の概要・進め方について・スピーチ  | テキスト予習 (11 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)   |
| 2  | 映画 1 : テーマ「職業」     | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テキスト予習 (11 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)                               |
| 3  | 映画 1 : テーマ「職業」     | 内容理解、タスク            | テキスト予習 (11 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)                               |
| 4  | 映画 1 : テーマ「職業」     | タスク、ディスカッション        | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く)<br>テキスト予習 (4 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)            |
| 5  | 映画 2 : テーマ「家族」     | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く)<br>テキスト予習 (4 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)  |
| 6  | 映画 2 : テーマ「家族」     | 内容理解、タスク            | テキスト予習 (4 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)                                |
| 7  | 映画 2 : テーマ「家族」     | タスク、ディスカッション        | プリントの課題、発表準備<br>テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)  |
| 8  | テーマ 1・2 に関する発表     | 発表、質疑応答、ディスカッション    | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く)<br>テキスト予習 (10 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)           |
| 9  | 映画 3 : テーマ「子どもと社会」 | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く)<br>テキスト予習 (10 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間) |
| 10 | 映画 3 : テーマ「子どもと社会」 | 内容理解、タスク            | テキスト予習 (10 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)                               |
| 11 | 映画 3 : テーマ「子どもと社会」 | タスク、ディスカッション        | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く)<br>テキスト予習 (4 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)            |
| 12 | 映画 4 : 「ジェンダー」     | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く)<br>テキスト予習 (4 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)            |
| 13 | 映画 4 : 「ジェンダー」     | 内容理解、タスク            | テキスト予習 (4 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)                                |
| 14 | 映画 4 : 「ジェンダー」     | タスク、ディスカッション        | プリントの課題、発表準備<br>テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)  |
| 15 | テーマ 3・4 に関する発表     | 発表、質疑応答、ディスカッション    | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)  |

|      |                     |
|------|---------------------|
| 関連科目 | 日本語読解、日本語文法、日本語表現作文 |
|------|---------------------|

|     |    |                 |       |       |
|-----|----|-----------------|-------|-------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名             | 著者名   | 出版社名  |
|     | 1  | 映画で日本文化を学ぶ人のために | 窪田守弘編 | 世界思想社 |
|     | 2  |                 |       |       |
|     | 3  |                 |       |       |

|               |  |           |       |           |
|---------------|--|-----------|-------|-----------|
| 参考書           | 番号   | 書籍名       | 著者名   | 出版社名      |
|               | 1  | 映画でジャパニーズ | 窪田守弘編 | 南雲堂フェニックス |
|               | 2  |           |       |           |
|               | 3  |           |       |           |
| 評価方法<br>(基準)  | 各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。   |           |       |           |
| 学生への<br>メッセージ | 映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！<br>海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。 |           |       |           |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館4階(門協研究室)   |           |       |           |
| 備考            | 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。  |           |       |           |

|               |  |         |                                  |
|---------------|--|---------|----------------------------------|
| 科目名           | 日本事情FⅡ   | 科目名(英文) | Japanese Culture and Society FII |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 外国人留学生対象                         |
| 配当年次          | 1年   | クラス     |                                  |
| 単位数           | 2  | 履修区分    | 選択科目                             |
| 学期            | 後期   | 授業担当者   | 門脇 薫                             |
| ディプロマポリシー(DP) | V科:Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科:A〇,A科:C〇,M科:B2〇,E科:B〇,C科:Ⅲ〇,Ⅵ〇,L科:DP1△,DP2〇,D科:DP1〇,S科:DP1〇,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1〇,DP7〇,W科:DP1〇,DP7〇,N科:DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△ |         |                                  |
| 科目ナンバリング      | FF02313a1  |         |                                  |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | 日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。                               |
| 到達目標        | 日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします                                |
| 授業方法と留意点    | 各映画について次のように進めます。(1)映画についての情報・その他背景知識について説明 (2)映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3)テーマについてディスカッション (4)「書く」練習 |
| 科目学習の効果(資格) | 自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度   |

| 回数 | 授業テーマ             | 内容・方法等              | 事前・事後学習課題  |
|----|-------------------|---------------------|--|
|    |                   |                     |  |
| 1  | ガイダンス・日本語レベルのチェック | 授業の概要・進め方について・スピーチ  | テキスト予習(2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)(1.5時間)  |
| 2  | 映画1:テーマ「民族」       | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テキスト予習(2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)                                |
| 3  | 映画1:テーマ「民族」       | 内容理解、タスク            | テキスト予習(2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)                                |
| 4  | 映画1:テーマ「民族」       | タスク、ディスカッション        | テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く)<br>テキスト予習(4章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)(計2時間)            |
| 5  | 映画2:テーマ「教育」       | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く)<br>テキスト予習(11章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(計2時間) |
| 6  | 映画2:テーマ「教育」       | 内容理解、タスク            | テキスト予習(11章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)                             |
| 7  | 映画2:テーマ「教育」       | タスク、ディスカッション        | プリントの課題、発表準備<br>テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く)(計2時間)  |
| 8  | テーマ1・2に関する発表      | 発表、質疑応答、ディスカッション    | テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く)<br>テキスト予習(2章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)(計2時間)            |
| 9  | 映画3:テーマ「趣味とスポーツ」  | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く)<br>テキスト予習(2章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(計2時間)  |
| 10 | 映画3:テーマ「趣味とスポーツ」  | 内容理解、タスク            | テキスト予習(2章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)                              |
| 11 | 映画3:テーマ「趣味とスポーツ」  | タスク、ディスカッション        | テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く)<br>テキスト予習(10章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)(計2時間)           |
| 12 | 映画4:「高齢化社会」       | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く)<br>テキスト予習(10章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)(計2時間)           |
| 13 | 映画4:「高齢化社会」       | 内容理解、タスク            | テキスト予習(10章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)                             |
| 14 | 映画4:「高齢化社会」       | タスク、ディスカッション        | プリントの課題、発表準備<br>テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く)(計2時間)  |
| 15 | テーマ3・4に関する発表      | 発表、質疑応答、ディスカッション    | テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く)(計2時間)  |

|      |                     |
|------|---------------------|
| 関連科目 | 日本語読解、日本語文法、日本語表現作文 |
|------|---------------------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名             | 著者名   | 出版社名  |
|-----|----|-----------------|-------|-------|
|     | 1  | 映画で日本文化を学ぶ人のために | 窪田守弘編 | 世界思想社 |
| 2   |    |                 |       |       |
| 3   |    |                 |       |       |

|               |   |           |       |           |
|---------------|---|-----------|-------|-----------|
| 参考書           | 番号  | 書籍名       | 著者名   | 出版社名      |
|               | 1   | 映画でジャパニーズ | 窪田守弘編 | 南雲堂フェニックス |
|               | 2   |           |       |           |
|               | 3   |           |       |           |
| 評価方法<br>(基準)  | 各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。  |           |       |           |
| 学生への<br>メッセージ | 映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！<br>海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。 |           |       |           |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館4階(門協研究室)  |           |       |           |
| 備考            | 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。   |           |       |           |

|                |  |          |                                 |
|----------------|--|----------|---------------------------------|
| 科目名            | 日本事情 R I   | 科目名 (英文) | Japanese Culture and Society RI |
| 学部             | 学部共通   | 学科       | 帰国学生対象                          |
| 配当年次           | 1 年  | クラス      |                                 |
| 単位数            | 2  | 履修区分     | 選択科目                            |
| 学期             | 前期   | 授業担当者    | 門脇 薫                            |
| ディプロマポリシー (DP) | V 科 : III O, IV O, R 科 : A O, A 科 : C O, M 科 : B2 O, E 科 : B O, C 科 : III O, VI O, L 科 : DP1 Δ, DP2 O, D 科 : DP1 O, S 科 : DP1 O, P 科 : DP2 Δ, DP4 Δ, J 科 : DP1 O, W 科 : DP1 O, N 科 : DP1 O, DP8 Δ N : DP1 O, DP8 Δ |          |                                 |
| 科目ナンバリング       | RRE1326a1  |          |                                 |

|              |  |
|--------------|--|
| 授業概要・目的      | 日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。                                   |
| 到達目標         | 日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします                                    |
| 授業方法と留意点     | 各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 |
| 科目学習の効果 (資格) | 自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度   |

|    | 回数   | 授業テーマ              | 内容・方法 等             | 事前・事後学習課題  |
|----|------|--------------------|---------------------|--|
|    | 授業計画 | 1                  | ガイダンス・日本語レベルのチェック   | 授業の概要・進め方について・スピーチ   |
| 2  |      | 映画 1 : テーマ「職業」     | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テキスト予習 (11 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)                               |
| 3  |      | 映画 1 : テーマ「職業」     | 内容理解、タスク            | テキスト予習 (11 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)                               |
| 4  |      | 映画 1 : テーマ「職業」     | タスク、ディスカッション        | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く)<br>テキスト予習 (4 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)            |
| 5  |      | 映画 2 : テーマ「家族」     | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く)<br>テキスト予習 (4 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)  |
| 6  |      | 映画 2 : テーマ「家族」     | 内容理解、タスク            | テキスト予習 (4 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)                                |
| 7  |      | 映画 2 : テーマ「家族」     | タスク、ディスカッション        | プリントの課題、発表準備<br>テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)  |
| 8  |      | テーマ 1・2 に関する発表     | 発表、質疑応答、ディスカッション    | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く)<br>テキスト予習 (10 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)           |
| 9  |      | 映画 3 : テーマ「子どもと社会」 | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く)<br>テキスト予習 (10 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間) |
| 10 |      | 映画 3 : テーマ「子どもと社会」 | 内容理解、タスク            | テキスト予習 (10 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)                               |
| 11 |      | 映画 3 : テーマ「子どもと社会」 | タスク、ディスカッション        | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く)<br>テキスト予習 (4 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)            |
| 12 |      | 映画 4 : 「ジェンダー」     | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く)<br>テキスト予習 (4 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)            |
| 13 |      | 映画 4 : 「ジェンダー」     | 内容理解、タスク            | テキスト予習 (4 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)                                |
| 14 |      | 映画 4 : 「ジェンダー」     | タスク、ディスカッション        | プリントの課題、発表準備<br>テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)  |
| 15 |      | テーマ 3・4 に関する発表     | 発表、質疑応答、ディスカッション    | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)  |

|      |                     |
|------|---------------------|
| 関連科目 | 日本語読解、日本語文法、日本語表現作文 |
|------|---------------------|

|     |    |                 |       |       |
|-----|----|-----------------|-------|-------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名             | 著者名   | 出版社名  |
|     | 1  | 映画で日本文化を学ぶ人のために | 窪田守弘編 | 世界思想社 |
|     | 2  |                 |       |       |
|     | 3  |                 |       |       |



|               |  |           |       |           |
|---------------|--|-----------|-------|-----------|
| 参考書           | 番号   | 書籍名       | 著者名   | 出版社名      |
|               | 1  | 映画でジャパニーズ | 窪田守弘編 | 南雲堂フェニックス |
|               | 2  |           |       |           |
|               | 3  |           |       |           |
| 評価方法<br>(基準)  | 各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。   |           |       |           |
| 学生への<br>メッセージ | 映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！<br>海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。 |           |       |           |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館4階(門協研究室)   |           |       |           |
| 備考            | 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。  |           |       |           |

|                |  |          |                                  |
|----------------|--|----------|----------------------------------|
| 科目名            | 日本事情 R II  | 科目名 (英文) | Japanese Culture and Society RII |
| 学部             | 学部共通   | 学科       | 帰国学生対象                           |
| 配当年次           | 1年   | クラス      |                                  |
| 単位数            | 2  | 履修区分     | 選択科目                             |
| 学期             | 後期   | 授業担当者    | 門脇 薫                             |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: B〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1△, DP2〇, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△ |          |                                  |
| 科目ナンバリング       | RRE2327a1  |          |                                  |

|              |  |
|--------------|--|
| 授業概要・目的      | 日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。                                   |
| 到達目標         | 日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします                                    |
| 授業方法と留意点     | 各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 |
| 科目学習の効果 (資格) | 自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度   |

| 回数 | 授業テーマ             | 内容・方法等              | 事前・事後学習課題   |
|----|-------------------|---------------------|---|
|    |                   |                     |   |
| 1  | ガイダンス・日本語レベルのチェック | 授業の概要・進め方について・スピーチ  | テキスト予習 (2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5時間)   |
| 2  | 映画1: テーマ「民族」      | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テキスト予習 (2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5時間)                                 |
| 3  | 映画1: テーマ「民族」      | 内容理解、タスク            | テキスト予習 (2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5時間)                                 |
| 4  | 映画1: テーマ「民族」      | タスク、ディスカッション        | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く)<br>テキスト予習 (4章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2時間)            |
| 5  | 映画2: テーマ「教育」      | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く)<br>テキスト予習 (11章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計2時間) |
| 6  | 映画2: テーマ「教育」      | 内容理解、タスク            | テキスト予習 (11章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5時間)                              |
| 7  | 映画2: テーマ「教育」      | タスク、ディスカッション        | プリントの課題、発表準備<br>テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計2時間)   |
| 8  | テーマ1・2に関する発表      | 発表、質疑応答、ディスカッション    | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く)<br>テキスト予習 (2章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2時間)            |
| 9  | 映画3: テーマ「趣味とスポーツ」 | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く)<br>テキスト予習 (2章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計2時間)  |
| 10 | 映画3: テーマ「趣味とスポーツ」 | 内容理解、タスク            | テキスト予習 (2章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5時間)                               |
| 11 | 映画3: テーマ「趣味とスポーツ」 | タスク、ディスカッション        | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く)<br>テキスト予習 (10章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2時間)           |
| 12 | 映画4: 「高齢化社会」      | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く)<br>テキスト予習 (10章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2時間)           |
| 13 | 映画4: 「高齢化社会」      | 内容理解、タスク            | テキスト予習 (10章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5時間)                              |
| 14 | 映画4: 「高齢化社会」      | タスク、ディスカッション        | プリントの課題、発表準備<br>テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計2時間)   |
| 15 | テーマ3・4に関する発表      | 発表、質疑応答、ディスカッション    | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計2時間)   |

|      |                     |
|------|---------------------|
| 関連科目 | 日本語読解、日本語文法、日本語表現作文 |
|------|---------------------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名             | 著者名   | 出版社名  |
|-----|----|-----------------|-------|-------|
|     | 1  | 映画で日本文化を学ぶ人のために | 窪田守弘編 | 世界思想社 |
| 2   |    |                 |       |       |
| 3   |    |                 |       |       |

|               |   |           |       |           |
|---------------|---|-----------|-------|-----------|
| 参考書           | 番号  | 書籍名       | 著者名   | 出版社名      |
|               | 1   | 映画でジャパニーズ | 窪田守弘編 | 南雲堂フェニックス |
|               | 2   |           |       |           |
|               | 3   |           |       |           |
| 評価方法<br>(基準)  | 各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。  |           |       |           |
| 学生への<br>メッセージ | 映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！<br>海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。 |           |       |           |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館4階(門協研究室)  |           |       |           |
| 備考            | 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。   |           |       |           |

|                |                  |          |          |
|----------------|------------------|----------|----------|
| 科目名            | フランス語 I          | 科目名 (英文) | French I |
| 学部             | 外国語学部            | 学科       | 外国語学科    |
| 配当年次           | 2年               | クラス      |          |
| 単位数            | 2                | 履修区分     | 選択必修科目   |
| 学期             | 前期               | 授業担当者    | 中井 裕之    |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |          |          |
| 科目ナンバリング       | LFR1317e1        |          |          |

|              |   |
|--------------|---|
| 授業概要・目的      | 本授業の目的はフランス語による基礎的コミュニケーション能力の育成にあります。挨拶、注文、道の尋ね方など、日常生活の様々な場面で役立つフランス語の表現をこの授業では学びます。  |
| 到達目標         | この授業を受講すれば、学生は初歩的なフランス語が話せるようになります。—例えば、日本に旅行に来ているフランス人に偶然、街で出会ったとします。その時フランス語で声をかけてみたくはないでしょうか？あるいはフランスに旅行に行つたとします。レストランで注文する時、店でショッピングをする時、直接フランス語でやりとりがしたくはないでしょうか？この授業を取ればそれが可能となります。 |
| 授業方法と留意点     | 基本的な表現を繰り返し口に出して練習する。リスニング、練習問題の解答、学生同士の練習を行なう。教科書を使用するので購入して教室に持ってくる。授業への積極的な参加を望みます。  |
| 科目学習の効果 (資格) | 仏検 (実用フランス語技能検定試験) 5級へ向けた学力の準備をする。  |

| 回数 | 授業テーマ                        | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題                                  |
|----|------------------------------|---|--|
|    |                              |   |  |
| 1  | オリエンテーション                    | フランス語会話 (基礎) の学び方の説明<br>授業の内容と進め方の説明<br>教科書、参考書、辞書の説明                   | テキスト全体に目を通し、どういったことを学習するかイメージをつかんでおく       |
| 2  | 『話したくなるフランス語』導入 (pp. 2-3)    | アルファベットとその読み方   | 『話したくなるフランス語』導入部の予習復習                      |
| 3  | 『話したくなるフランス語』第1課 (pp. 4-9)   | 物の名前を正確に言う<br>数字の読み方 (1)  | 『話したくなるフランス語』第1課の予習復習、練習問題1                |
| 4  | 『話したくなるフランス語』第1課つづき          | 文法事項：男性名詞と女性名詞<br>名詞の複数形<br>つづり字と発音 (1)                                 | 『話したくなるフランス語』第1課の予習復習、練習問題2                |
| 5  | 『話したくなるフランス語』第2課 (pp. 10-15) | 基本的な動詞を使い、習慣になっている行為や仕事や仕事や住んでいる場所などについて話す<br>国、都市の名前                   | 『話したくなるフランス語』第2課の予習復習、練習問題3                |
| 6  | 『話したくなるフランス語』第2課つづき          | 文法事項：否定文<br>つづり字と発音 (2)   | 『話したくなるフランス語』第2課の予習復習、練習問題4、練習問題5          |
| 7  | 『話したくなるフランス語』第3課 (pp. 16-21) | 好き嫌いの言い方<br>食べ物、飲み物の名前  | 『話したくなるフランス語』第3課の予習復習、練習問題6、練習問題7          |
| 8  | 『話したくなるフランス語』第3課つづき          | 文法事項：定冠詞、est-ce que を用いる疑問文<br>リエゾン・エリズイオン・アンシェスマン<br>主語人称代名詞、-er 動詞の変化 | 『話したくなるフランス語』第3課の予習復習、練習問題8                |
| 9  | 『話したくなるフランス語』第4課 (pp. 22-27) | 人の身分や特徴の表現<br>国籍、職業の呼び方   | 『話したくなるフランス語』第4課の予習復習、練習問題9、練習問題10         |
| 10 | 『話したくなるフランス語』第4課つづき          | 文法事項：形容詞の男性形と女性形<br>ETRE の変化  | 『話したくなるフランス語』第4課の予習復習、練習問題11、練習問題12        |
| 11 | 『話したくなるフランス語』第5課 (pp. 28-33) | 動詞 avoir を使った表現<br>親族の名称  | 『話したくなるフランス語』第5課の予習復習、練習問題13、練習問題14        |
| 12 | 『話したくなるフランス語』第5課つづき          | 文法事項：不定冠詞、部分冠詞、否定の冠詞<br>avoir の変化<br>つづり字と発音 (3)                        | 『話したくなるフランス語』第5課の予習復習、練習問題15、練習問題16、練習問題17 |
| 13 | 『話したくなるフランス語』第6課 (pp. 34-39) | 動詞 aller を使った表現<br>乗り物の言い方  | 『話したくなるフランス語』第6課の予習復習、練習問題18               |
| 14 | 『話したくなるフランス語』第6課つづき          | 文法事項：前置詞と定冠詞の縮約<br>指示形容詞<br>aller の変化                                   | 『話したくなるフランス語』第6課の予習復習、練習問題19、練習問題20        |
| 15 | まとめ                          | 前期学習内容の確認とまとめ   | 前期学習内容の理解のチェックと復習                          |

|      |                              |
|------|------------------------------|
| 関連科目 | 後期のフランス語 II を合わせて履修することが望ましい |
|------|------------------------------|

|     |    |             |      |       |
|-----|----|-------------|------|-------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名         | 著者名  | 出版社名  |
|     | 1  | 話したくなるフランス語 | 岩間直文 | 朝日出版社 |

|     |    |                  |                       |      |
|-----|----|------------------|-----------------------|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名              | 著者名                   | 出版社名 |
|     | 1  | 対訳フランス語で読もう「異邦人」 | アルベール・カミュ[著]、柳沢文昭[訳注] | 第三書房 |

|           |  |
|-----------|--|
| 評価方法 (基準) | 小テスト (50%) と平常点 (授業への参加の度合い・取り組む姿勢・発表・宿題の提出など) (50%) |
|-----------|--|

|           |   |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 楽しくフランス語を学習しましょう。きっと何か新しい発見があると思います。フランス語で会話をするの楽しさを感じてください。皆さんの参加をお待ちしております。 |
|-----------|---|

|          |               |
|----------|---------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階(非常勤講師室) |
|----------|---------------|

|    |  |
|----|--|
| 備考 | 連絡等は授業教室または非常勤講師室で金曜日の授業時間の前後に口頭または文書で。授業時間外の質問等については相談の上、個別に時間を決めて応じる。事前・事後学修に各1時間を要する。 |
|----|--|

|               |                  |         |           |
|---------------|------------------|---------|-----------|
| 科目名           | フランス語Ⅱ           | 科目名(英文) | French II |
| 学部            | 外国語学部            | 学科      | 外国語学科     |
| 配当年次          | 2年               | クラス     |           |
| 単位数           | 2                | 履修区分    | 選択科目      |
| 学期            | 後期               | 授業担当者   | 中井 裕之     |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |         |           |
| 科目ナンバリング      | LFRI1318e1       |         |           |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | この授業では、前期に引き続き、フランス語の基礎的コミュニケーション能力の習得を目指します。挨拶、注文、道の尋ね方など日常生活の様々な場面で役立つフランス語の表現を学びます。フランス語で話す喜びを感じてください。楽しい授業を目指します。             |
| 到達目標        | この授業を受講すれば、学生は初歩的なフランス語が話せるようになります。基本的なフランス語の言いまわしやを繰り返し練習することで、単に頭で理解できているばかりでなく、場面・状況に応じた表現が自然と口をついて出るようになります。                  |
| 授業方法と留意点    | 基本的な表現を繰り返し口に出して練習する。リスニング、練習問題の解答、学生同士の練習を行なう。教科書『かたつむりの歌 (Chanson des Escargots)』、『話したくなるフランス語』を使用するので教室に持ってくる。授業への積極的な参加を望みます。 |
| 科目学習の効果(資格) | 仏検(実用フランス語技能検定試験)5級に相当する学力を目指す。   |

| 回数 | 授業テーマ                       | 内容・方法等   | 事前・事後学習課題                                    |
|----|-----------------------------|--|--|
|    |                             |  |  |
| 1  | 後期オリエンテーション                 | 後期学習へ向けた示唆<br>授業の内容と進め方の説明<br>教科書、参考書の説明               | テキストの後期学習範囲に目を通しておく                          |
| 2  | 動詞活用表                       | さまざまな動詞の活用<br>以降、適宜、『かたつむりの歌』を味読する                     | 『話したくなるフランス語』巻末動詞活用表                         |
| 3  | 『話したくなるフランス語』第7課(pp.40-45)  | 人、物をたずねる表現<br>フランス人の名前                                 | 『話したくなるフランス語』第7課の予習復習、練習問題21                 |
| 4  | 『話したくなるフランス語』第7課つづき         | 文法事項：指示代名詞、直接目的語になる人称代名詞<br>つづり字と発音(4)<br>CONNAITREの変化 | 『話したくなるフランス語』第7課の予習復習、練習問題22、練習問題23          |
| 5  | 『話したくなるフランス語』第8課(pp.46-51)  | 可能性、許可、依頼の表現<br>条件法を用いた表現                              | 『話したくなるフランス語』第8課の予習復習、練習問題22、練習問題24          |
| 6  | 『話したくなるフランス語』第8課つづき         | 文法事項：pouvoirの変化<br>つづり字と発音(5)<br>条件法                   | 『話したくなるフランス語』第8課の予習復習、練習問題25、練習問題26          |
| 7  | 『話したくなるフランス語』第9課(pp.52-57)  | 名詞を代名詞で受ける<br>頻度を表わす表現                                 | 『話したくなるフランス語』第9課の予習復習、練習問題27                 |
| 8  | 『話したくなるフランス語』第9課つづき         | 文法事項：間接目的語になる人称代名詞<br>人称代名詞のまとめ                        | 『話したくなるフランス語』第9課の予習復習、練習問題28、練習問題29          |
| 9  | 『話したくなるフランス語』第10課(pp.58-63) | 未来の予定<br>時刻の言い方  | 『話したくなるフランス語』第10課の予習復習、練習問題30                |
| 10 | 『話したくなるフランス語』第10課つづき        | 文法事項：代名動詞<br>未来の表わし方                                   | 『話したくなるフランス語』第10課の予習復習、練習問題31                |
| 11 | 『話したくなるフランス語』第11課(pp.64-69) | 過去の表現<br>月、曜日、日付の言い方                                   | 『話したくなるフランス語』ト第11課の予習復習、練習問題32、練習問題33、練習問題34 |
| 12 | 『話したくなるフランス語』第11課つづき        | 文法事項：複合過去<br>半過去                                       | 『話したくなるフランス語』第11課の予習復習、練習問題35、練習問題36         |
| 13 | 発展的学習(1)                    | 役に立つ表現と文法事項の補足(1)<br>会話練習(1)                           | 『話したくなるフランス語』第7課～11課の復習                      |
| 14 | 発展的学習(2)                    | 役に立つ表現と文法事項の補足(2)<br>会話練習(2)                           | 『話したくなるフランス語』第7課～11課の復習                      |
| 15 | まとめ                         | 総まとめ   | 学習内容の理解のチェック                                 |

関連科目 前期のフランス語Ⅰを合わせて履修することが望ましい

| 教科書 | 番号          | 書籍名                             | 著者名               | 出版社名 |
|-----|-------------|---------------------------------|-------------------|------|
|     | 1           | かたつむりの歌 (Chanson des Escargots) | 田島宏[編], プレヴェール[著] | 第三書房 |
| 2   | 話したくなるフランス語 | 岩間直文                            | 朝日出版社             |      |
| 3   |             |                                 |                   |      |

| 参考書 | 番号 | 書籍名              | 著者名                    | 出版社名 |
|-----|----|------------------|------------------------|------|
|     | 1  | 対訳フランス語で読もう「異邦人」 | アルベール・カミュ[著], 柳沢文昭[訳注] | 第三書房 |
| 2   |    |                  |                        |      |
| 3   |    |                  |                        |      |

|           |  |
|-----------|--|
| 評価方法(基準)  | 小テスト(50%)と平常点(授業への参加の度合い・取り組む姿勢・発表・宿題の提出など)(50%)   |
| 学生へのメッセージ | 楽しくフランス語を学習しましょう。きっと何か新しい発見があると思います。フランス語で会話をするの楽しさを感じてください。皆さんの参加をお待ちしております。            |
| 担当者の研究室等  | 7号館2階(非常勤講師室)  |
| 備考        | 連絡等は授業教室または非常勤講師室で金曜日の授業時間の前後に口頭または文書で。授業時間外の質問等については相談の上、個別に時間を決めて応じる。事前・事後学修に各1時間を要する。 |

|               |                  |         |            |
|---------------|------------------|---------|------------|
| 科目名           | フランス語Ⅲ           | 科目名(英文) | French III |
| 学部            | 外国語学部            | 学科      | 外国語学科      |
| 配当年次          | 3年               | クラス     |            |
| 単位数           | 2                | 履修区分    | 選択科目       |
| 学期            | 前期               | 授業担当者   | 藤本 武司      |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |         |            |
| 科目ナンバリング      | LFR2319e1        |         |            |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | フランス語会話の初級1   |
| 到達目標        | フランス語のごく基本的な日常会話ができるようになる。  |
| 授業方法と留意点    | 毎回一定のテーマに沿って、基本的なフランス語の会話表現を紹介し、それを用いて実際に対話の練習を行う。原則として一つのテーマが終了するたびに、簡単な確認テストを行う(5~10分程度:形式は聞き取りや短い発話)。併せて、フランス文化の諸相を映画・音楽を用いて紹介する。特定の教科書は使用せず、自作のプリント教材をその都度配布する。 |
| 科目学習の効果(資格) | 仏検(実用フランス語検定)5級の聞き取り問題に対応できるオーラルの力をつける。   |

| 回数 | 授業テーマ                                   | 内容・方法等               | 事前・事後学習課題                               |
|----|---|----------------------|---|
|    |   |                      |   |
| 2  | 自己紹介・あいさつ等の復習<br>(1)<br>フランスの映画・音楽鑑賞    | 口頭練習と聞き取り練習          | 授業で扱った表現の発音練習と暗記。                       |
| 3  | 自己紹介・あいさつ等の復習<br>(2)<br>フランスの映画・音楽鑑賞    | 口頭練習と聞き取り練習          | 授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。 |
| 4  | 友人や家族を紹介する(1)<br>フランスの映画・音楽鑑賞           | 口頭練習と聞き取り練習<br>確認テスト | 授業で扱った表現の発音練習と暗記。                       |
| 5  | 友人や家族を紹介する(2)<br>フランスの映画・音楽鑑賞           | 口頭練習と聞き取り練習          | 授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。 |
| 6  | 身の回りの物について尋ねたり答えたりする(1)<br>フランスの映画・音楽鑑賞 | 口頭練習と聞き取り練習<br>確認テスト | 授業で扱った表現の発音練習と暗記。                       |
| 7  | 身の回りの物について尋ねたり答えたりする(2)<br>フランスの映画・音楽鑑賞 | 口頭練習と聞き取り練習          | 授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。 |
| 8  | 好き嫌いを言う(1)<br>フランスの映画・音楽鑑賞              | 口頭練習と聞き取り練習<br>確認テスト | 授業で扱った表現の発音練習と暗記。                       |
| 9  | 好き嫌いを言う(2)<br>フランスの映画・音楽鑑賞              | 口頭練習と聞き取り練習          | 授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。 |
| 10 | カフェでの注文と支払い<br>(1)<br>フランスの映画・音楽鑑賞      | 口頭練習と聞き取り練習<br>確認テスト | 授業で扱った表現の発音練習と暗記。                       |
| 11 | カフェでの注文と支払い<br>(2)<br>フランスの映画・音楽鑑賞      | 口頭練習と聞き取り練習          | 授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。 |
| 12 | もののある場所、位置関係を言う(1)<br>フランスの映画・音楽鑑賞      | 口頭練習と聞き取り練習<br>確認テスト | 授業で扱った表現の発音練習と暗記。                       |
| 13 | もののある場所、位置関係を言う(2)<br>フランスの映画・音楽鑑賞      | 口頭練習と聞き取り練習          | 授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。 |
| 14 | 復習と総括・発音のまとめ<br>(1)<br>フランスの映画・音楽鑑賞     | 口頭練習と聞き取り練習<br>確認テスト | 授業で扱った表現の発音練習と暗記。                       |
| 15 | 復習と総括・発音のまとめ<br>(2)<br>フランスの映画・音楽鑑賞     | 口頭練習と聞き取り練習          | 授業で扱った表現の発音練習と暗記。                       |

|      |  |
|------|--|
| 関連科目 |  |
|------|--|

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |

|          |  |
|----------|--|
| 評価方法(基準) | ①期末試験は実施しない。<br>②授業時の会話練習への積極な参加を第一とし(50%)、加えて確認テスト、映画鑑賞後のコメント等(50%)を加えて評点を算出する。 |
|----------|--|

|           |   |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 単に語学の勉強というだけでなく、フランスの様々な姿や、日本との違いを一緒に考えてみたいと思います。なお、皆さんのこれまでのフランス語学習内容等に合わせ、上記の計画は大幅に変更することもできます。 |
|-----------|---|

|          |               |
|----------|---------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階(非常勤講師室) |
|----------|---------------|

|    |  |
|----|--|
| 備考 | 質問等は授業時および授業終了後に直接対応する。<br>事前・事後学修に各1時間を要する。 |
|----|--|

|               |                  |         |           |
|---------------|------------------|---------|-----------|
| 科目名           | フランス語IV          | 科目名(英文) | French IV |
| 学部            | 外国語学部            | 学科      | 外国語学科     |
| 配当年次          | 3年               | クラス     |           |
| 単位数           | 2                | 履修区分    | 選択科目      |
| 学期            | 後期               | 授業担当者   | 藤本 武司     |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1◎, DP7△, DP8△ |         |           |
| 科目ナンバリング      | LFR2320e1        |         |           |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | フランス語会話の初級2   |
| 到達目標        | フランス語の基本的な日常会話ができるようになる。  |
| 授業方法と留意点    | 毎回一定のテーマに沿って、基本的なフランス語の会話表現を紹介し、それを用いて実際に対話の練習を行う。原則として一つのテーマが終了するたびに、簡単な確認テストを行う(5~10分程度:形式は聞き取りや短い発話)。併せて、フランス文化の諸相を映画・音楽を用いて紹介する。特定の教科書は使用せず、自作のプリント教材をその都度配布する。 |
| 科目学習の効果(資格) | フランス語 III と合わせて、仏検(実用フランス語検定)4級の聞き取り問題に対応できるオーラルの力をつける。   |

| 回数 | 授業テーマ                            | 内容・方法等               | 事前・事後学習課題                               |
|----|----------------------------------|----------------------|---|
|    |                                  |                      |   |
| 2  | 食事と食材に関する表現(1)<br>フランスの映画・音楽鑑賞   | 口頭練習と聞き取り練習          | 授業で扱った表現の発音練習と暗記。                       |
| 3  | 食事と食材に関する表現(2)<br>フランスの映画・音楽鑑賞   | 口頭練習と聞き取り練習          | 授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。 |
| 4  | 服飾に関する表現(1)<br>フランスの映画・音楽鑑賞      | 口頭練習と聞き取り練習<br>確認テスト | 授業で扱った表現の発音練習と暗記。                       |
| 5  | 服飾に関する表現(2)<br>フランスの映画・音楽鑑賞      | 口頭練習と聞き取り練習          | 授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。 |
| 6  | 日常のスケジュール(1)<br>フランスの映画・音楽鑑賞     | 口頭練習と聞き取り練習<br>確認テスト | 授業で扱った表現の発音練習と暗記。                       |
| 7  | 日常のスケジュール(2)<br>フランスの映画・音楽鑑賞     | 口頭練習と聞き取り練習          | 授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。 |
| 8  | 旅行に関する表現(1)<br>フランスの映画・音楽鑑賞      | 口頭練習と聞き取り練習<br>確認テスト | 授業で扱った表現の発音練習と暗記。                       |
| 9  | 旅行に関する表現(2)<br>フランスの映画・音楽鑑賞      | 口頭練習と聞き取り練習          | 授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。 |
| 10 | レストランでの注文と支払い(1)<br>フランスの映画・音楽鑑賞 | 口頭練習と聞き取り練習<br>確認テスト | 授業で扱った表現の発音練習と暗記。                       |
| 11 | レストランでの注文と支払い(2)<br>フランスの映画・音楽鑑賞 | 口頭練習と聞き取り練習          | 授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。 |
| 12 | 天候に関する表現(1)<br>フランスの映画・音楽鑑賞      | 口頭練習と聞き取り練習<br>確認テスト | 授業で扱った表現の発音練習と暗記。                       |
| 13 | 天候に関する表現(2)<br>フランスの映画・音楽鑑賞      | 口頭練習と聞き取り練習          | 授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。 |
| 14 | 総括と総復習(1)<br>フランスの映画・音楽鑑賞        | 口頭練習と聞き取り練習<br>確認テスト | 授業で扱った表現の発音練習と暗記。                       |
| 15 | 総括と総復習(2)<br>フランスの映画・音楽鑑賞        | 口頭練習と聞き取り練習          | 授業で扱った表現の発音練習と暗記。                       |

|      |  |
|------|--|
| 関連科目 | 会話を初歩から学ぶので、フランス語 I, II を履修していなくても選択可。 |
|------|--|

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|           |   |
|-----------|---|
| 評価方法(基準)  | ①期末試験は実施しない。<br>②授業時の会話練習への積極な参加を第一とし(50%)、加えて確認テスト、映画鑑賞後のコメント等(50%)を加えて評点を算出する。                    |
| 学生へのメッセージ | 単に語学の勉強というだけではなく、フランスの様々な姿や、日本との違いを一緒に考えてみたいと思います。なお、皆さんのこれまでのフランス語学習内容等にあわせて、上記の計画は大幅に変更することもできます。 |
| 担当者の研究室等  | 7号館2階(非常勤講師室)   |
| 備考        | 質問等は授業時および授業終了後に直接対応する。<br>事前・事後学修に各1時間を要する。  |





# 教 養 科 目



|                |  |          |                              |
|----------------|--|----------|------------------------------|
| 科目名            | 海外ビジネスインターンシップ   | 科目名 (英文) | Overseas Business Internship |
| 学部             | 学部共通   | 学科       | 教養特別講義                       |
| 配当年次           | 2年   | クラス      |                              |
| 単位数            | 2  | 履修区分     | 選択科目                         |
| 学期             | 通年集中   | 授業担当者    | 西之坊 穂                        |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎   |          |                              |
| 科目ナンバリング       | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2～IT01432a2, L科: LT01422a2～LT01426a2, D科・S科: IT01428a2～IT01432a2, P科: YT01423a2～YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2～WT01428a2, N科: NT01420a2～NT01424a2 |          |                              |

| 授業概要・目的               | <p>本学では、将来グローバル、あるいは地域で活躍する力を身につけた知的職業人の育成を目指している。そのため、他者と自分の違いを理解し、相手を尊重するという姿勢が必要である。このような態度は国内においても修得可能であるが、日本とは異なる文化、経済事情、生活習慣、価値観なども海外においてインターンシップを体験することにより、相手を正しく理解し、尊重する姿勢、柔軟な発想力の必要性を実感し修得できる。この海外インターンシップでは、ダイバーシティ社会の中で、自分の考えを相手に伝え、また相手の考えを理解できるコミュニケーション能力と自己の責任で自ら考え行動する自律心を育成する。</p> <p>なお、授業担当者の一人は企業で人事経験を持ち、もう一人は旅行会社での実務経験を持ちます。パラダイス・バリ (旅行会社) の運営責任者は日本人であり、現地人をマネジメントしているため、授業担当者の実務視点から学生に教授する。また、旅行会社の実務視点からも学生に教授する。</p>   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|-----------------------|---|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>日本と相手国 (インドネシア・バリ島) の歴史、文化、経済等の違いを正しく理解する。</li> <li>異なる文化、価値観等を尊重する姿勢を修得する。</li> <li>他国を理解することにより、日本についての理解を深め、日本が抱えている問題について深く考察する。</li> <li>将来、グローバルに活躍するために、自分に欠けているものは何か、大学生活で何を学ぶべきか、体得する。</li> </ul>   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業方法と留意点              | <p>研修先としてサラスワティ大学、ウブド第一高校、パラダイス・バリ (旅行会社) 等を予定している。研修先により研修内容は異なり、求められる資質、英語能力が異なります。事前学習において各研修先について説明しますが、受講生自身も調査し、研修先を選択します。有意義なインターンシップにするためには、学生の希望と相手先の要望とのマッチングが非常に重要になります。そのため学生の希望は配慮しますが、学生が最初に希望した研修先に配属されるとは限りません。事前に充分面談を行い、話し合いの上決定します。</p>  |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>事前学習は10日を予定している。具体的には、ガイダンス、研修先の研修内容の解説、受け入れ先とのマッチング、バリ島の歴史、習慣、経済状況などを各自調べ発表する。</p> <p>本事前学習では、グループ学習、ディスカッション、プレゼンテーションを繰り返し行う。最終的には、現地での各自の研修内容の事前準備が完了するまで行う。</p> <p>現地実習 10日 (移動日含む)</p> <p>1日目 移動</p> <p>2日目 環境学習 マングローブセンターにて</p> <p>3日目 サラスワティ大学で国際交流会</p> <p>4日目～6日目 各研修先にて各々インターンシップ研修実施</p> <p>7日目～8日目 ウブド第一高校にてインターンシップ研修実施</p> <p>9日目 現地視察</p> <p>10日目 移動</p> <p>研修内容は、研修先により環境問題に対する取り組み、日本語授業のSA、課外活動のサポート、の取り組みなど異なります。なお、研修先のリクエストにより、環境問題、日本の歴史や文化紹介 (茶道、書道、空手等)、旅行会社のパッケージツアーの企画など、内容が異なります。</p> <p>事後学習 3日 (資料の作成が間に合わない場合は、追加する)</p> <p>報告書の作成、指導、報告会に向けたプレゼンテーション資料の作成、指導、全体報告会</p> |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 関連科目                  | 外国語関連科目、世界の歴史、日本の歴史等  |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 教科書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  | 番号  | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名   | 著者名 | 出版社名 |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 参考書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  | 番号  | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名   | 著者名 | 出版社名 |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 評価方法 (基準)             | <p>実習前の事前学習 (10%)、海外現地研修 60% (実習記録 10%、実習態度 50% (研修先からの評価を勘案し、引率教員が評価する)、実習報告書 (20%)、全体報告会のプレゼン (10%) で評価する。</p> <p>ただし、災害やテロ等により海外現地に行けなかった場合は単位を認定しない。</p>  |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 学生へのメッセージ             | 参加を迷っている方は、遠慮なく田中先生や私の研究室に訪問して質問をしてください。  |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 担当者の研究室等              | 11号館8階 西之坊研究室<br>11号館8階 田中研究室   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 備考                    | 事前学習は、全体で10時間程度行うこと。  |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |

|               |  |         |                               |
|---------------|--|---------|-------------------------------|
| 科目名           | 株式投資と企業家育成   | 科目名(英文) | Investment & Entrepreneurship |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 教養特別講義                        |
| 配当年次          | 2年   | クラス     |                               |
| 単位数           | 2  | 履修区分    | 選択科目                          |
| 学期            | 前期   | 授業担当者   | 林 正浩                          |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, N科: DP1◎  |         |                               |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 |         |                               |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | <p>『投資』とは何か、個人投資に必要な基本的な金融・経済知識と投資手法について学び、シミュレーションによる資産運用演習を体験します。更に、投資対象として注目度が高い新興企業（ベンチャー企業）について、新規事業の着想から、ビジネスモデルの構築、そして実際の起業に至るまでの諸課題や起業の実際、事業の維持・継続と発展に不可欠な諸要素について学びます。</p> <p>【担当教員実務経歴】<br/>         ①ベンチャー投資財団（企業投資業務担当）<br/>         ②監査法人（株式上場コンサルティング担当）</p> |
| 到達目標        | <p>将来、就職してからの確定拠出型年金制度への対応として、各種投資金融商品の特徴と運用リスク、リターンに対する税務処理を習得し、個人投資家の育成を目指します。</p> <p>また、将来の選択肢として自身のアイデアをビジネスに転換するための知恵を習得する起業家育成を目指します。</p>   |
| 授業方法と留意点    | <p>毎回、当該授業内容に関するキーワードを記載した「講義メモ」と付属資料を配付します。</p> <p>「講義メモ」のキーワードについては、授業後の復習として活用してください。</p> <p>またスライドで説明した内容について、自身で「講義メモ」に必要な点のみを記載する、効率的で効果的なノートの取り方を身に付けてください（板書の習慣を変えてください）。</p> <p>毎回、講義内容に関する質問（アンケート表）を配布します。講義終了時に提出してもらいます。</p>                                 |
| 科目学習の効果（資格） | <p>自身の将来に向けた資産形成に必要な基本的ノウハウの習得</p> <p>学生時代に自身のアイデアをビジネスに活かす挑戦意欲の醸成と将来の就くべき職業の選択肢を増やす（視野を広げる）</p>  |

| 回数 | 授業テーマ                        | 内容・方法等   | 事前・事後学習課題  |
|----|------------------------------|--|--|
|    |                              |  |  |
| 1  | 講座ガイダンス<br>個人投資とは？<br>起業家とは？ | 講座ガイダンス（勉強方法・評価方法）<br>投資を学ぶ理由（確定拠出型年金制度への対応、老後の資金需要への対応）<br>起業家教育を受ける理由              | <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）  |
| 2  | 経済、財政の基本知識と投資との関係            | 投資のために必要とされる消費生活における経済動向<br>配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。<br>設問による授業内容の再確認     | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。<br><事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）                  |
| 3  | 家計と国の財政動向による投資環境への影響         | 雇用と所得、財政の役割<br>配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。<br>設問による授業内容の再確認                  | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。<br><事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）                  |
| 4  | 海外の動向による影響と経済指標との関係          | 景気動向指数、為替動向による投資環境への影響と対応<br>配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。<br>設問による授業内容の再確認    | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。<br><事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）                  |
| 5  | 株式市場の役割と株式価値                 | 株式市場、発行市場、流通市場による株式の役割と価値<br>配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。<br>設問による授業内容の再確認    | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。<br><事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）                  |
| 6  | 銘柄選択の考え方と投資シミュレーションの説明       | 投資情報に基づく株価評価の考え方と投資シミュレーション<br>配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。<br>設問による授業内容の再確認  | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。<br><事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間） |
| 7  | 債券市場の役割と投資の考え方               | 債券の基礎情報と債券投資の仕組み。金利の決定方法。<br>配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。<br>設問による授業内容の再確認    | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。<br><事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間） |
| 8  | 株式市況先読みの捉え方                  | 株式投資の基本的分析手法と投資テクニック<br>配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。<br>設問による授業内容の再確認         | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。<br><事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間） |
| 9  | チャート分析と銘柄選定の考え方              | 株価下降局面、景気低迷期における投資リスクヘッジの考え方<br>配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。<br>設問による授業内容の再確認 | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。<br><事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間） |
| 10 | 投資信託の仕組み                     | グローバル投信を含む投資信託商品選定の考え方<br>配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。<br>設問による授業内容の再確認       | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。<br><事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間） |
| 11 | 外貨預金・FX・金投資の仕組みと投資の考え方       | 外貨預金・FX・金投資の魅力とリスク判定<br>配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。                          | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。<br><事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション            |

|           |  |                    |  |  |
|-----------|--|--------------------|--|--|
|           |  |                    | 設問による授業内容の再確認  | ヨソ開始（各自）（1時間）  |
|           | 12   | 企業組織と上場市場          | ベンチャー企業組織組成の考え方と株式公開の意義。<br>配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。<br>設問による授業内容の再確認       | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。<br><事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間） |
|           | 13   | 事業構想におけるドメイン設定の考え方 | 起業準備としての事業構想の立て方と事例によるディスカッション<br>配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。<br>設問による授業内容の再確認 | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。<br><事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間） |
|           | 14   | 経営機能構造の設計と税務       | ビジネスモデル設計の考え方と会社設立および税務手続き。<br>配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。<br>設問による授業内容の再確認    | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。<br><事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間） |
|           | 15   | 投資シミュレーション結果検証     | 各自投資シミュレーションの結果報告と銘柄変動の要因についてのディスカッション。  | <事後>投資シミュレーション結果と分析の再確認（30分）   |
| 関連科目      | ベンチャービジネス論、経営管理論、ビジネスプランニング（演習）  |                    |  |  |
| 教科書       | 番号   | 書籍名                | 著者名  | 出版社名   |
|           | 1  |                    |  |  |
|           | 2  |                    |  |  |
|           | 3  |                    |  |  |
| 参考書       | 番号   | 書籍名                | 著者名  | 出版社名   |
|           | 1  |                    |  |  |
|           | 2  |                    |  |  |
|           | 3  |                    |  |  |
| 評価方法（基準）  | <p>①毎回のアンケート内の〔設問1〕に対する回答評価（評価割合：50%）<br/>授業内容のお復習いとして設定してある設問について、授業から学んだ手法を用いた自身の考え方を評価します。またアンケート内の〔設問2〕（授業内容に関する質問および要望）について、積極的に質問または提案した場合は加点評価とします。<br/>なお、当該質問や要望については、次回授業時に解説文を付けて一覧表にして学習者全員に資料配付します。</p> <p>②最終課題レポート（評価割合：50%）<br/>投資手法および銘柄選定（経済指標分析）に関する知識度を判定するため、総合的評価としてのレポート課題とします。</p> |                    |  |  |
| 学生へのメッセージ | <p>■「投資」はギャンブルではありません。将来の資産形成のための金融手段です。<br/>■「儲かる／儲からない」を競うものでもありません。<br/>■法令を遵守した投資スタンスが必要です。<br/>■投資は、あくまでも自己責任で行うものです。<br/>この点を理解できる学生は参加してください。</p>   |                    |  |  |
| 担当者の研究室等  | 11号館7階 林研究室  |                    |  |  |
| 備考        | 実際の株式銘柄の動きを反映した「投資シミュレーション」を行う予定です。  |                    |  |  |

|               |       |         |                       |
|---------------|-------|---------|-----------------------|
| 科目名           | 環境学   | 科目名(英文) | Environmental Studies |
| 学部            | 外国語学部 | 学科      | 外国語学科                 |
| 配当年次          | 1年    | クラス     |                       |
| 単位数           | 2     | 履修区分    | 選択科目                  |
| 学期            | 後期    | 授業担当者   | 手代木 功基                |
| ディプロマポリシー(DP) |       |         |                       |
| 科目ナンバリング      |       |         |                       |

|             |   |                  |                                     |                                |
|-------------|---|------------------|-------------------------------------|--------------------------------|
| 授業概要・目的     | <p>環境問題はしばしばグローバルな問題として着目されますが、実際に私たちに影響を与える環境に関わる「問題」は、地域単位で現出します。そのため、環境問題について考えるためには、何よりも地域を知り、地域固有の文脈に沿った解決策を考えていくことが重要なステップとなります。本講義では、国内外のさまざまな地域の環境や環境問題等について学びます。また、地域の自然環境と深く関わって発生する自然災害も扱います。これらを学ぶことで幅広い教養を身につけ、多角的な視野を獲得することを目指します。</p> <p>この科目は「国際教養」プログラム対応科目です。</p> |                  |                                     |                                |
| 到達目標        | <p>1. 環境とは何か、環境問題とは何かについて具体例をもとに説明できる幅広い知識を身につける<br/> 2. 私達が暮らしている大阪・関西の特徴や身近に起こる災害について理解する<br/> 3. 多角的な視野で国内外の多様な環境や環境問題を把握することができる</p>  |                  |                                     |                                |
| 授業方法と留意点    | <p>プリントの配布および投影資料を利用した講義形式を基本としますが、講義中にグループワークやディスカッション、簡単な作業などを通して受講者の意見を求めることもあります。</p>   |                  |                                     |                                |
| 科目学習の効果(資格) | <p>環境問題への意識向上、情報リテラシーの向上</p>  |                  |                                     |                                |
| 授業計画        | 回数  | 授業テーマ            | 内容・方法等                              | 事前・事後学習課題                      |
|             | 1   | イントロダクション        | 授業の概要、目的、授業の進め方、テキスト、採点方法等について理解する  | 環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む |
|             | 2   | 環境を学ぶための基礎知識1    | 環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ     | 環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む |
|             | 3   | 環境を学ぶための基礎知識2    | 環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ     | 環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む |
|             | 4   | 環境を学ぶための基礎知識3    | 環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ     | 環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む |
|             | 5   | 環境を学ぶための基礎知識4    | 環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ     | 環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む |
|             | 6   | 環境と自然災害1         | 地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る              | 環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む |
|             | 7   | 環境と自然災害2         | 地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る              | 環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む |
|             | 8   | 環境と自然災害3         | 地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る              | 環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む |
|             | 9   | 環境と自然災害4         | 地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る              | 環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む |
|             | 10  | 地球環境問題1          | 地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る          | 環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む |
|             | 11  | 地球環境問題2          | 地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る          | 環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む |
|             | 12  | 地球環境問題3          | 地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る          | 環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む |
|             | 13  | 身近な地域の環境1        | 身近な地域の環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わり等について理解する | 環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む |
|             | 14  | 身近な地域の環境2        | 身近な地域の環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わり等について理解する | 環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む |
|             | 15  | 身近な地域の環境3・授業のまとめ | 全体のまとめ                              | 環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む |
| 関連科目        | 国際教養プログラム関連科目(暮らしの中の文化、多文化共生論等)   |                  |                                     |                                |
| 教科書         | 番号  | 書籍名              | 著者名                                 | 出版社名                           |
|             | 1   |                  |                                     |                                |
|             | 2   |                  |                                     |                                |
|             | 3   |                  |                                     |                                |
| 参考書         | 番号  | 書籍名              | 著者名                                 | 出版社名                           |
|             | 1   |                  |                                     |                                |
|             | 2   |                  |                                     |                                |
|             | 3   |                  |                                     |                                |
| 評価方法(基準)    | 授業への取り組み(リアクションペーパーの内容、受講態度、議論やグループワークへの参加状況等)(60%)とレポート(40%)で評価します。  |                  |                                     |                                |
| 学生へのメッセージ   |   |                  |                                     |                                |
| 担当者の研究室等    | 7号館5階(手代木研究室)   |                  |                                     |                                |
| 備考          | 事前・事後の学習は、全体で60時間を目安とします。<br>リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。  |                  |                                     |                                |

|               |  |         |                                      |
|---------------|--|---------|--------------------------------------|
| 科目名           | 北河内を知る   | 科目名(英文) | Introduction to Kita-kawachi Studies |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 地域志向系                                |
| 配当年次          | 1年   | クラス     |                                      |
| 単位数           | 2  | 履修区分    | 選択科目                                 |
| 学期            | 後期   | 授業担当者   | 荻田 喜代一・尾山 廣・喜多 大三・久保 貞也・鶴坂 貴恵        |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DPS△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ |         |                                      |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01436a2, L科: LL01417a2, D科・S科: IL01423a2, P科: YL01418a2, J科: JL01434a2, W科: WL01419a2, N科: NL01415a2                        |         |                                      |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | <p>摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の歴史・文化・産業・ライフライン、地方自治体の現状と課題、「北河内」に関係する各分野で活躍している団体や機関の人びとの活動状況などをテーマに、外部講師の講演とグループディスカッションを中心に、この地域に住む人々の暮らしや特徴、現在の問題と今後の課題を知ることにより、摂南大生として、この地域とどのようにかかわるかを考える。</p> <p>この授業は、「地域をつくる」「地域を考える」「地域をまなぶ」の3つのテーマからなり、地域貢献活動の動機づけを目的とする。授業担当者として、北河内7市および和歌山県すさみ町の「行政実務者」が担当する。</p> |
| 到達目標        | 北河内地域の歴史、文化、産業、街づくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。この認識を踏まえて、地域における摂南大学の役割を考え、積極的に地域にかかわる態度を示すとともに、活気ある地域の創生に向けたアイデアを立案し、行動できる。  |
| 授業方法と留意点    | 北河内地域の各分野で活躍されている方々を学外講師とするオムニバス講義である。授業は、土曜日に集中的に実施し、毎回の授業で「自己学習・グループ学習」「講演の聴講」「グループワーク・成果物のプレゼンテーション」を行う。<br>情報収集ツールとしてスマートフォン、タブレット、ノートパソコン等を持参すること  |
| 科目学習の効果(資格) | ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、地域の課題を発見して解決する能力を身につけることに努力する。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。  |

| 回数 | 授業テーマ                                   | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題  |
|----|---|---|--|
|    |   |   |  |
| 1  | オリエンテーション・グループワークのアイスブレイク<br>9月28日(土)2限 | 授業の進め方、成績評価方法<br>グループワークの進め方等を学ぶ                          | 事前課題:北河内について調べる(30分)<br>事後課題:グループワークの成果物をまとめる(30分)                       |
| 2  | 北河内地域に関する講演<br>10月5日(土)1限               | 北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。 | 事前課題:学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)                                    |
| 3  | 北河内地域に関する講演<br>10月5日(土)2限               | 北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。 | 事前課題:学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)                                    |
| 4  | グループワーク・プレゼンテーション<br>10月5日(土)3限         | 北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する                               | 事後課題:討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)                        |
| 5  | 北河内地域に関する講演<br>10月19日(土)1限              | 北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)の情報を収集して地域課題を発見する     | 事前課題:学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)                                    |
| 6  | 北河内地域に関する講演<br>10月19日(土)2限              | 北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。 | 事前課題:学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)                                    |
| 7  | グループワーク・プレゼンテーション<br>10月19日(土)3限        | 北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する                               | 事後課題:討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)                        |
| 8  | 北河内地域に関する講演<br>11月2日(土)1限               | 北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。 | 事前課題:学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)                                    |
| 9  | 北河内地域に関する講演<br>11月2日(土)2限               | 北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。 | 事前課題:学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)                                    |
| 10 | グループワーク・プレゼンテーション<br>11月2日(土)3限         | 北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する                               | 事後課題:討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)                        |
| 11 | 北河内地域に関する講演<br>11月16日(土)1限              | 北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。 | 事前課題:学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)                                    |
| 12 | 北河内地域に関する講演<br>11月16日(土)2限              | 北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。 | 事前課題:学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)                                    |
| 13 | グループワーク・プレゼンテーション<br>11月16日(土)3限        | 北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する                               | 事後課題:討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)                        |
| 14 | 最終発表会<br>12月7日(土)1限                     | アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う                     | 事後課題:討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる。また、プレゼンテーションの練習を十分に行う(10時間) |
| 15 | 最終発表会<br>12月7日(土)2限                     | アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う                     | 事後課題:討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる。また、プレゼンテーションの練習を十分に行う(10時間) |

|               |   |     |     |      |
|---------------|---|-----|-----|------|
| 関連科目          | ソーシャルイノベーション副専攻科目   |     |     |      |
| 教科書           | 番号  | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|               | 1   |     |     |      |
|               | 2   |     |     |      |
|               | 3   |     |     |      |
| 参考書           | 番号  | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|               | 1   |     |     |      |
|               | 2   |     |     |      |
|               | 3   |     |     |      |
| 評価方法<br>(基準)  | 個人レポートの評価(40%)、グループごとの講演聴講および討議の態度のルーブリック評価(30%)、グループワークの成果物(30%)。欠席・遅刻の場合には当該項目の評価は「0」とする。 |     |     |      |
| 学生への<br>メッセージ | 地域創生の第一歩を踏み出してみませんか？  |     |     |      |
| 担当者の<br>研究室等  | 荻田喜代一(薬学部・副学長室)、鶴坂貴恵(経営学部・経営情報学科)、尾山廣(理工学部・生命科学科)、久保貞也(経営学部・経営情報学科)、喜多大三                    |     |     |      |
| 備考            | 学外講師のご都合により、授業計画の内容や実施日、順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。            |     |     |      |



|               |       |         |                           |
|---------------|-------|---------|---------------------------|
| 科目名           | 経済学入門 | 科目名(英文) | Introduction to Economics |
| 学部            | 外国語学部 | 学科      | 外国語学科                     |
| 配当年次          | 2年    | クラス     |                           |
| 単位数           | 2     | 履修区分    | 選択科目                      |
| 学期            | 前期    | 授業担当者   | 原田 裕治                     |
| ディプロマポリシー(DP) |       |         |                           |
| 科目ナンバリング      |       |         |                           |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 経済現象を理解するために必要な基本的知識や経済学的な考え方、現実の経済現象を事例として参照しながら、解説することを目的とする。   |
| 到達目標        | 1) 戦後日本経済の歴史の大まかな流れについて説明できる。<br>2) 雇用、企業組織、財政、社会保障といった日本経済の動きに関わる基本的な事項について説明でき、日々の経済ニュースを理解できるようになる。<br>3) 日本経済が抱える問題について、その重要性を説明することができ、それにかんする異なる立場の議論を比較することができる。 |
| 授業方法と留意点    | 基本的には講義形式で進めるが、時事問題や時の話題等について、経済学ではどのような考えでどのような分析が出来るのかを解説する。毎回、レジュメを配布する。   |
| 科目学習の効果(資格) | 日々の経済ニュースを理解できるようになることで、就職活動において企業を選択する際や、企業で働く際に客観的な判断ができるようになる。   |

| 回数 | 授業テーマ           | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題                   |
|----|-----------------|---|-----------------------------|
|    |                 |   |                             |
| 1  | イントロダクション       | 現代経済で起こっていることを概観する一方で、この授業の進め方について紹介する。                     | Moodle で出題された復習課題に取り組む。     |
| 2  | 経済とは            | 経済の基本的な仕組みについて概説する  | Moodle で出題された復習課題に取り組む。     |
| 3  | 戦後日本経済の歩み(1)    | 終戦から戦後復興期における日本経済の動きについて解説する                                | Moodle で出題された復習課題に取り組む。     |
| 4  | 戦後日本経済の歩み(2)    | 高度経済成長期における日本経済の動きについて解説する                                  | Moodle で出題された復習課題に取り組む。     |
| 5  | 戦後日本経済の歩み(3)    | 高度経済成長の終焉から安定成長期への移行について説明する                                | Moodle で出題された復習課題に取り組む。     |
| 6  | 戦後日本経済の歩み(4)    | 安定成長期からバブル期にかけての日本経済の動きについて解説する                             | Moodle で出題された復習課題に取り組む。     |
| 7  | 戦後日本経済の歩み(5)    | バブル崩壊後における日本経済の動きについて解説する                                   | Moodle で出題された復習課題に取り組む。     |
| 8  | 雇用のしくみ          | 企業と労働者の関係について、日本の雇用慣行を例にとりながら解説する。また、正規雇用と非正規雇用の関係についても説明する | Moodle で出題された復習課題に取り組む。     |
| 9  | 企業のしくみ          | 所有・経営・労働の観点から企業を捉えて、その統治の仕組みについて解説する                        | Moodle で出題された復習課題に取り組む。     |
| 10 | 授業内討論(1)日本の雇用問題 | 授業で学んだ内容、および受講者が独自に調べた事項にもとづいて、受講者間でディベート形式のオンライン討論を行う      | 事前：討論のための準備<br>事後：討論内容の振り返り |
| 11 | 財政のしくみ(1)       | 日本の財政構造、とりわけ財政支出の現状と課題について解説する                              | Moodle で出題された復習課題に取り組む。     |
| 12 | 財政のしくみ(2)       | 日本の財政構造、とりわけ租税と国債発行についての現状と課題を説明する                          | Moodle で出題された復習課題に取り組む。     |
| 13 | 社会保障のしくみ        | 日本における社会保障のしくみ、とりわけ公的年金制度について解説する                           | Moodle で出題された復習課題に取り組む。     |
| 14 | 授業内討論(2)日本の社会保障 | 授業で学んだ内容、および受講者が独自に調べた事項にもとづいて、受講者間でディベート形式のオンライン討論を行う      | 事前：討論のための準備<br>事後：討論内容の振り返り |
| 15 | まとめ             | 全体の総括   | 講義内容の復習、定期試験への準備            |

関連科目

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |

| 参考書 | 番号 | 書籍名           | 著者名    | 出版社名    |
|-----|----|---------------|--------|---------|
|     | 1  | 日本経済の常識       | 中原隆幸編  | ナカニシヤ出版 |
|     | 2  | 図解雑学 資本主義のしくみ | 八木紀一郎他 | ナツメ社    |

評価方法(基準) 授業時間内外の課題(50%)、期末レポート(50%)で総合的に評価する。授業時間内外の課題ではMoodleを利用するので、授業初回での指示にしたがって速やかに登録してください。また期限以降の登録は受け付けられないので注意してください。なお、出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合があります。

学生へのメッセージ 日々のニュースなどで目にする「経済」に関する事柄は、小難しく自分には関係のないことのように思えてしまいがちですが、実際にはみなさんの身の回りで起こっていることと密接に結びついています。そうしたことをこの授業で感じ取ってもらえればと思います。そのためには、少々難しく感じても、日々の新聞やニュースで目にする経済的な事象に関心を持つことから始めてもらいたいと思います。

担当者の研究室等

備考 受講生の理解度によって、講義の内容と進行に変更があります。事前事後学習の総時間の目安は60時間です。課題への解答については、課題解答期間後に正答と解説が公開されます。また各回で授業への質問や感想を書いてもらいますが、それに対する回答は適宜授業内で行います。それらを使って学習をさらに深めてください。

|               |           |         |                 |
|---------------|-----------|---------|-----------------|
| 科目名           | 経済のしくみ    | 科目名(英文) | Basic Economics |
| 学部            | 外国語学部     | 学科      | 外国語学科           |
| 配当年次          | 2年        | クラス     |                 |
| 単位数           | 2         | 履修区分    | 選択科目            |
| 学期            | 前期        | 授業担当者   | 原田 裕治           |
| ディプロマポリシー(DP) | DP2◎      |         |                 |
| 科目ナンバリング      | LS01407a2 |         |                 |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 経済現象を理解するために必要な基本的知識や経済学的な考え方、現実の経済現象を事例として参照しながら、解説することを目的とする。   |
| 到達目標        | 1) 戦後日本経済の歴史の大まかな流れについて説明できる。<br>2) 雇用、企業組織、財政、社会保障といった日本経済の動きに関わる基本的な事項について説明でき、日々の経済ニュースを理解できるようになる。<br>3) 日本経済が抱える問題について、その重要性を説明することができ、それにかんする異なる立場の議論を比較することができる。 |
| 授業方法と留意点    | 基本的には講義形式で進めるが、時事問題や時の話題等について、経済学ではどのような考えでどのような分析が出来るのかを解説する。毎回、レジュメを配布する。   |
| 科目学習の効果(資格) | 日々の経済ニュースを理解できるようになることで、就職活動において企業を選択する際や、企業で働く際に客観的な判断ができるようになる。   |

教養科目

| 回数 | 授業テーマ           | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題                   |
|----|-----------------|---|-----------------------------|
|    |                 |   |                             |
| 1  | イントロダクション       | 現代経済で起こっていることを概観する一方で、この授業の進め方について紹介する。                     | Moodle で出題された復習課題に取り組む。     |
| 2  | 経済とは            | 経済の基本的な仕組みについて概説する  | Moodle で出題された復習課題に取り組む。     |
| 3  | 戦後日本経済の歩み(1)    | 終戦から戦後復興期における日本経済の動きについて解説する                                | Moodle で出題された復習課題に取り組む。     |
| 4  | 戦後日本経済の歩み(2)    | 高度経済成長期における日本経済の動きについて解説する                                  | Moodle で出題された復習課題に取り組む。     |
| 5  | 戦後日本経済の歩み(3)    | 高度経済成長の終焉から安定成長期への移行について説明する                                | Moodle で出題された復習課題に取り組む。     |
| 6  | 戦後日本経済の歩み(4)    | 安定成長期からバブル期にかけての日本経済の動きについて解説する                             | Moodle で出題された復習課題に取り組む。     |
| 7  | 戦後日本経済の歩み(5)    | バブル崩壊後における日本経済の動きについて解説する                                   | Moodle で出題された復習課題に取り組む。     |
| 8  | 雇用のしくみ          | 企業と労働者の関係について、日本の雇用慣行を例にとりながら解説する。また、正規雇用と非正規雇用の関係についても説明する | Moodle で出題された復習課題に取り組む。     |
| 9  | 企業のしくみ          | 所有・経営・労働の観点から企業を捉えて、その統治の仕組みについて解説する                        | Moodle で出題された復習課題に取り組む。     |
| 10 | 授業内討論(1)日本の雇用問題 | 授業で学んだ内容、および受講者が独自に調べた事項にもとづいて、受講者間でディベート形式のオンライン討論を行う      | 事前：討論のための準備<br>事後：討論内容の振り返り |
| 11 | 財政のしくみ(1)       | 日本の財政構造、とりわけ財政支出の現状と課題について解説する                              | Moodle で出題された復習課題に取り組む。     |
| 12 | 財政のしくみ(2)       | 日本の財政構造、とりわけ租税と国債発行についての現状と課題を説明する                          | Moodle で出題された復習課題に取り組む。     |
| 13 | 社会保障のしくみ        | 日本における社会保障のしくみ、とりわけ公的年金制度について解説する                           | Moodle で出題された復習課題に取り組む。     |
| 14 | 授業内討論(2)日本の社会保障 | 授業で学んだ内容、および受講者が独自に調べた事項にもとづいて、受講者間でディベート形式のオンライン討論を行う      | 事前：討論のための準備<br>事後：討論内容の振り返り |
| 15 | まとめ             | 全体の総括   | 講義内容の復習、定期試験への準備            |

関連科目

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |

| 参考書 | 番号 | 書籍名           | 著者名    | 出版社名    |
|-----|----|---------------|--------|---------|
|     | 1  | 日本経済の常識       | 中原隆幸編  | ナカニシヤ出版 |
|     | 2  | 図解雑学 資本主義のしくみ | 八木紀一郎他 | ナツメ社    |

評価方法(基準) 授業時間内外の課題(50%)、期末レポート(50%)で総合的に評価する。授業時間内外の課題ではMoodleを利用するので、授業初回での指示にしたがって速やかに登録してください。また期限以降の登録は受け付けられないので注意してください。なお、出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合があります。

学生へのメッセージ 日々のニュースなどで目にする「経済」に関する事柄は、小難しく自分には関係のないことのように思えてしまいがちですが、実際にはみなさんの身の回りで起こっていることと密接に結びついています。そうしたことをこの授業で感じ取ってもらえればと思います。そのためには、少々難しく感じても、日々の新聞やニュースで目にする経済的な事象に関心を持つことから始めてもらいたいです。

担当者の研究室等

備考 受講生の理解度によって、講義の内容と進行に変更があります。事前事後学習の総時間の目安は60時間です。課題への解答については、課題解答期間後に正答と解説が公開されます。また各回で授業への質問や感想を書いてもらいますが、それに対する回答は適宜授業内で行います。それらを使って学習をさらに深めてください。

|               |           |         |           |
|---------------|-----------|---------|-----------|
| 科目名           | 芸術論       | 科目名(英文) | Fine Arts |
| 学部            | 外国語学部     | 学科      | 外国語学科     |
| 配当年次          | 1年        | クラス     |           |
| 単位数           | 2         | 履修区分    | 選択科目      |
| 学期            | 後期        | 授業担当者   | 杉山 博昭     |
| ディプロマポリシー(DP) | DP2◎      |         |           |
| 科目ナンバリング      | LHU1402a2 |         |           |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | <p>【作品の見方と語り方】</p> <p>美術史と美術批評の方法を概観し、芸術作品の「見方」と「語り方」を確認する。そのために、重要な美術史家と美術批評家をピックアップし、それぞれの代表的なテキストと具体的な作品分析をたどることで、芸術作品の「記述」と「評価」がいかに移り変わってきたのかを検討する。これを言い換えるなら、美術史と美術批評がいかに練り上げられてきたかを理解するということである。それとおとして、著名な画家の名前や代表的な作品名をただ暗記して満足するというレベルを越え、自分の目で作品を「見」て自分の言葉で作品を「語」ることのむずかしさとおもしろさを体感する。</p> |
| 到達目標        | <p>以下の2点について、自分の言葉で説明できるようになること。</p> <p>1. 芸術作品を「見て語る」方法が多岐にわたることの理由<br/>2. 芸術作品を前にして、自分だけの眼と言葉を持つことがむずかしい理由</p>   |
| 授業方法と留意点    | <p>授業は全編スライドをもちいた講義形式で、スライド内の文字情報はハンドアウトとしてあらかじめ共有する。</p> <p>各回の最初に10分ほど前回の質問に対するフィードバックの時間を取り、各回の最後に10分ほど質問を入力する時間を取る。</p>  |
| 科目学習の効果(資格) | 芸術作品を鑑賞する方法の理解【学芸員資格】  |

| 回数 | 授業テーマ     | 内容・方法等                              | 事前・事後学習課題   |
|----|-----------|-------------------------------------|---|
|    |           |                                     |   |
| 1  | はじめに      | 授業概要の説明と歴史叙述についての解説                 | 事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、絵画作品を検索して確認する(30分)。<br>事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。 |
| 2  | 伝記        | 作家の人生を基準にする方法の確認/ジョルジョ・ヴァザーリに対する評価  | 事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、絵画作品を検索して確認する(30分)。<br>事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。 |
| 3  | 考古学       | 古代の精神を基準にする方法の確認/ヨハン・ヴィンケルマンに対する評価  | 事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、絵画作品を検索して確認する(30分)。<br>事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。 |
| 4  | 解剖学       | 骨格のカタチを基準にする方法の確認/ジョヴァンニ・モレリに対する評価  | 事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、絵画作品を検索して確認する(30分)。<br>事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。 |
| 5  | 様式論       | カタチの進化を基準にする方法/アロイス・リーグルに対する評価      | 事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、絵画作品を検索して確認する(30分)。<br>事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。 |
| 6  | 美術史       | カタチの比較を基準にする方法/インリヒ・ヴェルフリンに対する評価    | 事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、絵画作品を検索して確認する(30分)。<br>事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。 |
| 7  | 図像学       | カタチの意味を基準にする方法/エミール・マールに対する評価       | 事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、絵画作品を検索して確認する(30分)。<br>事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。 |
| 8  | イコノロジー    | カタチの記憶を基準にする方法/エルヴィン・パノフスキーに対する評価   | 事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、絵画作品を検索して確認する(30分)。<br>事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。 |
| 9  | 知覚心理学     | 眼差しの記憶を基準にする方法/エルンスト・ゴンブリッチに対する評価   | 事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、絵画作品を検索して確認する(30分)。<br>事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。 |
| 10 | 系譜学       | 眼差しの経験を基準にする方法/マイケル・バクサンドールに対する評価   | 事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、絵画作品を検索して確認する(30分)。<br>事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。 |
| 11 | フォーマリズム#1 | カタチの新しさを基準にする方法/クレメント・グリーンバーグに対する評価 | 事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、絵画作品を検索して確認する(30分)。<br>事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。 |
| 12 | フォーマリズム#2 | カタチの価値を基準にする方法/マイケル・フリードに対する評価      | 事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、絵画作品を検索して確認する(30分)。<br>事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。 |
| 13 | 脱構築       | 価値の相対化を基準にする方法/ロザリンド・クラウスに対する評価     | 事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、絵画作品を検索して確認する(30分)。<br>事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。 |
| 14 | フェミニズム    | ジェンダーの非対称を基準にする方法/グリゼルダ・ポロックに対する評価  | 事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、絵画作品を検索して確認する(30分)。<br>事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。 |
| 15 | まとめ       | 理解度確認テストの実施と総括としての解説                | 事前:これまでのハンドアウトとノートを整理する(60分)。<br>事後:間違えたところを確認する(30分)。                    |

関連科目 芸術文化論/暮らしの中の文化

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     |    |     |     |      |
|     |    |     |     |      |
|     |    |     |     |      |

|               |  |                        |                    |       |
|---------------|--|------------------------|--------------------|-------|
|               | 1  | 西洋美術史ハンドブック            | (編) 高階秀爾・三浦篤       | 新書館   |
|               | 2  | モダニズムのハード・コア 現代美術批評の地平 | (編) 浅田彰・岡崎乾二郎・松浦寿夫 | 太田出版  |
|               | 3  | 美術史の歴史                 | ヴァードン・ハイド・マイナー     | ブリュッケ |
| 評価方法<br>(基準)  | 毎回の質問 80%、小テスト 20%   |                        |                    |       |
| 学生への<br>メッセージ | <p>毎回授業の終わりに質問をひとつ入力してもらおう。その質問の内容で評価をつけていく。評価の基準は「知識の豊富さ」ではなく「自分できちんと考えられるかどうか」である。この基準については、毎回のフィードバックをとおして具体的に認識していくことができるだろう。</p> <p>体調不良だと考えることも難しくなるので、ぜひ、体調は整えて出席してもらいたい。</p> |                        |                    |       |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館 5階 杉山研究室   |                        |                    |       |
| 備考            | 質問に対する応答は「Q&A シート」を作成し、次回の授業にてフィードバックする。   |                        |                    |       |

|               |  |         |                             |
|---------------|--|---------|-----------------------------|
| 科目名           | 現代韓国事情   | 科目名(英文) | Contemporary Korean Society |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 教養特別講義                      |
| 配当年次          | 2年   | クラス     |                             |
| 単位数           | 2  | 履修区分    | 選択科目                        |
| 学期            | 後期   | 授業担当者   | 田中 悟                        |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎   |         |                             |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 |         |                             |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 日本社会に生きる者にとって、似通っているようで異なる、また異なっているようで似通っている、そんな存在である韓国。そのような隣国に関して、大きな歴史的流れを検討し、近現代の韓国社会における変化を長期的な視点から理解することを目指す。                   |
| 到達目標        | この講義を通じて、韓国社会についての理解を深めていく。具体的には、次の各項目を目標とする。<br>・韓国近現代史を概観できるようにする。<br>・「解放」前後における朝鮮半島の政治状況について理解する。<br>・「民主化」前後における韓国の政治状況について理解する。 |
| 授業方法と留意点    | 韓国近現代史の基礎を踏まえた上で、関連する映画作品を鑑賞し、それらの解説なども交えながら講義を進める。   |
| 科目学習の効果(資格) | 韓国近現代史および現代韓国社会に関する基礎的な理解   |

| 回数 | 授業テーマ                        | 内容・方法等                     | 事前・事後学習課題   |
|----|------------------------------|----------------------------|---|
|    |                              |                            |   |
| 1  | イントロダクション                    | 授業の目指すところ、テキストの内容について概説する。 | テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと  |
| 2  | 近現代韓国の基礎知識(1)                | 韓国近現代史概説: 1945年以前と以後       | [事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分)<br>[事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分) |
| 3  | 近現代韓国の基礎知識(2)                | 韓国近現代史概説: 軍政時代の時代と民主化後の時代  | [事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分)<br>[事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分) |
| 4  | 映画作品に見る「韓国現代史」(前編)           | 関連する映画作品の鑑賞と解説             | [事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分)<br>[事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)     |
| 5  | 映画作品に見る「韓国現代史」(後編)           | 関連する映画作品の鑑賞と解説             | [事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分)<br>[事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)     |
| 6  | 近現代韓国社会への理解(1)               | 解放・建国に始まる韓国現代史概説           | [事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分)<br>[事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)   |
| 7  | 近現代韓国社会への理解(2)               | 解放・建国に始まる韓国現代史概説           | [事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分)<br>[事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)   |
| 8  | 映画作品に見る「韓国現代史」における政治と人々(前編)  | 関連する映画作品の鑑賞と解説             | [事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分)<br>[事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)     |
| 9  | 映画作品に見る「韓国現代史」における政治と人々(後編)  | 関連する映画作品の鑑賞と解説             | [事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分)<br>[事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)     |
| 10 | 近現代韓国社会への理解(3)               | 民主化と、民主化以後の現代韓国            | [事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分)<br>[事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)   |
| 11 | 近現代韓国社会への理解(4)               | 民主化と、民主化以後の現代韓国            | [事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分)<br>[事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)   |
| 12 | 映画作品に見る「民主化と、民主化以後の現代韓国」(前編) | 関連する映画作品の鑑賞と解説             | [事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分)<br>[事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)     |
| 13 | 映画作品に見る「民主化と、民主化以後の現代韓国」(後編) | 関連する映画作品の鑑賞と解説             | [事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分)<br>[事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)     |
| 14 | 現代韓国に向き合う(1)                 | 韓国現代史と現代韓国社会               | [事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分)<br>[事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)   |
| 15 | 現代韓国に向き合う(2)                 | 韓国現代史と現代韓国社会               | [事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分)<br>[事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)   |

|               |   |       |     |      |
|---------------|---|-------|-----|------|
| 関連科目          |   |       |     |      |
| 教科書           | 番号  | 書籍名   | 著者名 | 出版社名 |
|               | 1   | 韓国現代史 | 木村幹 | 中公新書 |
|               | 2   |       |     |      |
|               | 3   |       |     |      |
| 参考書           | 番号  | 書籍名   | 著者名 | 出版社名 |
|               | 1   |       |     |      |
|               | 2   |       |     |      |
|               | 3   |       |     |      |
| 評価方法<br>(基準)  | 提出レポートに基づく評価を行なう。(100%)<br>詳細については授業内で指示する。 |       |     |      |
| 学生への<br>メッセージ | 韓国語の能力は不要です。                                |       |     |      |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館4階 田中研究室                                 |       |     |      |
| 備考            | 授業のスケジュール・進行形式については、出席者の状況によって調整する可能性もある。   |       |     |      |

|               |           |         |                             |
|---------------|-----------|---------|-----------------------------|
| 科目名           | 現代社会と法    | 科目名(英文) | Law in Contemporary Society |
| 学部            | 外国語学部     | 学科      | 外国語学科                       |
| 配当年次          | 1年        | クラス     |                             |
| 単位数           | 2         | 履修区分    | 選択科目                        |
| 学期            | 前期        | 授業担当者   | 小野 晃正                       |
| ディプロマポリシー(DP) | DP2◎      |         |                             |
| 科目ナンバリング      | LS01405a2 |         |                             |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・法は、多様な人々が共同生活を営むための相互尊重のルールであり、我々の生活を豊かにするための制度である。</li> <li>・このような法の特色と目的を踏まえつつ、現代社会の中で生じている紛争に対して、法がどのような役割を果たし、かつ、いかに争いごとを解決しているかについて、個別の法領域ごとに具体的な事件を参照しながら理解することを主な目標とする。</li> </ul> |
| 到達目標        | <p>この講義を通じて学生には、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「法」と「道徳＝倫理」について説明できる</li> <li>・婚約、婚姻、内縁、離婚、相続をめぐる論点について説明できる</li> <li>・民法の財産法や刑事法学の諸原理について説明ができる</li> </ul> <p>ようになることが期待される。</p>                                     |
| 授業方法と留意点    | ・講義形式によるが、教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。  |
| 科目学習の効果(資格) | ・公務員試験や各種資格試験に必要なとされる法学の基礎的知識を身につけることができる。  |

| 回数 | 授業テーマ          | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題   |
|----|----------------|---|---|
|    |                |   |   |
| 1  | ガイダンス<br>法とは何か | <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義内容と文献の紹介</li> <li>・法と道徳の違い</li> <li>・法の強制力</li> <li>・法の分類</li> </ul>                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の入手</li> <li>事前：教科書第1章をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後：第1章を見直し、章末問題を解くこと(2時間)</li> </ul>              |
| 2  | 家族関係と法(1)      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・婚約とその不当破棄</li> <li>・内縁と重婚の内縁関係</li> <li>・婚姻の効果</li> <li>・婚姻費用</li> <li>・日常家事債務</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の入手</li> <li>事前：婚約と婚姻に関する箇所をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後：婚約と婚姻に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと(2時間)</li> </ul> |
| 3  | 家族関係と法(2)      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・離婚</li> <li>・協議離婚と調停離婚</li> <li>・裁判離婚</li> <li>・離婚原因</li> <li>・有責配偶者の離婚請求ほか</li> </ul>    | <ul style="list-style-type: none"> <li>事前：離婚に関する箇所をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後：離婚に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと(2時間)</li> </ul>                        |
| 4  | 家族関係と法(3)      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・親子</li> <li>・認知と非嫡出子</li> <li>・親族間の扶養</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>事前：親族に関する箇所をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後：親族に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと(2時間)</li> </ul>                        |
| 5  | 家族関係と法(4)      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・相続</li> <li>・遺留分</li> <li>・寄与分</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>事前：相続に関する箇所をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後：相続に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと(2時間)</li> </ul>                        |
| 6  | 財産関係と法(1)      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・契約と意思表示</li> <li>・契約と当事者</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>事前：契約に関する箇所をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後：契約に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと(2時間)</li> </ul>                        |
| 7  | 財産関係と法(2)      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・債務不履行と危険負担</li> <li>・契約の解除</li> <li>・瑕疵担保責任</li> </ul>                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>事前：債務不履行に関する箇所をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後：債務不履行に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと(2時間)</li> </ul>                  |
| 8  | 財産関係と法(3)      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務管理と不当利得</li> <li>・不法行為</li> <li>・使用者責任</li> </ul>                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>事前：不法行為に関する箇所をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後：不法行為に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと(2時間)</li> </ul>                    |
| 9  | 医療と法           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療契約</li> <li>・医療過誤</li> <li>・専断的医療行為</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>事前：医療過誤に関する箇所をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後：医療過誤に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと(2時間)</li> </ul>                    |
| 10 | 消費者と法          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問販売</li> <li>・マルチ商法</li> <li>・ローンとクレジット契約</li> <li>・製造物責任法</li> </ul>                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>事前：消費者と法に関する箇所をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後：消費者と法に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと(2時間)</li> </ul>                  |
| 11 | 職場と法           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・労働法とは何か</li> <li>・労働紛争の諸類型</li> <li>・ブラック企業</li> <li>・非正規雇用の問題点</li> </ul>                | <ul style="list-style-type: none"> <li>事前：労働法に関する箇所をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後：労働法に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと(2時間)</li> </ul>                      |
| 12 | 犯罪と法(1)        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・刑法の意義</li> <li>・罪刑法定主義とその派生原則</li> <li>・犯罪論</li> <li>・緊急行為</li> <li>・未遂と共犯</li> </ul>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>事前：刑法に関する箇所をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後：刑法に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと(2時間)</li> </ul>                        |
| 13 | 犯罪と法(2)        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・逮捕と勾留</li> <li>・捜索と差押</li> <li>・公訴の提起</li> <li>・少年法の特例</li> <li>・死刑をめぐる諸問題</li> </ul>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>事前：刑事訴訟法に関する箇所をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後：刑事訴訟法に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと(2時間)</li> </ul>                  |
| 14 | 人権と国際法         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・立憲主義と憲法</li> <li>・自由権と社会権</li> <li>・国際関係と紛争</li> </ul>                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>事前：国際法に関する箇所をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後：国際法に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと(2時間)</li> </ul>                      |

|           |  |                       |  |   |
|-----------|--|-----------------------|--|---|
|           |  |                       | ・集团的自衛権<br>・制定法と慣習法<br>・判例・学説・条理<br>・概念法学と自由法学<br>・文理解釈と論理解釈 | くこと (2時間)<br>事前：法の解釈に関する箇所をあらかじめ読むこと (2時間)<br>事後：法の解釈に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと (2時間) |
| 15        | 法の適用、法源及び法の解釈  |                       |  |   |
| 関連科目      | 日本国憲法、行政法、刑法、民法、国際法ほか                                      |                       |  |   |
| 教科書       | 番号   | 書籍名                   | 著者名  | 出版社名  |
|           | 1  | 基礎からわかる法学 (第2版)       | 谷口 貴都=松原 哲   | 成文堂   |
|           | 2  |                       |  |   |
|           | 3  |                       |  |   |
| 参考書       | 番号   | 書籍名                   | 著者名  | 出版社名  |
|           | 1  | 法学入門 (第6版補訂版) (有斐閣双書) | 末川 博/編著  | 有斐閣   |
|           | 2  | 現代法学入門 (第4版) (有斐閣双書)  | 伊藤 正己=加藤一郎/編著  | 有斐閣   |
|           | 3  | 判例法学 (第5版)            | 西村 健一郎=西井 正弘=初宿 正典/編著  | 有斐閣   |
| 評価方法 (基準) | ・定期試験 (95%) および講義の理解度を試すミニツペーパー (5%) の合計によって評価する。          |                       |  |   |
| 学生へのメッセージ | ・法律系の番組が好きな方、あるいは、公務員試験受験や法学系資格取得を念頭に置いている方は、ぜひ受講してみてください。 |                       |  |   |
| 担当者の研究室等  | 11号館10階 小野准教授室   |                       |  |   |
| 備考        | 講義の理解度を試すミニツペーパーに対するコメントは次回講義の冒頭に行う。                       |                       |  |   |



|               |  |         |                 |
|---------------|--|---------|-----------------|
| 科目名           | 現代ビジネス論  | 科目名(英文) | Modern Business |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 教養特別講義          |
| 配当年次          | 1年   | クラス     |                 |
| 単位数           | 2  | 履修区分    | 選択科目            |
| 学期            | 後期   | 授業担当者   | 牧 美喜男           |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎   |         |                 |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 |         |                 |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 本講義では組織行動論の中心テーマであるリーダーシップや日本企業の直面するマネジメントの国際化時代における人的資源管理を学習する。本講義の特色は将来のビジネスリーダーを目指す皆さんが考える基盤や目標の提供を目指す。<br>両分野の基礎知識の学習に加えて、豊富な事例を紹介する。企業の倒産や再建事例におけるリーダーの行動、皆さんが属する若者の行動や意識の特徴、日本的経営の特色や日本が生み出したビジネスリーダー事例を学習する。私たち日本人の心の奥底に存する企業観・倫理観や労働観について再検討し、グローバル化・価値観の多様化が進展する中、将来のわが国ビジネスの在り方について、皆さんと一緒に考える。 |
| 到達目標        | 本講義では、以下の3つの目標を設定する。<br>①組織を管理するマネージャーに求められる資質やスキルを理解する。<br>②日本の経営の特色および、マネジメントの国際化時代におけるその進化の方向性を理解する。<br>③組織で働くとは何かを考え、自分が目指すリーダーとは何かを理解する。   |
| 授業方法と留意点    | 可能な限り双方向(interactive)の講義を目指す。単に教科書を読んで内容を理解するというだけでなく、レクチャーを通じて身につけた基礎的な知識に基づきながら、現実世界の経営上の諸問題についての対応策を皆さんが考え、答えを追求する。わからない点や難しい点については補足的に説明しながら、必要に応じて応用的なディスカッションを実施する。   |
| 科目学習の効果(資格) | 資格等の取得はありませんが、本講義終了時には以下が身に付きます。今後のビジネス社会の方向性を理解し、ビジネスリーダーとは何か、自身はどのようなビジネスリーダーを目指すかを考える基盤を取得出来ます。  |

| 回数 | 授業テーマ                              | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題   |
|----|------------------------------------|---|---|
|    |                                    |   |   |
| 1  | 現在のビジネス環境及びリーダーの重要性                | オペレーションの国際化とマネジメントの国際化の違いを説明しリーダーの役割を述べる。ビジネスマンの職場職場の現実の雰囲気を知る。働くとは何かをを考える。 | 日本企業の戦後の海外展開の歴史や現状を調べてみよう。  |
| 2  | マネージャーとマネジメント                      | 人材を管理するとは何かを学ぶ。   | マネージャーはどんな仕事をしているのか、またなぜマネジメントを学ぶ必要があるか考えてみる。                             |
| 3  | 個人行動の原点                            | 人はどのようなときに最もよく働くのかを考える。個人行動の起点を知る。  | 組織行動論の目的は何かを考えてみる。  |
| 4  | リーダーシップと信頼                         | 各種リーダー論を紹介する。   | 自身のリーダー体験および今までに出会った素晴らしいリーダーの特徴を考えてみる。                                   |
| 5  | 変革型リーダーがなぜ求められるか                   | マネジメントの国際化時代の変革型リーダーの重要性を各種事例をもとに説明する。(1~5回までのレポート提出)                       | なぜリーダーシップに信頼が強調されるのか自己の体験に照らして考えてみる。                                      |
| 6  | 国際人的資源管理とは何か                       | 各国人材・マネジメント方式の差異。各国企業文化を知る。   | 海外展開をする企業は、本国の或いは出身国の労務管理制度のどちらを採用しようとしてしているのか考えてみる。                      |
| 7  | 日本企業国際化の軌跡                         | オペレーションの国際化・マネジメント国際化時代の日本企業の対応。多国籍従業員意識。                                   | トヨタ自動車・GMとの合弁企業 NUMMI がなぜ設立されたのか調べてみよう。最近、日本本社で外国人が多数採用されているがその理由を考えてみよう。 |
| 8  | コミュニケーションと情報                       | 高コンテクスト文化・社内言語とコミュニケーション外国人社員は何で苦労するのかを考える。                                 | 日本人は自己主張をしないとされています。あなたが発揮する日本人らしさとは何でしょうか?                               |
| 9  | 日本人の特性と日本的経営の本質                    | 歴史や地勢的観点から日本人独特の経営が生み出されたことを学ぶ。   | 有史以来他民族の侵略を受けてこなかった国が世界に一つだけあります。その特異性を考えましょう。                            |
| 10 | 自身を考える                             | 日米中韓 4か国の若者調査の紹介・12人の有識者による若者の実像。人材育成のモデルの紹介・提案(6~10回までのレポート提出)             | あなたは偉くなり社会に貢献したいですか? 自身の能力をどう評価していますか?                                    |
| 11 | 自分はどのようなビジネスリーダーになるか<br>事例1. 平生飢三郎 | 日本的経営の原点・心も金も豊かにする実学を学ぶ。人生3分論(成長・働く・奉仕(奉公)を実践)                              | 以下2回にわたり偉大なビジネスの先人の話をします。2人に関する本はたくさん出版されているので図書館やインターネットで調べてみよう。         |
| 12 | 事例2 パナソニック創業者 松下幸之助                | 経営の神様が追求し実践した指導者の条件。  | 第11回参照  |
| 13 | 地方創生                               | 「やりたい仕事がない」[若者が地方に魅力を持たなくなっている]地方の現状を如何に解決するか                               | 外部講師を呼ぶ予定です   |
| 14 | 国際企業を経営する                          | マネジメントの国際化時代です。国際企業の経営者が実情を語ります。  | 外部講師を呼ぶ予定です   |
| 15 | まとめ                                | 全14回の講義の中で浮かび上がってきたことを総括する。   |   |

|      |    |          |        |       |
|------|----|----------|--------|-------|
| 関連科目 |    |          |        |       |
| 教科書  | 番号 | 書籍名      | 著者名    | 出版社名  |
|      | 1  |          |        |       |
|      | 2  |          |        |       |
|      | 3  |          |        |       |
| 参考書  | 番号 | 書籍名      | 著者名    | 出版社名  |
|      | 1  | 国際人的資源管理 | 関口倫紀ほか | 中央経済社 |

|               |   |              |                |         |
|---------------|---|--------------|----------------|---------|
|               | 2   | マネジメント入門     | スティーブン P. ロビンズ | ダイヤモンド社 |
|               | 3   | 世界が称賛する日本の経営 | 伊勢雅臣           | 育鵬社     |
| 評価方法<br>(基準)  | 第5回時のレポート(20%)、第10回時のレポート(20%)、定期試験(60%)  |              |                |         |
| 学生への<br>メッセージ | 自身を知り自身の特性を生かしマネジメントの国際化時代のリーダーとして活躍する。そのモデルである企業やリーダーに巡り合えると思います。紹介するリーダー事例より、自身がどのようなリーダーになりたいか自分に置き換えて考えてください。 |              |                |         |
| 担当者の<br>研究室等  | 教務課(11号館1階)   |              |                |         |
| 備考            | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。<br>「質問等は出講時に教務課にて対応する」   |              |                |         |

|               |           |         |                                 |
|---------------|-----------|---------|---------------------------------|
| 科目名           | 自然科学の理解   | 科目名(英文) | Introduction to Natural Science |
| 学部            | 外国語学部     | 学科      | 外国語学科                           |
| 配当年次          | 2年        | クラス     |                                 |
| 単位数           | 2         | 履修区分    | 選択科目                            |
| 学期            | 後期        | 授業担当者   | 大塚 正人                           |
| ディプロマポリシー(DP) | DP2◎      |         |                                 |
| 科目ナンバリング      | LNA1413a2 |         |                                 |

**授業概要・目的**  
 地球温暖化や放射性廃棄物などの社会問題は、物理、化学、生物、天文学や地球物理学等の科学分野にまたがっている。これらの問題を議論するときには、総合的な科学的知識が必要となり、そのような知識を得るためには、自然科学のすべてを概観でき、またこれにより自然界の構造的な理解を明確にできるようになる必要がある。このコースでは、自然科学に対する知識の習得と、大局的な理解を目指す。

**到達目標**  
 自然科学の体系や基本的な考え方について理解し、また、自然科学のすべてを概観でき、説明できる。またこれにより自然界の構造的な理解を明確にできるようになる。科学リテラシーを確立できる。プレゼンテーションや対話の技術を身につけることができる。

**授業方法と留意点**  
 ABD 読書会方式で講義を運営する。教員は、教科書や教材に書いてある知識の伝達は一切行わない(質問には答えます)。受講者の主体的な学び合いを基本とし、各回のテーマに沿って系統的に自然科学全体を各自で学習し、4人グループによるリレープレゼンテーションにて共有する。講義内容については、Moodle を用いて資料を配付する。各講義ごとに Moodle を介してミニッツペーパーの提出を求める。また、本講義はアクティブラーニングの手法を積極的に取り入れ、学生が積極的に講義に参加できるよう工夫する。講義の主役は受講者である。教員は、受講者の学びを補助するファシリテーター役に徹するので、いわゆる座学的な講義は一切行わない。具体的には、ABD 読書会方式の学び合い、グループワークによる、各講義の内容についてのディスカッション、まとめ作成及びピア評価を行う。ABD 読書会については、以下の URL を参照のこと。  
<http://www.abd-abd.com/>  
 その他、必要に応じてレポート、小論文、演習問題などの課題を課す。Moodle でこれらのことを全て行う。自然科学は多岐にわたる。物理学、化学、生命科学等の内容を文系の学生によく分かるようにバランス良く配分する。毎回の授業の終りに Moodle を用いてミニッツペーパーを書く時間(5分間)を設け、理解の程度を把握すると同時に質問を受ける。また講義開始前の学生証による出席確認と、講義終了時のミニッツペーパーの提出の両方がなされたことをもって、講義出席の証拠とする。講義後に配信されるビデオ教材(YouTube を利用)を視聴することにより、さらに深い理解を得る。ビデオ教材の視聴がされているかも確認し、成績評価に加える。とにかく Moodle を多用する。スマホもしくはタブレットが必須の講義である。スマホを充電してから講義に臨むこと。スマホの通信制限や充電不足による講義への不参加は本人に原因があるものとして処理する。

**科目学習の効果(資格)**  
 科学リテラシーを確立できる。また、さまざまなテクノロジーと、我々のくらしや健康との関わりが理解できる。Moodle を使った講義に違和感なく取り組めるようになる。アクティブラーニングを体験して、自ら学習できるようになる。

| 回数 | 授業テーマ                  | 内容・方法 等  | 事前・事後学習課題  |
|----|------------------------|--|--|
|    |                        |  |  |
| 1  | 自然科学とは何か【入門編】          | 自然科学の学習前に、なぜ科学を勉強していくのかを明確にする。これから自然科学を統合的に理解することの意義を知る。これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。 | 講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いたミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材(YouTube を利用)を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。 |
| 2  | 天空の法則と地上での運動【物理・1】     | 自然界にある秩序を認識することで、科学的方法論が発達してきた過程を学ぶ。これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。                     | 講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いたミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材(YouTube を利用)を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。 |
| 3  | ニュートンの法則【物理・2】         | ニュートンが示した、運動とその原因としての力の関係を理解する。これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。                          | 講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いたミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材(YouTube を利用)を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。 |
| 4  | 力学的エネルギー【物理・3】         | 力学的エネルギーとは何かについて学習する。これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。                                    | 講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いたミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材(YouTube を利用)を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。 |
| 5  | 光の性質と相互作用及び相対性理論【物理・4】 | 相対性の考え方に触れ、アインシュタインの相対性理論を理解する。これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。                          | 講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いたミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材(YouTube を利用)を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。 |
| 6  | 放射性物質と原子力【物理・5】        | 原子核の中で起こる法則について学ぶ。これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。                                       | 講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いたミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材(YouTube を利用)を視聴することにより、さら            |

|      |                |                          |   |   |
|------|----------------|--------------------------|---|---|
|      | 7              | 基本的な化学の概念と化学結合<br>【化学・1】 | 化学の基本となる原子間の結合、化学結合について学ぶ。<br>これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。                          | に深い理解を得ること。<br>講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (You Tube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。 |
|      | 8              | 有機化学と化学反応<br>【化学・2】      | 有機化学の基本的な反応の仕組みについて理解する。<br>これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。                            | 講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (You Tube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。                |
|      | 9              | 物質の性質と科学的新素材<br>【化学・3】   | 物質の持つ基本的な性質を学び、近年になり増え続ける科学的新素材についても学ぶ。<br>これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。             | 講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (You Tube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。                |
|      | 10             | 生命の発生と進化の戦略<br>【生物・1】    | 生物の種類や成り立ち、生物進化の概略について学ぶ。<br>これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。                           | 講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (You Tube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。                |
|      | 11             | 生命の基本となる化学物質<br>【生物・2】   | 生命科学全般について概略する。特に、生命の基本となる化学物質について学ぶ。<br>これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。               | 講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (You Tube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。                |
|      | 12             | 細胞と生体エネルギー<br>【生物・3】     | 細胞の構成や、細胞が如何にしてエネルギーを作り出しているかなどについて学ぶ<br>これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。               | 講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (You Tube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。                |
|      | 13             | i P S 細胞と遺伝子治療<br>【生物・4】 | iPS 細胞とは何か、また、胚性幹細胞との違いや利点などについて学ぶ。また、再生医療の最先端に触れる。<br>これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。 | 講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (You Tube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。                |
|      | 14             | なぜがんになるのかその 1<br>【生物・5】  | がんとは何か、そしてがんになる過程を学び、なぜがんになるのかを知り、がんの予防法についても考察する。<br>これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。  | 講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (You Tube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。                |
|      | 15             | なぜがんになるのかその 2<br>【生物・6】  | がんとは何か、そしてがんになる過程を学び、なぜがんになるのかを知り、がんの予防法についても考察する。<br>これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。  | 講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (You Tube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。                |
| 関連科目 | 食品機能学、人体の構造と機能 |                          |   |   |
| 教科書  | 番号             | 書籍名                      | 著者名   | 出版社名  |
|      | 1              | Moodle を利用し配布します。        |   |   |
|      | 2              |                          |   |   |
|      | 3              |                          |   |   |
| 参考書  |                |                          |   |   |

|               | 番号  | 書籍名        | 著者名   | 出版社名    |
|---------------|---|------------|-------|---------|
|               | 1   | やさしい基礎生物学  | 南雲保   | 羊土社     |
|               | 2   | 物理学入門 力と運動 | 武谷三男  | ちくま文芸文庫 |
|               | 3   | はじめて学ぶ化学   | 野島 高彦 | 化学同人    |
| 評価方法<br>(基準)  | <p>毎回の小テスト (30%)、定期試験の点数 (30%) および、受講態度、ミニッツペーパー (10%)、およびレポート、小論文、演習問題などの課題 (30%) の総合点で評価する。ビデオ教材の視聴がされているかも確認し、成績評価 (受講態度) に加える。課題を 4 回以上未提出の場合も定期試験受験資格を失います。</p> <p>出席および遅刻・欠席の扱いは、薬学部の出席および遅刻・欠席と、原則、同じ扱いです。詳細は、一回目の講義で配布する資料に従います。3 回を超えての欠席 (4 回以上欠席すると) は、定期試験受験資格を失なう。</p>   |            |       |         |
| 学生への<br>メッセージ | <p>担当教員からのメッセージ：<br/>こんにちは！薬学部の大塚です。<br/>自然科学は多岐にわたります。物理学、化学、生命科学等を文系の学生さんによく分かるようにバランス良く解説します。<br/>毎回の授業の終わりに Moodle を用いて「ミニッツペーパー・リアクションペーパー」を書く時間 (5 分間) を設け、理解の程度を把握すると同時に質問を受け、次回に回答する。また講義開始前の学生証による出席確認と、講義終了時のミニッツペーパー・リアクションペーパーの提出の両方がなされたことをもって、講義出席の証拠とします。Moodle を多用した講義をしますので、スマホは必須です。毎回充電して持ってきて下さい。</p> <p>昨年度受講した学生からのメッセージ：<br/>「大塚先生の授業は、難しい内容も理解しやすいと思います。楽しいです。」<br/>「自然科学のことはもちろん、物理やがんのことなどいろいろためになることをたくさん教えてくれるのでとても良い授業です。」<br/>「この科目を受講することで、プレゼンをする力や人に何かを教える力が身に付き、今後の人生にとっても活かれます。」<br/>「他人とのコミュニケーションが苦手な人には良い授業だと思います。しっかり授業に取り組めば、教養知識も得られるので良いと思います。」<br/>「今までになかった授業の進め方、学生が主体となって進める授業なので、考える力、時間配分の考え方を学ぶことができる。」<br/>など、ポジティブメッセージ多数。</p> |            |       |         |
| 担当者の<br>研究室等  | 枚方キャンパス 1 号館 5 階 大塚教授室 otsuka@pharm.setsunan.ac.jp  |            |       |         |
| 備考            | 出席および遅刻・欠席の扱いは、薬学部の出席および遅刻・欠席と、原則、同じ扱いです。詳細は、一回目の講義で配布する資料に従います。3 回を超えての欠席 (4 回以上欠席すると) は、定期試験受験資格を失います。<br>事前事後学習の総時間の目安は 60 時間。   |            |       |         |

|               |  |         |  |
|---------------|--|---------|--|
| 科目名           | 就職実践基礎   | 科目名(英文) | Preparation Program for Employment Examination |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 教養特別講義   |
| 配当年次          | 2年   | クラス     |  |
| 単位数           | 2  | 履修区分    | 選択科目   |
| 学期            | 前期   | 授業担当者   | 山岡 亮太  |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎   |         |  |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 |         |  |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | 社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。 |
| 到達目標        | 数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。<br>数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。   |
| 授業方法と留意点    | 授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input量が多いので、予習・復習が大切です。   |
| 科目学習の効果(資格) | 社会で必要とされる数的能力を獲得する   |

| 回数 | 授業テーマ           | 内容・方法等           | 事前・事後学習課題                                    |
|----|-----------------|------------------|--|
|    |                 |                  |  |
| 1  | オリエンテーション・実力テスト | 講座の目的意義の確認・実力テスト | シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分) |
| 2  | 数的思考①           | 方程式の活用           | 方程式について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)  |
| 3  | 数的思考②           | 割合の活用①           | 割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)   |
| 4  | 数的思考③           | 割合の活用②           | 割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)   |
| 5  | 数的思考④           | 分数の活用            | 分数問題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分) |
| 6  | 中テスト①・数的思考⑤     | 中テスト①・速度の考え方①    | 2~5回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)                 |
| 7  | 数的思考⑥           | 速度の考え方②          | 速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)     |
| 8  | 数的思考⑦           | 場合の数と確率          | 場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分) |
| 9  | 数的思考⑧           | 集合の概念            | 集合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)   |
| 10 | 中テスト②・資料解釈      | 中テスト②・表の読み取り     | 6~9回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)                 |
| 11 | 論理推論①           | 順序推論             | 推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)      |
| 12 | 論理推論②           | 内訳・表・位置          | 推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)      |
| 13 | 論理推論③           | その他論理推論          | 推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)      |
| 14 | 総復習             | 今までの問題の復習        | 全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)                  |
| 15 | テスト             | 最終テスト            | 全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)                    |

|      |               |
|------|---------------|
| 関連科目 | コミュニケーション能力開発 |
|------|---------------|

| 番号 | 書籍名                                     | 著者名 | 出版社名 |
|----|---|-----|------|
|    |   |     |      |
| 1  | オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。 |     |      |
| 2  |   |     |      |
| 3  |   |     |      |

| 番号 | 書籍名                | 著者名 | 出版社名 |
|----|--------------------|-----|------|
|    |                    |     |      |
| 1  | その他 SPI や玉手箱関連の問題集 |     |      |
| 2  |                    |     |      |
| 3  |                    |     |      |

|          |   |
|----------|---|
| 評価方法(基準) | 小テスト 30%、中間テスト・最終テスト 55%、SmartSPI 15%<br>その他授業態度などで加減します。 |
|----------|---|

|           |  |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。と、同時に学が楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得してってください。 |
|-----------|--|

|          |                 |
|----------|-----------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館3階 キャリア教育推進室 |
|----------|-----------------|

|    |  |
|----|--|
| 備考 |  |
|----|--|

|               |  |         |  |
|---------------|--|---------|--|
| 科目名           | 就職実践基礎   | 科目名(英文) | Preparation Program for Employment Examination |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 教養特別講義   |
| 配当年次          | 2年   | クラス     |  |
| 単位数           | 2  | 履修区分    | 選択科目   |
| 学期            | 前期   | 授業担当者   | 亀田 峻宜, 寺内 睦博                                   |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎   |         |  |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 |         |  |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | 社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。 |
| 到達目標        | 数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。<br>数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。   |
| 授業方法と留意点    | 授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input量が多いので、予習・復習が大切です。   |
| 科目学習の効果(資格) | 社会で必要とされる数的能力を獲得する   |

| 回数 | 授業テーマ           | 内容・方法等           | 事前・事後学習課題                                    |
|----|-----------------|------------------|--|
|    |                 |                  |  |
| 1  | オリエンテーション・実力テスト | 講座の目的意義の確認・実力テスト | シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分) |
| 2  | 数的思考①           | 方程式の活用           | 方程式について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)  |
| 3  | 数的思考②           | 割合の活用①           | 割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)   |
| 4  | 数的思考③           | 割合の活用②           | 割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)   |
| 5  | 数的思考④           | 分数の活用            | 分数問題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分) |
| 6  | 中テスト①・数的思考⑤     | 中テスト①・速度の考え方①    | 2~5回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)                 |
| 7  | 数的思考⑥           | 速度の考え方②          | 速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)     |
| 8  | 数的思考⑦           | 場合の数と確率          | 場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分) |
| 9  | 数的思考⑧           | 集合の概念            | 集合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)   |
| 10 | 中テスト②・資料解釈      | 中テスト②・表の読み取り     | 6~9回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)                 |
| 11 | 論理推論①           | 順序推論             | 推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)      |
| 12 | 論理推論②           | 内訳・表・位置          | 推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)      |
| 13 | 論理推論③           | その他論理推論          | 推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)      |
| 14 | 総復習             | 今までの問題の復習        | 全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)                  |
| 15 | テスト             | 最終テスト            | 全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)                    |

|      |               |
|------|---------------|
| 関連科目 | コミュニケーション能力開発 |
|------|---------------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名                                     | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|---|-----|------|
|     | 1  | オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。 |     |      |
| 2   |    |   |     |      |
| 3   |    |   |     |      |

| 参考書 | 番号 | 書籍名                | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|--------------------|-----|------|
|     | 1  | その他 SPI や玉手箱関連の問題集 |     |      |
| 2   |    |                    |     |      |
| 3   |    |                    |     |      |

|          |   |
|----------|---|
| 評価方法(基準) | 小テスト 30%、中間テスト・最終テスト 55%、SmartSPI 15%<br>その他授業態度などで加減します。 |
|----------|---|

|           |  |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。と、同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得してってください。 |
|-----------|--|

|          |                 |
|----------|-----------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館3階 キャリア教育推進室 |
|----------|-----------------|

|    |  |
|----|--|
| 備考 |  |
|----|--|

|               |  |         |  |
|---------------|--|---------|--|
| 科目名           | 就職実践基礎   | 科目名(英文) | Preparation Program for Employment Examination |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 教養特別講義   |
| 配当年次          | 2年   | クラス     |  |
| 単位数           | 2  | 履修区分    | 選択科目   |
| 学期            | 後期   | 授業担当者   | 亀田 峻宣  |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎   |         |  |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 |         |  |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | 社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。 |
| 到達目標        | 数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。<br>数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。   |
| 授業方法と留意点    | 授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input量が多いので、予習・復習が大切です。   |
| 科目学習の効果(資格) | 社会で必要とされる数的能力を獲得する   |

| 回数 | 授業テーマ           | 内容・方法等           | 事前・事後学習課題                                    |
|----|-----------------|------------------|--|
|    |                 |                  |  |
| 1  | オリエンテーション・実力テスト | 講座の目的意義の確認・実力テスト | シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分) |
| 2  | 数的思考①           | 方程式の活用           | 方程式について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)  |
| 3  | 数的思考②           | 割合の活用①           | 割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)   |
| 4  | 数的思考③           | 割合の活用②           | 割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)   |
| 5  | 数的思考④           | 分数の活用            | 分数問題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分) |
| 6  | 中テスト①・数的思考⑤     | 中テスト①・速度の考え方①    | 2~5回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)                 |
| 7  | 数的思考⑥           | 速度の考え方②          | 速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)     |
| 8  | 数的思考⑦           | 場合の数と確率          | 場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分) |
| 9  | 数的思考⑧           | 集合の概念            | 集合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)   |
| 10 | 中テスト②・資料解釈      | 中テスト②・表の読み取り     | 6~9回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)                 |
| 11 | 論理推論①           | 順序推論             | 推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)      |
| 12 | 論理推論②           | 内訳・表・位置          | 推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)      |
| 13 | 論理推論③           | その他論理推論          | 推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)      |
| 14 | 総復習             | 今までの問題の復習        | 全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)                  |
| 15 | テスト             | 最終テスト            | 全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)                    |

|      |               |
|------|---------------|
| 関連科目 | コミュニケーション能力開発 |
|------|---------------|

| 番号 | 書籍名                                     | 著者名 | 出版社名 |
|----|---|-----|------|
|    |   |     |      |
| 1  | オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。 |     |      |
| 2  |   |     |      |
| 3  |   |     |      |

| 番号 | 書籍名                | 著者名 | 出版社名 |
|----|--------------------|-----|------|
|    |                    |     |      |
| 1  | その他 SPI や玉手箱関連の問題集 |     |      |
| 2  |                    |     |      |
| 3  |                    |     |      |

|          |   |
|----------|---|
| 評価方法(基準) | 小テスト 30%、中間テスト・最終テスト 55%、SmartSPI 15%<br>その他授業態度などで加減します。 |
|----------|---|

|           |  |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。と、同時に学が楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得してってください。 |
|-----------|--|

|          |                 |
|----------|-----------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館3階 キャリア教育推進室 |
|----------|-----------------|

|    |  |
|----|--|
| 備考 |  |
|----|--|

教養科目



|               |           |         |                         |
|---------------|-----------|---------|-------------------------|
| 科目名           | 食品機能学     | 科目名(英文) | Functional Food Science |
| 学部            | 外国語学部     | 学科      | 外国語学科                   |
| 配当年次          | 1年        | クラス     |                         |
| 単位数           | 2         | 履修区分    | 選択科目                    |
| 学期            | 後期        | 授業担当者   | 大橋 貴生                   |
| ディプロマポリシー(DP) | DP2◎      |         |                         |
| 科目ナンバリング      | LNA1411a2 |         |                         |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 食生活と健康とのかかわりを理解し、免疫系、内分泌系(体調リズム)、神経系(精神の高揚や鎮静)などの生体機能の調節に関与する機能性食品の特性についての知識を習得する。本講義では、食品の一次機能(栄養素)、二次機能(味、触感など)および三次機能(生体機能の調節などの新規機能)について学び、保健機能食品制度、特定保健用食品、栄養機能食品など新しい食品の形態を理解する。また、がんや老化に加え、肥満、高血圧、脂質異常症(高脂血症)、糖尿病などの生活習慣病を取り上げ、食生活とヒトの健康のかかわりについて習得することを目的とする。 |
| 到達目標        | 食品に含まれる栄養・機能成分が列挙でき、それぞれ生体調節機能と、ヒトの健康との係わりについて説明できる。<br>食品に関わるニュースを理解できるようになり、自分なりの意見を持てるようになる。<br>また、得られた知識を日々の食生活に活かすことができるようになる。   |
| 授業方法と留意点    | 教科書の内容に沿って、プロジェクターにより講義を行う。<br>中間試験を行う。<br>1回目の講義で、授業の進め方や成績評価の方法について説明する。<br>受講生の理解を効果的に引き出すために、シラバス記載の順序が前後する場合があります。<br>適宜、演習課題またはレポートを課します。   |
| 科目学習の効果(資格) | 食品成分の機能についての知識が得られ、健康と食生活とのかかわりが理解できるようになる。   |

| 回数 | 授業テーマ             | 内容・方法等   | 事前・事後学習課題                  |
|----|-------------------|--|----------------------------|
|    |                   |  |                            |
| 1  | 食品とは              | 食品の特性、一次機能(栄養素)、二次機能(味、食感など)および三次機能(生体機能の調節などの新規機能)について解説する。     | 事前に教科書を学習し、講義後、復習する。(1時間)  |
| 2  | 機能性食品             | 保健機能食品、特別用途食品および健康食品など、新しい食品の形態や制度について解説する。                      | 事前に教科書を学習し、講義後、復習する。(1時間)  |
| 3  | 活性酸素とは            | 活性酸素の生成メカニズムについて解説する。  | 事前に教科書を学習し、講義後、復習する。(1時間)  |
| 4  | 活性酸素と生体           | 活性酸素と疾病、がん、および老化などとの関連について解説する。                                  | 事前に教科書を学習し、講義後、復習する。(1時間)  |
| 5  | 抗酸化機能食品           | ポリフェノールなど抗酸化物質と、それら含む抗酸化機能性食品らについて解説する。                          | 事前に教科書を学習し、講義後、復習する。(1時間)  |
| 6  | 消化と吸収のメカニズム       | 消化、吸収のメカニズムとミネラルについて解説する。  | 事前に教科書を学習し、講義後、復習する。(1時間)  |
| 7  | 消化吸収促進と代謝改善機能     | ミネラル吸収機能食と、大豆イソフラボンなどの代謝改善機能食品について解説する。                          | 事前に教科書を学習し、講義後、復習する。(1時間)  |
| 8  | 難消化性炭水化物、食物繊維機能食品 | 難消化性炭水化物、食物繊維機能食品および乳酸菌類について解説する。                                | 事前に教科書を学習し、講義後、復習する。(1時間)  |
| 9  | 中間テスト             | 第1回から第8回までのまとめを行い、その習得状況を確認する。                                   | 第1回から第8回までの内容を復習しておく。(1時間) |
| 10 | 脂質関連代謝機能          | n-3系脂肪酸とn-6系脂肪酸、ジアシルグリセロールおよび中佐脂肪酸について解説する。                      | 事前に教科書を学習し、講義後、復習する。(1時間)  |
| 11 | コレステロールの吸収・代謝     | コレステロールの吸収・代謝と共役リノールについて解説する。                                    | 事前に教科書を学習し、講義後、復習する。(1時間)  |
| 12 | 血圧、消化酵素阻害と糖尿病     | レニン・アンジオテンシン系と血圧、消化酵素阻害と糖尿病について解説する。                             | 事前に教科書を学習し、講義後、復習する。(1時間)  |
| 13 | 酵素阻害、酵素活性機能       | 血圧が高めのヒトのための食品、血糖値が気になり始めた人に適した食品、肥満の人のための食品および酵素活性化について解説する。    | 事前に教科書を学習し、講義後、復習する。(1時間)  |
| 14 | 免疫系におよぼす機能        | 我が国における食物アレルギー患者の現状と、その発症機構および免疫機能を活性化する食品成分について解説する。            | 事前に教科書を学習し、講義後、復習する。(1時間)  |
| 15 | 神経系におよぼす機能        | カプサイシン、γ-アミノ酸、杜仲葉における有用成分、食品タンパク質から得られる鎮静効果のあるペプチドなどの機能について解説する。 | 事前に教科書を学習し、講義後、復習する。(1時間)  |

関連科目

| 教科書 | 番号 | 書籍名      | 著者名     | 出版社名 |
|-----|----|----------|---------|------|
|     | 1  | 改訂 食品機能学 | 青柳 康夫 編 | 建帛社  |
|     | 2  |          |         |      |
|     | 3  |          |         |      |

| 参考書 | 番号 | 書籍名            | 著者名          | 出版社名   |
|-----|----|----------------|--------------|--------|
|     | 1  | わかりやすい食品機能学第2版 | 森田英利・田辺創一 編著 | 東京化学同人 |
|     | 2  | 食べ物と健康 食品の科学   | 太田英昭 他       | 南江堂    |
|     | 3  |                |              |        |

評価方法 授業中の小テストと中間テストを30点、定期試験を70点とし、合計100点満点中、60点以上で合格。

|           |  |
|-----------|--|
| (基準)      |  |
| 学生へのメッセージ | 本講義により、日常的に頻繁に触れる食品、健康とのかかわりについての知識が得られます。<br>食品にまつわるニュースなどが理解でき、食品に関する蘊蓄を語れるようになり、自分の意見を持てるようになることが目標です。<br>1回目の講義で、授業の進め方や成績評価の方法について説明します。履修する場合は、必ず、出席してください |
| 担当者の研究室等  | 理工学部・生命科学科 1号館8階 大橋講師室   |
| 備考        | 授業時の出席管理（出席および欠席）は、大学の規則に従って行います。<br>毎回必ず出席してください。<br>事前事後学習には、毎回1時間以上かけてください（総時間の目安は30時間）。  |

|               |           |         |                              |
|---------------|-----------|---------|------------------------------|
| 科目名           | 人体の構造と機能  | 科目名(英文) | Human Anatomy and Physiology |
| 学部            | 外国語学部     | 学科      | 外国語学科                        |
| 配当年次          | 2年        | クラス     |                              |
| 単位数           | 2         | 履修区分    | 選択科目                         |
| 学期            | 前期        | 授業担当者   | 宇野 恭介                        |
| ディプロマポリシー(DP) | DP2◎      |         |                              |
| 科目ナンバリング      | LNA1412a2 |         |                              |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 我々は案外、自分のからだの中で行われている現象を知らない。この科目では、ヒトのからだは細胞からなること、細胞が集まり組織が、組織が集まり器官(臓器)が出来ていること、さらにヒトという個体は10の器官系からなることを学習する。また、その中を往来したり反応したりする分子のはたらき(機能)について取り上げ、からだの中で営まれている現象について学習する。併せて最近話題となっている関連トピックスについても解説したい。 |
| 到達目標        | 新聞・ニュース等にでてくるような、人体の構造や機能に関する用語を理解し、簡単に概略を説明できる。  |
| 授業方法と留意点    | ノート・講義方式。教科書およびビデオ教材を用い、ビジュアルを用いてイメージを膨らませながら学習できるように進める。ほとんど毎回前回の授業に関する小テストを実施するため、復習は必須となる。さらに、次回授業の予習をすると、理解度が増す。  |
| 科目学習の効果(資格) | 一般教養の充実。生物・医学関連に関する記事あるいは専門書を読む際の助けとなるような知識の向上をめざす。   |

| 回数 | 授業テーマ                 | 内容・方法等   | 事前・事後学習課題                   |
|----|-----------------------|--|-----------------------------|
|    |                       |  |                             |
| 1  | オリエンテーション             | 授業中のルール説明・試験方法についてアンケート・生物の基礎知識を問う   | 該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。   |
| 2  | 細胞・組織・器官・器官系          | ビデオ「動物の体」。ヒトは約60兆個の細胞から構成されている。細胞は組織を構成し、組織は器官を造る。生物における個体と細胞の関係を理解する。     | 該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと |
| 3  | 細胞説・・・細胞は生物の基本単位      | ビデオ「細胞説」。自然発生説から細胞説への転換。レディの実験とパスツールの実験を通して細胞の概念を理解する。                     | 該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと |
| 4  | 細胞膜                   | ビデオ高校生物「細胞膜」。細胞膜とシャボン玉の類似点と相違点。細胞膜は脂質で構成され、様々な物質を選択的に通過することができる。           | 該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと |
| 5  | 原形質と原形質流動             | ビデオ高校生物「細胞小器官」。細胞の内部に様々な小器官が存在することを理解する。植物の細胞質を観察し、「原形質」と「原形質流動」のイメージをつかむ。 | 該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと |
| 6  | 細胞小器官                 | ビデオ「細胞と組織」。細胞の核と細胞質の概念を理解するとともに細胞内のミトコンドリアを初めとする様々な細胞小器官の名前とその機能を覚える。      | 該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと |
| 7  | 胃の構造と機能               | ビデオ「人体-消化吸収の妙」。消化器系について基礎知識を身につける。   | 該当する項目について授業内容をもとに復習を行うこと   |
| 8  | 循環器系                  | 循環器系について基礎知識を身につける。  | 該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと |
| 9  | 循環器系                  | ビデオ高校生物「体液」。生物の循環器系についてのしぐみを理解する。  | 該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと |
| 10 | 循環器系                  | ビデオ「人体②しなやかなポンプ心臓・血管」。ヒトの心臓の構造と機能について理解する。                                 | 該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと |
| 11 | 肝臓の構造と機能              | ビデオ「人体-壮大な化学工場・肝臓」   | 該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと |
| 12 | 生殖器系・性周期・排卵・妊娠・出産のしぐみ | 男性と女性のそれぞれの生殖器系の基本的な器官とそのしぐみを覚える。  | 該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと |
| 13 | 生殖器系                  | ビデオ「人体①生命誕生・・・驚異の小宇宙」。生命の神秘とともに生殖器系のしぐみを理解する。                              | 該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと |
| 14 | 総括質問とプレゼンテーション        | すべての授業内容に関する質問について答えるとともに、難解だった部分を詳細に解説する。                                 | 該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。   |
| 15 | まとめと習熟度試験             | すべての授業範囲について総括試験を実施する。   | 該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。   |

|      |         |
|------|---------|
| 関連科目 | 自然科学 II |
|------|---------|

|     |    |       |          |      |
|-----|----|-------|----------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名   | 著者名      | 出版社名 |
|     | 1  | 新生物図表 | 浜島書店編集部  | 浜島書店 |
| 参考書 | 番号 | 書籍名   | 著者名      | 出版社名 |
|     | 1  | 機能形態学 | 櫻田忍・櫻田司編 | 南江堂  |

|          |                                    |
|----------|------------------------------------|
| 評価方法(基準) | 小テストを40%、臨時テストを40%および授業態度を20%で評価する |
|----------|------------------------------------|

|           |  |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 社会人としての一般教養の幅を広げる授業です。次週に小テストを実施するので十分に復習してください。 |
|-----------|--|

|          |                                |
|----------|--------------------------------|
| 担当者の研究室等 | 枚方学舎(薬学部)1号館3階 機能形態学研究室(宇野講師室) |
|----------|--------------------------------|

|    |   |
|----|---|
| 備考 | 講義前の予習(教科書を読む1時間×15回)、復習(ノートをまとめる、重要単語を暗記する1時間×15回) |
|----|---|

|               |           |         |            |
|---------------|-----------|---------|------------|
| 科目名           | 心理学       | 科目名(英文) | Psychology |
| 学部            | 外国語学部     | 学科      | 外国語学科      |
| 配当年次          | 2年        | クラス     |            |
| 単位数           | 2         | 履修区分    | 選択科目       |
| 学期            | 前期        | 授業担当者   | 吉田 佐治子     |
| ディプロマポリシー(DP) | DP2◎      |         |            |
| 科目ナンバリング      | LHU1404a2 |         |            |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 心理学のうち、特に「ことばとコミュニケーション」に関わる領域を中心に扱う。<br>私達はことばを用いて思考し、情報伝達を行う。その過程において、私達はどのようにしてことばを理解し、あるいは産出しているのか。また、他者とのやりとりの中では、ことばそのものの意味だけではなく、その状況に対する知識や判断、相手の意図の推測なども不可欠である。<br>本科目ではこのような話題について議論する。また、私達がどのようにしてこのようなことばを使えるようになったのかという観点から、こどもの言語獲得、第二言語修得についても考察する。 |
| 到達目標        | 言語心理学の基本的な考え方、基礎的な知識を得ることができる。そのことにより、日常生活の中で行われている言語活動やコミュニケーションについて、心理学的に説明し、考えることができるようになる。さらに、専攻言語の学習に活かすことができる。  |
| 授業方法と留意点    | 講義中心で行う。講義で用いる資料は、事前に moodle 上で配付するので、各自入手しておくこと。   |
| 科目学習の効果(資格) |   |

|      |    |           |                                    |                                 |
|------|----|-----------|------------------------------------|---------------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ     | 内容・方法等                             | 事前・事後学習課題                       |
|      | 1  | イントロダクション | 言語とは何か<br>言語の機能                    | 配付資料にもとづいた本時の復習<br>期末レポートの準備    |
|      | 2  | こどもの言語発達1 | ことばの獲得<br>発話の発達<br>ことばの発達を支えるもの    | 配付資料にもとづいた本時の予習と復習<br>期末レポートの準備 |
|      | 3  | こどもの言語発達2 | ことばの発達の個人差<br>ことばと思考<br>新しいことばの世界へ | 配付資料にもとづいた本時の予習と復習<br>期末レポートの準備 |
|      | 4  | 単語の理解1    | 単語の認知<br>心的辞書の構造                   | 配付資料にもとづいた本時の予習と復習<br>期末レポートの準備 |
|      | 5  | 単語の理解2    | 単語の処理<br>単語認識と身体<br>心的辞書と外的語彙      | 配付資料にもとづいた本時の予習と復習<br>期末レポートの準備 |
|      | 6  | 文の理解1     | 文の理解とは<br>意味表象の形成                  | 配付資料にもとづいた本時の予習と復習<br>期末レポートの準備 |
|      | 7  | 文の理解2     | 文理解の実験的研究                          | 配付資料にもとづいた本時の予習と復習<br>期末レポートの準備 |
|      | 8  | 文章理解1     | 文章理解とは<br>一貫性の確立<br>照応解決           | 配付資料にもとづいた本時の予習と復習<br>期末レポートの準備 |
|      | 9  | 文章理解2     | 文章理解における推論<br>文章理解と知識              | 配付資料にもとづいた本時の予習と復習<br>期末レポートの準備 |
|      | 10 | 文章産出      | 作文の過程<br>作文の意義<br>読みやすい文章とは        | 配付資料にもとづいた本時の予習と復習<br>期末レポートの準備 |
|      | 11 | 会話1       | 会話の成立<br>対人配慮                      | 配付資料にもとづいた本時の予習と復習<br>期末レポートの準備 |
|      | 12 | 会話2       | 攻撃、皮肉<br>誤解                        | 配付資料にもとづいた本時の予習と復習<br>期末レポートの準備 |
|      | 13 | 比喩の理解     | 比喩の理解と認知過程<br>比喩の機能                | 配付資料にもとづいた本時の予習と復習<br>期末レポートの準備 |
|      | 14 | 第二言語習得1   | 生活の中の学習                            | 配付資料にもとづいた本時の予習と復習<br>期末レポートの準備 |
|      | 15 | 第二言語修得2   | 学校などでの学習                           | 配付資料にもとづいた本時の予習と復習<br>期末レポートの準備 |

|      |  |
|------|--|
| 関連科目 |  |
|------|--|

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|          |                      |
|----------|----------------------|
| 評価方法(基準) | 授業内レポート50%、期末レポート50% |
|----------|----------------------|

|           |                                      |
|-----------|--------------------------------------|
| 学生へのメッセージ | ふだん何気なく使っていることばについて、少し意識的になってみてください。 |
|-----------|--------------------------------------|

|          |       |
|----------|-------|
| 担当者の研究室等 | 7号館3階 |
|----------|-------|

|    |   |
|----|---|
| 備考 | 授業内で moodle を使用します。利用できるようにしておいてください。<br>各授業のはじめに、前回の「授業内レポート」から抜粋して紹介します。<br>事前事後学習時間の目安は総計 60 時間。 |
|----|---|

|               |           |         |                               |
|---------------|-----------|---------|-------------------------------|
| 科目名           | 住まいとデザイン  | 科目名(英文) | Living Environment and Design |
| 学部            | 外国語学部     | 学科      | 外国語学科                         |
| 配当年次          | 1年        | クラス     | 1                             |
| 単位数           | 2         | 履修区分    | 選択科目                          |
| 学期            | 前期        | 授業担当者   | 北本 裕之                         |
| ディプロマポリシー(DP) | DP2◎      |         |                               |
| 科目ナンバリング      | LNA1410a2 |         |                               |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 古来より人間は自然の力をかりて暮らしてきており、そこには多くの知恵と工夫を見ることができる。この授業では、インテリア・住宅・建築・まちを対象として、住まい方・デザイン・環境などに関するさまざまな事例を紹介しながら、デザイン性に優れた心地の良い空間を創り出し、快適・安全に暮らすための工夫や知恵について説明する。<br>将来、住み手の立場として必要となる基礎知識を身につけることが目標である。 |
| 到達目標        | 将来、住み手の立場で、住宅を購入したり借りるようになった時、あるいは、住まいの維持管理・賢い住み方に必要な基礎知識を身につけ、その実践力を養うことができる。  |
| 授業方法と留意点    | パワーポイントや板書による講義を行う。   |
| 科目学習の効果(資格) | 身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。   |

| 回数 | 授業テーマ                   | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題                             |
|----|-------------------------|---|---------------------------------------|
|    |                         |   |                                       |
| 2  | 住まいの歴史                  | 住まいの歴史について、先史時代から奈良、平安貴族、武家、町人・百姓の住まい、近代の住まいまで、時系列的な住まいの流れを学ぶ。            | 講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。 |
| 3  | 現代の住まい                  | 終戦以後の住宅事情、住宅供給体制、新しい住様式等、現代の住まいについて学ぶ。                                    | 講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。 |
| 4  | 気候と暮らし                  | 日本の気候・風土(災害)と暮らし(住まいやライフスタイル)との関係について学ぶ。                                  | 講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。 |
| 5  | 住まいと環境(Ⅰ)               | 人の生理機能と取り巻く環境について学び、快適な住環境について考えていく。                                      | 講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。 |
| 6  | 住まいと環境(Ⅱ)               | 温熱、光、音、空気、都市環境について学び、良好な住環境を実現するための手法について考えていく。                           | 講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。 |
| 7  | 住まいの材料と構造               | 住まいの材料(土・石・木・コンクリート・鉄)とそれぞれの構造・工法について学ぶ。                                  | 講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。 |
| 8  | 住まいの安全                  | 日本において多発している自然災害(地震・風害・水害・雪害等)や火災、犯罪、日常生活事故について学ぶ。                        | 講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。 |
| 9  | 住まいの管理                  | 住まいの日常管理や定期的なメンテナンス、生活財の管理と収納、家計や住居費について学ぶ。                               | 講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。 |
| 10 | 集合住宅の管理                 | 集合住宅の形式、および、運営管理システムやメンテナンスと修繕計画、近隣生活問題について学ぶ。                            | 講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。 |
| 11 | 住まいづくりと住宅問題             | 住まいを取り巻く様々な住宅問題や公共的な住宅政策、ハウジングの方法について学ぶ。                                  | 講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。 |
| 12 | 快適な住まいの設計(Ⅰ)            | 住宅設計の法的基準や規定、住まいの敷地と住宅地の構成について学ぶ。また、人間工学的観点や近代住居計画等、様々な住居設計を考え方を学ぶ。       | 講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。 |
| 13 | 快適な住まいの設計(Ⅱ)            | インテリアと家具の設計、住宅内各室(寝室・子供室・老人室・居間・食事室・台所・便所・浴室・玄関)の設計要点について学ぶ。              | 講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。 |
| 14 | 設計図の見方、描き方<br>住まいのできるまで | 平面図・立面図・断面図等の一般図や構造図、設備図の見方、描き方を学ぶ。また、木造住宅の施工方法について学ぶ。                    | 講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。 |
| 15 | 住環境の評価と問題               | 街並み、景観、都市施設等の住環境や住み手から見た望ましい住環境について学ぶ。また、高齢化社会、情報化社会における住まいの問題点について考えていく。 | 講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。 |

|      |      |
|------|------|
| 関連科目 | 特になし |
|------|------|

|     |    |                          |       |      |
|-----|----|--------------------------|-------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名                      | 著者名   | 出版社名 |
|     | 1  | 私たちの住居学 サステナブル社会の住まいと暮らし | 中根 芳一 | オーム社 |
|     | 2  |                          |       |      |
|     | 3  |                          |       |      |
| 参考書 |    |                          |       |      |

|               | 番号  | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|---------------|---|-----|-----|------|
|               | 1   |     |     |      |
|               | 2   |     |     |      |
|               | 3   |     |     |      |
| 評価方法<br>(基準)  | 各講義ごとに講義メモの提出やレポート課題の作成が課せられる。または小テストが行われる場合もある (30%)。期末テストを行う (70%)。両者を合わせて総合的に評価を行う。  |     |     |      |
| 学生への<br>メッセージ | 自分の周りにある住宅や建物、街なみなどを興味を持って眺めて下さい。また、室内の家具や照明などにも目を向けてください。きっと新しい発見があることでしょう。  |     |     |      |
| 担当者の<br>研究室等  | 12号館7階岩田教授室<br>在室は不定期   |     |     |      |
| 備考            | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。<br>授業を妨げる行為(私語・許可なく途中退席する・テキストを持参しない・スマホや携帯の使用・居眠り等)は減点の対象とする。<br>授業中に課す授業メモは、毎回採点后、次週に返却する。レポート課題等と合わせて総合評価の30%を占めるので真摯に取り組むこと。 |     |     |      |

|               |           |         |                               |
|---------------|-----------|---------|-------------------------------|
| 科目名           | 住まいとデザイン  | 科目名(英文) | Living Environment and Design |
| 学部            | 外国語学部     | 学科      | 外国語学科                         |
| 配当年次          | 1年        | クラス     | 2                             |
| 単位数           | 2         | 履修区分    | 選択科目                          |
| 学期            | 前期        | 授業担当者   | 岩波 由佳                         |
| ディプロマポリシー(DP) | DP2◎      |         |                               |
| 科目ナンバリング      | LNA1410a2 |         |                               |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 住まいは人間の生活と深くかかわっている。原初は身の安全をはかる場所として、心の拠り所として作られ、さらには快適に過ごせる美しい空間を求めて発達してきた。また住まいの成立には自然環境の他に社会的背景や文化、風俗習慣なども関連する。<br>この講義では、住宅、建築、インテリア、都市について、形態やデザイン様式の移り変わりを様々な角度から、映像資料などを用いて学び、基礎的知識を習得する。そして様々な時代で求められたデザインを捉え、現代のよりよい住宅、住生活を創造する感性を身に着けることを目的とする。 |
| 到達目標        | 日常生活において、住まいやインテリアの選定などの際に、授業で学んだ内容や優れたデザインを参照して快適で豊かな生活空間を創造できる感覚を身に着ける。<br>日本文化の基本である住宅や建築についての知識を教養として身に着けることで、留学などの海外生活や国内での留学生との交流の際に、正しく自国の文化を論じる能力を培う。   |
| 授業方法と留意点    | 板書を中心にパワーポイントや映像資料を用いて講義を行う。プリントは適宜配布する。<br>毎回授業終了時に授業内容に関する質問感想を提出してもらう。<br>参考文献や関連書籍は授業で随時紹介する。   |
| 科目学習の効果(資格) | 住まい環境に関するデザインの知識と手法が身につく。   |

| 回数 | 授業テーマ  | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題                                     |
|----|--|---|---|
|    |  |   |   |
| 2  | 住まいの成り立ち 気候風土文化<br>白夜の過ごし方<br>～厳寒の森の国  | 日本と同様に木造の文化を持つが気候の厳しいフィンランドの住宅、住生活について学ぶ。                                   | 授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。<br>気になった単語やフレーズを調べてみる。 |
| 3  | 住まいの成り立ち 気候風土文化<br>月の砂漠<br>～乾燥とオアシスの国  | 湿潤な日本と対照的な乾燥地帯であるエジプトの住宅、住生活について学ぶ。   | 授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。<br>気になった単語やフレーズを調べてみる。 |
| 4  | 住まいの移り変わり・日本(1)<br>たてにあなを掘ると…<br>～洞窟を出て竪穴を                                     | 人類最古の住まいおよび日本での原始の住まいはどのようなものであったかを学ぶ。                                      | 授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。<br>気になった単語やフレーズを調べてみる。 |
| 5  | 住まいの移り変わり・日本(2)<br>貴族の優雅、武士の剛健<br>～寝殿造・書院造…                                    | 日本文化の基盤が形成された時期の住まいやしつらい、その後の展開を学ぶ。   | 授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。<br>気になった単語やフレーズを調べてみる。 |
| 6  | 住まいの移り変り・日本(3)<br>デザインの極みは何処に<br>～美をめぐる闘い 秀吉・利休・後水尾上皇                          | 爛熟期の文化の中での書院造の完成と成熟から洗練を加えてゆく過程を学ぶ。<br>現代の和風住宅につながる流れを学ぶ。                   | 授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。<br>気になった単語やフレーズを調べてみる。 |
| 7  | 住まいの移り変り・西洋(1)<br>全ての道はローマに通ず<br>～水道、見世物、大浴場                                   | ヨーロッパデザインの根幹である古代ローマについてデザインの特徴を学び、ローマ人の住生活を知る。                             | 授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。<br>気になった単語やフレーズを調べてみる。 |
| 8  | 住まいの移り変り・西洋(2)<br>教会と民衆と<br>～キリスト教世界の暮らし                                       | キリスト教を中心としたヨーロッパの住宅、住生活を知る。基本となるゴシック様式を中心に学ぶ。                               | 授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。<br>気になった単語やフレーズを調べてみる。 |
| 9  | 住まいの移り変り・西洋(3)<br>荘厳なる様式<br>～華麗なる宮廷生活へようこそ                                     | 人間中心となったヨーロッパの住宅、建築のデザインルネサンスからバロックを中心に学ぶ。<br>ヴェルサイユ宮殿案内を行う。                | 授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。<br>気になった単語やフレーズを調べてみる。 |
| 10 | 住まいの移り変り・世界(1)<br>あたらしい人と生活のデザイン<br>～鉄、ガラス、コンクリート<br>アーツ・アンド・クラフツ運動からアールヌーヴォーへ | 社会の変革により出てきた新しいデザイン運動であるイギリスのアーツアンドクラフツ運動、フランス・ベルギーのアールヌーヴォーについて学ぶ。         | 授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。<br>気になった単語やフレーズを調べてみる。 |
| 11 | 住まいの移り変り・西洋(2)<br>あたらしい人と生活のデザイン<br>～ゼセッション、グラスゴー派、モダニズム                       | ヨーロッパ各地で展開したデザイン運動であるウィーンのゼセッション、マッキントッシュによるグラスゴー派、スペインのガウディによるモダニズムについて学ぶ。 | 授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。<br>気になった単語やフレーズを調べてみる。 |
| 12 | 住まいの移り変り・世界(3)<br>あたらしい人と生活のデザイン<br>～普遍なるものへの旅<br>パウハウス、そして三大巨匠の時代へ            | 民衆のための合理的デザインの追求とモダニズムへ至る軌跡を学ぶ。そして三大巨匠とされるライト、ミース、コルビュジェの住宅デザインについて学ぶ。      | 授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。<br>気になった単語やフレーズを調べてみる。 |

|               | 13  | 住まいのデザインを構成するもの<br>光 採光・照明<br>～あたたかい光、クールな光        | 光の特徴や種類、扱い方を学び、効果的な照明による快適な空間を考える。     | 授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。気になった単語やフレーズを調べてみる。 |    |     |     |      |   |                       |            |     |   |                   |         |     |   |                               |                    |           |
|---------------|---|--|--|---|----|-----|-----|------|---|-----------------------|------------|-----|---|-------------------|---------|-----|---|-------------------------------|--------------------|-----------|
|               | 14  | 住まいのデザインを構成するもの<br>家具・ファブリックス<br>～くつろぐ、あつまる、ぼんやりする | 家具やファブリックス、アクセサリーの種類や効果的な使い方を事例を通して学ぶ。 | 授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。気になった単語やフレーズを調べてみる。 |    |     |     |      |   |                       |            |     |   |                   |         |     |   |                               |                    |           |
|               | 15  | 住宅をデザインする<br>わたしの住みたい住まい<br>～とにかくイメージ、そして描いてみよう    | 自分にとって快適な空間を考え、表現する。                   | 住宅、建築、インテリア雑誌などに目を通して自分の好みを考えておく。         |    |     |     |      |   |                       |            |     |   |                   |         |     |   |                               |                    |           |
| 関連科目          | 特になし  |  |  |   |    |     |     |      |   |                       |            |     |   |                   |         |     |   |                               |                    |           |
| 教科書           | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  |  |  |   | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |                       |            |     | 2 |                   |         |     | 3 |                               |                    |           |
| 番号            | 書籍名   | 著者名  | 出版社名                                   |   |    |     |     |      |   |                       |            |     |   |                   |         |     |   |                               |                    |           |
| 1             |   |  |  |   |    |     |     |      |   |                       |            |     |   |                   |         |     |   |                               |                    |           |
| 2             |   |  |  |   |    |     |     |      |   |                       |            |     |   |                   |         |     |   |                               |                    |           |
| 3             |   |  |  |   |    |     |     |      |   |                       |            |     |   |                   |         |     |   |                               |                    |           |
| 参考書           | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ロングセラー・デザイン 文房具から椅子まで</td> <td>コロナブックス編集部</td> <td>平凡社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>アパートメント 世界の夢の集合住宅</td> <td>上田実・平地勲</td> <td>平凡社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>FURNITURE DESIGN 20世紀の家具のデザイン</td> <td>ゼンバツハ&amp;ロイトホイザー&amp;ゲッセル</td> <td>タッセン・ジャパン</td> </tr> </tbody> </table> |  |  |   | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | ロングセラー・デザイン 文房具から椅子まで | コロナブックス編集部 | 平凡社 | 2 | アパートメント 世界の夢の集合住宅 | 上田実・平地勲 | 平凡社 | 3 | FURNITURE DESIGN 20世紀の家具のデザイン | ゼンバツハ&ロイトホイザー&ゲッセル | タッセン・ジャパン |
| 番号            | 書籍名   | 著者名  | 出版社名                                   |   |    |     |     |      |   |                       |            |     |   |                   |         |     |   |                               |                    |           |
| 1             | ロングセラー・デザイン 文房具から椅子まで   | コロナブックス編集部   | 平凡社                                    |   |    |     |     |      |   |                       |            |     |   |                   |         |     |   |                               |                    |           |
| 2             | アパートメント 世界の夢の集合住宅   | 上田実・平地勲  | 平凡社                                    |   |    |     |     |      |   |                       |            |     |   |                   |         |     |   |                               |                    |           |
| 3             | FURNITURE DESIGN 20世紀の家具のデザイン   | ゼンバツハ&ロイトホイザー&ゲッセル                                 | タッセン・ジャパン                              |   |    |     |     |      |   |                       |            |     |   |                   |         |     |   |                               |                    |           |
| 評価方法<br>(基準)  | 定期試験80%、提出物20%。<br>授業終了時の内容に対する質問、意見も加点の対象とする。  |  |  |   |    |     |     |      |   |                       |            |     |   |                   |         |     |   |                               |                    |           |
| 学生への<br>メッセージ | テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで目にする住宅、建築に関するニュースに興味をもって見てみる。ドラマや映画、音楽PVで使われている場所、漫画や小説に出てくる場所など空間に対しても注目する。また自宅や友人の家、カフェやショップなどで心地よさを感じたらそれはなぜかを考えてみる。   |  |  |   |    |     |     |      |   |                       |            |     |   |                   |         |     |   |                               |                    |           |
| 担当者の<br>研究室等  |   |  |  |   |    |     |     |      |   |                       |            |     |   |                   |         |     |   |                               |                    |           |
| 備考            | 授業内容に対する質問には授業時間後に非常勤講師室で対応可能。また個別にメールでの対応も可能。<br>事前事後の総学習時間の目安は60時間。   |  |  |   |    |     |     |      |   |                       |            |     |   |                   |         |     |   |                               |                    |           |



|                |  |          |                              |
|----------------|--|----------|------------------------------|
| 科目名            | 青少年育成ファシリテーター養成講座  | 科目名 (英文) | Facilitator Training Program |
| 学部             | 学部共通   | 学科       | 教養特別講義                       |
| 配当年次           | 2年   | クラス      |                              |
| 単位数            | 2  | 履修区分     | 選択科目                         |
| 学期             | 通年集中   | 授業担当者    | 浅野 英一                        |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎   |          |                              |
| 科目ナンバリング       | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2～IT01432a2, L科: LT01422a2～LT01426a2, D科・S科: IT01428a2～IT01432a2, P科: YT01423a2～YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2～WT01428a2, N科: NT01420a2～NT01424a2 |          |                              |

| 授業概要・目的            | 教養特別講義「青少年育成ファシリテーター養成講座」は、サービスマネジメントの授業であり、青少年育成活動のファシリテーターとして、知識・野外活動の方法を習得し実習を通して学びと成長を得ることができる実践型学習プログラム。実践は単なる擬似的体験ではなく、人々のために役立ったという現実的な体験を得ることを目的としている。   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|--------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標               | 到達目標として自己の振り返りと自己発見、責任感、価値観・技能や知識の獲得、リスクマネジメント、社会問題の理解を果たす体験を同時に得るものである。   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業方法と留意点           | 大学の授業後や、授業の無い日を利用して学外活動する。週に1度、90分の活動が基本となっているが、夏休み・冬休みなど長期の休み期間中に集中して活動することも可能。   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業テーマ・内容・事前・事後学習課題 | <p>活動場所は、寝屋川市、交野市役所、すさみ町役場、共学センター、南農園等の主催・共催事業。第1回目の事前授業は4月11日6時限目、1134教室で行う。</p> <p>-----</p> <p>事前教育①～⑨回分：</p> <p>①活動についての心構え、授業内容の徹底周知、ファシリテーターについて</p> <p>②守秘義務：活動に伴って知った情報を漏らしてはならない義務を学ぶ</p> <p>③安全管理スキル：活動に伴って発生しうる事故を未然に防ぐ方法を学ぶ</p> <p>④救命救護スキル：命の大切さ、命を助ける方法、AEDの使用法を学ぶ</p> <p>⑤安全対策スキル：安全、衛生管理、危険予知、責任について学ぶ</p> <p>⑥コミュニケーションスキルA：対象者理解、人とかかわり方を学ぶ</p> <p>⑦コミュニケーションスキルB：報告、連絡、相談（ホウ・レン・ソウ）の重要性を学ぶ</p> <p>⑧コミュニケーションスキルC：アイスブレイキング手法を学ぶ</p> <p>⑨コミュニケーションスキルD：指導者のあるべき姿、リーダーシップの取り方</p> <p>活動（90分×20回分）：<br/>受入機関において青少年育成ファシリテーター活動実践</p> <p>事後教育（90分）：<br/>青少年育成ファシリテーター活動実践のふりかえり</p> <p>-----</p> <p>履修上の注意：<br/>学外団体との連携と信頼関係構築が必要であることから、履修希望者は事前に授業担当者から、説明を受け、活動内容を確認し履修許可を受けた学生のみ履修可能となる。</p> <p>事前・事後学習課題：<br/>学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各1時間程度行う。</p> |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 関連科目               | ボランティア論  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 教科書                | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>   |     |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                 | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                  |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                  |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                  |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 参考書                | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>   |     |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                 | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                  |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                  |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                  |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 評価方法 (基準)          | ①参加日数、②実習報告書、③最終報告書、④受入機関からの調書、以上の4点を総合的に判断して評価する。   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 学生へのメッセージ          | 青少年育成活動を通して、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 担当者の研究室等           | 7号館5階（浅野研究室）   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 備考                 | 第1回目の事前授業は4月11日6時限目、1134教室で行う。   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |

|               |           |         |                      |
|---------------|-----------|---------|----------------------|
| 科目名           | 生物と環境     | 科目名(英文) | Life and Environment |
| 学部            | 外国語学部     | 学科      | 外国語学科                |
| 配当年次          | 3年        | クラス     |                      |
| 単位数           | 2         | 履修区分    | 選択科目                 |
| 学期            | 後期        | 授業担当者   | 手代木 功基               |
| ディプロマポリシー(DP) | DP2◎      |         |                      |
| 科目ナンバリング      | LNA1415a2 |         |                      |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 環境をめぐる諸問題は、ニュースでみない日はないほど私達にとって身近な話題となっています。しかし、みなさんは「環境」について本当に理解しているといえるでしょうか？環境を理解するためには、さまざまな知識や考え方が必要です。<br><br>本講義では、生物(ヒトも含む)と環境の関わりを学ぶことを通して、私達の身の回りにある環境・環境問題を正しく理解できるようになることを目指します。そして、これからの時代を生きる人類にとって避けて通れない環境問題の解決を模索していく上で必要になる考え方を身につけ、自身で情報を見わけることができるようになることを期待します。 |
| 到達目標        | 1. 生物と環境の関係について基礎知識を習得し、自ら説明することができる。<br>2. 環境問題や地域の環境の実態について、自分の意見を述べるができる。  |
| 授業方法と留意点    | プリントの配布および投影資料を利用した講義形式を基本とする。<br>理解を深めるため、映像資料やバーチャル地球儀等を利用する。また、講義中にグループワークやディスカッション、簡単な作業などを通して受講者の意見を求めることもある。  |
| 科目学習の効果(資格) | 環境問題への意識向上、情報リテラシーの向上   |

| 回数 | 授業テーマ          | 内容・方法等                            | 事前・事後学習課題  |
|----|----------------|-----------------------------------|--|
|    |                |                                   |  |
| 1  | イントロダクション      | 授業の進め方、テキスト、採点方法等について理解する         | 授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える |
| 2  | 地球環境史          | 人と環境の関わり方の歴史を知る                   | 授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える |
| 3  | 文明と環境 1        | 人と環境の関わり方の歴史を知る                   | 授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える |
| 4  | 文明と環境 2        | 人と環境の関わり方の歴史を知る                   | 授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える |
| 5  | 文明と環境 3        | 人と環境の関わり方の歴史を知る                   | 授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える |
| 6  | 食からみる環境 1      | 人と密接に関わる生物と環境について学ぶ               | 授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える |
| 7  | 食からみる環境 2      | 人と密接に関わる生物と環境について学ぶ               | 授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える |
| 8  | 食からみる環境 3      | 人と密接に関わる生物と環境について学ぶ               | 授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える |
| 9  | 食からみる環境 4      | 人と密接に関わる生物と環境について学ぶ               | 授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える |
| 10 | 生物と環境の多様な関係性 1 | さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する | 授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える |
| 11 | 生物と環境の多様な関係性 2 | さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する | 授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える |
| 12 | 生物と環境の多様な関係性 3 | さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する | 授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える |
| 13 | 生物と環境の多様な関係性 4 | さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する | 授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える |
| 14 | 生物と環境の多様な関係性 5 | さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する | 授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える |
| 15 | 全体の総括          | 授業のまとめ                            | 授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える |

| 関連科目 |  |     |     |      |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|------|--|-----|-----|------|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 教科書  | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号  | 書籍名 | 著者名  | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
|      | 番号   | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|      | 1  |     |     |      |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|      | 2  |     |     |      |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3    |  |     |     |      |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 参考書  | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>   | 番号  | 書籍名 | 著者名  | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  |   |  |  |  |
|      | 番号   | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|      | 1  |     |     |      |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2    |  |     |     |      |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |

|               |  |  |  |  |
|---------------|--|--|--|--|
|               | 3  |  |  |  |
| 評価方法<br>(基準)  | 授業への取り組み（リアクションペーパーの内容、小レポート、受講態度等）（50%）、期末レポート（50%）で評価します。                      |  |  |  |
| 学生への<br>メッセージ |  |  |  |  |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館5階  |  |  |  |
| 備考            | 事前・事後の学習は、全体で60時間を目安とします。<br>リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。 |  |  |  |

|               |       |         |                    |
|---------------|-------|---------|--------------------|
| 科目名           | 生命と物質 | 科目名(英文) | Life and Materials |
| 学部            | 外国語学部 | 学科      | 外国語学科              |
| 配当年次          | 2年    | クラス     |                    |
| 単位数           | 2     | 履修区分    | 選択科目               |
| 学期            | 前期    | 授業担当者   | 宇野 恭介              |
| ディプロマポリシー(DP) |       |         |                    |
| 科目ナンバリング      |       |         |                    |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | 我々は案外、自分のからだの中で行われている現象を知らない。この科目では、ヒトのからだだが細胞からなること、細胞が集まり組織が、組織が集まり器官(臓器)が出来ていること、さらにヒトという個体は10の器官系からなることを学習する。また、その中を往来したり反応したりする分子のはたらき(機能)について取り上げ、からだの中で営まれている現象について学習する。併せて最近話題となっている関連トピックスについても解説したい。 |
| 到達目標        | 新聞・ニュース等にてでてるような、人体の構造や機能に関する用語を理解し、簡単に概略を説明できる。   |
| 授業方法と留意点    | ノート・講義方式。教科書およびビデオ教材を用い、ビジュアルを用いてイメージを膨らませながら学習できるように進める。ほとんど毎回前回の授業に関する小テストを実施するため、復習は必須となる。さらに、次回授業の予習をすると、理解度が増す。   |
| 科目学習の効果(資格) | 一般教養の充実。生物・医学関連に関する記事あるいは専門書を読む際の助けとなるような知識の向上をめざす。  |

教養科目

| 回数 | 授業テーマ                 | 内容・方法等   | 事前・事後学習課題                   |
|----|-----------------------|--|-----------------------------|
|    |                       |  |                             |
| 1  | オリエンテーション             | 授業中のルール説明・試験方法についてアンケート・生物の基礎知識を問う   | 該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。   |
| 2  | 細胞・組織・器官・器官系          | ビデオ「動物の体」。ヒトは約60兆個の細胞から構成されている。細胞は組織を構成し、組織は器官を造る。生物における個体と細胞の関係を理解する。     | 該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと |
| 3  | 細胞説・・・細胞は生物の基本単位      | ビデオ「細胞説」。自然発生説から細胞説への転換。レディの実験とパスツールの実験を通して細胞の概念を理解する。                     | 該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと |
| 4  | 細胞膜                   | ビデオ高校生物「細胞膜」。細胞膜とシャボン玉の類似点と相違点。細胞膜は脂質で構成され、様々な物質を選択的に通過することができる。           | 該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと |
| 5  | 原形質と原形質流動             | ビデオ高校生物「細胞小器官」。細胞の内部に様々な小器官が存在することを理解する。植物の細胞質を観察し、「原形質」と「原形質流動」のイメージをつかむ。 | 該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと |
| 6  | 細胞小器官                 | ビデオ「細胞と組織」。細胞の核と細胞質の概念を理解するとともに細胞内のミトコンドリアを初めとする様々な細胞小器官の名前とその機能を覚える。      | 該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと |
| 7  | 胃の構造と機能               | ビデオ「人体-消化吸収の妙」。消化器系について基礎知識を身につける。   | 該当する項目について授業内容をもとに復習を行うこと   |
| 8  | 循環器系                  | 循環器系について基礎知識を身につける。  | 該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと |
| 9  | 循環器系                  | ビデオ高校生物「体液」。生物の循環器系についてのしぐみを理解する。  | 該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと |
| 10 | 循環器系                  | ビデオ「人体②しなやかなポンプ心臓・血管」。ヒトの心臓の構造と機能について理解する。                                 | 該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと |
| 11 | 肝臓の構造と機能              | ビデオ「人体-壮大な化学工場・肝臓」   | 該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと |
| 12 | 生殖器官・性周期・排卵・妊娠・出産のしぐみ | 男性と女性のそれぞれの生殖器官の基本的な器官とそのしぐみを覚える。  | 該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと |
| 13 | 生殖器官                  | ビデオ「人体①生命誕生・・・驚異の小宇宙」。生命の神秘とともに生殖器官のしぐみを理解する。                              | 該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと |
| 14 | 総括質問とプレゼンテーション        | すべての授業内容に関する質問について答えるとともに、難解だった部分を詳細に解説する。                                 | 該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。   |
| 15 | まとめと習熟度試験             | すべての授業範囲について総括試験を実施する。   | 該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。   |

|      |         |
|------|---------|
| 関連科目 | 自然科学 II |
|------|---------|

|     |    |       |         |      |
|-----|----|-------|---------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名   | 著者名     | 出版社名 |
|     | 1  | 新生物図表 | 浜島書店編集部 | 浜島書店 |

|     |    |       |          |      |
|-----|----|-------|----------|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名   | 著者名      | 出版社名 |
|     | 1  | 機能形態学 | 櫻田忍・櫻田司編 | 南江堂  |

|          |                                    |
|----------|------------------------------------|
| 評価方法(基準) | 小テストを40%、臨時テストを40%および授業態度を20%で評価する |
|----------|------------------------------------|

|           |  |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 社会人としての一般教養の幅を広げる授業です。次週に小テストを実施するので十分に復習してください。<br>講義担当者<宇野恭介>は、薬剤師免許を有し臨床及び薬事行政の一端携わった経験がある。また、国立大学及び欧州研究機関において薬学の基礎研究に従事してきた。これらの経験から基礎生物から臨床薬理学に渡る広い視野で生理学及び解剖学の教授を行う。 |
|-----------|--|

|          |                                |
|----------|--------------------------------|
| 担当者の研究室等 | 枚方学舎(薬学部)1号館3階 機能形態学研究室(宇野講師室) |
|----------|--------------------------------|

|    |   |
|----|---|
| 備考 | 講義前の予習(教科書を読む1時間×15回)、復習(ノートをまとめる、重要単語を暗記する1時間×15回) |
|----|---|

|               |  |         |                           |
|---------------|--|---------|---------------------------|
| 科目名           | 世界遺産論  | 科目名(英文) | Rethinking World Heritage |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 教養特別講義                    |
| 配当年次          | 1年   | クラス     |                           |
| 単位数           | 2  | 履修区分    | 選択科目                      |
| 学期            | 前期   | 授業担当者   | 北條 ゆかり                    |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, N科: DP1◎  |         |                           |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 |         |                           |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | ユネスコの「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」(1972年採択、1975年発効)に謳われる理念に基づき、世界には人類と地球にとってかけがえのない価値をもつ記念建造物や遺跡、自然環境、伝統文化などを人類共通の財産として守るための「世界遺産」がある。その理念と具体的な世界遺産に関する学びを通じて、宗教・文化の多様性、地理、芸術・建築などを深く知る知識編(前半7回)と、それぞれ異なるアプローチと研究対象地域の観点から前半の学びをさらに掘り下げて考える考察編から構成する。後半では、地域に根付く人々の暮らしや信仰を遺産化する意義、自然保護と環境保全、人類の負の歴史、行き過ぎた観光地化がもたらす問題などについて考える。 |
| 到達目標        | 世界遺産を通し、グローバル社会において活躍するための知識や教養を身につけるとともに、世界の動きに対する関心を深め、批判の目と自分の意見を持つようになる。  |
| 授業方法と留意点    | 前半7回で世界各地の「世界遺産」について講師の体験に基づく解説を通じて知識を培い、後半は4名の教員が2回ずつ、具体的な世界遺産を窓口としてその歴史をわかりやすく説き起こし、現代世界に占める意味を問題提起する。  |
| 科目学習の効果(資格) | 世界遺産検定3級<br>旅行・観光業、ホテル業等への就職に役立つ。   |

| 回数 | 授業テーマ                                    | 内容・方法等   | 事前・事後学習課題   |
|----|--|--|---|
|    |  |  |   |
| 1  | イントロダクション                                | 世界遺産を「学ぶ」意義はなにか。ユネスコの理念と世界遺産理念誕生の背景について関る。                                       | 「世界遺産」の種類(自然、文化、複合)について理解しておく。                      |
| 2  | 世界遺産誕生までの流れ                              | 世界遺産条約誕生の背景と登録後の流れを知る。   | 前回のユネスコの理念を復習し、世界遺産条約について調べておく。                     |
| 3  | 登録基準                                     | 世界遺産がもつ「顕著な普遍的価値」と登録基準について学ぶ。  | 京都と奈良の世界遺産について調べ、違いについて考えておく。                       |
| 4  | 日本の産業遺産                                  | 日本で登録されている石見、富岡、明治日本の産業革命遺産について学ぶ。   | 日本の近代化について調べておく。                                    |
| 5  | 世界で最初の世界遺産                               | 1978年に登録された世界で最初の世界遺産12件について学ぶ。  | 世界で最初に登録された遺産の保有国について調べておく。                         |
| 6  | 文化的景観                                    | 文化遺産と自然遺産の接点を登録する文化的景観について学ぶ。  | 日本で登録されている文化的景観の世界遺産について調べておく。                      |
| 7  | 中間テスト<br>シリアル・ノミネーションと<br>トランスバウンダリー・サイト | 第6回までの理解度確認を行った後、登録の多様性を目指すシリアル・ノミネーションとトランスバウンダリー・サイトについて学ぶ。                    | 第2回目で扱ったグローバル・ストラテジーを含め、第6回までに学んだことを復習しておく。         |
| 8  | 日本の文化遺産1                                 | 平泉の遺産、長崎の教会群とキリスト教関連遺産などを事例に日本における信仰の多様性について考える。                                 | 日本におけるキリスト教伝来およびその展開について書籍やwebで調べておく。               |
| 9  | 日本の文化遺産2                                 | 白川郷・五箇山の合掌造り集落を事例に人びとの生業や暮らしが遺産化されることについて考える。                                    | 白川郷、五箇山について書籍やwebで調べておく。                            |
| 10 | 自然遺産の重要性と課題1                             | 世界自然遺産とその背景にある自然保護・環境保全について、特に日本に存在する自然遺産や複合遺産を事例として考察する。                        | 日本における自然遺産の分布や歴史的な背景について書籍やwebで調べておく。               |
| 11 | 自然遺産の重要性と課題2                             | 世界自然遺産とその背景にある自然保護・環境保全について、特にアフリカのケニア山やキリマンジャロ山、セレンゲティ・ンゴロンゴロなどの自然遺産を事例として考察する。 | アフリカの自然遺産の実態や問題点について書籍やwebで調べておく。                   |
| 12 | 負の世界遺産1                                  | アウシュヴィッツ=ヴィルケナウ強制絶滅収容所を例に、「負の世界遺産」の意義と問題点について考える。                                | ア第二次世界大戦中にアウシュヴィッツ=ヴィルケナウ強制絶滅収容所がどのように用いられたのか調べておく。 |
| 13 | 負の世界遺産2                                  | 海商都市リヴァプールを例に、奴隷貿易という負の歴史が世界遺産を通してどのように伝えられているか考える。                              | リヴァプールと奴隷貿易の関係について調べておく。                            |
| 14 | 文明の衝突の記憶1                                | スペイン・コルドバのメスキータ大聖堂を例に、イスラム文明がカトリック圏のイベリア半島に与えた影響と異教徒間の共存について考える。                 | イベリア半島の歴史と世界遺産について調べておく。                            |
| 15 | 文明の衝突の記憶2                                | ラテンアメリカの古代先住民文明の遺跡を例に、インディヘニスマ(先住民擁護)の歴史と先住民統合政策、観光開発とオーバー・ツーリズムがもたらす問題について考える。  | 中米のマヤ文明、アンデスのインカ文明について調べておく。                        |

関連科目 エリアスタディーズ、多文化共生論、エコツーリズム論

| 教科書 | 番号 | 書籍名                              | 著者名       | 出版社名   |
|-----|----|----------------------------------|-----------|--------|
|     | 1  | きほんを学ぶ世界遺産100<第2版>世界遺産検定3級公式テキスト | 世界遺産検定事務局 | マイナビ出版 |
| 2   |    |                                  |           |        |
| 3   |    |                                  |           |        |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
|     |    |     |     |      |

|               |   |  |  |  |
|---------------|---|--|--|--|
|               | 1   |  |  |  |
|               | 2   |  |  |  |
|               | 3   |  |  |  |
| 評価方法<br>(基準)  | 第7回目までの学習に関する中間テスト(40%)、後半8回で取り上げられた個別の世界遺産に基づくテーマのうち、最も関心を抱いたことに関するレポート(40%)、毎回の質問・コメント票(20%)によって総合的に評価する。 |  |  |  |
| 学生への<br>メッセージ |   |  |  |  |
| 担当者の<br>研究室等  | 講師控室(7号館2階)、赤澤研究室(7号館4階)、手代木研究室(7号館5階)、林田研究室(7号館4階)、北條研究室(7号館5階)  |  |  |  |
| 備考            | 事前・事後学習に要する総時間数は約60時間。<br>第7回目を行う中間テストに関するフィードバックは第8回目を行う。  |  |  |  |

|               |           |         |                |
|---------------|-----------|---------|----------------|
| 科目名           | 世界の政治     | 科目名(英文) | World Politics |
| 学部            | 外国語学部     | 学科      | 外国語学科          |
| 配当年次          | 2年        | クラス     |                |
| 単位数           | 2         | 履修区分    | 選択科目           |
| 学期            | 前期        | 授業担当者   | 田中 悟           |
| ディプロマポリシー(DP) | DP2◎      |         |                |
| 科目ナンバリング      | LS01408a2 |         |                |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 本講義は、比較政治学の基礎的な議論に触れるとともに、グローバル化した現代世界における政治制度の問題に注目するものである。  |
| 到達目標        | 比較政治学の基本的な考え方や方法論に親しむことで、それらの観点からなされる「世界の政治」に関する諸議論の意味するところを理解した上で、自らの思考を組み立てることができるようになること。<br>本講義を、自らが暮らす現代社会の諸問題を比較政治の視点から受講者自身が考えていくための一つのきっかけ、手がかりとすることが目指される。 |
| 授業方法と留意点    | 原則として講義形式をとり、教科書の内容に即したレジュメを配布する。<br>基本的には教科書の章立てに沿って各回完結方式で進めていく予定であるが、その内容や進行状況等によって多少の調整がありうる。   |
| 科目学習の効果(資格) | 現代社会をめぐる社会科学的な議論についての基礎的な理解力  |

| 回数 | 授業テーマ            | 内容・方法等                           | 事前・事後学習課題   |
|----|------------------|----------------------------------|---|
|    |                  |                                  |   |
| 1  | イントロダクション        | 講義の進め方およびテキストについて導入を行なう。         | テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと  |
| 2  | 社会科学の方法(1)       | 第1章 比較政治学とは何か                    | [事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分)<br>[事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分) |
| 3  | 社会科学の方法(2)       | 第1章 比較政治学とは何か<br>第2章 制度論         | [事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分)<br>[事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分) |
| 4  | 社会科学の方法(3)       | 第2章 制度論                          | [事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分)<br>[事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分) |
| 5  | 政治制度(1)          | 第3章 選挙制度                         | [事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分)<br>[事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分) |
| 6  | 政治制度(2)          | 第4章 執政制度                         | [事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分)<br>[事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分) |
| 7  | 政治制度(3)          | 第5章 政党制度                         | [事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分)<br>[事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分) |
| 8  | 政治制度(4)          | 第6章 議会制度                         | [事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分)<br>[事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分) |
| 9  | 政治制度(5)          | 第7章 官僚制                          | [事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分)<br>[事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分) |
| 10 | 政治制度(6)          | 第8章 司法制度                         | [事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分)<br>[事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分) |
| 11 | 政治制度(7)          | 第9章 中央銀行制度                       | [事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分)<br>[事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分) |
| 12 | 政治制度(8)          | 第10章 中央・地方関係制度                   | [事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分)<br>[事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分) |
| 13 | 日本の政治制度(1)       | 第3章 選挙制度<br>第4章 執政制度<br>第5章 政党制度 | [事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分)<br>[事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分) |
| 14 | 日本の政治制度(2)       | 第6章 議会制度<br>第7章 官僚制<br>第8章 司法制度  | [事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分)<br>[事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分) |
| 15 | 日本の政治制度(3)まとめと補遺 | 第9章 中央銀行制度<br>第10章 中央・地方関係制度     | [事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分)<br>[事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分) |

授業計画

関連科目

教科書

教養科目

|               |                                       |         |        |      |
|---------------|---------------------------------------|---------|--------|------|
|               | 番号                                    | 書籍名     | 著者名    | 出版社名 |
|               | 1                                     | 比較政治制度論 | 建林正彦ほか | 有斐閣  |
|               | 2                                     |         |        |      |
|               | 3                                     |         |        |      |
| 参考書           | 番号                                    | 書籍名     | 著者名    | 出版社名 |
|               | 1                                     |         |        |      |
|               | 2                                     |         |        |      |
|               | 3                                     |         |        |      |
| 評価方法<br>(基準)  | ■定期試験 100%                            |         |        |      |
| 学生への<br>メッセージ | 教科書は定期試験でも使用する。受講者は必ず購入すること。          |         |        |      |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館4階 田中研究室                           |         |        |      |
| 備考            | 授業のスケジュールについては、出席者の状況に応じて調整される可能性がある。 |         |        |      |



|               |  |         |                                  |
|---------------|--|---------|----------------------------------|
| 科目名           | 摂南大学PBLプロジェクトI   | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning I |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 地域志向系                            |
| 配当年次          | 2年   | クラス     |                                  |
| 単位数           | 2  | 履修区分    | 選択科目                             |
| 学期            | 通年集中   | 授業担当者   | 居場 嘉教, 木村 朋紀, 船越 英資              |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ |         |                                  |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2                                    |         |                                  |

| 授業概要・目的               | <p>〈摂大ブランド商品の開発・販売プロジェクト〉</p> <p>様々な大学でオリジナル商品が作られており、多種多様なものがある。これまでに摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を模索し、いくつかの商品を企画した(サツマイモとみかんピールのお酒、焦げがとれやすいBBQ網、シソとミカンの入浴剤など)。本プロジェクトでは、これまでに企画した商品について具体的な商品開発を行い、販売を目指す。</p>   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|-----------------------|---|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標                  | <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p>   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業方法と留意点              | <p>3人の教員が担当する。<br/>少人数で活動を行うため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。</p>  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>実施手順は以下のとおりである。</p> <p>〈開発プロジェクト〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 連携企業を決める。試作品の作製および改良を行う。</li> <li>2. 必要な資金を確保し、具体的な製品案を決定する。</li> <li>3. 商品を委託製造する。</li> <li>4. 広報活動を行う。</li> </ol> <p>〈販売プロジェクト〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 価格設定</li> <li>2. 販売ルートの確保</li> <li>3. 販売管理</li> </ol> <p>週1回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。</p> |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 関連科目                  | 教養系・科学技術系科目   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 教科書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  |     |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名   | 著者名 | 出版社名 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 参考書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  |     |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名   | 著者名 | 出版社名 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 評価方法(基準)              | 活動状況、取り組み姿勢および活動成果を総合的に評価する。  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 学生へのメッセージ             | 摂大ブランド商品の販売を目指して、頑張りましょう。   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 担当者の研究室等              | 居場講師室(1号館9階)、木村准教授室(1号館8階)、船越准教授室(1号館9階)  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 備考                    | 新聞を読んで、大学のブランド商品に関連した情報を集めるなど、自主学習に努めましょう。  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |

|                |  |          |                                  |
|----------------|--|----------|----------------------------------|
| 科目名            | 摂南大学PBLプロジェクト I  | 科目名 (英文) | Project/Problem Based Learning I |
| 学部             | 学部共通   | 学科       | 地域志向系                            |
| 配当年次           | 2年   | クラス      |                                  |
| 単位数            | 2  | 履修区分     | 選択科目                             |
| 学期             | 通年集中   | 授業担当者    | 橋本 正治                            |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ |          |                                  |
| 科目ナンバリング       | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2                                    |          |                                  |

教養科目

| 授業概要・目的               | 過疎地域におけるグリーンエネルギー活用プロジェクト<br>これまで、過疎地域（和歌山県すさみ町）の住民・行政に提案し、グリーンエネルギーを利用した過疎地域自立活性化に利用出来る設備などを製作してきた。本年度はこれまでの活動で得た成果をもとに廃屋を改修し災害時にも対応できる休憩施設を設計、製作する。また、当地で夏に開催される柱まつりにおいて、観望会を開催する。観望会ではこれまでのプロジェクトで製作してきた天体望遠鏡を用いる。   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|-----------------------|---|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標                  | 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。<br>1. チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。<br>2. 問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。<br>3. ものつくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。  |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業方法と留意点              | 年数回すさみ町で作業します。(2泊3日を3-4回、7泊8日夏休み中に1回)<br>それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | 3年計画の3年目のプロジェクトです。はじめに大きな目標からはずれないように目的を設定します。(受講生が提案して目的を定めることから始めます)<br>4月 テーマの情報教共有（昨年度までの成果の説明）と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定。大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。<br>大型装置・設備については現地で加工組み立てできるよう練習する。<br>5月 現地で加工、施工、組み立て開始 不具合の調査<br>6、7月 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う<br>8月 現地で加工、施工、組み立て<br>9月 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う<br>10-1月 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う<br>2、3月 現地で加工、施工、組み立て<br>現地で加工、施工、組み立て<br><br>事前事後課題は、週1回行う活動に対応して次回までに実施しないといけないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 関連科目                  | テクニカルデザイン演習   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 教科書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  | 番号  | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名   | 著者名 | 出版社名 |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 参考書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  | 番号  | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名   | 著者名 | 出版社名 |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 評価方法 (基準)             | 通常(週1回の)活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。  |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 学生へのメッセージ             | 「古民家再生」では建物のビフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。機械工学科の学生が多いのですが、これまで建築学科、住環境デザイン学科、環境環境工学科、外国語学部の参加メンバーもいました。浅野教授担当のPBL授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものつくりを通じた地域活性とも言える活動です。  |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 担当者の研究室等              | 8号館1階テクノセンター、1号館5階メカトロニクス研究室で活動します。   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 備考                    | 週1階のミーティングの事前準備としての学習時間が週あたり1時間程度必要となります。   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |

|               |  |         |                                   |
|---------------|--|---------|-----------------------------------|
| 科目名           | 摂南大学PBLプロジェクトI   | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning I  |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 地域志向系                             |
| 配当年次          | 2年   | クラス     |                                   |
| 単位数           | 2  | 履修区分    | 選択科目                              |
| 学期            | 通年集中   | 授業担当者   | 石田 秀士, 小田 靖久, 栗田 寿基, 下元 一輝, 釣本 聖司 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ |         |                                   |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2                                    |         |                                   |

| 授業概要・目的               | ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔3.5インチ、5インチの鉄道模型を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。<br>蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場などで運転会・展示会を催す。また、運転会・展示会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。  |                     |         |    |     |     |      |   |             |                     |         |   |                                     |      |         |   |  |  |  |
|-----------------------|--|---------------------|---------|----|-----|-----|------|---|-------------|---------------------|---------|---|-------------------------------------|------|---------|---|--|--|--|
| 到達目標                  | 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。<br><br>蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。<br><br>イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。  |                     |         |    |     |     |      |   |             |                     |         |   |                                     |      |         |   |  |  |  |
| 授業方法と留意点              | 週1回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。<br>履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。<br>この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。<br>与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。   |                     |         |    |     |     |      |   |             |                     |         |   |                                     |      |         |   |  |  |  |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | 本年度はレール間隔3.5インチ、5インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。<br><br>1. プロジェクトの開始に先立って、社会人基礎力、目標管理、工程管理、プロジェクト管理について、メンバーで調査・討議する。<br>2. 教員の指導の下に目標と計画を作成する。<br>3. 計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設等を製作する。<br>4. 計画からの遅れには対策を講じる。<br>5. 製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。<br>6. 運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。<br>7. 計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。<br><br>なお、自主学習として自分の役割に応じ、マネジメント(参考書欄参照)、蒸気機関、機械工作手法、電気回路等々を継続して学ぶことが必要となる。 |                     |         |    |     |     |      |   |             |                     |         |   |                                     |      |         |   |  |  |  |
| 関連科目                  | 教養系・科学技術系科目  |                     |         |    |     |     |      |   |             |                     |         |   |                                     |      |         |   |  |  |  |
| 教科書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>   |                     |         | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |             |                     |         | 2 |                                     |      |         | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名  | 著者名                 | 出版社名    |    |     |     |      |   |             |                     |         |   |                                     |      |         |   |  |  |  |
| 1                     |  |                     |         |    |     |     |      |   |             |                     |         |   |                                     |      |         |   |  |  |  |
| 2                     |  |                     |         |    |     |     |      |   |             |                     |         |   |                                     |      |         |   |  |  |  |
| 3                     |  |                     |         |    |     |     |      |   |             |                     |         |   |                                     |      |         |   |  |  |  |
| 参考書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マネジメント基本と原則</td> <td>P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら</td> <td>岩崎夏海</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  |                     |         | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | マネジメント基本と原則 | P.F. ドラッカー (上田惇生編訳) | ダイヤモンド社 | 2 | もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら | 岩崎夏海 | ダイヤモンド社 | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名  | 著者名                 | 出版社名    |    |     |     |      |   |             |                     |         |   |                                     |      |         |   |  |  |  |
| 1                     | マネジメント基本と原則  | P.F. ドラッカー (上田惇生編訳) | ダイヤモンド社 |    |     |     |      |   |             |                     |         |   |                                     |      |         |   |  |  |  |
| 2                     | もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら  | 岩崎夏海                | ダイヤモンド社 |    |     |     |      |   |             |                     |         |   |                                     |      |         |   |  |  |  |
| 3                     |  |                     |         |    |     |     |      |   |             |                     |         |   |                                     |      |         |   |  |  |  |
| 評価方法(基準)              | 汎用的能力(40%)、主体性・柔軟性・課題発見解決(30%)、貢献度(30%)について、ミーティングでの報告、イベントや作業時の態度で評価する。   |                     |         |    |     |     |      |   |             |                     |         |   |                                     |      |         |   |  |  |  |
| 学生へのメッセージ             | 与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。   |                     |         |    |     |     |      |   |             |                     |         |   |                                     |      |         |   |  |  |  |
| 担当者の研究室等              | 1号館3階 石田准教授室<br>8号館1階 テクノセンター  |                     |         |    |     |     |      |   |             |                     |         |   |                                     |      |         |   |  |  |  |
| 備考                    |  |                     |         |    |     |     |      |   |             |                     |         |   |                                     |      |         |   |  |  |  |

|                |  |          |                                  |
|----------------|--|----------|----------------------------------|
| 科目名            | 摂南大学PBLプロジェクト I  | 科目名 (英文) | Project/Problem Based Learning I |
| 学部             | 学部共通   | 学科       | 地域志向系                            |
| 配当年次           | 2年   | クラス      |                                  |
| 単位数            | 2  | 履修区分     | 選択科目                             |
| 学期             | 通年集中   | 授業担当者    | 石田 裕子                            |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ |          |                                  |
| 科目ナンバリング       | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2                                    |          |                                  |

教養科目

| 授業概要・目的               | <p>概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。</p> <p>目的：池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標                  | <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何が問題であるかを認識し、それに対してチームで解決する素養を身に付けることができる。</li> <li>・多様な人の意見を聞いて理解し、自分の意見を述べるができる。</li> <li>・世界や日本で起きている環境問題や流域の課題について、正しい知識を身に付けることができる。</li> </ul>   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業方法と留意点              | <p>連携内容・方法：池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p>  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援</li> <li>2. 巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施</li> <li>3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践</li> <li>4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践</li> <li>5. 天然アユ復活プロジェクトの学習</li> <li>6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表</li> </ol> <p>方法：授業のうち半分（月1回）は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、主として学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分（月1回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト（6月）、近畿水環境交流会（7月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p> |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 関連科目                  | <p>自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C科）<br/>科学技術教養 C1・C2</p>   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 教科書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>   |     |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 参考書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>   |     |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 評価方法（基準）              | <p>授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。（60%）<br/>水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。（40%）</p>  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 学生へのメッセージ             | <p>子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げててください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。</p>   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 担当者の研究室等              | <p>1号館3階 石田准教授室</p>  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 備考                    | <p>自主学习時間として、総時間数30時間以上取り組むこと。</p>   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |

|                |  |          |                                  |
|----------------|--|----------|----------------------------------|
| 科目名            | 摂南大学PBLプロジェクト I  | 科目名 (英文) | Project/Problem Based Learning I |
| 学部             | 学部共通   | 学科       | 地域志向系                            |
| 配当年次           | 2年   | クラス      |                                  |
| 単位数            | 2  | 履修区分     | 選択科目                             |
| 学期             | 通年集中   | 授業担当者    | 浅野 英一                            |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ |          |                                  |
| 科目ナンバリング       | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2                                    |          |                                  |

| 授業概要・目的               | <p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力（資源）を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査：地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。<br/>                 ②企画：具体案を立て、評価（実現可能性、コスト、実施期間、有効性）を行い、詳細な実施計画を立てる。<br/>                 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。<br/>                 ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う<br/>                 ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|-----------------------|---|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標                  | 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。  |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業方法と留意点              | プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点（廃校になった小学校の校舎）を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化（社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など）を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン饗祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港（大学）を出港（出発）して、遠洋（すさみ町）で漁業（活動）するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実に体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p> <p>社会人基礎力の、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）から構成を自主学习として、調べておくこと。</p> |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 関連科目                  | ボランティア論   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 教科書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  | 番号  | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名   | 著者名 | 出版社名 |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 参考書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  | 番号  | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名   | 著者名 | 出版社名 |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 評価方法（基準）              | 参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 学生へのメッセージ             | 仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要がある。   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 担当者の研究室等              | 7号館5階 浅野研究室   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 備考                    | 履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |

|                |  |          |                                  |
|----------------|--|----------|----------------------------------|
| 科目名            | 摂南大学PBLプロジェクト I  | 科目名 (英文) | Project/Problem Based Learning I |
| 学部             | 学部共通   | 学科       | 地域志向系                            |
| 配当年次           | 2年   | クラス      |                                  |
| 単位数            | 2  | 履修区分     | 選択科目                             |
| 学期             | 通年集中   | 授業担当者    | 久保 貞也, 針尾 大嗣                     |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ |          |                                  |
| 科目ナンバリング       | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2                                    |          |                                  |

| 授業概要・目的               | 地域を便利にするアプリ開発<br>学生が最新のデータベース技術とアプリケーション構築（携帯アプリ）の技能を身に付ける。そして、大学近隣の市町村に学生が市民への情報提供の課題を聞き取り、身に付けた情報技術を活かして自治体が公開しているオープンデータを利用したアプリケーションを開発し、その成果を検証する。   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|-----------------------|---|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が最近のIT動向を理解している</li> <li>・学生が一般ユーザー向けのITについてその仕組みを説明できる</li> <li>・学生が初めて触れた技術を修得するための持続的な学習を行える</li> <li>・学生自身が技術的な問題解決のために自学自習できる</li> <li>・学生が地域の課題を知るためにインタビュー調査票を作成できる</li> <li>・地域が抱える問題に対して情報技術の特性を活かした提案ができる</li> </ul>  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業方法と留意点              | データベースに関する勉強会（土曜日開催）<br>ヒアリング調査<br>開発合宿<br>自治体でのプレゼンテーション   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p><b>【授業テーマ】</b><br/>地域を便利にするアプリ開発</p> <p><b>【内容】</b><br/>自治体が保有するオープンデータを用いて、市民の利便性向上に貢献するアプリケーションを開発する。データベース技術を駆使することで開発期間を短縮しつつ、メンテナンス性が高いサービスの提供を目指す。</p> <p><b>【方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データベースに関する勉強会（土曜日開催）</li> <li>・ヒアリング調査</li> <li>・開発合宿</li> <li>・自治体でのプレゼンテーション</li> </ul> <p>などを一連の流れとし、支援協力をいただいた自治体ごとにプロジェクトチームを構成する。</p> <p><b>【事前・事後学習課題】</b><br/>プロジェクトのテーマを考慮して、以下の内容について自主的な調査、学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体の情報サービスの現状調査（4時間×2回）</li> <li>・IT関連の情報収集（サービス、セキュリティ、生産性向上など）（1時間×8回）</li> <li>・データベース設計の見直し（3時間）</li> <li>・作成したアプリの動作テスト（2時間）</li> </ul> <p>学習課題を遂行する上で必要と思った書籍やソフトウェアなどについては購入を検討する。</p> |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 関連科目                  | 経営関連、マーケティング関連、心理学（消費者）、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 教科書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  |     |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名   | 著者名 | 出版社名 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 参考書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  |     |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名   | 著者名 | 出版社名 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 評価方法（基準）              | 技術習得の成長度（グループとしての学び合いを高く評価する）<br>自発的な役割の選択<br>開発プロセス全体での関与の度合い  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 学生へのメッセージ             | 新しい技術は若い人が活用してこそ効果が発揮されます。少しハードルが高そうな課題ですが、社会の課題を最新技術で解決する経験に挑戦しましょう！   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 担当者の研究室等              | 11号館7階 久保准教授室、針尾准教授室  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 備考                    |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |

|               |  |         |                                  |
|---------------|--|---------|----------------------------------|
| 科目名           | 摂南大学PBLプロジェクトI   | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning I |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 地域志向系                            |
| 配当年次          | 2年   | クラス     |                                  |
| 単位数           | 2  | 履修区分    | 選択科目                             |
| 学期            | 通年集中   | 授業担当者   | 牧野 幸志、久保 貞也                      |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ |         |                                  |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2                                    |         |                                  |

| 授業概要・目的               | <p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>地域の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。</p>  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標                  | <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の課題を認識する</li> <li>・課題を解決する方法を考える</li> <li>・解決策を実行する</li> <li>・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する</li> </ul> <p>以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。</p>   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業方法と留意点              | <p>学内でのレクチャー(学部講師を含む)、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。</p> <p>プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。</p> <p>参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。</p> <p>自主学習時間を活動前(1時間)と後(2時間)に取る。</p>   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p><b>【授業テーマ】</b><br/>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p><b>【内容】</b><br/>対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬の続編や販売展開(寝屋川市、京都市ほか)、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント(枚方市)、大学共同のイルミネーションイベント(茨木市)、スポーツ教室運営(門真市)、地域のITスキル測定と教育(摂津市)、歴史資産の展覧会企画(河内町)などである。</p> <p><b>【方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メンバー間のディスカッション</li> <li>・グループワーク</li> <li>・オンラインミーティング</li> <li>・博物館や自治体の見学会</li> <li>・実地調査</li> <li>・企画書や報告書の作成</li> <li>・学外でのプレゼンテーション</li> </ul> <p>など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p><b>【事前学習課題】</b><br/>地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。<br/>事前学習の自主学習時間は、毎週1時間程度とする。その内容をまとめて提出すること。</p> <p><b>【事後学習課題】</b><br/>プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。<br/>事後学習の自主学習時間は、活動後2時間程度とする。活動での気づき、反省点などをまとめて提出すること。</p> |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 関連科目                  | 経営関連、マーケティング関連、心理学(消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 教科書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>   |     |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 参考書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>   |     |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 評価方法(基準)              | 準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価、自主学習の提出などから総合的に評価する。  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 学生へのメッセージ             | 地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。<br>自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 担当者の研究室等              | 11号館7階、牧野准教授室、久保准教授室、針尾准教授室  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 備考                    | 活動内で課された課題に対しては、その後の活動の中で評価・解説を行い、フィードバックをする。<br>自主学習時間の評価も行います。   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |

|               |   |         |                                  |
|---------------|---|---------|----------------------------------|
| 科目名           | 摂南大学PBLプロジェクトI  | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning I |
| 学部            | 学部共通  | 学科      | 地域志向系                            |
| 配当年次          | 2年  | クラス     |                                  |
| 単位数           | 2   | 履修区分    | 選択科目                             |
| 学期            | 通年集中  | 授業担当者   | 大塚 正人                            |
| ディプロマポリシー(DP) | V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1◎,E科:B◎,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎ |         |                                  |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02438a2, L科:LL02419a2, D科・S科:IL02425a2, P科:YL02420a2, J科:JL02436a2, W科:WL02421a2, N科:NL02417a2            |         |                                  |

| 授業概要・目的               | 本プロジェクトでは、連携先調剤薬局と協働し、PBLに参加した学生が、就職関連イベントを企画・運営・実施する事で、学生のコミュニケーション能力、ファシリテーション能力など、人間的な総合力を育成することを目的とする。就職関連イベントに行くのではなく、就職関連イベントを企画・運営・実施することは、難易度の高い教育プログラムである。その過程で、Active Book Dialog (ABD) の手法を用いてグループ学習を行い、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力で構成される「社会人基礎力」が向上するように設計している。   |                         |                 |    |     |     |      |   |                                   |                        |         |   |                         |                         |                 |   |   |                   |         |
|-----------------------|---|-------------------------|-----------------|----|-----|-----|------|---|-----------------------------------|------------------------|---------|---|-------------------------|-------------------------|-----------------|---|---|-------------------|---------|
| 到達目標                  | <p>【到達目標】<br/>現状の就職関連イベントの問題点・ニーズを踏まえた上で、調剤薬局における理想的な就職関連イベントを企画・運営・実施する。</p> <p>【プロセス】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>理想的な就職関連イベントとは何かを定義できる。</li> <li>現状の就職関連イベントの問題点・ニーズを列挙できる。</li> <li>他のPBLプロジェクト参加学生と協働して、就職関連イベントの具体案を企画できる。</li> <li>他のPBLプロジェクト参加学生と協働して、就職関連イベントの参加者アンケートやイベント広報を立案できる。</li> <li>関係先調剤薬局の担当者とビジネスマナーをわきまえた上で円滑な人間関係を構築できる。</li> <li>就職関連イベントの企画・運営・実施を通して、社会にどんな貢献が出来るか主体的に考えられる。</li> </ol>   |                         |                 |    |     |     |      |   |                                   |                        |         |   |                         |                         |                 |   |   |                   |         |
| 授業方法と留意点              | <p>大学での学びの主役はPBLの受講者である。教員は、PBLの受講者の学びを補助するファシリテーター役に徹するので、いわゆる座学的な講義は一切行わない。教員は、教科書や教材に書いてある知識の伝達は一切行わない(質問には答えます)。</p> <p>具体的には、ABD読書会方式の受講者の主体的な学び合いを行う。すなわち、各回のテーマに沿ってその内容を各自で学習し、B5用紙5枚にまとめ、リレープレゼンテーションにて共有する。</p> <p>ABD読書会については、以下のURLを参照のこと。<a href="http://www.abd-abd.com/">http://www.abd-abd.com/</a></p> <p>講義内容については、Moodleを用いて資料を配付する。また、本講義はアクティブラーニングの手法を積極的に取り入れ、学生が積極的に講義に参加できるよう工夫する。</p> <p>また、大学外での学びについても、振り返りを重視した指導を行う。</p>   |                         |                 |    |     |     |      |   |                                   |                        |         |   |                         |                         |                 |   |   |                   |         |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>4月 学内研修:まず、チームビルディングを行う。就職関連イベントの目的・方法・成果について具体例を調査・検証・評価する事により、理想的な就職関連イベントとは何かを定義する。また、企業ブランド・ミッションについてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>5月 学内研修:就職関連イベントの現状や課題点などについて具体例を調査・検証・評価する事により、現状の就職関連イベントの問題点と改善点とは何かを定義する。また、システム思考についてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>6月 学内研修:理想的な就職関連イベントと現状の就職関連イベントの問題点を比較することで、就職関連イベントの企画のポイントを見いだす。また、組織開発についてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>7月 学内研修:就職関連イベントの具体案を企画する。参加者アンケート、広報ポスター等についても検討する。役割分担を決めた上で、協働する。</p> <p>8月 学内研修:就職関連イベントの具体案を企画する。参加者アンケート、広報ポスター等についても検討する。</p> <p>学外研修:阪神調剤ホールディング株式会社を訪問し、就職関連イベント開催に向けて具体的に協議する。役割分担を決めた上で、協働する。</p> <p>9月 学内研修:中間報告の準備。パワーポイント作成法、プレゼンテーション法について、ABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>10月 学内研修:企画した就職関連イベントを実際に学内で実施してみる。必要であれば企画の練り直しを図るファシリテーション力、タイムマネジメント力の育成を図る。また、ファシリテーション法についてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>11月 学外研修:阪神調剤ホールディング株式会社にて就職関連イベントを実際に行う。役割分担を決めた上で、協働する。</p> <p>学内研修:ふりかえりワークショップを行う。</p> <p>12月 学内研修:最終報告の準備。パワーポイント作成法、プレゼンテーション法について、ABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>1月 学内研修:ふりかえりワークショップを行う。成果報告書の作成。</p> <p>2月 学内研修:成果報告書の作成。</p> <p>事前、事後学習課題 について<br/>事前、事後学習課題についてはその都度指定しますが、時間的には1単位あたり週2時間の事前、事後学習課題の実施を設定致します。</p> |                         |                 |    |     |     |      |   |                                   |                        |         |   |                         |                         |                 |   |   |                   |         |
| 関連科目                  | 教養系、キャリア系科目   |                         |                 |    |     |     |      |   |                                   |                        |         |   |                         |                         |                 |   |   |                   |         |
| 教科書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>人を伸ばす力：内発と自律のすすめ</td> <td>エドワード・L・デン, リチャード・フラスト</td> <td>新曜社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>フロー体験 喜びの現象学</td> <td>M. チクセントミハイ [著] ; 今村浩明訳</td> <td>世界思想社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>モチベーション 3.0 : 持続する「やる気!(ドライブ!)」をいかに引き出すか</td> <td>ダニエル・ピンク著 ; 大前研一訳</td> <td>講談社</td> </tr> </tbody> </table>   |                         |                 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 人を伸ばす力：内発と自律のすすめ                  | エドワード・L・デン, リチャード・フラスト | 新曜社     | 2 | フロー体験 喜びの現象学            | M. チクセントミハイ [著] ; 今村浩明訳 | 世界思想社           | 3 | モチベーション 3.0 : 持続する「やる気!(ドライブ!)」をいかに引き出すか                  | ダニエル・ピンク著 ; 大前研一訳 | 講談社     |
| 番号                    | 書籍名   | 著者名                     | 出版社名            |    |     |     |      |   |                                   |                        |         |   |                         |                         |                 |   |   |                   |         |
| 1                     | 人を伸ばす力：内発と自律のすすめ  | エドワード・L・デン, リチャード・フラスト  | 新曜社             |    |     |     |      |   |                                   |                        |         |   |                         |                         |                 |   |   |                   |         |
| 2                     | フロー体験 喜びの現象学  | M. チクセントミハイ [著] ; 今村浩明訳 | 世界思想社           |    |     |     |      |   |                                   |                        |         |   |                         |                         |                 |   |   |                   |         |
| 3                     | モチベーション 3.0 : 持続する「やる気!(ドライブ!)」をいかに引き出すか  | ダニエル・ピンク著 ; 大前研一訳       | 講談社             |    |     |     |      |   |                                   |                        |         |   |                         |                         |                 |   |   |                   |         |
| 参考書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>グロービスMBAで教えているプレゼンの技術：人を動かす勝利の方程式</td> <td>グロービス</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>教え上手になる! : 教えと学びのワークブック</td> <td>関根雅泰</td> <td>クロスメディア・パブリッシング</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>東大生が書いた議論する力を鍛えるディスカッションノート 「2ステージ、6ポジション」でつかむ「話し合い」の新発想!</td> <td>吉田雅裕</td> <td>東洋経済新報社</td> </tr> </tbody> </table>   |                         |                 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | グロービスMBAで教えているプレゼンの技術：人を動かす勝利の方程式 | グロービス                  | ダイヤモンド社 | 2 | 教え上手になる! : 教えと学びのワークブック | 関根雅泰                    | クロスメディア・パブリッシング | 3 | 東大生が書いた議論する力を鍛えるディスカッションノート 「2ステージ、6ポジション」でつかむ「話し合い」の新発想! | 吉田雅裕              | 東洋経済新報社 |
| 番号                    | 書籍名   | 著者名                     | 出版社名            |    |     |     |      |   |                                   |                        |         |   |                         |                         |                 |   |   |                   |         |
| 1                     | グロービスMBAで教えているプレゼンの技術：人を動かす勝利の方程式   | グロービス                   | ダイヤモンド社         |    |     |     |      |   |                                   |                        |         |   |                         |                         |                 |   |   |                   |         |
| 2                     | 教え上手になる! : 教えと学びのワークブック   | 関根雅泰                    | クロスメディア・パブリッシング |    |     |     |      |   |                                   |                        |         |   |                         |                         |                 |   |   |                   |         |
| 3                     | 東大生が書いた議論する力を鍛えるディスカッションノート 「2ステージ、6ポジション」でつかむ「話し合い」の新発想!   | 吉田雅裕                    | 東洋経済新報社         |    |     |     |      |   |                                   |                        |         |   |                         |                         |                 |   |   |                   |         |
| 評価方法(基準)              | PBL活動への参加意欲および貢献度(70%)、学内・学外発表会等への貢献度(30%)<br>準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。?  |                         |                 |    |     |     |      |   |                                   |                        |         |   |                         |                         |                 |   |   |                   |         |
| 学生へのメッセージ             | 医療の現場を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。<br>自分の潜在能力を開花させながら、ファシリテーション能力をうまく使ってチームビルディングによる力を引き出して下さい。  |                         |                 |    |     |     |      |   |                                   |                        |         |   |                         |                         |                 |   |   |                   |         |
| 担当者の研究室等              | 摂南大学校方キャンパス 薬学部薬学科 生命融合化学分野(1号館5階)  |                         |                 |    |     |     |      |   |                                   |                        |         |   |                         |                         |                 |   |   |                   |         |
| 備考                    |   |                         |                 |    |     |     |      |   |                                   |                        |         |   |                         |                         |                 |   |   |                   |         |



|               |  |          |                                  |
|---------------|--|----------|----------------------------------|
| 科目名           | 摂南大学PBLプロジェクト I  | 科目名 (英文) | Project/Problem Based Learning I |
| 学部            | 学部共通   | 学科       | 地域志向系                            |
| 配当年次          | 2年   | クラス      |                                  |
| 単位数           | 2  | 履修区分     | 選択科目                             |
| 学期            | 通年集中   | 授業担当者    | 石井 信輝, 水野 武                      |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ |          |                                  |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2                                    |          |                                  |

| 授業概要・目的               | マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には2019年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標                  | 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業方法と留意点              | 年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態（座学、現地調査）を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々や調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | 以下の手続きで授業を展開する<br><br>1. プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有<br>2. マーケティング手法の学習（座学による）<br>3. 連携先との面談<br>4. 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出<br>5. 学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査<br>6. 広報誌制作準備（広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行）<br>7. 学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施<br>8. まとめと最終報告会                |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 関連科目                  | チームビルディング  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 教科書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> |     |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 参考書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> |     |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 評価方法（基準）              | 活動報告、活動現場での取り組みをもとに評価する。   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 学生へのメッセージ             | 積極的に活動してください。  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 担当者の研究室等              | 11号館10階 石井研究室<br>7号館3階 水野研究室   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 備考                    | スケジュールに沿って1時間程度を目安として、プロジェクト遂行のための自主学習の時間（事前・事後）をとってください。  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |

|                |  |          |                                  |
|----------------|--|----------|----------------------------------|
| 科目名            | 摂南大学PBLプロジェクト I  | 科目名 (英文) | Project/Problem Based Learning I |
| 学部             | 学部共通   | 学科       | 地域志向系                            |
| 配当年次           | 2年   | クラス      |                                  |
| 単位数            | 2  | 履修区分     | 選択科目                             |
| 学期             | 通年集中   | 授業担当者    | 田井 義人                            |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ |          |                                  |
| 科目ナンバリング       | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2                                    |          |                                  |

教養科目

| 授業概要・目的               | <p><b>I 授業概要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・吹田市栄通商店街における地域活性化事業への支援による商店街ブランド作成プロジェクトへの参画（企画・活動・推進・振り返り活動への参画）を行う。</li> <li>・当該活動地域は、顧客獲得において対立構造にある商店街、大規模店、コンビニエンスストアが協働している希有な事例であり、TV等でも紹介された。</li> <li>・2018年度よりプロジェクト事業拡大によりブランド化を模索・推進している地域である。</li> </ul> <p><b>II 目的</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シャッター街に代表される商店街の課題を成功例に学生が参画（前述のとおり）することと事前学習によって自ら設定した課題認識との比較により地域活性化の方法論を学ぶ。</li> </ul>   |      |         |     |      |   |              |      |         |
|-----------------------|--|------|---------|-----|------|---|--------------|------|---------|
| 到達目標                  | <p><b>I 到達目標（共通）</b></p> <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外連絡先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p><b>II 到達目標（本プロジェクト）</b>：Iの目標を達成するため、以下のいくつかの修得を行うこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 課題と課題対応した事例を現場体験することで解決プロセスを列挙できること。</li> <li>(2) 課題解決のための課題認識と対応策を具体的に提案できること。</li> <li>(3) 異なる世代間の交流により情報収集のスキルを修得すること。</li> <li>(4) 成功事例を発展させることで他の事例へのPDCAスキルを醸成できること。</li> <li>(5) 行政依存から脱却し地域の市民主体の取り組みの有効性と効果を体験することで自立した政策提案することができること。</li> <li>(6) 地域住民や商店街関係者との地域活性化に尽力する「本気の大人」に出会うことによるコミュニケーション力や「気づき」力を醸成すること。</li> <li>(7) 企画・運営・振り返り資料作成によるPPTのスキル、プレゼンテーションスキルを醸成すること。</li> <li>(8) 企画から振り返りまでの一貫した事業展開への参画によるPDCA活用スキルを修得すること。</li> <li>(9) 地域活性化に必要な知識と活用による各種ステークホルダー間の調整スキルを修得すること。</li> <li>(10) 世代間コミュニケーションスキルを修得すること。</li> </ol>  |      |         |     |      |   |              |      |         |
| 授業方法と留意点              | <p><b>I 授業方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化の進展と中心市街地での後継者不足とともに大規模店やコンビニエンスストアの出店によって商店街が衰退している。シャッターが閉められ人通りがほとんど無くなっている商店街も地域には多く存在する。</li> <li>・本プロジェクトは、このような社会状況のなか、プロジェクトを企画・運営する地域交流拠点（コンビニ2階）を中心に市民が商店街や大規模店及びコンビニエンスストアとも協働する様々なブランド形成事業に若者である本学学生の視点を取り入れることにより連携先課題であるシャッター商店街防止策を企画・活動・推進・振り返りを行う。</li> <li>・上記目的の達成のため、大学における事前・事後学習と演習及び地元での課外学習（参画による）によって到達目標へ指導する。</li> <li>・事前学習において、課題設定のブレインストーミングを行い出来ればグループ分けを行う。</li> </ul> <p><b>II 留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記学習、演習に必ず参加すること。特に他の授業やクラブなどの課外活動との時間調整であるタイムマネジメントに留意すること。</li> </ul>   |      |         |     |      |   |              |      |         |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p><b>I 授業テーマ</b>：商店街を中心とした地域ブランドの創生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前・事後学習及び講義の課外活動に参画してテーマを達成する事業案の参画</li> </ul> <p><b>II 内容、方法、事前・事後学習課題</b></p> <p>(1) 事前・事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスに記載した教科書、参考書を元に事前学習を行う。学習課題の設定の参考とする。</li> <li>・下記課外活動後、事前学習に使用した教科書を元に課外活動等との比較を行う事後学習を行う。</li> <li>・上記を通じて得た「気づき」を発表する。（中間報告会、最終報告会）</li> </ul> <p>(2) 参画する課外活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月頃：WEB稼働及び勉強会。吹田祭企画会議実施。（JR吹田で一番楽しい場として浸透。近隣店舗の参加推進。会員飲食店の営業推進。）</li> <li>・5月～6月：今後の企画運営検討（エンタメ教室：地域の子育て世帯の参加者推進。商店街ブランド案の検討：栄通りの特色を検討、商店会は場提供。）<br/>今後の企画運営検討（落研寄席：近隣住民の参画推進。近隣大学等との連携推進：地域モデルの模索、新しい形での連携で「イケテル商店街」構築へ</li> <li>・7月頃：吹田祭推進、応援</li> <li>・8月以降：エンタメ教室に参加。お茶とお花の教室（親子教室）に参加。落研寄席準備に参加。落研寄席-吹田お笑いグランプリに参加。（予選エントリー本戦16組くらいで決戦、審査員は素人で公平に。継続により商店会のブランドのひとつとなることを目指す。）<br/>・随時：周辺空き家の活用（古民家を活かしたノスタルジック喫茶店?スタバ）による商店街連携検討。</li> <li>・9月頃：エンタメ教室実施。（ミニ四駆をテーマに世代間参加を推進。親子で四駆レースを体験。翌年度吹田祭での大会レースを企画。）</li> <li>・10月頃：高浜神社 戎祭支援（チラシ配布、各店お店情報掲載、神社から店への誘導）に参加</li> <li>・12月～3月頃：今年度事業の振り返りと予算策定に参加。翌年度の向けてのWEB委員会年度計画策定二酸化。エンタメ教室、落研寄席予算申請・企画開始に参加。</li> </ul> <p>このスケジュール内に中間報告会、最終報告会がある。</p> |      |         |     |      |   |              |      |         |
| 関連科目                  | 地域の持続的発展 地方自治論 地域実践演習 地域貢献実践演習   |      |         |     |      |   |              |      |         |
| 教科書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>凡人のための地域再生入門</td> <td>木下 齊</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> </tbody> </table>  | 番号   | 書籍名     | 著者名 | 出版社名 | 1 | 凡人のための地域再生入門 | 木下 齊 | ダイヤモンド社 |
| 番号                    | 書籍名  | 著者名  | 出版社名    |     |      |   |              |      |         |
| 1                     | 凡人のための地域再生入門   | 木下 齊 | ダイヤモンド社 |     |      |   |              |      |         |

|               |   |                                     |        |         |
|---------------|---|-------------------------------------|--------|---------|
|               | 2   | 商店街再生の罫 売りたいモノから顧客がしたいコトへ           | 久繁哲之介  | ちくま書房   |
|               | 3   | 商店街はなぜ滅びるのか 社会・政治・経済史から探る再生の道       | 新雅史    | 光文社新書   |
| 参考書           | 番号  | 書籍名                                 | 著者名    | 出版社名    |
|               | 1   | イギリスに学ぶ商店街再生計画                      | 足立基浩   | ミネルヴァ書房 |
|               | 2   | その島のひとたちは、ひとの話を聞かない精神科医「自殺希少地域」に行くー | 森川すいめい | 青土社     |
|               | 3   |                                     |        |         |
| 評価方法<br>(基準)  | 事前事後学習への参加を必修とする。地域での活動内容の発表やプレゼンテーションを通じて評価を行う。  |                                     |        |         |
| 学生への<br>メッセージ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書1「凡人のための地域再生入門」の黄色部分は必読です。</li> <li>・商店会のメンバは、商店街の発展を通じて地域活性化に努力している「本気の大人」である。彼らとのコミュニケーションを通じて学生個人のコミュニケーションスキルの醸成と課題設定、解決のプロセスを学ぶ。</li> <li>・積極的な活動と活動の糧となる読書を推奨する。</li> <li>・当該商店街だけでなく学生が居住する地域の商店街の課題や地域活性化の課題を発見し対策を模索するプロセスを重視する。</li> <li>・何よりも商店会が主催する企画会議への出席（参画）が基本である。その他の事業参加も推奨する。</li> </ul> |                                     |        |         |
| 担当者の<br>研究室等  | 1号館7階 経済学部 田井義人研究室  |                                     |        |         |
| 備考            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前・事後学習として教科書や参考書の輪読や講評を推奨する。</li> <li>・課外活動に参画することを重視する。</li> <li>・やみくもに参画するのではなく、情報や知識習得のため教科書、参考書などの熟読を進める。</li> </ul>   |                                     |        |         |

|               |  |          |                                  |
|---------------|--|----------|----------------------------------|
| 科目名           | 摂南大学PBLプロジェクト I  | 科目名 (英文) | Project/Problem Based Learning I |
| 学部            | 学部共通   | 学科       | 地域志向系                            |
| 配当年次          | 2年   | クラス      |                                  |
| 単位数           | 2  | 履修区分     | 選択科目                             |
| 学期            | 通年集中   | 授業担当者    | 吉田 佐治子・水野 武                      |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ |          |                                  |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2                                    |          |                                  |

| 授業概要・目的                | <p>【テーマ】<br/>社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」の活動支援プロジェクト</p> <p>【概要】<br/>枚方市に所在する社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」の活動を支援するための企画を立案・実施する。ホームゲームにおける観戦者向けにアンケートを実施し、来場者は何に価値を求めているの明らかにした上で広報戦略を立案する。また枚方市内における認知度を測定し、認知度向上に向けた施策を行う。<br/>また、2月には摂南大学×FCティアの枚方主催で子ども向けスポーツフェスタを計画している。</p> <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ホームゲーム来場者が感じる経験価値を測定し、クラブの広報活動に関する提案を行う</li> <li>クラブの広報ポスターを作成し、枚方市内の飲食店等で掲示</li> <li>近隣市内におけるクラブの認知度向上とホームゲーム観戦者数の増加</li> </ul>  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|------------------------|---|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>学外の方々向けに通用するビジネスマナーを修得する</li> <li>アンケートの集計を通じ、回答者の傾向を読み取ることができる</li> <li>連携先に企画提案ができる</li> <li>広報活動（飛び込み営業）を通じ、基本的な営業スキルを感得する</li> <li>メンバー間とのディスカッションを通じ、他者を理解・共感することができる</li> <li>親切意識を持ち、「何を、いつまでに、誰が、どうやって」を意識するようになる</li> <li>メンバー間の連絡・返信コメントを行えるようになる</li> <li>プレゼンテーションの準備を通じ、PPTの作成スキルが向上する</li> </ul>   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業方法と留意点               | <p>「FC TIAMO 枚方」と連携しつつ、学生が中心となって活動するプロジェクトです。<br/>全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。</p>   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題 | <p>【内容】<br/>ホームゲーム来場者が感じる経験価値を測定し、クラブの広報活動に関する提案を行う。そのことにより、近隣市内におけるクラブの認知度向上とホームゲーム観戦者数の増加を目指す。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ホームゲームでのアンケート調査の実施と考察</li> <li>連携先へのヒアリングを通じて課題を抽出</li> <li>クラブのプロモーション案の展開を作成・評価・検証（連携先の許可により実施）</li> <li>近隣市内におけるクラブの認知率測定と認知度の向上のための施策を提案</li> </ul> <p>【年間計画（予定）】</p> <p>4月 マーケティング基礎講座の実施<br/>連携先との顔合わせ</p> <p>5月 ホームゲーム観戦体験<br/>ホームゲーム来場者向けのアンケートの実施</p> <p>6月 アンケートの集計と結果を踏まえたイベントの企画立案</p> <p>7月 枚方市・寝屋川市内における認知度調査（プレ調査）の実施<br/>域内商店街での広報活動の実施</p> <p>8月 ホームゲームでのイベントの実施</p> <p>9月 枚方市・寝屋川市における認知度調査（ポスト調査）の実施</p> <p>10月 ホームゲーム運営補助<br/>中間報告会</p> <p>12月 最終報告会とその準備</p> <p>2月 Sports Festival</p> |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 関連科目                   | 全ての科目   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 教科書                    | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  |     |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                     | 書籍名   | 著者名 | 出版社名 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                      |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                      |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                      |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 参考書                    | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  |     |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                     | 書籍名   | 著者名 | 出版社名 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                      |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                      |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                      |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 評価方法（基準）               | 全体で行う活動やミーティングへの貢献、自分の役割の遂行、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表、連携先からの評価を総合的に判断し評価する。  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 学生へのメッセージ              | プロジェクトの成否は、みなさま一人ひとりにかかっています。それぞれが主体的に取り組み、「FC TIAMO 枚方」を盛り立てていきましょう。   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 担当者の研究室等               | 吉田佐治子（7号館3階）<br>水野武（7号館3階）  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 備考                     | 学外での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等かなりの時間を要します。活動によっても異なりますが、一つの活動に対して、それぞれ5?10時間は必要です。   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |

|                |  |          |                                  |
|----------------|--|----------|----------------------------------|
| 科目名            | 摂南大学PBLプロジェクト I  | 科目名 (英文) | Project/Problem Based Learning I |
| 学部             | 学部共通   | 学科       | 地域志向系                            |
| 配当年次           | 2年   | クラス      |                                  |
| 単位数            | 2  | 履修区分     | 選択科目                             |
| 学期             | 通年集中   | 授業担当者    | 上野山 裕士                           |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ |          |                                  |
| 科目ナンバリング       | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2                                    |          |                                  |

| 授業概要・目的               | <p>テーマ：<br/>中山間地域における生活支援体制の構築プロジェクト</p> <p>概要：<br/>和歌山県海草郡紀美野町をフィールドに、中山間地域におけるひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験、その他の作業等を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。</p>  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標                  | <p>①中山間地域に暮らす人びとの生活を知り、地域生活やその課題の多様性について説明することができる</p> <p>②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について考えを述べるができる</p> <p>③中山間地域における生活支援体制の構築にかかわる主体について説明することができる</p> <p>④「地域の見守り、支え合い」の担い手としての自覚と責任を身につける</p>   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業方法と留意点              | <p>文献、資料等を用いた学内研修と和歌山県海草郡紀美野町における現地調査を実施します。</p> <p>具体的には、学内研修（地域について学ぶ）→現地調査（地域について知る）→学内研修（地域について考える）→現地調査（地域のために活動する）→学内研修（活動を振り返り、評価する）というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。</p>   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>講義では以下の内容に取り組みます（進捗状況によって変更となる場合があります）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学内研修：紀美野町の人口・産業・伝統・観光・その他の特性について、地域福祉の考え方について、日常生活支援体制の構築方法について、中間報告会および最終報告会に向けた準備について、等（週一回程度；各回の実施に当たってはテーマに応じた自主学習（1時間程度）が求められます）</li> <li>地域での活動：地域視察、地域住民との交流、日常生活支援体制構築に向けた実践、等（月一回程度；学外研修後には活動成果の整理および実施意義の分析にかかる自主学習（2時間程度）が求められます）</li> <li>中間報告会、最終報告会：他のプロジェクトと合同で実施（各一回）</li> </ul> |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 関連科目                  | なし   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 教科書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>   |     |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 参考書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>   |     |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 評価方法（基準）              | 学内研修および地域での活動への主体的な参加および中間／最終報告会に対する貢献度により評価します。   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 学生へのメッセージ             | ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。<br>都会から離れた場所での生活を実際に体験し、くらしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか？   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 担当者の研究室等              |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 備考                    |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |

|                |  |          |                                  |
|----------------|--|----------|----------------------------------|
| 科目名            | 摂南大学PBLプロジェクト I  | 科目名 (英文) | Project/Problem Based Learning I |
| 学部             | 学部共通   | 学科       | 地域志向系                            |
| 配当年次           | 2年   | クラス      |                                  |
| 単位数            | 2  | 履修区分     | 選択科目                             |
| 学期             | 通年集中   | 授業担当者    | 藤原 京佳, 梅野 将之                     |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ |          |                                  |
| 科目ナンバリング       | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2                                    |          |                                  |

| 授業概要・目的               | 「異文化理解・交流を通じた地域貢献プロジェクト」<br>留学生を含む参加学生が異文化理解・交流にかかわる活動（オリジナルかるた、ゲーム、文化紹介教材、演劇等）を企画し、寝屋川市国際交流協会や近隣学校等において実施していく。  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標                  | 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性をもって前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の想像を目指す。<br>自らの言語・文化資源を活用すると同時に、異なる文化背景をもつ他者と協働し、活動を企画・実行できる。<br>学外の活動を通して地域への理解を深め、地域における異文化理解・交流を促すことができる。<br>プロジェクトにおける自身の貢献および不足点を分析し、省察することができる。  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業方法と留意点              | さまざまな文化背景、価値観をもつ人々と対話・交渉しながら活動を進めていくことになります。   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・週1回のミーティングで活動に関する企画を立案し、進捗等を確認する。</li> <li>・寝屋川市国際交流協会および近隣学校と連絡をとり、活動内容や日程を決める。</li> <li>・必要に応じて本学国際交流センターにおける活動を企画・実施する。</li> <li>・活動内容を報告会等で発表する。</li> </ul> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化理解・交流をテーマにした教材、ゲーム等を作成する。</li> <li>・作成物を使った活動を地域や国際交流センターで実施する。</li> </ul> <p>【事後学習】</p> <p>受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらおう。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。</p> |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 関連科目                  | 人文社会系科目全般、外国語科目全般  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 教科書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>   |     |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 参考書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>   |     |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 評価方法 (基準)             | ミーティング、報告会、各活動への貢献度 60%、活動日誌およびプロジェクト最終レポート 40%  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 学生へのメッセージ             | 他者を知り、地域を知るは自分自身を知ることにもつながると思います。<br>普段自明視している常識、先入観、前提に気づくことから始めてみてください。  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 担当者の研究室等              |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 備考                    | 自主学習時間の目安は毎週1時間。   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |

|               |  |         |                                   |
|---------------|--|---------|-----------------------------------|
| 科目名           | 摂南大学PBLプロジェクトII  | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning II |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 地域志向系                             |
| 配当年次          | 2年   | クラス     |                                   |
| 単位数           | 2  | 履修区分    | 選択科目                              |
| 学期            | 通年集中   | 授業担当者   | 居場 嘉教, 木村 朋紀, 船越 英資               |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ |         |                                   |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2                                    |         |                                   |

| 授業概要・目的               | <p>〈摂大ブランド商品の開発・販売プロジェクト〉</p> <p>様々な大学でオリジナル商品が作られており、多種多様なものがある。これまでに摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を模索し、いくつかの商品を企画した(サツマイモとみかんピールのお酒、焦げがとれやすいBBQ網、シソとミカンの入浴剤など)。本プロジェクトでは、これまでに企画した商品について具体的な商品開発を行い、販売を目指す。</p>   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|-----------------------|---|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標                  | <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p>   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業方法と留意点              | <p>3人の教員が担当する。<br/>少人数で活動を行うため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。</p>  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>実施手順は以下のとおりである。</p> <p>〈開発プロジェクト〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 連携企業を決める。試作品の作製および改良を行う。</li> <li>2. 必要な資金を確保し、具体的な製品案を決定する。</li> <li>3. 商品を委託製造する。</li> <li>4. 広報活動を行う。</li> </ol> <p>〈販売プロジェクト〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 価格設定</li> <li>2. 販売ルートの確保</li> <li>3. 販売管理</li> </ol> <p>週1回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。</p> |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 関連科目                  | 教養系・科学技術系科目   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 教科書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  |     |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名   | 著者名 | 出版社名 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 参考書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  |     |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名   | 著者名 | 出版社名 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 評価方法(基準)              | 活動状況、取り組み姿勢および活動成果を総合的に評価する。  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 学生へのメッセージ             | 摂大ブランド商品の販売を目指して、頑張りましょう。   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 担当者の研究室等              | 居場講師室(1号館9階)、木村准教授室(1号館8階)、船越准教授室(1号館9階)  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 備考                    | 新聞を読んで、大学のブランド商品に関連した情報を集めるなど、自主学習に努めましょう。  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |

|               |   |         |                                   |
|---------------|---|---------|-----------------------------------|
| 科目名           | 摂南大学PBLプロジェクトII   | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning II |
| 学部            | 学部共通  | 学科      | 地域志向系                             |
| 配当年次          | 2年  | クラス     |                                   |
| 単位数           | 2   | 履修区分    | 選択科目                              |
| 学期            | 通年集中  | 授業担当者   | 橋本 正治                             |
| ディプロマポリシー(DP) | V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎ |         |                                   |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02439a2, L科:LL02420a2, D科・S科:IL02426a2, P科:YL02421a2, J科:JL02437a2, W科:WL02422a2, N科:NL02418a2            |         |                                   |

| 授業概要・目的               | 過疎地域におけるグリーンエネルギー活用プロジェクト<br>これまで、過疎地域(和歌山県すさみ町)の住民・行政に提案し、グリーンエネルギーを利用した過疎地域自立活性化に利用出来る設備などを製作してきた。本年度はこれまでの活動で得た成果をもとに廃屋を改修し災害時にも対応できる休憩施設を設計、製作する。また、当地で夏に開催される柱まつりにおいて、観望会を開催する。観望会ではこれまでのプロジェクトで製作してきた天体望遠鏡を用いる。   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|-----------------------|---|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標                  | 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。<br>1. チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。<br>2. 問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。<br>3. ものつくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業方法と留意点              | 年数回すさみ町で作業します。(2泊3日を3-4回、7泊8日夏休み中に1回)<br>それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | 3年計画の3年目のプロジェクトです。はじめに大きな目標からはずれないように目的を設定します。(受講生が提案して目的を定めることから始めます)<br><br>4月 テーマの情報教共有(昨年度までの成果の説明)と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定。大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。<br>大型装置・設備については現地で加工組み立てできるよう練習する。<br>5月 現地で加工、施工、組み立て開始 不具合の調査<br>6、7月 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う<br>8月 現地で加工、施工、組み立て<br>9月 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う<br>10-1月 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う<br>2、3月 現地で加工、施工、組み立て<br>現地で加工、施工、組み立て<br><br>事前事後課題は、週1回行う活動に対応して次回までに実施しないといけないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 関連科目                  | テクニカルデザイン演習   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 教科書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  |     |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名   | 著者名 | 出版社名 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 参考書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  |     |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名   | 著者名 | 出版社名 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 評価方法(基準)              | 通常(週1回の)活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 学生へのメッセージ             | 「古民家再生」では建物のビフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。機械工学科の学生が多いのですが、これまで建築学科、住環境デザイン学科、環境環境工学科、外国語学部の参加メンバーもいました。浅野教授担当のPBL授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものつくりを通じた地域活性とも言える活動です。  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 担当者の研究室等              | 8号館1階テクノセンター、1号館5階メカトロニクス研究室で活動します。   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 備考                    | 週1階のミーティングの事前準備としての学習時間が週あたり1時間程度必要となります。   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |



|               |  |         |                                   |
|---------------|--|---------|-----------------------------------|
| 科目名           | 摂南大学PBLプロジェクトII  | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning II |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 地域志向系                             |
| 配当年次          | 2年   | クラス     |                                   |
| 単位数           | 2  | 履修区分    | 選択科目                              |
| 学期            | 通年集中   | 授業担当者   | 石田 秀士, 小田 靖久, 栗田 寿基, 下元 一輝, 釣本 聖司 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ |         |                                   |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2                                    |         |                                   |

| 授業概要・目的               | ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔3.5インチ、5インチの鉄道模型を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。<br>蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場などで運転会・展示会を催す。また、運転会・展示会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。  |                     |         |    |     |     |      |   |             |                     |         |   |                                     |      |         |   |  |  |  |
|-----------------------|--|---------------------|---------|----|-----|-----|------|---|-------------|---------------------|---------|---|-------------------------------------|------|---------|---|--|--|--|
| 到達目標                  | 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。<br><br>蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。<br><br>イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。  |                     |         |    |     |     |      |   |             |                     |         |   |                                     |      |         |   |  |  |  |
| 授業方法と留意点              | 週1回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。<br>履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。<br>この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。<br>与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。   |                     |         |    |     |     |      |   |             |                     |         |   |                                     |      |         |   |  |  |  |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | 本年度はレール間隔3.5インチ、5インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。<br><br>1. プロジェクトの開始に先立って、社会人基礎力、目標管理、工程管理、プロジェクト管理について、メンバーで調査・討議する。<br>2. 教員の指導の下に目標と計画を作成する。<br>3. 計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設等を製作する。<br>4. 計画からの遅れには対策を講じる。<br>5. 製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。<br>6. 運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。<br>7. 計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。<br><br>なお、自主学習として自分の役割に応じ、マネジメント(参考書欄参照)、蒸気機関、機械工作手法、電気回路等々を継続して学ぶことが必要となる。 |                     |         |    |     |     |      |   |             |                     |         |   |                                     |      |         |   |  |  |  |
| 関連科目                  | 教養系・科学技術系科目  |                     |         |    |     |     |      |   |             |                     |         |   |                                     |      |         |   |  |  |  |
| 教科書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>   |                     |         | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |             |                     |         | 2 |                                     |      |         | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名  | 著者名                 | 出版社名    |    |     |     |      |   |             |                     |         |   |                                     |      |         |   |  |  |  |
| 1                     |  |                     |         |    |     |     |      |   |             |                     |         |   |                                     |      |         |   |  |  |  |
| 2                     |  |                     |         |    |     |     |      |   |             |                     |         |   |                                     |      |         |   |  |  |  |
| 3                     |  |                     |         |    |     |     |      |   |             |                     |         |   |                                     |      |         |   |  |  |  |
| 参考書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マネジメント基本と原則</td> <td>P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら</td> <td>岩崎夏海</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  |                     |         | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | マネジメント基本と原則 | P.F. ドラッカー (上田惇生編訳) | ダイヤモンド社 | 2 | もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら | 岩崎夏海 | ダイヤモンド社 | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名  | 著者名                 | 出版社名    |    |     |     |      |   |             |                     |         |   |                                     |      |         |   |  |  |  |
| 1                     | マネジメント基本と原則  | P.F. ドラッカー (上田惇生編訳) | ダイヤモンド社 |    |     |     |      |   |             |                     |         |   |                                     |      |         |   |  |  |  |
| 2                     | もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら  | 岩崎夏海                | ダイヤモンド社 |    |     |     |      |   |             |                     |         |   |                                     |      |         |   |  |  |  |
| 3                     |  |                     |         |    |     |     |      |   |             |                     |         |   |                                     |      |         |   |  |  |  |
| 評価方法(基準)              | 汎用的能力(40%)、主体性・柔軟性・課題発見解決(30%)、貢献度(30%)について、ミーティングでの報告、イベントや作業時の態度で評価する。   |                     |         |    |     |     |      |   |             |                     |         |   |                                     |      |         |   |  |  |  |
| 学生へのメッセージ             | 与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。   |                     |         |    |     |     |      |   |             |                     |         |   |                                     |      |         |   |  |  |  |
| 担当者の研究室等              | 1号館3階 石田准教授室<br>8号館1階 テクノセンター  |                     |         |    |     |     |      |   |             |                     |         |   |                                     |      |         |   |  |  |  |
| 備考                    |  |                     |         |    |     |     |      |   |             |                     |         |   |                                     |      |         |   |  |  |  |

|               |  |         |                                   |
|---------------|--|---------|-----------------------------------|
| 科目名           | 摂南大学PBLプロジェクトII  | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning II |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 地域志向系                             |
| 配当年次          | 2年   | クラス     |                                   |
| 単位数           | 2  | 履修区分    | 選択科目                              |
| 学期            | 通年集中   | 授業担当者   | 石田 裕子                             |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ |         |                                   |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2                                    |         |                                   |

教養科目

| 授業概要・目的               | <p>概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。</p> <p>目的：池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標                  | <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組み力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何が問題であるかを認識し、それに対してチームで解決する素養を身に付けることができる。</li> <li>・多様な人の意見を聞いて理解し、自分の意見を述べるができる。</li> <li>・世界や日本で起っている環境問題や流域の課題について、正しい知識を身に付けることができる。</li> </ul>   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業方法と留意点              | <p>連携内容・方法：池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p>  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援</li> <li>2. 巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施</li> <li>3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践</li> <li>4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践</li> <li>5. 天然アユ復活プロジェクトの学習</li> <li>6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表</li> </ol> <p>方法：授業のうち半分(月1回)は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、主として学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分(月1回)は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト(6月)、近畿水環境交流会(7月)、いい川・いい川づくりワークショップ(9-11月)を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p> |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 関連科目                  | <p>自然・都市環境論、流域・沿岸域工学(以上、C科)<br/>科学技術教養C1・C2</p>  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 教科書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>   |     |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 参考書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>   |     |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 評価方法(基準)              | <p>授業(イベントを含む)に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%)<br/>水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)</p>  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 学生へのメッセージ             | <p>子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げててください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。</p>   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 担当者の研究室等              | <p>1号館3階 石田准教授室</p>  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 備考                    | <p>自主学习時間として、総時間数30時間以上取り組むこと。</p>   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |

|               |  |         |                                   |
|---------------|--|---------|-----------------------------------|
| 科目名           | 摂南大学PBLプロジェクトII  | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning II |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 地域志向系                             |
| 配当年次          | 2年   | クラス     |                                   |
| 単位数           | 2  | 履修区分    | 選択科目                              |
| 学期            | 通年集中   | 授業担当者   | 浅野 英一                             |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ |         |                                   |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2                                    |         |                                   |

| 授業概要・目的               | <p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力(資源)を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査: 地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。<br/>                 ②企画: 具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。<br/>                 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。<br/>                 ④実施: 実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う<br/>                 ⑤結果報告: プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|-----------------------|---|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標                  | 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。  |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業方法と留意点              | プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点(廃校になった小学校の校舎)を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化(社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など)を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン饗祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港(大学)を出港(出発)して、遠洋(すさみ町)で漁業(活動)するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実に体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p> <p>社会人基礎力の、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力(12の能力要素)から構成を自主学习として、調べておくこと。</p> |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 関連科目                  | ボランティア論   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 教科書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  | 番号  | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名   | 著者名 | 出版社名 |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 参考書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  | 番号  | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名   | 著者名 | 出版社名 |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 評価方法(基準)              | 参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 学生へのメッセージ             | 仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要がある。   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 担当者の研究室等              | 7号館5階 浅野研究室   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 備考                    | 履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |

|               |  |         |                                   |
|---------------|--|---------|-----------------------------------|
| 科目名           | 摂南大学PBLプロジェクトII  | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning II |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 地域志向系                             |
| 配当年次          | 2年   | クラス     |                                   |
| 単位数           | 2  | 履修区分    | 選択科目                              |
| 学期            | 通年集中   | 授業担当者   | 久保 貞也, 針尾 大嗣                      |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ |         |                                   |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2                                    |         |                                   |

教養科目

| 授業概要・目的               | 地域を便利にするアプリ開発<br>学生が最新のデータベース技術とアプリケーション構築(携帯アプリ)の技能を身に付ける。そして、大学近隣の市町村に学生が市民への情報提供の課題を聞き取り、身に付けた情報技術を活かして自治体が公開しているオープンデータを利用したアプリケーションを開発し、その成果を検証する。   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|-----------------------|---|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が最近のIT動向を理解している</li> <li>・学生が一般ユーザー向けのITについてその仕組みを説明できる</li> <li>・学生が初めて触れた技術を修得するための持続的な学習を行える</li> <li>・学生自身が技術的な問題解決のために自学自習できる</li> <li>・学生が地域の課題を知るためにインタビュー調査票を作成できる</li> <li>・地域が抱える問題に対して情報技術の特性を活かした提案ができる</li> </ul>  |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業方法と留意点              | データベースに関する勉強会(土曜日開催)<br>ヒアリング調査<br>開発合宿<br>自治体でのプレゼンテーション   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題 | <p><b>【授業テーマ】</b><br/>地域を便利にするアプリ開発</p> <p><b>【内容】</b><br/>自治体が保有するオープンデータを用いて、市民の利便性向上に貢献するアプリケーションを開発する。データベース技術を駆使することで開発期間を短縮しつつ、メンテナンス性が高いサービスの提供を目指す。</p> <p><b>【方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データベースに関する勉強会(土曜日開催)</li> <li>・ヒアリング調査</li> <li>・開発合宿</li> <li>・自治体でのプレゼンテーション</li> </ul> <p>などを一連の流れとし、支援協力をいただいた自治体ごとにプロジェクトチームを構成する。</p> <p><b>【事前・事後学習課題】</b><br/>プロジェクトのテーマを考慮して、以下の内容について自主的な調査、学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体の情報サービスの現状調査(4時間×2回)</li> <li>・IT関連の情報収集(サービス、セキュリティ、生産性向上など)(1時間×8回)</li> <li>・データベース設計の見直し(3時間)</li> <li>・作成したアプリの動作テスト(2時間)</li> </ul> <p>学習課題を遂行する上で必要と思った書籍やソフトウェアなどについては購入を検討する。</p> |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 関連科目                  | 経営関連、マーケティング関連、心理学(消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。  |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 教科書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  | 番号  | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名   | 著者名 | 出版社名 |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 参考書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  | 番号  | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名   | 著者名 | 出版社名 |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 評価方法(基準)              | 技術習得の成長度(グループとしての学び合いを高く評価する)<br>自発的な役割の選択<br>開発プロセス全体での関与の度合い  |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 学生へのメッセージ             | 新しい技術は若い人が活用してこそ効果が発揮されます。少しハードルが高そうな課題ですが、社会の課題を最新技術で解決する経験に挑戦しましょう!   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 担当者の研究室等              | 11号館7階 久保准教授室、針尾准教授室  |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 備考                    |   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |

|               |  |         |                                   |
|---------------|--|---------|-----------------------------------|
| 科目名           | 摂南大学PBLプロジェクトII  | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning II |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 地域志向系                             |
| 配当年次          | 2年   | クラス     |                                   |
| 単位数           | 2  | 履修区分    | 選択科目                              |
| 学期            | 通年集中   | 授業担当者   | 牧野 幸志、久保 貞也                       |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ |         |                                   |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2                                    |         |                                   |

| 授業概要・目的               | <p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>地域の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。</p>   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|-----------------------|---|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標                  | <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の課題を認識する</li> <li>・課題を解決する方法を考える</li> <li>・解決策を実行する</li> <li>・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する</li> </ul> <p>以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。</p>  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業方法と留意点              | <p>学内でのレクチャー(学部講師を含む)、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。</p> <p>プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。</p> <p>参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。</p> <p>自主学習時間を活動前(1時間)と後(2時間)に取る。</p>  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p><b>【授業テーマ】</b><br/>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p><b>【内容】</b><br/>対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけぬ福神漬の続編や販売展開(寝屋川市、京都市ほか)、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント(枚方市)、大学共同のイルミネーションイベント(茨木市)、スポーツ教室運営(門真市)、地域のITスキル測定と教育(摂津市)、歴史資産の展覧会企画(河内町)などである。</p> <p><b>【方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メンバー間のディスカッション</li> <li>・グループワーク</li> <li>・オンラインミーティング</li> <li>・博物館や自治体の見学会</li> <li>・実地調査</li> <li>・企画書や報告書の作成</li> <li>・学外でのプレゼンテーション</li> </ul> <p>など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p><b>【事前学習課題】</b><br/>地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。<br/>事前学習の自主学習時間は、毎週1時間程度とする。その内容をまとめて提出すること。</p> <p><b>【事後学習課題】</b><br/>プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。<br/>事後学習の自主学習時間は、活動後2時間程度とする。活動での気づき、反省点などをまとめて提出すること。</p> |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 関連科目                  | 経営関連、マーケティング関連、心理学(消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 教科書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  |     |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名   | 著者名 | 出版社名 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 参考書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  |     |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名   | 著者名 | 出版社名 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 評価方法(基準)              | 準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価、自主学習の提出などから総合的に評価する。   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 学生へのメッセージ             | 地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。<br>自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 担当者の研究室等              | 11号館7階、牧野准教授室、久保准教授室、針尾准教授室   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 備考                    | 活動内で課された課題に対しては、その後の活動の中で評価・解説を行い、フィードバックをする。<br>自主学習時間の評価も行います。  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |

|               |   |         |                                   |
|---------------|---|---------|-----------------------------------|
| 科目名           | 摂南大学PBLプロジェクトII   | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning II |
| 学部            | 学部共通  | 学科      | 地域志向系                             |
| 配当年次          | 2年  | クラス     |                                   |
| 単位数           | 2   | 履修区分    | 選択科目                              |
| 学期            | 通年集中  | 授業担当者   | 大塚 正人                             |
| ディプロマポリシー(DP) | V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1◎,E科:B◎,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎ |         |                                   |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02439a2, L科:LL02420a2, D科・S科:IL02426a2, P科:YL02421a2, J科:JL02437a2, W科:WL02422a2, N科:NL02418a2            |         |                                   |

| 授業概要・目的               | 本プロジェクトでは、連携先調剤薬局と協働し、PBLに参加した学生が、就職関連イベントを企画・運営・実施する事で、学生のコミュニケーション能力、ファシリテーション能力など、人間的な総合力を育成することを目的とする。就職関連イベントに行くのではなく、就職関連イベントを企画・運営・実施することは、難易度の高い教育プログラムである。その過程で、Active Book Dialog (ABD) の手法を用いてグループ学習を行い、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力で構成される「社会人基礎力」が向上するように設計している。   |                        |                 |    |     |     |      |   |                                   |                        |         |   |                       |                        |                 |   |   |                  |         |
|-----------------------|---|------------------------|-----------------|----|-----|-----|------|---|-----------------------------------|------------------------|---------|---|-----------------------|------------------------|-----------------|---|---|------------------|---------|
| 到達目標                  | <p>【到達目標】<br/>現状の就職関連イベントの問題点・ニーズを踏まえた上で、調剤薬局における理想的な就職関連イベントを企画・運営・実施する。</p> <p>【プロセス】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>理想的な就職関連イベントとは何かを定義できる。</li> <li>現状の就職関連イベントの問題点・ニーズを列挙できる。</li> <li>他のPBLプロジェクト参加学生と協働して、就職関連イベントの具体案を企画できる。</li> <li>他のPBLプロジェクト参加学生と協働して、就職関連イベントの参加者アンケートやイベント広報を立案できる。</li> <li>関係先調剤薬局の担当者とビジネスマナーをわきまえた上で円滑な人間関係を構築できる。</li> <li>就職関連イベントの企画・運営・実施を通して、社会にどんな貢献が出来るか主体的に考えられる。</li> </ol>   |                        |                 |    |     |     |      |   |                                   |                        |         |   |                       |                        |                 |   |   |                  |         |
| 授業方法と留意点              | <p>大学での学びの主役はPBLの受講者である。教員は、PBLの受講者の学びを補助するファシリテーター役に徹するので、いわゆる座学的な講義は一切行わない。教員は、教科書や教材に書いてある知識の伝達は一切行わない(質問には答えます)。</p> <p>具体的には、ABD読書会方式の受講者の主体的な学び合いを行う。すなわち、各回のテーマに沿ってその内容を各自で学習し、B5用紙5枚にまとめ、リレープレゼンテーションにて共有する。</p> <p>ABD読書会については、以下のURLを参照のこと。<a href="http://www.abd-abd.com/">http://www.abd-abd.com/</a></p> <p>講義内容については、Moodleを用いて資料を配付する。また、本講義はアクティブラーニングの手法を積極的に取り入れ、学生が積極的に講義に参加できるよう工夫する。</p> <p>また、大学外での学びについても、振り返りを重視した指導を行う。</p>   |                        |                 |    |     |     |      |   |                                   |                        |         |   |                       |                        |                 |   |   |                  |         |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>4月 学内研修:まず、チームビルディングを行う。就職関連イベントの目的・方法・成果について具体例を調査・検証・評価する事により、理想的な就職関連イベントとは何かを定義する。また、企業ブランド・ミッションについてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>5月 学内研修:就職関連イベントの現状や課題点などについて具体例を調査・検証・評価する事により、現状の就職関連イベントの問題点と改善点とは何かを定義する。また、システム思考についてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>6月 学内研修:理想的な就職関連イベントと現状の就職関連イベントの問題点を比較することで、就職関連イベントの企画のポイントを見いだす。また、組織開発についてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>7月 学内研修:就職関連イベントの具体案を企画する。参加者アンケート、広報ポスター等についても検討する。役割分担を決めた上で、協働する。</p> <p>8月 学内研修:就職関連イベントの具体案を企画する。参加者アンケート、広報ポスター等についても検討する。</p> <p>学外研修:阪神調剤ホールディング株式会社を訪問し、就職関連イベント開催に向けて具体的に協議する。役割分担を決めた上で、協働する。</p> <p>9月 学内研修:中間報告の準備。パワーポイント作成法、プレゼンテーション法について、ABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>10月 学内研修:企画した就職関連イベントを実際に学内で実施してみる。必要であれば企画の練り直しを図るファシリテーション力、タイムマネジメント力の育成を図る。また、ファシリテーション法についてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>11月 学外研修:阪神調剤ホールディング株式会社にて就職関連イベントを実際に行う。役割分担を決めた上で、協働する。</p> <p>学内研修:ふりかえりワークショップを行う。</p> <p>12月 学内研修:最終報告の準備。パワーポイント作成法、プレゼンテーション法について、ABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>1月 学内研修:ふりかえりワークショップを行う。成果報告書の作成。</p> <p>2月 学内研修:成果報告書の作成。</p> <p>事前、事後学習課題 について<br/>事前、事後学習課題についてはその都度指定しますが、時間的には1単位あたり週2時間の事前、事後学習課題の実施を設定致します。</p> |                        |                 |    |     |     |      |   |                                   |                        |         |   |                       |                        |                 |   |   |                  |         |
| 関連科目                  | 教養系、キャリア系科目   |                        |                 |    |     |     |      |   |                                   |                        |         |   |                       |                        |                 |   |   |                  |         |
| 教科書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>人を伸ばす力:内発と自律のすすめ</td> <td>エドワード・L・デン, リチャード・フラスト</td> <td>新曜社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>フロー体験 喜びの現象学</td> <td>M. チクセントミハイ [著]; 今村浩明訳</td> <td>世界思想社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>モチベーション 3.0:持続する「やる気!(ドライブ!)」をいかに引き出すか</td> <td>ダニエル・ピンク著; 大前研一訳</td> <td>講談社</td> </tr> </tbody> </table>   |                        |                 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 人を伸ばす力:内発と自律のすすめ                  | エドワード・L・デン, リチャード・フラスト | 新曜社     | 2 | フロー体験 喜びの現象学          | M. チクセントミハイ [著]; 今村浩明訳 | 世界思想社           | 3 | モチベーション 3.0:持続する「やる気!(ドライブ!)」をいかに引き出すか                    | ダニエル・ピンク著; 大前研一訳 | 講談社     |
| 番号                    | 書籍名   | 著者名                    | 出版社名            |    |     |     |      |   |                                   |                        |         |   |                       |                        |                 |   |   |                  |         |
| 1                     | 人を伸ばす力:内発と自律のすすめ  | エドワード・L・デン, リチャード・フラスト | 新曜社             |    |     |     |      |   |                                   |                        |         |   |                       |                        |                 |   |   |                  |         |
| 2                     | フロー体験 喜びの現象学  | M. チクセントミハイ [著]; 今村浩明訳 | 世界思想社           |    |     |     |      |   |                                   |                        |         |   |                       |                        |                 |   |   |                  |         |
| 3                     | モチベーション 3.0:持続する「やる気!(ドライブ!)」をいかに引き出すか  | ダニエル・ピンク著; 大前研一訳       | 講談社             |    |     |     |      |   |                                   |                        |         |   |                       |                        |                 |   |   |                  |         |
| 参考書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>グロービスMBAで教えているプレゼンの技術:人を動かす勝利の方程式</td> <td>グロービス</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>教え上手になる!:教えと学びのワークブック</td> <td>関根雅泰</td> <td>クロスメディア・パブリッシング</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>東大生が書いた議論する力を鍛えるディスカッションノート 「2ステージ、6ポジション」でつかむ「話し合い」の新発想!</td> <td>吉田雅裕</td> <td>東洋経済新報社</td> </tr> </tbody> </table>   |                        |                 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | グロービスMBAで教えているプレゼンの技術:人を動かす勝利の方程式 | グロービス                  | ダイヤモンド社 | 2 | 教え上手になる!:教えと学びのワークブック | 関根雅泰                   | クロスメディア・パブリッシング | 3 | 東大生が書いた議論する力を鍛えるディスカッションノート 「2ステージ、6ポジション」でつかむ「話し合い」の新発想! | 吉田雅裕             | 東洋経済新報社 |
| 番号                    | 書籍名   | 著者名                    | 出版社名            |    |     |     |      |   |                                   |                        |         |   |                       |                        |                 |   |   |                  |         |
| 1                     | グロービスMBAで教えているプレゼンの技術:人を動かす勝利の方程式   | グロービス                  | ダイヤモンド社         |    |     |     |      |   |                                   |                        |         |   |                       |                        |                 |   |   |                  |         |
| 2                     | 教え上手になる!:教えと学びのワークブック   | 関根雅泰                   | クロスメディア・パブリッシング |    |     |     |      |   |                                   |                        |         |   |                       |                        |                 |   |   |                  |         |
| 3                     | 東大生が書いた議論する力を鍛えるディスカッションノート 「2ステージ、6ポジション」でつかむ「話し合い」の新発想!   | 吉田雅裕                   | 東洋経済新報社         |    |     |     |      |   |                                   |                        |         |   |                       |                        |                 |   |   |                  |         |
| 評価方法(基準)              | PBL活動への参加意欲および貢献度(70%)、学内・学外発表会等への貢献度(30%)<br>準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。?  |                        |                 |    |     |     |      |   |                                   |                        |         |   |                       |                        |                 |   |   |                  |         |
| 学生へのメッセージ             | 医療の現場を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。<br>自分の潜在能力を開花させながら、ファシリテーション能力をうまく使ってチームビルディングによる力を引き出して下さい。  |                        |                 |    |     |     |      |   |                                   |                        |         |   |                       |                        |                 |   |   |                  |         |
| 担当者の研究室等              | 摂南大学校方キャンパス 薬学部薬学科 生命融合化学分野(1号館5階)  |                        |                 |    |     |     |      |   |                                   |                        |         |   |                       |                        |                 |   |   |                  |         |
| 備考                    |   |                        |                 |    |     |     |      |   |                                   |                        |         |   |                       |                        |                 |   |   |                  |         |

|               |  |         |                                   |
|---------------|--|---------|-----------------------------------|
| 科目名           | 摂南大学PBLプロジェクトII  | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning II |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 地域志向系                             |
| 配当年次          | 2年   | クラス     |                                   |
| 単位数           | 2  | 履修区分    | 選択科目                              |
| 学期            | 通年集中   | 授業担当者   | 石井 信輝, 水野 武                       |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ |         |                                   |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2                                    |         |                                   |

| 授業概要・目的               | マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には2019年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標                  | 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業方法と留意点              | 年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態(座学、現地調査)を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々や調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | 以下の手続きで授業を展開する<br>1. プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有<br>2. マーケティング手法の学習(座学による)<br>3. 連携先との面談<br>4. 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出<br>5. 学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査<br>6. 広報誌制作準備(広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行)<br>7. 学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施<br>8. まとめと最終報告会                    |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 関連科目                  | チームビルディング  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 教科書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> |     |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 参考書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> |     |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 評価方法(基準)              | 活動報告、活動現場での取り組みをもとに評価する。   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 学生へのメッセージ             | 積極的に活動してください。  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 担当者の研究室等              | 11号館10階 石井研究室<br>7号館3階 水野研究室   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 備考                    | スケジュールに沿って1時間程度を目安として、プロジェクト遂行のための自主学習の時間(事前・事後)をとってください。  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |

|               |  |         |                                   |
|---------------|--|---------|-----------------------------------|
| 科目名           | 摂南大学PBLプロジェクトII  | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning II |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 地域志向系                             |
| 配当年次          | 2年   | クラス     |                                   |
| 単位数           | 2  | 履修区分    | 選択科目                              |
| 学期            | 通年集中   | 授業担当者   | 田井 義人                             |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ |         |                                   |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2                                    |         |                                   |

教養科目

| 授業概要・目的               | <p><b>I 授業概要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・吹田市栄通商店街における地域活性化事業への支援による商店街ブランド作成プロジェクトへの参画(企画・活動・推進・振り返り活動への参画)を行う。</li> <li>・当該活動地域は、顧客獲得において対立構造にある商店街、大規模店、コンビニエンスストアが協働している希有な事例であり、TV等でも紹介された。</li> <li>・2018年度よりプロジェクト事業拡大によりブランド化を模索・推進している地域である。</li> </ul> <p><b>II 目的</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シャッター街に代表される商店街の課題を成功例に学生が参画(前述のとおり)することと事前学習によって自ら設定した課題認識との比較により地域活性化の方法論を学ぶ。</li> </ul>   |      |         |     |      |   |              |      |         |
|-----------------------|--|------|---------|-----|------|---|--------------|------|---------|
| 到達目標                  | <p><b>I 到達目標(共通)</b></p> <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外連絡先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p><b>II 到達目標(本プロジェクト):</b> Iの目標を達成するため、以下のいくつかの修得を行うこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 課題と課題対応した事例を現場体験することで解決プロセスを列挙できること。</li> <li>(2) 課題解決のための課題認識と対応策を具体的に提案できること。</li> <li>(3) 異なる世代間の交流により情報収集のスキルを修得すること。</li> <li>(4) 成功事例を発展させることで他の事例へのPDCAスキルを醸成できること。</li> <li>(5) 行政依存から脱却し地域の市民主体の取り組みの有効性と効果を体験することで自立した政策提案することができること。</li> <li>(6) 地域住民や商店街関係者との地域活性化に尽力する「本気の大人」に出会うことによるコミュニケーション力や「気づき」力を醸成すること。</li> <li>(7) 企画・運営・振り返り資料作成によるPPTのスキル、プレゼンテーションスキルを醸成すること。</li> <li>(8) 企画から振り返りまでの一貫した事業展開への参画によるPDCA活用スキルを修得すること。</li> <li>(9) 地域活性化に必要な知識と活用による各種ステークホルダー間の調整スキルを修得すること。</li> <li>(10) 世代間コミュニケーションスキルを修得すること。</li> </ol>   |      |         |     |      |   |              |      |         |
| 授業方法と留意点              | <p><b>I 授業方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化の進展と中心市街地での後継者不足とともに大規模店やコンビニエンスストアの出店によって商店街が衰退している。シャッターが閉められ人通りがほとんど無くなっている商店街も地域には多く存在する。</li> <li>・本プロジェクトは、このような社会状況のなか、プロジェクトを企画・運営する地域交流拠点(コンビニ2階)を中心に市民が商店街や大規模店及びコンビニエンスストアとも協働する様々なブランド形成事業に若者である本学学生の視点を取り入れることにより連携先課題であるシャッター商店街防止策を企画・活動・推進・振り返りを行う。</li> <li>・上記目的の達成のため、大学における事前・事後学習と演習及び地元での課外学習(参画による)によって到達目標へ指導する。</li> <li>・事前学習において、課題設定のブレインストーミングを行い出来ればグループ分けを行う。</li> </ul> <p><b>II 留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記学習、演習に必ず参加すること。特に他の授業やクラブなどの課外活動との時間調整であるタイムマネジメントに留意すること。</li> </ul>   |      |         |     |      |   |              |      |         |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p><b>I 授業テーマ:</b> 商店街を中心とした地域ブランドの創生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前・事後学習及び講義の課外活動に参画してテーマを達成する事業案の参画</li> </ul> <p><b>II 内容、方法、事前・事後学習課題</b></p> <p>(1) 事前・事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスに記載した教科書、参考書を元に事前学習を行う。学習課題の設定の参考とする。</li> <li>・下記課外活動後、事前学習に使用した教科書を元に課外活動等との比較を行う事後学習を行う。</li> <li>・上記を通じて得た「気づき」を発表する。(中間報告会、最終報告会)</li> </ul> <p>(2) 参画する課外活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月頃: WEB稼働及び勉強会。吹田祭企画会議実施。(JR吹田で一番楽しい場として浸透。近隣店舗の参加推進。会員飲食店の営業推進。)</li> <li>・5月～6月: 今後の企画運営検討(エンタメ教室: 地域の子育て世帯の参加者推進。商店街ブランド案の検討: 栄通りの特色を検討、商店会は場提供。)</li> <li>今後の企画運営検討(落研寄席: 近隣住民の参画推進。近隣大学等との連携推進: 地域モデルの模索、新しい形での連携で「イケテル商店街」構築へ)</li> <li>・7月頃: 吹田祭推進、応援</li> <li>・8月以降: エンタメ教室に参加。お茶とお花の教室(親子教室)に参加。落研寄席準備に参加。落研寄席-吹田お笑いグランプリに参加。(予選エントリー本戦16組くらいで決戦、審査員は素人で公平に。継続により商店会のブランドのひとつとなることを目指す。)</li> <li>・随時: 周辺空き家の活用(古民家を活かしたノスタルジック喫茶店?スタバ)による商店街連携検討。</li> <li>・9月頃: エンタメ教室実施。(ミニ四駆をテーマに世代間参加を推進。親子で四駆レースを体験。翌年度吹田祭での大会レースを企画。)</li> <li>・10月頃: 高浜神社 戎祭支援(チラシ配布、各店お店情報掲載、神社から店への誘導)に参加</li> <li>・12月～3月頃: 今年度事業の振り返りと予算策定に参加。翌年度の向けてのWEB委員会年度計画策定二酸化。エンタメ教室、落研寄席予算申請・企画開始に参加。</li> </ul> <p>このスケジュール内に中間報告会、最終報告会がある。</p> |      |         |     |      |   |              |      |         |
| 関連科目                  | 地域の持続的発展 地方自治論 地域実践演習 地域貢献実践演習   |      |         |     |      |   |              |      |         |
| 教科書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>凡人のための地域再生入門</td> <td>木下 齊</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> </tbody> </table>  | 番号   | 書籍名     | 著者名 | 出版社名 | 1 | 凡人のための地域再生入門 | 木下 齊 | ダイヤモンド社 |
| 番号                    | 書籍名  | 著者名  | 出版社名    |     |      |   |              |      |         |
| 1                     | 凡人のための地域再生入門   | 木下 齊 | ダイヤモンド社 |     |      |   |              |      |         |



|               |   |                                    |        |         |
|---------------|---|------------------------------------|--------|---------|
|               | 2   | 商店街再生の罫 売りたいモノから顧客がしたいコトへ          | 久繁哲之介  | ちくま書房   |
|               | 3   | 商店街はなぜ滅びるのか 社会・政治・経済史から探る再生の道      | 新雅史    | 光文社新書   |
| 参考書           | 番号  | 書籍名                                | 著者名    | 出版社名    |
|               | 1   | イギリスに学ぶ商店街再生計画                     | 足立基浩   | ミネルヴァ書房 |
|               | 2   | その島のひとたちは、ひとの話听不懂な精神科医「自殺希少地域」に行くー | 森川すいめい | 青土社     |
|               | 3   |                                    |        |         |
| 評価方法<br>(基準)  | 事前事後学習への参加を必修とする。地域での活動内容の発表やプレゼンテーションを通じて評価を行う。  |                                    |        |         |
| 学生への<br>メッセージ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書1「凡人のための地域再生入門」の黄色部分は必読です。</li> <li>・商店会のメンバは、商店街の発展を通じて地域活性化に努力している「本気の大人」である。彼らとのコミュニケーションを通じて学生個人のコミュニケーションスキルの醸成と課題設定、解決のプロセスを学ぶ。</li> <li>・積極的な活動と活動の糧となる読書を推奨する。</li> <li>・当該商店街だけでなく学生が居住する地域の商店街の課題や地域活性化の課題を発見し対策を模索するプロセスを重視する。</li> <li>・何よりも商店会が主催する企画会議への出席（参画）が基本である。その他の事業参加も推奨する。</li> </ul> |                                    |        |         |
| 担当者の<br>研究室等  | 1号館7階 経済学部 田井義人研究室  |                                    |        |         |
| 備考            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前・事後学習として教科書や参考書の輪読や講評を推奨する。</li> <li>・課外活動に参画することを重視する。</li> <li>・やみくもに参画するのではなく、情報や知識習得のため教科書、参考書などの熟読を進める。</li> </ul>   |                                    |        |         |

|               |  |         |                                   |
|---------------|--|---------|-----------------------------------|
| 科目名           | 摂南大学PBLプロジェクトII  | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning II |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 地域志向系                             |
| 配当年次          | 2年   | クラス     |                                   |
| 単位数           | 2  | 履修区分    | 選択科目                              |
| 学期            | 通年集中   | 授業担当者   | 吉田 佐治子・水野 武                       |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ |         |                                   |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2                                    |         |                                   |

| 授業概要・目的                | <p>【テーマ】<br/>社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」の活動支援プロジェクト</p> <p>【概要】<br/>枚方市に所在する社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」の活動を支援するための企画を立案・実施する。ホームゲームにおける観戦者向けにアンケートを実施し、来場者は何に価値を求めているのを明らかにした上で広報戦略を立案する。また枚方市内における認知度を測定し、認知度向上に向けた施策を行う。<br/>また、2月には摂南大学×FCティアの枚方主催で子ども向けスポーツフェスタを計画している。</p> <p>【目的】<br/>・ホームゲーム来場者が感じる経験価値を測定し、クラブの広報活動に関する提案を行う<br/>・クラブの広報ポスターを作成し、枚方市内の飲食店等で掲示<br/>・近隣市内におけるクラブの認知度向上とホームゲーム観戦者数の増加</p>   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|------------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学外の方々向けに通用するビジネスマナーを修得する</li> <li>・アンケートの集計を通じ、回答者の傾向を読み取ることができる</li> <li>・連携先に企画提案ができる</li> <li>・広報活動(飛び込み営業)を通じ、基本的な営業スキルを感得する</li> <li>・メンバー間とのディスカッションを通じ、他者を理解・共感することができる</li> <li>・親切意識を持ち、「何を、いつまでに、誰が、どうやって」を意識するようになる</li> <li>・メンバー間の連絡・返信コメントを行えるようになる</li> <li>・プレゼンテーションの準備を通じ、PPTの作成スキルが向上する</li> </ul>  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業方法と留意点               | <p>「FC TIAMO 枚方」と連携しつつ、学生が中心となって活動するプロジェクトです。<br/>全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。</p>  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題 | <p>【内容】<br/>ホームゲーム来場者が感じる経験価値を測定し、クラブの広報活動に関する提案を行う。そのことにより、近隣市内におけるクラブの認知度向上とホームゲーム観戦者数の増加を目指す。</p> <p>【方法】<br/>・ホームゲームでのアンケート調査の実施と考察<br/>・連携先へのヒアリングを通じて課題を抽出<br/>・クラブのプロモーション案の展開を作成・評価・検証(連携先の許可により実施)<br/>・近隣市内におけるクラブの認知率測定と認知度の向上のための施策を提案</p> <p>【年間計画(予定)】<br/>4月 マーケティング基礎講座の実施<br/>連携先との顔合わせ<br/>5月 ホームゲーム観戦体験<br/>ホームゲーム来場者向けのアンケートの実施<br/>6月 アンケートの集計と結果を踏まえたイベントの企画立案<br/>7月 枚方市・寝屋川市内における認知度調査(プレ調査)の実施<br/>域内商店街での広報活動の実施<br/>8月 ホームゲームでのイベントの実施<br/>9月 枚方市・寝屋川市内における認知度調査(ポスト調査)の実施<br/>10月 ホームゲーム運営補助<br/>中間報告会<br/>12月 最終報告会とその準備<br/>2月 Sports Festival</p> |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 関連科目                   | 全ての科目  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 教科書                    | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>   |     |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                     | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                      |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                      |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                      |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 参考書                    | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>   |     |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                     | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                      |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                      |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                      |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 評価方法(基準)               | 全体で行う活動やミーティングへの貢献、自分の役割の遂行、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表、連携先からの評価を総合的に判断し評価する。   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 学生へのメッセージ              | プロジェクトの成否は、みなさま一人ひとりにかかっています。それぞれが主体的に取り組み、「FC TIAMO 枚方」を盛り立てていきましょう。  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 担当者の研究室等               | 吉田佐治子(7号館3階)<br>水野武(7号館3階)   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 備考                     | 学外での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等かなりの時間を要します。活動によっても異なりますが、一つの活動に対して、それぞれ5?10時間は必要です。  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |

|               |  |         |                                   |
|---------------|--|---------|-----------------------------------|
| 科目名           | 摂南大学PBLプロジェクトII  | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning II |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 地域志向系                             |
| 配当年次          | 2年   | クラス     |                                   |
| 単位数           | 2  | 履修区分    | 選択科目                              |
| 学期            | 通年集中   | 授業担当者   | 上野山 裕士                            |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ |         |                                   |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2                                    |         |                                   |

| 授業概要・目的               | <p>テーマ：<br/>中山間地域における生活支援体制の構築プロジェクト</p> <p>概要：<br/>和歌山県海草郡紀美野町をフィールドに、中山間地域におけるひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験、その他の作業等を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。</p>  |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|-----------------------|--|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標                  | <p>①中山間地域に暮らし人びとの生活を知り、地域生活やその課題の多様性について説明することができる</p> <p>②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について考えを述べるができる</p> <p>③中山間地域における生活支援体制の構築にかかわる主体について説明することができる</p> <p>④「地域の見守り、支え合い」の担い手としての自覚と責任を身につける</p>   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業方法と留意点              | <p>文献、資料等を用いた学内研修と和歌山県海草郡紀美野町における現地調査を実施します。</p> <p>具体的には、学内研修（地域について学ぶ）→現地調査（地域について知る）→学内研修（地域について考える）→現地調査（地域のために活動する）→学内研修（活動を振り返り、評価する）というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。</p>   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>講義では以下の内容に取り組みます（進捗状況によって変更となる場合があります）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学内研修：紀美野町の人口・産業・伝統・観光・その他の特性について、地域福祉の考え方について、日常生活支援体制の構築方法について、中間報告会および最終報告会に向けた準備について、等（週一回程度；各回の実施に当たってはテーマに応じた自主学習（1時間程度）が求められます）</li> <li>地域での活動：地域視察、地域住民との交流、日常生活支援体制構築に向けた実践、等（月一回程度；学外研修後には活動成果の整理および実施意義の分析にかかる自主学習（2時間程度）が求められます）</li> <li>中間報告会、最終報告会：他のプロジェクトと合同で実施（各一回）</li> </ul> |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 関連科目                  | なし   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 教科書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>   | 番号  | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |  |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |  |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |  |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 参考書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>   | 番号  | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |  |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |  |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |  |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 評価方法(基準)              | 学内研修および地域での活動への主体的な参加および中間／最終報告会に対する貢献度により評価します。   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 学生へのメッセージ             | ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。<br>都会から離れた場所での生活を実際に体験し、暮らしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか？   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 担当者の研究室等備考            |  |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |

|               |  |         |                                   |
|---------------|--|---------|-----------------------------------|
| 科目名           | 摂南大学PBLプロジェクトII  | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning II |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 地域志向系                             |
| 配当年次          | 2年   | クラス     |                                   |
| 単位数           | 2  | 履修区分    | 選択科目                              |
| 学期            | 通年集中   | 授業担当者   | 藤原 京佳, 梅野 将之                      |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ |         |                                   |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2                                    |         |                                   |

| 授業概要・目的               | 「異文化理解・交流を通じた地域貢献プロジェクト」<br>留学生を含む参加学生が異文化理解・交流にかかわる活動(オリジナルかるた、ゲーム、文化紹介教材、演劇等)を企画し、寝屋川市国際交流協会や近隣学校等において実施していく。   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|-----------------------|---|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標                  | 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性をもって前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の想像を目指す。<br>自らの言語・文化資源を活用すると同時に、異なる文化背景をもつ他者と協働し、活動を企画・実行できる。<br>学外の活動を通して地域への理解を深め、地域における異文化理解・交流を促すことができる。<br>プロジェクトにおける自身の貢献および不足点を分析し、省察することができる。   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業方法と留意点              | さまざまな文化背景、価値観をもつ人々と対話・交渉しながら活動を進めていくことになります。  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・週1回のミーティングで活動に関する企画を立案し、進捗等を確認する。</li> <li>・寝屋川市国際交流協会および近隣学校と連絡をとり、活動内容や日程を決める。</li> <li>・必要に応じて本学国際交流センターにおける活動を企画・実施する。</li> <li>・活動内容を報告会等で発表する。</li> </ul> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化理解・交流をテーマにした教材、ゲーム等を作成する。</li> <li>・作成物を使った活動を地域や国際交流センターで実施する。</li> </ul> <p>【事後学習】</p> <p>受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらい、レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。</p> |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 関連科目                  | 人文社会系科目全般、外国語科目全般   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 教科書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  |     |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名   | 著者名 | 出版社名 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 参考書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  |     |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名   | 著者名 | 出版社名 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 評価方法(基準)              | ミーティング、報告会、各活動への貢献度60%、活動日誌およびプロジェクト最終レポート40%   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 学生へのメッセージ             | 他者を知り、地域を知るは自分自身を知ることにもつながると思います。<br>普段自明視している常識、先入観、前提に気づくことから始めてみてください。   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 担当者の研究室等              |   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 備考                    | 自主学習時間の目安は毎週1時間。  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |

|               |  |         |                           |
|---------------|--|---------|---------------------------|
| 科目名           | ソーシャル・イノベーション実務総論  | 科目名(英文) | Social Innovation Studies |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 地域志向系                     |
| 配当年次          | 1年   | クラス     |                           |
| 単位数           | 2  | 履修区分    | 選択科目                      |
| 学期            | 後期   | 授業担当者   | 石井 三恵                     |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B◎, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ |         |                           |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01437a2, L科: LL01418a2, D科・S科: IL01424a2, P科: YL01419a2, J科: JL01435a2, W科: WL01420a2, N科: NL01416a2                        |         |                           |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | <p>この授業を通じて学生には、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ICT部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきていることを理解する。</li> <li>2) ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ないことを理解する。</li> <li>3) グローバル社会において必要とされるビジネス実務ならびにビジネス実務能力とは何かを学ぶ。</li> <li>4) 変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを発揮する自らの職業観を確立する。よくなるのが期待される。</li> </ol> <p>なお、講義は担当講師の民間企業社員、自治体職員として業務経験及び、NPO法人の理事、高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。</p> |
| 到達目標        | <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身に付ける必要性を学ぶ。</li> <li>2) 社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化(多様性)を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」(3つの力)を理解できる。</li> </ol>   |
| 授業方法と留意点    | 第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。また、毎回の座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題に関するプレゼンテーションを行う。  |
| 科目学習の効果(資格) | 「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。   |

| 回数 | 授業テーマ   | 内容・方法等   | 事前・事後学習課題   |
|----|---|--|---|
|    |   |  |   |
| 1  | オリエンテーション   | ・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。<br>・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。<br>・自己紹介後、グループ形成をする。 | ・事前学修: 自己紹介の原案を考えること(2時間)<br>・事後学修: プレゼンテーション資料を熟読すること(2時間)                                   |
| 2  | ビジネスの定義   | ・ビジネスとは何かを考察する。<br>・イノベーションが繰り返し唱えられる理由について考察する。                                   | ・事前学修: テキストの指定箇所を熟読し、ノートにまとめること(2時間)<br>・事後学修: 企業の事例を調べること(2時間)                               |
| 3  | 組織の種類 ー 営利組織と非営利組織ー                                   | ・阪神淡路大震災後、急速に進化したNPO組織について考える。<br>・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。                        | ・事前学修: NPOについて調べること(2時間)<br>・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成すること(2時間)                                 |
| 4  | ビジネス環境をとらえる①ー 経済のグローバル化と高度情報化ー                        | ・グローバル化の明暗について考察する。  | ・事前学修: グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集めること(2時間)<br>・事後学修: 日本のグローバル化に関する小レポートを作成すること(2時間)                |
| 5  | ビジネス環境をとらえる②ー 地球環境問題と少子高齢社会ー                          | ・地球環境問題とジェンダーエンパワーメント指数について考察する。   | ・事前学修: ジェンダーエンパワーメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめること(2時間)<br>・事後学修: 地球市民として考えたことをまとめること(2時間)            |
| 6  | ビジネス現場をとらえるー オフィスからワークプレイスへー                          | ・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。   | ・事前学修: 将来の働き方をイメージし、まとめること(2時間)<br>・事後学修: グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成すること(2時間)          |
| 7  | ビジネス実務能力  | ・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。   | ・事前学修: 働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身に付けるかをまとめること(2時間)<br>・事後学修: 自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめること(2時間) |
| 8  | ビジネス実務の基本①ー 仕事の進め方ー                                   | ・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。   | ・事前学修: 問題プリント①を解くこと(2時間)<br>・事後学修: 問題プリント②を解くこと(2時間)  |
| 9  | ビジネス実務の基本②ー ビジネスと諸活動ー                                 | ・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。   | ・事前学修: CSRについて調べ、まとめること(2時間)<br>・事後学修: 一企業のCSRを選び、レポートを作成すること(2時間)                            |
| 10 | ビジネス実務の基本③ー ビジネスと経営資源ー                                | ・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。   | ・事前学修: 男女共同参画社会に関して調べ、まとめること(2時間)<br>・事後学修: 、ワークライフバランスに関してレポートを作成すること(2時間)                   |
| 11 | ビジネス実務の基本④ー ビジネスとPDCAサイクル/マーケティング活動とコストパフォーマンス(経理財務)ー | ・PDCAサイクルを理解する。<br>・マーケティングとコストの関係について理解する。  | ・事前学修: 業界内の2社CMを比較し、その特徴をまとめること(2時間)<br>・事後学修: CMの必要性の有無に関してレポートを作成すること(2時間)                  |
| 12 | 自己実現とキャリアプランニングー セルフマネジメントと自己啓発ー                      | ・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。<br>・社会の中における自己を位置づける。                        | ・事前学修: 自己振り返りシートを作成すること(2時間)<br>・事後学修: 再度自己振り返りシートを作成し、職業を通じた自己意識をまとめること(2時間)                 |
| 13 | ビジネスプラン①ー 起業への意識ー                                     | ・日常生活での不便な点、改善すべき点を挙げ、提案をするためのグループワークを行う。  | ・事前学修: 各自がテーマを見つけること(2時間)<br>・事後学修: グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行うこと(2時間)                 |

|               |  |                    |  |  |
|---------------|--|--------------------|--|--|
|               |  |                    | ・CM 比較をイノベーションの観点から行う（とくに CSR に関するもの）。 | 間)   |
|               | 14   | ビジネスプラン②           | ・CM 比較プレゼンテーションを準備する。<br>・実際に企画を考える。   | ・事前学修：グループのビジネスプランを発展させること（2時間）<br>・事後学修：グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行うこと（2時間） |
|               | 15   | ビジネスプラン・プレゼンテーション  | ・作成したビジネスプランに基づいて発表する。                 | ・事前学修：プレゼンテーション準備を行うこと（2時間）<br>・事後学修：最終レポートを作成すること（2時間）                            |
| 関連科目          | 「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の科目。   |                    |  |  |
| 教科書           | 番号   | 書籍名                | 著者名                                    | 出版社名   |
|               | 1  | ビジネス実務総論           | 全国大学実務教育協会                             | 紀伊国屋書店   |
|               | 2  |                    |  |  |
|               | 3  |                    |  |  |
| 参考書           | 番号   | 書籍名                | 著者名                                    | 出版社名   |
|               | 1  | 20歳のときに知っておきたかったこと | ティナ・シーリグ                               | 阪急コミュニケーションズ   |
|               | 2  | イノベーションと企業家精神      | P.F. ドラッカー                             | ダイヤモンド社  |
|               | 3  | 「デザイン思考」を超えるデザイン思考 | DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部             | ダイヤモンド社  |
| 評価方法<br>(基準)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク（30%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（40%）を総合的に評価する。</li> <li>・毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンが繰り返される予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。</li> </ul>  |                    |  |  |
| 学生への<br>メッセージ | <p>私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の上の社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。</p> |                    |  |  |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館5階 教育イノベーションセンター（石井）  |                    |  |  |
| 備考            | 予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。  |                    |  |  |

|               |           |         |                              |
|---------------|-----------|---------|------------------------------|
| 科目名           | 組織と経営     | 科目名(英文) | Organizations and Management |
| 学部            | 外国語学部     | 学科      | 外国語学科                        |
| 配当年次          | 2年        | クラス     |                              |
| 単位数           | 2         | 履修区分    | 選択科目                         |
| 学期            | 後期        | 授業担当者   | 西之坊 穂                        |
| ディプロマポリシー(DP) | DP2◎      |         |                              |
| 科目ナンバリング      | LS01409a2 |         |                              |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | <p><b>【授業概要】</b><br/>基本的な企業経営の仕組みについての講義を行います。この講義では、組織論・管理論・戦略論の基本的な用語と概念を学び、それらを用いて具体的な経営現象を説明していきます。<br/>なお、授業担当者の企業人事における実務経験を通じた解説および体験談を用いて説明することで、より深い学生の理解を促します。</p> <p><b>【目的】</b><br/>経営学の基本的な理論と概念を理解すること</p> |
| 到達目標        | <p><b>【到達目標】</b><br/>経営学の基本的な概念や用語を説明できるようにします。<br/>国家公務員一般職試験および地方上級職試験における専門試験で出題される「経営学」を理解できる程度の知識を習得します。</p>  |
| 授業方法と留意点    | 教科書を中心にした講義を行います。講義の理解を促進するために、講義の最後に当日学習した内容の公務員試験の過去問を解いて復習します。さらに、次回の講義では前回の講義内容を振り返ります。  |
| 科目学習の効果(資格) | 国家公務員一般職試験および地方上級職試験における専門試験科目の「経営学」対策   |

| 回数 | 授業テーマ          | 内容・方法 等   | 事前・事後学習課題                 |                          |
|----|----------------|---|---------------------------|--------------------------|
|    |                |   | 事前課題                      | 事後学習                     |
| 1  | イントロダクション      | 本講義のガイダンスを行います。   | シラバスを事前に読んでおくこと           |                          |
| 2  | 企業経営の基本的な仕組み   | 企業、経営、管理、経営資源といったキーワードから、企業経営の基本的な仕組みについて学習します。                             | 事前課題：配付資料を1時間程度読むこと       | 事後学習：配付資料を1時間程度読むこと      |
| 3  | 古典的管理論         | テイラーの科学的管理法およびファヨールの管理過程論について学習します。   | 事前課題：配付資料を1時間程度読むこと       | 事後学習：配付資料を1時間程度読むこと      |
| 4  | フォード・システム      | フォード・システムおよびフォードイズムについて学習し、フォード・システムが世の中に与えた影響や意義について検討します。                 | 事前課題：配付資料を1時間程度読むこと       | 事後学習：配付資料を1時間程度読むこと      |
| 5  | 人間関係論          | メイヨーの人間関係論についてホーソン実験を通じて学習します。  | 事前課題：配付資料を1時間程度読むこと       | 事後学習：配付資料を1時間程度読むこと      |
| 6  | 新人間関係論(1)      | アージュリスの成熟・未成熟理論、マズローの欲求階層説、アルダーファーのERG理論、マクレガーのX理論・Y理論について学習します。            | 事前課題：配付資料を1時間程度読むこと       | 事後学習：配付資料を1時間程度読むこと      |
| 7  | 新人間関係論(2)      | マレーの欲求リスト、マクレランドの達成欲求理論、ハーズバーグの二要因理論について学習します。                              | 事前課題：配付資料を1時間程度読むこと       | 事後学習：配付資料を1時間程度読むこと      |
| 8  | モチベーション理論(1)   | デシの内発的動機付け理論、ロックの目標設定理論の他にモチベーションの内容理論である誇りの理論や目標共有理論について学習します。             | 事前課題：配付資料を1時間程度読むこと       | 事後学習：配付資料を1時間程度読むこと      |
| 9  | モチベーション理論(2)   | モチベーションのプロセス理論である、アダムスの公平理論、ヒュースマンの公平感受性理論、ブルームの期待理論について学習します。              | 事前課題：配付資料を1時間程度読むこと       | 事後学習：配付資料を1時間程度読むこと      |
| 10 | 中間テスト          | 中間テストを行います。テスト終了後、解説を行います。  | 事前課題：第1～9回の配付資料を1時間程度読むこと | 事後学習：配付資料を1時間程度復習しておくこと。 |
| 11 | モチベーション向上の実践   | TESSEIの事例を用いて、ワークを行います。また、企業で実際に導入されているモチベーション向上施策について学習します。                | 事前課題：配付資料を1時間程度読むこと       | 事後学習：配付資料を1時間程度読むこと      |
| 12 | ヒトのマネジメント      | 企業の人事管理について学習します。具体的には、人事評価制度、賃金制度、教育制度について学習した上で、企業がどのような人材を求めているのかを紹介します。 | 事前課題：配付資料を1時間程度読むこと       | 事後学習：配付資料を1時間程度読むこと      |
| 13 | 近代組織論と意思決定論(1) | バーナード革命とサイモンの意思決定理論について学習します。   | 事前課題：配付資料を1時間程度読むこと       | 事後学習：配付資料を1時間程度読むこと      |
| 14 | 近代組織論と意思決定論(2) | バーナード革命とサイモンの意思決定理論について学習します。   | 事前課題：配付資料を1時間程度読むこと       | 事後学習：配付資料を1時間程度読むこと      |
| 15 | DVD視聴          | DVDを視聴し、今後海外展開する上で必要な知識やスキルについてワークを行います。                                    | 事前課題：配付資料を1時間程度読むこと       | 事後学習：配付資料を1時間程度読むこと      |

|      |                 |     |     |      |
|------|-----------------|-----|-----|------|
| 関連科目 | 経営学、経営管理論、経営組織論 |     |     |      |
| 教科書  | 番号              | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|      | 1               |     |     |      |

|               |   |              |           |         |
|---------------|---|--------------|-----------|---------|
|               | 2   |              |           |         |
|               | 3   |              |           |         |
| 参考書           | 番号  | 書籍名          | 著者名       | 出版社名    |
|               | 1   | 経験から学ぶ経営学入門  | 上林憲雄他     | 有斐閣ブックス |
|               | 2   | 経営管理論        | 上野恭裕/馬場大治 | 中央経済社   |
|               | 3   | テキスト経営学（第3版） | 井原久光      | ミネルヴァ書房 |
| 評価方法<br>（基準）  | 定期試験 70%と中間テスト 30%の成績によって評価します。ただし、受講態度やワークへの参加の程度により、加点あるいは減点する場合があります。<br>なお、出席が8割に満たないと単位を認めない場合がある。 |              |           |         |
| 学生への<br>メッセージ | 経営学は、社会で働く上で役立つ知識になります。理論が企業内でどのように活用されているのか等、実経営のエピソードを絡ませて解説します。授業の方法は講義形式になりますが、より主体的に学べるように工夫します。   |              |           |         |
| 担当者の<br>研究室等  | 11号館8階 西之坊講師室   |              |           |         |
| 備考            | 事前事後の総学習時間の目安は60時間。   |              |           |         |



|               |  |         |                                  |
|---------------|--|---------|----------------------------------|
| 科目名           | 大学教養応用   | 科目名(英文) | Applied Learning of Liberal Arts |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 教養特別講義                           |
| 配当年次          | 2年   | クラス     |                                  |
| 単位数           | 2  | 履修区分    | 選択科目                             |
| 学期            | 前期   | 授業担当者   | 大塚 正人, 伊藤 謙, 越 希美江, 原 由紀子, 柳沢 学  |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎   |         |                                  |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 |         |                                  |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | <p>この科目は、プロジェクトベースラーニング形式で学ぶ、学部の枠を越えた教養応用科目です。初年次の大学教養入門と大学教養実践のステップアップの講座としての位置づけです。</p> <p>本科目の目的は、自分の未来のためには「学び」を実践していくことが大切であることを知ることにあります。そして、今後の大学での学びにおいても社会との接点を考えながら学ぶ姿勢を持ってもらうため、大学生として必要な、SDGs(2030年までの世界の目標)などを中心とした教養(社会、経済、環境等)を身に付けます。また、身につけた知識をもとに考え、未来に向けての実践行動に活かすため、シナリオプランニングを活用します。</p> <p>なお、授業担当者伊藤は建設系公団での対外折衝から人材育成まで幅広い実務経験から、社会人としての心がけ、コミュニケーション力の大切さを学生に伝えることができる。柳沢は大手建築会社における研究開発と設計業務の実務経験から、チームワーク力を学生に伝えることができる。原由紀子、越希美江は自治体や医療機関等でのファシリテーション講師の実務経験が豊富であり、多様な学生が入り混じった授業の運営を得意とする。</p> |
| 到達目標        | <p>(1)社会課題を考えるための教養として、SDGs(2030年までの世界の目標)について知り、討議することができる。</p> <p>(2)読書により教養を身につけ、さらに自分が知りたいと思うことについて「テーマ設定」をすることができる。</p> <p>(3)シナリオプランニングを通して、情報収集の方法を知り、実践できる。論理的思考を知り、実践できる。</p> <p>(4)論理的でわかりやすく、効果的なプレゼンテーションをすることができる。</p> <p>(5)ファシリテーション力を身につけ、合意形成を促進するなどチームへの貢献ができる。</p> <p>(6)チームの中でリーダーシップを発揮し、成果が上がる協働作業に貢献ができる。</p>  |
| 授業方法と留意点    | <p>授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。学修法としてABD(アクティブ・ブック・ダイアログ)、テーマ設定のためのQFT、未来を検討するためのシナリオプランニング等の協働学習による学びを体験します。この科目では、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習に取り組むことにより、人間関係のつくり方、チームワークの仕方、リーダーシップ、ものごとに対する柔軟な対応力を身につけます。諸君が積極的に参加することが大切となります。</p>   |
| 科目学習の効果(資格) | <p>社会課題を議論するための教養としてSDGs(2030年までの世界の目標)を知る。自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる。多様なメンバーと意見を交わしながらシナリオを作成することで、違いを活かし合い新しいものを共創する力を育むことができる。</p>   |

| 授業計画 | 回数                                    | 授業テーマ   | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題       |
|------|---------------------------------------|---|---|-----------------|
|      | 1                                     | ガイダンス   | アイスブレイク<br>事前アンケート<br>科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る<br>シナリオプランニング体験<br>振り返りシート | SDGsを調べる(3時間以上) |
| 2    | 世界を知る教養: 2030SDGsを体感する                | 2030SDGsカードゲームを実施する。入門編でも行っているが、そのときとの違いを知る。<br>振り返り、振り返りシート                  | SDGs前文を読み、サマリーの下書きをする(3時間以上)  |                 |
| 3    | 世界を知る教養: SDGs前文                       | 解説、理解度確認クイズ<br>協働学習、プレゼン、対話<br>テーマ設定<br>振り返り、振り返りシート                          | 設定したテーマをリサーチ、それに関連するアカデミックインパクトもリサーチ<br>ワークシート作成(3時間以上)                 |                 |
| 4    | 世界を知る教養: SDGs前文+アカデミックインパクト           | 解説、理解度確認クイズ<br>リサーチの共有<br>「2030年未来タイムズ」を作成<br>プレゼンテーションを実施。<br>振り返り、振り返りシート   | 教科書のP32-97を読み、担当のパート部分のサマリーの下書きをする(3時間以上)                               |                 |
| 5    | 世界を知る教養: SDGs(アジェンダ1-10)              | 解説、理解度確認クイズ<br>協働学習、プレゼン、対話<br>テーマ設定<br>振り返り、振り返りシート                          | 設定したテーマをリサーチ、それに関連するアカデミックインパクトもリサーチ<br>ワークシート作成(3時間以上)                 |                 |
| 6    | 世界を知る教養: SDGs(アジェンダ1-10)+アカデミックインパクト  | 解説、理解度確認クイズ<br>リサーチの共有<br>「2030年未来タイムズ」を作成<br>プレゼンテーションを実施。<br>振り返り、振り返りシート   | 教科書のp98-159を読み、担当のパート部分のサマリーの下書きをする(3時間以上)                              |                 |
| 7    | 世界を知る教養: SDGs(アジェンダ11-17)             | 解説、理解度確認クイズ<br>協働学習、プレゼン、対話<br>テーマ設定<br>振り返り、振り返りシート                          | 設定したテーマをリサーチ、それに関連するアカデミックインパクトもリサーチ<br>ワークシート作成(3時間以上)                 |                 |
| 8    | 世界を知る教養: SDGs(アジェンダ11-17)+アカデミックインパクト | 解説、理解度確認クイズ<br>リサーチの共有<br>「2030年未来タイムズ」を作成<br>プレゼンテーションを実施。<br>シナリオプランニングとは講義 | 振り返りレポート<br>外部環境リサーチ(3時間以上)   |                 |
| 9    | 未来を考える教養: ほぼ確実な未来を考える                 | 解説、課題の共有、提出<br>協働学習<br>振り返り、振り返りシート   | 外部環境リサーチシート作成(3時間以上)  |                 |
| 10   | 未来を考える教養: 不確実な未来を考える①                 | 課題の共有、提出<br>協働学習<br>10年後の未来シナリオづくり  | 外部環境リサーチシート作成(3時間以上)  |                 |

|               |  |                         | 振り返り、振り返りシート   |                           |    |     |     |      |   |              |  |    |   |                       |      |                   |   |  |  |  |
|---------------|--|-------------------------|--|---------------------------|----|-----|-----|------|---|--------------|--|----|---|-----------------------|------|-------------------|---|--|--|--|
|               | 11   | 未来を考える教養： 不確実な未来を考える②   | 課題の共有、提出<br>協働学習<br>10年後の未来シナリオ完成<br>振り返り、振り返りシート                | グループでシナリオ完成（3時間以上）        |    |     |     |      |   |              |  |    |   |                       |      |                   |   |  |  |  |
|               | 12   | 未来を考える教養： 不確実な未来を考える③   | 課題の共有、提出<br>協働学習、プレゼンテーション講義<br>10年後の機会、脅威、対応策検討<br>振り返り、振り返りシート | ポスター作成、プレゼンテーション準備（3時間以上） |    |     |     |      |   |              |  |    |   |                       |      |                   |   |  |  |  |
|               | 13   | 未来を考える教養： プレゼンテーション     | プレゼンテーション実施、質疑応答<br>プレゼンテーション相互評価<br>振り返り、振り返りシート                | 自己の行動計画案作成（3時間以上）         |    |     |     |      |   |              |  |    |   |                       |      |                   |   |  |  |  |
|               | 14   | 未来を考える教養： 未来に向けての行動計画作成 | 課題の共有、協働学習、対話<br>ワールドカフェ実施、行動計画完成<br>振り返り、振り返りシート                | 振り返りレポート2回目（3時間以上）        |    |     |     |      |   |              |  |    |   |                       |      |                   |   |  |  |  |
|               | 15   | 全体振り返り                  | 全体を通しての学びの整理、共有、振り返り   | 振り返りレポート2回目（3時間以上）        |    |     |     |      |   |              |  |    |   |                       |      |                   |   |  |  |  |
| 関連科目          | 摂南大学で開講されている科目のすべて？  |                         |  |                           |    |     |     |      |   |              |  |    |   |                       |      |                   |   |  |  |  |
| 教科書           | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>SDGs アジェンダ前文</td> <td></td> <td>国連</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>未来を変える目標 SDGs アイデアブック</td> <td>蟹江憲史</td> <td>紀伊國屋書店 1,800円(税別)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> |                         |  |                           | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | SDGs アジェンダ前文 |  | 国連 | 2 | 未来を変える目標 SDGs アイデアブック | 蟹江憲史 | 紀伊國屋書店 1,800円(税別) | 3 |  |  |  |
| 番号            | 書籍名  | 著者名                     | 出版社名   |                           |    |     |     |      |   |              |  |    |   |                       |      |                   |   |  |  |  |
| 1             | SDGs アジェンダ前文   |                         | 国連   |                           |    |     |     |      |   |              |  |    |   |                       |      |                   |   |  |  |  |
| 2             | 未来を変える目標 SDGs アイデアブック  | 蟹江憲史                    | 紀伊國屋書店 1,800円(税別)  |                           |    |     |     |      |   |              |  |    |   |                       |      |                   |   |  |  |  |
| 3             |  |                         |  |                           |    |     |     |      |   |              |  |    |   |                       |      |                   |   |  |  |  |
| 参考書           | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>   |                         |  |                           | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |              |  |    | 2 |                       |      |                   | 3 |  |  |  |
| 番号            | 書籍名  | 著者名                     | 出版社名   |                           |    |     |     |      |   |              |  |    |   |                       |      |                   |   |  |  |  |
| 1             |  |                         |  |                           |    |     |     |      |   |              |  |    |   |                       |      |                   |   |  |  |  |
| 2             |  |                         |  |                           |    |     |     |      |   |              |  |    |   |                       |      |                   |   |  |  |  |
| 3             |  |                         |  |                           |    |     |     |      |   |              |  |    |   |                       |      |                   |   |  |  |  |
| 評価方法<br>(基準)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組み姿勢（チーム：20%）</li> <li>・新聞作り／発表（チーム：20%）</li> <li>・振り返りレポート 2回（個人：20%）</li> <li>・理解度確認クイズ（個人：10%）</li> <li>・外部環境リサーチ 3回（20%）</li> </ul> ・振り返りシート（個人：10%）<br>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。<br>なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。   |                         |  |                           |    |     |     |      |   |              |  |    |   |                       |      |                   |   |  |  |  |
| 学生への<br>メッセージ | この授業では、すべての学部、学科の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生として未来を創っていくための教養、コミュニケーション力、ファシリテーション力、学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。？  |                         |  |                           |    |     |     |      |   |              |  |    |   |                       |      |                   |   |  |  |  |
| 担当者の<br>研究室等  | 大塚正人（薬学部1号館5F）、伊藤謙（1号館3F）、柳沢学（8号館3F）、喜多大三（7号館8F）、水野武（7号館3F）、原由紀子（非常勤講師室）、越希美江（非常勤講師室）  |                         |  |                           |    |     |     |      |   |              |  |    |   |                       |      |                   |   |  |  |  |
| 備考            | バインダーを用意し、資料を管理します。この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナー～大学教養入門～大学教養実践Ⅰからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を修得することを期待しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。  |                         |  |                           |    |     |     |      |   |              |  |    |   |                       |      |                   |   |  |  |  |

|               |  |         |                                    |
|---------------|--|---------|------------------------------------|
| 科目名           | 大学教養実践   | 科目名(英文) | Practical Learning of Liberal Arts |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 教養特別講義                             |
| 配当年次          | 1年   | クラス     |                                    |
| 単位数           | 2  | 履修区分    | 選択科目                               |
| 学期            | 後期   | 授業担当者   | 伊藤 譲, 越 希美江, 原 由紀子, 藤林 真美, 柳沢 学    |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎   |         |                                    |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 |         |                                    |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | <p>この科目は、チームで協働し、対話を通し学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践科目です。前期の大学教養入門のステップアップ講座としての位置づけです。</p> <p>本科目の目的は、大学生として必要な教養として、文学、社会学や経済学の基礎知識を身につけ、その知識をもとに協働学習により社会課題の解決を体験します。そうすることで、教養としての知識を実社会での実践にむすびつけることを目指します。</p> <p>なお、授業担当者伊藤は建設系公団での対外折衝から人材育成まで幅広い実務経験から、社会人としての心がけ、コミュニケーション力の大切さを学生に伝えることができます。柳沢は大手建築会社における研究開発と設計業務の実務経験から、チームワーク力を学生に伝えることができます。原由紀子、越希美江は自治体や医療機関等でのファシリテーション講師の実務経験が豊富であり、多様な学生が入り混じった授業の運営を得意とする。</p> |
| 到達目標        | <p>(1)大学生として必要な教養レベルを身につけ、実践的に討議することができる。</p> <p>(2)ABDによる読書法を身に付けている。</p> <p>(3)QFTにより、自分が知りたいと思うことのテーマ設定ができるようになる。</p> <p>(4)人間関係のつくり方、チームワーク能力、リーダーシップを身に付けることができる。</p> <p>(5)論理的でわかりやすいプレゼンテーションをすることができる。</p> <p>(6)ファシリテーションの基礎能力を身に付け、協働学習を進めることができる。</p>  |
| 授業方法と留意点    | <p>授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。大学生として必要な教養を身につけ、身につけた教養、知識をもとに、社会課題の解決策を協働学習により検討します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。?</p>  |
| 科目学習の効果(資格) | <p>大学生に必要な教養の知識が身につく、それを元に社会課題について討議できる。ABD, QFT 法等の協働学習の方法が身につく。</p>   |

| 回数 | 授業テーマ                 | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題   |
|----|-----------------------|---|---|
|    |                       |   |   |
| 1  | ガイダンス                 | アイスブレイク<br>事前アンケート<br>科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る<br>チームづくり+振り返りの大切さ     | 「星の王子さま」1章?12章を読み、サマリーの下書き(3時間以上)                   |
| 2  | 教養としての文学に触れる:「星の王子さま」 | 教科書の紹介、概要<br>ABDによる学習の進め方の説明<br>ABDにチャレンジ<br>振り返り、振り返りシート           | 「星の王子さま」13章?24章を読んでサマリーの下書き(3時間以上)                  |
| 3  | 教養としての文学に触れる:「星の王子さま」 | 解説<br>協働学習、プレゼン、対話<br>振り返り、振り返りシート                                  | 「星の王子さま」25章?27章を読んでサマリーの下書き(3時間以上)                  |
| 4  | 教養としての文学に触れる:「星の王子さま」 | 解説<br>協働学習、プレゼン、対話<br>QFTにより、探求テーマだし<br>振り返り、振り返りシート                | 探求テーマのリサーチ、検討(3時間以上)                                |
| 5  | 教養としての文学に触れる:中間成果発表   | 解説<br>前回課題の共有、対話<br>ポスター作成<br>プレゼン、質疑応答<br>振り返り、振り返りシート             | 振り返りレポート1回目<br>「未来の年表」P3-79を読み、サマリーの下書きをする(3時間以上)   |
| 6  | 教養として社会課題を知る:「未来の年表」  | 教科書の紹介<br>解説<br>協働学習、プレゼン、対話、<br>理解度確認クイズ、振り返りシート                   | 「未来の年表」P3-79から、重要なキーワードとキーセンテンスを抜き出し調べてくる(3時間以上)    |
| 7  | 教養として社会課題を知る:「未来の年表」  | キーワードの共有、解説<br>QFTによる探求テーマだし<br>大切な質問作り<br>振り返り、振り返りシート             | 探求テーマの調査(3時間以上)                                     |
| 8  | 教養として社会課題を知る:「未来の年表」  | 探求テーマの調査の共有、提出<br>テーマ別ポスター作り<br>プレゼンテーションを実施する<br>相互評価、振り返り、振り返りシート | 「未来の年表」P80-146を読み、サマリーの下書きをする(3時間以上)                |
| 9  | 教養として社会課題を知る:「未来の年表」  | 解説、<br>協働学習、プレゼン、対話、<br>理解度確認クイズ、振り返り<br>振り返り、振り返りシート               | 「未来の年表」p80-146から、重要なキーワードとキーセンテンスを抜き出し、調べてくる(3時間以上) |
| 10 | 教養として社会課題を知る:「未来の年表」  | キーワードの共有、解説<br>QFTによる探求テーマだし<br>大切な質問作り<br>振り返り、振り返りシート             | 探求テーマの調査(3時間以上)                                     |
| 11 | 教養として社会課題を知る:「未来の年表」  | 探求テーマの調査の共有、提出<br>テーマ別ポスター作り<br>プレゼンテーションを実施する<br>振り返り、振り返りレポート     | 「未来の年表」第2部を読む(3時間以上)                                |
| 12 | 教養として社会課題を知る:「未来の年表」  | 自分たちで解決策を考えたい社会課題<br>テーマを決める<br>理解度確認クイズ、振り返り<br>振り返り、振り返りレポート      | 解決策の検討(3時間以上)                                       |

|               | 13   | 教養として社会課題を知る：「未来の年表」 | 解決策を検討、ポスター作成<br>プレゼンテーション準備<br>振り返り、振り返りレポート | ポスター作成、プレゼンテーション準備(3時間以上) |    |     |     |      |   |        |          |           |   |       |      |              |   |  |  |  |
|---------------|--|----------------------|---|---------------------------|----|-----|-----|------|---|--------|----------|-----------|---|-------|------|--------------|---|--|--|--|
|               | 14   | 教養として社会課題を知る：最終発表    | ポスター作成<br>発表・質疑応答<br>振り返り、振り返りレポート            | 振り返りレポート2回目(3時間以上)        |    |     |     |      |   |        |          |           |   |       |      |              |   |  |  |  |
|               | 15   | 全体振り返り               | 全体を通しての学びの整理、共有、振り返り                          | 振り返りレポート2回目(3時間以上)        |    |     |     |      |   |        |          |           |   |       |      |              |   |  |  |  |
| 関連科目          | 摂南大学で開講されている科目のすべて？  |                      |   |                           |    |     |     |      |   |        |          |           |   |       |      |              |   |  |  |  |
| 教科書           | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>星の王子さま</td> <td>サンテグジュペリ</td> <td>新潮文庫 476円</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>未来の年表</td> <td>河合雅司</td> <td>講談社現代新書 760円</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> |                      |   |                           | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 星の王子さま | サンテグジュペリ | 新潮文庫 476円 | 2 | 未来の年表 | 河合雅司 | 講談社現代新書 760円 | 3 |  |  |  |
| 番号            | 書籍名  | 著者名                  | 出版社名  |                           |    |     |     |      |   |        |          |           |   |       |      |              |   |  |  |  |
| 1             | 星の王子さま   | サンテグジュペリ             | 新潮文庫 476円                                     |                           |    |     |     |      |   |        |          |           |   |       |      |              |   |  |  |  |
| 2             | 未来の年表  | 河合雅司                 | 講談社現代新書 760円                                  |                           |    |     |     |      |   |        |          |           |   |       |      |              |   |  |  |  |
| 3             |  |                      |   |                           |    |     |     |      |   |        |          |           |   |       |      |              |   |  |  |  |
| 参考書           | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>   |                      |   |                           | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |        |          |           | 2 |       |      |              | 3 |  |  |  |
| 番号            | 書籍名  | 著者名                  | 出版社名  |                           |    |     |     |      |   |        |          |           |   |       |      |              |   |  |  |  |
| 1             |  |                      |   |                           |    |     |     |      |   |        |          |           |   |       |      |              |   |  |  |  |
| 2             |  |                      |   |                           |    |     |     |      |   |        |          |           |   |       |      |              |   |  |  |  |
| 3             |  |                      |   |                           |    |     |     |      |   |        |          |           |   |       |      |              |   |  |  |  |
| 評価方法<br>(基準)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組み姿勢(チーム:30%)</li> <li>・ポスター/発表(チーム:20%)</li> <li>・振り返りレポート 2回(個人:20%)</li> <li>・振り返りシート(個人:10%)</li> <li>・理解度確認クイズ(個人:20%)</li> </ul> <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。<br/>なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。</p>  |                      |   |                           |    |     |     |      |   |        |          |           |   |       |      |              |   |  |  |  |
| 学生への<br>メッセージ | この授業では、すべての学部学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎、コミュニケーション力、ファシリテーション力、と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。？  |                      |   |                           |    |     |     |      |   |        |          |           |   |       |      |              |   |  |  |  |
| 担当者の<br>研究室等  | 伊藤謙(1号館3F)、柳沢学(8号館3F)、大塚正人(薬学部1号館5F)、喜多大三(7号館8F)、藤林真美(総合体育館1F)、水野武(7号館3F)、原由紀子(非常勤講師室)、越希美江(非常勤講師室)  |                      |   |                           |    |     |     |      |   |        |          |           |   |       |      |              |   |  |  |  |
| 備考            | バインダーを用意し、資料を管理します。この科目は前期の大学教養入門と同じスタイルの教養を学びながら学習法を身につけることを期待した科目です。また、学部や学科を越えた多くの友人を見つけてください。？   |                      |   |                           |    |     |     |      |   |        |          |           |   |       |      |              |   |  |  |  |

|               |  |         |                              |
|---------------|--|---------|------------------------------|
| 科目名           | 大学教養入門   | 科目名(英文) | Introduction to Liberal Arts |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 教養特別講義                       |
| 配当年次          | 1年   | クラス     |                              |
| 単位数           | 2  | 履修区分    | 選択科目                         |
| 学期            | 前期   | 授業担当者   | 荻田 喜代一・伊藤 謙・大塚 正人            |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎   |         |                              |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 |         |                              |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | <p>本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身に付けるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身に付けるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身に付けることを目指します。</p> <p>なお、授業担当者伊藤は建設系公団での対外折衝から人材育成まで幅広い実務経験から、社会人としての心がけ、コミュニケーション力の大切さを学生に伝えることができます。柳沢は大手建築会社における研究開発と設計業務の実務経験から、チームワーク力を学生に伝えることができます。藤林真美は医療機関での運動指導の業務に従事した実務経験から、対話力を学生に伝えることができます。</p> <p>授業担当者伊藤は建設系公団での対外折衝から人材育成まで幅広い実務経験から、社会人としての心がけ、コミュニケーション力の大切さを学生に伝えることができます。柳沢は大手建築会社における研究開発と設計業務の実務経験から、チームワーク力を学生に伝えることができます。石井は企業、自治体、NPOの運営等の実務経験から社会人基礎力全般の教育を専門としている。</p> |
| 到達目標        | <p>(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身に付けている。</p> <p>(2)ABDによる読書法を身に付けている。</p> <p>(3)チームワーク能力を身に付け、対話を通じた協働学習をすることができる。</p> <p>(4)SDG s と UNAI について基礎的な知識を身に付けている。</p> <p>(5)読書の意義を理解して読書習慣を身に付けている。</p> <p>(6)コミュニケーション能力を身に付け、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。</p>   |
| 授業方法と留意点    | <p>授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 学修法を中心として、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。</p>  |
| 科目学習の効果(資格) | <p>大学生に必要な教養の基礎知識が身につく。 ABD 法等の協働学習の方法が身につく。</p>  |

| 回数 | 授業テーマ                                    | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題                             |
|----|--|---|---------------------------------------|
|    |  |   |                                       |
| 1  | ガイダンス<br>「大人の教養」序章 私たちはどこから来て、何処へ行くのか    | アイスブレイク<br>事前アンケート<br>科目の特徴、どのような力が身につくのか<br>「教養とは何か？」<br>ABD の体験 | 「おとなの教養」第二章を読むこと(1.5時間以上)             |
| 2  | 教養入門:「大人の教養」第二章 宇宙                       | 教科書の紹介、概要<br>チーム作り、授業の約束事<br>ABD による学習の進め方の説明<br>ABD 法に挑戦「第二章 宇宙」 | 「おとなの教養」第六章を読むこと(1.5時間以上)             |
| 3  | 教養入門:第六章 歴史                              | 解説<br>協働学習、対話<br>理解度確認クイズ、振り返り                                    | 「おとなの教養」第四章を読むこと(1.5時間以上)             |
| 4  | 教養入門:第四章 人間と病気                           | 解説<br>協働学習、対話<br>理解度確認クイズ、振り返り                                    | 「おとなの教養」第一章を読むこと(1.5時間以上)             |
| 5  | 教養入門:第一章 宗教                              | 解説<br>協働学習、対話<br>理解度確認クイズ、振り返り<br>中間発表テーマの決定                      | 中間発表の下調べ、ポスターの案(3時間以上)                |
| 6  | 教養入門:中間成果発表                              | ポスター作成の説明<br>プレゼン、質疑応答<br>振り返り                                    | ポスターの改善、プレゼンの改善<br>振り返りレポート1回目(3時間以上) |
| 7  | 教養入門:中間成果発表                              | ポスター改善<br>発表・質疑応答<br>振り返り   | SDG s とは何か調べる(3時間以上)                  |
| 8  | 世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ?          | SDG s の概要<br>SDG s ゲーム<br>理解度確認クイズ、振り返り                           | チーム学習の振り返り(1.5時間以上)                   |
| 9  | 世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ?          | SDG s とは何か<br>ワールドカフェ方式対話<br>理解度確認クイズ、振り返り                        | UNAI とは何かを調べる(3時間以上)                  |
| 10 | 世界を知る教養:国連アカデミックインパクト?                   | 国連の役割と歴史<br>本学の取り組み<br>理解度確認クイズ、振り返り                              | 振り返り学習:割り当て個所全体の読み返し(2時間以上)           |
| 11 | 自分を知る教養:岸見著「アドラー心理学入門」第二章 アドラー心理学の育児と教養? | 教科書の紹介、はじめに<br>解説<br>協働学習、プレゼン、対話<br>理解度確認クイズ、振り返り                | 「アドラー心理学」第二章まで読むこと(2時間以上)             |
| 12 | 自分を知る教養:第四章 アドラー心理学の基礎理論?                | 解説<br>協働学習、プレゼン、対話<br>理解度確認クイズ、振り返り                               | 「アドラー心理学」第四章を読むこと(1.5時間以上)            |
| 13 | 自分を知る教養:第五章 人生の意味を求めて?                   | 解説<br>協働学習、プレゼン、対話<br>理解度確認クイズ、振り返り<br>中間発表テーマの決定                 | 「アドラー心理学」第五章を読むこと(1.5時間以上)            |
| 14 | 自分を知る教養:中間成果発表                           | ポスター作成  | 振り返りレポート2回目                           |

|               | 表  | 発表・質疑応答<br>振り返り             | (3時間以上)                |     |      |   |        |     |        |   |           |      |            |   |  |  |  |  |
|---------------|--|-----------------------------|------------------------|-----|------|---|--------|-----|--------|---|-----------|------|------------|---|--|--|--|--|
| 15            | 大学教養入門：まとめ   | グループワーク「教養とは何か？」<br>事後アンケート | 振り返りレポート3回目<br>(3時間以上) |     |      |   |        |     |        |   |           |      |            |   |  |  |  |  |
| 関連科目          | 摂南大学で開講されている科目のすべて   |                             |                        |     |      |   |        |     |        |   |           |      |            |   |  |  |  |  |
| 教科書           | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>おとなの教養</td> <td>池上彰</td> <td>NHK 出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>アドラー心理学入門</td> <td>岸見一郎</td> <td>KK ベストセラーズ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号                          | 書籍名                    | 著者名 | 出版社名 | 1 | おとなの教養 | 池上彰 | NHK 出版 | 2 | アドラー心理学入門 | 岸見一郎 | KK ベストセラーズ | 3 |  |  |  |  |
| 番号            | 書籍名  | 著者名                         | 出版社名                   |     |      |   |        |     |        |   |           |      |            |   |  |  |  |  |
| 1             | おとなの教養   | 池上彰                         | NHK 出版                 |     |      |   |        |     |        |   |           |      |            |   |  |  |  |  |
| 2             | アドラー心理学入門  | 岸見一郎                        | KK ベストセラーズ             |     |      |   |        |     |        |   |           |      |            |   |  |  |  |  |
| 3             |  |                             |                        |     |      |   |        |     |        |   |           |      |            |   |  |  |  |  |
| 参考書           | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>                                       | 番号                          | 書籍名                    | 著者名 | 出版社名 | 1 |        |     |        | 2 |           |      |            | 3 |  |  |  |  |
| 番号            | 書籍名  | 著者名                         | 出版社名                   |     |      |   |        |     |        |   |           |      |            |   |  |  |  |  |
| 1             |  |                             |                        |     |      |   |        |     |        |   |           |      |            |   |  |  |  |  |
| 2             |  |                             |                        |     |      |   |        |     |        |   |           |      |            |   |  |  |  |  |
| 3             |  |                             |                        |     |      |   |        |     |        |   |           |      |            |   |  |  |  |  |
| 評価方法<br>(基準)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組み姿勢 (チーム：30%)</li> <li>・ポスター／発表 (チーム：30%)</li> <li>・振り返りレポート 3回 (個人：30%)</li> <li>・理解度確認クイズ (個人：10%)</li> </ul> 以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。<br>なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。  |                             |                        |     |      |   |        |     |        |   |           |      |            |   |  |  |  |  |
| 学生への<br>メッセージ | この科目は全国に先駆けて実施する摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。   |                             |                        |     |      |   |        |     |        |   |           |      |            |   |  |  |  |  |
| 担当者の<br>研究室等  | 荻田喜代一 (7号館 8F, 副学長室), 伊藤譲 (1号館 3F), 柳沢学 (8号館 3F) 大塚正人 (薬学部 1号館 5F), 藤林真美 (総合体育館 1F), 久保貞也 (11号館 7F), 寺内睦博 (11号館 10F), 石井三恵 (7号館 5F)  |                             |                        |     |      |   |        |     |        |   |           |      |            |   |  |  |  |  |
| 備考            | この科目は、入学式～キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを期待しています。また、学部や学科を越えた多くの友人を見つけてください。  |                             |                        |     |      |   |        |     |        |   |           |      |            |   |  |  |  |  |

|               |  |         |                             |
|---------------|--|---------|-----------------------------|
| 科目名           | ダイバーシティとコミュニケーション  | 科目名(英文) | Diversity and Communication |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 教養特別講義                      |
| 配当年次          | 2年   | クラス     |                             |
| 単位数           | 2  | 履修区分    | 選択科目                        |
| 学期            | 後期   | 授業担当者   | 石井 三恵                       |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, DP1◎  |         |                             |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 |         |                             |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | <p>この授業を通じて学生には、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れていることを知る。</li> <li>2) 「境界線」も一つの視野では理解できないことをわかる。</li> <li>3) さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ(多様性)を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。</li> <li>4) ジェンダーの基本的理解はもちろん、ビジネスにおけるダイバーシティマネジメントをジェンダー視点で俯瞰する。</li> </ol> <p>容認することが期待される。</p> <p>なお、講義は担当講師の民間企業社員、自治体職員として業務経験及び、NPO法人の理事、高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。</p> |
| 到達目標        | ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。   |
| 授業方法と留意点    | 第一に学問的探究をもち、偏見なく学が姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。  |
| 科目学習の効果(資格) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダイバーシティマネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。</li> <li>・「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。</li> </ul>  |

| 回数 | 授業テーマ               | 内容・方法等   | 事前・事後学習課題  |
|----|---------------------|--|--|
|    |                     |  |  |
| 1  | オリエンテーション           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダイバーシティの世界へようこそ</li> <li>・政策提言へ向けて</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: ダイバーシティに関して、調べること(1時間)</li> <li>・事後学修: 身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成すること(3時間)</li> </ul>                                |
| 2  | ダイバーシティと境界線         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウチとソトの感覚</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 私たちの周りにおける伝統や習慣について考えること(2時間)</li> <li>・事後学修: 「ウチとソト」に関するレポートを作成すること(2時間)</li> </ul>                                   |
| 3  | ジェンダー視点             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・フェミニズム×女性学+男性学=人間学</li> <li>・時代を生きた女性たち6名に関して調査</li> </ul>                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べること(2時間)</li> <li>・事後学修: 活躍した女性たちに関してグループで文献調査し、まとめること(2時間)</li> </ul>             |
| 4  | 日本の近代化              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・明治の落とし物</li> <li>・グループで時代を生きた女性たちに関するプレゼンテーション</li> </ul>                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 明治・大正・昭和の歴史年表を作成すること(2時間)</li> <li>・事後学修: 明治・大正・昭和の世相と時代を文学の世界から垣間見ることによって、現代にも残存している慣習に関してレポートを作成すること(2時間)</li> </ul> |
| 5  | 国際統計比較              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェンダーギャップ</li> <li>・ジェンダーエンパワーメント指数</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考えること(2時間)</li> <li>・事後学修: 国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成すること(2時間)</li> </ul>                 |
| 6  | 性役割の形成①             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達段階における「刷り込み」</li> <li>・DV/デートDV</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 性役割を理解し、幼児期から振り返ること(2時間)</li> <li>・事後学修: 自らの「刷り込み」体験に関するレポートを作成すること(2時間)</li> </ul>                                    |
| 7  | 性役割の形成②             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・結婚と母性信仰</li> <li>・妊娠と出生前診断</li> <li>・優生保護法と母体保護法</li> <li>・「親になること」と「親であること」の相違</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 共同作業である結婚の意味を見直すと同時に、親役割に関して考えること(2時間)</li> <li>・事後学修: 自らの結婚観に関するレポートを作成すること(2時間)</li> </ul>                           |
| 8  | 「らしさ」とセクシャル・ポリティクス  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・M字型労働力率曲線とビジネスマインドの形成</li> <li>・格差と二極分化</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 日本と世界を比較しながら、女性労働について考えること(2時間)</li> <li>・事後学修: M字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成すること(2時間)</li> </ul>                        |
| 9  | 男女共同参画社会とワークライフバランス | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェンダーマネジメント</li> <li>・働き方改革</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: ワークライフバランスとは何か、政府の見解を調べること(2時間)</li> <li>・事後学修: ワークライフバランスが必要な理由をまとめ、レポートを作成すること(2時間)</li> </ul>                       |
| 10 | 中間プレゼンテーション         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自決めたテーマに関して調査考察した結果を発表する</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 調査考察し、発表準備をすること(2時間)</li> <li>・事後学修: 議論した結果などを加筆し、最終プレゼンに向けて練習すること(2時間)</li> </ul>                                     |
| 11 | アサーティブネス理論①         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界中でアサーティブネスが用いられる理由</li> <li>・政策提言へ向けての中間レポート提出</li> </ul>                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: アサーティブネスについて調べること(2時間)</li> <li>・事後学修: アサーティブに話す練習をすること(2時間)</li> </ul>  |
| 12 | アサーティブネス理論②         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・スキルの必要性を理解し、身に付けることを試みる</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考えること(2時間)</li> <li>・事後学修: アサーティブネス理論を使うことによる自身の変化についてレポートを作成すること(2時間)</li> </ul>                 |

|               | 13  | ダイバーシティマネジメント① | ・企業比較から政策提言へ            | ・事前学修：企業が必ず取り入れているダイバーシティマネジメントについて、事例研究すること（2時間）<br>・事後学修：興味のある企業のダイバーシティマネジメントに関してダイバーシティの視点からの政策提言に関するレポートを作成すること（2時間） |    |     |     |      |   |             |      |       |   |                   |         |         |   |      |        |      |
|---------------|---|----------------|-------------------------|---|----|-----|-----|------|---|-------------|------|-------|---|-------------------|---------|---------|---|------|--------|------|
|               | 14  | ダイバーシティマネジメント② | ・政策提言プレゼンテーション<br>・自由討議 | ・事前学修：事例研究した内容をプレゼンテーションできるよう練習すること（2時間）<br>・事後学修：事例研究した内容をより上手くプレゼンテーションできるよう練習すること（2時間）                                 |    |     |     |      |   |             |      |       |   |                   |         |         |   |      |        |      |
|               | 15  | まとめ            | ・最終レポート提出<br>・まとめ       | ・事前学修：ダイバーシティ・マネジメントについて述べられるようまとめること（2時間）<br>・事後学修：ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめること（2時間）                          |    |     |     |      |   |             |      |       |   |                   |         |         |   |      |        |      |
| 関連科目          | 「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。  |                |                         |   |    |     |     |      |   |             |      |       |   |                   |         |         |   |      |        |      |
| 教科書           | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>共に学ぶ女性学</td> <td>石井三恵</td> <td>泉文堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  |                |                         |   | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 共に学ぶ女性学     | 石井三恵 | 泉文堂   | 2 |                   |         |         | 3 |      |        |      |
| 番号            | 書籍名   | 著者名            | 出版社名                    |   |    |     |     |      |   |             |      |       |   |                   |         |         |   |      |        |      |
| 1             | 共に学ぶ女性学   | 石井三恵           | 泉文堂                     |   |    |     |     |      |   |             |      |       |   |                   |         |         |   |      |        |      |
| 2             |   |                |                         |   |    |     |     |      |   |             |      |       |   |                   |         |         |   |      |        |      |
| 3             |   |                |                         |   |    |     |     |      |   |             |      |       |   |                   |         |         |   |      |        |      |
| 参考書           | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ジェンダーで学ぶ社会学</td> <td>伊藤公男</td> <td>世界思想社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>よくわかるジェンダー・スタディーズ</td> <td>木村 涼子 他</td> <td>ミネルヴァ書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>性と法律</td> <td>角田 由紀子</td> <td>岩波新書</td> </tr> </tbody> </table> |                |                         |   | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | ジェンダーで学ぶ社会学 | 伊藤公男 | 世界思想社 | 2 | よくわかるジェンダー・スタディーズ | 木村 涼子 他 | ミネルヴァ書房 | 3 | 性と法律 | 角田 由紀子 | 岩波新書 |
| 番号            | 書籍名   | 著者名            | 出版社名                    |   |    |     |     |      |   |             |      |       |   |                   |         |         |   |      |        |      |
| 1             | ジェンダーで学ぶ社会学   | 伊藤公男           | 世界思想社                   |   |    |     |     |      |   |             |      |       |   |                   |         |         |   |      |        |      |
| 2             | よくわかるジェンダー・スタディーズ   | 木村 涼子 他        | ミネルヴァ書房                 |   |    |     |     |      |   |             |      |       |   |                   |         |         |   |      |        |      |
| 3             | 性と法律  | 角田 由紀子         | 岩波新書                    |   |    |     |     |      |   |             |      |       |   |                   |         |         |   |      |        |      |
| 評価方法<br>(基準)  | ロールプレイ（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。  |                |                         |   |    |     |     |      |   |             |      |       |   |                   |         |         |   |      |        |      |
| 学生への<br>メッセージ | 皆さんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論、そしてダイバーシティにあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。   |                |                         |   |    |     |     |      |   |             |      |       |   |                   |         |         |   |      |        |      |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館5階 教育イノベーションセンター（石井）   |                |                         |   |    |     |     |      |   |             |      |       |   |                   |         |         |   |      |        |      |
| 備考            | 予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。   |                |                         |   |    |     |     |      |   |             |      |       |   |                   |         |         |   |      |        |      |



|                |  |          |  |
|----------------|--|----------|--|
| 科目名            | 地域貢献実践演習   | 科目名 (英文) | Practical Training for Social Innovation |
| 学部             | 学部共通   | 学科       | 地域志向系                                    |
| 配当年次           | 3年   | クラス      |  |
| 単位数            | 2  | 履修区分     | 選択科目                                     |
| 学期             | 通年集中   | 授業担当者    | 鶴坂 貴恵, 石井 三恵, 上野山 裕士, 藤林 真美, 水野 武        |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ |          |  |
| 科目ナンバリング       | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL03440a2, L科: LL03421a2, D科・S科: IL03427a2, P科: YL03422a2, J科: JL03438a2, W科: WL03423a2, N科: NL03419a2                                    |          |  |

| 授業概要・目的               | この授業は、ソーシャルイノベーション副専攻課程における総仕上げ科目です。これまで、講義やフィールドワークで見つけた学びを総合的に活かして、地域の課題により深く関与し、課題の解決を導くための計画策定から、実施、検証にいたるまでを、学生が主体的に取り組みます。その過程のなかで、理論と実践を結び付け方を体験を通じて学び、新たな成長につなげていくことが目的です。具体的にはグループ単位で地域担当者と密に連携しながら、課題の抽出から解決までの年間計画を立て、現地で実践と振り返りをくりかえしながら、当初立てた目的達成にチャレンジしていきます。              |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標                  | ①これまで学んだ理論を実践に結び付けて、考察し行動することができる。<br>②課題発見から解決までのPDCAサイクルを回すことができる。<br>③チームで活動することができる。<br>④チーム内での役割行動ができる。<br>⑤地域の多様性、独自性などを理解した上で、解決策を提示することができる。   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業方法と留意点              | この授業はグループワークで行います。<br>・学生が主体的に地域の課題を解決するため、フィールドに赴き活動を行います。<br>・中間発表会、最終報告会での発表（チーム単位）、個人別レポートの作成が課せられます。<br>・チームで活動を行うため、コミュニケーションを密にし、役割行動ができることが求められます。<br>・社会に出れば、必ず求められる「報告、連絡、相談」を実践し、チームで情報共有しながら連携先との相互理解を図り、課題解決のための、計画策定から実施、振り返りまで、途中で投げ出すことなく取り組むことが求められます。                  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | この授業は学生がチームごとに主体的にフィールドワークを行っていきませんが、月に1度程度、共有を図り、進捗状況の確認を行います。チームで活動したときには、必ず日誌を作成し、担当教員、連携先、チームメンバーに共有をしてください。また、課題や問題が発生した時には、必ず担当教員に相談をしてください。<br><br>月に1度程度のミーティングの年間スケジュールは第1回目に提示します。<br><br>第1回 4月18日(木) 6時間目 オリエンテーション プロジェクト内容や進め方の説明を行います<br>履修者は必ず出席してください。                  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 関連科目                  | ソーシャルイノベーション副専攻課程関連科目  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 教科書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> |     |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 参考書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> |     |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 評価方法 (基準)             | 活動の取組（自己評価、相互評価、連携先からの評価等）50%、発表会での発表（中間、最終）20%、レポート30%  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 学生へのメッセージ             | PBLより、さらに踏み込んだ活動を行い、応用力や実践力をつけましょう！  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 担当者の研究室等              |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 備考                    | 【事前学習】活動を実施するまでには、チームで議論し役割分担を決め準備を行います。またミーティング等活動をしたときは活動記録を作成ください。そのためには1時間～4時間程度の自主学習時間が必要となります。<br>【事後学習】活動を行った後は、結果をまとめ、チームでミーティングを行い振り返りをしてください。また全体ミーティングに備えて、スライドの作成をしてください。この場合も活動記録を作成してください。これらの活動に1～4時間程度の自主学生時間が必要となります。   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |

|               |  |         |  |
|---------------|--|---------|--|
| 科目名           | 地域と私   | 科目名(英文) | Introduction to Regional Science                 |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 地域志向系  |
| 配当年次          | 1年   | クラス     |  |
| 単位数           | 2  | 履修区分    | 選択科目   |
| 学期            | 前期   | 授業担当者   | 鶴坂 貴恵, 石井 三恵, 稲地 秀介, 上野山 裕士, 久保 貞也, 田中 結華, 藤林 真美 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ |         |  |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01435a2, L科: LL01416a2, D科・S科: IL01422a2, P科: YL01417a2, J科: JL01433a2, W科: WL01418a2, N科: NL01414a2                        |         |  |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 「地域」に焦点を当てて学ぶ意義を理解し、地域ではどのような課題が存在しているかを学ぶために、テーマごとに学習をします。その後、体験学習では過疎地域である由良町を対象として、由良町の現状と課題を知った上で、現地に赴いて、グループ単位で調査の上、解決策を考え発表します。<br>この授業は、講義のテーマによって担当教員が変わるオムニバス授業です。また由良町役場の行政担当者や地元事業者などの実務経験者より、由良町の現状や課題、現在取り組んでいる対応策について講義があります。 |
| 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のことを学ぶ意義を理解する。</li> <li>・地域の課題を理解する。</li> <li>・地域の課題について解決策を提案できる。</li> <li>・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。</li> <li>・グループの中で自分の役割を理解しながら活動できる。</li> </ul>  |
| 授業方法と留意点    | グループで議論等をした上で、グループごとに発表、レポートの作成といったグループワークが中心の授業です。<br>第2回目、3回目は外部講師による体験型の研修となります。<br>第11回目は和歌山県由良町での体験学習となります。<br>グループワークで学習を進めていきますので、グループのメンバーに迷惑がかからないよう責任のある行動をしてください。  |
| 科目学習の効果(資格) |   |

| 回数 | 授業テーマ                                   | 内容・方法等   | 事前・事後学習課題  |
|----|---|--|--|
|    |   |  |  |
| 1  | オリエンテーション<br>4月13日(土)2時間目               | 到達目標や授業方法、成績評価方法等について説明します。<br>地域のことを学ぶ意義を解説します。<br>(鶴坂)   | 【事前学習】<br>シラバスをみて、内容を確認する。<br>地域のことを学ぶことについて自分なりに考える(1時間)<br>【事後学習】<br>地域という視点で新聞等のニュースを探し、読み、自分なりの意見を考える(1時間)   |
| 2  | 自己の探求<br>4月20日(土)                       | 自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。<br>(外部講師・鶴坂)   | 体験型セミナーでの気づきをまとめる(1時間)   |
| 3  | 自己の探求<br>4月21日(日)                       | 自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。<br>(外部講師・鶴坂)   | 体験型セミナーでの気づきを今後、どのように活かすかを考え、レポートをまとめる(2時間)  |
| 4  | 今、地域で何が起きているか<br>5月18日(土)1限             | 人口減少時代の都市・地域の問題や課題について解説し、地域貢献活動の重要性について考えます。<br>(鶴坂)  | 【事前学習】<br>キーワード「消滅可能性都市」について調べる(1時間)。<br>【事後学習】由良町の現状と人口減少等の地域の問題を結びつける。その上で由良町での人口減少の理由を考え、グループでレポートをまとめる(2時間)  |
| 5  | 由良町関係者の講演<br>5月18日(土)2限                 | 和歌山県由良町役場の方に来学いただき、観光・環境・防災・スポーツ・文化、地域医療の各領域の現状や課題をお聞きします。(鶴坂、稲地、藤林、上野山)   | 【事前学習】<br>和歌山県由良町の概要を調べる(1時間)<br>【事後学習】<br>和歌山県由良町の課題をまとめグループでレポートをまとめる(2時間)   |
| 6  | 地域経済・経営<br>-地域の観光・ブランディング<br>5月18日(土)3限 | 観光資源を活用した地域経済の活性化と地域のブランディングについて学習し、都市部と過疎地域での取組の違いを議論します。<br>(鶴坂・久保)  | 【事前学習】<br>地域資源を活用した観光によるまちおこしの事例を調べる(1時間)<br>【事後学習】<br>由良町の観光の目玉を考え、グループでレポートをまとめる(2時間)  |
| 7  | 地域環境・防災<br>-空き家の現状と課題-<br>6月1日(土)1限     | 大都市周辺市街地と地方農山村部とは空き家を取り巻く状況は異なります。地域特性ごとに異なる空き家の現状と課題を学習し、寝屋川市や和歌山県下の市町村などを対象とした空き家対策などについて議論します。<br>(稲地)                | 【事前学習】<br>授業前に国内の空き家問題を概観するために、国土交通省や自治体などが行っている調査結果、対策、制度など情報をインターネットなどで収集・整理しておくこと(1時間)<br>【事後学習】<br>授業後は議論した内容をふまえて、由良町における空き家対策について検討し、グループでレポートをまとめる(2時間) |
| 8  | 地域政策・文化<br>-地域とスポーツ-<br>6月1日(土)2限       | 地域とスポーツとの関連;「トップスポーツ(プロ野球やプロサッカー、ラグビーのトップリーグ、都道府県対抗駅伝など)との循環による郷土愛的な地域性」および「地域スポーツクラブにおける住民のスポーツ参加」について理解・議論します。<br>(藤林) | 【事前学習】<br>事前に提示するキーワードについて予習しておくこと(1時間)<br>【事後学習】<br>授業ノート等で復習の上、由良町にける地域スポーツを振興するための方策を検討しグループでレポートをまとめる(2時間)   |
| 9  | 地域医療<br>-地域で健康な生活を送るには?-<br>6月15日(土)1限  | 民が活用できる、組織、サービス、専門職について理解し、地域で健康な生活を送るための課題を多様な視点から話し合います。   | 【事前学習】事前に提示するキーワードについて各自調べておくこと(1時間)<br>【事後学習】<br>授業で発表された内容について整理し、由良町の地  |

|               |  | (田中・上野山)   | 域医療の課題についてまとめグループでレポートにまとめる(2時間)  |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|---------------|--|--|---|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 10            | 事前学習<br>グループワーク<br>6月15日(土)2、3限  | 由良町を対象として、地域経済・経営、地域政策・文化、地域環境・防災、地域医療のどの切り口で課題発見や解決策に取組むかをグループで検討します。また、グループ内での分担を決めます。(鶴坂、稲地、藤林、上野山) | 【事前学習】<br>グループでどの領域の問題を取り扱うか決めておく(1時間)<br>【事後学習】<br>由良町でのフィールドワークの準備を行う(2時間)                                    |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 11            | 体験学習<br>(和歌山県由良町)<br>6月29日(土)終日  | 由良町に出かけ、フィールドワーク(調査)を行います。(鶴坂、稲地、藤林、上野山)   | 【事前学習】<br>現地で調べることについて予備調査しておく(1時間)<br>【事後学習】<br>現地で得られた情報をまとめておく(2時間)  |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 12            | プレゼンテーション講座<br>7月6日(土)1限   | プレゼンテーションについての解説、パワーポイントによる資料作成方法の解説をします。<br>(石井、鶴坂)   | 【事前学習】<br>現地で得た情報をまとめておく(1時間)<br>【事後学習】<br>スライドをつくってみる(2時間)   |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 13            | 事後学習①<br>グループワーク<br>7月6日(土)2限  | 現地で得た情報の整理をもちより、発表できる形にしていきます。<br>(鶴坂、稲地、藤林、上野山)   | 【事前学習】<br>グループで情報を共有化しておく(2時間)<br>【事後学習】<br>発表できるよう準備をする(4時間)   |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 14            | 事後学習②<br>成果発表会<br>7月20日(土)1、2限   | 作成したスライドを使い、成果発表を行います。<br>(鶴坂、稲地、藤林、上野山)   | 【事前学習】<br>発表の練習を行う(4時間)<br>【事後学習】<br>他のグループの取組内容の整理をする(1時間)<br>発表したときのコメントや質問を自分たちのグループの発表内容に反映させ、レポート作成に役立たせる。 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 15            | 事後学習③<br>ふりかえり<br>7月21日(土)3限   | 「地域と私」全体の総括、ふりかえりを行います。(鶴坂)  | 【事前学習】<br>これまでのプリントや副専攻課程ガイドブック等を整理する(1時間)<br>【事後学習】<br>副専攻課程ガイドブックの完成、レポート作成(3時間)                              |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 関連科目          | ソーシャル・イノベーション副専攻科目群  |  |   |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 教科書           | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> |  |   | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号            | 書籍名  | 著者名  | 出版社名  |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1             |  |  |   |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2             |  |  |   |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3             |  |  |   |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 参考書           | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> |  |   | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号            | 書籍名  | 著者名  | 出版社名  |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1             |  |  |   |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2             |  |  |   |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3             |  |  |   |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 評価方法<br>(基準)  | グループワークの成果物 40%<br>グループの成果発表 20% (ルーブリック評価)<br>最終レポート 40% 60%で合格とする。   |  |   |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 学生への<br>メッセージ | 地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。   |  |   |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 担当者の<br>研究室等  | 鶴坂研究室 11号館7階   |  |   |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 備考            |  |  |   |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |

|                |  |          |  |
|----------------|--|----------|--|
| 科目名            | 地域連携教育活動 I   | 科目名 (英文) | Community-Based Education Support Activities I |
| 学部             | 学部共通   | 学科       | 教養特別講義   |
| 配当年次           | 2年   | クラス      |  |
| 単位数            | 2  | 履修区分     | 選択科目   |
| 学期             | 通年集中   | 授業担当者    | 吉田 佐治子, 朝日 素明, 谷口 雄一, 林 茂樹                     |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎   |          |  |
| 科目ナンバリング       | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2～IT01432a2, L科: LT01422a2～LT01426a2, D科・S科: IT01428a2～IT01432a2, P科: YT01423a2～YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2～WT01428a2, N科: NT01420a2～NT01424a2 |          |  |

教養科目

| 授業概要・目的               | <p>本科目はサービスマニエールの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。</p> <p>※ 担当者のうち2名は、長く学校に勤務した経験をもっている。また、小学校・中学校での活動では、現職の先生方から直接ご指導いただく。</p>  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標                  | <p>実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。</p>  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業方法と留意点              | <p>原則として、履修申請が可能な学生は、本年2月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受け入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動 I」を初めて履修する学生を対象とする。</p>   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>事前指導1 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備<br/>事前指導2 マナー講座・小中学校の教育現場について<br/>事前指導3 「守秘義務」の意味とその内容について</p> <p>活動準備 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する<br/>活動1～25 受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出)</p> <p>最終報告会 活動報告会を開催する。</p> <p>※注意事項<br/>事前指導に1回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。</p> <p>事前・事後学習課題<br/>学外での活動に際し、各種活動(各受け入れ団体によって異なる)の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成に各1時間程度行う。</p> |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 関連科目                  | <p>教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。</p>  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 教科書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>   |     |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 参考書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>   |     |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 評価方法(基準)              | <p>①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポートの全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。</p>   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 学生へのメッセージ             | <p>大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。</p>  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 担当者の研究室等              | <p>7号館3階(朝日研究室)、7号館4階(谷口研究室)、7号館3階(林研究室)、7号館3階(吉田研究室)</p>  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 備考                    | <p>事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。</p>  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |

|               |   |         |   |
|---------------|---|---------|---|
| 科目名           | 地域連携教育活動Ⅱ   | 科目名(英文) | Community-Based Education Support Activities II |
| 学部            | 学部共通  | 学科      | 教養特別講義  |
| 配当年次          | 3年  | クラス     |   |
| 単位数           | 2   | 履修区分    | 選択科目  |
| 学期            | 通年集中  | 授業担当者   | 吉田 佐治子・朝日 素明・谷口 雄一・林 茂樹                         |
| ディプロマポリシー(DP) | V科:Ⅱ◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B△,C科:Ⅱ◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,W科:DP1◎,N科:DP1◎N:DP1◎  |         |   |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科:IT01428a2～IT01432a2,L科:LT01422a2～LT01426a2,D科・S科:IT01428a2～IT01432a2,P科:YT01423a2～YT01427a2,J科:,W科:WT01424a2～WT01428a2,N科:NT01420a2～NT01424a2 |         |   |

| 授業概要・目的               | <p>本科目はサービスマニエールの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。</p> <p>※ 担当者のうち2名は、長く学校に勤務した経験をもっている。また、小学校・中学校での活動では、現職の先生方から直接ご指導いただく。</p>  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標                  | <p>実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。</p>  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業方法と留意点              | <p>原則として、履修申請が可能な学生は、本年2月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受け入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」を初めて履修する学生を対象とする。</p>  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>事前指導1 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備<br/>事前指導2 マナー講座・小中学校の教育現場について<br/>事前指導3 「守秘義務」の意味とその内容について</p> <p>活動準備 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する<br/>活動1～25 受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出)</p> <p>最終報告会 活動報告会を開催する。</p> <p>※注意事項<br/>事前指導に1回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。</p> <p>事前・事後学習課題<br/>学外での活動に際し、各種活動(各受け入れ団体によって異なる)の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成に各1時間程度行う。</p> |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 関連科目                  | <p>教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。</p>  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 教科書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>   |     |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 参考書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>   |     |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 評価方法(基準)              | <p>①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポートの全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。</p>   |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 学生へのメッセージ             | <p>大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。</p>  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 担当者の研究室等              | <p>7号館3階(朝日研究室)、7号館4階(谷口研究室)、7号館3階(林研究室)、7号館3階(吉田研究室)</p>  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 備考                    | <p>事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。</p>  |     |      |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |

|               |  |         |               |
|---------------|--|---------|---------------|
| 科目名           | チームビルディング  | 科目名(英文) | Team Building |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 教養特別講義        |
| 配当年次          | 1年   | クラス     |               |
| 単位数           | 2  | 履修区分    | 選択科目          |
| 学期            | 前期   | 授業担当者   | 水野 武          |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎   |         |               |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 |         |               |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 成熟社会においては個人の力を集合させてプロジェクトを作り上げる「チームビルディングの思考や技術」を学ぶことが重要である。本科目はチームビルディングの理論を学び、様々なアクティビティを通してチームに貢献する方法を考えられるようになるための授業である。2年生以降に摂南大学 PBL プロジェクトを履修する際にも役立つ。なお、講義は担当者の実務経験に基づいて議論を進めることもある。<br>学科の学習・教育目標との対応: 工学部[A], 理工学部 [I1] |
| 到達目標        | チームで物事を進める際に必要な知識が理解出来るようになり、技能を身につけることを目標とする。  |
| 授業方法と留意点    | 講義は受講生によるアクティビティ・プレゼンテーション・グループワークなどを織り交ぜて進める。  |
| 科目学習の効果(資格) | チームで物事を進める際の基礎知識が身につく。  |

| 回数 | 授業テーマ                         | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題  |
|----|-------------------------------|---|--|
|    |                               |   |  |
| 1  | オリエンテーション                     | ・講義の進め方<br>・なぜチームが必要なのかを知る<br>・チームビルディングとは何かを理解する   | 事前学習: 本科目のシラバスを精読すること。(1時間)<br>事後学修: 講義で配付された資料を見直すこと(1時間)           |
| 2  | チームビルディングとは何か                 | ・自己紹介ワーク<br>・チームビルディングの理論を学ぶ<br>・チームビルディングのための技能を知る | 事後学修: チームにどのように貢献できるかを考える。(1時間)                                      |
| 3  | チームビルディング体験                   | ・ペーパータワーワーク(予定)<br>・チームの10カ条などに取り組み、チームビルディングを体験する  | 事後学修: チームでの取り組みを振り返る。(1時間)   |
| 4  | チームにおけるリーダーとフォロワーの役割          | ・リーダーシップとフォロワーシップを学ぶ<br>・メンバーを支援するための質問術、傾聴術を身につける  | 事前学修: 講義3で出る課題に取り組むこと(1時間)<br>事後学修: 講義で配付された資料を見直すこと(1時間)            |
| 5  | 学習するためのチームづくり                 | ・チームを機能させるために必要な要素を学ぶ                               | 事後学修: 講義で配付された資料を見直すこと(1.5時間)  |
| 6  | 話し合う技術                        | ・チーム話し合う際の技術を学ぶ                                     | 事後学修: 講義で配布された資料を見直すこと(1.5時間)  |
| 7  | ビジネス記事を活用したディスカッション           | 記事を活用して情報の読み取りと活用、自分ならどうするかを考える                     | 事後学修: 講義で身につけた読解技術を日常生活で試してみること(1.5時間)                               |
| 8  | チームビルディングの技術を身につけるためのアクティビティ① | ・ペアワークに取り組み、情報の読み取りと活用、提案することを学ぶ                    | 事前学修: チームにどのように貢献できるかを考えること(1時間)<br>事後学修: 講義で配付された資料を見直すこと(1時間)      |
| 9  | チームビルディングの技術を身につけるためのアクティビティ② | ・グループでニッポンの課題の解決策を考える                               | 事前学修: チームにどのように貢献できるかを考えること(1時間)<br>事後学修: 講義で配付された資料を見直すこと(1時間)      |
| 10 | チームでプロジェクトを企画する               | ・講義の中間おさらい<br>・チームでプロジェクトを企画する                      | 事後学修: チームで課題に取り組むこと(4時間)   |
| 11 | 摂南大学 PBL プロジェクトの紹介①           | 本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介                        | 事後学修: 興味を持ったプロジェクトについて調べること(1.5時間)                                   |
| 12 | 摂南大学 PBL プロジェクトの紹介②           | 本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介                        | 事後学修: 興味を持ったプロジェクトについて調べること。(1.5時間)                                  |
| 13 | プロジェクトのプレゼンテーション              | 第10回目の課題の報告プレゼンテーション                                | 事後学修: チームで発表をする準備をすること(2時間)<br>事後学修: 自チームの発表内容、及び他チームの発表を振り返ること(1時間) |
| 14 | プロジェクトのプレゼンテーション              | 第10回目の課題の報告プレゼンテーション                                | 事後学修: チームで発表をする準備をすること(2時間)<br>事後学修: 自チームの発表内容、及び他チームの発表を振り返ること(1時間) |
| 15 | 講義のまとめと振り返り                   | 講義のおさらいと振り返りを行う                                     | 事前学修: 提出物などの出し忘れがないか確認する。(1.5時間)<br>事後学修: 講義全体を振り返ること。(1時間)          |

|      |   |
|------|---|
| 関連科目 | ・「ソーシャル・イノベーション副専攻科目過程」の科目<br>・キャリアデザインⅠ・Ⅱ、摂南大学 PBL プロジェクト、ソーシャルイノベーション実務総論 |
|------|---|

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     |    |     |     |      |

|               |   |  |  |  |
|---------------|---|--|--|--|
|               | 1   |  |  |  |
|               | 2   |  |  |  |
|               | 3   |  |  |  |
| 評価方法<br>(基準)  | チームでの提出物 20%、チームへの貢献度とワーク後の振り返りシート 30%、個別課題 10%、最終レポート 40% で総合的に評価する。 |  |  |  |
| 学生への<br>メッセージ | ワークやアクティビティを織り交ぜる授業となるので、主体性を持って講義に挑むこと。                              |  |  |  |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館 3階 教育イノベーションセンター (水野研究室)  |  |  |  |
| 備考            | ・参考とする書籍、文献は適宜提示する。   |  |  |  |

|               |        |         |            |
|---------------|--------|---------|------------|
| 科目名           | 哲学から学ぶ | 科目名(英文) | Philosophy |
| 学部            | 外国語学部  | 学科      | 外国語学科      |
| 配当年次          | 2年     | クラス     |            |
| 単位数           | 2      | 履修区分    | 選択科目       |
| 学期            | 前期     | 授業担当者   | 有馬 善一      |
| ディプロマポリシー(DP) |        |         |            |
| 科目ナンバリング      |        |         |            |

教養科目

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | 哲学的な知の営みは、他の学問と比較してどのような独自性、特徴を持つであろうか。本講義では哲学的に問うことの本質を明らかにしながら、いくつかの哲学的・倫理学的問題を取り上げ、受講生と共に考えていく。「人間の心と動物の心」、「悪」、「人生と時間」といったテーマを中心に論じる。 |
| 到達目標        | 哲学的に考えるとはどういうことであるかを理解する。<br>授業で取り上げる個々の哲学・倫理学的テーマに関して、自分なりによく考える。さらに、それを論理的に文章にまとめる力をつける。   |
| 授業方法と留意点    | 授業は講義形式で行うが、受講者同士のディスカッションの時間も組み込む予定。また、必要に応じて資料を配付する。   |
| 科目学習の効果(資格) | 哲学的に考えることとはどういうことであるかを理解し、これを実践することは、学問的に必要であるばかりではなく、人生の様々な局面においても求められるものである。   |

| 回数 | 授業テーマ     | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題                               |
|----|-----------|---|---|
|    |           |   |   |
| 2  | 知識について(1) | どうやって私たちは何かを知るのだろうか。<br>経験論と合理論                               | 授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。 |
| 3  | 知識について(2) | 科学と哲学との対立と対話  | 授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。 |
| 4  | 知識について(3) | 言葉が意味を持つとはどういうことか。<br>どうしてコミュニケーションが可能になるのか。<br>言葉の意味と音としての言葉 | 授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。 |
| 5  | 心の問題(1)   | 心の中というものはあるのだろうか。<br>現象学と行動主義                                 | 授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。 |
| 6  | 心の問題(2)   | 他人の心を知ることはできるのだろうか。<br>独我論と共同主観性                              | 授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。 |
| 7  | 心の問題(3)   | 心と身体の関係はどうなっているのだろうか。<br>身心問題の難しさ。<br>観念論と実在論を越えた身体のある方       | 授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。 |
| 8  | 自由と因果性(1) | 私たちの行為は自由に基づいているのか、それとも、何らかの法則に決定されているのか。<br>カントの倫理思想         | 授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。 |
| 9  | 自由と因果性(2) | 実存哲学の自由に対する捉え方<br>因果性と関係性                                     | 授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。 |
| 10 | 悪について     | 正しいことと悪いこととの区別はどのような根拠があるのか。<br>悪とは何か。                        | 授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。 |
| 11 | 生と死(1)    | 生きることの意味。死ぬこととはどういうことか  | 授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。 |
| 12 | 生と死(2)    | ハイデガーの死に関する思想<br>仏教の死に関する思想                                   | 授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。 |
| 13 | 神について     | 神は存在するのか。<br>魂の不死の問題  | 授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。 |
| 14 | 世界について    | 我々の生きる世界とはいかなるものか。<br>人間の世界における位置。                            | 授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。 |
| 15 | まとめ       | 講義を通じて明らかになった哲学的な考え方の特徴を改めてまとめる。                              | 授業全体をまとめておくこと。                          |

関連科目

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
|     | 1  |     |     |      |

| 参考書 | 番号 | 書籍名          | 著者名  | 出版社名            |
|-----|----|--------------|------|-----------------|
|     | 1  | <子ども>のための哲学  | 永井均  | 講談社現代新書         |
|     | 2  | ダンゴムシに心はあるのか | 森山徹  | PHPサイエンス・ワールド新書 |
|     | 3  | 哲学ってどんなこと?   | ネーゲル | 昭和堂             |

評価方法(基準) 授業内でのレポート・平常点(40%)と授業後のレポート課題(60%)

学生へのメッセージ 大学までは、哲学的なものの考え方を訓練する機会がなかなかなかったと思いますが、これからの困難な時代を生き抜くためには、自分でものを考えることが一番大事です。

担当者の研究室等 7号館4階 有馬研究室

備考 適宜参考資料を紹介する。  
事前事後学習に60時間必要。  
レポートはMoodleを通じて提出してもらい、これにフィードバックをする。



|               |           |         |                       |
|---------------|-----------|---------|-----------------------|
| 科目名           | 日本国憲法     | 科目名(英文) | Japanese Constitution |
| 学部            | 外国語学部     | 学科      | 外国語学科                 |
| 配当年次          | 1年        | クラス     |                       |
| 単位数           | 2         | 履修区分    | 選択科目                  |
| 学期            | 後期        | 授業担当者   | 鳥谷部 壤                 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP2◎      |         |                       |
| 科目ナンバリング      | LS01406a2 |         |                       |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | 現代社会において国家が正当に成立しているというために何が必要か？ それに欠かせない要素の1つは、「政府」が存在していることである。ある一定の領域に一定数の住民がいるというだけでは国家とは言えない。そうした住民を統治する組織体、すなわち政府が必要である。政府は、単なる飾りではなく、実質的な中身を備えていなければならない。では、政府に実質的な中身を持たせる仕組みとは何か？ それが「憲法」である。本講義では、憲法に関する諸問題を取り上げ、具体的な事例にも触れながら、憲法の基本理論について説明する。 |
| 到達目標        | 国家統治の基本的な仕組みを定める諸ルールについて法的な視点から見る目を養う。現代の社会問題のいくつかについて憲法の観点から議論できるようにする。   |
| 授業方法と留意点    | 原則として講義形式で行うが、質疑応答を通じて受講生との双方向理解につとめたい。<br>事前・事後学習は総時間60時間を目安とする。  |
| 科目学習の効果(資格) | 法的思考とはどのようなものか本講義を通して感じられる。各種公務員試験(行政職、警察官、消防官など)の対策にも役立つ。   |

| 回数 | 授業テーマ            | 内容・方法等                     | 事前・事後学習課題                               |
|----|------------------|----------------------------|---|
|    |                  |                            |   |
| 1  | ガイダンス            | 法学の基礎知識、日本国憲法の全体像について説明する。 | 教科書の入手<br>事前：教科書該当箇所の精読<br>事後：要点をノートに整理 |
| 2  | 国家と憲法            | 憲法制定の歴史、立憲主義               | 事前：教科書該当箇所の精読<br>事後：要点をノートに整理           |
| 3  | 統治機構(1)          | 国会                         | 事前：教科書該当箇所の精読<br>事後：要点をノートに整理           |
| 4  | 統治機構(2)          | 内閣                         | 事前：教科書該当箇所の精読<br>事後：要点をノートに整理           |
| 5  | 統治機構(3)          | 裁判所、違憲立法審査権                | 事前：教科書該当箇所の精読<br>事後：要点をノートに整理           |
| 6  | 第5回講義までの復習と中間テスト | 中間テストを実施する。                | 事前：中間テストの準備                             |
| 7  | 人権保障(1)          | 人権の意味、公共の福祉                | 事前：教科書該当箇所の精読<br>事後：要点をノートに整理           |
| 8  | 人権保障(2)          | 幸福追求権、自己決定権、プライバシー権、環境権など  | 事前：教科書該当箇所の精読<br>事後：要点をノートに整理           |
| 9  | 人権保障(3)          | 法の下の平等                     | 事前：教科書該当箇所の精読<br>事後：要点をノートに整理           |
| 10 | 人権保障(4)－精神的自由権①  | 表現の自由、報道の自由                | 事前：教科書該当箇所の精読<br>事後：要点をノートに整理           |
| 11 | 人権保障(5)－精神的自由権②  | 思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由       | 事前：教科書該当箇所の精読<br>事後：要点をノートに整理           |
| 12 | 人権保障(6)          | 経済的自由権                     | 事前：教科書該当箇所の精読<br>事後：要点をノートに整理           |
| 13 | 社会権              | 生存権、教育を受ける権利、教育権           | 事前：教科書該当箇所の精読<br>事後：要点をノートに整理           |
| 14 | 参政権              | 現代日本の選挙制度、政党制度             | 事前：教科書該当箇所の精読<br>事後：要点をノートに整理           |
| 15 | 天皇制/安全保障         | 天皇の地位・権限/平和主義              | 事前：教科書該当箇所の精読<br>事後：要点をノートに整理           |

関連科目 行政法、民法、刑法、国際法の基礎理論、国際社会と法、国際組織法、国際人権法など

| 番号 | 書籍名           | 著者名   | 出版社名 |
|----|---------------|-------|------|
|    |               |       |      |
| 1  | はじめての憲法学【第3版】 | 中村睦男編 | 三省堂  |
| 2  |               |       |      |
| 3  |               |       |      |

| 番号 | 書籍名                        | 著者名           | 出版社名   |
|----|----------------------------|---------------|--------|
|    |                            |               |        |
| 1  | START UP 憲法判例50            | 上田健介・尾形健・片桐直人 | 有斐閣    |
| 2  | 日本国憲法への招待【新版】              | 渋谷秀樹          | 岩波書店   |
| 3  | 憲法を学ぶための基礎知識 論点 日本国憲法【第2版】 | 安念潤司ほか        | 東京法令出版 |

評価方法(基準) 中間テスト(20点)及び学期末テスト(80点)などをもとに総合的に評価する。

学生へのメッセージ 本講義は、憲法に関する基礎知識がない方でも理解できるよう、分かりやすい説明を心がけます。本講義では、単に憲法の条文を暗記するのではなく、条文を基礎に展開される議論に触れ、法的思考方法に慣れてもらいたいと思います。日々の新聞やテレビニュースを憲法の観点から眺め、主体的に語れるようになることを目指しましょう。

担当者の研究室等 11号館10階 鳥谷部特任講師室

備考 講義内容についての疑問点等については、授業後やオフィスアワーで随時受け付けます。また、学習効果を向上させるために、疑問点等を受講者全員で共有するリアクションペーパーを配布することも検討します。

|               |           |         |            |
|---------------|-----------|---------|------------|
| 科目名           | 人間の探求     | 科目名(英文) | Humanities |
| 学部            | 外国語学部     | 学科      | 外国語学科      |
| 配当年次          | 1年        | クラス     |            |
| 単位数           | 2         | 履修区分    | 選択科目       |
| 学期            | 前期        | 授業担当者   | 池田 清       |
| ディプロマポリシー(DP) | DP2◎      |         |            |
| 科目ナンバリング      | LHU1401a2 |         |            |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | フロイトの精神分析は、現在でも多くの批判にさらされているとはいえ、無意識という新しい観点から人間の考え方や振舞い方の意味を考えるその立場は、西欧の伝統的な人間論と深い関係をもっている。授業では、フランスの哲学者デカルト以来の近代の人間論をフロイトの精神分析の過激性と対比させながら、その理論的厳密性を紹介する。また、後半では、授業で得た知識を確認するために、デカルトの考え方を批判的に捉えた映画『Blade Runner』を観る。 |
| 到達目標        | 他者との関係、自分自身との関係、見ることの複雑性、記憶の現在性などに対する問題意識を持つことができる。   |
| 授業方法と留意点    | テキストは使用しない。板書はかなりの量になるので、ノートは必ず準備すること。書き残したノートがないと、試験問題に解答することはできません。参考文献は、そのつど紹介します。   |
| 科目学習の効果(資格) | 人間論によって自分自身の存在＝「私は何ものなのか」、あるいは死＝「私が無になるとは、どういうことなのか」について考えることができる。  |

|      |    |          |                      |              |
|------|----|----------|----------------------|--------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ    | 内容・方法等               | 事前・事後学習課題    |
|      | 1  | はじめに     | 講義の概要                | —————        |
|      | 2  | フロイトの生涯  | フロイトの人生と思想の流れ        | シラバスの熟読      |
|      | 3  | 無意識の存在   | ヒステリー研究              | 前回のノートの見直し   |
|      | 4  | 無意識の存在   | 夢の解釈方法               | 前回のノートの見直し   |
|      | 5  | 心的外傷     | 抑圧の事後性               | 前回のノートの見直し   |
|      | 6  | 心的外傷     | 現実か幻想か               | 前回のノートの見直し   |
|      | 7  | デカルトの思想  | 「私は考える、故に私は存在する」     | 前回のノートの見直し   |
|      | 8  | デカルトの思想  | 欺く神と神の誠実性            | 前回のノートの見直し   |
|      | 9  | 死の欲動     | 糸巻き遊びによる反復強迫         | 前回のノートの見直し   |
|      | 10 | 死の欲動     | 快感原則と現実原則            | 前回のノートの見直し   |
|      | 11 | ラカンの精神分析 | 自我の誕生としての鏡像          | 前回のノートの見直し   |
|      | 12 | ラカンの精神分析 | 言語と無意識               | 前回のノートの見直し   |
|      | 13 | 生と死の意味   | 『Blade Runner』鑑賞     | 前回のノートの見直し   |
|      | 14 | 生と死の意味   | 『Blade Runner』鑑賞及び分析 | 前回のノートの見直し   |
|      | 15 | 試験対策     | 試験問題答案の書き方           | これまでのノートの見直し |

|      |         |
|------|---------|
| 関連科目 | 思想系の科目。 |
|------|---------|

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|          |                               |
|----------|-------------------------------|
| 評価方法(基準) | レポート(20%)、定期試験(80%)により総合的に評価。 |
|----------|-------------------------------|

|           |   |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 自分自身のあり方、人間関係のあり方、生きるあるいは死ぬとはどういうことか、こうした根本的な問題に関して、答えは出ないものの、新しい見方をすることができますと思います。 |
|-----------|---|

|          |               |
|----------|---------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階(非常勤講師室) |
|----------|---------------|

|    |  |
|----|--|
| 備考 | 事前事後の総学習時間の目安は60時間。<br>質問等は出講時に、授業の後また非常勤講師室にて対応します。 |
|----|--|

|               |  |         |                                     |
|---------------|--|---------|-------------------------------------|
| 科目名           | 犯罪被害者の支援と法的救済  | 科目名(英文) | Legal Remedies for Victims of Crime |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 教養特別講義                              |
| 配当年次          | 2年   | クラス     |                                     |
| 単位数           | 2  | 履修区分    | 選択科目                                |
| 学期            | 後期   | 授業担当者   | 小野 晃正                               |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎   |         |                                     |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 |         |                                     |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | <p>・日常的な人間関係や医療過誤を通じて、何らかの犯罪の被害者となった場合、犯罪被害者はどのような対処をとることができるだろうか。</p> <p>・たとえば、医療機関における医療ミス、交友関係をめぐって生じるストーカーやデートDVの被害、近親者からの精神的・肉体的な虐待、学生をカモにする巧妙な儲け話から起因する詐欺被害(マルチ商法)、とりわけ男子学生が陥りやすい出会い系を通じた美人局被害、あるいは、家族が犯罪に遭うことによる経済的損失ないし被害など、事例を挙げればきりがない。</p> <p>・近年、わが国でも犯罪被害に遭った者を支援する制度が構築されつつある。しかし、わが国ではこうした支援ないし救済策が講じられてこなかった期間が長すぎたため、多くの国民にその内容が浸透していない。そのため、依然として被害者は泣き寝入りするか、何も打つ手をとらずに最悪の結果を招来することもある。</p> <p>・本講義では、自身や家族が犯罪被害者となってしまった場合、どのような救済策があるのかをわかりやすく解説し、被害を最小限度にとどめ、さらには犯罪被害者に対する理解を深めることを目的とする。</p> <p>・犯罪被害者を論ずる前に、講義の数回を用いて、まず「加害者」の法的責任、「犯罪者」刑事責任、「犯罪者」の処遇、刑罰の正当化根拠、厳罰化をめぐる諸問題など、犯罪被害者を講じる前提となる伝統的な刑事学の講義を行う。</p> <p>・法的知識は、時代を生き抜く上での一種の「転ばぬ先の杖」(教養)でもあるため、文系や理系を問わず、幅広い学生を履修対象とする。</p> |
| 到達目標        | <p>この講義を通じて学生には、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「被害者」概念について説明できる</li> <li>犯罪被害者の救済制度を挙げ、これを説明できる</li> <li>犯罪被害者の支援制度について理解できる</li> </ul> <p>ようになることが期待される。</p>  |
| 授業方法と留意点    | <p>・原則として講義形式で行うが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答をミニッツペーパーを通じて行う。</p>   |
| 科目学習の効果(資格) | <p>・万が一に犯罪の被害に遭ったとしても、泣き寝入りすることなく、正当な手法による被害回復や救済手段を身につけることができる。</p> <p>・公務員や法律事務所などへの就職に役立ちうる。</p>   |

| 回数 | 授業テーマ                                 | 内容・方法等   | 事前・事後学習課題  |
|----|---------------------------------------|--|--|
| 1  | ガイダンス<br>「加害者」と「犯罪者」<br>「被害者」と「犯罪被害者」 | <ul style="list-style-type: none"> <li>授業の進め方と文献紹介</li> <li>「加害者」の法的責任</li> <li>「加害者」と「犯罪者」</li> <li>「被害者」の意義</li> <li>「犯罪被害者」の意義</li> </ul>                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の入手</li> <li>事前:教科書第1章をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:「犯罪被害者」とは何かについてノートにまとめること(2時間)</li> </ul>  |
| 2  | 少年犯罪の被害者                              | ・少年法と被害者救済   | <ul style="list-style-type: none"> <li>事前:教科書第6章「少年犯罪」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:「少年犯罪からの被害者救済」についてノートにまとめること(2時間)</li> </ul>         |
| 3  | 性犯罪の被害者                               | ・性犯罪被害特有の問題点   | <ul style="list-style-type: none"> <li>事前:教科書第6章「性犯罪」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:「性犯罪被害の特殊性」についてノートにまとめること(2時間)</li> </ul>             |
| 4  | ドメスティックバイオレンス(DV)の被害者                 | ・DV被害の特殊性  | <ul style="list-style-type: none"> <li>事前:教科書第6章「DV」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:「DV被害の特殊性」についてノートにまとめること(2時間)</li> </ul>               |
| 5  | ストーカー犯罪の被害者                           | ・ストーカーへの対抗手段   | <ul style="list-style-type: none"> <li>事前:教科書第6章「ストーカー犯罪」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:「ストーカー被害の特殊性」についてノートにまとめること(2時間)</li> </ul>       |
| 6  | インターネット犯罪の被害者<br>刑事公判と被害者             | ・インターネット犯罪被害の特殊性   | <ul style="list-style-type: none"> <li>事前:教科書第6章「インターネット犯罪」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:「インターネット犯罪被害の特殊性」についてノートにまとめること(2時間)</li> </ul> |
| 7  | 児童虐待の被害者救済                            | ・児童虐待の意義   | <ul style="list-style-type: none"> <li>事前:教科書第6章「児童虐待」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:「児童虐待被害の特殊性」についてノートにまとめること(2時間)</li> </ul>           |
| 8  | 触法精神障害者からの被害                          | ・精神障害者の加害行為と対処法  | <ul style="list-style-type: none"> <li>事前:教科書第6章「触法精神障害者」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:「触法精神障害者からの被害の特殊性」についてノートにまとめること(2時間)</li> </ul>  |
| 9  | 犯罪被害救済総論①                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>被害届と告訴・告発の効果</li> <li>加害者との示談交渉</li> <li>マスコミ対策</li> <li>検察審査会</li> <li>検察審査員</li> <li>審査申立手続</li> <li>検察審査会と被害者</li> <li>起訴議決制度</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>事前:教科書第2章「刑事手続きの流れ」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> <li>事後:「刑事手続きの流れ」についてノートにまとめること(2時間)</li> </ul>         |
| 10 | 犯罪被害救済総論②                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>被害者による裁判傍聴と参加</li> <li>被害者による記録の閲覧と謄写</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>事前:教科書第3章「被害者参加制度」をあらかじめ読むこと(2時間)</li> </ul>  |

|               |   |                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>被害者における心情陳述</li> <li>被害者等特定事項の非公開</li> <li>遺影の持ち込みと公正なる刑事裁判</li> </ul> | 事後：「被害者参加制度」についてノートにまとめること（2時間）  |    |     |     |      |   |                     |                      |        |   |  |  |  |   |  |  |  |
|---------------|---|----------------------|---|--|----|-----|-----|------|---|---------------------|----------------------|--------|---|--|--|--|---|--|--|--|
|               | 11  | 犯罪被害救済総論③            | <ul style="list-style-type: none"> <li>損害賠償命令制度</li> </ul>  | 事前：教科書第4章「損害賠償命令制度」をあらかじめ読むこと（2時間）<br>事後：「損害賠償命令制度の長所と短所」についてノートにまとめること（2時間）     |    |     |     |      |   |                     |                      |        |   |  |  |  |   |  |  |  |
|               | 12  | 犯罪被害救済総論④            | <ul style="list-style-type: none"> <li>被害回復給付金制度</li> </ul>   | 事前：教科書第4章「被害回復給付金制度」をあらかじめ読むこと（2時間）<br>事後：「被害回復給付金制度の長所と短所」についてノートにまとめること（2時間）   |    |     |     |      |   |                     |                      |        |   |  |  |  |   |  |  |  |
|               | 13  | 犯罪被害救済総論⑤            | <ul style="list-style-type: none"> <li>犯罪被害者等給付金支給制度</li> </ul>   | 事前：教科書第7章「犯罪被害者等給付金支給制度」をあらかじめ読むこと（2時間）<br>事後：「犯罪被害者等給付金支給制度」についてノートにまとめること（2時間） |    |     |     |      |   |                     |                      |        |   |  |  |  |   |  |  |  |
|               | 14  | 犯罪被害救済総論⑥            | <ul style="list-style-type: none"> <li>加害者情報へのアクセス</li> <li>法テラス</li> </ul>                                   | 事前：教科書第7章「法テラス」をあらかじめ読むこと（2時間）<br>事後：「法テラス」についてノートにまとめること（2時間）                   |    |     |     |      |   |                     |                      |        |   |  |  |  |   |  |  |  |
|               | 15  | 重要事項のまとめと確認テスト       | 重要事項のまとめ  | 事前：教科書で取り扱った箇所をあらかじめ読むこと（2時間）<br>事後：重要事項についてノートにまとめること（2時間）                      |    |     |     |      |   |                     |                      |        |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 関連科目          | 各学部開講の教養科目・・・法学入門、現代社会と法、日本国憲法<br>法学部開講の専門科目・・・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事政策、少年法、民法、民事訴訟法ほか   |                      |   |  |    |     |     |      |   |                     |                      |        |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 教科書           | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>補訂版 犯罪被害者支援実務ハンドブック</td> <td>第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会</td> <td>東京法令出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> |                      |   |  | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 補訂版 犯罪被害者支援実務ハンドブック | 第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会 | 東京法令出版 | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号            | 書籍名   | 著者名                  | 出版社名  |  |    |     |     |      |   |                     |                      |        |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1             | 補訂版 犯罪被害者支援実務ハンドブック   | 第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会 | 東京法令出版  |  |    |     |     |      |   |                     |                      |        |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2             |   |                      |   |  |    |     |     |      |   |                     |                      |        |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3             |   |                      |   |  |    |     |     |      |   |                     |                      |        |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 参考書           | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>開講時に指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>                                     |                      |   |  | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 開講時に指示する。           |                      |        | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号            | 書籍名   | 著者名                  | 出版社名  |  |    |     |     |      |   |                     |                      |        |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1             | 開講時に指示する。   |                      |   |  |    |     |     |      |   |                     |                      |        |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2             |   |                      |   |  |    |     |     |      |   |                     |                      |        |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3             |   |                      |   |  |    |     |     |      |   |                     |                      |        |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 評価方法<br>(基準)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験（95%）および講義の理解を試すミニッツペーパー（5%）の合計によって評価する。</li> </ul>  |                      |   |  |    |     |     |      |   |                     |                      |        |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 学生への<br>メッセージ | <ul style="list-style-type: none"> <li>事件報道やその後の話、あるいは社会の問題に関心のある学生が受講することをおすすめします。知って得をすることがあっても、損はさせない内容です。</li> </ul>  |                      |   |  |    |     |     |      |   |                     |                      |        |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 担当者の<br>研究室等  | 11号館10階 小野准教授室  |                      |   |  |    |     |     |      |   |                     |                      |        |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 備考            | 講義の理解を試すミニッツペーパーに対するコメントは次回講義の冒頭で行う。  |                      |   |  |    |     |     |      |   |                     |                      |        |   |  |  |  |   |  |  |  |

|               |   |         |                  |
|---------------|---|---------|------------------|
| 科目名           | ビジネスマナー   | 科目名(英文) | Business Manners |
| 学部            | 学部共通  | 学科      | 教養特別講義           |
| 配当年次          | 3年  | クラス     |                  |
| 単位数           | 2   | 履修区分    | 選択科目             |
| 学期            | 後期  | 授業担当者   | 奥田 和子            |
| ディプロマポリシー(DP) | V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B△,C科:II◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,W科:DP1◎,N科:DP1◎N:DP1◎  |         |                  |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科:IT01428a2~IT01432a2,L科:LT01422a2~LT01426a2,D科・S科:IT01428a2~IT01432a2,P科:YT01423a2~YT01427a2,J科:,W科:WT01424a2~WT01428a2,N科:NT01420a2~NT01424a2 |         |                  |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。<br>企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。<br>ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、また経営士としての観点から人間関係について話をします。 |
| 到達目標        | クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。  |
| 授業方法と留意点    | ロールプレイやグループワークを多く取り入れるため、学生の積極的な参加が求められる。  |
| 科目学習の効果(資格) | 社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。   |

教養科目

| 回数 | 授業テーマ                         | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題  |
|----|-------------------------------|---|--|
|    |                               |   |  |
| 1  | オリエンテーション<br>-あいさつの重要性(理論と実践) | ・授業のオリエンテーション<br>・授業のルール<br>・あいさつの真の意味とは<br>・正しい基本姿勢を学ぶ | ・事前学修: ビジネスマナーとは何かを考える。<br>・事後学修: ビジネスマナーの意義とは何か、400字でまとめる。          |
| 2  | 仕事の進め方と組織活動                   | ・定型業務と非定型業務<br>・コスト意識とエコ活動<br>・仕事の基本の8つの意識<br>・話し方と聞き方  | ・事前学修: 仕事の基本の8つの意識について調べる。<br>・事後学修: 仕事の取り組み方の基本は何か、まとめる。            |
| 3  | 目標設定とPDCAサイクル                 | ・目標設定(MBO)<br>・PDCAとは<br>・チームと個人の役割                     | ・事前学修: PDCAについて調べる。<br>・事後学修: あなたの日常生活におけるMBOとPDCAを考え、まとめる(400字以上)。  |
| 4  | スケジュールと出張業務                   | ・スケジュールの作り方<br>・業務としての出張-YTT方式-                         | ・事前学修: あなたの1週間予定表を作成する。<br>・事後学修: あなたの予定表を作成提出し、改善点をまとめる。            |
| 5  | ビジネスの場での敬語表現                  | ・基本的な敬語表現の復習<br>・ビジネスの場での使用方法-TPOをもとに-                  | ・事前学修: 敬語プリント①をする。<br>・事後学修: ケーススタディプリントをする。                         |
| 6  | 電話応対                          | ・ビジネスフォンの扱い方<br>・5W2Hから6W3Hへ<br>・簡潔メモの作り方<br>・不在処理と伝言   | ・事前学修: 電話応対プリントをする。<br>・事後学修: ロールプレイングを繰り返す。                         |
| 7  | 来客応対                          | ・組織図と対応<br>・簡単な応対から不在処理や重複処理まで<br>・名刺交換                 | ・事前学修: 来客対応プリント①をする。<br>・事後学修: 来客対応プリント②をする。                         |
| 8  | ハウ・レン・ソウ                      | ・ビジネスにおける「報連相」<br>・指示の受け方<br>・業務の優先順位                   | ・事前学修: 報告・連絡・相談の重要性について調べる。<br>・事後学修: ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。      |
| 9  | ビジネス文書の基本①                    | ・社外文書が基本<br>・商取引文書と社外文書の相違<br>・社内文書と社外文書の種類<br>・ファイリング  | ・事前学修: ビジネス文書始める前にする。<br>・事後学修: ビジネス文書②をする。                          |
| 10 | ビジネス文書の基本②                    | ・実践   | ・事前学修: ビジネス文書③をする。<br>・事後学修: ビジネス文書④をする。                             |
| 11 | ビジネス通信の基本                     | ・通信手段(電子メール、ファックス等)の選択<br>・作成上の注意点<br>・郵便・宅配便の知識        | ・事前学修: 郵便の知識プリント①をする。<br>・事後学修: メール文書を作成する。                          |
| 12 | 法的業務                          | ・押印と印鑑の意味<br>・内容証明<br>・個人情報保護(Pマーク)<br>・コンプライアンス        | ・事前学修: コンプライアンスについて調べる。<br>・事後学修: 個人情報保護法についてレポートを作成する(400字以上)。      |
| 13 | 設営の基本                         | ・YTT方式からの業務遂行<br>・確認の必要性<br>・他部署とのコミュニケーションの必要性         | ・事前学修: 同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。<br>・事後学修: 設営事例をまとめる。      |
| 14 | 慶弔と贈答                         | ・慶弔時の基本的マナー<br>・「式」について<br>・業務としての贈答                    | ・事前学修: 慶弔・贈答プリント①をする。<br>・事後学修: ビジネス文書(社外社内)、郵便の知識、慶弔のマナーのポイントをまとめる。 |
| 15 | 協働とコミュニケーション                  | ・外国人同僚・異文化への対応<br>・働き方とキャリア開発<br>・公共の場でのマナー             | ・事前学修: ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。<br>・事後学修: 全体をまとめる。         |

|      |                         |
|------|-------------------------|
| 関連科目 | キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ |
|------|-------------------------|

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |

|               |   |     |     |      |
|---------------|---|-----|-----|------|
|               | 2   |     |     |      |
|               | 3   |     |     |      |
| 参考書           | 番号  | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|               | 1   |     |     |      |
|               | 2   |     |     |      |
|               | 3   |     |     |      |
| 評価方法<br>(基準)  | ロールプレイ等のワーク (20%)、複数回のレポート (40%)、期末試験 (40%) を総合的に評価する。  |     |     |      |
| 学生への<br>メッセージ | 近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。 |     |     |      |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)  |     |     |      |
| 備考            | 予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。  |     |     |      |

|               |  |         |                     |
|---------------|--|---------|---------------------|
| 科目名           | プロポーザル・デザイン  | 科目名(英文) | Design and Proposal |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 教養特別講義              |
| 配当年次          | 2年   | クラス     |                     |
| 単位数           | 2  | 履修区分    | 選択科目                |
| 学期            | 後期   | 授業担当者   | 北村 浩                |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, DP1◎  |         |                     |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 |         |                     |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | <p>新しい商品・サービスを共創型でいかに創造するか、企画の提案&amp;設計（プロポーザル・デザイン）の方法論を学習する。特に、企業・消費者等のアイデア・感性を融合する『デザイン思考（Design Thinking）』の手法により、多様なメンバーから成るグループ型の提案をどのように進めるのかを実践する。</p> <p>デザイン思考は、学部・専攻の枠を超えた汎用的な課題解決プロセスを提供し、多くの産官学で実践されている米国発の方法論で、新サービス有形成の手段として、新市場の開拓を狙う関係者から注目を集めている。</p> <p>担当教員は、IT&amp;コンサルティング企業で手掛けてきた国内・海外での多数の顧客企業向けのプロポーザル（提案書）の企画・デザインの推進実績をもとに、課題解決を支援する視点・指針を示し、学生の主体的かつ自律的な学習活動を支援する。</p> |
| 到達目標        | <p>インターネットやソーシャルメディアの活用を図り、新サービスを提供する業界・企業等の事例研究、提案活動の体験をとおして、提案を支援するデザインに関するリテラシーとコミュニケーション力を育成する。主な目標は次の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. サービス思考 どのようなサービスを提案し、いかにつくるのか（試作化）を試みる。</li> <li>2. 共創（コラボレーション） 異分野や立場の異なる人達と思考ベクトルを合わせ、新しい価値の創出を狙う。</li> <li>3. サービス提案 共創することで、アウトカム（成果）としてまとめて、プレゼンテーションで発信する。</li> </ol>   |
| 授業方法と留意点    | <p>授業は、①講義（前半）、②グループワーク（後半）から成る。グループワークは、デザイン思考を適用したサービスデザインのケーススタディの演習に取り組み、ディスカッションやプレゼンテーション（グループまたは個人）を行う課題を指示する。ケーススタディは、現代社会の公私の活動で接することの多い IT サービスデザイン事例に、グループワークで取り組み、デザイン思考の方法論による課題解決のプロポーザル（提案）のリテラシーを高めることを学ぶ。質問は、対面に加え、指定する Web フォーム・質問共有システム（初回授業でガイド予定、締切厳守で毎回運用する）にて記名式のものを対象に適宜回答する。</p> <p>グループワークで行うケーススタディ以外に、a. 個人向け課題の提示、b. 質問のクラス共有のために、携帯端末（スマートフォン）を持参することを推奨する。</p>      |
| 科目学習の効果（資格） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスデザインの方法論の手順、グループワークによる共創活動の概観を理解することができる。</li> <li>・モノのデザインとサービスデザインの違いを理解して、後者への基礎的な素養を身につけることができる。</li> <li>・他学部の異分野・専攻者とのグループワークによる意見交換と創造の機会に慣れ親しむことができる。</li> </ul>   |

| 回数 | 授業テーマ           | 内容・方法 等  | 事前・事後学習課題  |
|----|-----------------|--|--|
|    |                 |  |  |
| 1  | イントロダクション       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業ガイダンス</li> <li>・『デザイン思考（Design Thinking）』とは何か</li> <li>・デザインファームの役割</li> </ul>                       | 事後学習：イントロダクション内容から質問を Web フォーム入力する。（標準学習時間：0.5 時間）                 |
| 2  | サービスデザイン        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスデザイン</li> <li>・人間中心のデザイン</li> <li>・グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>                                     | 事前学習：日常接する IT サービスを列挙し、役割と特徴を、1 ページに要約する。（標準学習時間：1 時間）             |
| 3  | ヒトの視点の適用デザイン    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスの人間の感性</li> <li>・IT サービスデザイン</li> <li>・グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>                                 | 事前学習：参考文献の『デザイン思考』（前半）概観を読んで、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）            |
| 4  | 市場とプロポーザルの視点    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市場におけるプロポーザルの意味</li> <li>・プロポーザルの視点</li> <li>・グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>                              | 事前学習：指定する IT サービス事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）        |
| 5  | デザイン思考の概観       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン思考とシステム思考</li> <li>・デザイン思考の位置づけ</li> <li>・個人発表（プレゼンテーション）</li> </ul>                               | 事前学習：指定する対面サービス事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）          |
| 6  | 顧客体験デザイン        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・顧客体験デザイン（カスタマーエクスペリエンスデザイン：Customer Experience Design）</li> <li>・グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>           | 事前学習：参考文献の『デザイン思考』（後半）概観を読んで、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）            |
| 7  | デザイン思考の手順       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン思考の手順</li> <li>・発見・定義・発想・実証</li> <li>・グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>                                  | 事前学習：指定する業界・企業のデザイン思考の適用事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間） |
| 8  | デザイン思考のプロトタイプング | <ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスのプロトタイプング（試作）</li> <li>・グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>  | 事前学習：指定する業界・企業のデザイン思考の適用事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間） |
| 9  | プロポーザルのステークホルダー | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ステークホルダー 顧客、取引先、CMO（chief marketing officer）、利益団体（Interest Group）</li> <li>・個人発表（プレゼンテーション）</li> </ul> | 事前学習：参考文献の『デザインの誤解』を読んで、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）                 |
| 10 | プロポーザル（提案書）     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロポーザルの構成と目次</li> <li>・顧客の課題解決の提案</li> <li>・グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>                                | 事前学習：参考文献の『デザイン思考の誤解』を読んで、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）               |
| 11 | B2C/B2B とデザイン思考 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・B2C とデザイン思考</li> <li>・B2B とデザイン思考</li> <li>・グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>                                | 事前学習：指定する業界・企業のデザイン思考の適用事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間） |
| 12 | デザイン思考の個別手法     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・思考の発散と収束</li> <li>・演繹法と帰納法</li> <li>・グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>                                       | 事前学習：参考文献の『デザイン思考の実践』を読んで、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）               |
| 13 | オープンデザイン        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンデザイン</li> <li>・ビジネス実践事例</li> <li>・グループワーク&amp;プレゼン</li> </ul>                                      | 事前学習：参考文献の『デザイン思考の社会実装』を読んで、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）             |
| 14 | デザイン思考ビジネスの紹介   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザインファーム企業の講演</li> </ul>   | 事後学習：講演をとおして、何が理解でき、またど  |

|               |   |  |  |
|---------------|---|--|--|
|               | 介   | ・トークセッション  | んな疑問が生じたのかをWebフォーム入力する。(標準学習時間：0.5時間)          |
| 15            | まとめ   | ・総括<br>・小テスト<br>・小テストフィードバック                                       | 事後学習：総括と小テストの内容から質問をWebフォーム入力する。(標準学習時間：0.5時間) |
| 関連科目          |   |  |  |
| 教科書           | 番号  | 書籍名  | 著者名  |
|               | 1   | デザイン思考の先を行くもの ファン・ブイエン、アネミック/ダールハウゼン、ヤープ/ザイルストラ、イエル/ファンデル・スコール、ロース | 各務 太郎  |
|               | 2   |  |  |
|               | 3   |  |  |
| 参考書           | 番号  | 書籍名  | 著者名  |
|               | 1   | デザイン思考が世界を変える  | ティム・ブラウン                                       |
|               | 2   | IBMの思考とデザイン  | 山崎 和彦  |
|               | 3   | オープンデザイン ―参加と共創から生まれる「つくりかたの未来」                                    | ヴァン・アベル、バス/エバズ、ルーカス/クラークセン、ロエル/トクスター、ピーター      |
| 評価方法<br>(基準)  | 平常点 (15%)、個人課題 (5%)、小テスト (10%)、期末テスト (70%) の累計による総合評価を行う。平常点は、ケーススタディのグループ課題 (毎回および不定期、授業時間内の提出)、指名者 (個人・グループ) 発表、積極的な質問、建設的な発言等の授業への参画の程度で評価する。授業において、迷惑な私語、携帯機器の私用、遅刻等の進行を妨げる者、授業に無関係な行動を行う者については退室指示等で厳しく対処し、かつ成績評価に反映する。授業の受講に集中すること。   |  |  |
| 学生への<br>メッセージ | 新サービスの発想を形にする方法論として、市場から注目を集めているデザイン思考を学習します。多様な視点で考察・提案を進め、異なる価値観を有する人達との情報交流をとおして成果を導き出すアプローチに慣れ親しんでください。グループワークで共創する機会を主体的かつ自律的に参画し、コミュニケーションをとおして触発し合う重要性を認識すること。グループでの自分の存在感が発揮できるように率先して問題の発見・解決に取り組むこと。  |  |  |
| 担当者の<br>研究室等  | 11号館7階 (北村教授室)  |  |  |
| 備考            | 指定座席での着席をお願いします。課題等のフィードバックについては、グループワークのケーススタディ、個人課題、小テストが主対象で、提出後早期の授業の中で、書面 (MS Office 形式) や学習支援ツール (Web フォーム形式) の媒体を使って、詳細を説明する。<br><br>初回の授業ガイダンスでは、クラス運営法、日常学習方法、成績評価基準 (評価マトリクス) の説明、ケーススタディ (グループ・個人)、課題発表 (プレゼンテーション) の実施要領、学習支援ツール (Web フォーム・質問共有システム) の使用方法を説明するので、必ず出席すること。また、授業の出席回数の要件を満たさない者、成績評価にかかわる活動での不正行為者は、初回授業で示す評価基準に従った評価を行う。 |  |  |



|               |           |         |                       |
|---------------|-----------|---------|-----------------------|
| 科目名           | 文化人類学     | 科目名(英文) | Cultural Anthropology |
| 学部            | 外国語学部     | 学科      | 外国語学科                 |
| 配当年次          | 1年        | クラス     |                       |
| 単位数           | 2         | 履修区分    | 選択科目                  |
| 学期            | 後期        | 授業担当者   | 西垣 有                  |
| ディプロマポリシー(DP) | DP2◎      |         |                       |
| 科目ナンバリング      | LHU1403a2 |         |                       |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | 人類学はこれまで、世界中の人々の多様な生の理解を通して、私たち人類がこの地球上に生き、存在するということがどのような事態なのかを探求してきた。本講義では、人類学の基礎的な概念や方法を概説し、人類学がどのような学問なのかを示した上で、そのような人類学的な見方の成立と歴史的展開をあとづける。 |
| 到達目標        | ・人類学がどのような学問であるかを理解できること。<br>・人類学誕生以来の学説史的な展開、流れを理解できること。  |
| 授業方法と留意点    | 講義   |
| 科目学習の効果(資格) | 異なった視点からものごとをみることにより、私たちの思考や制度を可能にしているさまざまな前提をゆさぶり、世界の見方を新たにする。  |

| 回数 | 授業テーマ                        | 内容・方法等   | 事前・事後学習課題  |
|----|------------------------------|--|--|
|    |                              |  |  |
| 1  | 文化人類学とは？                     | 人間、文化、フィールドワーク、エスノグラフィーなど人類学の基礎的な概念や方法論について概説する。                           | 事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。 |
| 2  | 人類学の誕生(1): 博物学から人類学へ         | 19世紀におこった博物学から進化主義人類学へという変化を通して、人類学の誕生をあとづける。                              | 事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。 |
| 3  | 人類学の誕生(2): 進化主義人類学           | 前回の続き。E・タイラー、L・H・モーガン、J・フレイザーの研究を例に進化主義人類学とそれまでの博物学的研究との違いをみる。             | 事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。 |
| 4  | 機能主義人類学(1): マリノフスキーとフィールドワーク | フランス社会学におけるデュルケーム学派の成立とイギリスの機能主義人類学について、B・マリノフスキーとA・ラドクリフ=ブラウンの研究を中心に概説する。 | 事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。 |
| 5  | 機能主義人類学(2): 有機的全体としての社会      | 前回の続き。   | 事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。 |
| 6  | アメリカ文化人類学の誕生(1):             | フランツ・ポアズの研究を概説する。  | 事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。 |
| 7  | アメリカ文化人類学の誕生(2)              | 前回の続き。   | 事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。 |
| 8  | アメリカ文化人類学の展開(1)              | ルース・ベネディクトとマーガレット・ミードの研究を紹介し、ポアズ学派を中心とするアメリカ人類学における「文化」概念の精緻化の過程をみる。       | 事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。 |
| 9  | アメリカ文化人類学の展開(2)              | 前回の続き。   | 事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。 |
| 10 | 構造主義(1): モースからレヴィ=ストロースへ     | マルセル・モースの『贈与論』とC・レヴィ=ストロースの構造主義について概説する。                                   | 事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。 |
| 11 | 構造主義(2)                      | 前回の続き。   | 事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。 |
| 12 | 構造主義(3)                      | 前回の続き。   | 事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。 |
| 13 | 解釈人類学(1)                     | クリフォード・ギアツの研究を概説する。  | 事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。 |
| 14 | 解釈人類学(2)                     | 前回の続き。   | 事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。 |
| 15 | 『文化を書く』とそれ以降                 | ポストモダン人類学とその後の展開について概説する。  | 事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。 |

|               |  |     |     |      |
|---------------|--|-----|-----|------|
| 関連科目          | 学芸員課程  |     |     |      |
| 教科書           | 番号   | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|               | 1  |     |     |      |
|               | 2  |     |     |      |
|               | 3  |     |     |      |
| 参考書           | 番号   | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|               | 1  |     |     |      |
|               | 2  |     |     |      |
|               | 3  |     |     |      |
| 評価方法<br>(基準)  | 100%定期試験によって評価する。<br>評価の基準は、人類学がどのような学問であるかを講義で説明した流れに沿ってきちんと理解できているかどうかにおく。ネットや参考書などで、授業とは無関係に調べた知識は（授業内容と合致しない場合）必ずしも評価につながらない。  |     |     |      |
| 学生への<br>メッセージ | <p>情報量が多いのでたくさんノートを取ってください。ノートは板書をただ受動的に書き写すのではなく、疑問点や興味を持ったポイントなどについてもメモを取り、あとで見返した時にわかるようなノートをつくる習慣をつけてください。わからないことがあれば積極的に質問に来てください。</p> <p>各回の講義終了後あまり時間をおかずに、それまでの講義の流れを理解したうえで、各回の講義の要約をノート半ページから1ページ程度で作ってみることを推奨します。要約の作り方については授業の中で適宜指示します。授業後等に自分の要約で正しいかどうかを私のところまで確認に来てもいいです。また、希望者には次週以降に要約を添削して返します。</p> |     |     |      |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館2階（非常勤講師室）  |     |     |      |
| 備考            | 事前事後の総学習時間の目安は60時間。<br>事前学習よりも、事後学習に力を注いでください。   |     |     |      |

|               |  |         |                       |
|---------------|--|---------|-----------------------|
| 科目名           | マーケティングと歴史   | 科目名(英文) | Marketing and History |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 教養特別講義                |
| 配当年次          | 2年   | クラス     |                       |
| 単位数           | 2  | 履修区分    | 選択科目                  |
| 学期            | 前期   | 授業担当者   | 武居 奈緒子                |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎   |         |                       |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 |         |                       |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。 |
| 到達目標        | マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。                                    |
| 授業方法と留意点    | 講義形式を基本とします。  |
| 科目学習の効果(資格) | マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。   |

| 回数 | 授業テーマ                | 内容・方法等                                  | 事前・事後学習課題   |
|----|----------------------|---|---|
|    |                      |   |   |
| 1  | ガイダンス                | マーケティングについて解説していきます。                    | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)         |
| 2  | 製品政策                 | ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。            | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)            |
| 3  | 価格政策                 | 価格の設定方法について考えます。                        | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、価格政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)            |
| 4  | 流通チャネル政策             | 商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。         | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通チャネル政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)        |
| 5  | 販売促進政策               | 商品のアピールの仕方について考えます。                     | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、販売促進政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)          |
| 6  | マーケティングのSTPアプローチ     | 市場細分化について考えます。                          | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、STPアプローチに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)        |
| 7  | 消費行動                 | 消費者の購買意思決定過程について考えます。                   | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)            |
| 8  | マーケティングの歴史的な研究と三井越後屋 | マーケティングにおける歴史的な研究と三井越後屋の商法について説明していきます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、三井越後屋に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)           |
| 9  | 呉服商の流通機構             | 呉服商の流通機構について、概説していきます。                  | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、呉服商の流通機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)        |
| 10 | 越後屋の仕入機構(1)          | 三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。              | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)        |
| 11 | 越後屋の仕入機構(2)          | 三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。             | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)        |
| 12 | いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構      | いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。           | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、いとう松坂屋・大丸屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 13 | 呉服商から百貨店へ            | 呉服商から百貨店への変遷について概説します。                  | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店化に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)            |
| 14 | 百貨店業態の成立             | 百貨店について、説明していきます。                       | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店業態に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)           |
| 15 | まとめ                  | 全体のまとめをします。                             | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングと歴史の総復習をしておきましょう。(所要時間1時間)       |

関連科目

| 教科書 | 番号 | 書籍名                                 | 著者名    | 出版社名 |
|-----|----|-------------------------------------|--------|------|
|     | 1  | 大規模呉服商の流通革新と進化—三井越後屋における商品仕入れ体制の変遷— | 武居 奈緒子 | 千倉書房 |
| 2   |    |                                     |        |      |
| 3   |    |                                     |        |      |

| 参考書 | 番号      | 書籍名         | 著者名   | 出版社名  |
|-----|---------|-------------|-------|-------|
|     | 1       | 史料が語る三井のあゆみ | 三井文庫編 | 吉川弘文館 |
| 2   | 消費行動 新版 | 武居 奈緒子      | 晃洋書房  |       |
| 3   |         |             |       |       |

|               |                            |
|---------------|----------------------------|
| 評価方法<br>(基準)  | 期末テストの成績 70%、授業内課題 30%     |
| 学生への<br>メッセージ | 授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましょう。 |
| 担当者の<br>研究室等  | 11 号館 8 階 武居教授室            |
| 備考            |                            |

|                |           |          |                           |
|----------------|-----------|----------|---------------------------|
| 科目名            | マーケティング入門 | 科目名 (英文) | Introduction to Marketing |
| 学部             | 外国語学部     | 学科       | 外国語学科                     |
| 配当年次           | 2年        | クラス      |                           |
| 単位数            | 2         | 履修区分     | 選択科目                      |
| 学期             | 前期        | 授業担当者    | 武居 奈緒子                    |
| ディプロマポリシー (DP) |           |          |                           |
| 科目ナンバリング       |           |          |                           |

|              |   |
|--------------|---|
| 授業概要・目的      | この科目は、国際ビジネスプログラムおよびメディアビジネスプログラムの対象科目である。マーケティング初心者対象ということで、まずマーケティングの基本的概念を説明した後に、グローバルマーケティングについて説明する。 |
| 到達目標         | グローバルマーケティングについて理解を深める。   |
| 授業方法と留意点     | 講義形式を基本としますが、企業の具体的な事例についても言及します。   |
| 科目学習の効果 (資格) |   |

| 回数 | 授業テーマ              | 内容・方法 等                          | 事前・事後学習課題  |
|----|--------------------|----------------------------------|--|
|    |                    |                                  |  |
| 1  | イントロダクション          | グローバルマーケティングの全体像を示します。           | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル・マーケティングに関連する内容を読みましよう。       |
| 2  | マーケティング志向          | マーケティングの原点であるマーケティング志向について説明します。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、マーケティング志向に関連する内容を読みましよう。           |
| 3  | マーケティングの4P         | 製品、販売、流通、価格の基本的な知識について説明します。     | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、マーケティングの4Pに関連する内容を読みましよう。          |
| 4  | マーケティングのSTP        | セグメンテーションやターゲティングについて説明します。      | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、マーケティングのSTPに関連する内容を読みましよう。         |
| 5  | 競争戦略               | 企業の競争関係について説明します。                | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、競争戦略に関連する内容を読みましよう。                |
| 6  | マーケティングとグローバル化     | グローバルな市場創造について説明します。             | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、マーケティングとグローバル化に関連する内容を読みましよう。      |
| 7  | グローバル・マーケティングリサーチ  | マーケティングリサーチのプロセスについて、説明します。      | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル・マーケティングリサーチに関連する内容を読みましよう。   |
| 8  | グローバル市場参入戦略        | 市場参入戦略について、説明します。                | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル市場参入戦略に関連する内容を読みましよう。         |
| 9  | グローバル製品戦略          | グローバルな製品の基本的な知識について説明します。        | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル製品戦略に関連する内容を読みましよう。           |
| 10 | グローバル価格戦略          | グローバルな価格の基本的な知識について説明します。        | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル価格戦略に関連する内容を読みましよう。           |
| 11 | グローバル広告戦略          | グローバルな販売促進の基本的な知識について説明します。      | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル広告戦略に関連する内容を読みましよう。           |
| 12 | グローバル・ロジスティクス戦略    | グローバルなロジスティクスの基本的な知識について説明します。   | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル・ロジスティクスに関連する内容を読みましよう。       |
| 13 | グローバルマーケティングの組織    | グローバルな組織構築について説明します。             | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル・マーケティング組織に関連する内容を読みましよう。     |
| 14 | グローバルマーケティングの調整と統制 | グローバルに展開する時の調整と統制について説明します。      | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル・マーケティングの調整と統制に関連する内容を読みましよう。 |
| 15 | まとめ                | 全体のまとめをします。                      | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル・マーケティング全般に関連する内容を読みましよう。     |

関連科目 国際ビジネスプログラム科目、メディアビジネスプログラム科目

| 教科書 | 番号 | 書籍名           | 著者名       | 出版社名  |
|-----|----|---------------|-----------|-------|
|     | 1  | グローバル・マーケティング | 諸上茂登、藤沢武史 | 中央経済社 |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
|     | 1  |     |     |      |

|           |  |
|-----------|--|
| 評価方法 (基準) | 期末テストの成績 70%、授業内課題 30%                           |
| 学生へのメッセージ | 授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましよう。                       |
| 担当者の研究室等  | 11号館8階 武居教授室                                     |
| 備考        | 事前・事後学習にかかる総時間数は、60時間です。授業で提示する問題・課題は、授業内に講評します。 |

|               |  |         |                               |
|---------------|--|---------|-------------------------------|
| 科目名           | 身近な犯罪から自分、家族、まちを守る   | 科目名(英文) | Neighborhood Crime Prevention |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 教養特別講義                        |
| 配当年次          | 2年   | クラス     |                               |
| 単位数           | 2  | 履修区分    | 選択科目                          |
| 学期            | 前期   | 授業担当者   | 中沼 丈晃                         |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎   |         |                               |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 |         |                               |

教養科目

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト(青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー)で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。<br>学科の学習・教育目標との対応: 工学部[A], 理工学部 [I1] |
| 到達目標        | この授業を通じて学生には、自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようになることが期待される。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよい。  |
| 授業方法と留意点    | とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視点、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。警察の防犯実務者や、活躍する防犯ボランティア団体の世話役の方をお招きしたインタビュー講義も交えていく。   |
| 科目学習の効果(資格) | 各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守るようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。  |

| 回数 | 授業テーマ                               | 内容・方法等   | 事前・事後学習課題  |
|----|-------------------------------------|--|--|
|    |                                     |  |  |
| 1  | 昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか?              | 昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。   | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見ている。(約1時間) |
| 2  | 犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか?          | 刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。1件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の教え方を説明する。                  | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見ている。(約1時間) |
| 3  | 犯罪はなぜ起こるのか? どうやって減らすのか?             | 悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。                                  | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見ている。(約1時間) |
| 4  | 大阪の治安はどのくらい悪いのか? どのように防犯対策を進めているのか? | 大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト1を返上する取り組みを紹介する。                                | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見ている。(約1時間) |
| 5  | 街頭犯罪ーひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に        | 一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。           | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見ている。(約1時間) |
| 6  | 住宅への空き巣、忍び込み、居空き                    | 泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最新の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。   | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見ている。(約1時間) |
| 7  | 性犯罪ー街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ            | 大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。  | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見ている。(約1時間) |
| 8  | 子どもをねらった犯罪                          | 子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。     | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見ている。(約1時間) |
| 9  | ストーカー、DV(配偶者からの暴力)                  | ストーカーやDVは、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まづさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。 | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見ている。(約1時間) |
| 10 | 詐欺ー高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など      | 昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。                     | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見ている。(約1時間) |
| 11 | サイバー犯罪ー子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪           | 子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでのID、   | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見ている。(約1時間) |

|               |   |              |  |  |
|---------------|---|--------------|--|--|
|               |   |              | パスワード盗難など、身近なサイバー犯罪を取り上げる。   |  |
|               | 12  | 違法ドラッグの実態と対策 | 違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。   | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間) |
|               | 13  | 防犯カメラの普及と効果  | 急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。                               | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間) |
|               | 14  | 防犯ボランティアの活動  | 近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青パト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。 | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間) |
|               | 15  | 警察官の仕事の実際    | 犯罪が起きれば捜査し検挙する。犯罪が起きないように市民や企業に防犯をうながす。それを職業とする警察官の仕事の実際を紹介する。                               | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間) |
| 関連科目          | 法学部「刑事政策」「経済刑法」「地域防犯政策」   |              |  |  |
| 教科書           | 番号  | 書籍名          | 著者名  | 出版社名   |
|               | 1   |              |  |  |
|               | 2   |              |  |  |
|               | 3   |              |  |  |
| 参考書           | 番号  | 書籍名          | 著者名  | 出版社名   |
|               | 1   |              |  |  |
|               | 2   |              |  |  |
|               | 3   |              |  |  |
| 評価方法<br>(基準)  | 定期試験(70%)、講義毎回の確認ペーパー(30%)の合計によって評価する。  |              |  |  |
| 学生への<br>メッセージ | 勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できることからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえると思う。 |              |  |  |
| 担当者の<br>研究室等  | 11号館9階 中沼研究室  |              |  |  |
| 備考            | 講義毎回の確認ペーパーの正解の提示や、そこに書かれた意見の紹介はポータルサイトを通じて行う。  |              |  |  |

|                |  |          |                                     |
|----------------|--|----------|-------------------------------------|
| 科目名            | ものづくりインターンシップ基礎  | 科目名 (英文) | Internship for Manufacturing Basics |
| 学部             | 学部共通   | 学科       | 教養特別講義                              |
| 配当年次           | 3年   | クラス      |                                     |
| 単位数            | 2  | 履修区分     | 選択科目                                |
| 学期             | 前期   | 授業担当者    | 坂本 淳二                               |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎   |          |                                     |
| 科目ナンバリング       | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 |          |                                     |

|              |   |
|--------------|---|
| 授業概要・目的      | これから就職活動を始める学生 (大学3年) を対象に、社会人として必要とされる規律やマナー、製造業など企業で働く上での基礎知識、課題を発見して解決する方法などを習得することを目的とする。履修後には、社会人・企業人としての役割および責任、仕事への情熱、創造的態度、自己の能力向上意欲が喚起されることを期待する。<br>なお、本授業では、パナソニック (株) より講師を招き、社会人・企業人としての基礎である知識と心がまえについて、パナソニック (株) の新入社員研修の方式に従い、講義に加えて具体事例演習を通じて体得させる。 |
| 到達目標         | (1)社会人としてのマナーを身につける。(2)仕事の基本に関する知識を修得する。(3)企業における品質問題を体験する。(4)原価管理の基礎知識を修得する。(5)PDCA サイクルによる課題解決を体験する。  |
| 授業方法と留意点     | 前半では、グループワーク、Think-Pair-Share などアクティブラーニングを主体に授業を進める。また授業テーマ毎に、授業内容についてのレポートを作成する。概大教員も教室に常駐し、授業の補助と成績評価を分担する。授業は挨拶に始まり、挨拶で終わるので遅刻は厳禁。なお、1~8回目までは120分授業とする。   |
| 科目学習の効果 (資格) | 社会が学生に何を求めているのかを体得し、職業意識を高め、自発的に能力向上を行えるようになる。就職後ただちに、社会人・企業人としての適切な行動が取れるようになる。  |

| 回数 | 授業テーマ                        | 内容・方法 等   | 事前・事後学習課題                             |
|----|------------------------------|---|---------------------------------------|
| 1  | 企業・製造業・仕事の基本とは①<br>4月11日 (木) | 社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する                  | 講義終了後、レポートを提出のこと (書式は別途)              |
| 2  | 企業・製造業・仕事の基本とは②<br>4月18日 (木) | 社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する                  | 講義終了後、レポートを提出のこと (書式は別途)              |
| 3  | 企業・製造業・仕事の基本とは③<br>4月25日 (木) | 社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する                  | 講義終了後、レポートを提出のこと (書式は別途)              |
| 4  | 企業・製造業・仕事の基本とは④<br>5月9日 (木)  | 社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する                  | 講義終了後、レポートを提出のこと (書式は別途)              |
| 5  | 企業・製造業・仕事の基本とは⑤<br>5月16日 (木) | 社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する                  | 講義終了後、レポートを提出のこと (書式は別途)              |
| 6  | 企業・製造業・仕事の基本とは⑥<br>5月23日 (木) | 社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する                  | 講義終了後、レポートを提出のこと (書式は別途)              |
| 7  | 品質教育①<br>5月30日 (木)           | 企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からQC7つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する | -----                                 |
| 8  | 品質教育②<br>6月6日 (木)            | 企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からQC7つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する | 品質教育①~②の講義終了後、レポートを提出すること (書式は別途)     |
| 9  | 原価・コスト教育①<br>6月13日 (木)       | 企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する                        | -----                                 |
| 10 | 原価・コスト教育②<br>6月20日 (木)       | 企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する                        | -----                                 |
| 11 | 原価・コスト教育③<br>6月27日 (木)       | 企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する                        | 原価・コスト教育①~③の講義終了後、レポートを提出すること (書式は別途) |
| 12 | 課題解決教育①<br>7月4日 (木)          | PDCA サイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する                   | -----                                 |
| 13 | 課題解決教育②<br>7月11日 (木)         | PDCA サイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する                   | 課題解決教育①~②の講義終了後、レポートを提出すること (書式は別途)   |
| 14 | プレゼンテーションの方法<br>7月18日 (木)    | プレゼンテーションの基礎知識を習得する   | これまでの講義を総括して、全体討議・質疑応答でのプレゼン資料作成を行うこと |
| 15 | 全体討議・質疑応答<br>7月25日 (木)       | 14回の講義を総括しての討議・質疑応答を実施する                                    | 最終報告として受講レポートを提出する。                   |

関連科目 『ものづくりインターンシップ実践』を履修する学生は、必ずこの科目を履修すること。

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1  |     |     |      |
| 2  |     |     |      |
| 3  |     |     |      |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1  |     |     |      |
| 2  |     |     |      |



|               |   |  |  |  |
|---------------|---|--|--|--|
|               | 3   |  |  |  |
| 評価方法<br>(基準)  | 課題レポート(6回)と受講レポート50%、授業姿勢(積極性)20%、全体討議(プレゼンテーション)10%、期末試験20%にて総合評価を行う。  |  |  |  |
| 学生への<br>メッセージ | 日本を代表する企業であるパナソニック(株)と共同で実施する研修を受講して、社会と企業は学生に何を求めているのかを知り、職業人としての基礎知識を身につけ、社会人になるための意識転換をしましょう。この科目を履修する学生は、この科目と「ものづくりインターンシップ実践」を同時に受講することが前提です。             |  |  |  |
| 担当者の<br>研究室等  | 12号館6階 坂本教授室  |  |  |  |
| 備考            | 毎回の講義内容を振り返りのための学習毎回1時間程度。 レポート各回3時間程度、プレゼン準備と期末試験のための学習20時間程度。全体討議におけるプレゼンテーション資料作成のため、2回 実習前指導を実施する(7/11(木), 7/18(木)6限目)。<br><br>パナソニック講師: 佐藤哲志、山下秀行、斎藤遵、町田秀人 |  |  |  |

|               |  |         |                                     |
|---------------|--|---------|-------------------------------------|
| 科目名           | ものづくりインターンシップ基礎  | 科目名(英文) | Internship for Manufacturing Basics |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 教養特別講義                              |
| 配当年次          | 3年   | クラス     |                                     |
| 単位数           | 2  | 履修区分    | 選択科目                                |
| 学期            | 前期   | 授業担当者   | 檜橋 祥一                               |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, N科: DP1◎  |         |                                     |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 |         |                                     |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 本科目は、夏期の「ものづくり海外インターンシップ」で実際に海外に渡航し、海外で実習を受けるために必要な英語力やマナー、現地の予備知識(社会・文化等)、協同作業能力などを身につけるための講義である。日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となっている。本科目では、将来グローバルに活躍できる人材の育成を視野に入れ、海外事情や企業のグローバル化の実態、持続可能な開発の在り方を学ぶほか、英語によるコミュニケーション力や海外での企業や大学の人々と交流・研究する際の社会人としてのマナーなどについて養成する。これらの各項目の要点について、企業での業務・海外渡航経験を有する授業担当者により講義する。 |
| 到達目標        | (1)海外事情が理解できる。(2)海外渡航の手順や手続きが理解できる。(3)グローバル企業の現状が理解できる。(4)海外インターンシップ先の事情が理解できる。(5)英語による基本的なコミュニケーションができる。(6)社会人としてのマナーが身につく。  |
| 授業方法と留意点    | 講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また、男女も問わない。本講義は、夏期の「ものづくり海外インターンシップ」の準備のための講義とする。夏期の実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において受講者を選定する。講義室内ではできるだけ、日本語を使わないようにする。  |
| 科目学習の効果(資格) | 英語による基本的なコミュニケーション力が身につく。TOEICや英検などを受験する契機となる。また、社会人としてのマナーが身につく。海外における実体験ができる。   |

| 回数 | 授業テーマ                         | 内容・方法等                                    | 事前・事後学習課題   |
|----|-------------------------------|---|---|
| 1  | ガイダンス、海外渡航手続き概要、英語コミュニケーション1  | パスポート、チケット予約(航空機、ホテル)、保険、海外渡航準備、英語による自己紹介 | 事前:海外渡航手続き調査(1時間)<br>事後:課題レポート作成(1時間)                     |
| 2  | 海外事情、日系企業のグローバル化、英語コミュニケーション2 | 英語による自己紹介発表、海外の文化、経済、グローバル化事情             | 事前:英語での自己紹介準備(1時間) 事後:課題レポート作成(1時間)                       |
| 3  | 研修先 事前調査、英語コミュニケーション3         | 英字新聞記事の調査、文化、歴史、経済事情、企業・大学                | 事前:研修先の英字新聞調査(1時間)<br>事後:課題レポート作成(1時間)                    |
| 4  | 格差社会の問題                       | これからのグローバル人材として必要な素養を考える、ビデオ鑑賞など          | 事前:格差社会の調査(1時間)<br>事後:課題レポート作成(1時間)<br>格差社会の問題について、レポート提出 |
| 5  | 社会人基礎力、英語コミュニケーション4           | 社会人として必要な基礎力、英語による日本の紹介発表                 | 事前:英語での日本紹介準備(1時間)<br>事後:課題レポート作成(1時間)                    |
| 6  | 英語コミュニケーション5                  | 海外渡航、海外生活、大学紹介、専門科目の紹介                    | 事前:予習プリント学習(1時間)<br>事後:課題レポート作成(1時間)                      |
| 7  | 英語コミュニケーション6                  | 研修先企業、大学の調査、英語による発表、英語によるワークショップなど        | 事前:予習プリント学習(1時間)<br>事後:課題レポート作成(1時間)                      |
| 8  | 英語コミュニケーション7                  | 海外研修を想定したグループ実習1、テクノセンター見学、ヒヤリングなど        | 事前:予習プリント学習(1時間)<br>事後:課題レポート作成(1時間)                      |
| 9  | 英語コミュニケーション8                  | 海外研修を想定したグループ実習2、テクニカルニュースのリスニングなど        | 事前:予習プリント学習(1時間)<br>事後:課題レポート作成(1時間)                      |
| 10 | 英語コミュニケーション9                  | 海外研修を想定したグループ実習3、テクニカルニュースの発表など           | 事前:予習プリント学習(1時間)<br>事後:課題レポート作成(1時間)                      |
| 11 | 英語コミュニケーション10                 | 海外研修を想定したグループ実習4、英語フレーズ集の作成など             | 事前:予習プリント学習(1時間)<br>事後:課題レポート作成(1時間)                      |
| 12 | 英語コミュニケーション11                 | 海外研修を想定したグループ実習5、英語フレーズ集の作成など             | 事前:予習プリント学習(1時間)<br>事後:課題レポート作成(1時間)                      |
| 13 | マナー実習                         | 挨拶、礼儀、服装、ミーティング、質疑、懇親会、感謝、気配り、機転          | 事前:予習プリント学習(1時間)<br>事後:課題レポート作成(1時間)                      |
| 14 | 海外渡航、海外生活                     | 渡航準備、入出国、習慣、食生活、健康管理                      | 事前:予習プリント学習(1時間)<br>事後:課題レポート作成(1時間)                      |
| 15 | 英語による成果発表                     | まとめ                                       | 事前:成果発表の準備(1時間)<br>事後:成果発表の反省(1時間)                        |

|      |                 |
|------|-----------------|
| 関連科目 | ものづくり海外インターンシップ |
|------|-----------------|

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|          |                                     |
|----------|-------------------------------------|
| 評価方法(基準) | 課題レポート60%、取組み姿勢20%、成果発表20%として評価を行う。 |
|----------|-------------------------------------|

|           |  |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | これまでに「ものづくり海外インターンシップ」を受講した学生は、海外実習後に顕著な成長が認められるので大いにチャレンジしてほしい。授業方法、留意点にも記載のとおり、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また、男女も問わない。 |
|-----------|--|

|          |             |
|----------|-------------|
| 担当者の研究室等 | 1号館4階 檜橋教授室 |
|----------|-------------|

|    |   |
|----|---|
| 備考 | 【共同担当者】 檜橋教授(E科)、原教授(M科)、木多教授(A科)、白鳥准教授(R科)、理工学部インターンシップ委員会委員 |
|----|---|

|                |  |          |                                       |
|----------------|--|----------|---------------------------------------|
| 科目名            | ものづくりインターンシップ実践  | 科目名 (英文) | Internship for Manufacturing Practice |
| 学部             | 学部共通   | 学科       | 教養特別講義                                |
| 配当年次           | 3年   | クラス      |                                       |
| 単位数            | 2  | 履修区分     | 選択科目                                  |
| 学期             | 通年集中   | 授業担当者    | 坂本 淳二                                 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎   |          |                                       |
| 科目ナンバリング       | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2～IT01432a2, L科: LT01422a2～LT01426a2, D科・S科: IT01428a2～IT01432a2, P科: YT01423a2～YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2～WT01428a2, N科: NT01420a2～NT01424a2 |          |                                       |

| 授業概要・目的               | 『ものづくりインターンシップ基礎』の実践コースである。『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容をパナソニックのモノづくり現場で具体実習・実践することにより、更なる理解を進め、習得して自らの強みとすることを目的とする。<br>なお、本授業は、パナソニック人材開発カンパニーの講師陣による生産、製造の実践を通して、企業における目標達成のプロセスを体得するものである。   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|-----------------------|--|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標                  | (1)生産革新・改善を体験、理解することができる。(2)製造業の成り立ち・仕組みを体験、理解することができる。(3)チームワーク・QCD問題を体験、理解することができる。(4)パナソニックの工場を見学する。(5)研修成果を発表する。   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業方法と留意点              | 『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容を体験するため、パナソニック (株) 人材開発カンパニーで、計7日間の宿泊実習を行なう。また、事前指導として『ものづくりインターンシップ基礎』のまとめを行い、事後指導として実習で得られた成果の定着をはかるためにプレゼンテーションによる報告を行う。   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題 | <p>直前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回目 ものづくりインターンシップ基礎のまとめ、ものづくりインターンシップ実践の準備 7/18 (木) 6限目</li> <li>・2回目 ものづくりインターンシップ基礎全体討議プレゼンテーション指導 7/25 (木) 6限目</li> </ul> <p>宿泊実習 (パナソニック人材開発カンパニー)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1～3日目</li> <li>【授業テーマ】</li> <li>生産革新演習</li> <li>【内容・方法等】</li> <li>1個流しセル生産のロールプレイを通じて、生産革新実践・方法等を体得する。(グループ演習)</li> <li>【事前・事後学習課題】</li> <li>演習終了後、レポートを提出のこと</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4～5日目</li> <li>【授業テーマ】</li> <li>モノづくりシュミレーション演習</li> <li>【内容・方法等】</li> <li>四角錐製作を通じて、製造業の成り立ち・しくみを習得 (設計～生産) し、目標達成のためのチームワーク・QCD 問題意識の重要性を体得する。(グループ演習)</li> <li>【事前・事後学習】</li> <li>演習終了後、レポートを提出のこと</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6日目</li> <li>【授業テーマ】</li> <li>工場見学</li> <li>【内容・方法等】</li> <li>パナソニックのモノづくりを工場見学を通じて体得する。(2工場)</li> <li>【事前・事後学習課題】</li> <li>見学終了後、レポートを提出のこと</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7日目</li> <li>【授業テーマ】</li> <li>研修成果報告会</li> <li>【内容・方法等】</li> <li>研修成果報告会の実施。(グループ単位)</li> <li>【事前・事後学習課題】</li> <li>グループ単位でプレゼン資料をまとめておくこと</li> </ul> <p>実習中指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8月31日 (土) 1～4限目 プレゼンテーション指導</li> </ul> <p>実習後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回目 体験報告書の添削指導</li> <li>・2回目 研修成果報告会 (2回目) に向けたプレゼンテーション指導</li> <li>・3回目 研修成果報告会 (2回目) に向けたプレゼンテーション指導</li> <li>・4回目 研修成果報告会 (2回目)</li> <li>・5回目 全体報告会 学生代表者の発表・質疑</li> <li>・6回目 全体報告会 企業管理者の講演と講評</li> </ul> |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 関連科目                  | ものづくりインターンシップ基礎  |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 教科書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>   | 番号  | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |  |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |  |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |  |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 参考書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>   | 番号  | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1                     |  |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2                     |  |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3                     |  |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 評価方法                  | 実習成果 40%、研修成果報告会 (2回) 20%、実習最終レポート 10%、体験報告書 10%、実習・授業態度 20%とした総合評価を行なう。   |     |      |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |

|           |  |
|-----------|--|
| (基準)      |  |
| 学生へのメッセージ | この科目は「ものづくりインターンシップ基礎」を同時に受講することが前提です。   |
| 担当者の研究室等  | 坂本教授室 (12号館6階)   |
| 備考        | <p>期間：2019年8月26日(月)～8月30日(金)、9月2日(月)～9月3日(火) パナソニック(株)人材開発カンパニーでの宿泊研修です。8月31日(土)には摂南大学でプレゼン資料を作成します。その間、パナソニック(株)社員の朝礼、ランニングにも参加します。ジーンズ、スリッパは禁止。ランニングできる履物、着替えが必要です。学生負担金・食費等は別途徴収します。</p> <p>【事前事後学習】<br/>レポート作成、プレゼン準備としての学習時間：20時間程度。</p> <p>【担当者】<br/>パナソニック講師：佐藤哲志、高岡清、熊本義久、西尾幹夫</p> |

|                |  |          |  |
|----------------|--|----------|--|
| 科目名            | ものづくり海外インターンシップ  | 科目名 (英文) | International Internship for Manufacturing |
| 学部             | 学部共通   | 学科       | 教養特別講義                                     |
| 配当年次           | 3年   | クラス      |  |
| 単位数            | 2  | 履修区分     | 選択科目                                       |
| 学期             | 通年集中   | 授業担当者    | 檜橋 祥一                                      |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎   |          |  |
| 科目ナンバリング       | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 |          |  |

|                       |   |     |     |      |
|-----------------------|---|-----|-----|------|
| 授業概要・目的               | 日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となる。本科目は、「ものづくり海外インターンシップ」と呼び、世界展開をしている「ものづくり企業」の海外工場において具体的に実習体験をすることにより、グローバル企業の現状を理解するとともに、自らの視野と経験を広げることを目的とする。研修先は東南アジアおよび北米とする。研修先によっては、海外の大学でワークショップ体験も含める。企業での業務経験を有する授業担当者により、ものづくりおよび英語によるコミュニケーションの要点を講義する。  |     |     |      |
| 到達目標                  | (1)グローバル企業の現状が理解できる。(2)英語による基本的なコミュニケーションができる。(3)海外でのものづくりの工程を体験できる。(4)チームワークを体験できる。(5)国際的視野を広げられる。(6)研修成果が発表できる。   |     |     |      |
| 授業方法と留意点              | 東南アジアは、タイ、フィリピン、ベトナムを、北米は、アメリカを予定している。受講者はいずれかの企業において、本学の夏休み中に往復を含めて約10日間(予定)の現場実習を行う。実習後にレポート作成および海外実習の成果報告会を行う。講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識を特に必要としないので、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。なお、本講義を受講する学生は、前期の「ものづくりインターンシップ基礎(海外班)」の受講を必須とする。  |     |     |      |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>直前指導<br/>ものづくり海外インターンシップ基礎の全体報告会に向けたプレゼンテーションの指導、海外実習の準備など</p> <p>海外実習<br/>・1~2日目<br/>【授業テーマ】移動、オリエンテーション<br/>【内容・方法等】研修先の概要、オリエンテーション、語学(英語)研修など<br/>【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと</p> <p>・3日目<br/>【授業テーマ】企画・設計部門実習/ワークショップ<br/>【内容・方法等】ものづくり工程の上流である企画・設計部門。<br/>【事前・事後学習】実習終了後、レポート、アイデアスケッチなどを提出のこと</p> <p>・4~5日目<br/>【授業テーマ】製造工場見学<br/>【内容・方法等】関連工場、施設、建築、デザイン作品の見学、現地協同プロジェクト、現地現地従業員・大学生との交流会に参加する。交流会では、英語によるコミュニケーションを行う。<br/>【事前・事後学習課題】交流会終了後、レポート、アイデアスケッチなどを提出のこと</p> <p>・6~8日目<br/>【授業テーマ】製造系実習<br/>【内容・方法等】製造系の加工、組立、検査・品質管理など。(グループ演習)<br/>【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと</p> <p>・9~10日目<br/>【授業テーマ】研修成果報告会、移動<br/>【内容・方法等】グループ単位でパワーポイントによるプレゼンテーション、または部分模型やその他手法を用いてプレゼンテーションしてもよい。<br/>【事前・事後学習課題】実習終了後、最終レポート、または各グループで研究成果ポスター、または梗概作成を提出すること。</p> <p>実習後指導<br/>・1回目 最終レポート(体験報告書)の添削指導<br/>・2回目 成果報告会に向けたプレゼンテーション指導<br/>・3回目 全体報告会 学生代表者の発表・質疑<br/>・4回目 全体報告会 企業管理者の講演と講評</p> |     |     |      |
| 関連科目                  | ものづくりインターンシップ基礎   |     |     |      |
| 教科書                   | 番号  | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|                       | 1   |     |     |      |
| 参考書                   | 番号  | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|                       | 1   |     |     |      |
| 評価方法(基準)              | 海外現地研修 60%(実習記録簿 20%、実習・授業態度 20%、実習成果プレゼン 20%)、実習前後の学習 5%、実習最終レポート 10%、体験報告書 10%、成果報告会(2回) 15%として評価を行う。   |     |     |      |
| 学生へのメッセージ             | これまでに受講した学生は、海外実習後に顕著な成長が認められるので、大いにチャレンジしてほしい。授業方法、留意点にも記載のとおり、参加学生は専門分野も文系・理系も問わない。また、男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は、理工学部インターンシップ委員会において参加者を選定する。本講義を受講する学生は、前期の「ものづくりインターンシップ基礎(海外班)」の受講を必須とする。  |     |     |      |
| 担当者の研究室等              | 1号館4階 檜橋教授室<br>1号館5階 原教授室<br>8号館3階 木多教授室<br>12号館7階 白鳥准教授室   |     |     |      |
| 備考                    | 【注意事項】研修予定期間: 2019年8月中旬(研修先の都合により変更する場合があります。)<br>航空運賃、宿泊費、保険代などは自己負担となります。<br>【事前事後学習】レポート作成、復習の学習時間: 20時間程度<br>【共同担当者】 檜橋教授、原教授、木多教授、白鳥准教授、理工学部インターンシップ委員会委員  |     |     |      |

|               |            |         |  |
|---------------|------------|---------|--|
| 科目名           | ものづくり研究の世界 | 科目名(英文) | Introduction to Manufacturing Technology |
| 学部            | 外国語学部      | 学科      | 外国語学科                                    |
| 配当年次          | 3年         | クラス     |  |
| 単位数           | 2          | 履修区分    | 選択科目                                     |
| 学期            | 前期         | 授業担当者   | 堀江 昌朗                                    |
| ディプロマポリシー(DP) | DP2◎       |         |  |
| 科目ナンバリング      | LNA1414a2  |         |  |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 機械工学は、ヒトが活動する上での効率化、合理化、さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問の体系である。本講義では、ヒトはなぜモノを作ろうとするのか、何を用いてモノを作ってきたのか、どのようにモノを作るのかに注目し、その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること、さらには産業の発展に役立ってきたさまざまな機械とその諸技術について学ぶ。 |
| 到達目標        | 機械技術およびものづくり技術全般の基礎知識を身につけ、機械工学と社会・生活との関わりを理解できる。   |
| 授業方法と留意点    | ・各テーマごとにその歴史、基本原理、最先端の話題を2回もしくは3回にわたって提供する。<br>・スライドを中心にビデオを用いた講義形式を取る。講義の終盤に講義内容のメモ(ノート)を提出するため、講義の内容をよく聞き、ノートにしていねいにまとめていくことが大事。  |
| 科目学習の効果(資格) | 世の中に存在する工業製品、人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て、知見を広めることができる。  |

教養科目

| 回数 | 授業テーマ                     | 内容・方法等   | 事前・事後学習課題       |
|----|---------------------------|--|-----------------|
|    |                           |  |                 |
| 2  | 道具を作る(1) - ヒトと道具          | ・道具の歴史:ヒトの手の動作を補う道具から労働としての道具へ<br>・農具 漁具 大工道具 手動工具 電動工具                | 配布資料に目を通しておくこと。 |
| 3  | 道具を作る(2) - 作り方            | ・ casting, 塑性加工, 粉末冶金, 材料加工, 生産加工<br>・ 刀鍛冶, セラミックス, 溶接・切断              | 配布資料に目を通しておくこと。 |
| 4  | モノの材料を知る(1) - 金属材料        | ・金属材料はなぜ素材たり得るか?<br>・鉄鋼の製造方法   | 配布資料に目を通しておくこと。 |
| 5  | モノの材料を知る(2) - セラミックス・ポリマー | ・セラミックス・ポリマーの構造(金属と何が異なるか?)<br>・高強度・機能的な材料の話                           | 配布資料に目を通しておくこと。 |
| 6  | モノの材料を知る(3) - 新素材         | ・新素材と高度産業化社会<br>・形状記憶, 超伝導, ナノ材料                                       | 配布資料に目を通しておくこと。 |
| 7  | ものづくり(1) - 母なる機械          | ・機械部品を作る機械(工作機械の歴史)<br>・機械時計, 工具と運動, 機械部品                              | 配布資料に目を通しておくこと。 |
| 8  | ものづくり(2) - 精密に加工する        | ・精度を追求する(コンピュータと工作機械)<br>・精密加工, マシニングセル, ナノ加工                          | 配布資料に目を通しておくこと。 |
| 9  | ものづくり(3) - 工場(ファクトリー)     | ・世界が学ぶ・日本が誇る製造システム<br>・無人化工場, デジタル屋台, トヨタ生産方式                          | 配布資料に目を通しておくこと。 |
| 10 | 大きな力を得る(1) - 車輪           | ・作業を補助する機械の歴史<br>・車輪, 滑車, てこ, 歯車                                       | 配布資料に目を通しておくこと。 |
| 11 | 大きな力を得る(2) - 建設運搬機械       | ・巨大な力を得るためのアクチュエータ<br>・油圧・水圧・空気圧機器, 電動機                                | 配布資料に目を通しておくこと。 |
| 12 | 大きな力を得る(3) - パワーアシスト      | ・アクチュエータの知能化とパワーアシスト<br>・パワードスーツ, 電動アシスト自転車, 人工筋肉                      | 配布資料に目を通しておくこと。 |
| 13 | ミクロの機械(1) - 精密機械          | ・小さくなることで変わる使い方<br>・時計, 携帯電話, 計算機, テレビカメラ, 情報機器                        | 配布資料に目を通しておくこと。 |
| 14 | ミクロの機械(2) - 小さく作る         | ・小さくすることで変わる物理の法則, 加工法・アクチュエータ<br>・微細加工, ナノテク, 半導体製造, カーボンナノチューブ, 微細気泡 | 配布資料に目を通しておくこと。 |
| 15 | ミクロの機械(3) - 小さくて広大な世界     | ・半導体製造技術を用いた微細構造を持つ機械<br>・カプセル内視鏡, 鞭毛モーター                              | 配布資料に目を通しておくこと。 |

|      |       |
|------|-------|
| 関連科目 | 産業技術史 |
|------|-------|

|     |    |          |     |      |
|-----|----|----------|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名      | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  | 科学技術教養M1 |     |      |
|     | 2  |          |     |      |
|     | 3  |          |     |      |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|          |  |
|----------|--|
| 評価方法(基準) | 毎回、講義メモとレポートを提出する。講義全体にわたるメモ(50%)、講義内容に対する理解と考察に関するレポート(50%)で評価する。 |
|----------|--|

|           |   |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 機械工学に関わる製品や技術を、大きなスケールで幅広く知ることができます。また、道具はどうやって進化してきたのか? 日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか? 近未来にどのような乗り物が実現されているのか? 等々、工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本 |
|-----------|---|

|              |  |
|--------------|--|
|              | 講義を受講し、就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。  |
| 担当者の<br>研究室等 | 担当教員の居室 [1号館の3階・4階・5階]   |
| 備考           | <p>出席および遅刻・欠席の扱いは、次のルールを原則とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率80%以上を成績評価の対象とする。</li> <li>・30分以上の遅刻は欠席扱いとする。</li> <li>・遅刻は2回で欠席1回とみなす。</li> <li>・事前事後学習時間の目安は60時間。</li> </ul> <p>詳細は、初回に配布する『M科開講「科学技術教養 M1・M2」受講の際の注意』を熟読すること。</p> |

|                |  |          |                    |
|----------------|--|----------|--------------------|
| 科目名            | 役立つ金融知力  | 科目名 (英文) | Financial Literacy |
| 学部             | 学部共通   | 学科       | 教養特別講義             |
| 配当年次           | 2年   | クラス      |                    |
| 単位数            | 2  | 履修区分     | 選択科目               |
| 学期             | 後期   | 授業担当者    | 陸川 富盛              |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, N科: DP1◎  |          |                    |
| 科目ナンバリング       | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 |          |                    |

|              | <p>諸君は大学生になるまでは、「これまでに既に起きたこと」を学んできました。「既に起きたこと」はもう変わることはありませんから必ず正解があり、それらを覚えておけば済みました。つまり、たかだか「正解を教えてもらって要領良く覚える」ということをやってきただけに過ぎません。</p> <p>しかし、諸君がこれから歩を進めていく実社会は「明日を創っていく社会」ですから、最初から決まり切った正解なんかどこにもありません。自分で自分の答えを創り出して行くしかないのです。そこで最も必要となるのは、他人の話や文章を正確に理解し、自分の考えを的確に表現する能力です。</p> <p>実社会で諸君が自ら成長し自分の人生を築き上げていくことは、企業がより良い企業となることを目指して経営していくことと同じです。つまり、諸君のこれからの人生は「自分株式会社を経営していくこと」に他なりません。それには、自ら考えて決断し行動する「賢い経済主体」となる、という大きな方向転換が必要なのです。具体的には、市場経済や契約社会の仕組みを実感覚として理解し、自分の人生を切り拓いていく力を身に着ける、ということです。</p> <p>金融や投資などファイナンスに関する実践的な知識を得てそれらを日常的に活用していくことは、単に目先のお金の問題に役立つだけでなく、より良い人生や社会の実現に欠かせません。これは諸君の専門科目が何であっても同じです。</p> <p>本講義の目的は、諸君が人生のさまざまな局面で確に決断し行動できるよう、ファイナンスの知識や考え方に根差した実践的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着けることです。</p>   |                  |   |         |           |   |           |                |   |   |              |             |  |   |              |              |   |   |         |         |  |   |            |            |  |   |            |           |                                  |   |         |          |                                       |   |           |         |   |   |             |                  |  |
|--------------|--|------------------|---|---------|-----------|---|-----------|----------------|---|---|--------------|-------------|--|---|--------------|--------------|---|---|---------|---------|--|---|------------|------------|--|---|------------|-----------|----------------------------------|---|---------|----------|---------------------------------------|---|-----------|---------|---|---|-------------|------------------|--|
| 授業概要・目的      |  |                  |   |         |           |   |           |                |   |   |              |             |  |   |              |              |   |   |         |         |  |   |            |            |  |   |            |           |                                  |   |         |          |                                       |   |           |         |   |   |             |                  |  |
| 到達目標         | <p>主としてファイナンスの観点から、実践的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着けること、これが諸君の到達目標です。</p> <p>具体的には、諸君が将来直面する経済生活やキャリアライフで、諸君自身が「賢い経済主体」として適宜的確に行動できるようになることを目指します。</p>  |                  |   |         |           |   |           |                |   |   |              |             |  |   |              |              |   |   |         |         |  |   |            |            |  |   |            |           |                                  |   |         |          |                                       |   |           |         |   |   |             |                  |  |
| 授業方法と留意点     | <p>本講義は15回全体を通して次の三つのステップで構成し、各回とも教科書を使用した講義形式で進めます。</p> <p>① まずは経済主体としての視点で、社会の仕組みの全体観を把握し、様々な課題や対処法を認識します。</p> <p>② 次に、ファイナンスの基礎知識を、大学で学ぶ様々な専門知識と関連付けながら、実践的に学んでいきます。</p> <p>③ 更に、それらを統合し活用する能力をインテリジェンスとして身に着け、社会生活に応用する方法を学びます。</p> <p>本講義では毎回必ず教科書をベースに講義を進めるため、レジュメ等の資料を配布することは一切ありません。受講者は指定された教科書を必ず持参してください。但し、講義の内容は教科書通りではなく、教科書は単なる教材として手元資料的に利用するに過ぎません。このため、毎回きちんと聴講しなければ成果は得られません。</p> <p>講義中や講義に関連した e-Learning として、スマホアプリの利用や検索等を適宜指示します。これらは諸君の成績評価に直結するので指示に従って必ず実施し、ビジネスに役立つ IT 活用を身に付けてください。</p>  |                  |   |         |           |   |           |                |   |   |              |             |  |   |              |              |   |   |         |         |  |   |            |            |  |   |            |           |                                  |   |         |          |                                       |   |           |         |   |   |             |                  |  |
| 科目学習の効果 (資格) | <p>経済・社会生活やキャリアライフに必要な意思決定を適宜適切に行えるよう、ファイナンスの知識を活用する実践的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着けます。</p>  |                  |   |         |           |   |           |                |   |   |              |             |  |   |              |              |   |   |         |         |  |   |            |            |  |   |            |           |                                  |   |         |          |                                       |   |           |         |   |   |             |                  |  |
| 授業計画         | <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>「経済主体としての立ち位置」</td> <td>テキスト&lt;P15~14, 4~13&gt;<br/>・私たちのくらしと経済<br/>・戦後の社会発展<br/>・パラダイムシフト<br/>・変革の必要性</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>経済・金融の基礎知識 ①</td> <td>「国際経済と国家財政」</td> <td>テキスト&lt;P44~49, 38~44&gt;<br/>・国際経済<br/>・国家の財政</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>経済・金融の基礎知識 ②</td> <td>「市場経済と金融の役割」</td> <td>テキスト&lt;P16~18, 25~29, 18~25&gt;<br/>・お金の役割<br/>・市場経済のしくみと意義<br/>・金融の役割と銀行</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>法律の基礎知識</td> <td>「契約の基本」</td> <td>テキスト&lt;P154~157, 159~166&gt;<br/>・契約社会 I<br/>・ローン・クレジット<br/>・契約社会 II</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>リスクと向き合う ①</td> <td>「日常生活のリスク」</td> <td>テキスト&lt;P79~87, 166~168, 157~159, 168&gt;<br/>・リスクマネジメント<br/>・契約社会 III</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>リスクと向き合う ②</td> <td>「リタイアメント」</td> <td>テキスト&lt;P88~97&gt;<br/>・年金制度<br/>・老後生活資金</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>投資の基礎知識</td> <td>「投資とは何か」</td> <td>テキスト&lt;P98~104&gt;<br/>・投資とは<br/>・投資意思決定プロセス</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>経済活動と金融市場</td> <td>「景気・株価」</td> <td>テキスト&lt;P30~31, 56~57, 32~36, 54~55, 37, 50~53&gt;<br/>景気<br/>景気と株価</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>金融商品の基礎知識 ①</td> <td>「代表的な金融商品 (株式等)」</td> <td>テキスト&lt;P123~135&gt;<br/>・株式<br/>・投資信託<br/>・外貨建て商品<br/>・保険商品</td> </tr> </tbody> </table> | 回数               | 授業テーマ   | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | 1 | イントロダクション | 「経済主体としての立ち位置」 | テキスト<P15~14, 4~13><br>・私たちのくらしと経済<br>・戦後の社会発展<br>・パラダイムシフト<br>・変革の必要性 | 2 | 経済・金融の基礎知識 ① | 「国際経済と国家財政」 | テキスト<P44~49, 38~44><br>・国際経済<br>・国家の財政 | 3 | 経済・金融の基礎知識 ② | 「市場経済と金融の役割」 | テキスト<P16~18, 25~29, 18~25><br>・お金の役割<br>・市場経済のしくみと意義<br>・金融の役割と銀行 | 4 | 法律の基礎知識 | 「契約の基本」 | テキスト<P154~157, 159~166><br>・契約社会 I<br>・ローン・クレジット<br>・契約社会 II | 5 | リスクと向き合う ① | 「日常生活のリスク」 | テキスト<P79~87, 166~168, 157~159, 168><br>・リスクマネジメント<br>・契約社会 III | 6 | リスクと向き合う ② | 「リタイアメント」 | テキスト<P88~97><br>・年金制度<br>・老後生活資金 | 7 | 投資の基礎知識 | 「投資とは何か」 | テキスト<P98~104><br>・投資とは<br>・投資意思決定プロセス | 8 | 経済活動と金融市場 | 「景気・株価」 | テキスト<P30~31, 56~57, 32~36, 54~55, 37, 50~53><br>景気<br>景気と株価 | 9 | 金融商品の基礎知識 ① | 「代表的な金融商品 (株式等)」 | テキスト<P123~135><br>・株式<br>・投資信託<br>・外貨建て商品<br>・保険商品 |
| 回数           | 授業テーマ  | 内容・方法 等          | 事前・事後学習課題   |         |           |   |           |                |   |   |              |             |  |   |              |              |   |   |         |         |  |   |            |            |  |   |            |           |                                  |   |         |          |                                       |   |           |         |   |   |             |                  |  |
| 1            | イントロダクション  | 「経済主体としての立ち位置」   | テキスト<P15~14, 4~13><br>・私たちのくらしと経済<br>・戦後の社会発展<br>・パラダイムシフト<br>・変革の必要性 |         |           |   |           |                |   |   |              |             |  |   |              |              |   |   |         |         |  |   |            |            |  |   |            |           |                                  |   |         |          |                                       |   |           |         |   |   |             |                  |  |
| 2            | 経済・金融の基礎知識 ①   | 「国際経済と国家財政」      | テキスト<P44~49, 38~44><br>・国際経済<br>・国家の財政                                |         |           |   |           |                |   |   |              |             |  |   |              |              |   |   |         |         |  |   |            |            |  |   |            |           |                                  |   |         |          |                                       |   |           |         |   |   |             |                  |  |
| 3            | 経済・金融の基礎知識 ②   | 「市場経済と金融の役割」     | テキスト<P16~18, 25~29, 18~25><br>・お金の役割<br>・市場経済のしくみと意義<br>・金融の役割と銀行     |         |           |   |           |                |   |   |              |             |  |   |              |              |   |   |         |         |  |   |            |            |  |   |            |           |                                  |   |         |          |                                       |   |           |         |   |   |             |                  |  |
| 4            | 法律の基礎知識  | 「契約の基本」          | テキスト<P154~157, 159~166><br>・契約社会 I<br>・ローン・クレジット<br>・契約社会 II          |         |           |   |           |                |   |   |              |             |  |   |              |              |   |   |         |         |  |   |            |            |  |   |            |           |                                  |   |         |          |                                       |   |           |         |   |   |             |                  |  |
| 5            | リスクと向き合う ①   | 「日常生活のリスク」       | テキスト<P79~87, 166~168, 157~159, 168><br>・リスクマネジメント<br>・契約社会 III        |         |           |   |           |                |   |   |              |             |  |   |              |              |   |   |         |         |  |   |            |            |  |   |            |           |                                  |   |         |          |                                       |   |           |         |   |   |             |                  |  |
| 6            | リスクと向き合う ②   | 「リタイアメント」        | テキスト<P88~97><br>・年金制度<br>・老後生活資金                                      |         |           |   |           |                |   |   |              |             |  |   |              |              |   |   |         |         |  |   |            |            |  |   |            |           |                                  |   |         |          |                                       |   |           |         |   |   |             |                  |  |
| 7            | 投資の基礎知識  | 「投資とは何か」         | テキスト<P98~104><br>・投資とは<br>・投資意思決定プロセス                                 |         |           |   |           |                |   |   |              |             |  |   |              |              |   |   |         |         |  |   |            |            |  |   |            |           |                                  |   |         |          |                                       |   |           |         |   |   |             |                  |  |
| 8            | 経済活動と金融市場  | 「景気・株価」          | テキスト<P30~31, 56~57, 32~36, 54~55, 37, 50~53><br>景気<br>景気と株価           |         |           |   |           |                |   |   |              |             |  |   |              |              |   |   |         |         |  |   |            |            |  |   |            |           |                                  |   |         |          |                                       |   |           |         |   |   |             |                  |  |
| 9            | 金融商品の基礎知識 ①  | 「代表的な金融商品 (株式等)」 | テキスト<P123~135><br>・株式<br>・投資信託<br>・外貨建て商品<br>・保険商品                    |         |           |   |           |                |   |   |              |             |  |   |              |              |   |   |         |         |  |   |            |            |  |   |            |           |                                  |   |         |          |                                       |   |           |         |   |   |             |                  |  |



|               |  |                       |                   |   |
|---------------|--|-----------------------|-------------------|---|
|               |  |                       |                   | ・デリバティブ<br>テキスト<P117~123><br>・預貯金<br>・信託<br>・債券 |
|               | 10   | 金融商品の基礎知識 ②           | 「代表的な金融商品（債券他）」   |   |
|               | 11   | 金融商品の基礎知識 ③           | 「金融市場と金融商品の性格」    | テキスト<P105~117><br>・直接金融と間接金融<br>・金融商品の性格        |
|               | 12   | 投資のリスク管理              | 「投資のリスクマネジメント」    | テキスト<P136~153><br>・分散投資<br>・時間分散<br>・長期投資       |
|               | 13   | ライフプランニング ①           | 「ライフプランニング表」      | テキスト<P58~67><br>・ライフプランニング                      |
|               | 14   | 人生の三大資金               | 「住宅、教育、リタイアメント資金」 | テキスト<P68~78><br>・キャッシュフロー表の見直し<br>・ライフイベントごとの課題 |
|               | 15   | 最終まとめ                 | 「講義のまとめ」          | 全体レビュー<br>講義で得た金融インテリジェンスのレビューを行い、実戦力を確認します。    |
| 関連科目          | 民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学 など  |                       |                   |   |
| 教科書           | 番号   | 書籍名                   | 著者名               | 出版社名  |
|               | 1  | 今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎 |                   | 金融知力普及協会  |
| 参考書           | 番号   | 書籍名                   | 著者名               | 出版社名  |
|               | 1  |                       |                   |   |
| 評価方法<br>(基準)  | <p>下記のとおり、本講義と課題に対する取り組み姿勢や理解度等を総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験 : 20% (経済やファイナンスに関する知識の正確性を評価します。試験範囲は講義全体です。)</li> <li>・レポート : 50% (自分で考えて調査し問題解決する能力、即ち、全講義を受講して得た知見を評価します。)</li> <li>・平常点 : 30% (受講状況と態度、質疑応答、e-Learning) 実績等を評価します。出席は前提条件です。)</li> </ul> <p>必要な学習は、e-Learning システムで適宜指示します。これらにきちんと対応しなければ単位は取得できません。</p> <p>講義にただ出席して教科書を開いているだけでは、目標に到達することはあり得ませんから、当然ながら単位も取得できません。毎回きちんと意識を集中して受講し、「自分で考えて講義内容を理解し行動する」という自分自身の努力を積み重ねる事が重要です。</p> <p>成績評価の一つとなる上記課題レポートは表計算ソフト「エクセル」で出題するので、提出期限(定期試験当日を予定)までにこの課題レポートの出題に答えて必要事項を調査・入力し、内容を精査すること。<br/>(講義では「エクセル」の使い方は教えませんが、フォーマットを提示するので表入力と確認が必要です。)</p> <p>レポート課題は大学内の情報システムを通じて掲示・連絡しますので、学内情報システムの利用や連絡設定は各自で事前に必ず行っておくください。</p>  |                       |                   |   |
| 学生への<br>メッセージ | <p>本講義は「受講者の誰もが覚えられるように一つ一つ教えていく」のではなく、初回「イントロダクション」でも説明する通り、全15回を通して受講することによって、情報収集能力、考える力、判断力などの実力が付くように構成してあります。このため本講義を聴講すると、諸君は実戦と同じく、広範で大量の情報が一方的に流れてくることを経験することになります。</p> <p>しかし、諸君は既に大学生なのだから、「自分に分かる程度のことを自分に分かるように教えてもらえるのが当然だ」という子供じみた甘えは捨て去ること。</p> <p>その上で、「講義されている内容を自分自身で考えて理解しよう」という確固たる意志を持ち、私語を慎み毎回静粛に受講すること。そうすればこれまでと異なる観点に立つことができ、本講義本来の効果を各自が最大限に得ることができます。</p> <p>本講義ではレジュメ等の資料を配布することは一切ありませんが、スマホやタブレット等からのネット検索やサイトの利用を適宜指示することがあります。</p> <p>受講者は指定された教科書を必ず購入してください。但し、教科書は単なる教材として手元資料的に利用するに過ぎず、講義内容も教科書通りではありません。毎回きちんと聴講しなければ成果は得られませんから単位も取得できません。</p> <p>その他、課題の提示方法等についても詳しくは講義の中で説明しますので、講義は毎回注意深く受講し、指示に従って下さい。こうした日常の情報収集能力が、各自の実力や成績評価にも大きく影響します。</p> <p>本講義で得た知識は、自分が学んでいる様々な専門知識と組み合わせることで、より高い効果を得ることができます。安直にありきたりの答えを求めるのではなく、自分で考える習慣を身につけてください。</p> <p>なお、居眠り、内職、途中離席、私語など、真摯に受講せず講義の妨げとなる学生には、講義を中断して注意を促し退席を命じる場合があります。学生の本分を弁えない不適切な行動は本講義の主旨を理解していない証左であり、成績評価にはマイナスとして反映します。</p> |                       |                   |   |
| 担当者の<br>研究室等  | 11号館1階(教務課)  |                       |                   |   |
| 備考            | <p>「事前・事後学習課題」について<br/>予習(シラバス記載の教科書該当ページを事前に読む): 30分程度<br/>復習(講義の内容を振り返り、自分の言葉で整理する): 30分程度</p> <p>質問等は、講義前又は後の時間帯に、教室等での対面による自由な質疑応答で受け付けます。<br/>興味のあることや疑問を感じたことなど、自分で抱え込まないで気軽に相談してください。</p> <p>この講義は、SMBC日興証券グループによる「寄附講座」です。</p>   |                       |                   |   |

|               |  |         |                              |
|---------------|--|---------|------------------------------|
| 科目名           | ライフサイエンスの基礎  | 科目名(英文) | Introduction to Life Science |
| 学部            | 学部共通   | 学科      | 教養特別講義                       |
| 配当年次          | 1年   | クラス     |                              |
| 単位数           | 2  | 履修区分    | 選択科目                         |
| 学期            | 前期   | 授業担当者   | 西矢 芳昭                        |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, N科: DP1◎, N科: DP1◎                                  |         |                              |
| 科目ナンバリング      | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 |         |                              |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | ライフサイエンスの基礎知識は、医療、環境、食品分野などへの生物機能の応用、すなわちバイオテクノロジーと密接に係る。ライフサイエンスおよびバイオテクノロジーの知識を深めることで、最新の科学情報を理解できると共に、社会人として相応しい教養が身に付く。ライフサイエンスの各分野を深く学ぶためにも役立つ基礎知識を、各専門分野に精通した教員により概説する。<br>また、企業で商品開発等に20年以上の実務経験を有する教員が、その経験を活かして生体物質の実用化に関する教育も行う。 |
| 到達目標        | 教養としてのライフサイエンスの基礎知識の理解   |
| 授業方法と留意点    | 配布資料に沿って、板書およびプロジェクターによる講義を行う。   |
| 科目学習の効果(資格) | 生命科学の学習に必要な基礎的事項を理解することができる。   |

| 回数 | 授業テーマ                | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題            |
|----|----------------------|---|----------------------|
|    |                      |   |                      |
| 1  | 概要説明<br>特殊環境微生物学(西矢) | 授業の進め方を説明する。<br>微生物や酵素に関する基礎知識・キーワードを解説する。                | 課題レポートまたは確認小テストを課す。  |
| 2  | 糖質生化学(大橋)            | 糖質にまつわる基礎知識・キーワード・最新トピックについて、生化学的な見地から解説する。               | 課題レポートまたは確認小テストを課す。  |
| 3  | 細胞生命生理学(宮崎)          | 生物がいかんして環境に適応する仕組み(ホメオスタシス)を獲得し、進化してきたのかについて解説する。         | 課題レポートまたは確認小テストを課す。  |
| 4  | 分子生物学(川崎)            | 分子生物学について説明する。<br>個体ゲノム制御機構に関する基礎知識・キーワードを解説する。           | 課題レポートまたは確認小テストを課す。  |
| 5  | 環境分析学(青笹)            | 食品因子の機能性と生活習慣病などの健康との係わりについて解説する。                         | 課題レポートまたは確認小テストを課す。  |
| 6  | 生命環境科学(長田)           | ライフサイエンスにおける植物について解説する。                                   | 講義後に小論文を課す。          |
| 7  | 細胞機能学(船越)            | 生物の構成単位である細胞の構造、種類や機能について解説する。                            | 課題レポート、または確認小テストを課す。 |
| 8  | 環境毒性学(木村)            | 環境化学物質による健康リスクへのライフサイエンスの係わりについて解説する。                     | 課題レポートまたは確認小テストを課す。  |
| 9  | 構造生物学(中嶋)            | 生体分子がもつ分子構造を機能の関係性について解説する。                               | 課題レポートを課す。           |
| 10 | 共生機能材料学(松尾)          | タンパク質に対する水の必要性とその機能について解説する。                              | 課題レポートまたは確認小テストを課す。  |
| 11 | 分子細胞制御学(西村)          | 多くの生命現象は「現在(いま)」を生きるためだが、生殖は「未来」を作る現象であり、具体的に生殖とは何かを解説する。 | 課題レポートまたは確認小テストを課す。  |
| 12 | 生体触媒科学(井尻)           | 生殖細胞におけるエネルギー代謝について解説する。                                  | 課題レポートまたは確認小テストを課す。  |
| 13 | 病態薬理学(居場)            | 薬理学の基本について解説する。   | 課題レポートまたは確認小テストを課す。  |
| 14 | 動物生理学(向井)            | 生物が環境の変化に適応するしくみについて、昆虫を題材として解説する。                        | 課題レポートを課す。           |
| 15 | 生体分子機能学(尾山)          | さまざまな機能性タンパク質について解説する。                                    | 確認小テストを課す。           |

|      |                         |
|------|-------------------------|
| 関連科目 | 生物学概論、生化学Ⅰ、生物無機化学、生物統計学 |
|------|-------------------------|

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|          |                                       |
|----------|---------------------------------------|
| 評価方法(基準) | 講義中の積極性、各回のレポートや知識確認テスト、小論文などで総合評価する。 |
|----------|---------------------------------------|

|           |                               |
|-----------|-------------------------------|
| 学生へのメッセージ | 不明な点があれば、各回の担当教員に遠慮無く質問して下さい。 |
|-----------|-------------------------------|

|          |                             |
|----------|-----------------------------|
| 担当者の研究室等 | 1号館 8階および9階 (理工学部生命科学科専任教員) |
|----------|-----------------------------|

|    |   |
|----|---|
| 備考 | 欠席・遅刻の扱いは理工学部の規定に従って処理する。<br>事後学習に要する総時間の目安は1.5時間 |
|----|---|

# キャリア形成科目





|                |            |          |              |
|----------------|------------|----------|--------------|
| 科目名            | インターンシップ I | 科目名 (英文) | Internship I |
| 学部             | 外国語学部      | 学科       | 外国語学科        |
| 配当年次           | 3年         | クラス      |              |
| 単位数            | 2          | 履修区分     | 選択科目         |
| 学期             | 前期         | 授業担当者    | 石井 三恵        |
| ディプロマポリシー (DP) | DP2○       |          |              |
| 科目ナンバリング       | LCA2505a3  |          |              |

|              |   |
|--------------|---|
| 授業概要・目的      | この科目を通じて、学生は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に 1) 仕事の社会における役割 2) 仕事の成果とは 3) 仕事の責任と充実感を直接肌で感じる事が期待される。<br>インターンシップ I では事前学修として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を習得する。<br><br>なお、講義では担当者の実務経験に基づいて議論を進めることもある。 |
| 到達目標         | 就職活動の流れとインターンシップの位置づけ、意義について説明することができる。<br>インターンシップへ意欲的に自信を持って参加するためのマナーと心がまえを身につける。  |
| 授業方法と留意点     | グループワークやプレゼンテーションなどを行う参加型の授業である。<br>インターンシップの現場につながる講義 (演習を含む) であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。  |
| 科目学習の効果 (資格) | インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。   |

| 回数 | 授業テーマ           | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題  |      |
|----|-----------------|---|--|------|
|    |                 |   | 事前学修   | 事後学修 |
| 1  | インターンシップとは      | ・授業オリエンテーション<br>・学生と社会人の違いを理解する<br>・インターンシップの目的を考える | ・事前学修: インターンシップとは何かについて考えること (1時間)<br>・事後学修: 配付した資料を見直して講義を振り返ること (2時間)              |      |
| 2  | 企業組織・ビジネスの理解    | ・組織の形態を知る<br>・ビジネスへの理解を深める                          | ・事前学修: 自らの興味のあるビジネスについて調べておくこと (3時間)<br>・事後学修: 配付した資料を見直して講義を振り返ること (1時間)            |      |
| 3  | 実習参加企業について      | ・産業の分類を知る<br>・業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る    | ・興味のある会社や自治体などの組織について調べる (1時間)<br>・事後学修: インターン受入企業等の組織のリストに目を通し、希望する実習先を吟味すること (3時間) |      |
| 4  | 効果的なプレゼンテーションとは | ・効果的なプレゼンテーションの仕方、注意点などを知る                          | ・事前学修: 効果的なプレゼンテーションについて考えること (1時間)<br>・事後学修: 配付された資料を見直し講義を振り返ること (3時間)             |      |
| 5  | 課題のプレゼンテーション①   | ・第4回目の課題をプレゼンテーションする                                | ・事前学修: 第4回目の課題について、プレゼンテーションの準備をすること (3時間)<br>・事後学修: プレゼンテーションのポイントをまとめる (1時間)       |      |
| 6  | 社会人のマナー①        | ・社会人としての心構えを知る<br>・身だしなみ                            | ・事前学修: マナーがなぜ大切なかを考えること (2時間)<br>・事後学修: 配付されたテキストを精読すること (2時間)                       |      |
| 7  | 社会人のマナー②        | ・文書でのコミュニケーション                                      | ・事前学修: 効果的なコミュニケーションについて考えること (2時間)<br>・事後学修: 授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みる (2時間)  |      |
| 8  | 社会人のマナー③        | ・口頭でのコミュニケーション                                      | ・事前学修: 効果的なコミュニケーションについて考えること (2時間)<br>・事後学修: マナーの大切さを再度考えること (2時間)                  |      |
| 9  | 履歴書を記入する        | ・インターンシップ用の履歴書を記入する                                 | ・事前学修: 履歴書を書く準備をしておくこと (2時間)<br>・事後学修: 講義を振り返り、履歴書を下書きすること (2時間)                     |      |
| 10 | グループワーク①        | ・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う              | ・事前学修: グループ内の自分の役割を考えること (2時間)<br>・事後学修: グループで課題に取り組むこと (2時間)                        |      |
| 11 | グループワーク②        | ・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う              | ・事前学修: グループでプレゼンテーションを行う準備をすること (2時間)<br>・事後学修: 自グループ及び他グループのプレゼンテーションを振り返ること (2時間)  |      |
| 12 | 事前訪問について        | ・事前訪問のマナーと準備について                                    | ・事前学修: インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べる (2時間)<br>・事後学修: 訪問時のマナーについておさらいをすること (2時間)           |      |
| 13 | 課題のプレゼンテーション②   | ・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション              | ・事前学修: プレゼンテーションの準備をすること (2時間)<br>・事後学修: プレゼンテーションの内容を内省すること (2時間)                   |      |
| 14 | 課題のプレゼンテーション③   | ・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション              | ・事前学修: プレゼンテーションの準備をすること (2時間)<br>・事後学修: プレゼンテーションの内容を内省すること (2時間)                   |      |
| 15 | 振り返りとまとめ        | ・授業を振り返る<br>・インターンシップの目的を再考する                       | ・事前学修: インターンシップ I で学んだことをまとめること (2時間)<br>・事後学修: インターンシップで何を身につけたい                    |      |

キャリア形成科目

|               |   |     |     |                  |
|---------------|---|-----|-----|------------------|
|               |   |     |     | かをもう一度考えること(3時間) |
| 関連科目          | この科目を履修する学生は、「インターンシップⅡ(企業等の組織での就業体験)」を履修することが望まれる。   |     |     |                  |
| 教科書           | 番号  | 書籍名 | 著者名 | 出版社名             |
|               | 1   |     |     |                  |
|               | 2   |     |     |                  |
|               | 3   |     |     |                  |
| 参考書           | 番号  | 書籍名 | 著者名 | 出版社名             |
|               | 1   |     |     |                  |
|               | 2   |     |     |                  |
|               | 3   |     |     |                  |
| 評価方法<br>(基準)  | 個別の発表(40%)、グループでの発表(20%)、授業でのレポート等の提出物(30%)、授業態度(投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、グループワークへの参加姿勢など)(10%)を総合的に評価する  |     |     |                  |
| 学生への<br>メッセージ | <p>インターンシップの流れは以下のとおりである。</p> <p>※4月下旬にリスト公開→5月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→5月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→6月末頃に事前訪問→8月上旬からインターンシップ開始(予定)</p> <p>インターンシップ先の都合により、流れの日程等が変更する場合もある。</p>             |     |     |                  |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館5階 教育イノベーションセンター(石井)   |     |     |                  |
| 備考            | <p>教科書・・・必要に応じてレジュメを配布<br/>参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示</p> <p>インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。<br/>予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。グループワーク、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。</p> |     |     |                  |

|               |           |         |               |
|---------------|-----------|---------|---------------|
| 科目名           | インターンシップⅡ | 科目名(英文) | Internship II |
| 学部            | 外国語学部     | 学科      | 外国語学科         |
| 配当年次          | 3年        | クラス     |               |
| 単位数           | 2         | 履修区分    | 選択科目          |
| 学期            | 通年集中      | 授業担当者   | 石井 三恵, 水野 武   |
| ディプロマポリシー(DP) | DP2○      |         |               |
| 科目ナンバリング      | LCA3506a3 |         |               |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。   |
| 到達目標        | インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性について主体的に考えることができる。講義での学び、経験を通じて、職業観を涵養し、それを他者に伝えることができる。  |
| 授業方法と留意点    | 「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。<br>実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。<br>事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。<br>受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。 |
| 科目学習の効果(資格) | 就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。  |

| 回数 | 授業テーマ                     | 内容・方法等   | 事前・事後学習課題  |
|----|---------------------------|--|--|
|    |                           |  |  |
| 2  | 直前学修②<br>6月22日(土) 4限目(予定) | ・報告書の書き方、注意点/マナー<br>・身だしなみの最終確認<br>・グループワークとプレゼンテーション                  | ・事前学習: マナーについて考えること(0.5時間)<br>・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)                       |
| 3  | インターンシップ実習                | ・夏季休暇中に10日間以上(原則)  | ・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと<br>・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)          |
| 4  | インターンシップ実習                | ・夏季休暇中に10日間以上(原則)  | ・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと<br>・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)          |
| 5  | インターンシップ実習                | ・夏季休暇中に10日間以上(原則)  | ・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと<br>・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)          |
| 6  | インターンシップ実習                | ・夏季休暇中に10日間以上(原則)  | ・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと<br>・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)          |
| 7  | 体験報告書の作成・提出・指導            | ・報告書提出/ゼミ教員<br>・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導<br>(担当教員への提出と教務課へ電子データを提出) | ・事後学修: 事前学修②の通りに報告書を作成するが、提出前に必ず推敲を行い、提出期限を厳守すること(2時間)                         |
| 8  | 事後学修①<br>9月21日(土) 3限目(予定) | ・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表   | ・事前学習: 個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間)                        |
| 9  | 事後学修②<br>9月21日(土) 4限目(予定) | ・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表   | ・事前学習: 個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間)                        |
| 10 | 事後学修③<br>9月28日(土) 3限目(予定) | ・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表   | ・事前学習: 代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間)<br>・事後学修: 聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間) |
| 11 | 事後学修④<br>9月28日(土) 4限目(予定) | ・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表   | ・事前学習: 代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間)<br>・事後学修: 聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間) |
| 12 | 事後学修⑤<br>10月5日(土) 3限目(予定) | ・インターンシップを振り返る<br>(実習記録簿の提出)   | ・事前学習: 実習記録簿を見直してこること(1時間)   |
| 13 | 事後学修⑥<br>10月5日(土) 4限目(予定) | ・インターンシップを振り返る   | ・事後学修: インターンシップの講義の全体を振り返ること(1時間)  |
| 14 | 事後学修⑦<br>10月26日(土) (予定)   | ・全体報告会<br>・学生代表者の発表  | ・事前学習: 全員スーツ着用で受講するため、身だしなみを再度確認すること<br>*学生代表者はパワーポイントで10分で報告ができるように準備すること     |
| 15 | 事後学修⑧<br>10月26日(土) (予定)   | ・全体報告会<br>・受け入れ企業管理者の講演とまとめ(予定)  |  |

|      |           |     |     |      |
|------|-----------|-----|-----|------|
| 関連科目 | インターンシップⅠ |     |     |      |
| 教科書  | 番号        | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|      | 1         |     |     |      |
|      | 2         |     |     |      |

キャリア形成科目

|               |  |     |     |      |
|---------------|--|-----|-----|------|
|               | 3  |     |     |      |
| 参考書           | 番号   | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|               | 1  |     |     |      |
|               | 2  |     |     |      |
|               | 3  |     |     |      |
| 評価方法<br>(基準)  | 企業による報告書 (20%)、体験報告書など提出物 (40%)、発表を含む授業態度 (投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、グループワークの参加姿勢など) (40%) を総合的に評価する。   |     |     |      |
| 学生への<br>メッセージ | 1. 「インターンシップ I」を必ず履修すること。<br>2. 「インターンシップ I」の履修には、ガイダンスに出席し、履修申し込み書を提出する必要がある。<br>履修希望者が多い場合は、選考することもある。   |     |     |      |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館5階 教育イノベーションセンター (石井)   |     |     |      |
| 備考            | 教科書・・・必要に応じてレジュメを配布する。<br>参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。<br><br>なお、振り返りの課題 (体験報告書、報告プレゼンテーションのためのスライド作成など) は3時間以上かけて仕上げること。<br>事前事後学修に出席する際は、必ずスーツを着用してくること。 |     |     |      |



|               |                |         |                          |
|---------------|----------------|---------|--------------------------|
| 科目名           | エンプロイメントデザイン I | 科目名(英文) | Employment Development I |
| 学部            | 外国語学部          | 学科      | 外国語学科                    |
| 配当年次          | 1年             | クラス     |                          |
| 単位数           | 1              | 履修区分    | 選択科目                     |
| 学期            | 後期             | 授業担当者   | 石井 三恵, 上野山 裕士, 水野 武      |
| ディプロマポリシー(DP) | DP2○           |         |                          |
| 科目ナンバリング      | LCA1503a3      |         |                          |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | この授業を通じて学生には、各回講師の大学での学生生活の過ごし方、学修に対する姿勢、大学を卒業するにあたってどのような進路を選択し、またどのような職業へと導かれたかの3つのテーマを基に、本学の教職員から多様な生き方を聴き、それらに基づいたグループワーク、個人ワークを行う。<br>この活動により、4年間の学生生活をプランニングし、自分の意見を持つことを主な目的とする。<br>また、大教室での多くの学生と共に話を聴くという態度を養い、グループに分かれて他者との意見の交換を行うことで、自分には思いつかなかった考え方を理解できるようになることが期待される。 |
| 到達目標        | 講師の意見を聴き、自身のキャリア(職業生活)を通したライフプランニング(人生設計)を必ず描いてみることを、またそのための試行錯誤することを学ぶことが目標である。   |
| 授業方法と留意点    | 人生の先輩方のお話を真摯な態度で聴く姿勢をもつことを心がける。また、話を聴くことが主となり、内容に関して調べ、まとめることを課題とするため、メモを取る習慣を身に付ける。<br>この科目は1年生向けの科目で、2019年度入学生のみ履修ができる。  |
| 科目学習の効果(資格) | 大学生生活の過ごし方や将来への目標の設定の仕方から、職業人として働くことや人・社会とかかわることについて考える契機となる。  |

| 回数 | 授業テーマ   | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題                         |
|----|---|---|-----------------------------------|
|    |   |   |                                   |
| 1  | オリエンテーション   | ・科目の趣旨・目的と評価について<br>・受講上の注意ならびに大教室でのマナーに関して<br>・キーワードの調べ方とレポートに関して  | ・講義内容を振り返ること(0.5時間)               |
| 2  | 学生生活①<br>未来の自分に何を渡すか!<br>～大学生活で成長するために必要な3つのこと～<br>(担当:看護学部事務室 課長 古屋豊吾) | ・みなさんと同じ摂大生として、ラグビー部での経験と社会で活かせる能力とを関連付けて、「自己肯定感」の重要性についてお話しします。<br>個人ワークやミニゲームを取り入れながら進行します。                                       | ・講義内容を振り返ること(0.5時間)               |
| 3  | 学生生活②<br>チャンスだらけの摂南大学-学生時代に飛躍する方法-<br>(担当:経営学部 准教授 久保 貞也)               | (1) 摂南大学をうまく活かした先輩たち(事例紹介)<br>(2) チャンスを失う典型的な学生(注意喚起)<br>(3) 摂大でチャンスを得る方法   | ・講義内容を振り返ること(0.5時間)               |
| 4  | 学生生活③<br>大学生活が教えてくれた10のこと(担当:常翔学園 本部広報室 池田 有紀)                          | ・講師の話を聴き、自分が「好きなこと・モノ」を明確化するとともに、大学生活のなかで何かに向かって試行錯誤しながらチャレンジするきっかけを作る。   | ・講義内容を振り返ること(0.5時間)               |
| 5  | 学生生活④<br>講義の中間まとめ(担当:教育イノベーションセンター)                                     | ・グループ分けの実施<br>・講義2回から4回のまとめ<br>・レポートの書き方  | ・第1回「学生生活」に関するレポートを作成すること(2時間)    |
| 6  | キャリアパス①<br>個別ワーク「私がNO.1プロジェクト」  | ・今、自分が属しているコミュニティにおいて、何かで「NO.1になる」為の計画を立て、実践する。   | ・設定した課題を実践すること(2時間)               |
| 7  | キャリアパス②<br>「私のキャリア」 キャリアアップを考える(担当:経済学部 教授 持永 政人)                       | ・企業での経験を踏まえ、将来のキャリアアップのために学生時代に何をすべきかを講義します。  | ・講義の内容を振り返ること(0.5時間)              |
| 8  | キャリアパス③<br>「NO.1プロジェクト」途中経過の共有(担当:教育イノベーションセンター)                        | ・講義6で設定した個別の課題の経過、結果をグループで共有する。   | ・グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること(0.5時間) |
| 9  | キャリアパス④<br>自分のキャリア形成のためには何が必要なのか?(担当:スポーツ振興センター 准教授 藤林 真美)              | ・自身の失敗(しかし、将来への原動力につながる)から、充足・不足していたことを紹介します。事前課題として「学歴、資金、マンパワーなど何一つ心配することなく、自分のやりたい職業に就けるor起業できると仮定し、その内容と準備について」自由な発想で考えてきてください。 | ・講義内容を振り返ること(0.5時間)               |
| 10 | キャリアパス⑤<br>講義の中間まとめ(担当:教育イノベーションセンター)                                   | ・キャリアパスの回のまとめ<br>・グループワーク   | ・第2回課題「キャリアパス」に関する課題を作成すること(2時間)  |
| 11 | 学修①<br>学修の回のオリエンテーション(担当:教育イノベーションセンター)                                 | ・学修の回のオリエンテーション<br>・グループワーク「グループで課題研究のためのリサーチプロポーザルの作成」   | ・グループで課題に取り組むこと(2時間)              |
| 12 | 学修②<br>講師のキャリア事例から「キャリア」を考える(担当:経営学部 准教授 西之坊 穂)                         | ・これまで学んできた「キャリア」は何か、キャリアについてあらためて考える  | ・講義の内容を振り返ること(0.5時間)              |
| 13 | 学修③<br>法律とスポーツと将来の職(担当:法学部 教授 石井 信輝)                                    | ・法とスポーツとの関係性は見出しにくい、様々な関係性を有する。したがって、その関係性を解説しながら、担当者が研究に取り組むに至った経緯や大学  | ・講義の内容を振り返ること(0.5時間)              |

|               |  |   |                            |   |
|---------------|--|---|----------------------------|---|
|               |  |   | における学習に向かう心構え等について講義する。    |   |
|               | 14   | 学修④<br>課題「グループで課題研究」の発表(担当:教育イノベーションセンター) | ・講義11で取り組んだ課題をグループごとに発表する。 | ・自グループ、及び他グループの発表内容を振り返ること(0.5時間)             |
|               | 15   | 講義のまとめ(担当:教育イノベーションセンター)                  | ・エンプロイメントデザインIの振り返り        | ・講義全体を振り返ること<br>・第3回課題「講義の最終レポート」を作成すること(2時間) |
| 関連科目          | キャリアデザインI・キャリアデザインII・エンプロイメントデザインII  |   |                            |   |
| 教科書           | 番号   | 書籍名                                       | 著者名                        | 出版社名  |
|               | 1  |   |                            |   |
|               | 2  |   |                            |   |
|               | 3  |   |                            |   |
| 参考書           | 番号   | 書籍名                                       | 著者名                        | 出版社名  |
|               | 1  |   |                            |   |
|               | 2  |   |                            |   |
|               | 3  |   |                            |   |
| 評価方法<br>(基準)  | 毎回のミニッツペーパー(15%)、グループワーク(15%)、レポート3回(70%)、を総合的に判断する。   |   |                            |   |
| 学生への<br>メッセージ | 学生生活4年間をいかに有意義に過ごすかをプランニングし、社会人・職業人としてのライフスタイルを考えるために、人生の先輩のお話を真摯な態度で聴いてほしい。また、自ら考え、選択し、決定していくプロセスを大切に、行動へ繋ぐ大切を学んでほしい。   |   |                            |   |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館5階 教育イノベーションセンター(石井)<br>7号館3階 教育イノベーションセンター(上野山)<br>7号館3階 教育イノベーションセンター(水野)   |   |                            |   |
| 備考            | 教科書:各回の講師が必要に応じ、プリント配布。<br>参考書:各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。<br>講師・内容は都合により変更することもある。<br>中間課題の評価基準・書き方に関する注意事項は講義内またはポータルサイトで伝達する。 |   |                            |   |

|               |               |         |                           |
|---------------|---------------|---------|---------------------------|
| 科目名           | エンプロイメントデザインⅡ | 科目名(英文) | Employment Development II |
| 学部            | 外国語学部         | 学科      | 外国語学科                     |
| 配当年次          | 2年            | クラス     |                           |
| 単位数           | 1             | 履修区分    | 選択科目                      |
| 学期            | 前期            | 授業担当者   | 石井 三恵, 上野山 裕士, 水野 武       |
| ディプロマポリシー(DP) | DP2○          |         |                           |
| 科目ナンバリング      | LCA1504a3     |         |                           |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 外部講師(本学卒業生を含む)をお招きし、仕事・職業観・人生経験やキャリア・パス等についてのお話を聴く。質疑応答の時間を設けているので、勇気を持って講師に質問をするだけでなく、質問時の態度や表現の仕方を学ぶ。<br>この科目を通じて、学生はさまざまな職業について理解し、多様な仕事術についての知識を得ること、さらには仕事観や人生観の涵養に役立てることが期待される。 |
| 到達目標        | さまざまな職業についての知識を得て、多様な仕事術を理解できるようになることを講義の目標とする。   |
| 授業方法と留意点    | 話を聴くことが主となるため、社会人としての真摯な態度での話の聴き方、メモの取り方、積極的に質問すること等の習慣を身に付ける。  |
| 科目学習の効果(資格) | 人や社会に関わること、仕事力の伸ばし方について考えるきっかけとなる。  |

| 回数 | 授業テーマ   | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題   |
|----|---|---|---|
|    |   |   |   |
| 1  | オリエンテーション(教育イノベーションセンター)                            | ・講義のオリエンテーション<br>・ゲスト講義の際の注意点(特に聴く態度)について   | ・事前学修: シラバスを熟読すること(1時間)<br>・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間) |
| 2  | 「先人(企業家)に学ぶ～仕事への心構え」大阪商工会議所人材開発部職員(所属: 大阪企業家ミュージアム) | ・企業家から学ぶ、仕事の心構えについてお話しします。  | ・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)                            |
| 3  | 私が大阪府警察で働く理由～警察官の数だけ理由がある～(警察官)                     | ・採用担当者が大阪府警察の仕事、働く上でのやりがいなどを紹介。警察学校の生活を紹介します。DVDの上映も行います(予定)。   | ・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)                            |
| 4  | 「社会起業家とは」(社会起業家)                                    | 今、進路に悩む方も多いかと思いますが、私たちは何のために働くのでしょうか。今、世界でも日本でも「働く上で、お金を動かすのも大事だが、むしろ自分は社会を動かしたい」と考える人々が増えています。市場メカニズムを用いて社会課題の解決を目指す社会起業家。社会起業家たちはなぜ出現し、どのような生き様をし、どのように社会を変えていくのか。国内外の最新動向もご紹介しつつ、一緒に新しい可能性を探ります。 | ・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)                            |
| 5  | 社会問題と対峙する仕事-ソーシャルワーカーについて-(摂南大学 OB・ソーシャルワーカー)       | ①講師の学生生活から学んだことを伝える。グループワークを実施。<br>②社会問題が他人事ではなく、自分事であることに気付く個人ワークやグループワーク、実際にあった事例を編集して伝える、事例検討を行います。  | ・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)                            |
| 6  | お坊さんから後輩のみなさんへ(摂大 OB/住職)                            | ・一人の学生が僧侶として歩みだすまでの過程を自身の学生生活の経験談を交えながらお話しします。  | ・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)                            |
| 7  | プログラマを目指して摂南大学に入学してから NPO 代表になるまで(摂大 OB/NPO 法人代表)   | ・理系学部でプログラマーを目指しながらもスタープログラマーになれなかった男が、“公共性”を武器に NPO 法人を設立するまでのキャリア構築の過程をお話しします。  | ・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)                            |
| 8  | 講義の中間まとめ(教育イノベーションセンター)                             | ・講義の中間まとめ<br>・グループワークの実施  | ・事後学修: グループワークを振り返ること(1時間)<br>中間課題を作成すること(2.5時間)      |
| 9  | 枚方市から J リーグへ! ? FC ティアモ枚方の挑戦?                       | 社会人サッカークラブのマネジメントに携わるまでの経歴と今後についてお話しします。  | ・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)                            |
| 10 | 新卒での就職活動で全てが決まる! ? (摂南大学 OG・旅行代理店/カウンター業務)          | ・講師の学生生活、キャリア形成のプロセスなどを体験談を交えてお話しします。   | ・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)                            |
| 11 | 信用金庫の仕事と期待される人財(金融/人材開発)                            | 仕事のやりがいとキャリアを学生の皆さんにイメージしていただけるよう、講義します。  | ・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)                            |
| 12 | 高校教師の仕事(高校教師)                                       | ・高校の教師の仕事についてお話しします。  | ・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)                            |
| 13 | 今求められる公務員像(摂南大学 OB/市役所職員)                           | ・あるべき姿からありたい姿へ職業としての公務員-経験談を通して、公務員になりたい自分を再度見つめ直していただきます。  | ・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)                            |
| 14 | 社会人になって学んだことと、企業経営で大切にしているモノ(摂南大学 OB/経営者)           | ・社会人となる学生へ、体験談を通して企業の中で誠実に生き抜くことを伝えます。  | ・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)                            |
| 15 | 講義のまとめ  | ・エンプロイメントデザインⅡのまとめ<br>・まとめのワークシート   | ・事前学修: 講義全体を振り返り、ノートにまとめること(1.5時間)                    |

|               |  |     |     |                          |
|---------------|--|-----|-----|--------------------------|
|               |  |     |     | ・事後学修：最終課題を作成すること(2.5時間) |
| 関連科目          | キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、エンプロイメントデザインⅠ  |     |     |                          |
| 教科書           | 番号   | 書籍名 | 著者名 | 出版社名                     |
|               | 1  |     |     |                          |
|               | 2  |     |     |                          |
|               | 3  |     |     |                          |
| 参考書           | 番号   | 書籍名 | 著者名 | 出版社名                     |
|               | 1  |     |     |                          |
|               | 2  |     |     |                          |
|               | 3  |     |     |                          |
| 評価方法<br>(基準)  | 毎回の感想(30%)、レポート2回(60%)、グループ課題(10%)を総合的に判断する。                                   |     |     |                          |
| 学生への<br>メッセージ | 講師の多様な仕事に対する意識や成果の上げ方等を聴くことで、職業観の形成に役立ててほしい。また、摂大生として誠実な態度で質疑応答に臨んでほしい。        |     |     |                          |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館5階 教育イノベーションセンター(石井)<br>7号館3階 教育イノベーションセンター(上野山)<br>7号館3階 教育イノベーションセンター(水野) |     |     |                          |
| 備考            | 講師・内容は都合により変更することもある。<br>教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布する。<br>参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。  |     |     |                          |

|               |           |         |                            |
|---------------|-----------|---------|----------------------------|
| 科目名           | キャリアデザイン  | 科目名(英文) | Career Design              |
| 学部            | 外国語学部     | 学科      | 外国語学科                      |
| 配当年次          | 1年        | クラス     |                            |
| 単位数           | 1         | 履修区分    | 必修科目                       |
| 学期            | 前期        | 授業担当者   | 石井 三恵, 上野山 裕士, 水野 武, 山岡 亮太 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP2○      |         |                            |
| 科目ナンバリング      | LCA1501a3 |         |                            |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | <p>この授業を通じて学生には</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。</li> <li>2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。</li> <li>3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。</li> <li>4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。ようになることが期待される。</li> </ol> <p>なお、講義は担当講師の20年来の人材業界および教育業界での業務経験を活かした内容も含まれる。</p> |
| 到達目標        | <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。</li> <li>2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。</li> <li>3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。</li> </ol>   |
| 授業方法と留意点    | 講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので積極的な態度で受講すること。   |
| 科目学習の効果(資格) | <p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。</p> <p>「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>  |

| 回数 | 授業テーマ                       | 内容・方法 等   | 事前・事後学習課題   |
|----|-----------------------------|---|---|
|    |                             |   |   |
| 1  | ようこそ、摂南大学へ                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のオリエンテーション</li> <li>・キャリアデザインとは何か?何故必要なのか?</li> <li>・公と私について考える</li> </ul>                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分にとって「キャリアデザイン」とは何かを考えること(0.5時間)</li> </ul>                                  |
| 2  | さあ始めよう!大学生活を                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で学ぶということを理解する</li> <li>・「学修」の意味を学ぶ</li> <li>・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける</li> </ul>                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で学ぶ意味について考えること(0.5時間)</li> </ul>  |
| 3  | 摂南大学                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する</li> <li>・摂南大学の中にある「機会」について知る</li> <li>・先輩の話を聴く</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・摂南大生として、建学の精神と教育理念を理解すること</li> <li>・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(0.5時間)</li> </ul> |
| 4  | 自己効力感を高めよう                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生活において目標とすることを考える</li> <li>・自己効力感を高めることの意味を知る</li> <li>・個人ワークのインストラクション</li> </ul>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・設定された個人ワークに取り組むこと(2時間)</li> </ul>   |
| 5  | グループ課題の設定                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク(インタビュープロジェクト)の目的を理解する</li> <li>・社会人としてのマナーを学ぶ</li> <li>・グループで工程管理を考える</li> </ul>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで課題に取り組むこと(3時間)</li> </ul>  |
| 6  | 社会は君を待っている                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の労働事情の推移を知る</li> <li>・社会で求められている力について考える</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で求められる人材について考えること(0.5時間)</li> </ul>   |
| 7  | 社会の仕組み①                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・GDPから見る社会の仕組み</li> <li>・労働と貨幣</li> <li>・税金について考える</li> </ul>                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(0.5時間)</li> </ul>                                     |
| 8  | 社会の仕組み②                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・税金について考える</li> <li>・社会の問題についてディスカッション</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(0.5時間)</li> </ul>                                    |
| 9  | 自分づくり①                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の良いところを100挙げる</li> <li>・ペアワーク</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(1時間)</li> </ul>                                     |
| 10 | 自分づくり②                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート記入</li> <li>・ペアワーク</li> <li>・大学4年間の目標設定</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(0.5時間)</li> </ul>                               |
| 11 | スケジューリング術                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力を理解する</li> <li>・PDCAサイクルを身につける</li> <li>・入学から今までの大学生活を振り返る</li> <li>・未来履歴書を書いてみる</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力を実践する方法を考えること(0.5時間)</li> </ul>   |
| 12 | ビブリオバトル①                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビブリオバトルで発表をする準備</li> <li>・グループ内で発表する</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(1時間)</li> </ul>                                       |
| 13 | グループ課題の発表会                  | グループ課題の発表会  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ内のプレゼンテーションの内容をまとめること(2時間)</li> </ul>                                     |
| 14 | グループ課題の発表会                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとのプレゼンテーション</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの準備をすること(2時間)</li> </ul>   |
| 15 | 夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学びのプランニング</li> <li>・講義の振り返り</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(1時間)</li> </ul>   |

|      |  |
|------|--|
| 関連科目 | キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ<br>エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ |
|------|--|

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|     |  |
|-----|--|
| 参考書 |  |
|-----|--|

|               | 番号   | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|---------------|--|-----|-----|------|
|               | 1  |     |     |      |
|               | 2  |     |     |      |
|               | 3  |     |     |      |
| 評価方法<br>(基準)  | グループワーク (20%)、ミニレポート (30%)、レポート (50%) で総合的に評価する。                                 |     |     |      |
| 学生への<br>メッセージ | 自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。   |     |     |      |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館5階 教育イノベーションセンター(石井)<br>7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山)<br>7号館3階 教育イノベーションセンター (水野) |     |     |      |
| 備考            | 1. 必要に応じて授業内でレジュメを配布する。<br>2. 各回のミニレポートは採点した後に、最終講義で返却する。                        |     |     |      |

|               |            |         |                     |
|---------------|------------|---------|---------------------|
| 科目名           | キャリアプランニング | 科目名(英文) | Career Planning     |
| 学部            | 外国語学部      | 学科      | 外国語学科               |
| 配当年次          | 1年         | クラス     |                     |
| 単位数           | 1          | 履修区分    | 必修科目                |
| 学期            | 後期         | 授業担当者   | 林田 敏子, 赤澤 春彦, 浅野 英一 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP2○       |         |                     |
| 科目ナンバリング      | LCA1502a3  |         |                     |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 本授業はキャリア形成科目の一つで、前半は、将来のキャリアプランにつながる6つの分野で構成される「パッケージプログラム」の概要を学び、その選択をおこないます。後半は、社会と仕事の関係や就職の現状を学びながら、自分の進路や職業について考えていきます。   |
| 到達目標        | 人間はなぜ働くのかという哲学的な問いから、社会の中でどのように生きていくかといった人生観に至るまで、多面的に今後のキャリアプランについて考えるとともに、それに基づいて「パッケージプログラム」を選択し、来年度以降の学びにつなげていくことを目標とします。   |
| 授業方法と留意点    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義と演習を織り交ぜながら行っていきます。</li> <li>・第2～7回(計6回)は、3つのクラスに分かれて、外国語学部の教員(複数)が授業を行います。</li> <li>・第9～13回(計5回)は、キャリア教育推進室の教員(複数)が授業を行います。</li> <li>・豊かな実務経験をもつ教員が複数います。</li> </ul> |
| 科目学習の効果(資格) | 就職活動に活かせるような知識が習得できます。  |

| 回数 | 授業テーマ                          | 内容・方法等   | 事前・事後学習課題   |
|----|--------------------------------|--|---|
|    |                                |  |   |
| 1  | オリエンテーション                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の目的、進め方、評価方法などを説明する。</li> <li>・パッケージプログラムの選択申請や期末レポートについて、前もって周知する。</li> </ul> | 事前学習：シラバスを熟読し、理解する。   |
| 2  | パッケージプログラムの紹介(1)               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。</li> <li>・ワークシートの作成</li> </ul>                | 事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。  |
| 3  | パッケージプログラムの紹介(2)               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。</li> <li>・ワークシートの作成</li> </ul>                | 事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。  |
| 4  | パッケージプログラムの紹介(3)               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。</li> <li>・ワークシートの作成</li> </ul>                | 事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。  |
| 5  | パッケージプログラムの紹介(4)               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。</li> <li>・ワークシートの作成</li> </ul>                | 事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。  |
| 6  | パッケージプログラムの紹介(5)               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。</li> <li>・ワークシートの作成</li> </ul>                | 事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。  |
| 7  | パッケージプログラムの紹介(6)               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。</li> <li>・ワークシートの作成</li> </ul>                | 事後学習：どのパッケージプログラムを選択するかしっかり考える。   |
| 8  | 海外体験をキャリアにどう生かすか               | 海外留学経験者による体験談を通して、海外体験とキャリアをどう結びつけるかについて考える。   | 事前学修：本学で体験可能な海外プログラムについて調べておく。  |
| 9  | 人生のイベントについて                    | キャリアの節目、人生のイベントについて考える。  | 事前学修：自分の将来について考え、ノートにまとめる。<br>事後学修：キャリアの節目、人生にイベントについて自分の考えをまとめる。   |
| 10 | 人はなぜ働くのか                       | 報酬、やりがい、役割など、様々な「働く理由」を考える。  | 事前学修：働いている人にインタビューをしてレポートにまとめる。<br>事後学修：「働く理由」に関して自分の考えをまとめる。   |
| 11 | グループワーク                        | 前回(第10回)の課題を持ち寄り、グループで討議、発表する。   | 事前学修：働いている人にインタビューをしてレポートにまとめたものを見直す。<br>事後学修：インタビューした人に自分の感想とお礼を記した手紙を書く。  |
| 12 | 業種について学ぶ                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・視点/視座/視野の使い方と事例を知る。</li> <li>・業種・職種概念を理解する</li> <li>・川上～川下の概念を理解する。</li> </ul>   | 事前学修：就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。<br>事後学修：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。   |
| 13 | 会社と職種について学ぶ                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・会社・業種・職種を理解する。</li> <li>・付加価値について考える。</li> </ul>                                 | 事前学修：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。<br>事後学修：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。第14回の授業で作成する「期末レポート」の準備をする。 |
| 14 | 「期末レポート」の作成<br>パッケージプログラムの選択申請 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「期末レポート」を授業中に作成し、提出する。</li> <li>・パッケージプログラムを1つ選択し、申請書を提出する。</li> </ul>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・提出した「期末レポート」の内容について振り返ってみる。</li> <li>・選択したパッケージプログラムについて確認する。</li> </ul>                              |
| 15 | 総括(まとめ)                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで学んできたことを総括する。</li> <li>・提出したワークシートやレポートについて講評する。</li> </ul>                  | 今後の大学生活で自分がやるべきことを整理してみる。   |

| 関連科目 | キャリアデザイン、エンプロイメントデザインなど。  |     |      |     |      |  |  |  |  |
|------|---|-----|------|-----|------|--|--|--|--|
| 教科書  | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号  | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 |  |  |  |  |
| 番号   | 書籍名   | 著者名 | 出版社名 |     |      |  |  |  |  |
|      |   |     |      |     |      |  |  |  |  |

|               |  |               |     |      |
|---------------|--|---------------|-----|------|
|               | 1  | (必要に応じて指示します) |     |      |
|               | 2  |               |     |      |
|               | 3  |               |     |      |
| 参考書           | 番号   | 書籍名           | 著者名 | 出版社名 |
|               | 1  | (必要に応じて指示します) |     |      |
|               | 2  |               |     |      |
|               | 3  |               |     |      |
| 評価方法<br>(基準)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートや課題、授業に取り組む姿勢などを中心とした平常点(60%)</li> <li>・期末レポート(40%)</li> </ul> ※ただし、原則として、出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とします。 |               |     |      |
| 学生への<br>メッセージ | 複数の教員や先輩の話が聞けます。提出物に気をつけながら主体的に学んでください。  |               |     |      |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館4階 (林田研究室)  |               |     |      |
| 備考            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前および事後に1時間以上の学習を必要とします。</li> <li>・ワークシートやレポートに関するフィードバックは、第15回の授業にて行います。</li> </ul>                       |               |     |      |



|               |            |         |                     |
|---------------|------------|---------|---------------------|
| 科目名           | キャリアプランニング | 科目名(英文) | Career Planning     |
| 学部            | 外国語学部      | 学科      | 外国語学科               |
| 配当年次          | 1年         | クラス     |                     |
| 単位数           | 1          | 履修区分    | 必修科目                |
| 学期            | 後期         | 授業担当者   | 橋本 正俊, 天野 貴史, 有馬 善一 |
| ディプロマポリシー(DP) | DP2○       |         |                     |
| 科目ナンバリング      | LCA1502a3  |         |                     |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 本授業はキャリア形成科目の一つで、前半は、将来のキャリアプランにつながる6つの分野で構成される「パッケージプログラム」の概要を学び、その選択をおこないます。後半は、社会と仕事の関係や就職の現状を学びながら、自分の進路や職業について考えていきます。   |
| 到達目標        | 人間はなぜ働くのかという哲学的な問いから、社会の中でどのように生きていくかといった人生観に至るまで、多面的に今後のキャリアプランについて考えるとともに、それに基づいて「パッケージプログラム」を選択し、来年度以降の学びにつなげていくことを目標とします。   |
| 授業方法と留意点    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義と演習を織り交ぜながら行っていきます。</li> <li>・第2～7回(計6回)は、3つのクラスに分かれて、外国語学部の教員(複数)が授業を行います。</li> <li>・第9～13回(計5回)は、キャリア教育推進室の教員(複数)が授業を行います。</li> <li>・豊かな実務経験をもつ教員が複数います。</li> </ul> |
| 科目学習の効果(資格) | 就職活動に活かせるような知識が習得できます。  |

| 回数 | 授業テーマ                          | 内容・方法等   | 事前・事後学習課題   |
|----|--------------------------------|--|---|
|    |                                |  |   |
| 1  | オリエンテーション                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の目的、進め方、評価方法などを説明する。</li> <li>・パッケージプログラムの選択申請や期末レポートについて、前もって周知する。</li> </ul> | 事前学習：シラバスを熟読し、理解する。   |
| 2  | パッケージプログラムの紹介(1)               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。</li> <li>・ワークシートの作成</li> </ul>                | 事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。  |
| 3  | パッケージプログラムの紹介(2)               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。</li> <li>・ワークシートの作成</li> </ul>                | 事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。  |
| 4  | パッケージプログラムの紹介(3)               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。</li> <li>・ワークシートの作成</li> </ul>                | 事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。  |
| 5  | パッケージプログラムの紹介(4)               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。</li> <li>・ワークシートの作成</li> </ul>                | 事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。  |
| 6  | パッケージプログラムの紹介(5)               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。</li> <li>・ワークシートの作成</li> </ul>                | 事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。  |
| 7  | パッケージプログラムの紹介(6)               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。</li> <li>・ワークシートの作成</li> </ul>                | 事後学習：どのパッケージプログラムを選択するかしっかり考える。   |
| 8  | 海外体験をキャリアにどう生かすか               | 海外留学経験者による体験談を通して、海外体験とキャリアをどう結びつけるかについて考える。   | 事前学修：本学で体験可能な海外プログラムについて調べておく。  |
| 9  | 人生のイベントについて                    | キャリアの節目、人生のイベントについて考える。  | 事前学修：自分の将来について考え、ノートにまとめる。<br>事後学修：キャリアの節目、人生にイベントについて自分の考えをまとめる。   |
| 10 | 人はなぜ働くのか                       | 報酬、やりがい、役割など、様々な「働く理由」を考える。  | 事前学修：働いている人にインタビューをしてレポートにまとめる。<br>事後学修：「働く理由」に関して自分の考えをまとめる。   |
| 11 | グループワーク                        | 前回(第10回)の課題を持ち寄り、グループで討議、発表する。   | 事前学修：働いている人にインタビューをしてレポートにまとめたものを見直す。<br>事後学修：インタビューした人に自分の感想とお礼を記した手紙を書く。  |
| 12 | 業種について学ぶ                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・視点/視座/視野の使い方と事例を知る。</li> <li>・業種・職種概念を理解する</li> <li>・川上～川下の概念を理解する。</li> </ul>   | 事前学修：就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。<br>事後学修：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。   |
| 13 | 会社と職種について学ぶ                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・会社・業種・職種を理解する。</li> <li>・付加価値について考える。</li> </ul>                                 | 事前学修：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。<br>事後学修：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。第14回の授業で作成する「期末レポート」の準備をする。 |
| 14 | 「期末レポート」の作成<br>パッケージプログラムの選択申請 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「期末レポート」を授業中に作成し、提出する。</li> <li>・パッケージプログラムを1つ選択し、申請書を提出する。</li> </ul>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・提出した「期末レポート」の内容について振り返ってみる。</li> <li>・選択したパッケージプログラムについて確認する。</li> </ul>                              |
| 15 | 総括(まとめ)                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで学んできたことを総括する。</li> <li>・提出したワークシートやレポートについて講評する。</li> </ul>                  | 今後の大学生活で自分がやるべきことを整理してみる。   |

| 関連科目 | キャリアデザイン、エンプロイメントデザインなど。  |     |      |     |      |  |  |  |  |
|------|---|-----|------|-----|------|--|--|--|--|
| 教科書  | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号  | 書籍名  | 著者名 | 出版社名 |  |  |  |  |
| 番号   | 書籍名   | 著者名 | 出版社名 |     |      |  |  |  |  |
|      |   |     |      |     |      |  |  |  |  |

|               |  |               |     |      |
|---------------|--|---------------|-----|------|
|               | 1  | (必要に応じて指示します) |     |      |
|               | 2  |               |     |      |
|               | 3  |               |     |      |
| 参考書           | 番号   | 書籍名           | 著者名 | 出版社名 |
|               | 1  | (必要に応じて指示します) |     |      |
|               | 2  |               |     |      |
|               | 3  |               |     |      |
| 評価方法<br>(基準)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートや課題、授業に取り組む姿勢などを中心とした平常点(60%)</li> <li>・期末レポート(40%)</li> </ul> ※ただし、原則として、出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とします。 |               |     |      |
| 学生への<br>メッセージ | 複数の教員や先輩の話が聞けます。提出物に気をつけながら主体的に学んでください。  |               |     |      |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館4階 (林田研究室)  |               |     |      |
| 備考            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前および事後に1時間以上の学習を必要とします。</li> <li>・ワークシートやレポートに関するフィードバックは、第15回の授業にて行います。</li> </ul>                       |               |     |      |

|               |               |         |                                     |
|---------------|---------------|---------|-------------------------------------|
| 科目名           | コミュニケーション能力開発 | 科目名(英文) | Development of Communication Skills |
| 学部            | 外国語学部         | 学科      | 外国語学科                               |
| 配当年次          | 3年            | クラス     |                                     |
| 単位数           | 1             | 履修区分    | 選択科目                                |
| 学期            | 前期            | 授業担当者   | 亀田 峻宣, 橋本 朗子                        |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1○, DP2△    |         |                                     |
| 科目ナンバリング      | LCA1510a3     |         |                                     |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 社会に必要なコミュニケーションスキルを習得するための授業です。読む・書く・話す・聴くの4技能は常に求められるスキルですが、それらは「技術」として認識し、訓練することによってより実践的なものに高めることが可能です。この授業では毎回「こちらの意図を的確に伝える」技術や「相手の意図を十分に理解する」技術、すなわち「話す」「聴く」技術を高める練習をします。普段、ディスカッションをしたり、プレゼンテーションを練習する機会はありません。講義を通じてこれら社会で求められる力を身につけたい人は受講をお勧めします。講師陣は航空業界で多種多様な価値観に触れた経験や、様々な業界で実務経験を持ち、「話す」「聴く」技術を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使えるコミュニケーション能力の獲得を目指します。 |
| 到達目標        | 高度なコミュニケーションスキルを身につけることを目標とします。具体的には社会活動において、自らが望む相応の結果を出すためのスキルを身につけることが目標です。  |
| 授業方法と留意点    | 毎回、個人ワーク・グループワーク等演習を中心に進行します。主体性を持って積極的に参加することで一層の学習効果が期待できます。  |
| 科目学習の効果(資格) |   |

|      |    |                        |                              |   |
|------|----|------------------------|------------------------------|---|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ                  | 内容・方法等                       | 事前・事後学習課題                                     |
|      | 1  | コミュニケーションとは            | コミュニケーションの本質を考える。            | シラバス熟読  |
|      | 2  | 聴く力①?傾聴力を高める?          | 聴くための技術の基本的な方法を学ぶ。?          | 講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)?                      |
|      | 3  | 聴く力②?質問力・コーチング力?       | 聴いた内容を深めるために、質問とコーチングの基礎を学ぶ  | 講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)?                      |
|      | 4  | 話す力①?ロジカルコミュニケーション①?   | 論理的に会話するための基礎を学ぶ             | 講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)?                      |
|      | 5  | 話す力②?ロジカルコミュニケーション②?   | 論理的に会話するためのフレームワークを学び、発表する   | 講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)?                      |
|      | 6  | 話す力③?プレゼンテーションの技法①?    | 非言語面で、プレゼンテーションを効果的に行う方法を学ぶ  | 講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)?                      |
|      | 7  | 話す力④?プレゼンテーションの技法②?    | 言語面で、プレゼンテーションを効果的に行う方法を学ぶ   | 講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)?                      |
|      | 8  | 中間テスト                  | 聴く力・話す力を問う。                  | 今までの範囲を復習しておくこと(目安:2時間)                       |
|      | 9  | 議論する力①?対話と議論の進め方①?     | 対話・議論を進めるための方法を知る            | 講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)。チームで発表の準備を行う(目安:1時間)。 |
|      | 10 | 議論する力②?対話と議論の進め方②?     | 対話・議論の練習をして、対話・技法のスキルを習得する   | 講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)。チームで発表の準備を行う(目安:1時間)。 |
|      | 11 | 議論する力③?ファシリテーションの技法?   | 話し合いを円滑にする技術を習得する            | 講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)。チームで発表の準備を行う(目安:1時間)。 |
|      | 12 | 相手を尊重する①?自分の気持ちを伝える?   | 適切に主張する態度・手法を身につける           | 講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)。チームで発表の準備を行う(目安:1時間)。 |
|      | 13 | 相手を尊重する②?ダイバーシティを理解する? | コミュニケーションの基礎となる多様性の考え方を身につける | 講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)。チームで発表の準備を行う(目安:1時間)。 |
|      | 14 | 総合演習①                  | 課題について、発表と議論を行う              | 講義内容を復習し、実践すること(目安:2時間)                       |
|      | 15 | 総合演習②・最終テスト            | 課題について、発表と議論を行う              | 全ての範囲を確認しておくこと(目安:2時間)                        |

|      |                   |
|------|-------------------|
| 関連科目 | キャリアデザインⅡ, 数的能力開発 |
|------|-------------------|

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|          |  |
|----------|--|
| 評価方法(基準) | 授業内での取り組み 30%、課題・プレゼンテーション 30%、中間テスト・最終テスト 40% |
|----------|--|

|           |  |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 人間は「社会的動物」です。他者との関係の中で生きていかねばなりません。他者との関係性を良好に保つことは、豊かな人生を送るための重要な条件になります。そのために求められるものが「コミュニケーション能力」と言われており、これはビジネスシーンにおいても同様です。コミュニケーションを楽しみながら、適切に行えるようになっていきましょう。 |
|-----------|--|

|            |  |
|------------|--|
| 担当者の研究室等備考 |  |
|------------|--|

キャリア形成科目

|               |            |         |                                     |
|---------------|------------|---------|-------------------------------------|
| 科目名           | 数的能力開発     | 科目名(英文) | Development of Mathematical Ability |
| 学部            | 外国語学部      | 学科      | 外国語学科                               |
| 配当年次          | 2年         | クラス     |                                     |
| 単位数           | 1          | 履修区分    | 選択科目                                |
| 学期            | 後期         | 授業担当者   | 津村 忠                                |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1△, DP2△ |         |                                     |
| 科目ナンバリング      | LCA1509a3  |         |                                     |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | 数的分野(算数・数学)を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。<br>講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。   |
| 到達目標        | 授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと。  |
| 授業方法と留意点    | まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。<br>毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。<br>なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。 |
| 科目学習の効果(資格) | 大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。   |

|      |    |               |                 |                                  |
|------|----|---------------|-----------------|----------------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ         | 内容・方法等          | 事前・事後学習課題                        |
|      | 1  | 実力テスト         | 講義概要説明、実力テストの実施 | 実力テストの復習                         |
|      | 2  | 算数・数学の基礎      | 方程式の基礎          | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
|      | 3  | 算数・数学の文章題①    | 割合の文章題          | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
|      | 4  | 算数・数学の文章題②    | 金銭問題の文章題        | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
|      | 5  | 算数・数学の文章題③    | 分数の文章題          | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
|      | 6  | 算数・数学の文章題④    | 速度の文章題          | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
|      | 7  | 復習①           | 復習①             | 今まで学習した問題全てを事前に復習                |
|      | 8  | 中テスト          | 中テスト            | 今まで学習した問題全てを事前に復習                |
|      | 9  | 思考力が必要な算数・数学① | 場合の数            | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
|      | 10 | 思考力が必要な算数・数学② | 集合問題            | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
|      | 11 | 思考力が必要な算数・数学③ | 図表問題            | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
|      | 12 | 思考力が必要な算数・数学④ | 論証問題            | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
|      | 13 | 思考力が必要な算数・数学⑤ | 推理問題            | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
|      | 14 | 復習②           | 復習②             | 全ての問題を事前に復習                      |
|      | 15 | 最終テスト         | 最終テスト           | 全ての問題を事前に復習                      |

|      |           |
|------|-----------|
| 関連科目 | キャリアデザインⅡ |
|------|-----------|

|     |    |                      |        |        |
|-----|----|----------------------|--------|--------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名                  | 著者名    | 出版社名   |
|     | 1  | ASHITANE 数的思考 スタンダード | キャリアラボ | キャリアラボ |
|     | 2  |                      |        |        |
|     | 3  |                      |        |        |

|     |    |            |        |         |
|-----|----|------------|--------|---------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名        | 著者名    | 出版社名    |
|     | 1  | 「仕事」に使える数学 | 深沢 真太郎 | ダイヤモンド社 |
|     | 2  |            |        |         |
|     | 3  |            |        |         |

|          |                                       |
|----------|---------------------------------------|
| 評価方法(基準) | 小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10% |
|----------|---------------------------------------|

|           |   |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。<br>また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。<br>毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週1時間程度の復習を必ず行ってください。 |
|-----------|---|

|          |                     |
|----------|---------------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館3階 教育イノベーションセンター |
|----------|---------------------|

|    |   |
|----|---|
| 備考 | 授業では『ASHITANE 数的思考 スタンダード』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。Smart SPI も利用します。 |
|----|---|

キャリア形成科目

|               |            |         |                                     |
|---------------|------------|---------|-------------------------------------|
| 科目名           | 数的能力開発     | 科目名(英文) | Development of Mathematical Ability |
| 学部            | 外国語学部      | 学科      | 外国語学科                               |
| 配当年次          | 2年         | クラス     |                                     |
| 単位数           | 1          | 履修区分    | 選択科目                                |
| 学期            | 後期         | 授業担当者   | 山岡 亮太                               |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1△, DP2△ |         |                                     |
| 科目ナンバリング      | LCA1509a3  |         |                                     |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | 数的分野(算数・数学)を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。なお、講義では担当講師の20年来の人材業界および教育業界での業務において数的能力を活用してきた経験を元に、基礎から応用の習得をめざします。                                      |
| 到達目標        | 授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと   |
| 授業方法と留意点    | まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。<br>毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。<br>なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。 |
| 科目学習の効果(資格) | 大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。   |

|      |    |               |                 |                                  |
|------|----|---------------|-----------------|----------------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ         | 内容・方法等          | 事前・事後学習課題                        |
|      | 1  | 実力テスト         | 講義概要説明、実力テストの実施 | 実力テストの復習                         |
|      | 2  | 算数・数学の基礎      | 方程式の基礎          | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
|      | 3  | 算数・数学の文章題①    | 割合の文章題          | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
|      | 4  | 算数・数学の文章題②    | 金銭問題の文章題        | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
|      | 5  | 算数・数学の文章題③    | 分数の文章題          | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
|      | 6  | 算数・数学の文章題④    | 速度の文章題          | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
|      | 7  | 復習①           | 復習①             | 今まで学習した問題全てを事前に復習                |
|      | 8  | 中間テスト         | 中間テスト           | 今まで学習した問題全てを事前に復習                |
|      | 9  | 思考力が必要な算数・数学① | 場合の数            | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
|      | 10 | 思考力が必要な算数・数学② | 集合問題            | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
|      | 11 | 思考力が必要な算数・数学③ | 図表問題            | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
|      | 12 | 思考力が必要な算数・数学④ | 論証問題            | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
|      | 13 | 思考力が必要な算数・数学⑤ | 推理問題            | 事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 |
|      | 14 | 復習②           | 復習②             | 全ての問題を事前に復習                      |
|      | 15 | 最終テスト         | 最終テスト           | 全ての問題を事前に復習                      |

|      |           |
|------|-----------|
| 関連科目 | キャリアデザインⅡ |
|------|-----------|

|     |    |                      |             |             |
|-----|----|----------------------|-------------|-------------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名                  | 著者名         | 出版社名        |
|     | 1  | ASHITANE 数的思考 スタンダード | (一社) キャリアラボ | (一社) キャリアラボ |
|     | 2  |                      |             |             |
|     | 3  |                      |             |             |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|          |                                       |
|----------|---------------------------------------|
| 評価方法(基準) | 小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10% |
|----------|---------------------------------------|

|           |  |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 算数や数学を楽しんで学習してください。<br>また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。<br>毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週1時間程度の予習復習を必ず行ってください。 |
|-----------|--|

|            |                 |
|------------|-----------------|
| 担当者の研究室等備考 | 7号館3階 キャリア教育推進室 |
|------------|-----------------|

|                |            |          |  |
|----------------|------------|----------|--|
| 科目名            | 日本語能力開発 I  | 科目名 (英文) | Development of Japanese Language Ability I |
| 学部             | 外国語学部      | 学科       | 外国語学科                                      |
| 配当年次           | 1 年        | クラス      |  |
| 単位数            | 1          | 履修区分     | 選択科目                                       |
| 学期             | 前期         | 授業担当者    | 人形寺 英利子                                    |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1○, DP2△ |          |  |
| 科目ナンバリング       | LCA1507a3  |          |  |

|              |   |
|--------------|---|
| 授業概要・目的      | 文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。<br>大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。<br>考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。 |
| 到達目標         | 大学生生活、社会人生活で必要となる論理的文章 (1000 字程度) を適切な方法を用いて書くことができる。   |
| 授業方法と留意点     | 大学生生活、社会人生活において求められる文章表現の基本を確認し、身につけた上で、文章作成を行う。<br>説明文・論説文・レポートの3つの課題を提出する。<br>随時、語彙力・表現力を養成するテストを行う。  |
| 科目学習の効果 (資格) | 大学生生活、社会人生活に必要な文章作成の能力が身につく。  |

|      |                                    |  |  |                      |
|------|------------------------------------|--|--|----------------------|
| 授業計画 | 回数                                 | 授業テーマ  | 内容・方法 等  | 事前・事後学習課題            |
|      | 1                                  | ガイダンス<br>文章の書き方 1                                | 授業の目的、進め方の説明<br>レポート・論文・報告書において求められる文章の基礎を学ぶ 1                     | —————                |
|      | 2                                  | 文章の書き方 2   | レポート・論文・報告書において求められる文章の基礎を学ぶ 2                                     | 文章の書き方の復習            |
|      | 3                                  | 事実と意見  | 事実と意見の書き分け、<br>論理的に説明する方法を学ぶ                                       | これまでの復習              |
|      | 4                                  | 【課題 1】説明文  | ある事物について、論理的に説明する文章を書く   | これまでの復習              |
|      | 5                                  | 構成<br>フィードバック 1                                  | レポートなどの文章構成を学ぶ<br>課題 1 の返却   | 課題 1 を見直す<br>文章構成の復習 |
|      | 6                                  | 要約<br>フィードバック 2                                  | 要旨の要約の作成方法を学ぶ<br>課題 1 の返却  | 要約の仕方の復習             |
|      | 7                                  | 文章を引用する  | 書籍、論文、インターネット上の記事等から文章を引用する方法を学ぶ                                   | 文章の引用の復習             |
|      | 8                                  | 図表を引用する  | 図表から数値を引用する方法を学ぶ   | 図表の引用の復習             |
|      | 9                                  | 文章と図表の引用の復習<br>意見を述べる                            | 文章と図表の引用の復習<br>考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ                                  | 引用の復習<br>論説文の書き方の復習  |
|      | 10                                 | 【課題 2】論説文  | 資料を引用し、論理的に意見を述べる文章を書く   | 課題 2 の復習             |
|      | 11                                 | 【課題 3 レポート】の説明<br>レポートの書き方 1<br>フィードバック 3        | 課題 3 レポートの説明<br>レポートの体裁について学ぶ<br>レポート課題のアウトラインを作る<br>課題 2 のフィードバック | これまでの復習<br>課題 2 の見直し |
|      | 12                                 | レポートの書き方 2<br>フィードバック 4                          | レポート作成の方法と体裁について学ぶ<br>レポートの下書きをする<br>課題 2 のフィードバック                 | 課題 2 の見直し<br>これまでの復習 |
|      | 13                                 | フィードバック 5  | 課題 2 のフィードバック<br>レポートの下書き・執筆をする                                    | 課題 2 を見直す<br>これまでの復習 |
|      | 14                                 | 【課題 3 レポート】の提出                                   | 【課題 3 レポート】の提出をする  | これまでの復習<br>小テストの復習   |
| 15   | 小テストの復習テスト<br>フィードバック 6<br>資料収集の方法 | 小テストの復習テストを行う<br>課題 3 のフィードバック<br>資料の検索の仕方について学ぶ | これまでの復習  |                      |

|      |           |
|------|-----------|
| 関連科目 | ゼミ、卒業研究など |
|------|-----------|

|     |    |             |                   |      |
|-----|----|-------------|-------------------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名         | 著者名               | 出版社名 |
|     | 1  | 大学生の日本語文章表現 | 摂南大学教育イノベーションセンター |      |
|     | 2  |             |                   |      |
|     | 3  |             |                   |      |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|           |   |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。<br>課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格とする。                |
| 学生へのメッセージ | 日常会話で使っている日本語、文学表現に用いる日本語と、レポート・論文・報告書などで書く日本語は区別する必要があります。<br>これからの大学生生活、社会生活のためにも、真摯に日本語と向き合ってください。 |
| 担当者の研究室等  | 7 号館 2 階 (非常勤講師室)   |
| 備考        | 事前・事後学習は、教科書や配布プリントの予習・復習を中心に 1 時間程度は掛けること。<br>提出課題については、授業中にフィードバックをします。                             |

|                |            |          |  |
|----------------|------------|----------|--|
| 科目名            | 日本語能力開発 I  | 科目名 (英文) | Development of Japanese Language Ability I |
| 学部             | 外国語学部      | 学科       | 外国語学科                                      |
| 配当年次           | 1 年        | クラス      |  |
| 単位数            | 1          | 履修区分     | 選択科目                                       |
| 学期             | 前期         | 授業担当者    | 澤野 加奈                                      |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1○, DP2△ |          |  |
| 科目ナンバリング       | LCA1507a3  |          |  |

|              |   |
|--------------|---|
| 授業概要・目的      | 文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。<br>大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。<br>考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。 |
| 到達目標         | 適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。   |
| 授業方法と留意点     | 文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。<br>毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。   |
| 科目学習の効果 (資格) | 文章作成の能力が身につく。   |

|      |                    |                            |                                 |           |
|------|--------------------|----------------------------|---------------------------------|-----------|
| 授業計画 | 回数                 | 授業テーマ                      | 内容・方法 等                         | 事前・事後学習課題 |
|      | 1                  | 導入<br>文章の書き方 1             | 授業の目的、進め方の説明<br>レポート・論文の基本事項を学ぶ | ———       |
|      | 2                  | 文章の書き方 2                   | わかりやすい文章の書き方を学ぶ                 | 前回の復習     |
|      | 3                  | 事実と意見                      | 事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ        | 前回の復習     |
|      | 4                  | 【課題 1】 説明文                 | ある事物について、論理的に説明する文章を書く          | これまでの復習   |
|      | 5                  | 構成                         | レポートなどの文章構成を学ぶ                  | 前回の復習     |
|      | 6                  | 要約                         | 要旨の要約の作成方法を学ぶ                   | 前回の復習     |
|      | 7                  | フィードバック                    | 課題 1 のフィードバック                   | 課題 1 を見直す |
|      | 8                  | 文章を引用する                    | 文章を引用する方法を学ぶ                    | 前回の復習     |
|      | 9                  | 図表を引用する                    | 図表を引用する方法を学ぶ                    | 前回の復習     |
|      | 10                 | 引用の復習<br>意見を述べる            | 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ              | 前回の復習     |
|      | 11                 | 【課題 2】 論説文                 | 資料を引用して意見を述べる文章を書く              | これまでの復習   |
|      | 12                 | レポートの書き方 1・2               | レポートの体裁について学ぶ<br>レポート課題の説明      | 前回の復習     |
|      | 13                 | フィードバック                    | 課題 2 のフィードバック                   | 課題 2 を見直す |
|      | 14                 | 【 レポート 】                   | レポートを提出する                       | レポートを作成する |
| 15   | レポートの講評<br>小テストの復習 | レポートについて講評する<br>小テストの復習テスト | これまでの復習<br>小テストの復習              |           |

|      |           |
|------|-----------|
| 関連科目 | ゼミ、卒業研究など |
|------|-----------|

|     |    |             |                    |      |
|-----|----|-------------|--------------------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名         | 著者名                | 出版社名 |
|     | 1  | 大学生の日本語文章表現 | 摂南大学教育イノベーションセンター編 |      |
|     | 2  |             |                    |      |
|     | 3  |             |                    |      |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|           |  |
|-----------|--|
| 評価方法 (基準) | 課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。<br>課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。 |
|-----------|--|

|           |   |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。 |
|-----------|---|

|          |                   |
|----------|-------------------|
| 担当者の研究室等 | 7 号館 2 階 (非常勤講師室) |
|----------|-------------------|

|    |  |
|----|--|
| 備考 | 総学習時間の目安は 60 時間。<br>提出課題については、授業中にフィードバックをします。 |
|----|--|

|                |            |          |  |
|----------------|------------|----------|--|
| 科目名            | 日本語能力開発 I  | 科目名 (英文) | Development of Japanese Language Ability I |
| 学部             | 外国語学部      | 学科       | 外国語学科                                      |
| 配当年次           | 1 年        | クラス      |  |
| 単位数            | 1          | 履修区分     | 選択科目                                       |
| 学期             | 前期         | 授業担当者    | 細川 知佐子                                     |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1○, DP2△ |          |  |
| 科目ナンバリング       | LCA1507a3  |          |  |

|              |  |
|--------------|--|
| 授業概要・目的      | 文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。<br>大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。<br>考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。 |
| 到達目標         | 適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。  |
| 授業方法と留意点     | 文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。2 回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。<br>毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。   |
| 科目学習の効果 (資格) | 文章作成の能力が身につく。  |

|      |              |                             |                                    |                      |
|------|--------------|-----------------------------|------------------------------------|----------------------|
| 授業計画 | 回数           | 授業テーマ                       | 内容・方法 等                            | 事前・事後学習課題            |
|      | 1            | 導入<br>文章の書き方 1              | 授業の目的、進め方の説明<br>レポート・論文の基本事項を学ぶ    | ———                  |
|      | 2            | 文章の書き方 2                    | わかりやすい文章の書き方を学ぶ                    | 前回の復習                |
|      | 3            | 事実と意見                       | 事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ           | 前回の復習                |
|      | 4            | 【課題 1】 説明文                  | ある事物について、論理的に説明する文章を書く             | 前回の復習                |
|      | 5            | 構成<br>要約                    | レポートなどの文章構成を学ぶ要旨の要約の作成方法を学ぶ        | 前回の復習                |
|      | 6            | 課題 1 のフィードバック               | 課題 1 のフィードバック                      | 課題 1 を見直す            |
|      | 7            | 文章を引用する                     | 文章を引用する方法を学ぶ                       | これまでの復習              |
|      | 8            | 図表を引用する<br>意見を述べる           | 図表を引用する方法を学ぶ<br>考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ | 前回の復習                |
|      | 9            | 【課題 2】 論説文                  | 資料を引用して意見を述べる文章を書く                 | 前回の復習                |
|      | 10           | 資料を引用して意見を述べるの復習            | 資料を引用して意見を述べるの復習                   | これまでの復習              |
|      | 11           | レポートの書き方 1                  | レポートの体裁について学ぶ<br>レポート課題の説明         | 前回の復習                |
|      | 12           | 課題 2 のフィードバック<br>レポートの書き方 2 | 課題 2 のフィードバック<br>レポート作成の注意点を教える    | 課題 2 を見直す            |
|      | 13           | 資料収集の方法<br>レポートの作成準備        | 文献の検索について学ぶ<br>レポートの作成準備           | レポートを作成する            |
|      | 14           | 小テストの復習<br>【 レポート 】         | 小テストの復習テスト<br>レポートを提出する            | 小テストの復習<br>レポートを作成する |
| 15   | レポートのフィードバック | レポートについて講評する                | レポートの反省<br>これまでの復習                 |                      |

|      |          |
|------|----------|
| 関連科目 | キャリアデザイン |
|------|----------|

|     |    |             |                       |      |
|-----|----|-------------|-----------------------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名         | 著者名                   | 出版社名 |
|     | 1  | 大学生の日本語文章表現 | 摂南大学日本語教育イノベーションセンター編 |      |
|     | 2  |             |                       |      |
|     | 3  |             |                       |      |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|           |  |
|-----------|--|
| 評価方法 (基準) | 課題 2 回 (20%×2)・レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。<br>課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。 |
|-----------|--|

|           |   |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。 |
|-----------|---|

|          |                   |
|----------|-------------------|
| 担当者の研究室等 | 7 号館 2 階 (非常勤講師室) |
|----------|-------------------|

|    |  |
|----|--|
| 備考 | 総学習時間の目安は 60 時間。<br>提出課題については、授業中にフィードバックをします。 |
|----|--|

キャリア形成科目



|                |            |          |  |
|----------------|------------|----------|--|
| 科目名            | 日本語能力開発 I  | 科目名 (英文) | Development of Japanese Language Ability I |
| 学部             | 外国語学部      | 学科       | 外国語学科                                      |
| 配当年次           | 1 年        | クラス      |  |
| 単位数            | 1          | 履修区分     | 選択科目                                       |
| 学期             | 前期         | 授業担当者    | 人形寺 英利子                                    |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1○, DP2△ |          |  |
| 科目ナンバリング       | LCA1507a3  |          |  |

|              |   |
|--------------|---|
| 授業概要・目的      | 文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。<br>大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。<br>考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。 |
| 到達目標         | 大学生生活、社会人生活で必要となる論理的文章 (1000 字程度) を適切な方法を用いて書くことができる。   |
| 授業方法と留意点     | 大学生生活、社会人生活において求められる文章表現の基本を確認し、身につけた上で、文章作成を行う。<br>説明文・論説文・レポートの3つの課題を提出する。<br>随時、語彙力・表現力を養成するテストを行う。  |
| 科目学習の効果 (資格) | 大学生生活、社会人生活に必要な文章作成の能力が身につく。  |

| 回数 | 授業テーマ                                     | 内容・方法 等  | 事前・事後学習課題            |
|----|---|--|----------------------|
|    |   |  |                      |
| 1  | ガイダンス<br>文章の書き方 1                         | 授業の目的、進め方の説明<br>レポート・論文・報告書において求められる文章の基礎を学ぶ 1                     | —————                |
| 2  | 文章の書き方 2                                  | レポート・論文・報告書において求められる文章の基礎を学ぶ 2                                     | 文章の書き方の復習            |
| 3  | 事実と意見                                     | 事実と意見の書き分け、<br>論理的に説明する方法を学ぶ                                       | これまでの復習              |
| 4  | 【課題 1】説明文                                 | ある事物について、論理的に説明する文章を書く   | これまでの復習              |
| 5  | 構成<br>フィードバック 1                           | レポートなどの文章構成を学ぶ<br>課題 1 の返却   | 課題 1 を見直す<br>文章構成の復習 |
| 6  | 要約<br>フィードバック 2                           | 要旨の要約の作成方法を学ぶ<br>課題 1 の返却  | 要約の仕方の復習             |
| 7  | 文章を引用する                                   | 書籍、論文、インターネット上の記事等から文章を引用する方法を学ぶ                                   | 文章の引用の復習             |
| 8  | 図表を引用する                                   | 図表から数値を引用する方法を学ぶ   | 図表の引用の復習             |
| 9  | 文章と図表の引用の復習<br>意見を述べる                     | 文章と図表の引用の復習<br>考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ                                  | 引用の復習<br>論説文の書き方の復習  |
| 10 | 【課題 2】論説文                                 | 資料を引用し、論理的に意見を述べる文章を書く   | 課題 2 の復習             |
| 11 | 【課題 3 レポート】の説明<br>レポートの書き方 1<br>フィードバック 3 | 課題 3 レポートの説明<br>レポートの体裁について学ぶ<br>レポート課題のアウトラインを作る<br>課題 2 のフィードバック | これまでの復習<br>課題 2 の見直し |
| 12 | レポートの書き方 2<br>フィードバック 4                   | レポート作成の方法と体裁について学ぶ<br>レポートの下書きをする<br>課題 2 のフィードバック                 | 課題 2 の見直し<br>これまでの復習 |
| 13 | フィードバック 5                                 | 課題 2 のフィードバック<br>レポートの下書き・執筆をする                                    | 課題 2 を見直す<br>これまでの復習 |
| 14 | 【課題 3 レポート】の提出                            | 【課題 3 レポート】の提出をする  | これまでの復習<br>小テストの復習   |
| 15 | 小テストの復習テスト<br>フィードバック 6<br>資料収集の方法        | 小テストの復習テストを行う<br>課題 3 のフィードバック<br>資料の検索の仕方について学ぶ                   | これまでの復習              |

|      |           |
|------|-----------|
| 関連科目 | ゼミ、卒業研究など |
|------|-----------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名         | 著者名               | 出版社名 |
|-----|----|-------------|-------------------|------|
|     | 1  | 大学生の日本語文章表現 | 摂南大学教育イノベーションセンター |      |
| 2   |    |             |                   |      |
| 3   |    |             |                   |      |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
|     | 1  |     |     |      |
| 2   |    |     |     |      |
| 3   |    |     |     |      |

|           |   |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。<br>課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格とする。                |
| 学生へのメッセージ | 日常会話で使っている日本語、文学表現に用いる日本語と、レポート・論文・報告書などで書く日本語は区別する必要があります。<br>これからの大学生生活、社会生活のためにも、真摯に日本語と向き合ってください。 |
| 担当者の研究室等  | 7 号館 2 階 (非常勤講師室)   |
| 備考        | 事前・事後学習は、教科書や配布プリントの予習・復習を中心に 1 時間程度は掛けること。<br>提出課題については、授業中にフィードバックをします。                             |

|                |            |          |  |
|----------------|------------|----------|--|
| 科目名            | 日本語能力開発 I  | 科目名 (英文) | Development of Japanese Language Ability I |
| 学部             | 外国語学部      | 学科       | 外国語学科                                      |
| 配当年次           | 1 年        | クラス      | 再  |
| 単位数            | 1          | 履修区分     | 選択科目                                       |
| 学期             | 前期         | 授業担当者    | 細川 知佐子                                     |
| ディプロマポリシー (DP) | DP1○, DP2△ |          |  |
| 科目ナンバリング       | LCA1507a3  |          |  |

|              |  |
|--------------|--|
| 授業概要・目的      | 文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。<br>大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。<br>考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。 |
| 到達目標         | 適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。  |
| 授業方法と留意点     | 文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。2 回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。<br>毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。   |
| 科目学習の効果 (資格) | 文章作成の能力が身につく。  |

|      |              |                             |                                    |                      |
|------|--------------|-----------------------------|------------------------------------|----------------------|
| 授業計画 | 回数           | 授業テーマ                       | 内容・方法 等                            | 事前・事後学習課題            |
|      | 1            | 導入<br>文章の書き方 1              | 授業の目的、進め方の説明<br>レポート・論文の基本事項を学ぶ    | —————                |
|      | 2            | 文章の書き方 2                    | わかりやすい文章の書き方を学ぶ                    | 前回の復習                |
|      | 3            | 事実と意見                       | 事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ           | 前回の復習                |
|      | 4            | 【課題 1】 説明文                  | ある事物について、論理的に説明する文章を書く             | 前回の復習                |
|      | 5            | 構成<br>要約                    | レポートなどの文章構成を学ぶ要旨の要約の作成方法を学ぶ        | 前回の復習                |
|      | 6            | 課題 1 のフィードバック               | 課題 1 のフィードバック                      | 課題 1 を見直す            |
|      | 7            | 文章を引用する                     | 文章を引用する方法を学ぶ                       | これまでの復習              |
|      | 8            | 図表を引用する<br>意見を述べる           | 図表を引用する方法を学ぶ<br>考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ | 前回の復習                |
|      | 9            | 【課題 2】 論説文                  | 資料を引用して意見を述べる文章を書く                 | 前回の復習                |
|      | 10           | 資料を引用して意見を述べるの復習            | 資料を引用して意見を述べるの復習                   | これまでの復習              |
|      | 11           | レポートの書き方 1                  | レポートの体裁について学ぶ<br>レポート課題の説明         | 前回の復習                |
|      | 12           | 課題 2 のフィードバック<br>レポートの書き方 2 | 課題 2 のフィードバック<br>レポート作成の注意点を教える    | 課題 2 を見直す            |
|      | 13           | 資料収集の方法<br>レポートの作成準備        | 文献の検索について学ぶ<br>レポートの作成準備           | レポートを作成する            |
|      | 14           | 小テストの復習<br>【 レポート 】         | 小テストの復習テスト<br>レポートを提出する            | 小テストの復習<br>レポートを作成する |
| 15   | レポートのフィードバック | レポートについて講評する                | レポートの反省<br>これまでの復習                 |                      |

|      |           |
|------|-----------|
| 関連科目 | ゼミ、卒業研究など |
|------|-----------|

|     |    |             |                       |      |
|-----|----|-------------|-----------------------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名         | 著者名                   | 出版社名 |
|     | 1  | 大学生の日本語文章表現 | 摂南大学日本語教育イノベーションセンター編 |      |
|     | 2  |             |                       |      |
|     | 3  |             |                       |      |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|           |  |
|-----------|--|
| 評価方法 (基準) | 課題 2 回 (20%×2)・レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。<br>課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。 |
|-----------|--|

|           |   |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。 |
|-----------|---|

|          |                   |
|----------|-------------------|
| 担当者の研究室等 | 7 号館 2 階 (非常勤講師室) |
|----------|-------------------|

|    |  |
|----|--|
| 備考 | 総学習時間の目安は 60 時間。<br>提出課題については、授業中にフィードバックをします。 |
|----|--|

|               |            |         |   |
|---------------|------------|---------|---|
| 科目名           | 日本語能力開発Ⅱ   | 科目名(英文) | Development of Japanese Language Ability II |
| 学部            | 外国語学部      | 学科      | 外国語学科                                       |
| 配当年次          | 1年         | クラス     |   |
| 単位数           | 1          | 履修区分    | 選択科目  |
| 学期            | 後期         | 授業担当者   | 人形寺 英利子                                     |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1○, DP2△ |         |   |
| 科目ナンバリング      | LCA1508a3  |         |   |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。<br>大学生生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。<br>すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。 |
| 到達目標        | 適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。<br>グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。  |
| 授業方法と留意点    | 大学生生活、社会人生活において求められる文章表現の基本を確認する。<br>グループディスカッションやプレゼンテーションを行うので、話し合いや発表に各自責任を持って参加する必要がある。<br>課題3回を必ず提出すること。<br>随時、語彙力・表現力を養成するテストを行う。                 |
| 科目学習の効果(資格) | 大学生生活、社会人生活に必要な、書く・話す能力が身につく。   |

| 回数 | 授業テーマ                      | 内容・方法等   | 事前・事後学習課題                                 |
|----|----------------------------|--|---|
|    |                            |  |   |
| 2  | レポートの書き方2                  | レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方について確認する2                                     | レポートの書き方の復習                               |
| 3  | 【課題1】レポート                  | 資料を引用して、論理的に意見を述べる文章を書く  | 今回の復習                                     |
| 4  | 敬意を表す言葉                    | 敬語の種類と用法を学ぶ  | 今回の復習                                     |
| 5  | メールの書き方                    | メールの書式・用語・マナーを学ぶ   | 今回の復習                                     |
| 6  | 課題1のフィードバック<br>後半タームのガイダンス | 課題1のフィードバックをする<br>後半ターム(グループディスカッション・プレゼンテーション・課題2と3)についての説明。準備を始める。 | 課題1を見直す<br>グループディスカッションのために自分の考えを整理する     |
| 7  | グループディスカッション1              | グループ分け<br>グループディスカッションの方法を確認する<br>ディスカッションを行う                        | 文章表現について復習<br>ディスカッションの経緯をまとめる            |
| 8  | 【課題2】報告書<br>グループディスカッション2  | 報告書の書き方について学ぶ。<br>資料の作成方法について学ぶ。<br>プレゼンテーションの資料を準備する。               | プレゼンテーションに必要な資料を探す。<br>考えを整理する。           |
| 9  | グループディスカッション3              | プレゼンテーションの資料を準備する  | 発表資料を作成するために必要な資料を探したり、考えを整理する。           |
| 10 | 課題2のフィードバック                | 課題2のフィードバック<br>グループでプレゼンテーションの資料を準備する。リハーサルを行う。                      | 課題2を見て文章表現について復習する。<br>発表資料を準備し、リハーサルを行う。 |
| 11 | プレゼンテーション1                 | 準備した資料を基にプレゼンテーションを行う<br>聴衆は傾聴する                                     | プレゼンテーション資料の作成・提出                         |
| 12 | プレゼンテーション2                 | 準備した資料を基にプレゼンテーションを行う1。<br>聴衆は傾聴する                                   | プレゼンテーションの準備<br>課題3のためにこれまでの振り返りをする       |
| 13 | 【課題3】レポート                  | グループディスカッションとプレゼンテーションの内容を、レポートとして文章化する。                             | 後半タームの復習をする                               |
| 14 | 手紙の書き方<br>課題3の講評           | 手紙の書き方を学ぶ<br>課題3の講評  | 手紙の書き方の復習<br>敬語の復習                        |
| 15 | 小テストの復習テスト<br>授業の総括        | 小テストの復習  | これまでの復習<br>小テストの復習                        |

|      |                    |
|------|--------------------|
| 関連科目 | キャリアデザイン・ゼミ・卒業研究など |
|------|--------------------|

|     |    |             |                |      |
|-----|----|-------------|----------------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名         | 著者名            | 出版社名 |
|     | 1  | 大学生の日本語文章表現 | 摂南大学 日本語文章表現の会 |      |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |

|          |   |
|----------|---|
| 評価方法(基準) | 課題3回(20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により評価する。<br>課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。 |
|----------|---|

|           |  |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 日常会話で使っている日本語、文学表現に用いる日本語と、レポート・論文・報告書などで書く日本語は区別する必要があります。<br>また、日常での話し言葉と人前で話す日本語も異なります。<br>これからの大学生生活、就職活動、社会人生活のためにも、真摯に日本語と向き合ってください。 |
|-----------|--|

|          |               |
|----------|---------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階(非常勤講師室) |
|----------|---------------|

|    |   |
|----|---|
| 備考 | 事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。<br>宿題を出す場合もあります。 |
|----|---|

キャリア形成科目

|               |            |         |   |
|---------------|------------|---------|---|
| 科目名           | 日本語能力開発Ⅱ   | 科目名(英文) | Development of Japanese Language Ability II |
| 学部            | 外国語学部      | 学科      | 外国語学科                                       |
| 配当年次          | 1年         | クラス     |   |
| 単位数           | 1          | 履修区分    | 選択科目  |
| 学期            | 後期         | 授業担当者   | 澤野 加奈                                       |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1○, DP2△ |         |   |
| 科目ナンバリング      | LCA1508a3  |         |   |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | 文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。<br>大学生生活、就職活動、社会人生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。 |
| 到達目標        | 適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。<br>グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。   |
| 授業方法と留意点    | 文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、ディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。グループワークのなかから、ディベートする力を養う。  |
| 科目学習の効果(資格) | 大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。   |

|      |                   |                           |                              |           |
|------|-------------------|---------------------------|------------------------------|-----------|
| 授業計画 | 回数                | 授業テーマ                     | 内容・方法等                       | 事前・事後学習課題 |
|      | 1                 | 導入                        | 授業の目的、進め方の説明                 | —————     |
|      | 2                 | レポートの書き方                  | レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する | 前回の復習     |
|      | 3                 | 【課題1】レポート                 | 資料を引用して、意見を述べる文章を書く          | これまでの復習   |
|      | 4                 | ディスカッション準備                | 配布された資料をまとめる                 | 前回の復習     |
|      | 5                 | フィードバック                   | 課題1のフィードバック                  | 課題1を見直す   |
|      | 6                 | ディスカッション1                 | グループ分けとディスカッションを行う           | テーマの下調べ   |
|      | 7                 | ディスカッション2                 | ディスカッションを行う                  | 前回の復習     |
|      | 8                 | 【課題2】報告文                  | ディスカッションの経過を文書で報告する          | これまでの復習   |
|      | 9                 | 資料作成                      | プレゼンテーション資料の作成を行う            | 資料作成の準備   |
|      | 10                | フィードバック                   | 課題2のフィードバック                  | 課題2を見直す   |
|      | 11                | プレゼンテーション1                | 資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う   | 発表の準備     |
|      | 12                | プレゼンテーション2                | 資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う   | 発表の準備     |
|      | 13                | 【課題3】報告文                  | プレゼンテーションの内容を文書で報告する         | 報告文の準備    |
|      | 14                | 手紙の書き方                    | 手紙の基本とマナーを学ぶ                 | 前回の復習     |
| 15   | 課題3の総評<br>小テストの復習 | 課題3のフィードバック<br>小テストの復習テスト | 小テストの復習                      |           |

|      |           |
|------|-----------|
| 関連科目 | ゼミ、卒業研究など |
|------|-----------|

|     |    |             |                    |      |
|-----|----|-------------|--------------------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名         | 著者名                | 出版社名 |
|     | 1  | 大学生の日本語文章表現 | 摂南大学教育イノベーションセンター編 |      |
|     | 2  |             |                    |      |
|     | 3  |             |                    |      |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|           |  |
|-----------|--|
| 評価方法(基準)  | 課題3回(20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により評価する。<br>課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。  |
| 学生へのメッセージ | 日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。 |
| 担当者の研究室等  | 7号館2階(非常勤講師室)  |
| 備考        | 総学習時間の目安は60時間。<br>提出課題については、授業中にフィードバックをします。   |

|               |            |         |   |
|---------------|------------|---------|---|
| 科目名           | 日本語能力開発Ⅱ   | 科目名(英文) | Development of Japanese Language Ability II |
| 学部            | 外国語学部      | 学科      | 外国語学科                                       |
| 配当年次          | 1年         | クラス     |   |
| 単位数           | 1          | 履修区分    | 選択科目  |
| 学期            | 後期         | 授業担当者   | 細川 知佐子                                      |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1○, DP2△ |         |   |
| 科目ナンバリング      | LCA1508a3  |         |   |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | 文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。<br>大学生生活、就職活動、社会人生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。 |
| 到達目標        | 適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。<br>グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。   |
| 授業方法と留意点    | 文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。<br>毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。  |
| 科目学習の効果(資格) | 大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。   |

| 回数 | 授業テーマ                    | 内容・方法等                                    | 事前・事後学習課題                        |
|----|--------------------------|---|----------------------------------|
|    |                          |   |                                  |
| 1  | 導入                       | 授業の目的、進め方の説明                              | —————                            |
| 2  | レポートの書き方                 | レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する              | 前回の復習                            |
| 3  | 【課題1】<br>資料を引用して、意見を述べる  | 資料を引用して、意見を述べる文章を書く                       | 前回の復習                            |
| 4  | 敬意を表す言葉                  | 敬語の種類と用法を学ぶ                               | 敬語の復習                            |
| 5  | 課題1フィードバック               | 課題1のフィードバック<br>敬語の練習問題                    | 課題1を見直す                          |
| 6  | 手紙の書き方                   | 手紙の書式・用語・マナーを学ぶ                           | 手紙を書く                            |
| 7  | ディスカッション準備               | ディスカッションの前に個人の意見をまとめる                     | テーマの下調べ                          |
| 8  | ディスカッション1                | グループ分けとディスカッションを行う                        | ディスカッションの準備                      |
| 9  | ディスカッション2                | ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う                | ディスカッション報告文の準備<br>プレゼンテーション資料の準備 |
| 10 | 課題2<br>ディスカッションの報告       | ディスカッションの報告文を書く                           | ディスカッションの反省                      |
| 11 | プレゼンテーション1               | 資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う                | 発表の準備                            |
| 12 | プレゼンテーション2               | 資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う                | 発表の準備                            |
| 13 | プレゼンテーション3<br>課題2フィードバック | 資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う<br>課題2のフィードバック | 発表の準備<br>課題2を見直す                 |
| 14 | 【課題3】報告文                 | ディスカッションの経過と結論を文書で報告する                    | 報告文の準備                           |
| 15 | 小テストの復習<br>授業の総括         | 小テストの復習テスト                                | 小テストの復習                          |

|      |          |
|------|----------|
| 関連科目 | キャリアデザイン |
|------|----------|

| 番号 | 書籍名         | 著者名                | 出版社名 |
|----|-------------|--------------------|------|
|    |             |                    |      |
| 1  | 大学生の日本語文章表現 | 摂南大学教育イノベーションセンター編 |      |
| 2  |             |                    |      |
| 3  |             |                    |      |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
|    |     |     |      |
| 1  |     |     |      |
| 2  |     |     |      |
| 3  |     |     |      |

|           |   |
|-----------|---|
| 評価方法(基準)  | 課題(20%、20%、30%)、授業への取り組み姿勢・小テスト(30%)により評価する。<br>課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。  |
| 学生へのメッセージ | 日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生生活、就職活動、社会人生活のために、真面目に日本語と向き合ってください。 |
| 担当者の研究室等  | 7号館2階(非常勤講師室)   |
| 備考        | 事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。<br>授業時間外の質問は、メールにより対応。   |

キャリア形成科目

|               |            |         |   |
|---------------|------------|---------|---|
| 科目名           | 日本語能力開発Ⅱ   | 科目名(英文) | Development of Japanese Language Ability II |
| 学部            | 外国語学部      | 学科      | 外国語学科                                       |
| 配当年次          | 1年         | クラス     |   |
| 単位数           | 1          | 履修区分    | 選択科目  |
| 学期            | 後期         | 授業担当者   | 人形寺 英利子                                     |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1○, DP2△ |         |   |
| 科目ナンバリング      | LCA1508a3  |         |   |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。<br>大学生生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。<br>すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。 |
| 到達目標        | 適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。<br>グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。  |
| 授業方法と留意点    | 大学生生活、社会人生活において求められる文章表現の基本を確認する。<br>グループディスカッションやプレゼンテーションを行うので、話し合いや発表に各自責任を持って参加する必要がある。<br>課題3回を必ず提出すること。<br>随時、語彙力・表現力を養成するテストを行う。                 |
| 科目学習の効果(資格) | 大学生生活、社会人生活に必要な、書く・話す能力が身につく。   |

キャリア形成科目

| 回数 | 授業テーマ                      | 内容・方法等   | 事前・事後学習課題                                 |
|----|----------------------------|--|---|
|    |                            |  |   |
| 2  | レポートの書き方2                  | レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方について確認する2                                     | レポートの書き方の復習                               |
| 3  | 【課題1】レポート                  | 資料を引用して、論理的に意見を述べる文章を書く  | 今回の復習                                     |
| 4  | 敬意を表す言葉                    | 敬語の種類と用法を学ぶ  | 今回の復習                                     |
| 5  | メールの書き方                    | メールの書式・用語・マナーを学ぶ   | 今回の復習                                     |
| 6  | 課題1のフィードバック<br>後半タームのガイダンス | 課題1のフィードバックをする<br>後半ターム(グループディスカッション・プレゼンテーション・課題2と3)についての説明。準備を始める。 | 課題1を見直す<br>グループディスカッションのために自分の考えを整理する     |
| 7  | グループディスカッション1              | グループ分け<br>グループディスカッションの方法を確認する<br>ディスカッションを行う                        | 文章表現について復習<br>ディスカッションの経緯をまとめる            |
| 8  | 【課題2】報告書<br>グループディスカッション2  | 報告書の書き方について学ぶ。<br>資料の作成方法について学ぶ。<br>プレゼンテーションの資料を準備する。               | プレゼンテーションに必要な資料を探す。<br>考えを整理する。           |
| 9  | グループディスカッション3              | プレゼンテーションの資料を準備する  | 発表資料を作成するために必要な資料を探したり、考えを整理する。           |
| 10 | 課題2のフィードバック                | 課題2のフィードバック<br>グループでプレゼンテーションの資料を準備する。リハーサルを行う。                      | 課題2を見て文章表現について復習する。<br>発表資料を準備し、リハーサルを行う。 |
| 11 | プレゼンテーション1                 | 準備した資料を基にプレゼンテーションを行う<br>聴衆は傾聴する                                     | プレゼンテーション資料の作成・提出                         |
| 12 | プレゼンテーション2                 | 準備した資料を基にプレゼンテーションを行う1。<br>聴衆は傾聴する                                   | プレゼンテーションの準備<br>課題3のためにこれまでの振り返りをする       |
| 13 | 【課題3】レポート                  | グループディスカッションとプレゼンテーションの内容を、レポートとして文章化する。                             | 後半タームの復習をする                               |
| 14 | 手紙の書き方<br>課題3の講評           | 手紙の書き方を学ぶ<br>課題3の講評  | 手紙の書き方の復習<br>敬語の復習                        |
| 15 | 小テストの復習テスト<br>授業の総括        | 小テストの復習  | これまでの復習<br>小テストの復習                        |

関連科目 キヤリアデザイン・ゼミ・卒業研究など

| 教科書 | 番号 | 書籍名         | 著者名            | 出版社名 |
|-----|----|-------------|----------------|------|
|     | 1  | 大学生の日本語文章表現 | 摂南大学 日本語文章表現の会 |      |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
|     | 1  |     |     |      |

評価方法(基準) 課題3回(20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により評価する。  
課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。

学生へのメッセージ 日常会話で使っている日本語、文学表現に用いる日本語と、レポート・論文・報告書などで書く日本語は区別する必要があります。また、日常での話し言葉と人前で話す日本語も異なります。これからの大学生生活、就職活動、社会人生活のためにも、真摯に日本語と向き合ってください。

担当者の研究室等 7号館2階(非常勤講師室)

備考 事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。  
宿題を出す場合もあります。

|               |            |         |   |
|---------------|------------|---------|---|
| 科目名           | 日本語能力開発Ⅱ   | 科目名(英文) | Development of Japanese Language Ability II |
| 学部            | 外国語学部      | 学科      | 外国語学科                                       |
| 配当年次          | 1年         | クラス     | 再   |
| 単位数           | 1          | 履修区分    | 選択科目  |
| 学期            | 後期         | 授業担当者   | 細川 知佐子                                      |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1○, DP2△ |         |   |
| 科目ナンバリング      | LCA1508a3  |         |   |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | 文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。<br>大学生生活、就職活動、社会人生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。 |
| 到達目標        | 適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。<br>グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。   |
| 授業方法と留意点    | 文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。  |
| 科目学習の効果(資格) | 大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。   |

| 回数 | 授業テーマ                   | 内容・方法等                          | 事前・事後学習課題                        |
|----|-------------------------|---------------------------------|----------------------------------|
|    |                         |                                 |                                  |
| 1  | 導入                      | 授業の目的、進め方の説明                    | —————                            |
| 2  | レポートの書き方1               | レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する    | 前回の復習                            |
| 3  | レポートの書き方2               | レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する    | 前回の復習                            |
| 4  | 【課題1】<br>資料を引用して、意見を述べる | 資料を引用して、意見を述べる文章を書く             | これまでの復習                          |
| 5  | 敬意を表す言葉                 | 敬語の種類と用法を学ぶ                     | 敬語の復習                            |
| 6  | 手紙の書き方                  | 手紙の書式・用語・マナーを学ぶ                 | 手紙の復習                            |
| 7  | 手紙を書く<br>課題1フィードバック     | 手紙文の作成<br>課題1のフィードバック           | 課題1を見直す                          |
| 8  | ディスカッション準備              | ディスカッションの前に個人の意見をまとめる           | ディスカッションの準備テーマの下調べ               |
| 9  | ディスカッション1               | グループ分けとディスカッションを行う              | ディスカッション報告文の準備<br>プレゼンテーション資料の準備 |
| 10 | 課題2<br>ディスカッションの報告      | ディスカッションの報告文を書く                 | ディスカッションの反省                      |
| 11 | プレゼンテーション準備             | プレゼンテーション資料の作成を行う               | 発表の準備                            |
| 12 | プレゼンテーション1              | 資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う      | 発表の準備                            |
| 13 | 【課題3】報告文<br>課題2フィードバック  | グループワークの報告文を作成する<br>課題2のフィードバック | 報告文の準備<br>課題2を見直す                |
| 14 | 小テストの復習                 | 小テストの復習テスト                      | 小テストの復習                          |
| 15 | 課題3フィードバック              | 課題3フィードバック                      | 課題3を見直す                          |

|      |          |
|------|----------|
| 関連科目 | キャリアデザイン |
|------|----------|

| 番号 | 書籍名         | 著者名                | 出版社名 |
|----|-------------|--------------------|------|
|    |             |                    |      |
| 1  | 大学生の日本語文章表現 | 摂南大学教育イノベーションセンター編 |      |
| 2  |             |                    |      |
| 3  |             |                    |      |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
|    |     |     |      |
| 1  |     |     |      |
| 2  |     |     |      |
| 3  |     |     |      |

|          |  |
|----------|--|
| 評価方法(基準) | 課題(20%、20%、30%)、授業への取り組み姿勢・小テスト(30%)により評価する。<br>課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。 |
|----------|--|

|           |   |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生生活、就職活動、社会人生活のために、真面目に日本語と向き合ってください。 |
|-----------|---|

|          |               |
|----------|---------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階(非常勤講師室) |
|----------|---------------|

|    |   |
|----|---|
| 備考 | 事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。<br>授業時間外の質問は、メールにより対応。 |
|----|---|

|               |            |         |                  |
|---------------|------------|---------|------------------|
| 科目名           | ビジネスマナー    | 科目名(英文) | Business Manners |
| 学部            | 外国語学部      | 学科      | 外国語学科            |
| 配当年次          | 3年         | クラス     |                  |
| 単位数           | 1          | 履修区分    | 選択科目             |
| 学期            | 後期         | 授業担当者   | 奥田 和子            |
| ディプロマポリシー(DP) | DP1○, DP2○ |         |                  |
| 科目ナンバリング      | LCA1511a3  |         |                  |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。<br>企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。<br>ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、また経営士としての観点から人間関係について話をします。 |
| 到達目標        | クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。  |
| 授業方法と留意点    | ロールプレイやグループワークを多く取り入れるため、学生の積極的な参加が求められる。  |
| 科目学習の効果(資格) | 社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。   |

キャリア形成科目

| 回数 | 授業テーマ                         | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題  |
|----|-------------------------------|---|--|
|    |                               |   |  |
| 1  | オリエンテーション<br>-あいさつの重要性(理論と実践) | ・授業のオリエンテーション<br>・授業のルール<br>・あいさつの真の意味とは<br>・正しい基本姿勢を学ぶ | ・事前学修：ビジネスマナーとは何かを考える。<br>・事後学修：ビジネスマナーの意義とは何か、400字でまとめる。          |
| 2  | 仕事の進め方と組織活動                   | ・定型業務と非定型業務<br>・コスト意識とエコ活動<br>・仕事の基本の8つの意識<br>・話し方と聞き方  | ・事前学修：仕事の基本の8つの意識について調べる。<br>・事後学修：仕事の取り組み方の基本は何か、まとめる。            |
| 3  | 目標設定とPDCAサイクル                 | ・目標設定(MBO)<br>・PDCAとは<br>・チームと個人の役割                     | ・事前学修：PDCAについて調べる。<br>・事後学修：あなたの日常生活におけるMBOとPDCAを考え、まとめる(400字以上)。  |
| 4  | スケジュールと出張業務                   | ・スケジュールの作り方<br>・業務としての出張-YTT方式-                         | ・事前学修：あなたの1週間予定表を作成する。<br>・事後学修：あなたの予定表を作成提出し、改善点をまとめる。            |
| 5  | ビジネスの場での敬語表現                  | ・基本的な敬語表現の復習<br>・ビジネスの場での使用方法-TPOをもとに-                  | ・事前学修：敬語プリント①をする。<br>・事後学修：ケーススタディプリントをする。                         |
| 6  | 電話応対                          | ・ビジネスフォンの扱い方<br>・5W2Hから6W3Hへ<br>・簡潔メモの作り方<br>・不在処理と伝言   | ・事前学修：電話応対プリントをする。<br>・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。                         |
| 7  | 来客応対                          | ・組織図と対応<br>・簡単な応対から不在処理や重複処理まで<br>・名刺交換                 | ・事前学修：来客応対プリント①をする。<br>・事後学修：来客対応プリント②をする。                         |
| 8  | ハウ・レン・ソウ                      | ・ビジネスにおける「報連相」<br>・指示の受け方<br>・業務の優先順位                   | ・事前学修：報告・連絡・相談の重要性について調べる<br>・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。       |
| 9  | ビジネス文書の基本①                    | ・社外文書が基本<br>・商取引文書と社外文書の相違<br>・社内文書と社外文書の種類<br>・ファイリング  | ・事前学修：ビジネス文書始める前にする。<br>・事後学修：ビジネス文書②をする。                          |
| 10 | ビジネス文書の基本②                    | ・実践   | ・事前学修：ビジネス文書③をする。<br>・事後学修：ビジネス文書④をする。                             |
| 11 | ビジネス通信の基本                     | ・通信手段(電子メール、ファックス等)の選択<br>・作成上の注意点<br>・郵便・宅配便の知識        | ・事前学修：郵便の知識プリント①をする。<br>・事後学修：メール文書を作成する。                          |
| 12 | 法的業務                          | ・押印と印鑑の意味<br>・内容証明<br>・個人情報保護(Pマーク)<br>・コンプライアンス        | ・事前学修：コンプライアンスについて調べる。<br>・事後学修：個人情報保護法についてレポートを作成する(400字以上)。      |
| 13 | 設営の基本                         | ・YTT方式からの業務遂行<br>・確認の必要性<br>・他部署とのコミュニケーションの必要性         | ・事前学修：同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。<br>・事後学修：設営事例をまとめる。      |
| 14 | 慶弔と贈答                         | ・慶弔時の基本的マナー<br>・「式」について<br>・業務としての贈答                    | ・事前学修：慶弔・贈答プリント①をする。<br>・事後学修：ビジネス文書(社外社内)、郵便の知識、慶弔のマナーのポイントをまとめる。 |
| 15 | 協働とコミュニケーション                  | ・外国人同僚・異文化への対応<br>・働き方とキャリア開発<br>・公共の場でのマナー             | ・事前学修：ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。<br>・事後学修：全体をまとめる。         |

関連科目: キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
|     | 1  |     |     |      |
| 2   |    |     |     |      |
| 3   |    |     |     |      |



|               |   |     |     |      |
|---------------|---|-----|-----|------|
| 参考書           | 番号  | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|               | 1   |     |     |      |
|               | 2   |     |     |      |
|               | 3   |     |     |      |
| 評価方法<br>(基準)  | ロールプレイ等のワーク (20%)、複数回のレポート (40%)、期末試験 (40%) を総合的に評価する。  |     |     |      |
| 学生への<br>メッセージ | 近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。 |     |     |      |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)  |     |     |      |
| 備考            | 予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。  |     |     |      |



# 教 職 科 目





|                |          |          |                            |
|----------------|----------|----------|----------------------------|
| 科目名            | 英語科教育法 I | 科目名 (英文) | English Teaching Methods I |
| 学部             | 学部共通     | 学科       | 教職科目                       |
| 配当年次           | 3年       | クラス      |                            |
| 単位数            | 2        | 履修区分     | 選択必修科目                     |
| 学期             | 前期       | 授業担当者    | 松田 早恵                      |
| ディプロマポリシー (DP) |          |          |                            |
| 科目ナンバリング       |          |          |                            |

|              |   |
|--------------|---|
| 授業概要・目的      | 学習者が第二言語・外国語を習得するプロセスについて基礎的な内容を理解し、授業指導に生かせるようにする。また、中学校及び高等学校における年間を通じた学習到達目標に基づく評価の在り方、観点別学習状況の評価に基づく各単元における評価規準の設定、さらに評定への総括のしかたについて理解する。さらに、中学校および高等学校における3つの資質・能力を踏まえた「5つの領域」の指導および領域統合型の言語活動に関する基本的な知識と技能を身に付けるとともに、様々な教材やICTの活用方法を学び、生徒の特性や習熟度に応じた指導についても考える。 |
| 到達目標         | 中学校及び高等学校における英語の学習指導に関する知識と授業指導および学習評価の基礎を身につけた上で、授業観察、授業体験、模擬授業などの学習形態を通して、実際の授業の組み立て方や学習指導案の作成方法を学ぶ。また、言語能力の測定や評価の方法を理解する。  |
| 授業方法と留意点     | ・スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4つの基本スキルの指導、授業の準備や分析、評価などを演習を通して学ぶ。<br>・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。  |
| 科目学習の効果 (資格) | 英語教員免許(中・高)<br>【免許法施行規則に定める科目区分】<br>科目：教育課程及び指導法に関する科目<br>各科目に含める必要事項：各教科の指導法   |

|      |    |             |                         |                   |
|------|----|-------------|-------------------------|-------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ       | 内容・方法等                  | 事前・事後学習課題         |
|      | 1  | 第二言語習得と英語教育 | 第二言語習得とは<br>英語教授法の種類    | 第7章、第8章           |
|      | 2  | 語彙指導        | 語彙とは<br>語彙学習活動と評価       | 第19章              |
|      | 3  | リーディング指導    | リーディングとは<br>リーディング活動と評価 | 第12章              |
|      | 4  | リーディング指導    | 多読とは<br>多読活動と評価、        | 第12章              |
|      | 5  | ライティング指導    | ライティングとは<br>ライティング活動と評価 | 第13章              |
|      | 6  | リスニング指導     | リスニングとは<br>リスニング活動と評価   | 第10章              |
|      | 7  | スピーキング指導    | スピーキングとは<br>スピーキング活動と評価 | 第11章              |
|      | 8  | 模擬授業と分析 (1) | 単独領域模擬授業                | 第10～13章、第19章、第20章 |
|      | 9  | 領域統合型指導     | 領域統合型活動と評価              | 第10～13章、第19章、第20章 |
|      | 10 | 学習者要因       | 学習者要因とは<br>種類とその影響      | 第4章               |
|      | 11 | 測定と評価       | 測定と評価の種類と方法             | 第15章              |
|      | 12 | ICTを用いた活動   | ICTを用いた活動例の紹介、実践        | 第16章              |
|      | 13 | 模擬授業と分析 (2) | 領域統合型模擬授業               | 第10～13章、第19章、第20章 |
|      | 14 | 模擬授業と分析 (3) | 領域統合型模擬授業               | 第10～13章、第19章、第20章 |
|      | 15 | 総括          | 求められる英語教師像<br>教師の役割     | 第5章               |

関連科目 「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」

|     |    |                    |        |       |
|-----|----|--------------------|--------|-------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名                | 著者名    | 出版社名  |
|     | 1  | 新学習指導要領にもとづく英語科教育法 | 望月昭彦編著 | 大修館書店 |
|     | 2  | Sunshine 1 / 2 / 3 |        | 開隆堂   |
|     | 3  |                    |        |       |

|     |    |                         |                       |       |
|-----|----|-------------------------|-----------------------|-------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名                     | 著者名                   | 出版社名  |
|     | 1  | 英語4技能評価の理論と実践           | 望月昭彦・深澤真・印南洋・小泉利恵〔編著〕 | 大修館書店 |
|     | 2  | 英語リーディングの科学―読めたつむりの謎を解く | 卯城祐司〔編著〕              | 研究社   |
|     | 3  | 英語多読・多聴指導マニュアル          | 高瀬敦子                  | 大修館書店 |

評価方法 (基準) ①筆記試験・レポート (50%)  
②模擬授業 (学習指導案作成・実技・実技分析) (50%)

学生へのメッセージ 英語教師が知っておくべき知識を広い分野でカバーした科目となりますので情報量が膨大ですが、全体像を把握してもらおう入門コースとなります。興味を持った分野があれば、さらに文献を読み込み、勉強をしてください。英語教員には広い知識と高い英語力が必要です。普段から4技能をバランスよく伸ばす努力をしてください。一緒に頑張りましょう！

担当者の研究室等 7号館5階(松田研究室)

備考 事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。

|               |         |         |                             |
|---------------|---------|---------|-----------------------------|
| 科目名           | 英語科教育法Ⅱ | 科目名(英文) | English Teaching Methods II |
| 学部            | 学部共通    | 学科      | 教職科目                        |
| 配当年次          | 3年      | クラス     |                             |
| 単位数           | 2       | 履修区分    | 選択必修科目                      |
| 学期            | 後期      | 授業担当者   | 齋藤 安以子                      |
| ディプロマポリシー(DP) |         |         |                             |
| 科目ナンバリング      |         |         |                             |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | 外国語としての英語を学習する過程をデザインする立場に身を置き、教材や機器を効果的に用いて学習者に合ったさまざまな学習指導案を作成したり、実際に実技を行ったりしながら教授法を学ぶ。自己の実技を録画したものをを用いて改善点を見出し、改訂版の授業を行う。小中高といった校種や教科の壁を越えて連携ができるよう、他者の学習指導案や授業について建設的なディスカッションを行い、多様な授業を創る方法を理解する。なお、学習指導案の個別指導は課外にも行う。  |
| 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校および高等学校における3つの資質・能力を踏まえた「5つの領域」(「聞く」「読む」「話す(やりとり)」「話す(発表)」及び「書く」)の指導および各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法の指導について基本的な知識と技能を身に付け、複数の領域を統合した言語活動の指導方法を身に付ける。</li> <li>・教材やICTの活用方法を知るとともに、英語による授業展開やALT等とのチーム・ティーチングの方法について理解する。さらに、生徒の特性や習熟度に応じた指導について理解する。</li> <li>・学年ごとのカリキュラムを考え、ユニットや個々の授業時間の学習目標を設定できるようになる。</li> <li>・模擬授業を分析し、授業展開のオプションを検討できるようになる。</li> </ul>  |
| 授業方法と留意点    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4つの基本スキルの指導、授業の準備や分析、評価などを演習を通して学ぶ。</li> <li>・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。</li> </ul> <p>留意点：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業で予習・参加・復習が必須。</li> <li>・ブローケンではなく正確な英語を話したり書いたりするためのトレーニングを、授業外でも各自行うこと。</li> <li>・「学習者」と「授業を創る側」の両方の立場で、自分が大学で受講中の授業を分析的に見る。</li> <li>・教授法を学ぶ前段階として必要な英文法・語彙の習得が足りないと思われる場合は、履修を続行する以前に、基礎の復習を先に行うことを勧めることがある。</li> </ul> |
| 科目学習の効果(資格) | 英語教員免許(中・高)<br>【免許法施行規則に定める科目区分】<br>科目：教育課程及び指導法に関する科目<br>各科目に含める必要事項：各教科の指導法  |

| 回数 | 授業テーマ                                 | 内容・方法 等                                     | 事前・事後学習課題                       |
|----|---------------------------------------|---|---------------------------------|
| 1  | 「5つの領域」と領域統合型の言語活動の指導<br>英語の発音指導      | 基本母音と子音・機材の利用について                           | 発音記号の復習(読み方・聞き分け・調音の仕組み)        |
| 2  | 小学校における外国語活動と英語・文字に関する指導              | 小学校での外国語活動の実例紹介                             | 基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習(1) |
| 3  | 中学校の英語の検定教科書と高校入試                     | 検定教科書と入試問題の分析                               | 基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習(2) |
| 4  | 教材研究と学習指導案の作成(1)<br>英語の音声的な特徴に関する指導   | 中学校の検定教科書を用いた音声指導案の作成                       | 基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習(3) |
| 5  | 学習者間のやりとりを増やす学習活動デザイン:英語でのインタラクション    | リスニング力の向上の方法に関して学ぶ<br>中学校で学ぶ語彙・文法を用いた対話例の作成 | 公立高校の入試問題を解く(1)                 |
| 6  | 模擬授業と分析(1)<br>音声言語を中心とする学習活動          | 指導上の留意点・生徒の発話を引き出す方法                        | 公立高校の入試問題を解く(2)                 |
| 7  | 高校の英語の検定教科書と大学入試                      | ライティングの指導法・方法論に関して高等学校の検定教科書を分析する           | 検定教科書の付属教材を自分で解いてみる(1)          |
| 8  | 教材研究と学習指導案作成(2)<br>ICT等の活用            | 指導案作成                                       | 検定教科書の付属教材を自分で解いてみる(2)          |
| 9  | ICT活用と教授言語:学習言語のみによる授業展開と、日本語併用の場合の比較 | 板書とICTの演習                                   | センター入試の前年度の問題を自分で解いてみる          |
| 10 | 模擬授業と分析(2)<br>教員1人でICT機器を使う場合         | 自分で企画した授業をクラスで実践する<br>分析と改善                 | 空き教室の黒板とホワイトボードで板書の練習(1)        |
| 11 | 生徒の特性や習熟度に応じた指導と評価                    | 指導案の展開バリエーションを増やす                           | 空き教室の黒板とホワイトボードで板書の練習(2)        |
| 12 | 教材研究と学習指導案作成(3)<br>ALT等とのチーム・ティーチング   | 自分で企画した授業をクラスで実践する<br>分析と改善                 | 授業の練習                           |
| 13 | 演劇を応用した言語活動                           | 易しい英語の脚本を用いたスキット指導を学ぶ<br>ドラマ手法を会話練習に応用する    | 授業の練習                           |
| 14 | 模擬授業と分析(3)教員2人の場合                     | 自分で企画した授業をクラスで実践する                          | 授業の練習                           |

|               |  |  |              |           |
|---------------|--|--|--------------|-----------|
|               |  |  | 分析と改善        |           |
|               | 15   | これからの英語教育がめざすもの  | 討論と発表        | 復習        |
| 関連科目          | 教職科目全般<br>英語科目全般   |  |              |           |
| 教科書           | 番号   | 書籍名  | 著者名          | 出版社名      |
|               | 1  | 新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第3版 [ISBN 978-4-469-24621-6]              | 望月 昭彦 編著     | 大修館書店     |
|               | 2  | The History of the English Language [ISBN 978-0-19-423397-2] | Brigit Viney | Oxford UP |
|               | 3  |  |              |           |
| 参考書           | 番号   | 書籍名  | 著者名          | 出版社名      |
|               | 1  |  |              |           |
|               | 2  |  |              |           |
|               | 3  |  |              |           |
| 評価方法<br>(基準)  | 日本の検定教科書を使って中学・高校で英語科目を教えるに十分な英語の知識と運用力を前提とした、<br>(1) 模擬授業 (レッスンプラン作成・15回の授業時間中に行う実技・レポート)<br>(2) 筆記試験<br>上記項目の両方の評価がいずれも100点満点中の60点以上で合格とする。  |  |              |           |
| 学生への<br>メッセージ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目を十分理解し、授業立案・実技などを行うためには、辞書をひきながら英語を読み解き、正確に理解し、文法的に正確な例文を書く能力が必要です。</li> <li>・今の大学生が高校生だったころよりも、日本の中高の教育が目指す英語教育の目標が引き上げられています。3年次のうちに英検準1級の取得をめざしましょう。</li> <li>・英語の文法、語彙、スペル、発音等、中高生にとってお手本になれるよう、基礎から復習をしてください。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当者は、大阪府内の小学校での英語活動の授業を数年間、ALTや担任の先生方と共に担当するとともに、寝屋川市と大東市で教員研修の講師も務めました。サマーセミナーや教員免許更新講習の担当を通して、今も現場の生徒や教員と情報交換をしています。短期間ですが、英国で、外国語としての日本語教育経験もあります。</li> </ul> |  |              |           |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館4階 (齋藤研究室)  |  |              |           |
| 備考            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・履修前に、学習指導要領を、文部科学省のHPで読んでおくこと。</li> <li>・日々、学校教育や言語学習をめぐるニュースに目を向けよう。</li> <li>・事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。</li> </ul>   |  |              |           |

|               |         |         |                              |
|---------------|---------|---------|------------------------------|
| 科目名           | 英語科教育法Ⅲ | 科目名(英文) | English Teaching Methods III |
| 学部            | 学部共通    | 学科      | 教職科目                         |
| 配当年次          | 3年      | クラス     |                              |
| 単位数           | 2       | 履修区分    | 選択必修科目                       |
| 学期            | 前期      | 授業担当者   | 齋藤 安以子                       |
| ディプロマポリシー(DP) |         |         |                              |
| 科目ナンバリング      |         |         |                              |

|         |  |
|---------|--|
| 授業概要・目的 | <p>中学校や高等学校の英語教員をめざすうえで、押さえておくべき英語科教育の基礎について理論的側面と実践的側面から学ぶ。特に</p> <p>①リーディングとライティングの指導、<br/>②文字と文法に関する指導、<br/>③語彙・表現に関する指導</p> <p>に焦点をあてて、学習指導要領の「3つの資質・能力」(「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力等」)を踏まえた目標の設定方法と指導計画の立て方、学習到達目標に基づいた授業の組み立て方と学習指導案の作成方法、観点別学習状況の評価方法や評価規準の設定方法、などを修得し、それらを実践する力を養う。</p> |
|---------|--|

|      |   |
|------|---|
| 到達目標 | 英語科教育に関する基礎的内容を押さえ、リーディングとライティングの指導法、文字と文法の指導法、語彙・表現の指導法を修得する。受講生は授業観察や授業体験を通じて実際の授業の展開を理解し、さらに自分で作成した学習指導案に基づいた模擬授業を行うことによって実践的力を養う。 |
|------|---|

|          |  |
|----------|--|
| 授業方法と留意点 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。</li> <li>・各自が授業指導案を作成する際は、担当者が随時添削など個別指導を行う。</li> </ul> <p>留意点：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業で予習・参加・復習が必須。</li> <li>・ブロークンではなく正確な英語を話したり書いたりするためのトレーニングを、授業外でも各自行う。</li> <li>・「学習者」と「授業を創る側」の両方の立場で、自分が大学で受講中の授業を分析的に見る。</li> <li>・教授法を学ぶ前段階として必要な英文法・語彙の習得が足りないと思われる場合は、履修を続行する以前に、基礎の復習を先に行うことを勧めることがある。</li> </ul> |
|----------|--|

|             |  |
|-------------|--|
| 科目学習の効果(資格) | <p>英語教員免許(中・高)</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目：教育課程及び指導法に関する科目</p> <p>各科目に含める必要事項：各教科の指導法</p> |
|-------------|--|

| 回数 | 授業テーマ                         | 内容・方法等   | 事前・事後学習課題                           |
|----|-------------------------------|--|-------------------------------------|
|    |                               |  |                                     |
| 1  | 学習者と英語教員<br>音声指導(1)+指導案作成     | カリキュラムとシラバス<br>調音の仕組み                                | 鏡を見て自分の発声を観察する・いろいろな音聞き分ける          |
| 2  | 学習指導要領と英語教授法<br>音声指導(2)+指導案作成 | カリキュラムとシラバス<br>英語の音と日本語の音のちがいを                       | 音の出し方を他人に説明する練習をする                  |
| 3  | 第2言語習得と英語教育<br>音声指導(3)+模擬授業   | イントネーション   | 意識的な音の出し方を練習する                      |
| 4  | リーディング指導:リーディング指導の目標          | 読むことの指導  | 英語で書かれた文章を読む自分をモニターする               |
| 5  | リーディング指導:指導方法と評価方法            | 読むことの指導と評価   | 英語で書かれた文章を読む自分をモニターする               |
| 6  | ライティング指導:ライティング指導の目標<br>文字の指導 | 書くことの指導  | 日常生活の中から、質問のバリエーションを広げる             |
| 7  | ライティング指導:指導方法と評価方法            | 書くことの指導と評価   | 広告や雑誌・新聞などを教材の材料として注意深く見る           |
| 8  | 教材研究と指導案作成の基礎                 | 教材の作りやすさと使いやすさ                                       | 糊とはさみで教材を作る                         |
| 9  | 指導案作成と模擬授業(1):リーディング指導        | 授業づくり<br>使えるものは何でも使ってみよう:学校の機器を使って、学習活動のバリエーションを増やす  | 校内にあるさまざまな教具や機器を探す                  |
| 10 | 指導案作成と模擬授業(2):ライティング指導        | 授業の狙いと機器の価値:実際に教室の機器や学内の設備を使って、教科書の価値を高める教え方・学び方を考える | 校内にあるさまざまな教具や機器が授業でどのように使われているか調査する |
| 11 | 文字の指導                         | 文字の指導方法<br>ディスレクシアの理解と教育現場での対応                       | 復習<br>調査                            |
| 12 | 文法の指導                         | 文法の指導方法  | 復習<br>調査                            |
| 13 | 語彙・表現の指導                      | 語彙・表現の指導方法<br>自分で企画した授業をクラスで分析する                     | 復習<br>調査                            |
| 14 | 指導案作成と模擬授業                    | 文字・文法の指導、語彙・表現の指導を含めた授業づくり                           | 復習                                  |
| 15 | 英語教育の展望                       | 社会が要請する外国語教育について、報道記事を元に考え、討論する                      | これまでの自分の学習を振り返る                     |



|               |  |   |              |           |
|---------------|--|---|--------------|-----------|
|               |  | 今学期の自分の変化を語る・今後の目標と到達のための手がかりを探す                                |              |           |
| 関連科目          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職科目全般</li> <li>・英語科目全般</li> </ul>   |   |              |           |
| 教科書           | 番号   | 書籍名   | 著者名          | 出版社名      |
|               | 1  | 新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第3版<br>ISBN:9784469246216                    | 望月 昭彦 編著     | 大修館書店     |
|               | 2  | The History of the English Language [ISBN<br>978-0-19-423397-2] | Brigit Viney | Oxford UP |
|               | 3  |   |              |           |
| 参考書           | 番号   | 書籍名   | 著者名          | 出版社名      |
|               | 1  |   |              |           |
|               | 2  |   |              |           |
|               | 3  |   |              |           |
| 評価方法<br>(基準)  | <p>日本の検定教科書を使って中学・高校で英語科目を教えるに十分な英語の知識と運用力を前提とした、</p> <p>(1) 模擬授業 (レクチャー作成・15回の授業時間中に行う実技・レポート)</p> <p>(2) 筆記試験</p> <p>上記項目の両方の評価がいずれも100点満点の60点以上で合格とする。</p>  |   |              |           |
| 学生への<br>メッセージ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目を十分理解し、授業立案・実技などを行うためには、辞書をひきながら英語を読み解き、正確に理解し、文法的に正確な例文を書く能力が必要です。</li> <li>・今の大学生が高校生だったころよりも、日本の中高の教育が目指す英語教育の目標が引き上げられています。3年次のうちに英検準1級の取得をめざしましょう。</li> <li>・英語の文法、語彙、スペル、発音等、中高生にとってお手本になれるよう、基礎から復習をしてください。</li> <li>・大好きな科目、大好きな学校で働きたい、と思うなら、責任を持って教えられる人になるため、貪欲に知識を増やし、妥協せず能力を磨いていきましょう。</li> </ul> <p>・担当者は、大阪府内の小学校での英語活動の授業を数年間、ALTや担任の先生方と共に担当するとともに、寝屋川市と大東市で教員研修の講師も務めました。サマーセミナーや教員免許更新講習の担当を通して、今も現場の生徒や教員と情報交換をしています。短期間ですが、英国で、外国語としての日本語教育経験もあります。</p> |   |              |           |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館4階(齋藤研究室)   |   |              |           |
| 備考            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・履修前に、学習指導要領を、文部科学省のHPで読んでおくこと。</li> <li>・日々、学校教育や言語学習をめぐるニュースに目を向けよう。</li> <li>・事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。</li> </ul>   |   |              |           |

|               |         |         |                             |
|---------------|---------|---------|-----------------------------|
| 科目名           | 英語科教育法Ⅳ | 科目名(英文) | English Teaching Methods IV |
| 学部            | 学部共通    | 学科      | 教職科目                        |
| 配当年次          | 3年      | クラス     |                             |
| 単位数           | 2       | 履修区分    | 選択必修科目                      |
| 学期            | 後期      | 授業担当者   | 松田 早恵                       |
| ディプロマポリシー(DP) |         |         |                             |
| 科目ナンバリング      |         |         |                             |

**授業概要・目的**  
現在の英語教育学界は、小学校への英語教育導入を始め、高等学校への英語による英語授業への展開等、目まぐるしい動きを見せている。それに対応できるように、新たな英語教育へ向け、英語教授法や授業の運営スキル等を身につけることが、この授業の目標である。主に、リスニング、スピーキング、ライティング、文法・語彙・表現、異文化理解に関する指導というテーマに焦点をおいて、これらのことを理解し、授業指導に生かすことができるようになることを目指す。

**到達目標**  
本授業は3つのことを行う。第1に、教科書を講読しながら、リスニング、スピーキング、ライティング、文法・語彙・表現、異文化理解に関する指導に関する理論を学び、知識を身につける。第2に、これらの知識を基に創意あふれる授業を計画し、その学習指導案が書けるようになる。第3に、模擬授業を行い、自分のパフォーマンスを客観的に見返し、またクラスメートからのコメントを参考にし、自分の教授のスキルの弱点を克服することを学ぶ。学習指導案の個人指導は課外時間に行う。充実した教育実習を行うことができるように万全の準備をする。

**授業方法と留意点**  
・スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4つの基本スキルの指導、授業の準備や分析、評価などを演習を通して学ぶ。  
・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。

**科目学習の効果(資格)**  
英語教員免許(中・高)  
【免許法施行規則に定める科目区分】  
科目：教育課程及び指導法に関する科目  
各科目に含める必要事項：各教科の指導法

| 回数 | 授業テーマ         | 内容・方法等                  | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------|-------------------------|-----------|
| 1  | 英語教育の基礎理論     | 英語科教育法とは<br>英語科教育法の目的   | 序章        |
| 2  | 英語教育の基礎理論     | 英語教育と英語教育学              | 第1章       |
| 3  | 英語教育の基礎理論     | 英語の国際化と日本の英語教育          | 第2章       |
| 4  | 英語教育の基礎理論     | 学習指導要領                  | 第3章       |
| 5  | 英語教育の実践編      | リスニングの指導：教材研究及び学習指導案作成  | 第10章      |
| 6  | 英語教育の実践編      | リスニング：教科書を使った模擬授業       | 第10章      |
| 7  | 英語教育の実践編      | スピーキングの指導：教材研究及び学習指導案作成 | 第11章      |
| 8  | 英語教育の実践編      | スピーキング：教科書を使った模擬授業      | 第11章      |
| 9  | 英語教育の実践編      | ライティングの指導：教材研究及び学習指導案作成 | 第13章      |
| 10 | 英語教育の実践編      | ライティングの指導：教科書を使った模擬授業   | 第13章      |
| 11 | 英語教育の実践編      | 文法の指導：教材研究及び学習指導案作成     | 第18章      |
| 12 | 英語教育の実践編      | 文法の指導：教科書を使った模擬授業       | 第18章      |
| 13 | 英語教育の実践編      | 語彙・表現の指導：教材研究及び学習指導案作成  | 第19章      |
| 14 | 英語教育の実践編      | 語彙・表現：教科書を使った模擬授業       | 第19章      |
| 15 | 英語教育の実践編及びまとめ | 異文化理解の指導及びまとめ           | 第2章、第9章   |

**関連科目** 「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」

| 番号 | 書籍名                     | 著者名  | 出版社名  |
|----|-------------------------|------|-------|
| 1  | 新学習指導要領にもとづく英語科教育法(改訂版) | 望月昭彦 | 大修館書店 |
| 2  | Sunshine 1, 2, 3        |      | 開隆堂   |
| 3  |                         |      |       |

| 番号 | 書籍名                            | 著者名      | 出版社名  |
|----|--------------------------------|----------|-------|
| 1  | 英語で英語を読む授業                     | 卯城祐司〔編著〕 | 研究社   |
| 2  | シャドーイング・音読と英語コミュニケーションの科学      | 門田修平     | コスモピア |
| 3  | 英語指導における効果的な誤り訂正：第二言語習得研究の見地から | 白井知彦     | 大修館書店 |

**評価方法(基準)**  
①筆記試験・レポート(50%)  
②模擬授業(学習指導案作成・実技・実技分析)(50%)

**学生へのメッセージ**  
英語教師が知っておくべき知識を広い分野でカバーした科目となりますので情報量が膨大ですが、全体像を把握してもらおう入門コースとなります。興味を持った分野があれば、さらに文献を読み込み、勉強をしてください。英語教員には広い知識と高い英語力が必要です。普段から4技能をバランスよく伸ばす努力をしてください。一緒に頑張りましょう！

**担当者の研究室等**  
7号館5階(松田研究室)

**備考**  
事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。

|               |       |         |                                   |
|---------------|-------|---------|-----------------------------------|
| 科目名           | 教育課程論 | 科目名(英文) | Studies of Curriculum Development |
| 学部            | 学部共通  | 学科      | 教職科目                              |
| 配当年次          | 2年    | クラス     |                                   |
| 単位数           | 2     | 履修区分    | 必修科目                              |
| 学期            | 後期    | 授業担当者   | 大野 順子                             |
| ディプロマポリシー(DP) |       |         |                                   |
| 科目ナンバリング      |       |         |                                   |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | (1) 教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。<br>(2) わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。   |
| 到達目標        | 本講義の到達目標は以下の通りである。<br>(1) 学校教育における教育課程の意義について理解できる。<br>(2) 将来、教職に就いた際、適切な教育課程(カリキュラム)を計画・編成し、かつ、実践、評価し、改善できる資質が身につく。  |
| 授業方法と留意点    | テキストや資料を中心に授業を進める講義形式が基本となりますが、扱うテーマによってはグループワークを導入するなど、学生一人一人の授業への主体的な参加が求められます。また、授業準備として各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を読んだり、それぞれの免許取得教科の学習指導要領を入手し、目を通していただくことが望ましいと考えます。また本授業用のノートを一冊準備してください。授業でレジュメを配布予定としていますが、板書内容やパワーポイント資料の中の内容を記述するためのノートを一冊準備しておいてください。 |
| 科目学習の効果(資格) | 教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。<br>【免許法施行規則に定める科目区分】<br>科目: 教育課程及び指導法に関する科目<br>各科目に含める必要事項: 教育課程の意義及び編成の方法  |

| 回数 | 授業テーマ                            | 内容・方法 等  | 事前・事後学習課題                                |
|----|----------------------------------|--|--|
|    |                                  |  |  |
| 1  | 教育課程とは何か/オリエンテーション               | 学校教育のもつ機能について。                                 | 課題: シラバスに挙げているテキストの該当する分を読んでおくこと。        |
| 2  | 日本における教育課程の歴史的変遷 I               | 戦前から戦後(経験主義～系統主義: 高度経済成長期)の教育課程変遷について。         | 課題: テキストの該当部分と授業(第1回目)で配布する資料に目を通しておくこと。 |
| 3  | 日本における教育課程の歴史的変遷 II              | 1970年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。 | 課題: テキストの該当部分と授業(第1回目)で配布する資料に目を通しておくこと。 |
| 4  | 教育課程(カリキュラム)の概念と構造、および教育課程編成について | 教育課程の編成要素(内部要因と外部要因)について。                      | 課題: シラバスに挙げているいずれかのテキストの該当部分を読んでおくこと。    |
| 5  | 教育評価 その1                         | 子どもたちの発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。                | 課題: 事前に配布した資料を読んでおくこと。                   |
| 6  | 教育評価 その2                         | 教育課程評価について。                                    | 課題: 本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。    |
| 7  | 『総合的な学習の時間』について                  | 導入の背景とそのねらいについて(学生グループによる発表を予定)。               | 課題: 本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。    |
| 8  | 新しい教育課程 その1                      | 「キャリア教育」について(学生グループによる発表を予定)。                  | 課題: 本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。    |
| 9  | 新しい教育課程 その2                      | 「アクティブラーニング」について。                              | 課題: 本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。    |
| 10 | 新しい教育課程 その3                      | 「社会に開かれた教育課程」について。                             | 課題: 本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。    |
| 11 | 教育課程と教育改革 その1                    | 特色のある学校づくり＝小中高編(学生グループによる発表を予定)。               | 課題: 本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。    |
| 12 | 教育課程と教育改革 その2                    | カリキュラム・マネジメントについて。                             | 課題: 本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。    |
| 13 | 教育課程と教育格差 その1                    | 学力格差と学力低下問題について(学生グループによる発表を予定)。               | 課題: 本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。    |
| 14 | 教育課程と教育格差 その2                    | 教育格差に抗する学校の取り組みについて(学生グループによる発表を予定)。           | 課題: 本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。    |
| 15 | 総括: 教育課程をめぐる諸問題                  | 海外の学校教育課程の動向、及び、キー・コンピテンシー(OECD)について。          | 課題: 事前に配布した資料を読んでおくこと。                   |

関連科目 教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
|     | 1  |     |     |      |
| 2   |    |     |     |      |
| 3   |    |     |     |      |

| 参考書 | 番号 | 書籍名                       | 著者名      | 出版社名     |
|-----|----|---------------------------|----------|----------|
|     | 1  | 新教育課程ライブラリ (Vol.1～Vol.12) | (株)ぎょうせい | (株)ぎょうせい |
| 2   |    |                           |          |          |
| 3   |    |                           |          |          |

評価方法(基準) 出席(全15回出席が当たり前、少なくとも8割以上出席必須)、学期末試験(単位取得のためには60点以上必要)、中間試験(実施予定)、レポート及び授業態度や授業への貢献度(グループでの発表を含む)など総合的に評価を行う。特に、学期末試験の結果は成績評価に大きく影響することから、日頃からしっかりと予習復習(特に復習)をする。また、遅刻、欠席が多い者については成績評価の対象外となりますので注意すること(原則、第一回目から全15回出席すること)。

学生へのメッセージ 以下の項目、必ず守ってください。  
1. 第一回目の授業は必ず出席すること。  
2. 欠席・遅刻はしない。  
3. 授業中、むやみやたらに入ったり、私語、飲食はしない。

|          |   |
|----------|---|
|          | <p>4. グループワークでは何事にも積極的に取り組む（グループ内の他のメンバーに迷惑をかけない）。</p> <p>5. 毎回授業内容の復習をする。</p> <p>6. テキスト、資料等については配布するので準備の必要はありません。参考書にあげているテキストは 12 セット販売で高額なテキストですので担当者のほうで印刷し配布します。</p> <p>7. 授業内容で分からない点については遠慮せずに担当者に空いている時間を見つけて質問に来てください。</p>         |
| 担当者の研究室等 | 7 号館 3 階(大野順子研究室)   |
| 備考       | <p>2009 年度以前入学生は、(高校) 教免取得上選択授業計画、及び内容は授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。</p> <p>教科書に代わる配布資料（『『新教育課程ライブラリ』、発行：ぎょうせい』を使用予定）については事前に該当箇所を印刷し、配布します。高額ですので購入する必要はありません。また、その他のテキスト、資料等については適宜印刷し、配布します。</p> <p>事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。</p> |

|               |       |         |                                       |
|---------------|-------|---------|---------------------------------------|
| 科目名           | 教育経営論 | 科目名(英文) | Studies of Educational Administration |
| 学部            | 学部共通  | 学科      | 教職科目                                  |
| 配当年次          | 3年    | クラス     |                                       |
| 単位数           | 2     | 履修区分    | 選択必修科目                                |
| 学期            | 前期    | 授業担当者   | 朝日 素明                                 |
| ディプロマポリシー(DP) |       |         |                                       |
| 科目ナンバリング      |       |         |                                       |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | 本科目では、現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識、および学校や教育行政の組織構造・機能・関係に関する基礎的知識を身につけ、経営の観点から理解するとともに、そこに内在する課題を理解します。そのために、公教育システムに関してなじみの深い事象を参照し、その原理や構造・機能、それに関する政策や法制度、理論や論争、実態や課題を検討していきます。                  |
| 到達目標        | 私たちにってはあたりまえで意識することもないような、学校教育を中心とした公教育システムのあり方について視野が広がり、理解が深まります。例えば「学校では何を学ぶのか」「学校ではどのように教えられるのか」という内容・方法的な事柄についても、さまざまな制度やその運用によって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がり理解できるようになります。 |
| 授業方法と留意点    | プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション(LTD; Learning Through Discussion)等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。                    |
| 科目学習の効果(資格) | 教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目<br>【免許法施行規則に定める科目区分】<br>科目：教育の基礎理論に関する科目<br>各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項   |

| 回数 | 授業テーマ            | 内容・方法 等  | 事前・事後学習課題  |
|----|------------------|--|--|
|    |                  |  |  |
| 2  | 教育権の構造           | 「教育をする権利」「教育を受ける権利」<br>「学習する権利」  | テキスト第2部を読んでくる。   |
| 3  | 教育を受ける権利の保障      | 教育権論争について簡単なグループワーク<br>公教育の制度原理  | 教育権論争についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。<br>テキスト第1部を読んでくる。     |
| 4  | 学校体系のしくみ         | 「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク<br>段階性、系統性<br>学校体系の類型<br>学校の種類と設置者          | 教育の制度原理についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。<br>テキスト第1部を読んでくる。   |
| 5  | 学校体系の現代的課題       | 選別・分離と接続・統合  | テキスト第1部を読んでくる。   |
| 6  | 教育条件整備の法制度と新しい動向 | 「選抜・選別」について簡単なグループワーク<br>公教育を支える諸条件とは<br>条件整備はどのようになされるか               | 学校の機能に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。<br>テキスト第3部を読んでくる。      |
| 7  | 中央教育行政の組織構造      | 各省庁・審議会  | テキスト第3部を読んでくる。   |
| 8  | 地方教育行政の組織構造      | 教育行政の原則<br>教育委員会のしくみとはたらき<br>首長部局と教育委員会                                | テキスト第3部を読んでくる。   |
| 9  | 中央・地方教育行政の関係構造   | 教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク<br>教育行政の原則、監督行政と指導行政<br>教育行政関係の新しい動向        | 教育委員会制度の動向に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。<br>テキスト第3部を読んでくる。 |
| 10 | 教育費と教育財政         | 教育財政の考え方<br>国・地方の教育費と教育財政<br>義務教育費国庫負担制度とその改革<br>学校財務                  | テキスト第3部を読んでくる。   |
| 11 | 指導行政と教育課程管理      | 学習指導要領、研究指定・研究開発、教科書行政<br>学力論争と教育評価論                                   | テキスト第4部を読んでくる。   |
| 12 | 人事行政と教職員管理       | 学力低下論争をめぐる簡単なグループワーク<br>教職員の資格・身分・サービス管理、教育労働管理                        | 学力低下論争に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。<br>テキスト第4部を読んでくる。     |
| 13 | 学校の組織管理と組織編制     | 教職員配置、学校・学級の「適正規模」<br>「適正配置」<br>学校評議員制度、学校運営協議会制度                      | テキスト第4部を読んでくる。   |
| 14 | 学校経営の組織構造        | 学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク<br>学校の組織特性、学校経営の組織と過程<br>(学校と地域との連携含む) | 学校統廃合に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。<br>テキスト第4部を読んでくる。      |
| 15 | 学校の安全管理と安全教育     | 安全管理の領域<br>安全教育の方法   | テキスト第4部を読んでくる。   |

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育社会学」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。

| 教科書 | 番号 | 書籍名           | 著者名  | 出版社名    |
|-----|----|---------------|------|---------|
|     | 1  | 公教育経営概説 (改訂版) | 堀内 孜 | 学術図書出版社 |
| 2   |    |               |      |         |
| 3   |    |               |      |         |

参考書

教職科目

|               | 番号   | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|---------------|--|-----|-----|------|
|               | 1  |     |     |      |
|               | 2  |     |     |      |
|               | 3  |     |     |      |
| 評価方法<br>(基準)  | 定期試験 70%、レポート内容 20%、グループワーク・ピア評価 10%。定期試験を受験しなかった場合は評価をしません。   |     |     |      |
| 学生への<br>メッセージ | 教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。 |     |     |      |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館3階 朝日研究室  |     |     |      |
| 備考            | ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。<br>事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。  |     |     |      |

|               |      |         |                        |
|---------------|------|---------|------------------------|
| 科目名           | 教育原理 | 科目名(英文) | Educational Principles |
| 学部            | 学部共通 | 学科      | 教職科目                   |
| 配当年次          | 1年   | クラス     |                        |
| 単位数           | 2    | 履修区分    | 必修科目                   |
| 学期            | 前期   | 授業担当者   | 谷口 雄一                  |
| ディプロマポリシー(DP) |      |         |                        |
| 科目ナンバリング      |      |         |                        |

|         |   |
|---------|---|
| 授業概要・目的 | <p>教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語ることができます。しかし、「教育とは一体何だろう?」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないのでしょうか。</p> <p>この授業では、「教育とは一体何だろう?」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。</p> <p>これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。</p> <p>授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを期待します。</p> |
|---------|---|

|      |   |
|------|---|
| 到達目標 | 教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。 |
|------|---|

|          |   |
|----------|---|
| 授業方法と留意点 | <p>授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的に講義形式で行います。</p> <p>また、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、教育について多面的・多角的に考えることができるように配慮します。</p> |
|----------|---|

|             |  |
|-------------|--|
| 科目学習の効果(資格) | <p>(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状 の取得 (3) 学芸員資格 の取得に必要です。</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目：教育の基礎理論に関する科目</p> <p>各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</p> |
|-------------|--|

|      |    |                               |   |                                      |
|------|----|-------------------------------|---|--------------------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ                         | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題                            |
|      | 1  | ガイダンス：<br>教育について考える           | 本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。                   | 「教育とは一体何だろう」という問いについて自分なりの考えをまとめておく。 |
|      | 2  | 教育の基礎理論①：<br>教育の必要性           | なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。   | 教育の必要性について、授業後に自分なりの考えを整理しておく。       |
|      | 3  | 教育の基礎理論②：<br>教育の目的            | 前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。              | 教育の目的について、授業後に自分なりの考えを整理しておく。        |
|      | 4  | 教育の基礎理論③：<br>子どもの発見           | 「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。                             | 子ども観や子どもをめぐる問題について、自分なりの考えを整理しておく。   |
|      | 5  | 教育の基礎理論④：<br>教師とは何か           | 教師という職業や、その教育的役割について考える。                                    | 教師の教育的役割について、自分なりの考えを整理しておく。         |
|      | 6  | 教育の基礎理論⑤：<br>近代の学校の誕生         | 近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。                               | 近代の学校や学校教育の広がりについて、授業後にもう一度整理しておく。   |
|      | 7  | 教育の基礎理論⑥：<br>家庭と教育            | 家庭において子どもはどう扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。 | 家庭における教育について、授業後にもう一度整理しておく。         |
|      | 8  | 近代の教育思想①：<br>コメニウスの教育思想       | コメニウスの教育思想について概観し、考察を加える。                                   | 授業で取り上げた近代の教育思想について、授業後にもう一度整理しておく。  |
|      | 9  | 近代の教育思想②：<br>ルソー、ペスタロッチの教育思想  | ルソー、ペスタロッチの教育思想について概観し、考察を加える。                              | 授業で取り上げた近代の教育思想について、授業後にもう一度整理しておく。  |
|      | 10 | 近代の教育思想③：<br>ヘルバルト、フレーベルの教育思想 | ヘルバルト、フレーベルらの教育思想について概観し、考察を加える。                            | 授業で取り上げた近代の教育思想について、授業後にもう一度整理しておく。  |
|      | 11 | 現代の教育理論①：<br>デューイの教育思想        | デューイの教育思想について概観し、考察を加える。                                    | 授業で取り上げた現代の教育思想について、授業後にもう一度整理しておく。  |
|      | 12 | 現代の教育理論②：<br>20世紀の教育理論        | 20世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。                              | 授業で取り上げた現代の教育思想について、授業後にもう一度整理しておく。  |
|      | 13 | 現在の教育課題①：<br>学力問題             | 現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。                        | 学力問題について、授業後にもう一度整理しておく。             |
|      | 14 | 現在の教育課題②：<br>生涯学習の思想          | 現在の教育課題の一つである生涯学習について概観し、考察を加える。                            | 生涯学習の思想について、授業後にもう一度整理しておく。          |
|      | 15 | まとめ：<br>今後の教育について考える          | 教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。                                | 「自分はどのような教師になりたいのか」について、考えをまとめる。     |

|      |  |
|------|--|
| 関連科目 | 教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみるのが大切です。 |
|------|--|

|     |    |          |         |       |
|-----|----|----------|---------|-------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名      | 著者名     | 出版社名  |
|     | 1  | 哲学する教育原理 | 伊藤潔志 編著 | 保育出版社 |

|     |    |            |         |        |
|-----|----|------------|---------|--------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名        | 著者名     | 出版社名   |
|     | 1  | 中学校学習指導要領  | 文部科学省   | 東山書房   |
|     | 2  | 高等学校学習指導要領 | 文部科学省   | 東洋館出版  |
|     | 3  | 哲学する学校経営   | 伊藤潔志 編著 | 教育情報出版 |

|          |   |
|----------|---|
| 評価方法(基準) | 毎回の授業の終わりに書いてもらうコメントペーパーの内容(30%)や、学期末試験の結果(70%)をもとに、総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。 |
|----------|---|

|           |  |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等の学習を適宜取り入れたいと考えています。受講者の皆さんの積極的な参加・発言を期待しています。 |
|-----------|--|

|          |              |
|----------|--------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館4階(谷口研究室) |
|----------|--------------|

|    |                           |
|----|---------------------------|
| 備考 | 事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。 |
|----|---------------------------|

|               |        |          |                               |
|---------------|--------|----------|-------------------------------|
| 科目名           | 教育実習 I | 科目名 (英文) | Teaching Practice I           |
| 学部            | 学部共通   | 学科       | 教職科目                          |
| 配当年次          | 3年     | クラス      |                               |
| 単位数           | 1      | 履修区分     | 必修科目                          |
| 学期            | 後期     | 授業担当者    | 朝日 素明・大野 順子・谷口 雄一・林 茂樹・吉田 佐治子 |
| ディプロマポリシー(DP) |        |          |                               |
| 科目ナンバリング      |        |          |                               |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | (1) 教育実習の実際についての情報を提供する。それらに基づき、受講者は、演習や実習を行う。(2) 教育実習校における実習に必要な教育実践の基本を理解して、教科指導、学級・ホームルーム経営、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、効果的な指導をできるようにする。(3) 教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的心がまえについて理解を深める。 |
| 到達目標        | 教育実習の目的や意義、内容等を理解し、教育実習へ向けての十分な準備ができるようになる。そのことにより、自信をもって教育実習に臨めるようになる。  |
| 授業方法と留意点    | 講義(体験報告を含む)、演習(文献購読、発表、討議を含む)、実習(指導案作成、模擬授業を含む)を行う。実習生として主体的・能動的な姿勢・態度で参加すること。   |
| 科目学習の効果(資格) | 教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育実習」5単位あるいは3単位のうち1単位を充足。<br>【免許法施行規則に定める科目区分】<br>教育実習  |

|      |    |                       |   |           |
|------|----|-----------------------|---|-----------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ                 | 内容・方法等                                  | 事前・事後学習課題 |
|      | 1  | 教育実習の意義等              | 教育実習の意義と目的、実習の形態と内容について                 | 授業時に指示する  |
|      | 2  | 教育実習への準備と心がまえ等        | 事前準備の必要性、教育実習の心がまえと教育実習の基本となる事項について     | 授業時に指示する  |
|      | 3  | 実習中の勤務の要領             | 学校の日、一週間の流れ、学校の組織と運営の概要について             | 授業時に指示する  |
|      | 4  | 授業の方法と技術              | 授業のスタイルとスキル、教材研究、学習評価の観点について            | 授業時に指示する  |
|      | 5  | 授業の記録と評価              | 授業研究の意義、授業分析の方法、授業評価について                | 授業時に指示する  |
|      | 6  | 生徒理解・生徒指導と学級・ホームルーム経営 | 生徒理解・生徒指導の方法、個別指導・集団指導、学級・ホームルームの指導について | 授業時に指示する  |
|      | 7  | 指導案の作成(1)             | 授業の準備と配慮事項、学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案、板書計画の作成 | 授業時に指示する  |
|      | 8  | 指導案の作成(2)             | 学級(ホームルーム)活動等の指導案について                   | 授業時に指示する  |
|      | 9  | 模擬授業(1)               | 作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換                  | 授業時に指示する  |
|      | 10 | 模擬授業(2)               | 作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換                  | 授業時に指示する  |
|      | 11 | 模擬授業(3)               | 作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換                  | 授業時に指示する  |
|      | 12 | 模擬授業(4)               | 作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換                  | 授業時に指示する  |
|      | 13 | 学校における人権教育            | 人権教育の現状と課題について、学校保健と安全指導について            | 授業時に指示する  |
|      | 14 | 特別支援教育の現状と課題          | 障がいの種類と配慮事項、障がい児理解と交流教育について             | 授業時に指示する  |
|      | 15 | まとめ                   |   |           |

|      |             |
|------|-------------|
| 関連科目 | 教職課程で学んだ全科目 |
|------|-------------|

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  |     |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|     |    |              |           |      |
|-----|----|--------------|-----------|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名          | 著者名       | 出版社名 |
|     | 1  | 『新編 教育実習の常識』 | 教育実習を考える会 | 蒼丘書林 |
|     | 2  |              |           |      |
|     | 3  |              |           |      |

|          |  |
|----------|--|
| 評価方法(基準) | 課題の提出状況とその内容、指導案と模擬授業、授業における積極性・貢献度、期末レポート等によって総合的に評価する。 |
|----------|--|

|           |   |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 教育実習はこれまで学んできたことの総まとめです。よい実習ができるよう、十分に準備してください。 |
|-----------|---|

|          |   |
|----------|---|
| 担当者の研究室等 | 吉田研究室・林研究室・大野研究室・朝日研究室(7号館3階)<br>谷口研究室(7号館4階) |
|----------|---|

|    |  |
|----|--|
| 備考 | 教育実習体験発表会(10月末土曜日)、教育実習総括講義(11月末土曜日)には原則として必ず出席すること。<br>ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインド設定と定期的なサイト確認を必ずすること。<br>担当者により、授業の具体的な内容・方法が若干異なる場合がある。<br>事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。 |
|----|--|



|               |       |         |                                   |
|---------------|-------|---------|-----------------------------------|
| 科目名           | 教育実習Ⅱ | 科目名(英文) | Teaching Practice II              |
| 学部            | 学部共通  | 学科      | 教職科目                              |
| 配当年次          | 4年    | クラス     |                                   |
| 単位数           | 2     | 履修区分    | 選択必修科目                            |
| 学期            | 通年集中  | 授業担当者   | 朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 林 茂樹, 吉田 佐治子 |
| ディプロマポリシー(DP) |       |         |                                   |
| 科目ナンバリング      |       |         |                                   |

|                       |  |                          |           |      |
|-----------------------|--|--------------------------|-----------|------|
| 授業概要・目的               | 「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において10日間以上の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。   |                          |           |      |
| 到達目標                  | 学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。  |                          |           |      |
| 授業方法と留意点              | (1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前指導・事後指導は「教育実習Ⅲ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。  |                          |           |      |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>1 教育実習特別個人指導(4月)<br/>教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに対応すること。</p> <p>2 教育実習事前指導(4月～5月)<br/>教育実習上の心がまえ・諸注意<br/>教育実習ビデオの視聴<br/>先輩教師の体験談<br/>教師の仕事と責任について講義・討論<br/>申請書類等の記入・提出</p> <p>3 教育実習個人指導(4月～5月)<br/>教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。<br/>教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。</p> <p>4 前期教育実習開始(5月～6月)<br/>実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。<br/>「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。<br/>実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>5 後期教育実習開始(9月～10月)<br/>後期教育実習予定者の実習を行う。<br/>「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。<br/>実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>6 教育実習事後指導(7月～11月)<br/>教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。<br/>使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。<br/>体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。</p> <p>7 教育実習体験発表会(10月)<br/>本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。<br/>体験発表用資料を提出すること。</p> <p>8 教育実習総括講義(11月)<br/>教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。<br/>「教育実習記録」を提出する。</p> |                          |           |      |
| 関連科目                  | 教職関連科目全般   |                          |           |      |
| 教科書                   | 番号   | 書籍名                      | 著者名       | 出版社名 |
|                       | 1  |                          |           |      |
|                       | 2  |                          |           |      |
|                       | 3  |                          |           |      |
| 参考書                   | 番号   | 書籍名                      | 著者名       | 出版社名 |
|                       | 1  | 新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項 | 教育実習を考える会 | 蒼丘書林 |
|                       | 2  | 学習指導要領解説                 | 文部科学省     |      |
|                       | 3  |                          |           |      |
| 評価方法(基準)              | 事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び課題提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。  |                          |           |      |
| 学生へのメッセージ             | 『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。<br>授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。   |                          |           |      |
| 担当者の研究室等              | 7号館3階(朝日研究室、吉田研究室、林研究室、大野研究室)<br>7号館4階(谷口研究室)  |                          |           |      |
| 備考                    | 中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。<br>事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。  |                          |           |      |

|               |       |         |                                   |
|---------------|-------|---------|-----------------------------------|
| 科目名           | 教育実習Ⅲ | 科目名(英文) | Teaching Practice III             |
| 学部            | 学部共通  | 学科      | 教職科目                              |
| 配当年次          | 4年    | クラス     |                                   |
| 単位数           | 4     | 履修区分    | 選択必修科目                            |
| 学期            | 通年集中  | 授業担当者   | 朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 林 茂樹, 吉田 佐治子 |
| ディプロマポリシー(DP) |       |         |                                   |
| 科目ナンバリング      |       |         |                                   |

| 授業概要・目的               | 「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において15日間以上の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。   |           |      |    |     |     |      |   |                          |           |      |   |          |       |  |   |  |  |  |
|-----------------------|--|-----------|------|----|-----|-----|------|---|--------------------------|-----------|------|---|----------|-------|--|---|--|--|--|
| 到達目標                  | 学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。  |           |      |    |     |     |      |   |                          |           |      |   |          |       |  |   |  |  |  |
| 授業方法と留意点              | (1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅱ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。  |           |      |    |     |     |      |   |                          |           |      |   |          |       |  |   |  |  |  |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>1 教育実習特別個人指導(4月)<br/>教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに対応すること。</p> <p>2 教育実習事前指導(4月～5月)<br/>教育実習上の心がまえ・諸注意<br/>教育実習ビデオの視聴<br/>先輩教師の体験談<br/>教師の仕事と責任について講義・討論<br/>申請書類等の記入・提出</p> <p>3 教育実習個人指導(4月～5月)<br/>教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。<br/>教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。</p> <p>4 前期教育実習開始(5月～6月)<br/>実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。<br/>「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。<br/>実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>5 後期教育実習開始(9月～10月)<br/>後期教育実習予定者の実習を行う。<br/>「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。<br/>実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>6 教育実習事後指導(7月～11月)<br/>教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。<br/>使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。<br/>体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。</p> <p>7 教育実習体験発表会(10月)<br/>本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。<br/>体験発表用資料を提出すること。</p> <p>8 教育実習総括講義(10月)<br/>教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。<br/>「教育実習記録」を提出する。</p> |           |      |    |     |     |      |   |                          |           |      |   |          |       |  |   |  |  |  |
| 関連科目                  | 教職関連科目全般   |           |      |    |     |     |      |   |                          |           |      |   |          |       |  |   |  |  |  |
| 教科書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>   |           |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |                          |           |      | 2 |          |       |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名  | 著者名       | 出版社名 |    |     |     |      |   |                          |           |      |   |          |       |  |   |  |  |  |
| 1                     |  |           |      |    |     |     |      |   |                          |           |      |   |          |       |  |   |  |  |  |
| 2                     |  |           |      |    |     |     |      |   |                          |           |      |   |          |       |  |   |  |  |  |
| 3                     |  |           |      |    |     |     |      |   |                          |           |      |   |          |       |  |   |  |  |  |
| 参考書                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td> <td>教育実習を考える会</td> <td>蒼丘書林</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学習指導要領解説</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>   |           |      | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項 | 教育実習を考える会 | 蒼丘書林 | 2 | 学習指導要領解説 | 文部科学省 |  | 3 |  |  |  |
| 番号                    | 書籍名  | 著者名       | 出版社名 |    |     |     |      |   |                          |           |      |   |          |       |  |   |  |  |  |
| 1                     | 新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項   | 教育実習を考える会 | 蒼丘書林 |    |     |     |      |   |                          |           |      |   |          |       |  |   |  |  |  |
| 2                     | 学習指導要領解説   | 文部科学省     |      |    |     |     |      |   |                          |           |      |   |          |       |  |   |  |  |  |
| 3                     |  |           |      |    |     |     |      |   |                          |           |      |   |          |       |  |   |  |  |  |
| 評価方法(基準)              | 事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び各種提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。  |           |      |    |     |     |      |   |                          |           |      |   |          |       |  |   |  |  |  |
| 学生へのメッセージ             | 『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。<br>授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。   |           |      |    |     |     |      |   |                          |           |      |   |          |       |  |   |  |  |  |
| 担当者の研究室等              | 7号館3階(朝日研究室、吉田研究室、林研究室、大野研究室)<br>7号館4階(谷口研究室)  |           |      |    |     |     |      |   |                          |           |      |   |          |       |  |   |  |  |  |
| 備考                    | 中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。<br>事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。  |           |      |    |     |     |      |   |                          |           |      |   |          |       |  |   |  |  |  |

|               |       |         |                        |
|---------------|-------|---------|------------------------|
| 科目名           | 教育社会学 | 科目名(英文) | Sociology of Education |
| 学部            | 学部共通  | 学科      | 教職科目                   |
| 配当年次          | 3年    | クラス     |                        |
| 単位数           | 2     | 履修区分    | 選択必修科目                 |
| 学期            | 前期    | 授業担当者   | 大野 順子                  |
| ディプロマポリシー(DP) |       |         |                        |
| 科目ナンバリング      |       |         |                        |

**授業概要・目的**  
近年、学校教育現場では様々な問題を抱えるようになってきました。一般的に私たちはそうした問題に対し、学校教育内部でのみ対処し解決しようとする傾向があります。しかしながら、そうした問題の多くは、時に関係のないような社会的、経済的、政治的、そして文化的なシステムと密接な関係性をもっていることが多々あります。そこで本講義では、教育現場で生じている諸問題を、特に社会学的観点からとらえ、検討していくことを目標とします。特に、最近社会問題化している子どもの貧困や教育格差・学力格差問題、ジェンダーにかかわる問題等を扱いながら、体系的に現代社会と教育の関係性について学び、教育社会学の理論や概念を学んでいきます。

**到達目標**  
本講義の到達目標は以下の通りです。  
1. 教育社会学の基礎理論と概念について学習する。  
2. 現代社会における様々な教育問題について理解する。  
3. 教育に関わる諸問題を社会学的観点からとらえ、論理的に思考し、分析し、検討する力を養う。  
4. 様々な教育問題に対して、それぞれ意見発表を行い、他者と議論し、解決の方向を見出せる力をつける。

**授業方法と留意点**  
講義形式を中心としますが、ワークショップや体験活動・課外活動、問題理解・解決に向け議論する手法を取り入れるなど、受講生の皆さんの主体的な参加の機会を多く提供します。例えば、実際に学校教育現場へ出向き、リアルな学校教育現場の様子を体験し、学ぶ機会ももうけます(授業時間外に実施する場合もある)。よって、基本的に受講生の皆さんは本講義が提供する全プログラム(週末などに実施される課外活動含む)に出席する義務があります。また、毎回、講義開始の5分間、教育社会学必須単語の小テストを行います。遅刻や欠席が多い場合小テストが0点となりますので気を付けてください。  
○準備学習の具体的な方法  
指定しているテキストを購入し、事前に講義で扱うテーマに該当する部分(章)を読み、要約する。また、日頃から新聞・雑誌等で教育に関する記事を読み、どのような問題が教育界では話題になっているのかについて情報を収集しておく。また、毎時間の小テスト対策として必須単語帳に記載されている教育社会学必須単語をすべて覚える。

**科目学習の効果(資格)**  
(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得に必要です。  
【免許法施行規則に定める科目区分】  
科目: 教育の基礎理論に関する科目  
各科目に含める必要事項: 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

| 回数 | 授業テーマ             | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題                                       |
|----|-------------------|---|---|
|    |                   |   |   |
| 1  | イントロダクション 教育社会学とは | 教育社会学という学問の特質、及び、その課題を知る。   | 事前課題: 教科書の序章を読み、疑問点についてまとめてくる。                  |
| 2  | 新自由主義と学校教育        | 近年の学校教育(制度)の質的転換について事前資料を基にグループで意見交換し、発表する(学校教育を社会学観点から考察します)。                                  | 事前課題: 小テスト対策、事前配布資料を読み、その内容についてまとめてくる。          |
| 3  | マイノリティと教育 I       | マイノリティ体験ワークショップの実施。   | 事前課題: 小テスト対策                                    |
| 4  | マイノリティと教育 II      | 前時を踏まえ、学校の中におけるマイノリティとしての「外国にルーツのある子どもたち」の実態、現状について考え、その対応について議論する。                             | 事前課題: 小テスト対策、前時のワークショップの感想をまとめてくる。              |
| 5  | マイノリティと教育 III     | 予定: 当事者(外国にルーツのある子ども)を招聘し、学校での経験についてのお話を聞く。その後、質疑応答、ふりかえりを実施する。                                 | 事前課題: 小テスト対策、前時の復習をしてくる。                        |
| 6  | 教育格差・学力格差問題 I     | 教育格差・学力格差に関する近年の研究動向を紹介し、その基礎的理解を深める。   | 事前課題: 小テスト対策、教科書の第7章の要約。                        |
| 7  | 教育格差・学力格差問題 II    | 貧困と格差が子どもたちにもたらす影響について考える。子どもの貧困・格差に関する映画、あるいはビデオの鑑賞、及び子どもの貧困問題に取り組んでいる実践者の方を招聘し、現状についての理解を深める。 | 事前課題: 小テスト対策、前時の復習をしてくる。ゲスト講師からの課題があれば予習をしてくる。  |
| 8  | 教育格差・学力格差問題 III   | 格差解消に向けた学校、家庭、地域社会等の取り組みについて、グループで話し合い、発表する。なお、実際に学校現場で行われている取り組みについても紹介する。                     | 事前課題: 小テスト対策、事前に配布する資料を読み、要約する。                 |
| 9  | 学校教育の現場を知る I      | 予定: 学校関係者等、話題提供者を招聘し、今、学校教育が抱える問題について問題提起してもらう。   | 事前課題: 小テスト対策、前時の復習、及び講師、話題提供者からの課題等があれば予習をしてくる。 |
| 10 | 学校教育の現場を知る II     | 予定: 学校関係者等、話題提供者を招聘し、今、学校教育が抱える問題について問題提起してもらう。   | 事前課題: 小テスト対策、前時の復習、及び話題提供者からの課題等があれば予習をしてくる。    |
| 11 | 学校教育の現場を知る III    | 前々回～前回の授業を踏まえ、学校教育が抱える諸問題について、それぞれ関心のある問題を選択し、小グループに分かれ発表する。                                    | 事前課題: 小テスト対策、グループ発表資料の準備をしてくる。                  |
| 12 | ジェンダーと教育 I        | 学校や家庭、社会に潜むジェンダーに関わる問題について考えるワークを実施する。  | 事後課題: 小テスト対策、事前に配布する資料を読み、要約する。                 |
| 13 | ジェンダーと教育 II       | ジェンダー問題を扱った映画の鑑賞予定。   | 事後課題: 小テスト対策、前時の復習をしてくる。                        |
| 14 | ジェンダーと教育 III      | ジェンダーロールにとらわれない教育、社会の創造について意見交換しながら   | 事後課題: 小テスト対策、映画の感想をまとめてくる。                      |

|               |   |           | 考える。                                       |                          |    |     |     |      |   |                     |           |         |   |                   |      |       |   |  |  |  |
|---------------|---|-----------|--|--------------------------|----|-----|-----|------|---|---------------------|-----------|---------|---|-------------------|------|-------|---|--|--|--|
|               | 15  | 総括        | まとめの確認テストと「教育改革」をキーワードにこれからの教育のあり方について考える。 | 事後課題：小テスト対策、教科書の第10章の要約。 |    |     |     |      |   |                     |           |         |   |                   |      |       |   |  |  |  |
| 関連科目          | 「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」  |           |  |                          |    |     |     |      |   |                     |           |         |   |                   |      |       |   |  |  |  |
| 教科書           | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教師教育テキストシリーズ『教育社会学』</td> <td>久富善之、長谷川裕</td> <td>学文社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>   |           |  |                          | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 教師教育テキストシリーズ『教育社会学』 | 久富善之、長谷川裕 | 学文社     | 2 |                   |      |       | 3 |  |  |  |
| 番号            | 書籍名   | 著者名       | 出版社名                                       |                          |    |     |     |      |   |                     |           |         |   |                   |      |       |   |  |  |  |
| 1             | 教師教育テキストシリーズ『教育社会学』   | 久富善之、長谷川裕 | 学文社  |                          |    |     |     |      |   |                     |           |         |   |                   |      |       |   |  |  |  |
| 2             |   |           |  |                          |    |     |     |      |   |                     |           |         |   |                   |      |       |   |  |  |  |
| 3             |   |           |  |                          |    |     |     |      |   |                     |           |         |   |                   |      |       |   |  |  |  |
| 参考書           | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>現代教育社会学</td> <td>岩井八郎、近藤博之</td> <td>有斐閣ブックス</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新版『教育社会学を学ぶ人のために』</td> <td>石戸教嗣</td> <td>世界思想社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>   |           |  |                          | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 現代教育社会学             | 岩井八郎、近藤博之 | 有斐閣ブックス | 2 | 新版『教育社会学を学ぶ人のために』 | 石戸教嗣 | 世界思想社 | 3 |  |  |  |
| 番号            | 書籍名   | 著者名       | 出版社名                                       |                          |    |     |     |      |   |                     |           |         |   |                   |      |       |   |  |  |  |
| 1             | 現代教育社会学   | 岩井八郎、近藤博之 | 有斐閣ブックス                                    |                          |    |     |     |      |   |                     |           |         |   |                   |      |       |   |  |  |  |
| 2             | 新版『教育社会学を学ぶ人のために』   | 石戸教嗣      | 世界思想社                                      |                          |    |     |     |      |   |                     |           |         |   |                   |      |       |   |  |  |  |
| 3             |   |           |  |                          |    |     |     |      |   |                     |           |         |   |                   |      |       |   |  |  |  |
| 評価方法<br>(基準)  | 出席・授業への貢献度、試験（毎時間行う小テストとまとめの確認テスト）、学校でのボランティア活動体験報告書（必須）、課題・レポート等をすべてこなした上で総合的に評価するが、まとめの確認テストで6割以上取れない場合、さらに、出席が80%に満たない者、課題（要約）の提出が十分でない者は成績評価の対象外とする。また、遅刻は欠席とするので注意すること。  |           |  |                          |    |     |     |      |   |                     |           |         |   |                   |      |       |   |  |  |  |
| 学生への<br>メッセージ | <p>本講義を履修する者は、原則、前期履修期間中に学校現場でのボランティア活動経験が必須条件となります。すでに何らかの活動をしているものはその活動内容についてレポートをまとめ提出してもらいます（必須）。一度も活動したことがないものは、前期履修期間中にいくつかの活動を紹介するので、その活動に参加しレポートを作成し提出してもらいます（必須）。この必須レポート提出がない者は単位認定できませんので、履修前によく考えてから履修してください。なお、地域連携やその他の大学認定の活動（PBLなど）は、本レポートの対象とはなりません。</p> <p>学校でのボランティア等活動経験のない者については本講義を履修期間中、学校でボランティア活動することを義務づけます。よって、学校でのボランティア活動をやっていない者、やりたくない者、やる予定がない者は履修しても単位認定しません。また、提出物に関しては締め切りを厳守すること。締め切り以降の提出に関しては受け取りませんが「未提出」扱いとします。</p> |           |  |                          |    |     |     |      |   |                     |           |         |   |                   |      |       |   |  |  |  |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館3階(大野順子研究室)  |           |  |                          |    |     |     |      |   |                     |           |         |   |                   |      |       |   |  |  |  |
| 備考            | 授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。また、いくつかの課外活動を通常の時間割外に行う予定です。課外活動に参加できない人は本科目の単位を取得することは困難な場合もあります。また、学校でのボランティア活動への参加も必須です。こちらへの参加ができない人も本科目の単位取得が困難となりますので、履修を決める前にしっかりと考えてから履修登録してください。履修登録をした時点で、あなた自身が本講義のシラバス内容をすべて了解した上で登録したことになりますので、履修登録以降のシラバスに関するご意見については一切受け付けませんのでご了承ください。<br>事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。  |           |  |                          |    |     |     |      |   |                     |           |         |   |                   |      |       |   |  |  |  |

|               |       |         |                        |
|---------------|-------|---------|------------------------|
| 科目名           | 教育心理学 | 科目名(英文) | Educational Psychology |
| 学部            | 学部共通  | 学科      | 教職科目                   |
| 配当年次          | 1年    | クラス     |                        |
| 単位数           | 2     | 履修区分    | 必修科目                   |
| 学期            | 前期    | 授業担当者   | 吉田 佐治子                 |
| ディプロマポリシー(DP) |       |         |                        |
| 科目ナンバリング      |       |         |                        |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 学校での教育活動において教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身につけ、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになることを目標とする。 |
| 到達目標        | 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。   |
| 授業方法と留意点    | 講義中心で行う。事前に資料を moodle 上で配付するので、各自入手しておくこと。<br>必要に応じて、簡易実験やグループディスカッション等を行う。   |
| 科目学習の効果(資格) | 教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」10単位のうち2単位を充足。<br>【免許法施行規則に定める科目区分】<br>科目：教育の基礎的理解に関する科目<br>各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程                                  |

| 回数 | 授業テーマ       | 内容・方法等                                | 事前・事後学習課題                               |
|----|-------------|---------------------------------------|---|
|    |             |                                       |   |
| 1  | 発達と教育と心理学と1 | 教育に対して心理学ができること、発達と教育                 | テキスト第0章1、配付資料による本時の予習と復習                |
| 2  | 発達と教育と心理学と2 | 発達の要因、主な発達理論の概観                       | テキスト第8章1、配付資料による本時の予習と復習                |
| 3  | こどもの発達1     | 乳幼児期……運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達           | テキスト第8章2・第9章、配付資料による本時の予習と復習            |
| 4  | こどもの発達2     | 児童期……運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達            | テキスト第8章2・第10章・第11章、配付資料による本時の予習と復習      |
| 5  | こどもの発達3     | 青年期……運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達            | テキスト第8章2・第10章・第11章・第12章、配付資料による本時の予習と復習 |
| 6  | 学習を支える認知機能1 | 思考……人間の思考の特徴、メタ認知の機能と発達               | テキスト第7章1、配付資料による本時の予習と復習                |
| 7  | 学習を支える認知機能2 | 言語……言語の機能、言語理解と言語産出とその発達              | テキスト第11章、配付資料による本時の予習と復習                |
| 8  | 学習を支える認知機能3 | 記憶……記憶のメカニズムと発達                       | テキスト第4章・第5章、配付資料による本時の予習と復習             |
| 9  | こどもの学び1     | さまざまな学習①……学習とは何か、主な学習理論の概観、条件づけ       | テキスト第1章、配付資料による本時の予習と復習                 |
| 10 | こどもの学び2     | さまざまな学習②……観察学習、自己制御学習                 | テキスト第1章・第6章、配付資料による本時の予習と復習             |
| 11 | 学習を支える動機づけ1 | 意欲とは何か……動機づけ過程、動機づけ理論                 | テキスト第2章・第3章、配付資料による本時の予習と復習             |
| 12 | 学習を支える動機づけ2 | さまざまな意欲……外発的動機づけ・内発的動機づけ、その他の視点、意欲の発達 | テキスト第2章・第3章、配付資料による本時の予習と復習             |
| 13 | 学習を支える動機づけ3 | 意欲を育む……こどもの発達と意欲、意欲を育む教育のあり方、学習と評価    | テキスト第2章・第3章、配付資料による本時の予習と復習             |
| 14 | 学校における人間関係  | 教師-生徒の関係、生徒-生徒の関係、教師-教師の関係、集団としての学級   | テキスト第0章2・第10章、配付資料による本時の予習と復習           |
| 15 | 個に応じた教育     | 個人差の理解と教育……A T T I、学習方略               | テキスト第0章3・第6章・第7章2、配付資料による本時の予習と復習       |

|      |                |
|------|----------------|
| 関連科目 | 教職課程におけるすべての科目 |
|------|----------------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名                     | 著者名      | 出版社名    |
|-----|----|-------------------------|----------|---------|
|     | 1  | 絶対役立つ教育心理学—実践の理論、理論を実践— | 藤田哲也(編著) | ミネルヴァ書房 |
| 2   |    |                         |          |         |
| 3   |    |                         |          |         |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
|     | 1  |     |     |      |
| 2   |    |     |     |      |
| 3   |    |     |     |      |

|           |  |
|-----------|--|
| 評価方法(基準)  | 小テスト30%、期末試験70%  |
| 学生へのメッセージ | これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。                  |
| 担当者の研究室等  | 7号館3階(吉田研究室)   |
| 備考        | ・授業内で、moodle を使用することがあります。利用できるようにしておいてください。<br>・期末試験は希望者に返却します。<br>・事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。 |

|               |      |         |                   |
|---------------|------|---------|-------------------|
| 科目名           | 教育相談 | 科目名(英文) | School Counseling |
| 学部            | 学部共通 | 学科      | 教職科目              |
| 配当年次          | 3年   | クラス     |                   |
| 単位数           | 2    | 履修区分    | 必修科目              |
| 学期            | 後期   | 授業担当者   | 吉田 佐治子            |
| ディプロマポリシー(DP) |      |         |                   |
| 科目ナンバリング      |      |         |                   |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 教育相談の考え方や進め方についての理解を深め、生徒が成長する過程に生じるさまざまな課題や問題に対処するための援助の考え方や実際、カウンセリングの基礎知識と教育相談の技法を身につけることを目標とする。学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的意義を解説し、カウンセリングの基礎知識およびその実践的な手法を紹介する。併せて、「問題」に悩む児童・生徒への実践的な取り組み方を考える。 |
| 到達目標        | 教育相談の基本的な考え方や、カウンセリングの基礎、生徒理解と「問題」への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。  |
| 授業方法と留意点    | 講義と演習を組み合わせで行う。演習は、グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。   |
| 科目学習の効果(資格) | 教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」4単位のうち2単位を充足。<br>【免許法施行規則に定める科目区分】<br>科目：生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目<br>各科目に含める必要事項：教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法   |

| 回数 | 授業テーマ            | 内容・方法等   | 事前・事後学習課題                        |
|----|------------------|--|----------------------------------|
|    |                  |  |                                  |
| 1  | イントロダクション        | 授業内容、授業の進め方、評価基準等について                            | —————                            |
| 2  | カウンセリングの基礎       | カウンセリングの基本的な考え方や、教師としての立場、カウンセリングマインド            | テキスト第1章、第2章を読む                   |
| 3  | グループ発表の準備        | グループワーク  | 検討したいテーマについてよく考えておく<br>グループ発表の準備 |
| 4  | 学校教育相談の全体像       | 校内での役割分担と協力体制、専門機関との連携とその方法                      | テキスト第12章、第13章を読む<br>グループ発表の準備    |
| 5  | 学校におけるカウンセリング活動1 | カウンセリング活動のいろいろ(1)……<br>治療的カウンセリング活動、予防的カウンセリング活動 | テキスト第10章を読む<br>グループ発表の準備         |
| 6  | 学校におけるカウンセリング活動2 | カウンセリング活動のいろいろ(2)……<br>開発的カウンセリング活動              | テキスト第10章を読む<br>グループ発表の準備         |
| 7  | パーソナリティ理解        | パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの                 | グループ発表の準備                        |
| 8  | 問題の理解と対応1        | 問題とは何か、その原因・背景と対応、<br>適応過程                       | テキスト第3章を読む<br>グループ発表の準備          |
| 9  | 問題の理解と対応2        | ストレス、欲求不満、葛藤                                     | テキスト第3章、第4章を読む<br>グループ発表の準備      |
| 10 | 心の発達と危機          | 認知の発達、自己意識の発達、道徳性の<br>発達、仲間関係の発達                 | 教育心理学の復習<br>グループ発表の準備            |
| 11 | 相談援助活動の実際1       | 不登校……その理解と対応(学生グループ発表)                           | テキスト第5章を読む                       |
| 12 | 相談援助活動の実際2       | いじめ……その理解と対応(学生グループ発表)                           | テキスト第6章を読む                       |
| 13 | 相談援助活動の実際3       | 学級崩壊・授業崩壊……その理解と対応<br>(学生グループ発表)                 | テキスト第7章を読む                       |
| 14 | 相談援助活動の実際4       | 反社会的行動……その理解と対応(学生グループ発表)                        | テキスト第8章を読む                       |
| 15 | 教員のメンタル・ヘルス      | 教員自身が健康であるために、教員への対応                             | テキスト第14章を読む                      |

|      |           |
|------|-----------|
| 関連科目 | 教職課程の科目全般 |
|------|-----------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名  | 著者名            | 出版社名    |
|-----|----|------|----------------|---------|
|     | 1  | 教育相談 | 森田健宏・吉田佐治子(編著) | ミネルヴァ書房 |
| 2   |    |      |                |         |
| 3   |    |      |                |         |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
|     | 1  |     |     |      |
| 2   |    |     |     |      |
| 3   |    |     |     |      |

|           |  |
|-----------|--|
| 評価方法(基準)  | グループ発表 50%、期末試験 50%  |
| 学生へのメッセージ | これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。  |
| 担当者の研究室等  | 7号館3階(吉田研究室)   |
| 備考        | グループ発表について、他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。また、全発表中最も評価が高かったグループも、最後にお知らせします。<br>グループ内ではピア評価を行います。<br>事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。 |

|               |       |         |                               |
|---------------|-------|---------|-------------------------------|
| 科目名           | 教育方法論 | 科目名(英文) | Studies of Educational Method |
| 学部            | 学部共通  | 学科      | 教職科目                          |
| 配当年次          | 2年    | クラス     |                               |
| 単位数           | 2     | 履修区分    | 必修科目                          |
| 学期            | 前期    | 授業担当者   | 林 茂樹                          |
| ディプロマポリシー(DP) |       |         |                               |
| 科目ナンバリング      |       |         |                               |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | <p>教職課程「教育の方法及び技術」に対応する科目である。授業は、教育方法の歴史と理論の概観、授業の設計から評価に至る授業構成の理解、学習指導を組織化するための基礎的な授業技術と方略の習得に関する講義、児童生徒に向き合う授業づくりのための技術に関するミニ講座、グループに分かれて、共同作業による教材開発とマイクロ・ティーチングの実施体験により構成する。</p> <p>授業担当者は公立高校5校で34年間にわたり授業を行ってきた経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを期待する。</p> <p>より具体的には、つぎのことをめざす。</p> <p>(1) 自己の被教育体験を出発点に、学ぶこと・教えることの意味について考え、学習観・授業観・学校観を問い直す作業を通して、今日の教師に求められる多様な資質・能力についての理解を深める。</p> <p>(2) 「教え込む技術」の習得ではなく、生徒の生活背景や教室の人間関係を把握し、生徒の声を聴き取り、生徒どうしをつなぎ、教材の文脈にもどし、日々の教室での出来事に柔軟かつ的確に対処しながら、教室を豊かな学びの場とする授業づくりをめざす。</p> <p>(3) 教育実践の質を向上させるためには、個々の教師が、上記(2)に関する専門性を向上させるだけでなく、職場で相互に学び合える同僚性を構築すること、また、教育諸科学の最新の研究から新しい知見を積極的に摂取することの重要性を理解する。</p> |
| 到達目標        | <p>教師と生徒が意思疎通を図りつつ、相互に作用しながら、主体的に問題を発見し、協力協同しながら解に接近する時空間としての授業を構想することをめざして、</p> <p>(1) 指導目標を適切に設定し、多角的な視点から教材研究を行い、学習指導案を作成するとともに、同僚との協議を踏まえて指導案を改善することができる。</p> <p>(2) 豊富な事例研究を通して、教育実践を対象として分析、批判、省察、再構成できる。</p>   |
| 授業方法と留意点    | <p>(1) 講義・ワークを中心に授業を進める。インタラクティブ(双方向的)な授業構成となるよう積極的な参加を求める。私語は厳禁だが、質問や意見提起は歓迎する。</p> <p>(2) 毎回、授業の最後にコメントペーパーを配付する。「コメントペーパー」は記入・提出すること(編集して、次回に配布し、共有すべき点についてコメントを行う。)</p> <p>(3) 授業終了時に復習用の講義資料を配布する。講義資料は各自ファイリングすること。</p> <p>(4) 第9～12回でチームでのマイクロ・ティーチングを実施する。また、チーム・マイクロ・ティーチングに関するレポートの提出をもとめる(中間レポートとして)。</p> <p>(5) 定期試験を必ず受験すること。</p>  |
| 科目学習の効果(資格) | 教員免許(小学校・中学校・高等学校)取得上必修科目である。   |

| 回数 | 授業テーマ   | 内容・方法等   | 事前・事後学習課題                         |
|----|---|--|-----------------------------------|
|    |   |  |                                   |
| 1  | オリエンテーション、教育方法論の論点と課題<br>授業技術ミニ講座①授業びらき・授業じまい                   | 「学力」の登場と学力論争、「問題解決学習」論争、「たのしい授業」論争、「教育技術」をめぐる論争            | 教科書第3章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。 |
| 2  | 子どもは何を学ぶのか(教育目標・内容論)<br>授業技術ミニ講座②授業のルールづくり                      | 教育目標に関する基本的な考え方、教育目標・内容の諸相、育成すべき資質と能力、学校教育目標               | 教科書第4章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。 |
| 3  | 学習とは何か(学習論)<br>授業技術ミニ講座③私語の傾向と対策                                | 学習をめぐる3つの理論、学習理論にもとづく学習方法、学習における他者の役割、学習指導の形態              | 教科書第5章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。 |
| 4  | 欧米における授業の歴史(教授論の歴史①)<br>授業技術ミニ講座④板書の技術                          | 近代教育思想と教授学の成立、教育学の体系化と授業の組織化、カリキュラム研究の成立と展開、科学技術の進歩と教育改革   | 教科書第1章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。 |
| 5  | 日本における授業の歴史(教授論の歴史②)<br>授業技術ミニ講座⑤発問の工夫と仕方                       | 近代学校制度と授業の成立、授業の定型化、新教育の受容と戦後改革、新自由主義的教育改革                 | 教科書第2章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。 |
| 6  | 学力をどう高めるか(学力論)<br>授業技術ミニ講座⑥指名、指示の仕方、発言のさせ方<br>ワーク1 チーム顔合わせ・自己紹介 | 学力をどうとらえるか、「できる学力」を高める、「分かる学力」を高める、学力調査をめぐって               | 教科書第6章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。 |
| 7  | 授業をどうデザインするか(計画論)<br>ワーク2 チームで教材開発・模擬授業の打ち合わせ①                  | 授業のデザインとは、教育内容と子どもの学び、対話的・協働的な学び合い、授業づくりの課程と構造、学びのための指導・支援 | 教科書第7章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。 |
| 8  | 教育の道具・素材・環境(教材論)<br>ワーク3 チームで教材開発・模擬授業の打ち合わせ②                   | 教材づくり、メディアとしての教材、教材概念の拡張、学習環境としての時空間                       | 教科書第8章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。 |
| 9  | 何をどう評価するか(評価論)<br>ワーク4 第1・2グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施             | 目標に準拠した評価と相対評価、形成的評価と自己評価、パフォーマンス評価とポートフォリオ評価、指導と評価の一体化    | 教科書第9章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。 |
| 10 | 誰がカリキュラムを編成するのか(カリキュラム論)<br>第3・4グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施        | カリキュラム・イメージの私試、カリキュラムの編成原理、学習指導要領、カリキュラム開発、隠れたカリキュラム       | 配布プリントをよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。 |
| 11 | ICTを活用した授業をつくる  | 各種メディアの授業への活用、学習用デ   | 配布プリントをよく読んでおく。講義資料を参考に           |

|               | ①<br>ワーク5 第5・6グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施   | デジタル・コンテンツの利用   | 学習内容を整理する。                         |    |     |     |      |   |                |       |     |   |  |  |  |   |  |  |  |
|---------------|--|---|------------------------------------|----|-----|-----|------|---|----------------|-------|-----|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 12            | ICTを活用した授業をつくる<br>②<br>ワーク6 第7・8グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施   | 情報教育、メディア・リテラシー、eラーニング、学校運営・教務事務のICT化                                   | 配布プリントをよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。  |    |     |     |      |   |                |       |     |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 13            | インクルーシブな授業をつくる<br>ワーク7 チームによるマイクロ・ティーチングの振り返り①<br>授業技術ミニ講座⑦個別指導と一斉指導   | 通常学級における特別支援教育、個に応じた指導とは、学級集団づくりと授業づくり、授業の「わかりやすさ」と多様な参加                | 配布プリントをよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。  |    |     |     |      |   |                |       |     |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 14            | ユニバーサルデザインの授業をつくる<br>ワーク8 チームによるマイクロ・ティーチングの振り返り②<br>授業技術ミニ講座⑧ほめ方・叱り方  | バリアフリーとユニバーサルデザイン、学習環境のユニバーサルデザイン化、指導方法のユニバーサルデザイン化、学習のユニバーサルデザインと合理的配慮 | 配布プリントをよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。  |    |     |     |      |   |                |       |     |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 15            | まとめ～学び続ける教員像をめぐる<br>授業技術ミニ講座⑨グループ学習の方法   | 2つの教師モデル、専門家としての教師、教師としての成長に向けて   | 教科書第11章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。 |    |     |     |      |   |                |       |     |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 関連科目          | 教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。   |   |                                    |    |     |     |      |   |                |       |     |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 教科書           | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新しい時代の教育方法 改訂版</td> <td>田中耕治他</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> |   |                                    | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 新しい時代の教育方法 改訂版 | 田中耕治他 | 有斐閣 | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号            | 書籍名  | 著者名   | 出版社名                               |    |     |     |      |   |                |       |     |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1             | 新しい時代の教育方法 改訂版   | 田中耕治他   | 有斐閣                                |    |     |     |      |   |                |       |     |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2             |  |   |                                    |    |     |     |      |   |                |       |     |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3             |  |   |                                    |    |     |     |      |   |                |       |     |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 参考書           | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>                       |   |                                    | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |                |       |     | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号            | 書籍名  | 著者名   | 出版社名                               |    |     |     |      |   |                |       |     |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1             |  |   |                                    |    |     |     |      |   |                |       |     |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2             |  |   |                                    |    |     |     |      |   |                |       |     |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3             |  |   |                                    |    |     |     |      |   |                |       |     |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 評価方法<br>(基準)  | 定期試験 (50%)、レポート (30%)、コメントペーパー (20%) により総合的に評価する。  |   |                                    |    |     |     |      |   |                |       |     |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 学生への<br>メッセージ | 「授業に出席するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、日々、メディアで取り上げられる教育諸課題に敏感に反応し、教育の方法的視点でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。   |   |                                    |    |     |     |      |   |                |       |     |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館3階(林研究室)  |   |                                    |    |     |     |      |   |                |       |     |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 備考            | 事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。  |   |                                    |    |     |     |      |   |                |       |     |   |  |  |  |   |  |  |  |



|               |              |          |                                   |
|---------------|--------------|----------|-----------------------------------|
| 科目名           | 教職実践演習 (中・高) | 科目名 (英文) | Practicum in Prospective Teachers |
| 学部            | 学部共通         | 学科       | 教職科目                              |
| 配当年次          | 4年           | クラス      |                                   |
| 単位数           | 2            | 履修区分     | 必修科目                              |
| 学期            | 後期           | 授業担当者    | 吉田 佐治子・朝日 素明・大野 順子・谷口 雄一・林 茂樹     |
| ディプロマポリシー(DP) |              |          |                                   |
| 科目ナンバリング      |              |          |                                   |

|              |  |
|--------------|--|
| 授業概要・目的      | <p>○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や実践的な力量について確認する。</p> <p>○中学・高校での現場体験学習をもとに、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。</p> <p>○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。</p> <p>○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と社会性・協調性」「使命感・責任感」「学校教育活動におけるリーダーシップ」等を有していることを確認する。</p> <p>※ 担当者のうち2名は、長く学校に勤務した経験をもっている。また、中学校での実地学習では、現職の先生方から直接ご指導いただく。</p> |
| 到達目標         | 免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。  |
| 授業方法と留意点     | <p>○教職課程の専任教員5名による全体指導と、各専任教員ごとのグループ学習を中心に進める。1グループは10名程度。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねるなかで、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。</p> <p>○大学の教科に関する科目の担当者・指導主事・現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。</p>  |
| 科目学習の効果 (資格) | <p>○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目(教職実践演習を除く)の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するもの。</p> <p>○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。</p>   |

| 回数 | 授業テーマ                      | 内容・方法 等  | 事前・事後学習課題  |
|----|----------------------------|--|--|
| 1  | 「教職実践演習」の全体ガイダンス           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本講義の目的、内容方法についての確認。</li> <li>・受講者各自の教育実習後の課題についての確認。</li> <li>・3回目以降に行われるグループ学習の各課題の確認。</li> </ul>   | 教育実習ノートの点検と再確認   |
| 2  | 専攻科目における実践上の課題①            | 専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野に関する受講者各自の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。  | 専攻教科における分野ごとの課題を整理   |
| 3  | 専攻科目における実践上の課題②            | 専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野における実践上の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。  | 専攻教科における分野ごとの課題を整理   |
| 4  | 生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)①    | 地元市教委との連携協力をもとに、中学校現場をグループごとに参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。   | 中学生における集団づくりと個別指導(生徒指導・進路指導のあり方)についてレポートにまとめる              |
| 5  | 生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)②    | 地元市教委との連携協力をもとに、中学校現場をグループごとに参観し、教科指導上の実践課題を知る。  | 中学生における集団づくりと個別指導(教科指導のあり方)についてレポートにまとめる                   |
| 6  | いじめの現状                     | 問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。   | (事前)配布資料の熟読<br>(事後)小レポートの提出                                |
| 7  | いじめ問題への取り組み                | 日常の些細な出来事がどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。  | (事前)配布資料の熟読<br>(事後)小レポートの提出                                |
| 8  | ジェンダーと教育                   | 近現代社会は「個人の尊重」という理念のもと成り立っている。しかしながら、その背後には伝統的な価値規範を内包していることも忘れてはならない。近代国家によって制度化されてきた学校教育も現在では自由や個性の尊重を掲げながら、一方では伝統的な価値観を強制している部分があるのではないかと。そうしことを考えるきっかけとして「ジェンダー」という視点を用い、学校教育を改めて考えてみたい。特に、身近なところからジェンダーについて考え、学校教育や社会について検討していく。 | (事前)第一回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1~2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。 |
| 9  | 学校の中のマイノリティ:外国にルーツをもつ子どもたち | 1990年代以降、日本の入国管理政策の転換により、多くの外国人が家族とともに渡日するようになった。それに伴い多くの外国人の子どもたちは日本の学校へ通うことになったが、彼らは日本語の問題や日本特有の学校文化など様々な問題に直面することとなった。ここでは外国にルーツをもつ子どもたち  | (事前)第一回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1~2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。 |

|               |  |                      | ちの視点から日本の学校教育制度について講義、およびディスカッションを通して考えていく。                          |  |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|---------------|--|----------------------|--|--|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
|               | 10   | 学校の危機管理①:学校管理下の事件・事故 | 学校管理下における事件・事故発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質を高める。 | (事前) 学校管理下の事件・事故に関する配布資料を読んでくる。<br>(事後) ミニレポートを課す。             |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|               | 11   | 学校の危機管理②: 災害         | 災害発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質を高める。             | (事前) 災害発生時の学校の対応に関する配布資料を読んでくる。<br>(事後) ミニレポートを課す。             |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|               | 12   | 教員の体罰はなぜなくなるのか?      | 教員の体罰の実態や体罰防止の現状等について学ぶとともに、体罰の背景にある指導観、子ども観について考える。                 | (事前) 配布した新聞記事の切り抜きを読んでくる。<br>(事後) ミニレポートを課す。                   |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|               | 13   | 教員の勤務時間はなぜ長くなるのか?    | 労働時間法制や教員の勤務時間の実態について学ぶとともに、長時間勤務の背景にある問題について考察し、働き方改革の方途を考える。       | (事前) 配布した新聞記事の切り抜きを読んでくる。<br>(事後) ミニレポートを課す。                   |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|               | 14   | カウンセリングマインドと生徒対応     | カウンセリングの技法を生徒への対応、保護者への対応に応用する。                                      | (事前) カウンセリングマインドについての復習。中学生あるいはその親のもつ“悩み”を3つあげる。<br>(事後) 小レポート |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
|               | 15   | 「自分」を知る              | 教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り、そのための1方法としてのエゴグラム作成を行う。                      | (事前) 「自分」について考える。<br>(事後) 小レポート                                |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 関連科目          | 全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科ごとの必修科目  |                      |  |  |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 教科書           | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> |                      |  |  | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号            | 書籍名  | 著者名                  | 出版社名   |  |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1             |  |                      |  |  |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2             |  |                      |  |  |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3             |  |                      |  |  |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 参考書           | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> |                      |  |  | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |  |  |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  |
| 番号            | 書籍名  | 著者名                  | 出版社名   |  |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 1             |  |                      |  |  |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 2             |  |                      |  |  |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 3             |  |                      |  |  |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 評価方法<br>(基準)  | グループ学習が中心であり、それぞれについて課題が出される。それらの評価を総合し、最終的な評価とする。   |                      |  |  |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 学生への<br>メッセージ | 教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察すること。そのなかで、問題点を見出し、諸課題を自ら設定し、この科目を軸にしながら、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践的力量を身に付けること。  |                      |  |  |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館3階(朝日、大野、林、吉田)<br>7号館4階(谷口)   |                      |  |  |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |
| 備考            | 事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。  |                      |  |  |    |     |     |      |   |  |  |  |   |  |  |  |   |  |  |  |

|               |      |         |                   |
|---------------|------|---------|-------------------|
| 科目名           | 教師論  | 科目名(英文) | Teacher Education |
| 学部            | 学部共通 | 学科      | 教職科目              |
| 配当年次          | 1年   | クラス     |                   |
| 単位数           | 2    | 履修区分    | 必修科目              |
| 学期            | 前期   | 授業担当者   | 朝日 素明             |
| ディプロマポリシー(DP) |      |         |                   |
| 科目ナンバリング      |      |         |                   |

**授業概要・目的**  
 教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようになっているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。

**到達目標**  
 学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどういう教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。

**授業方法と留意点**  
 講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション(LTD; Learning Through Discussion)等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。  
 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。

**科目学習の効果(資格)**  
 教員免許取得上必修  
 【免許法施行規則に定める科目区分】  
 科目：教職の意義等に関する科目  
 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む)・進路選択に資する各種の機会の提供等

| 回数 | 授業テーマ              | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題                      |
|----|--------------------|---|--------------------------------|
| 1  | オリエンテーション<br>教職への道 | 科目概要について説明<br>自らの学校・生徒体験、心に残る教師等についてのふりかえり<br>教職課程の履修動機<br>教師になることの意味 | 本科目のシラバスの熟読                    |
| 2  | 教職の成立とその意義         | 公教育の成立<br>教職の誕生<br>戦前の教員養成  | 戦前の教員養成制度に関する配布資料              |
| 3  | 教師教育と教職の専門性(1)     | 教員への道<br>戦後教員養成の原則と制度<br>教員免許制度の確立                                    | 戦後の教員養成制度に関する配布資料              |
| 4  | 教師教育と教職の専門性(2)     | 教員免許制度の新たな展開<br>教員採用の動向と採用試験  | 教員免許制度に関する配布資料                 |
| 5  | 教師教育と教職の専門性(3)     | 教員の研修の意義<br>教員の研修の種類と体系   | 学び続ける教師に関する配布資料                |
| 6  | 教師教育と教職の専門性(4)     | 法定研修<br>教員の自己研修   | 教員研修体系に関する配布資料                 |
| 7  | 文献・映像に基づく教師像の探究(1) | 戦前・戦後の教師像<br>憧れの教師  | 教師像に関する配布資料                    |
| 8  | 文献・映像に基づく教師像の探究(2) | 「不良教師」と「熱血教師」(文献・映像に基づく教師像の探究)<br>レポートに基づくグループワーク                     | 「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出 |
| 9  | 文献・映像に基づく教師像の探究(3) | 「人間教師」と「プロ教師」)<br>レポートに基づくグループワーク                                     | 「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出 |
| 10 | 文献・映像に基づく教師像の探究(4) | 教師としての資質能力のあり方  | 教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料    |
| 11 | 教員の役割・職務(1)        | 学校・教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務   | 授業・カリキュラムと教師に関する配布資料           |
| 12 | 教員の役割・職務(2)        | 学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務   | 教職員構成と校務分掌に関する配布資料             |
| 13 | 教員の役割・職務(3)        | 学校内外の連携の視点からみた教員の役割・職務(チーム学校運営への対応を含む)                                | 「チーム学校」の考え方や学校運営の実践に関する配布資料    |
| 14 | 教員の役割・職務(4)        | 教員の任用と身分<br>教員の服務と身分保障  | 教員の任用・服務等に関する配布資料              |
| 15 | 教員の役割・職務(5)        | 教員の勤務条件<br>教員のメンタルヘルス、バーンアウト  | メンタルヘルスに関する配布資料                |

**関連科目**  
 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
|     | 1  |     |     |      |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
|     | 1  |     |     |      |

**評価方法(基準)**  
 定期試験 70%、レポート 20%、グループワーク・ピア評価 10%

**学生へのメッセージ**  
 教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。  
 遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。

**担当者の研究室等**  
 7号館3階 朝日研究室

**備考**  
 ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインド設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。  
 事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。

|               |       |         |                                    |
|---------------|-------|---------|------------------------------------|
| 科目名           | 生徒指導論 | 科目名(英文) | Studies of Guidance and Counseling |
| 学部            | 学部共通  | 学科      | 教職科目                               |
| 配当年次          | 2年    | クラス     |                                    |
| 単位数           | 2     | 履修区分    | 必修科目                               |
| 学期            | 前期    | 授業担当者   | 朝日 素明                              |
| ディプロマポリシー(DP) |       |         |                                    |
| 科目ナンバリング      |       |         |                                    |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめるうえで重要な役割を占めています。非行、いじめ、不登校、学級崩壊、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されています。本科目では、生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義について理解を深め、実践を進める方法原理について基礎的な知識を獲得し、教職員や関係機関と協力して解決・改善を目指すとする素養を養います。 |
| 到達目標        | 学生は、生徒指導、進路指導、キャリア教育の意義と原理を理解し、学校の教育活動の核にこれを据え、全ての教職員および関係機関等と協力し、組織的に実践を進めていくために必要な知識やスキルを学び、さまざまな問題事象を適切に捉え対処する基礎力を身につけることができます。  |
| 授業方法と留意点    | プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に、内容をめぐるディスカッション等も織り交ぜて授業を進めます。また折時、レポートを課します。<br>「事前・事後学習課題」はすべて事前課題です。事後課題については別途、指示します。   |
| 科目学習の効果(資格) | 教員免許取得上必修<br>【免許法施行規則に定める科目区分】<br>科目：生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目<br>各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導の理論及び方法   |

| 回数 | 授業テーマ                | 内容・方法等   | 事前・事後学習課題                     |
|----|----------------------|--|-------------------------------|
|    |                      |  |                               |
| 2  | 生徒指導の目標と意義           | 生徒指導の目標と意義   | テキスト pp. 6-17                 |
| 3  | 生徒指導の実践              | 生徒指導の実践課題と領域   | テキスト pp. 17-24                |
| 4  | 生徒指導の理論              | 発達に関する理論<br>生徒指導における治療的支援に関する理論<br>相談理論など            | テキスト pp. 32-42                |
| 5  | 生徒理解の進め方(1)          | 生徒理解の意義と目的<br>生徒理解の方法                                | テキスト pp. 43-52                |
| 6  | 生徒理解の進め方(2)          | 生徒の自己理解の支援<br>教師の生徒認知のありよう                           | テキスト pp. 52-62                |
| 7  | 学級経営の進め方(1)          | 学級経営の意義<br>学級集団の役割・機能                                | テキスト pp. 63-68                |
| 8  | 学級経営の進め方(2)          | 学級集団の力学<br>学級経営の方法                                   | テキスト pp. 68-79                |
| 9  | 生徒指導上の諸問題の理解と対応      | 生徒指導上の諸問題とは<br>最近の諸問題の動向<br>諸問題にどう対応するか              | 生徒指導上の諸問題に関する配布資料             |
| 10 | 学校の生徒指導・進路指導体制と連携・協力 | 学校における指導体制<br>家庭との連携<br>専門機関との連携                     | テキスト pp. 116-131              |
| 11 | 生徒の進路・キャリアに関する実態と課題  | 進路選択の実態と課題<br>キャリア適応<br>青少年の勤労観・職業観<br>勤労観・職業観の形成と変容 | テキスト pp. 176-195              |
| 12 | 進路指導・キャリア教育の目標と意義    | 進路指導・キャリア教育の意義<br>進路指導・キャリア教育の現代社会的課題                | テキスト pp. 135-159              |
| 13 | 進路指導・キャリア教育の理論       | キャリア発達に関する諸理論<br>キャリアカウンセリングに関する理論                   | キャリア発達理論に関する配布資料              |
| 14 | 進路指導における「ガイダンスの機能」   | ガイダンスを活かした指導   | テキスト pp. 220-223              |
| 15 | 学校教育における進路指導の実践展開    | 進路指導実践の展開モデル   | テキスト pp. 196-220, pp. 223-234 |

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育心理学」「特別活動の理論と方法」「教育経営論」に関連する事柄を含みます。

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
|     | 1  |     |     |      |

| 参考書 | 番号 | 書籍名                 | 著者名   | 出版社名 |
|-----|----|---------------------|-------|------|
|     | 1  | 中学校学習指導要領(平成29年告示)  | 文部科学省 |      |
|     | 2  | 高等学校学習指導要領(平成30年告示) | 文部科学省 |      |

評価方法(基準) 定期試験80%、レポート20%。定期試験を受験しなかった場合、評価はしません。

学生へのメッセージ 生徒指導、進路指導を学ぶ原資になる自らの体験は大事です。さらに自らの体験を対象化して考える習慣をつけましょう。そのために、基礎的な知識をしっかりと身につけてください。授業への遅刻、無断欠席・早退等は厳禁です。生徒指導を行おうとする者としての適格性が問われます。

担当者の研究室等 7号館3階 朝日研究室

備考 Moodle を通じて資料配布、レポート課題提示・提出受付を行います。メンバー登録を必ずしてください。メンバー登録については初回に説明します。また、ポータルシステムを通じて講義連絡、学生呼出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。テキストは授業の各回に先立ち配布します。事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。

|                |           |          |                            |
|----------------|-----------|----------|----------------------------|
| 科目名            | 中国語科教育法 I | 科目名 (英文) | Chinese Teaching Methods I |
| 学部             | 学部共通      | 学科       | 教職科目                       |
| 配当年次           | 3年        | クラス      |                            |
| 単位数            | 2         | 履修区分     | 選択必修科目                     |
| 学期             | 前期        | 授業担当者    | 中西 正樹                      |
| ディプロマポリシー (DP) |           |          |                            |
| 科目ナンバリング       |           |          |                            |

授業概要・目的 中国語および中国語教授法についての基礎知識を身につけ、その概要がわかるようにする。発音や文法の指導のなかでつまづきやすい問題を重点的に理解を深め、それを伝えるためにはどうすればよいのかを考える。

到達目標 中国語教育の歴史と現状および中国語教育に必要な中国語の概要(音声・文法・表記上の特徴)が理解できる。

授業方法と留意点 講義形式を主にするが、教材分析などでは学生に発表も課する。

科目学習の効果(資格) 中国語教員免許の必須科目である。  
【免許法施行規則に定める科目区分】  
科目：教育課程及び指導法に関する科目  
各科目に含める必要事項：各教科の指導法

| 回数 | 授業テーマ                  | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題  |
|----|------------------------|---|--|
|    |                        |   |  |
| 2  | 発音2・指示代名詞・「?」疑問文と反復疑問文 | 日本人にとって習得が難しい声調。疑問文における英語、日本語、中国語の対比。                   | 事前に1時間をかけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに1時間かけて復習する。 |
| 3  | 形容詞述語文とその否定や疑問         | 英語 be 動詞を例にとった中国語「是」の教え方と注意点。                           | 事前に1時間をかけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに1時間かけて復習する。 |
| 4  | 「的」                    | 日本語「の」と中国語「的」を対比させた教え方とその問題点。                           | 事前に1時間をかけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに1時間かけて復習する。 |
| 5  | 前置詞「在」「是～的」構文・疑問詞疑問文   | 疑問詞疑問文と「?」疑問文の違い、中国語の前置詞フレーズの文中位置を英語の前置詞フレーズと比較しながら教える。 | 事前に1時間をかけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに1時間かけて復習する。 |
| 6  | 数詞・疑問数詞・文末助詞「?」        | 日本語と中国語の間で数詞を比較する。「几」と「多少」の使い分け。                        | 事前に1時間をかけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに1時間かけて復習する。 |
| 7  | 量詞・「二」と「?」・動詞「有」と「在」   | 「二」と「?」の使い分け。「ある」を表す「有」と「在」の意味と文型の違い。                   | 事前に1時間をかけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに1時間かけて復習する。 |
| 8  | 二種類の「怎?」「?什?」「?」「那?」   | Howの「怎?」とWhyの「怎?」の使い分けと見分ける方法について。                      | 事前に1時間をかけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに1時間かけて復習する。 |
| 9  | 進行文・「ねばならない」助動詞群       | 助動詞の使い方を英語助動詞と対比させることで理解を促す。                            | 事前に1時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに1時間かけて復習する。  |
| 10 | 連動文・使役を表す「叫」と「?」・兼語文   | 使役文が兼語文からの派生であることを理解し、教授法に取り入れる。                        | 事前に1時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに1時間かけて復習する。  |
| 11 | 「不」と「没」・二重目的語・様態補語     | 中国語の授与動詞や二重目的語文型を英語の give 文と対比させながら理解する。                | 事前に1時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに1時間かけて復習する。  |
| 12 | 「できる」助動詞群・「したい」助動詞群・了  | 可能表現にまつわる助動詞文と可能補語文の違いと使い分け。                            | 事前に1時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに1時間かけて復習する。  |
| 13 | アスペクト「着」「?」            | 時制とアスペクトの違いとその中国語での文法形式について。                            | 事前に1時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに1時間かけて復習する。  |
| 14 | 「了1」と「了2」・2つの「?」「快～了」  | 「了1」と「了2」の使い分け。   | 事前に1時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに1時間かけて復習する。  |
| 15 | 「把」構文・結果補語・受け身         | 「把」構文を使う目的とその条件。  | 事前に1時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに1時間かけて復習する。  |

関連科目 「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」

| 教科書 | 番号 | 書籍名          | 著者名       | 出版社名  |
|-----|----|--------------|-----------|-------|
|     | 1  | 高校版 語法ルール 66 | 相原茂 / 玄宜青 | 朝日出版社 |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
|     | 1  |     |     |      |

評価方法(基準) 授業参加60%、レポート40%

学生へのメッセージ 比較的少人数の授業です。一緒に勉強していきましょう。

担当者の研究室等 7号館3階 中西研究室

備考

|               |          |         |                             |
|---------------|----------|---------|-----------------------------|
| 科目名           | 中国語科教育法Ⅱ | 科目名(英文) | Chinese Teaching Methods II |
| 学部            | 学部共通     | 学科      | 教職科目                        |
| 配当年次          | 3年       | クラス     |                             |
| 単位数           | 2        | 履修区分    | 選択必修科目                      |
| 学期            | 後期       | 授業担当者   | 中西 正樹                       |
| ディプロマポリシー(DP) |          |         |                             |
| 科目ナンバリング      |          |         |                             |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | 「中国語科教育法Ⅰ」で学ぶ中国語教育の実状と指導のあり方をふまえつつ、ここでは授業を「計画」「実践」「反省」という体験を経ることによって、「何を」「どのように」教えるかを理解する。具体的には：<br>1. 日本語を母語とする中国語学習者にとって何が必要で何が不要でないかを学ぶ。<br>2. 学習者の状態を常に目と耳を使って観察することを学ぶ。<br>3. 学習者の状態によっては教える「内容」と「方法」を随時調整せねばならないことを学ぶ。 |
| 到達目標        | 教える能力としては、教育実習の場面で学習歴、クラスサイズ、教材などさまざまな状況に対応しながら学習者の知的好奇心を刺激できるような授業ができることを目標とする。<br><br>教科内容については、中国語の文法や語彙を系統的に整理する能力を高めて、学習者の状況に合わせた教材やテストを用意できる能力を身につける。  |
| 授業方法と留意点    | 教育実習時に不可欠な「学習指導案」作成を中心に据えながら、これに実践と自己分析を盛り込む。したがって実習にじゅうぶんな時間を当てる。   |
| 科目学習の効果(資格) | 中国語教員免許状<br>【免許法施行規則に定める科目区分】<br>科目：教育課程及び指導法に関する科目<br>各科目に含める必要事項：各教科の指導法   |

|      |    |                   |   |   |
|------|----|-------------------|---|---|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ             | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題   |
|      | 1  | 発音とピンイン指導         | 中国語の発音やピンインの指導では、日本語の発音やローマ字から逸脱する事項に重点を置き、これを学習者に十分理解させる。          | この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。 |
|      | 2  | 学習指導案作成Ⅰ(発音篇)     | 入門期の学習者がつまづきやすい二音節語の声調パターンの学習を想定し、音声素材を活用した授業を企画する。                 | この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。 |
|      | 3  | 発音の指導と評価実習        | 他の受講生を学習者と見立てながら、前回は作成した指導案に沿って授業を実践する。模範の提示、評価、アドバイスは適切だろうか。       | この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。 |
|      | 4  | 講読・作文の指導          | 文の意味を理解し、文を自在に生成するために文法を理解させねばならない。日本語などとの比較を通して、効果的に「読み」「書き」を教える。  | この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。 |
|      | 5  | 学習指導案作成Ⅱ(講読・作文篇)  | 動詞「是」の学習を想定する。英語のbe動詞との比較やパターン練習をうまく構成して一回の授業でこの動詞を理解させる指導案を作ってみる。  | この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。 |
|      | 6  | 講読・作文の指導実習        | 指導案に沿って授業をしてみる。パターン練習では学習者をうまくオペレートできるだろうか？質問に的確に答えられるだろうか？         | この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。 |
|      | 7  | リスニング指導と関連機器      | テープ・MD・CD・PC・DVDなどメディアの特性に加えてLLやCALLの概念をよく理解し、これらを授業にうまく利用する。       | この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。 |
|      | 8  | 学習指導案作成Ⅲ(リスニング篇)  | ディクテーションやサイトトランスレーション・シャドウイングなど「リスニング」に関わる訓練法を取り入れた指導案を作成する。        | この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。 |
|      | 9  | ディクテーションとシャドウイング  | LL教室を使用する。すでに作成してある指導案に沿いながら、音声や映像メディアの送出や学習者のモニタリングを実習する。          | この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。 |
|      | 10 | テストの目的とその方法       | テストとは既習事項の達成度を測り、その結果を学習者と教師双方の指針とするものである。テスト問題作成の方法とその結果の扱いを学ぶ。    | この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。 |
|      | 11 | テストを作ってみる         | 授業2～3回分の既習事項を確認するためのショートテストをWordで作ってみる。レイアウトにも気を配りながら過不足なく適切な問題を作る。 | この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。 |
|      | 12 | 学習者へのフィードバックと成績管理 | (1) 服務の宣誓 (2) 信用失墜行為の禁止 (3) 兼職の禁止 等について                             | この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。 |
|      | 13 | マルチメディアを利用する(1)   | CDやDVDあるいはWebで入手可能な音声・映像素材を教材用に編集する技術を学ぶとともに著作権の概念を理解する。            | この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。 |
|      | 14 | マルチメディアを利用する(2)   | e-ラーニング及びさまざまなWebサービスを利用した授業を考える。                                   | この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。 |
|      | 15 | マルチメディアを利用する(3)   | CALL教室で模擬授業をする。   | この授業で学んだことを1時間かけて復習する。  |

|               |   |     |     |      |
|---------------|---|-----|-----|------|
| 関連科目          | 「教育原理」「教育社会学」「道德教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」                       |     |     |      |
| 教科書           | 番号  | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|               | 1   |     |     |      |
|               | 2   |     |     |      |
|               | 3   |     |     |      |
| 参考書           | 番号  | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|               | 1   |     |     |      |
|               | 2   |     |     |      |
|               | 3   |     |     |      |
| 評価方法<br>(基準)  | 小テスト及び単元テスト 80%<br>授業参加度や提出物 20%  |     |     |      |
| 学生への<br>メッセージ | 「教えられる者」の視点に立つ、つまり生徒を観察する余裕が持てること。大切なことなのですがこれがなかなか難しいのです。この問題を授業の中で皆さんといっしょに考えたいと思います。 |     |     |      |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館3階(中西研究室)  |     |     |      |
| 備考            | 教材としてプリントを配布します。  |     |     |      |

|               |          |         |                              |
|---------------|----------|---------|------------------------------|
| 科目名           | 中国語科教育法Ⅲ | 科目名(英文) | Chinese Teaching Methods III |
| 学部            | 学部共通     | 学科      | 教職科目                         |
| 配当年次          | 3年       | クラス     |                              |
| 単位数           | 2        | 履修区分    | 選択必修科目                       |
| 学期            | 前期       | 授業担当者   | 小都 晶子                        |
| ディプロマポリシー(DP) |          |         |                              |
| 科目ナンバリング      |          |         |                              |

授業概要・目的 中国語教育の歴史と現状、中国語の学習内容など、中国語および中国語教育の基礎知識を学ぶ。また中国語教科書によって、発音・文法・語彙がどのように教えられているのかを理解する。

到達目標 日本における中国語教育の歴史や現状、学習すべき内容を説明することができる。

授業方法と留意点 受講者は教科書の該当部分をあらかじめしっかりと予習し、授業では教員が補助資料などを示しながら、内容について討論する。

科目学習の効果(資格) 中国語教員免許の必須科目である。  
【免許法施行規則に定める科目区分】  
科目：教育課程及び指導法に関する科目  
各科目に含める必要事項：各教科の指導法

| 回数 | 授業テーマ                  | 内容・方法等                           | 事前・事後学習課題                  |
|----|------------------------|----------------------------------|----------------------------|
| 1  | 導入：中国語とは？<br>(教科書 第1章) | 中国語の基本状況について学習する。                | 教科書の該当部分をしっかりと予習する(2時間)    |
| 2  | 日本の中国語教育①<br>(第2章)     | 日本における中国語教育の歴史を学習する。             | 教科書の該当部分をしっかりと予習する(2時間)    |
| 3  | 日本の中国語教育②<br>(第3章)     | 日本における中国語教育の現状を学習する。             | 教科書の該当部分をしっかりと予習する(2時間)    |
| 4  | 中国の外国人向け中国語教育<br>(第4章) | 中国・台湾における外国人向け中国語教育の現状を学習する。     | 教科書の該当部分をしっかりと予習する(2時間)    |
| 5  | 漢字と発音表記<br>(第5章)       | 漢字や発音表記法について学習し、中国語辞典についても検討する。  | 教科書の該当部分をしっかりと予習する(2時間)    |
| 6  | 発音の学習①<br>(第6章)        | 発音の学習内容について理解する。                 | 教科書の該当部分をしっかりと予習する(2時間)    |
| 7  | 発音の学習②                 | 中国語教科書によって、発音の教授法を検討する。          | 中国語教科書の該当部分を検討する(2時間)      |
| 8  | 文法の学習①<br>(第7章)        | 文法の学習内容について理解する。                 | 教科書の該当部分をしっかりと予習する(2時間)    |
| 9  | 文法の学習②<br>(第7章)        | 文法の学習内容について理解する。                 | 教科書の該当部分をしっかりと予習する(2時間)    |
| 10 | 文法の学習③                 | 中国語教科書によって、文法の教授法を検討する。          | 中国語教科書の該当部分を検討する(2時間)      |
| 11 | 語彙の学習①<br>(第8章)        | 語彙の学習内容について理解する。                 | 教科書の該当部分をしっかりと予習する(2時間)    |
| 12 | 語彙の学習②                 | 中国語教科書によって、語彙の教授法を検討する。          | 中国語教科書の該当部分をあらかじめ検討する(2時間) |
| 13 | 基本技能の習得と評価<br>(第9章)    | 学習目標と評価について検討する。                 | 教科書の該当部分をしっかりと予習する(2時間)    |
| 14 | 授業計画と評価                | 授業計画と評価について検討し、学習指導案を作成する。       | 中国語教科書の該当部分を検討する(2時間)      |
| 15 | まとめ                    | 学習指導案にしたがってプレゼンを実施し、課題や問題点を検討する。 | プレゼンを準備する(2時間)             |

関連科目 「教育原理」「教育社会学」「道德教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」

| 番号 | 書籍名                   | 著者名 | 出版社名     |
|----|-----------------------|-----|----------|
| 1  | 中国語の教え方・学び方 中国語科教育法概説 | 興水優 | 日本大学文理学部 |
| 2  |                       |     |          |
| 3  |                       |     |          |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1  |     |     |      |
| 2  |     |     |      |
| 3  |     |     |      |

評価方法(基準) 授業への貢献(50%)、レポート(50%)によって総合的に評価する。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 小都研究室(7号館3階)

備考

教職科目



|               |          |         |                             |
|---------------|----------|---------|-----------------------------|
| 科目名           | 中国語科教育法Ⅳ | 科目名(英文) | Chinese Teaching Methods IV |
| 学部            | 学部共通     | 学科      | 教職科目                        |
| 配当年次          | 3年       | クラス     |                             |
| 単位数           | 2        | 履修区分    | 選択必修科目                      |
| 学期            | 後期       | 授業担当者   | 兪 鳴蒙                        |
| ディプロマポリシー(DP) |          |         |                             |
| 科目ナンバリング      |          |         |                             |

|             |   |
|-------------|---|
| 授業概要・目的     | 中国語の教員になるためには、中国語学、中国文学、中国語コミュニケーション、異文化理解の4つの分野を学ばなければならない。この授業は中国語科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学んだことを基礎に、異文化理解を同時に目指す中国語教育に関する論文を読み、解説する。中国語科教育法の知識の向上と教育法に関する研究能力の向上を目指す。 |
| 到達目標        | 異文化理解を目指す中国語教育のためのポイントを学ぶ。  |
| 授業方法と留意点    | 毎回、中国語の論文を訳読する。高度な内容の論文を読むので、必ず予習が必要である。また授業の最後には、授業の成果を踏まえて教案を書き、更にそれに基づく模擬授業もしてもらう。<br>事前・事後に各60分の学習を要する。   |
| 科目学習の効果(資格) | 中国語科教育法の知識の向上と中国語の読解力の向上に欠かせない講義である。<br>【免許法施行規則に定める科目区分】<br>科目：教育課程及び指導法に関する科目<br>各科目に含める必要事項：各教科の指導法  |

| 回数 | 授業テーマ                    | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題                     |
|----|--------------------------|---|-------------------------------|
|    |                          |   |                               |
| 1  | 中国語教材における文化知識導入の研究       | 現状と問題   | 教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。 |
| 2  | 中国語教材における文化知識導入の研究       | 文化知識導入の理論と原則                                      | 教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。 |
| 3  | 中国語教材における文化知識導入の研究       | 教材分析1   | 教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。 |
| 4  | 中国語教材における文化知識導入の研究       | 教材分析2   | 教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。 |
| 5  | 中国語教材における文化知識導入の研究       | 教材分析3   | 教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。 |
| 6  | 中国語教材における文化知識導入の研究       | 教材分析4   | 教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。 |
| 7  | 新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析 | 語彙を中心に①   | 教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。 |
| 8  | 新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析 | 語彙を中心に②   | 教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。 |
| 9  | 新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析 | 文構文を中心に①  | 教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。 |
| 10 | 新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析 | 文構文を中心に②  | 教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。 |
| 11 | 新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析 | 文章構成を中心に  | 教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。 |
| 12 | 新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析 | 話題を中心に①   | 教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。 |
| 13 | 新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析 | 話題を中心に②   | 教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。 |
| 14 | まとめ1                     | これまでの学習成果を踏まえ、中国語授業の教案を書き、それを検討する。                | 教案を練る。                        |
| 15 | まとめ2                     | 前回作成した教案をもとに、中国語の模擬授業を行う。その検討と反省を通して、授業全体のまとめを行う。 | レポートを書く。                      |

関連科目 中国語科教育法Ⅲ

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  | 配布  |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|     |    |     |     |      |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|     | 1  | 配布  |     |      |
|     | 2  |     |     |      |
|     | 3  |     |     |      |

|           |                           |
|-----------|---------------------------|
| 評価方法(基準)  | 小レポート(60%)、レポート(40%)      |
| 学生へのメッセージ | しっかり勉強すれば必ず力が付きます。        |
| 担当者の研究室等  | 7号館3階(兪研究室)               |
| 備考        | 事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。 |

|               |         |         |                            |
|---------------|---------|---------|----------------------------|
| 科目名           | 道徳教育の研究 | 科目名(英文) | Studies of Moral Education |
| 学部            | 学部共通    | 学科      | 教職科目                       |
| 配当年次          | 2年      | クラス     |                            |
| 単位数           | 2       | 履修区分    | 必修科目                       |
| 学期            | 後期      | 授業担当者   | 谷口 雄一                      |
| ディプロマポリシー(DP) |         |         |                            |
| 科目ナンバリング      |         |         |                            |

授業概要・目的  
この授業では、中学校において「特別の教科 道徳」の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。  
授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを期待します。

到達目標  
受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の「特別の教科 道徳」の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、「特別の教科 道徳」の学習指導案を作成できるようになることを目標とします。

授業方法と留意点  
授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的に講義形式で行います。しかし、後半には、学習指導案作成等の演習や模擬授業を適宜取り入れます。  
また、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができるように配慮します。

科目学習の効果(資格)  
中学校教諭1種免許状の取得に必要です。  
【免許法施行規則に定める科目区分】  
科目：教育課程及び指導法に関する科目  
各項目に含める必要事項：道徳の指導法

| 回数 | 授業テーマ                                 | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題   |
|----|---------------------------------------|---|---|
| 1  | ガイダンス：<br>道徳の授業について考える                | ・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。<br>・正しさを決める4つのアプローチについて概観する。 | 自身が学校教育においてを受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出ししておく。                |
| 2  | 日本の道徳教育の歴史                            | ・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。<br>・道徳教育に存在する信念対立について考える。        | 日本の道徳教育の歴史や信念対立について、授業後にもう一度整理しておく。                         |
| 3  | よい道徳教育とは何か                            | よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。                         | 道徳の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について、授業後にもう一度整理しておく。     |
| 4  | 道徳の授業の多様な指導方法の特徴                      | 道徳の授業のねらいに基づく8類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。                      | 道徳の授業のねらいに基づく8類型について、授業後にもう一度整理しておく。                        |
| 5  | 道徳の授業の発問の構成法                          | 「特別の教科 道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。                   | ねらいに基づく発問の構成法について、授業後にもう一度整理しておく。                           |
| 6  | 道徳の授業の学習指導案の作成法                       | 「特別の教科 道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。               | 道徳の授業の学習指導案の作成方法について、授業後にもう一度整理しておく。                        |
| 7  | 道徳の授業の評価                              | 「特別の教科 道徳」における評価の内容や方法について考える。                                  | 道徳の授業の評価の内容や方法について、授業後にもう一度整理しておく。                          |
| 8  | 各授業類型のねらいと発問の特徴                       | 教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業類型のそれぞれのねらいと特徴について考える。               | 教材分析の方法や授業構成について、授業後にもう一度整理しておく。                            |
| 9  | 教材分析の視点                               | 教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。            | 教材分析の方法について授業後に整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。                |
| 10 | 発問分析による授業づくりの視点                       | 発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。                            | 問題解決的な学習や、発問分析に基づく授業改善の方法について、授業後にもう一度整理しておく。               |
| 11 | 授業づくりの実際①：<br>カリキュラム・マネジメント、<br>テーマ発問 | カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。       | カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について、授業後にもう一度整理しておく。 |
| 12 | 授業づくりの実際②：<br>問題解決的な学習、探究型学習          | 問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。          | 問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について、授業後にもう一度整理しておく。    |
| 13 | 学習指導案の作成①                             | これまでの講義内容をふまえ、第9回で選択し教材分析した教材を用いた道徳の授業について、学習指導案を作成する。          | 作成した学習指導案をグループ内で発表するための準備をしておく。                             |
| 14 | 学習指導案の作成②                             | 前回の授業で作成した学習指導案について各グループで発表し、模擬授業の準備を行う。                        | グループ毎に模擬授業の準備をしておく。   |
| 15 | まとめ：<br>模擬授業と事後の検討                    | ・模擬授業を行い、授業改善のための検討を行う。<br>・道徳の授業づくりについてまとめる。                   | 「よい道徳の授業」について、考えをまとめる。                                      |

関連科目  
教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。

| 番号 | 書籍名           | 著者名         | 出版社名   |
|----|---------------|-------------|--------|
| 1  | 道徳科 初めての授業づくり | 吉田誠・木原一彰 編著 | 大学教育出版 |
| 2  |               |             |        |
| 3  |               |             |        |

参考書

|               | 番号   | 書籍名                    | 著者名   | 出版社名 |
|---------------|--|------------------------|-------|------|
|               | 1  | 中学校学習指導要領解説―特別の教科 道徳編― | 文部科学省 | 東山書房 |
|               | 2  |                        |       |      |
|               | 3  |                        |       |      |
| 評価方法<br>(基準)  | 毎回の授業の終わりに書いてもらうコメントペーパーの内容(30%)や、作成した学習指導案(20%)、学期末試験の結果(50%)をもとに、総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。 |                        |       |      |
| 学生への<br>メッセージ | 授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等の学習を適宜取り入れたいと考えています。受講者の皆さんの積極的な参加・発言を期待しています。  |                        |       |      |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館4階(谷口研究室)   |                        |       |      |
| 備考            | 事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。  |                        |       |      |

|               |                       |         |   |
|---------------|-----------------------|---------|---|
| 科目名           | 特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法 | 科目名(英文) | Methodolgy of Special Activities and Integrated Studies |
| 学部            | 学部共通                  | 学科      | 教職科目  |
| 配当年次          | 1年                    | クラス     |   |
| 単位数           | 2                     | 履修区分    | 必修科目  |
| 学期            | 後期                    | 授業担当者   | 林 茂樹  |
| ディプロマポリシー(DP) |                       |         |   |
| 科目ナンバリング      |                       |         |   |

**授業概要・目的**

特別活動の指導法については、学校における様々な構成での集団活動を通して、自ら課題を発見し、協力協働して解決を行うことで、よりよい集団づくり、生活づくりや人間関係づくりをめざすという特別活動の意義、目標及び内容を理解し、学校教育活動の中で特別活動への要請を踏まえた、指導に必要な知識や素養を身に付けるようにする。

子どもの現状を踏まえ、望ましい集団活動が生徒の個人的な資質と社会的な資質を育むとともに、学習活動を統合し補完する役割を果たしていることについても理解を深めるようにする。

「学級づくり」(教師と生徒の関係づくり、生徒どうしとの関係づくり)に視点を据え、7つの教育課題を取り上げ、問題発生の背景を踏まえた対応の視点・方法について、事例をもとにグループ討議や即興劇を行い、交流や意見交換をする。

総合的な学習の時間の指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。

公立高校教員として34年間にわたり、学級担任、生徒会指導主担者、総合的な学習の時間企画主担者等を分掌した経験に基づいた、学校現場で役立つ実践的な授業を行う。

**到達目標**

教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連性、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。

特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。

合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。

総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成することの重要性について理解している。

主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性、探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立て、児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。

**授業方法と留意点**

講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならぬ教員の立場に立って、集団をファシリテートできるように、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネート・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。

**科目学習の効果(資格)**

教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。

教職科目

| 回数 | 授業テーマ  | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題                                     |
|----|--|---|---|
| 1  | オリエンテーション・特別活動及び総合的な学習の時間の意義と課題                        | 学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量  | 特別活動テキスト第1章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。           |
| 2  | 特別活動の目標・内容・方法ワーク①「キャラ」をめぐって(ソロワークと意見交換)                | 教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動                          | 特別活動テキスト第2章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。           |
| 3  | 学級活動・ホームルーム活動①ワーク②大学に入って(ソロワークと意見交換)                   | 学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画                    | 特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。        |
| 4  | 学級活動・ホームルーム活動②ワーク③学級活動の思い出(ソロワークと意見交換)                 | 人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直                      | 特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。        |
| 5  | 生徒会活動・児童会活動、学級行事ワーク④学校行事の思い出(ソロワークと意見交換)               | 生徒会(児童会)活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・視点                              | 特別活動テキスト第3章第2・3節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。      |
| 6  | 体験活動の意義ワーク⑤「14歳の頃」「17歳の頃」(ソロワークと意見交換、グループワークの班分け、顔合わせ) | 特別活動・総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通した学びの重要性と計画的な指導の重要性 | 配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。                |
| 7  | 特別活動の歴史・領域・方法ワーク⑥いじめ(1)(グループ討議・発表)                     | 学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがひ                         | 配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。                |
| 8  | 特別活動と学級経営ワーク⑦不登校(グループ討議・発表)                            | 学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動                                     | 配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。                |
| 9  | 特別活動と生徒指導ワーク⑧暴力(即興劇・交流)                                | 生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成                                  | 配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。                |
| 10 | 特別活動の指導計画と評価ワーク⑨外国にルーツのある子ども(グループ討議・発表)                | 全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用         | 特別活動テキスト第4章第1・2・5節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。    |
| 11 | 特別活動と総合的な学習の時間ワーク⑩進路指導・キャリア教育(即興劇・交流)                  | 特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性                                  | 配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。                |
| 12 | 総合的な学習の時間の目標・内容・方法ワーク⑪インクルーシブ教育(グループ討議・発表)             | 総合的な学習の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理                            | 総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |
| 13 | 総合的な学習の時間の学習指導ワーク⑫ジェンダー・LGBT(即興劇・発表)                   | 生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的対話的で深い学び                          | 総合的な学習の時間のテキスト第2・7章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。   |

|               | 14  | 総合的な学習の時間の指導計画と評価ワーク⑬いじめ(2)〈グループ討議・発表〉  | 全体計画、年間計画、単元計画の作成、生徒の学習状況の評価                      | 総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習する。                 |    |     |     |      |   |                   |       |      |   |                      |       |      |   |  |  |  |
|---------------|---|---|---|--|----|-----|-----|------|---|-------------------|-------|------|---|----------------------|-------|------|---|--|--|--|
|               | 15  | 補足とまとめ<br>補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。 | 特別活動の指導の配慮事項及び担当する教師、国旗・国歌の取扱い<br>総合的な学習の時間の体制づくり | 特別活動のテキスト第4章第2・3・4節、総合的な学習の時間のテキスト第9章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習する。 |    |     |     |      |   |                   |       |      |   |                      |       |      |   |  |  |  |
| 関連科目          | すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことと関連づけるとともに、教育方法論、生徒指導論、教育社会学などの学習につなげることが大切である。   |   |   |  |    |     |     |      |   |                   |       |      |   |                      |       |      |   |  |  |  |
| 教科書           | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中学校学習指導要領解説 特別活動編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> |   |   |  | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 中学校学習指導要領解説 特別活動編 | 文部科学省 | 東山書房 | 2 | 中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編 | 文部科学省 | 東山書房 | 3 |  |  |  |
| 番号            | 書籍名   | 著者名                                     | 出版社名  |  |    |     |     |      |   |                   |       |      |   |                      |       |      |   |  |  |  |
| 1             | 中学校学習指導要領解説 特別活動編   | 文部科学省                                   | 東山書房  |  |    |     |     |      |   |                   |       |      |   |                      |       |      |   |  |  |  |
| 2             | 中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編  | 文部科学省                                   | 東山書房  |  |    |     |     |      |   |                   |       |      |   |                      |       |      |   |  |  |  |
| 3             |   |   |   |  |    |     |     |      |   |                   |       |      |   |                      |       |      |   |  |  |  |
| 参考書           | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  |   |   |  | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |                   |       |      | 2 |                      |       |      | 3 |  |  |  |
| 番号            | 書籍名   | 著者名                                     | 出版社名  |  |    |     |     |      |   |                   |       |      |   |                      |       |      |   |  |  |  |
| 1             |   |   |   |  |    |     |     |      |   |                   |       |      |   |                      |       |      |   |  |  |  |
| 2             |   |   |   |  |    |     |     |      |   |                   |       |      |   |                      |       |      |   |  |  |  |
| 3             |   |   |   |  |    |     |     |      |   |                   |       |      |   |                      |       |      |   |  |  |  |
| 評価方法<br>(基準)  | 定期試験(50%)、中間レポート(30%)、コメントペーパー、ミニエッセイ及び授業への参加状況(20%)を総合的に評価する。定期試験の内容は客観式+記述式とする。中間レポートは、ミニエッセイをもとに「自己史に関するエッセイ」をまとめ、提出すること。毎回のコメントペーパー・ミニエッセイの作成と授業への出席をもとに授業への参加状況の評価する。  |   |   |  |    |     |     |      |   |                   |       |      |   |                      |       |      |   |  |  |  |
| 学生への<br>メッセージ | 学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだということが言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。   |   |   |  |    |     |     |      |   |                   |       |      |   |                      |       |      |   |  |  |  |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館3F林研究室   |   |   |  |    |     |     |      |   |                   |       |      |   |                      |       |      |   |  |  |  |
| 備考            | 事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。   |   |   |  |    |     |     |      |   |                   |       |      |   |                      |       |      |   |  |  |  |

|                |            |          |   |
|----------------|------------|----------|---|
| 科目名            | 特別活動の理論と方法 | 科目名 (英文) | Theories and Methods for Special Activities |
| 学部             | 学部共通       | 学科       | 教職科目  |
| 配当年次           | 1年         | クラス      |   |
| 単位数            | 2          | 履修区分     | 必修科目  |
| 学期             | 後期         | 授業担当者    | 林 茂樹  |
| ディプロマポリシー (DP) |            |          |   |
| 科目ナンバリング       |            |          |   |

|         |   |
|---------|---|
| 授業概要・目的 | <p>学校における様々な構成での集団活動を通して、自ら課題を発見し、協力協働して解決を行うことで、よりよい集団づくり、生活づくりや人間関係づくりをめざすという特別活動の意義、目標及び内容を理解し、学校教育活動の中での特別活動への要請を踏まえた、指導に必要な知識や素養を身に付けるようにする。</p> <p>子どもの現状を踏まえ、望ましい集団活動が生徒の個人的な資質と社会的な資質を育むとともに、学習活動を統合し補完する役割を果たしていることについても理解を深めるようにする。</p> <p>「学級づくり」(教師と生徒の関係づくり、生徒どうしとの関係づくり)に視点を据え、7つの教育課題を取り上げ、問題発生の背景を踏まえた対応の視点・方法について、事例をもとにグループ討議や即興劇を行い、交流や意見交換をする。</p> <p>また、学級担任が担当することが多い総合的な学習の時間の指導についても合わせて取り扱う。</p> <p>公立高校教員として34年間にわたり、学級担任、生徒会指導主担者、総合的な学習の時間企画主担者等を分掌した経験に基づいた、学校現場で役立つ実践的な授業を行う。</p> |
|---------|---|

|      |  |
|------|--|
| 到達目標 | <p>教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連性、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。</p> <p>特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。</p> <p>合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義ならびに実際におこりやすいトラブルや事件についての指導の在り方を例示することができる。</p> <p>主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性、探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立て、児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。</p> |
|------|--|

|          |   |
|----------|---|
| 授業方法と留意点 | <p>講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにするが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネート・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。</p> |
|----------|---|

|              |                             |
|--------------|-----------------------------|
| 科目学習の効果 (資格) | 教員免許 (中学校・高等学校) 取得上必修科目である。 |
|--------------|-----------------------------|

|      |    |  |   |   |
|------|----|--|---|---|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ  | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題                                     |
|      | 1  | オリエンテーション・特別活動および総合的な学習の時間の意義と課題                               | 学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量  | 特別活動テキスト第1章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。           |
|      | 2  | 特別活動の目標・内容・方法ワーク①「キャラ」をめぐって (ソロワークと意見交換)                       | 教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動                          | 特別活動テキスト第2章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。           |
|      | 3  | 学級活動・ホームルーム活動①ワーク②大学に入って (ソロワークと意見交換)                          | 学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画                    | 特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。        |
|      | 4  | 学級活動・ホームルーム活動②ワーク③学級活動の思い出 (ソロワークと意見交換)                        | 人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直                      | 特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。        |
|      | 5  | 生徒会活動・児童会活動、学級行事ワーク④学校行事の思い出 (ソロワークと意見交換)                      | 生徒会 (児童会) 活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・視点                            | 特別活動テキスト第3章第2・3節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。      |
|      | 6  | 体験活動・体験的な学びの意義ワーク⑤「14歳の頃」「17歳の頃」 (ソロワークと意見交換、グループワークの班分け、顔合わせ) | 特別活動・総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通した学びの重要性と計画的な指導の重要性 | 配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。                |
|      | 7  | 特別活動の歴史・領域・方法ワーク⑥いじめ (1) (グループ討議・発表)                           | 学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがひ                         | 配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。                |
|      | 8  | 特別活動と学級経営ワーク⑦不登校 (グループ討議・発表)                                   | 学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動                                     | 配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。                |
|      | 9  | 特別活動と生徒指導ワーク⑧暴力 (即興劇・交流)                                       | 生徒指導との関連、積極的な生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成                                 | 配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。                |
|      | 10 | 特別活動の指導計画と評価ワーク⑨不登校 (グループ討議・発表)                                | 全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用         | 特別活動テキスト第4章第1・2・5節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。    |
|      | 11 | 特別活動と総合的な学習の時間ワーク⑩いじめ (その2) (即興劇・交流)                           | 特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性                                  | 配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。                |
|      | 12 | 総合的な学習の時間の目標・内容・方法ワーク⑪進路指導 (グループ討議・発表)                         | 総合的な学習の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理                            | 総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |
|      | 13 | 総合的な学習の時間の学習指導ワーク⑫インクルーシブ教                                     | 生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び                         | 総合的な学習の時間のテキスト第2・7章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。   |

|  | 育〈グループ討議・発表〉  |  |  |    |     |     |      |   |                            |       |      |   |                                 |       |      |   |  |  |  |
|--|---|--|--|----|-----|-----|------|---|----------------------------|-------|------|---|---------------------------------|-------|------|---|--|--|--|
|  | 14  | 総合的な学習の時間の指導計画と評価<br>ワーク⑬ジェンダー・性的マイノリティ〈グループ討議・発表〉 | 全体計画、年間計画、単元計画の作成、生徒の学習状況の評価   |    |     |     |      |   |                            |       |      |   |                                 |       |      |   |  |  |  |
|  | 15  | 補足とまとめ   | 補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。<br>特別活動の指導の配慮事項及び担当する教師、国旗・国歌の取扱い総合的な学習の時間の体制づくり |    |     |     |      |   |                            |       |      |   |                                 |       |      |   |  |  |  |
| 総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習する。                 |   |  |  |    |     |     |      |   |                            |       |      |   |                                 |       |      |   |  |  |  |
| 特別活動のテキスト第4章第2・3・4節、総合的な学習の時間のテキスト第9章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習する。 |   |  |  |    |     |     |      |   |                            |       |      |   |                                 |       |      |   |  |  |  |
| 関連科目   | すべての教職科目と関連するが、特に、「教師論」、「教育原理」「教育心理学」で学習したことと関連づけるともに、「教育方法論」、「生徒指導論」、「教育社会学」などの学習につなげることが大切である。  |  |  |    |     |     |      |   |                            |       |      |   |                                 |       |      |   |  |  |  |
| 教科書  | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> |  |  | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編 | 文部科学省 | 東山書房 | 2 | 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編 | 文部科学省 | 東山書房 | 3 |  |  |  |
| 番号   | 書籍名   | 著者名  | 出版社名   |    |     |     |      |   |                            |       |      |   |                                 |       |      |   |  |  |  |
| 1  | 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編  | 文部科学省  | 東山書房   |    |     |     |      |   |                            |       |      |   |                                 |       |      |   |  |  |  |
| 2  | 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編   | 文部科学省  | 東山書房   |    |     |     |      |   |                            |       |      |   |                                 |       |      |   |  |  |  |
| 3  |   |  |  |    |     |     |      |   |                            |       |      |   |                                 |       |      |   |  |  |  |
| 参考書  | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  |  |  | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 |                            |       |      | 2 |                                 |       |      | 3 |  |  |  |
| 番号   | 書籍名   | 著者名  | 出版社名   |    |     |     |      |   |                            |       |      |   |                                 |       |      |   |  |  |  |
| 1  |   |  |  |    |     |     |      |   |                            |       |      |   |                                 |       |      |   |  |  |  |
| 2  |   |  |  |    |     |     |      |   |                            |       |      |   |                                 |       |      |   |  |  |  |
| 3  |   |  |  |    |     |     |      |   |                            |       |      |   |                                 |       |      |   |  |  |  |
| 評価方法（基準）   | 定期試験（50%）、中間レポート（30%）、コメントペーパー、ミニエッセイ及び授業への参加状況（20%）を総合的に評価する。定期試験の内容は客観式＋記述式とする。中間レポートは、ミニエッセイをもとに「自己史に関するエッセイ」をまとめ、提出すること。毎回のコメントペーパー・ミニエッセイの作成と授業への出席をもとに授業への参加状況を評価する。  |  |  |    |     |     |      |   |                            |       |      |   |                                 |       |      |   |  |  |  |
| 学生へのメッセージ  | 学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだと言われる。学級づくりには多様な方法論が存在するが、要は子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するというに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。  |  |  |    |     |     |      |   |                            |       |      |   |                                 |       |      |   |  |  |  |
| 担当者の研究室等   | 7号館3階(林研究室)   |  |  |    |     |     |      |   |                            |       |      |   |                                 |       |      |   |  |  |  |
| 備考   | 事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。   |  |  |    |     |     |      |   |                            |       |      |   |                                 |       |      |   |  |  |  |

|               |         |         |                                    |
|---------------|---------|---------|------------------------------------|
| 科目名           | 特別支援教育論 | 科目名(英文) | Studies of Special Needs Education |
| 学部            | 学部共通    | 学科      | 教職科目                               |
| 配当年次          | 3年      | クラス     |                                    |
| 単位数           | 2       | 履修区分    | 必修科目                               |
| 学期            | 前期      | 授業担当者   | 林 茂樹                               |
| ディプロマポリシー(DP) |         |         |                                    |
| 科目ナンバリング      |         |         |                                    |

|             |  |
|-------------|--|
| 授業概要・目的     | <p>教職課程「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」に対応する科目である。</p> <p>障害をはじめ、日本語指導や貧困、被虐待等による特別な教育ニーズのある児童生徒が、安心安全のうちに、楽しく、達成感を持って学び、生きる力を身に付けることができるよう、教員として必要な知識及び支援の方法について学ぶ。</p> <p>「障害とは何か」を可視化させ、「障害」の概念を再構成するとともに、特別支援教育の理念・制度・方法について歴史の変遷から最新の動向までを踏まえ、その現状と課題について整理し、今後の在り方についても展望したい。</p> <p>中・高（・小）免許状取得希望者を対象とする科目であることを踏まえ、公立高校教員として34年間勤務し、特別支援教育コーディネーターや人権教育担当者としての実務経験をもつ授業担当者が、通常の学校での特別支援教育の実践に焦点を絞った授業を行う。</p> |
| 到達目標        | <p>①インクルーシブ教育システムにおける特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。</p> <p>②視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・発達障害を含むさまざまな障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。</p> <p>③発達障害や知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童・生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解している。</p> <p>④さまざまな障害や成育歴をもち、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。</p> <p>⑤個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。</p> <p>⑥特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解している。</p>                   |
| 授業方法と留意点    | 講義演習の形式も取り入れながら、講義形式を中心に行う。  |
| 科目学習の効果(資格) | 教員免許(小学校・中学校・高等学校)取得上必修科目である。  |

教職科目

| 回数 | 授業テーマ                              | 内容・方法等  | 事前・事後学習課題                          |
|----|------------------------------------|---|------------------------------------|
| 1  | オリエンテーション、インクルーシブ教育システムの概要         | わが街は暮らしやすいか、わが学校は学びやすいか。インクルーシブ教育システムの概要と課題               | 教科書の序章を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。   |
| 2  | 新しい障害観と特別なニーズ教育の考え方                | ICIDHからICFへ。医学モデルから社会モデルへ。一人ひとりの教育ニーズに応じた教育               | 教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。 |
| 3  | 障害者権利条約と合理的配慮                      | 国連障害者権利条約の批准と国内法の整備。差別的取り扱いの禁止と合理的配慮の提供義務                 | 教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。 |
| 4  | 戦前・戦後の特殊教育の成立と展開                   | 障害のある子どもの学校教育からの排除。盲・ろう学校の義務化と養護学校の義務化                    | 教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。 |
| 5  | 特別支援教育への転換                         | 障害種に応じた教育から個別のニーズに応じた教育へ。新たに発達障害も対象に                      | 教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。 |
| 6  | 障害のある子供たちの学校生活と家庭生活の課題             | 学校でも家庭でも地域でも孤立しやすい子供たち。周りの子供との関係づくり。保護者との連携               | 配布資料を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。     |
| 7  | 障害のある子供たちの進路選択と地域生活の課題             | 差別的取り扱いの禁止及び合理的配慮としての入試受験配慮や就労促進支援                        | 配布資料を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。     |
| 8  | 通常学級での特別支援教育の実践(通級による指導を含む)        | ともに学びともに生きる教育の歴史的経過と課題。通教による指導の現状と課題                      | 教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。 |
| 9  | 発達障害・知的障害の理解と支援                    | 知的障害の概要と学習上の課題と対応。発達障害の概要と学習上の課題と対応                       | 教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。 |
| 10 | 肢体不自由・病弱・重複障害の理解と支援                | 肢体不自由・病弱の子どもの学校生活や学習上の配慮。さまざまな重複障害、障害の多様性の理解              | 教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。 |
| 11 | 視覚障害・聴覚障害の理解と支援                    | 視覚障害・聴覚障害のある子どもの学校生活や学習上の配慮。                              | 教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。 |
| 12 | 個別の指導計画と個別の教育支援計画、卒業後の課題           | つなぐツールとしての個別の指導計画、個別の教育支援計画、移行支援計画。                       | 教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。 |
| 13 | 校内支援体制の構築とSC・SSW等との連携・協働           | 校内での連携、他職種との連携。福祉・医療との連携                                  | 教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。 |
| 14 | 社会的養護にある子供、LGBTなど性的マイノリティの子供の理解と対応 | ニューカマーの子供、施設から通学する子供、LGBTなど性的マイノリティの子供等を視野に入れた学級づくり、授業づくり | 配布資料を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。     |
| 15 | 被虐待の子供など家庭の問題を抱えた子供の理解と対応、まとめ      | 非虐待の子供等、家庭の問題を抱えた子供への心理的ケアと関係機関との連携                       | 配布資料を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。     |

関連科目 教職科目全般と関連性をもつ。特に、教師論、教育心理学、特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法、教育方法論、教育課程論、教育社会学、教育相談での学習内容と関連させて理解を深めることが大切である。

| 番号 | 書籍名               | 著者名  | 出版社名   |
|----|-------------------|------|--------|
| 1  | 特別支援教育 多様なニーズへの挑戦 | 柘植雅義 | 中央公論新社 |
| 2  |                   |      |        |
| 3  |                   |      |        |

| 番号 | 書籍名               | 著者名   | 出版社名 |
|----|-------------------|-------|------|
| 1  | 特別支援教育資料(平成30年度版) | 文部科学省 | Web  |



|               |  |  |  |  |
|---------------|--|--|--|--|
|               | 2  |  |  |  |
|               | 3  |  |  |  |
| 評価方法<br>(基準)  | 定期試験 (50%)、レポート (30%)、コメントペーパー・ミニエッセイ及び授業への参加状況 (20%) を総合的に評価する。                   |  |  |  |
| 学生への<br>メッセージ | 本科目を受講することで、障害のある児童生徒をはじめ、特別な支援を必要とする児童生徒への理解が進み、1人ひとりの教育ニーズに応じた教育が展開できるようになってほしい。 |  |  |  |
| 担当者の<br>研究室等  | 7号館3階林研究室  |  |  |  |
| 備考            | 事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。  |  |  |  |

発行 2019年4月

常翔学園 摂南大学

寝屋川校地

〒572-8508

大阪府寝屋川市池田中町17番8号

電話(072)-839-9106 【教務課】

枚方校地

〒573-0101

大阪府枚方市長尾峠町45番1号

電話(072)-866-3100 【枚方事務室・薬学部】

電話(072)-807-6001 【枚方事務室・看護学部】

